仙台市文化財調査報告書第 403 集

桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ

― 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ ―

2012 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市文化財調査報告書第 403 集

桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ

― 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ ―

2012 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

西公園高架橋等Ⅱ区　Ⅲａ層上面全景（北西から）

西公園高架橋等Ⅱ区　SX40（南から）

西公園高架橋等Ⅱ区　SX77（北から）

西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅱ層上面　SD1 周辺（南から）

西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅵ・Ⅶ層完掘全景（南から）

IV a 層　SX52 出土　一分判金

V 層出土　金箔軒平瓦

IV b 層出土　金箔飾り瓦

III b 層出土　金箔土師質土器

IV a 層 SK46 出土　ガラス製品

撹乱出土　鯱瓦

西公園高架橋等 II 区　出土遺物

序　文

仙台市の文化財保護につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、当市では、高速鉄道東西線事業を推進し、高速鉄道南北線や、ＪＲ、バスと連携した公共交通ネットワークを形成することにより、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めております。

高速鉄道東西線の計画路線内には仙台城跡や関連した遺跡があり、さらに新しい遺跡が発見されることも予測されたことから、仙台市教育委員会では事業主体者の仙台市交通局と協議を重ね、平成 16 ～ 18 年度に試掘確認調査を実施し、その結果に基づき本発掘調査を行ってまいりました。このうち桜ヶ岡公園遺跡は、仙台城跡の広瀬川対岸に位置し、平成 16 年から 17 年にかけて実施した試掘調査により、平成 19 年度に新たに遺跡登録され、平成 19 年度から本格的な発掘調査を実施してきました。これまでの調査では、仙台城跡の対岸に位置する武家屋敷の様相や近代の桜ヶ岡公園の状況を知る為の貴重な資料が得られております。本報告書は平成 19・21・22 年度の本発掘調査の成果をまとめたもので、高速鉄道東西線関係の本報告書としては９冊目となります。

これまで、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用しながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、昨年３月 11 日の東日本大震災では、仙台市内も大きな被害を受けております。震災から１年を経て、仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ仙台　～3・11 からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成 24 年３月

仙台市教育委員会

教育長　青沼　一民

例　言

１．本書は高速鉄道東西線建設事業に伴い実施された、桜ヶ岡公園遺跡の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は、仙台市教育委員会が、平成 19・21 年度は国際文化財株式会社、平成 22 年度は大成エンジニアリング株式会社へ委託して実施した。

３．本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課　渡部紀・工藤信一郎・水野一夫の監理のもとに、国際文化財株式会社　山本信夫・土橋尚起・武田芳雅が担当した。

４．本書の第３図の絵図の掲載にあたっては、所蔵機関の許可を得ている。

５．本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまなご協力を賜った。記して謝意を表す次第である（敬称略順不同）

松本秀明（東北学院大学）　　酒井 昌一郎（仙台市博物館）

仙台市交通局　　仙台市建設局　　仙台市博物館　　齋藤報恩会　　宮城県図書館

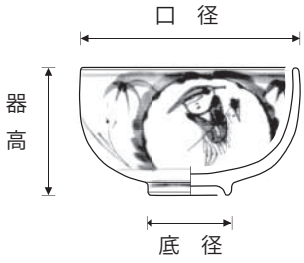
６．発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

７．報告書掲載陶磁器の年代等の確認は佐藤洋（仙台市教育委員会文化財課）の協力を得た。

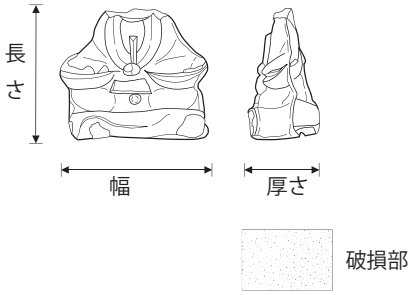
凡　例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局 1998 年版）に準拠している。
2. 本書中の第 1 図は国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図「仙台」と 1 万分の 1 地形図「青葉山」「仙台駅」を合成した。
3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。座標値は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災前のものを使用している。
4. 本文図版等で使用した方位は真北を基準としている。
5. 標高値は、海抜高度(T.P)を示している。標高値は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災前のものを使用している。
6. 遺構図は 1/40 縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記は、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。
8. 遺構平面図において、（トーン）は機能時において元位置を保っている礫を示し、裏込め、根固め石はトーンを使用していない。また、遺構断面図においては断面にかかる全ての礫をトーンで示している。
   （トーン）は地山および柱痕を示している。
9. 遺構・遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
   SA：柱列跡、SB：建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SK：土坑、P：ピット、SX：その他の遺構
   F：丸瓦・軒丸瓦、G：平瓦・軒平瓦、H：その他の瓦、I：陶器・瓦質土器・土師質土器、J：磁器、
   K：石器・石製品、L：木製品、N：金属製品、P：土製品、X：その他の遺物
10. 遺物実測図は原則として縮尺 1/3 としたが、瓦および木製品の一部（下駄等）は 1/4、金属製品・石製品・土製品は 2/3、銭貨および金属製品の一部（小柄）は原寸で表示した。小柄は左から見た断面を示す。
11. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、施釉範囲は一点鎖線で表した。中心線が一点鎖線のものは、展開し図上復元したものである。
12. 遺物観察表で陶磁器類の成形技法は、大部分がロクロ成形であるために、他の技法を記載した。法量の記載で（ ）書きの数字は残存値を示している。
13. 報告書内で使用している尺・寸の長さは「1 尺＝ 30.3cm」、「1 寸＝ 3.03cm」とした。

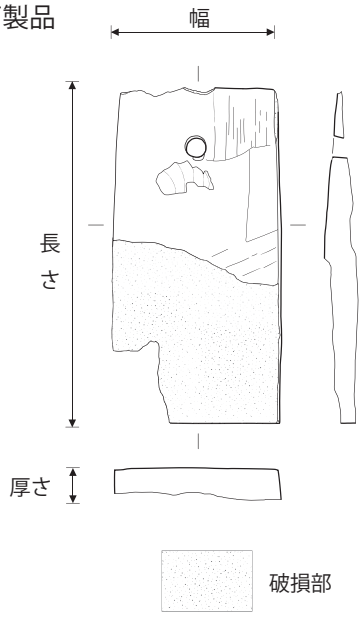
陶磁器　土師質土器　瓦質土器



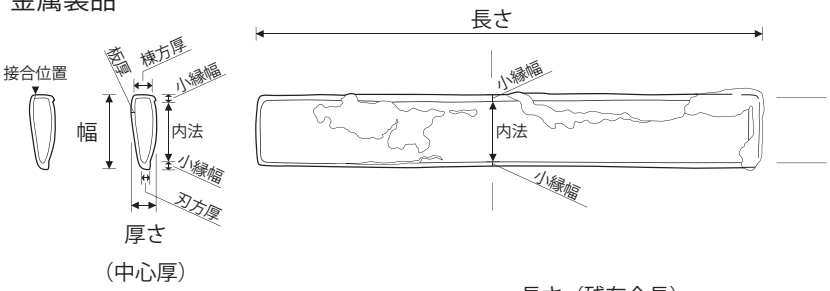
土製品

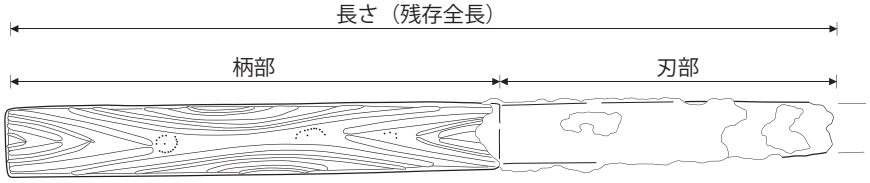


石製品

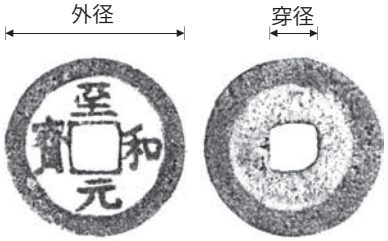


金属製品

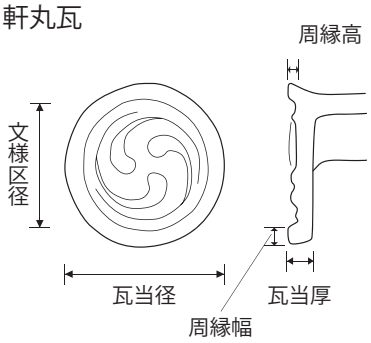




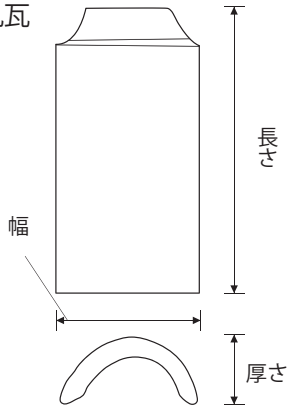
銭貨



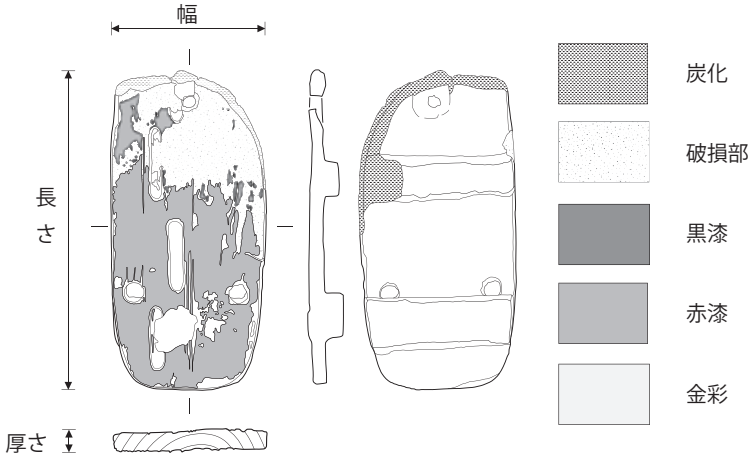
軒丸瓦



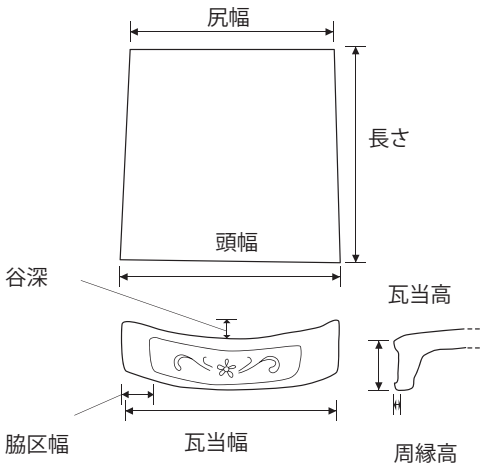
丸瓦



木製品



平瓦　軒平瓦



本文目次

第１章　調査概要 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査要項 …… 1
第３節　調査概要 …… 3
１　現地調査 …… 3
２　整理作業 …… 3
第２章　位置と環境 …… 5
第１節　地理的環境 …… 5
第２節　歴史的環境 …… 6
第３章　調査方法 …… 10
第１節　調査方法 …… 10
１　現地調査 …… 10
２　整理作業 …… 10
３　遺構名称について …… 10
第２節　調査区グリッドの設定 …… 11
第４章　基本層序 …… 12
第５章　検出遺構と遺物 …… 21
第１節　西公園高架橋等Ⅰ区 …… 21
１　Ⅶ層上面検出遺構 …… 21
２　Ⅱ層上面検出遺構 …… 27
第２節　西公園高架橋等Ⅱ区 …… 38
１　Ⅵ・Ⅶ層上面検出遺構 …… 38
２　Ⅴ層上面検出遺構 …… 49
３　Ⅳｂ層上面検出遺構 …… 74
４　Ⅳａ層上面検出遺構 …… 101
５　Ⅲｂ層上面検出遺構 …… 126
６　Ⅲａ層上面検出遺構 …… 148
第３節　西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）…… 166
１　トレンチ１ …… 167
２　トレンチ２ …… 171
３　トレンチ３ …… 174
第６章 自然科学分析 …… 175
第１節　樹種同定 …… 175
第２節　獣骨同定 …… 179
第７章 出土遺物と検出遺構について …… 188
第１節　出土遺物について …… 188
１　陶磁器 …… 188

2　瓦質土器 …… 192
3　土師質土器 …… 193
4　金属製品 …… 193
5　出土小柄の製作技法について …… 193
6　土製品 …… 199
7　木製品 …… 199
8　石製品 …… 200
9　ガラス製品 …… 200
10　瓦 …… 201
11　鯱瓦 …… 201
12　出土遺物のまとめ …… 204
第２節 検出遺構について …… 205
1　Ⅵ・Ⅶ層上面検出遺構 …… 205
2　Ⅴ層上面検出遺構 …… 205
3　Ⅳｂ層上面検出遺構 …… 206
4　Ⅳａ層上面検出遺構 …… 206
5　Ⅲｂ層上面検出遺構 …… 206
6　Ⅲａ層上面検出遺構 …… 208
7　Ⅱ層上面検出遺構 …… 209
8　検出遺構のまとめ …… 209
第８章　まとめ …… 211
引用・参考文献 …… 212

挿図目次

第 1 図　調査区位置図…… 4
第 2 図　河岸段丘分布図・断面模式図…… 5
第 3 図　絵図・地図における調査区周辺…… 7
第 4 図　周辺遺跡分布図…… 8
第 5 図　これまでの調査地点…… 9
第 6 図　グリッド設定図…… 11
第 7 図　土層柱状図…… 13
第 8 図　西公園高架橋等Ⅰ区壁面土層図…… 15
第 9 図　西公園高架橋等Ⅱ区壁面土層図（1）…… 16
第 10 図　西公園高架橋等Ⅱ区壁面土層図（2）…… 17
第 11 図　西公園高架橋等Ⅱ区壁面土層図（3）…… 19
第 12 図　Ⅶ層上面遺構配置図…… 21
第 13 図　SA1 柱列跡平面図・断面図…… 22
第 14 図　SA1 柱列跡出土遺物…… 23
第 15 図　SA2 柱列跡平面図・断面図…… 23
第 16 図　SK5 土坑平面図・断面図…… 24
第 17 図　SK11 土坑平面図・断面図…… 24
第 18 図　SK12 土坑平面図・断面図…… 25
第 19 図　SX8 性格不明遺構平面図・断面図…… 25
第 20 図　SX19 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物…… 26
第 21 図　SX21 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物…… 27
第 22 図　Ⅱ層上面遺構配置図…… 28
第 23 図　SA3 柱列跡・SA4 柱列跡・SD1・1 号道路状遺構・1 号建物跡・1 号竹樋平面図…… 29
第 24 図　SA3 柱列跡・SA4 柱列跡・SD1・1 号道路状遺構・1 号建物跡・1 号竹樋断面図…… 31
第 25 図　SD1・1 号道路状遺構・1 号建物跡・1 号竹樋出土遺物…… 32
第 26 図　SK2 土坑・SK9 土坑・SX3 石敷・SX5 性格不明遺構平面図・断面図…… 33
第 27 図　SK6 土坑平面図・断面図…… 34
第 28 図　SK7 土坑平面図・断面図…… 35
第 29 図　SX6 土坑平面図・断面図…… 35
第 30 図　遺構外出土遺物（1）…… 36
第 31 図　遺構外出土遺物（2）…… 37
第 32 図　Ⅵ・Ⅶ層上面検出遺構…… 38
第 33 図　SD23 溝跡平面図・断面図…… 39

第 34 図　SE2 井戸跡平面図・断面図…… 39
第 35 図　SK53・56・58・59・68・70 土坑平面図　41
第 36 図　SK58・68・70 土坑断面図…… 42
第 37 図　SK56 土坑出土遺物（1）…… 43
第 38 図　SK56 土坑出土遺物（2）…… 44
第 39 図　SK66・SK67・SK72 土坑平面図・断面図　44
第 40 図　SK69 土坑平面図・断面図…… 45
第 41 図　SK71・SK73 土坑平面図・断面図…… 45
第 42 図　SK74 ～ 78 土坑平面図・断面図・出土遺物…… 47
第 43 図　SX47・SX50 性格不明遺構平面図・断面図…… 48
第 44 図　SX50 性格不明遺構出土遺物…… 49
第 45 図　Ⅴ層上面検出遺構…… 50
第 46 図　SA1 柱列跡平面図・断面図…… 51
第 47 図　SK47・SK50 土坑平面図・断面図…… 52
第 48 図　SK52 土坑・SX38 性格不明遺構平面図・断面図　53
第 49 図　SK63 土坑平面図・断面図…… 53
第 50 図　SK64・65・79 ～ 83 土坑平面図…… 55
第 51 図　SX64・65・79 ～ 83 土坑断面図…… 56
第 52 図　SK64 土坑出土遺物…… 58
第 53 図　SK79 土坑出土遺物（1）…… 58
第 54 図　SK79 土坑出土遺物（2）…… 59
第 55 図　SK80 土坑出土遺物…… 59
第 56 図　SK81 土坑出土遺物…… 60
第 57 図　SK82 土坑出土遺物…… 61
第 58 図　SK85 土坑平面図・断面図…… 62
第 59 図　SX10・SX11 性格不明遺構平面図・断面図…… 63
第 60 図　SK51 土坑・SX36・SX48 石組遺構平面図…… 64
第 61 図　SK51 土坑・SX36・SX48 石組遺構断面図…… 65
第 62 図　SX37 石組遺構平面図・断面図…… 65
第 63 図　SX49 性格不明遺構平面図・断面図…… 66
第 64 図　SX49 性格不明遺構出土遺物（1）…… 67
第 65 図　SX49 性格不明遺構出土遺物（2）…… 68
第 66 図　SX51 性格不明遺構平面図・断面図…… 69
第 67 図　SX68 性格不明遺構平面図・断面図…… 69
第 68 図　Ⅴ層出土遺物（1）…… 70
第 69 図　Ⅴ層出土遺物（2）…… 71
第 70 図　Ⅴ層出土遺物（3）…… 72
第 71 図　Ⅴ層出土遺物（4）…… 73
第 72 図　Ⅳb 層上面検出遺構…… 74
第 73 図　SA3 柱列跡平面図・断面図…… 75
第 74 図　SD3・4・5 溝跡平面図・断面図…… 76
第 75 図　SD22 溝跡平面図・断面図…… 76
第 76 図　SD24 溝跡平面図・断面図…… 77
第 77 図　SK6 土坑平面図・断面図…… 77
第 78 図　SD22 出土遺物…… 78
第 79 図　SK8・9 土坑平面図・断面図…… 79
第 80 図　SK13・14 土坑平面図・断面図…… 79
第 81 図　SK29 土坑平面図・断面図・出土遺物…… 80
第 82 図　SK41 土坑平面図・断面図…… 81
第 83 図　SK43 土坑平面図・断面図…… 81
第 84 図　SK41 土坑出土遺物（1）…… 82
第 85 図　SK41 土坑出土遺物（2）…… 83
第 86 図　SK43 土坑出土遺物…… 84
第 87 図　SK44・54・60・61 土坑・SX66 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物…… 85
第 88 図　SK55 土坑・SX43 性格不明遺構平面図・断面図　86
第 89 図　SX43 性格不明遺構出土遺物…… 87
第 90 図　SX3 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物（1）…… 88
第 91 図　SX3 性格不明遺構出土遺物（2）…… 89
第 92 図　SX19 石組遺構平面図・断面図…… 90
第 93 図　SX26・SX27・SX28 性格不明遺構平面図・断面図…… 91
第 94 図　SX40 整地跡平面図・断面図…… 92
第 95 図　SX44 性格不明遺構平面図・断面図…… 93
第 96 図　SX77 道路状遺構・SD21 溝跡平面図・断面図　93
第 97 図　Ⅳb 層出土遺物（1）…… 94
第 98 図　Ⅳb 層出土遺物（2）…… 95
第 99 図　Ⅳb 層出土遺物（3）…… 96
第 100 図　Ⅳb 層出土遺物（4）…… 97
第 101 図　Ⅳb 層出土遺物（5）…… 98
第 102 図　Ⅳb 層出土遺物（6）…… 99
第 103 図　Ⅳb 層出土遺物（7）…… 100
第 104 図　Ⅳa 層上面検出遺構…… 101
第 105 図　SD16・17 溝跡平面図・断面図…… 102
第 106 図　SE1 井戸跡平面図…… 103
第 107 図　SE1 井戸跡断面図…… 104
第 108 図　SE1 井戸跡出土遺物…… 105
第 109 図　SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物…… 106
第 110 図　SK31・SK35 土坑平面図・断面図…… 107
第 111 図　SK42・SK46 土坑平面図・断面図…… 108
第 112 図　SK46 土坑出土遺物（1）…… 109
第 113 図　SK46 土坑出土遺物（2）…… 110
第 114 図　SK49 土坑平面図…… 110
第 115 図　SK49 土坑断面図・出土遺物（1）…… 111
第 116 図　SK49 土坑出土遺物（2）…… 112
第 117 図　SK49 土坑出土遺物（3）…… 113
第 118 図　SK49 土坑出土遺物（4）…… 114
第 119 図　SK49 土坑出土遺物（5）…… 115
第 120 図　SK49 土坑出土遺物（6）…… 116
第 121 図　SX7 性格不明遺構平面図・断面図…… 117
第 122 図　SX20 性格不明遺構平面図・断面図…… 118
第 123 図　SX21 性格不明遺構平面図・断面図…… 118
第 124 図　SX21 性格不明遺構出土遺物…… 119
第 125 図　SX33 性格不明遺構平面図・断面図…… 119
第 126 図　SX42 性格不明遺構平面図・断面図…… 120
第 127 図　SX46 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物　120
第 128 図　SX52 祭祀遺構古銭分布状況…… 121

第 129 図 SX52 祭祀遺構出土銭貨…… 122
第 130 図 Ⅳ a 層出土遺物（１）…… 123
第 131 図 Ⅳ a 層出土遺物（２）…… 124
第 132 図 Ⅳ a 層出土遺物（３）…… 125
第 133 図 Ⅲ b 層上面検出遺構…… 126
第 134 図 SD7・SX18 平面図・断面図…… 127
第 135 図 SD7 溝跡出土遺物…… 128
第 136 図 SX18 性格不明遺構出土遺物…… 129
第 137 図 SD19 溝跡・SK25 土坑平面図・断面図・出土遺物…… 130
第 138 図 SD20 溝跡・SK36・SK39・SK40 土坑平面図・断面図 131
第 139 図 SD20 溝跡出土遺物…… 131
第 140 図 SK36 土坑出土遺物…… 132
第 141 図 SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物…… 132
第 142 図 SK24 土坑平面図・断面図・出土遺物…… 133
第 143 図 SK26 土坑平面図・断面図…… 133
第 144 図 SK32 土坑平面図・断面図…… 133
第 145 図 SK37・SK38 土坑平面図・断面図・出土遺物…… 134
第 146 図 SK84 土坑平面図・断面図・出土遺物（１） 135
第 147 図 SK84 土坑出土遺物（２）…… 136
第 148 図 SX1 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物（1）…… 137
第 149 図 SX1 性格不明遺構出土遺物（２）…… 138
第 150 図 SX1 性格不明遺構出土遺物（３）…… 139
第 151 図 SX2 性格不明遺構平面図・断面図…… 140
第 152 図 SX25 石組遺構平面図・断面図…… 140
第 153 図 SX25 石組遺構掘り方平面図・出土遺物（1）…… 141
第 154 図 SX25 石組遺構出土遺物（２）…… 142
第 155 図 SX25 石組遺構出土遺物（３）…… 143
第 156 図 SX29 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物 143
第 157 図 SX32・SX35・SX39 性格不明遺構平面図・断面図…… 144
第 158 図 Ⅲ b 層出土遺物（１）…… 145
第 159 図 Ⅲ b 層出土遺物（２）…… 146
第 160 図 Ⅲ b 層出土遺物（３）…… 147
第 161 図 Ⅲ a 層上面検出遺構…… 148
第 162 図 SA2 柱列跡平面図・断面図…… 149
第 163 図 SB1 建物跡平面図・断面図・出土遺物…… 150
第 164 図 SD1 溝跡平面図・断面図…… 151
第 165 図 SD10 溝跡平面図・断面図…… 152
第 166 図 SD11 溝跡平面図・断面図…… 152
第 167 図 SK3・4 土坑平面図・断面図…… 153
第 168 図 SK17・SK18 土坑平面図・断面図…… 154
第 169 図 SX4 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物 154
第 170 図 SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物 155
第 171 図 SX15 性格不明遺構平面図・断面図…… 156
第 172 図 SX17 性格不明遺構平面図・断面図…… 156
第 173 図 SX22 性格不明遺構平面図・断面図…… 157
第 174 図 SX31 性格不明遺構平面図・断面図…… 157
第 175 図 Ⅲ a 層出土遺物（１）…… 158
第 176 図 Ⅲ a 層出土遺物（２）…… 159
第 177 図 Ⅲ a 層出土遺物（３）…… 160
第 178 図 Ⅲ a 層出土遺物（４）…… 161
第 179 図 Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（１）…… 162
第 180 図 Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（２）…… 163
第 181 図 鯱瓦（１）…… 164
第 182 図 鯱瓦（２）…… 165
第 183 図 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）トレンチ配置図…… 166
第 184 図 トレンチ 1 Ⅶ層上面遺構平面図・断面図…… 167
第 185 図 トレンチ 1 Ⅲ a2 層上面遺構断面図…… 168
第 186 図 トレンチ 1 Ⅲ a2 層上面遺構平面図…… 169
第 187 図 トレンチ 1 Ⅲ a1 層上面遺構断面図…… 170
第 188 図 トレンチ 1 Ⅲ a1 層上面遺構平面図…… 171
第 189 図 トレンチ 2 Ⅲ a 層上面遺構平面図…… 172
第 190 図 SK10 土坑出土遺物…… 173
第 191 図 トレンチ 2 出土遺物…… 173
第 192 図 トレンチ 3 平面図…… 174
第 193 図 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 1 180
第 194 図 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 2 181
第 195 図 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 3 182
第 196 図 桜ヶ丘公園遺跡の動物遺体…… 186
第 197 図 漳州窯磁器青花鳳凰文皿…… 192
第 198 図 桜ケ岡公園遺跡出土の小柄（１）…… 195
第 199 図 桜ケ岡公園遺跡出土の小柄（２）…… 197
第 200 図 桜ケ岡公園遺跡出土の小柄（３）…… 198
第 201 図 鯱瓦部位名称…… 202
第 202 図 鯱瓦…… 203
第 203 図 Ⅵ・Ⅶ層上面遺構分布図…… 205
第 204 図 Ⅴ層上面遺構分布図…… 206
第 205 図 Ⅳ b 層上面遺構分布図…… 207
第 206 図 Ⅳ a 層上面遺構分布図…… 207
第 207 図 Ⅲ b 層上面遺構分布図…… 208
第 208 図 Ⅲ a 層上面遺構分布図…… 208
第 209 図 桜ケ岡公園遺跡遺構変遷図…… 210

表目次

第 1 表 遺跡地名表…… 8
第 2 表 調査区基本土層注記表（1）…… 13
第 3 表 調査区基本土層注記表（2）…… 14
第 4 表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品樹種同定結果（1） 176
第 5 表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品樹種同定結果（2） 177
第 6 表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品器種別集計表… 178
第 7 表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表…… 183
第 8 表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表（1） 184
第 9 表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表（2） 185
第 10 表 出土遺物集計表…… 189
第 11 表 産地別出土遺物集計表…… 189
第 12 表 機能別出土遺物集計表…… 191
第 13 表 瓦質土器出土集計表…… 192
第 14 表 土師質土器出土集計表…… 193
第 15 表 小柄観察表…… 199
第 16 表 金属製品出土集計表…… 199
第 17 表 土製品出土集計表…… 200
第 18 表 木製品出土集計表…… 201
第 19 表 石製品出土集計表…… 201
第 20 表 検出遺構の方位の移り変わり…… 209

写真図版目次

図版 1 西公園高架橋等Ⅰ区 全景…… 215
図版 2 西公園高架橋等Ⅰ区 Ⅶ層上面（1）…… 216
図版 3 西公園高架橋等Ⅰ区 Ⅶ層上面（2）…… 217
図版 4 西公園高架橋等Ⅰ区 Ⅶ層上面（3）・Ⅱ層上面（1）… 218
図版 5 西公園高架橋等Ⅰ区 Ⅱ層上面（2）…… 219
図版 6 西公園高架橋等Ⅰ区 Ⅱ層上面（3）…… 220
図版 7 西公園高架橋等Ⅱ区 全景（1）…… 221
図版 8 西公園高架橋等Ⅱ区 全景（2）…… 222
図版 9 西公園高架橋等Ⅱ区 壁面（1）…… 223
図版 10 西公園高架橋等Ⅱ区 壁面（2）…… 224
図版 11 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅵ・Ⅶ層上面（1）… 225
図版 12 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅵ・Ⅶ層上面（2）… 226
図版 13 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅵ・Ⅶ層上面（3）… 227
図版 14 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅴ層上面（1）…… 228
図版 15 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅴ層上面（2）…… 229
図版 16 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅴ層上面（3）…… 230
図版 17 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅴ層上面（4）…… 231
図版 18 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅴ層上面（5）…… 232
図版 19 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅴ層上面（6）・Ⅳb層上面（1）… 233
図版 20 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳb層上面（2）…… 234
図版 21 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳb層上面（3）…… 235
図版 22 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳb層上面（4）…… 236
図版 23 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳb層上面（5）…… 237
図版 24 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳb層上面（6）…… 238
図版 25 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳb層上面（7）…… 239
図版 26 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳb層上面（8）…… 240
図版 27 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳa層上面（1）…… 241
図版 28 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳa層上面（2）…… 242
図版 29 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳa層上面（3）…… 243
図版 30 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳa層上面（4）…… 244
図版 31 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳa層上面（5）…… 245
図版 32 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅳa層上面（6）・Ⅲb層上面（1）… 246
図版 33 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅲb層上面（2）…… 247
図版 34 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅲb層上面（3）…… 248
図版 35 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅲb層上面（4）…… 249
図版 36 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅲb層上面（5）・Ⅲa層上面（1）… 250
図版 37 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅲa層上面（2）…… 251
図版 38 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅲa層上面（3）…… 252
図版 39 西公園高架橋等Ⅱ区 Ⅲa層上面（4）…… 253
図版 40 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）（1）…… 254
図版 41 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）（2）…… 255
図版 42 西公園高架橋等Ⅰ区Ⅶ層上面遺構出土遺物（1）… 256
図版 43 西公園高架橋等Ⅰ区Ⅶ層・Ⅱ層上面遺構出土遺物・遺構外出土遺物（1）…… 257
図版 44 西公園高架橋等Ⅰ区遺構外出土遺物（2）…… 258
図版 45 西公園高架橋等Ⅰ区遺構外出土遺物（3）…… 259
図版 46 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅵ・Ⅶ層上面遺構出土遺物（1）… 260
図版 47 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅵ・Ⅶ層上面遺構出土遺物（2）・Ⅴ層上面遺構出土遺物（1）…… 261
図版 48 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層上面遺構出土遺物（2）… 262
図版 49 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層上面遺構出土遺物（3）… 263
図版 50 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層上面遺構出土遺物（4）… 264
図版 51 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層上面遺構出土遺物（5）・遺構外出土遺物（1）…… 265
図版 52 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層遺構外出土遺物（2）…… 266
図版 53 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層遺構外出土遺物（3）…… 267
図版 54 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層遺構外出土遺物（4）…… 268
図版 55 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅴ層遺構外出土遺物（5）・Ⅳb層上面遺構出土遺物（1）…… 269
図版 56 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層上面遺構出土遺物（2）… 270
図版 57 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層上面遺構出土遺物（3）… 271
図版 58 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層上面遺構出土遺物（4）… 272
図版 59 西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層上面遺構出土遺物（5）… 273

図版 60　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層上面遺構出土遺物（6）・遺構外出土遺物（1）…… 274
図版 61　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層遺構外出土遺物（2）‥ 275
図版 62　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層遺構外出土遺物（3）‥ 276
図版 63　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層遺構外出土遺物（4）‥ 277
図版 64　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層遺構外出土遺物（5）‥ 278
図版 65　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層遺構外出土遺物（6）‥ 279
図版 66　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳb層遺構外出土遺物（7）・Ⅳa層上面遺構出土遺物（1）…… 280
図版 67　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層上面遺構出土遺物（2）… 281
図版 68　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層上面遺構出土遺物（3）… 282
図版 69　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層上面遺構出土遺物（4）… 283
図版 70　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層上面遺構出土遺物（5）… 284
図版 71　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層上面遺構出土遺物（6）… 285
図版 72　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層上面遺構出土遺物（7）… 286
図版 73　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層上面遺構出土遺物（8）・遺構外出土遺物（1）…… 287
図版 74　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層遺構外出土遺物（2）‥ 288
図版 75　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層遺構外出土遺物（3）‥ 289
図版 76　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層遺構外出土遺物（4）‥ 290
図版 77　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅳa層遺構外出土遺物（5）・Ⅲb層上面遺構出土遺物（1）…… 291
図版 78　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層上面遺構出土遺物（2）… 292
図版 79　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層上面遺構出土遺物（3）… 293
図版 80　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層上面遺構出土遺物（4）… 294
図版 81　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層上面遺構出土遺物（5）… 295
図版 82　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層上面遺構出土遺物（6）… 296
図版 83　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層上面遺構出土遺物（7）… 297
図版 84　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層上面遺構出土遺物（8）・遺構外出土遺物（1）…… 298
図版 85　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲb層遺構外出土遺物（2）‥ 299
図版 86　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲa層上面遺構出土遺物・遺構外出土遺物（1）…… 300
図版 87　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲa層遺構外出土遺物（2）‥ 301
図版 88　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲa層遺構外出土遺物（3）‥ 302
図版 89　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅲa層遺構外出土遺物（4）‥ 303
図版 90　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（1）‥ 304
図版 91　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（2）‥ 305
図版 92　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（3）‥ 306
図版 93　西公園高架橋等Ⅱ区Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（4）・西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）トレンチ2出土遺物… 307
図版 94　焼継資料・漳州窯…… 308

第１章　調査概要

第１節　調査に至る経緯

平成 11 年 5 月、仙台市教育委員会と当時、事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第 1 回目の協議が持たれた。その後、事業主管局が仙台市交通局に移され、平成 15 年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が行われた。その結果、高速鉄道東西線事業計画予定路線内における周知の遺跡及び遺跡範囲外の状況把握のため、先ず確認調査及び試掘調査を実施し、その結果を踏まえて本調査を実施する箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めていくことが両者間で確認された。

以上の協議事項に基づき、平成 16 年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成 16 年度の対象地域は、高速鉄道東西線西部の川内地区、青葉山地区、西公園地区で、18 箇所の調査区を設定し、総面積 448㎡の調査を実施した。

平成 17 年度の調査対象地域は仙台城跡及びその周辺地区、川内 A 遺跡隣接地区、西公園地区で、22 箇所の調査区を設定し、総面積 421㎡の調査を実施した。このうち、西公園地区 (この確認・試掘調査での便宜的区割りの D 区) は、平成 16 年 9 月 6 日から 9 月 17 日までの間に、 1 箇所 (70㎡) の試掘調査が行われ、翌平成 17 年 9 月 12 日から 9 月 27 日の間、 3 箇所 (51㎡) の試掘調査が実施された。その結果、近世を中心とした時期の遺構・遺物の存在が確認されたことから、平成 19 年 1 月に「桜ヶ岡公園遺跡」として登録された。これを受け、仙台市教育委員会は仙台市交通局と協議を行い、平成 19 年度に桜ヶ岡公園遺跡のトンネル・駅部Ⅰ区、大銀杏部、交番部の本調査、平成 20 年度には桜ヶ岡公園のトンネル・駅部Ⅱ区の本調査を実施している。このうち、駅部Ⅰ・Ⅱ区、大銀杏部、交番部の調査成果については、仙台市文化財調査報告書 384 集で報告している。平成 21 年度はトンネル部東側を対象に、7 月 13 日から、平成 22 年度は橋梁部を対象に 5 月 25 日から本調査を開始した。

第２節　調査要項

調査要項

遺 跡 名：桜ヶ岡公園遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01562)
所 在 地：仙台市青葉区桜ヶ岡公園 1-1 地内
調査原因：高速鉄道東西線路線工事に伴う事前調査
調査主体：仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
調査担当：文 化 財 課 調 査 係 主査　原河英二・主査　佐藤洋・主事　広瀬真理子（平成 19 年度）
文 化 財 課 調 査 係 主任　渡部紀・主事　加藤隆則・文化財教諭　志賀雄一（平成 21 年度）
文 化 財 課 調 査 指 導 係 主任　渡部紀・文化財教諭　菊地貴博（平成 22 年度）
調査組織：
平成 19 年度　国際航業株式会社
主任調査員　守谷健吾（平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日）
調　査　員　栗木　寧（平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日）

第２節　調査要項

調　査　員　関　美男（平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日）

平成 21 年度　国際文化財株式会社

主任調査員　土橋尚起（平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日）

調　査　員　田中美穂（平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日）

調　査　員　水上匡彦（平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日）

平成 22 年度　大成エンジニアリング株式会社

調　査　員　蒲　明男（平成 22 年 5 月 25 日～平成 22 年 6 月 10 日）

調査補助員　土沼章一（平成 22 年 5 月 25 日～平成 22 年 6 月 10 日）

調査期間：平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日（平成 19 年度現地調査）

平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日（平成 21 年度現地調査）

平成 22 年 5 月 26 日～平成 22 年 6 月 10 日（平成 22 年度現地調査）

調査面積：西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部Ⅰ区：248㎡

西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部Ⅱ区：789㎡

西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部Ⅰ区（排水管部）：25㎡

報告書作成要項

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：文化財課調査指導係主任　渡部紀・文化財教諭　菊地貴博（平成 22 年度）

文化財課調査指導係主任　工藤信一郎・主事　水野一夫（平成 23 年度）

調査組織：国際文化財株式会社

調　査　員　土橋尚起　（平成 22 年 5 月 10 日～平成 23 年 3 月 11 日・
平成 23 年 6 月 13 日～平成 23 年 10 月 1 日）

調　査　員　山本信夫　（平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 3 月 9 日）

調査補助員　武田芳雅　（平成平成 23 年 6 月 13 日～平成 24 年 3 月 9 日）

作成期間：平成 22 年 5 月 10 日～平成 23 年 3 月 11 日

平成 23 年 6 月 13 日～平成 24 年 3 月 9 日

第３節　調査概要

１　現地調査

平成 19 年度調査は西公園高架橋等Ⅰ区を対象とし、平成 19 年 5 月 10 日から 8 月 15 日までの期間に実施した。調査面積は 248㎡である。調査区現況は西公園プール西側の駐車場となっており、初めにアスファルト・砕石層を重機で掘削・除去した。その後人力による遺構調査を行い、排土は人力で調査用地内に仮置きした。調査区内で２面の遺構面を確認し、各面毎に記録をとりながら調査を実施した。

平成 21 年度調査は西公園高架橋等Ⅱ区を対象とし、平成 21 年 7 月 13 日から平成 22 年 1 月 15 日までの期間に実施した。調査面積は 789㎡である。調査区現況は西公園プール東側のタイル敷き遊歩道となっており、初めに砕石・遊歩道タイルを除去し、盛土を重機で掘削した。その後、人力による遺構調査を行い、排土はベルトコンベアを併用して調査用地内に仮置きした。各工区で複数面の遺構面を確認し、各面毎に記録をとりながら調査を実施した。調査区を縦断する水道管が確認されたため、その範囲をベルトとして残して調査を進めた。調査の工程上、便宜的に対象範囲を１区～３区に分けて実施した。３区は東西線本体工事工程との関係で、先に引き渡す必要があったため先行して調査し、9 月 9 日に調査を終了した。１区・２区は、9 月初旬より遺構検出を開始し、調査区内で６面の遺構面を確認し、順次調査を行った。12 月 22 日までに概ねの作業を終了し、平成 22 年 1 月 6 日には重機による井戸の断ち割りを実施した。その後、埋め戻しと撤収工を開始し、1 月 15 日に引渡し完了となった。

平成 22 年度調査は西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）を対象とし、平成 22 年 5 月 26 日から 6 月 9 日までの期間に実施した。調査面積は 25㎡である。調査区現況は西公園プール西側の駐車場および遊歩道となっており、初めに上部アスファルト・砕石層を重機で掘削・除去した。その後人力による遺構調査を行い、排土は人力で調査用地内に仮置きした。排水管敷設のための人坑部分を対象に３箇所のトレンチを設定し調査を行った。トレンチ１では２面の遺構面を確認した。トレンチ２では１面の遺構面および、近世と考えられる整地層を確認した。トレンチ３は深くまで削平され、近世の遺構は確認されなかった。

調査区には平成 17 年度に設定した東西線関連遺跡（川内地区）のグリッド原点を基準に 10 ｍメッシュのグリッドを設置し、計測作業には、トータルステーションを使用し、写真測量を併用して遺構平面・立面・断面等の図面を作成した。遺物は通し番号と出土地点・日付等を記した遺物カードを用いて記録・取り上げを行った。写真撮影は 35 ｍｍモノクロ・リバーサルフィルムおよびデジタルカメラを用いて撮影・記録を行なった。

２　整理作業

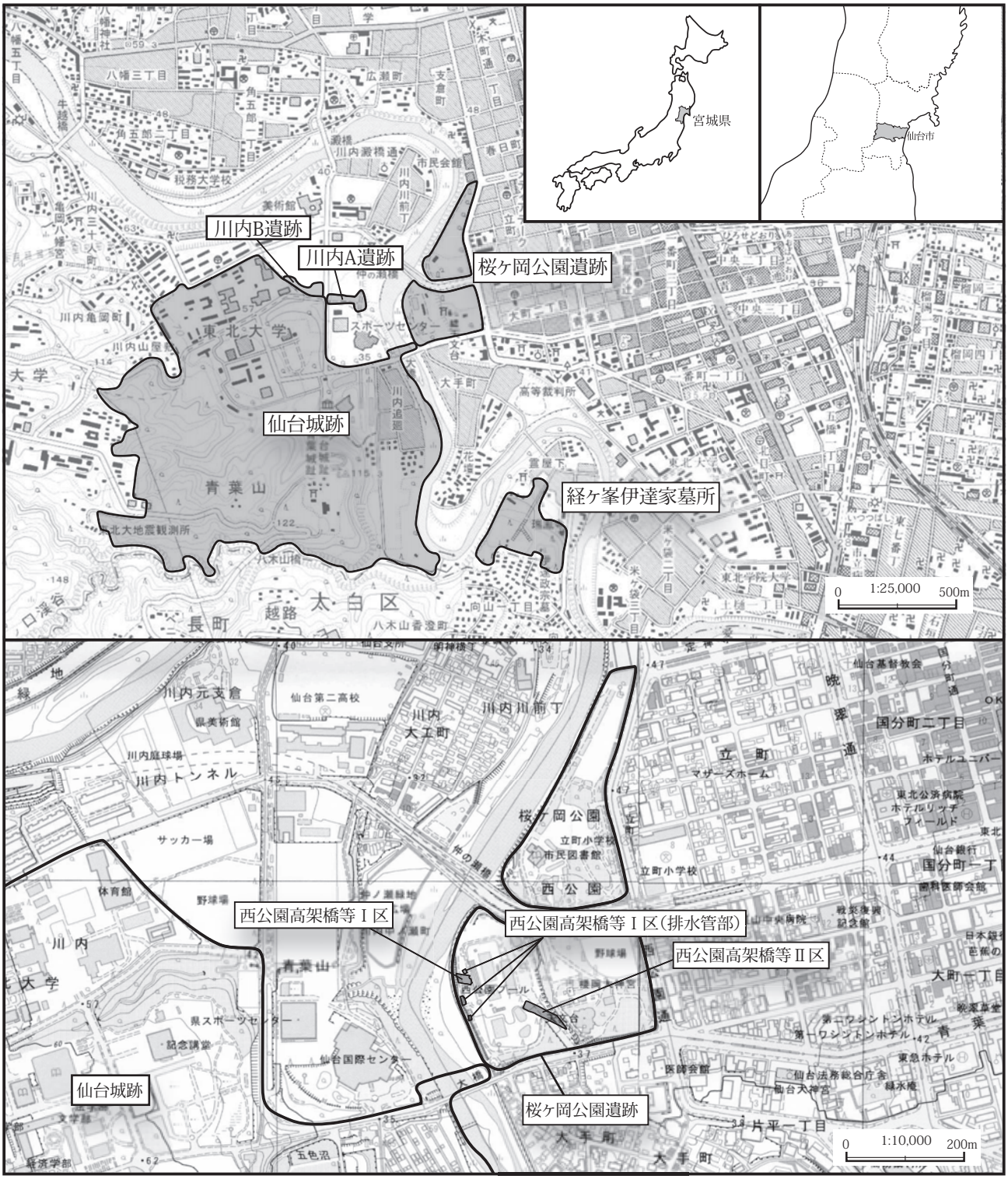
遺物量はコンテナ（内法 54.5㎝× 33.6㎝× 15㎝）368 箱である（西公園高架橋等Ⅰ区 98 箱、西公園高架橋等Ⅱ区 264 箱、西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）6 箱）。近世～近現代の陶磁器、瓦、瓦質土器が主体である。

遺物は洗浄を行い、終了したものは十分な乾燥の後に、接合関係を確認し注記、接合を行った。注記は、宮城県遺跡番号（01562）、遺物番号の記述を基本とした。注記・接合作業の後、遺物の全点撮影を行い、写真管理ソフトを使用して抽出遺物候補の絞込み、産地別集計等を行った。それらの中で時期の判別可能な破片など主要な遺物は選別し遺物の登録を行った。遺物写真は 1000 万画素級のデジタル一眼レフを用いて撮影した。陶器、磁器は、見込み、高台内文様、高台の形態の撮影を行った。撮影した遺物の点数は個別写真で 600 カットにおよんだ。

遺構平面図は現地で計測したデータを福井コンピュータ社製のブルートレンド上で編集して、DXF データ形式で保存した。DXF データを AI 形式に変換した後に、変換で生じる線種の不具合などを修正した上で、編集を行った。

手実測、写真計測による土層断面図は、それぞれデジタルトレース図化した。

遺物実測図にはオルソイメージャー（完全正射投影・深焦点撮影システム）で撮影したデジタル写真を用い実測図を作成した。また、アドビシステムズ社製のアプリケーション「Photoshop」を用いてデジタル正射投影写真から、文様を抽出した。トレース作業には同社のアプリケーション「Illustrator」を用いたデジタルトレースを実施し、同時に「Photoshop」で抽出した文様を貼り込む作業を行った。レイアウト作業は同社のアプリケーション「InDesign」を用いた。



第１図　調査区位置図

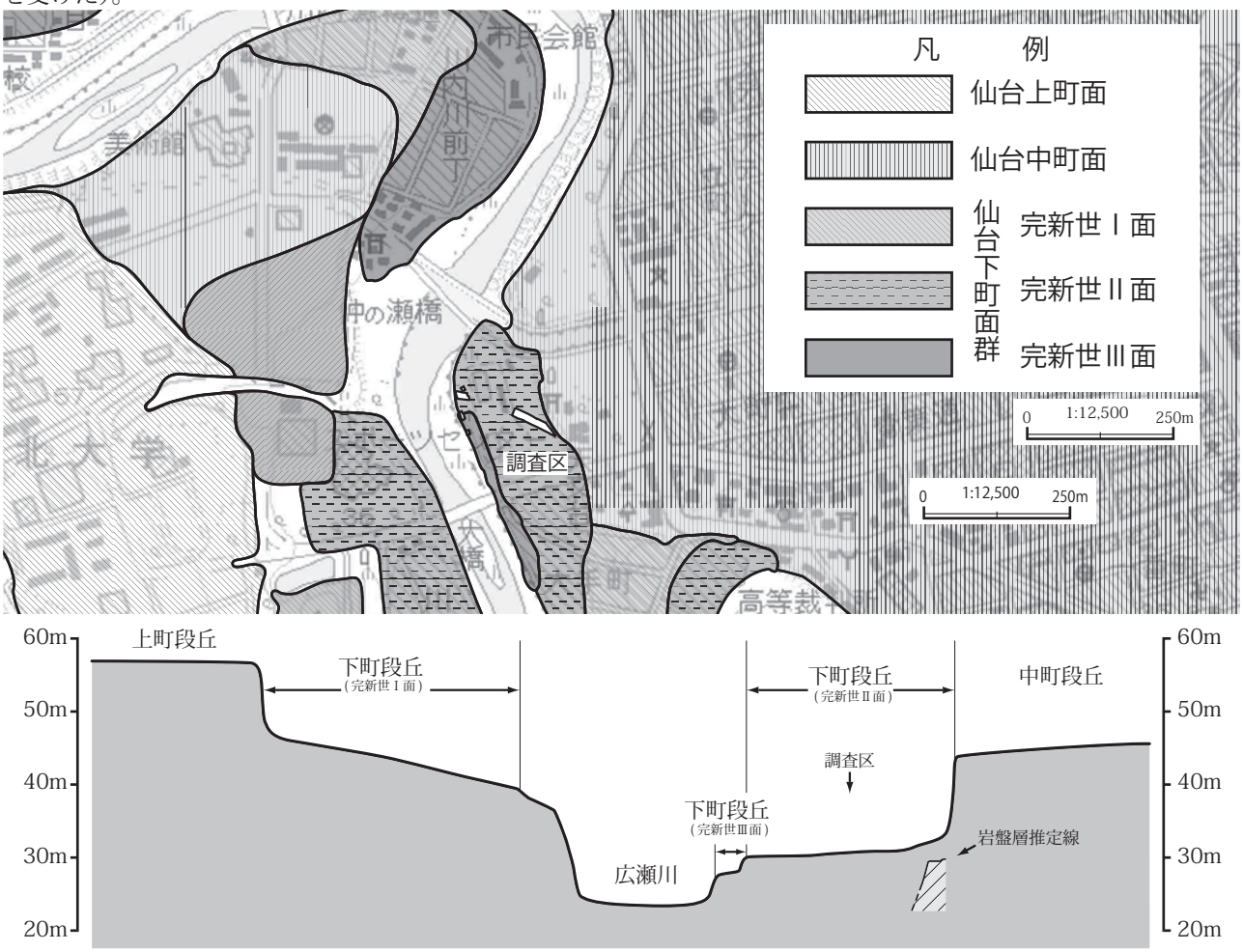
第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は仙台中町面、仙台下町面に所在し、今回報告する平成 19 年・21 年・22 年度調査地点は仙台下町面群［完新世Ⅱ面～完新世Ⅲ面］上に位置する。平成 21 年度調査区のすぐ東側に標高差約 10m をはかる仲の町崖があり、その上面は仙台中町面となる。広瀬川の形成した河岸段丘は上位より青葉山面群・台ノ原面群・仙台上町面・仙台中町面・仙台下町面（完新世Ⅰ面～Ⅲ面）の順に７面に区分される。仙台下町面の形成時期は完新世Ⅰ面が約 9100 ～ 9500 年前、完新世Ⅱ面が約 2010 年前とされており、完新世Ⅲ面は完新世Ⅱ面の形成から近世期の間に形成されたものと考えられる（松本・熊谷 2010）。

調査範囲の標高は約 32m、崖面に近い箇所では 32.5m を測る。東側の仲の町崖から 15m 西側の地点では黄褐色粘土質シルト層の河岸段丘堆積物（ローム）下層に、礫層（標高 30.2m）および岩盤層（標高 29.6m）が確認された。しかし、岩盤層は崖面から 23m 離れた深掘地点では標高 25.6m でも確認できなかった。

このことから、広瀬川が侵食と堆積を繰り返していた様相が伺える。崖付近では比較的浅い位置で礫層と岩盤層が確認され、少し離れると厚く粘土質シルト層が堆積していることから、①広瀬川の浸食が深くまで至り、②縁辺に近い部分に厚く氾濫土（黄褐色粘土質シルト層）が堆積し、③本流が西側に移り現在の場所まで後退して平坦面を形成する、という地形の形成過程が推察される（侵食～堆積の過程については、東北学院大学松本教授のご教示を受けた）。



第２図　河岸段丘分布図・断面模式図（松本・熊谷 2010 の図を一部改変して使用した）

第２節　歴史的環境

桜ヶ岡公園遺跡の位置は仙台城本丸跡から北に約 850m、二の丸跡から東北東へ約 700m に位置する。遺跡の範囲は東側の西公園通り、西側の広瀬川、南側の大町から仙台市博物館に抜ける大町通り、北側の仙台市民会館に囲まれた一帯をさし、ほぼ現在の西公園と重複する範囲である。桜ヶ岡公園遺跡周辺には仙台城跡（第４図 - ２）、川内Ａ遺跡（第４図 - ３）、川内Ｂ遺跡（第４図 - ４）等が所在する。

慶長５年（1600）以降に伊達政宗が仙台城の縄張り、城下の町割りを行う。今回報告する調査区は、仲の町崖の西側にあたり、中間・御小人屋敷として使われたことが、仙台城関連の絵図資料等からわかる。これらの資料をもとに、西公園高架橋等Ⅱ区のおおよその変遷を追ってみると、まず正保２・３年の「奥州仙台城下絵図」（第３図 - １）では「中間屋敷」として記されている。崖の上の「侍屋敷」には比較的上級の武士が住んでいたのに対し、武家奉公人の居住域であったことが推定できる。なお、西公園高架橋等Ⅱ区の西側にあたる広瀬川縁辺部の、西公園高架橋等Ⅰ区および西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）は、近世を通じて表記がないか、川原の記述が見られるのみである。

次に寛文４年（1664）の「仙台城下絵図」（第３図 - ２）では「御小人衆」の表記が見られ、以後は安政年間の絵図（第３図 - ４「安政補正改革仙府絵図」）までこの表記が認められる。元禄４・５年（1691・1692）の「仙台城下五釐掛絵図」（第３図 - ３）以降は、「御小人衆」の西側に「御作事方会所」の表記がみられるようになる。宝暦・明和年間（1751 ～ 1771）の「仙台城下絵図」（第３図 - ５上図）では、「御小人衆」の敷地に挟まれて「伊藤善郎」「丹野大助」「御坊主」の名が記され、これは足軽級の身分と考えられる。天明６年～寛政元年（1786 ～ 1789）の「仙台城下絵図」も同様である。

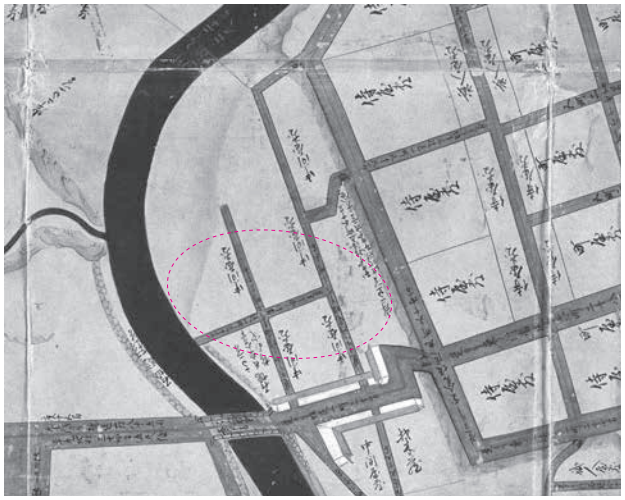
西公園高架橋等Ⅱ区の南西側は、御小人衆居宅の隣地に相当し、宝暦・明和の絵図では「古木御蔵」の記述があり、元禄の絵図には「諸道具御蔵」「御刺物小屋」、安政の絵図では「御紙蔵」も記されていて、上記「作事方会所」などを含め、各工房や倉庫群の一定区域が存在したと考えられる。ただし、この部分は今回の調査範囲外と思われる。

御小人・中間はいわゆる武家奉公人とされ、脇差のみ帯刀を許され、足軽の下に位置づけられていた。御小人屋敷は当該地区のほかに、川内・御霊屋下・米ヶ袋にある（第３図 - ５下図白線範囲）。

また、天保６年（1835）の洪水では、広瀬川の増水により大橋・中の瀬橋・評定橋・長町橋が流れ、川沿いの被災地家屋として澱町・中の瀬町・川内・琵琶首と共に「小人町」の表記が見られる（『天保七年凶年日記』『仙台市史』通史編５近世３；P136）。

西公園高架橋等Ⅱ区の東側の崖上は武家屋敷地となっていた。仙台市旧天文台、桜ヶ岡大神宮、源吾茶屋の付近では、寛文の頃（17 世紀中頃）は片倉小十郎が、延宝～享保年間（17 世紀後半から 18 世紀前半）にかけては津田民部、宝暦年間（18 世紀後半）以降は古内要人などの屋敷地が絵図で記されている（第１次調査地点（駅部・大銀杏部・交番部）：仙台市 2011b）。北側の旧西公園野球場（現在は公園として再整備されている）付近は藩政時代を通して亘理伊達氏（伊達安房）の屋敷地であった（第２次調査地点および第３次調査地点：仙台市 2007b・仙台市 2008）。中ノ瀬通りを挟んでさらに北側の地区の北半部は、藩政時代を通して涌谷伊達氏（伊達安藝）の屋敷地であり、南半部は寛文～元禄年間（17 世紀代）は石母田氏、享保年間（18 世紀前半）以降は柴田氏の屋敷地となっていた（第４次調査地点：仙台市 2010a）。

明治時代以降は、「中ノ町」「仲ノ町」「中ノ町川前丁」といった地名と、「宮城流木会社」「早坂製鉄所」といった会社の存在がみとめられる。昭和 20 年の仙台空襲で崖上の仙台市公会堂などと伴に焼失し、戦後は一時期住宅地として使われていたが、昭和 37 年に西公園市民プールを含む公園用地として再整備され、現在にいたる。



1．正保２・３年（1645・1646）「奥州仙台城絵図」　（財）斎藤報恩会所蔵

2．寛文４年（1664）「仙台城下絵図」　宮城県図書館所蔵

3．元禄４・５年（1691・1692）「仙台城下五釐掛絵図」　（財）斎藤報恩会所蔵

4．安政３～６年（1856 ～ 1859）「安政補正改革仙府絵図」　（原本焼失）

5．宝暦 10 年～明和３年（1760 ～ 1766）「仙台城下絵図」　（財）斎藤報恩会所蔵

※白線範囲は小人屋敷の範囲を示す

第３図　絵図・地図における調査区周辺（赤破線範囲が調査区推定位置）（高倉ほか 1994・2005）

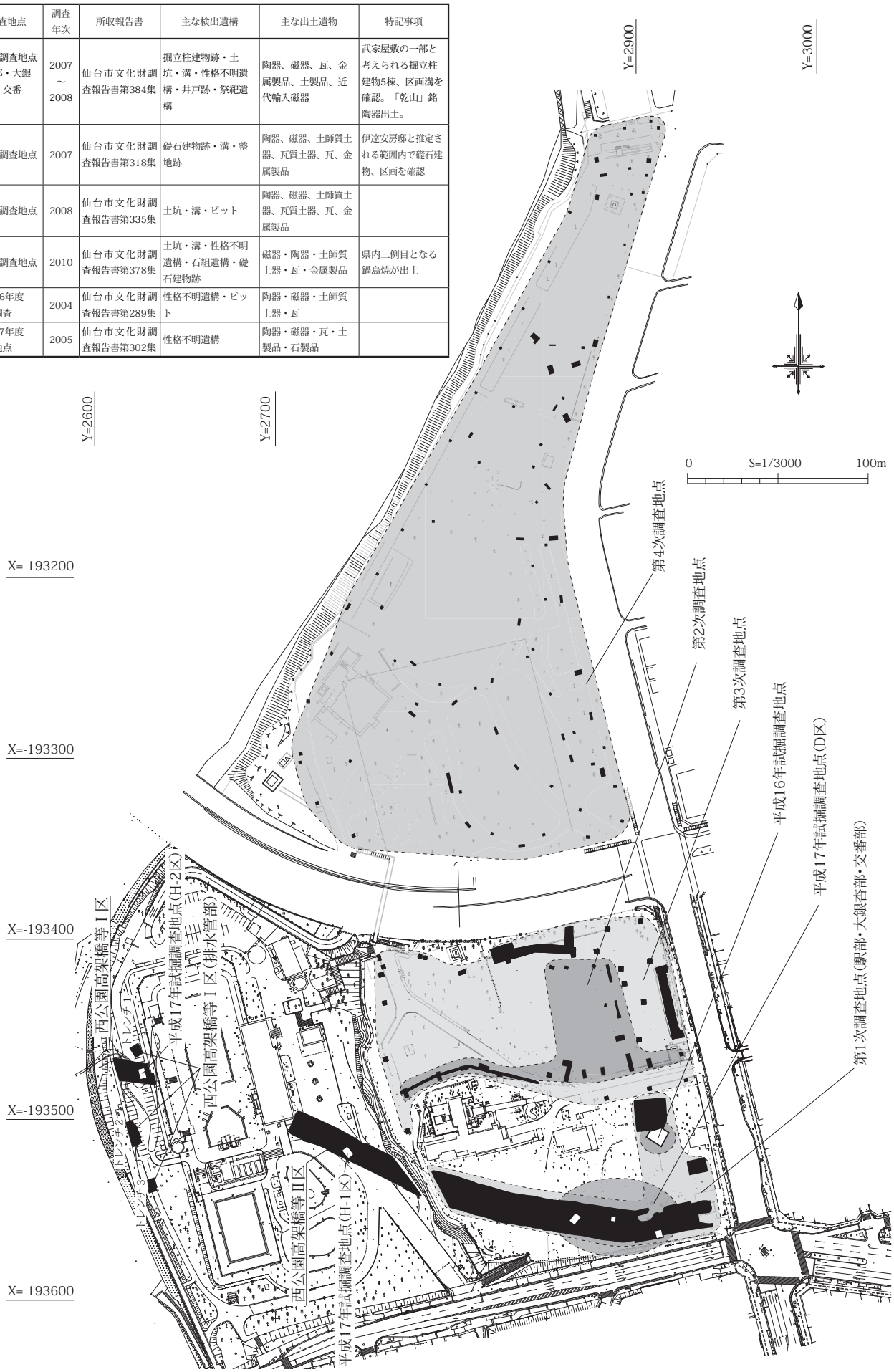
第４図　周辺遺跡分布図

番号	遺構名称	時代	所在地	性格
1	桜ケ岡公園遺跡	縄文・近世	青葉区桜ケ岡公園	武家屋敷・散布地
2	仙台城跡	中世～近世	青葉区川内・荒巻	城館跡
3	川内Ａ遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山２丁目	武家屋敷・散布地
4	川内Ｂ遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山	武家屋敷
5	経ケ峯伊達家墓所	近世	青葉区霊屋下	墓所
6	長徳寺板碑	中世	青葉区向山２丁目	板碑
7	川内古碑群	中世	青葉区川内・荒巻	板碑
8	片平仙台大神宮の板碑	中世	青葉区片平１丁目	板碑
9	澱不動尊文永十年板碑	中世	青葉区広瀬町	板碑
10	茂ケ崎城跡	中世	太白区茂ケ崎１丁目他	城館跡
11	青山二丁目遺跡	奈良・平安	太白区青山２丁目	横穴墓
12	茂ケ崎横穴墓群	古墳末・奈良	太白区二ツ沢	横穴墓
13	二ツ沢横穴墓群	古墳	太白区二ツ沢	横穴墓
14	愛宕山横穴墓群Ａ地点	古墳	太白区向山４丁目他	横穴墓

番号	遺構名称	時代	所在地	性格
15	愛宕山横穴墓群Ｂ・Ｃ地点	古墳・奈良	太白区向山４丁目他	横穴墓
16	大年寺山横穴墓群	古墳	太白区向山４丁目	横穴墓
17	八木山緑町遺跡	弥生・奈良・平安	太白区八木山緑町	集落跡
18	萩ケ丘遺跡	縄文晩・奈良・平安	太白区萩ケ丘	散布地
19	土樋遺跡	縄文	青葉区土樋１丁目	散布地
20	向山高裏遺跡	縄文中期	太白区八木山緑町	散布地
21	青葉山Ｅ遺跡	縄文早・中・晩・弥生・平安	青葉区荒巻字青葉	包含地
22	青葉山Ｂ遺跡	縄文早・中・弥生・奈良・平安	青葉区荒巻字青葉	包含地
23	松ケ丘遺跡	縄文	太白区八木山本庁１丁目	散布地
24	二ツ沢遺跡	縄文	太白区八木山弥生町	散布地
25	萩ケ丘Ｂ遺跡	縄文	太白区萩ケ丘・長嶺	散布地
26	青山二丁目Ｂ遺跡	旧石器・縄文	太白区青山２丁目	散布地
27	杉土手遺跡	近世	太白区茂ケ崎３丁目他	土手

第１表　遺跡地名表

調査地点	調査年次	所収報告書	主な検出遺構	主な出土遺物	特記事項
第1次調査地点（駅部・大銀杏部・交番部）	2007～2008	仙台市文化財調査報告書第384集	掘立柱建物跡・土坑・溝・性格不明遺構・井戸跡・祭祀遺構	陶器、磁器、瓦、金属製品、土製品、近代輸入磁器	武家屋敷の一部と考えられる掘立柱建物5棟、区画溝を確認。「乾山」銘陶器出土。
第2次調査地点	2007	仙台市文化財調査報告書第318集	礎石建物跡・溝・整地跡	陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、金属製品	伊達安房邸と推定される範囲内で礎石建物、区画を確認
第3次調査地点	2008	仙台市文化財調査報告書第335集	土坑・溝・ピット	陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、金属製品	
第4次調査地点	2010	仙台市文化財調査報告書第378集	土坑・溝・性格不明遺構・石組遺構・礎石建物跡	磁器・陶器・土師質土器・瓦・金属製品	県内三例目となる鍋島焼が出土
平成16年度試掘調査	2004	仙台市文化財調査報告書第289集	性格不明遺構・ピット	陶器・磁器・土師質土器・瓦	
平成17年度調査地点	2005	仙台市文化財調査報告書第302集	性格不明遺構	陶器・磁器・瓦・土製品・石製品	



第５図　これまでの調査地点

桜ヶ岡公園遺跡調査について

桜ヶ岡公園遺跡を対象とした高速鉄道東西線路線及び西公園駅舎建設に伴う発掘調査は、今回報告するトンネル部調査を含め平成 19 年度から平成 22 年度にかけて第 1 次調査として実施している。その他、仙台市建設局百年の杜推進部公園課が担当する西公園再整備事業に伴う調査が第 2 次調査から第 4 次調査として実施されている（第 5 図)。

第 2 次調査は、桜岡大神宮北側の旧野球場を対象とした試掘確認調査として実施した結果、近世の武家屋敷や近代の旧立町小学校に関わる遺構・遺物が良好な状態で確認された。第 3 次調査は、第 2 次調査で確認された遺構のうち工事掘削の影響を受ける範囲について本調査を実施している。第 4 次調査は、公園北半部において園内施設の老朽化に伴う新設工事により実施している。各調査成果については、発掘調査報告書にまとめられ刊行されている。

第 3 章　調査方法

第 1 節　調査方法

1　現地調査

掘削作業は、現地表である西公園プールの盛土層 (Ⅰ層）を重機で除去し、近世の堆積であるⅢ層以下は人力掘削にて調査を実施した。計測作業は、日本測地系座標に基づいて設置された基準点から、今回の調査で必要な位置に新点を設置し、グリッドの設定及び、遺構の計測･遺物出土地点の計測を行った。使用機材はトータルステーション :TOPCON 社 GPT7000、電子平板 : 福井コンピュータ社 BlueTrend V を使用した。

写真撮影は、作業開始前、遺構検出状況、土層断面、遺物出土状況、遺構完掘状況、全景写真を 35mm 一眼レフカメラを使用してカラーリバーサル及びモノクロの 2 種類のフィルムで撮影した。また、補助として 500 万画素以上のデジタルカメラで、調査写真と同一カットのほか、作業状況等を撮影した。また、調査区の全景撮影を高所作業車を使用して撮影を行った。

2　整理作業

出土遺物は、調査区毎に 1 番から取り上げ番号を付し、遺物カードに調査区・出土地点 (グリッド・遺構 No.)・層位・内容・出土年月日等の情報を記載した。

整理作業では、出土遺物を水洗し十分乾燥させた後、遺物カードの内容を注記し、接合を行った。破片の接合には、セメダイン C 及びパラロイド B72 を使用した。接合作業後、遺物の器種、産地等を分類しながら破片数を数え、出土遺構や土層の性格を判断できる主要遺物を抽出し、遺物の登録を実施した。欠損部は、必要に応じてプライトンを芯材とし、モビニール、エレホン等の樹脂を用いて充填・復元を行った。遺物写真は、1000 万画素級のデジタル一眼レフカメラを用いて、正面のほか、見込み、高台内文様等必要に応じて複数の方向から撮影を実施した。遺物実測は、外形及び断面を実測・トレースを行った。染付等の文様は、オルソイメージャー (完全正射影・深焦点撮影システム）の撮影画像を、デジタル処理して使用した。遺物のデジタルトレース及び編集には Adobe 社製 Illustrator を、画像処理には同社の PhotoShop を使用した。

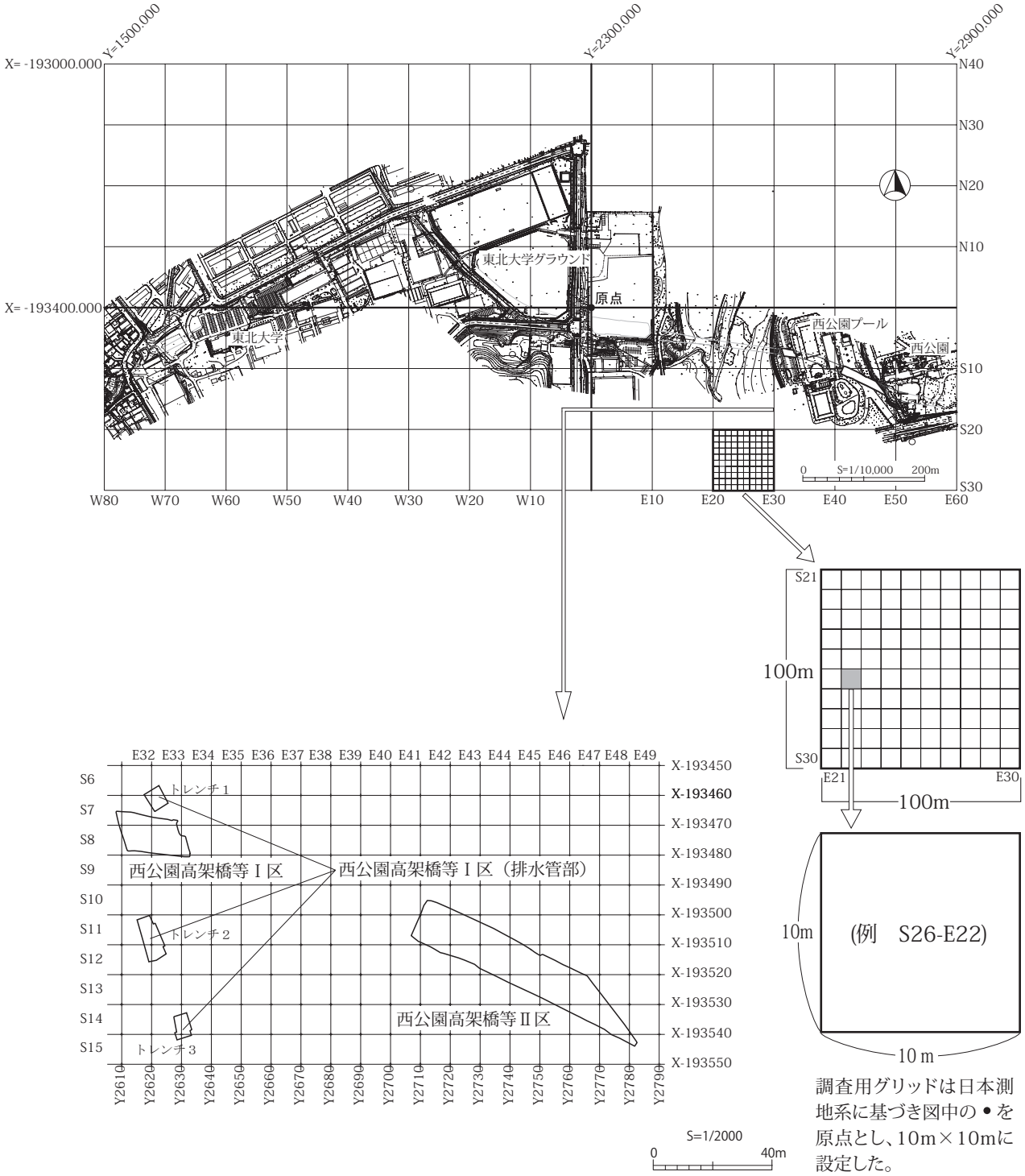
遺構平面図・断面図は、現場で計測・描画した図面データを Adobe 社製 Illustrator で編集・調整を行い作成した。また、遺構・遺物の図版、写真図版のレイアウト及び報告書の編集作業には Adobe 社製 Indesign を使用した。

3　遺構名称について

遺構番号は、遺構種別毎、検出順に 1 番から通し番号を付した。遺構の種類を表す略号は凡例に示したとおりである。平成 19 年度調査、平成 21 年度調査、平成 22 年度調査でそれぞれ個別に番号を付している。

第２節　調査区グリッドの設定

高速鉄道東西線計画路線に係わる青葉山地区、川内地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドが既に設定されており、今回の調査もそのグリッドに準拠して調査を実施した。日本測地系 :X=-193400m、Y=2300m の座標点を原点として、10m 単位の方眼を設定し、東西南北それぞれの方向へ E1・E2…、N1・N2…のように方位記号と番号を順に付した。S-N 方向の番号と E-W 方向の番号２つを組み合わせ、N1-W6 のようにグリッド名を設定した。



第６図　グリッド設定図

第４章　基本層序

確認された基本層序は西公園高架橋等Ⅱ区の結果からⅠ層からⅦ層の大別７層にわけられる。Ⅰ層およびⅡ層は近現代の盛土・整地層で、西公園高架橋等Ⅰ区で遺構を検出している。Ⅲ層からⅤ層は近世の盛土・整地層で、西公園高架橋等Ⅱ区および西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）で確認されている。西公園高架橋等Ⅱ区ではⅢ層において２面、Ⅳ層において２面の遺構面を検出し、Ⅴ層上面とあわせて５面の整地面を確認した。Ⅵ層およびⅦ層は自然堆積層で、Ⅶ層が下町段丘の河岸段丘堆積物であり、その上面にあるⅥ層は近世の整地前の旧表土と考えられる。Ⅵ層は西公園高架橋等Ⅱ区で部分的に確認され、Ⅴ層による整地前の掘り込みを検出した。西公園高架橋等Ⅰ区、西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）ではⅥ層は確認されなかった。Ⅶ層上面で確認した遺構も、本来はⅥ層上面から掘りこまれた遺構と思われる。以下、各地区の様相を記す。

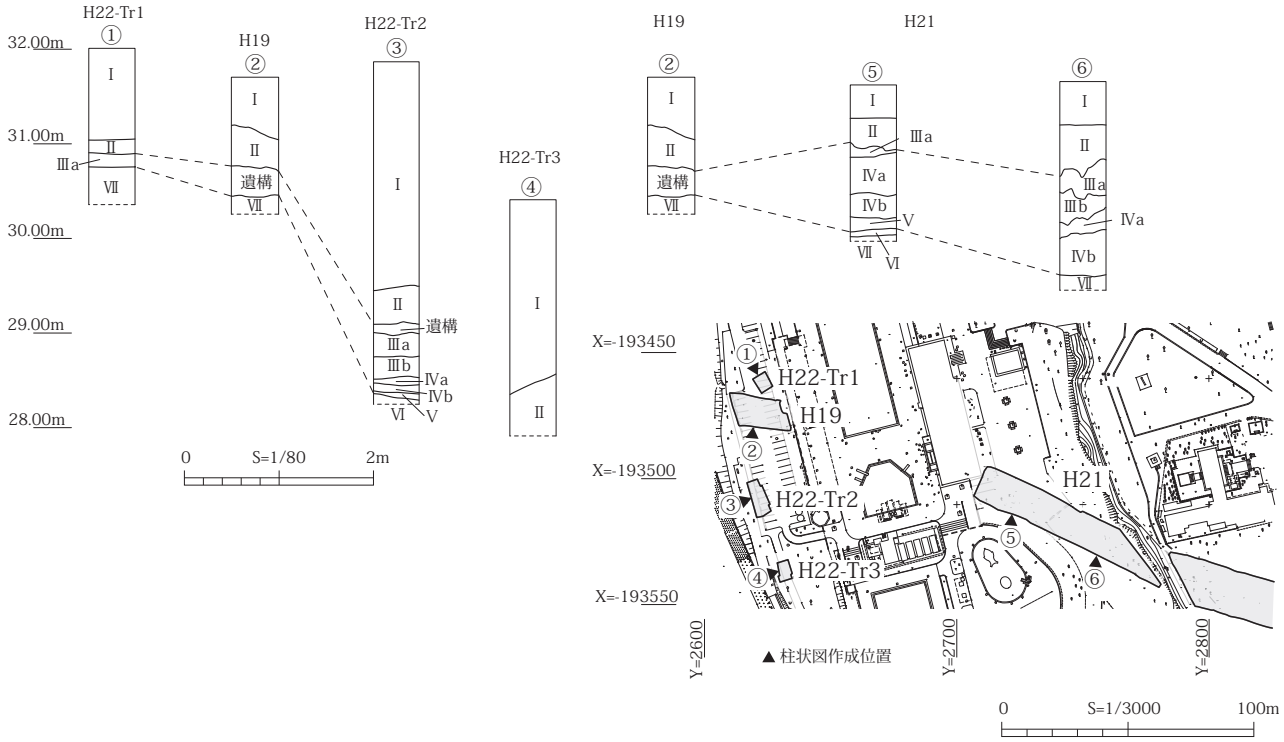
西公園高架橋等Ⅰ区においては、近世の整地土は大部分が近代以降の整地の際に削平されているものと思われ、Ⅰ層・Ⅱ層・Ⅶ層の３層が確認された。Ⅰ層は戦後におけるプール駐車場造成のための盛土層と考えられ、層厚は 70 ～ 130cm を測る。Ⅱ層は近代以降の盛土整地層と考えられ、層厚は 20 ～ 50cm を測る。近代遺構の建物跡・溝跡などの遺構はⅡ層上面で確認された。Ⅶ層は広瀬川河岸段丘堆積物のうちの黄褐色シルト層で、上面で近世の可能性のある遺構が検出されている。西公園高架橋等Ⅰ区でのⅦ層確認面の標高は 31m 前後である。

西公園高架橋等Ⅱ区においては、近世の整地層は良好な状態で遺存していた。遺構面はⅢａ層上面、Ⅲｂ層上面、Ⅳａ層上面、Ⅳｂ層上面、Ⅴ層上面、Ⅵ層・Ⅶ層上面の６面で確認された。Ⅲａ層は調査区の北西側でⅠ層・Ⅱ層に削平されているところがあるが、全体として均一に堆積しており、層厚は 40 ～ 50cm、調査区中央部のもっとも厚い箇所で 80cm を測る。Ⅲｂ層は層厚 20 ～ 30cm を測り、Ⅲａ層より薄く、ほぼ調査区全域でみとめられる。調査区中央部では約 70cm の厚さがある。

Ⅳａ層は層厚 15 ～ 50cm を測り、ほぼ調査区の全域で認められる。層の上面はゆるく南側に傾斜しており、約 50cm の比高差がある。Ⅳｂ層は層厚 50 ～ 70cm を測り、ほぼ調査区の全域で認められる。調査区北側では７層の細分層からなる版築状堆積がみられる。この版築状堆積は第５章で述べる SX40 の付近で確認できる。その南側は約 15cm の段がある。さらにゆるやかに南側に傾斜しており、段差部分から約 20cm の比高差がある。Ⅴ層は層厚 15 ～ 20cm を測り、ほぼ調査区の全域で認められる。層の上面はゆるく南側に傾斜しており、約 30cm の比高差がある。

西公園高架橋等Ⅱ区では、調査区の壁面において遺構や地面の窪みに別の整地土を埋めたような部分もみられた。調査区内ではこれらの平面プランを確実に把握出来なかったことから、基本土層とは別に①～㉑の番号を付けている。調査区南東部の南壁（第 10 図：C 断面図）では落ち込み状の①～④がある。①～③はピット状をなし、④は整地からの窪み状をなす。調査区中央部南壁（第 10 図：D 断面図）において、⑤はⅣａ層から、⑥はⅤ層から土坑状の窪みをなす。調査区北部の西壁（第 10 図：F 断面図）においても土坑状の窪みをなす⑦がみられた。調査区東西ベルト北壁（第 11 図:G 断面図）では、⑧は土坑状をなし、⑨の窪みはⅣａ層整地に伴うものかもしれない。東西ベルト南壁（第 11 図：H 断面図）ではⅣａ層から壁状の線をなす⑩があり、直下にはⅣｂ層から切る SK41 もある。同じような位置で土坑がつくられた可能性がある。調査区南北ベルト東壁（第 11 図：I 断面図）では、⑪～⑬の土坑状の落ち込みがみられる。また、⑭～⑰の層では、⑮の堆積土にブロック状の崩落したような痕跡が見られ、⑮～⑰は広く窪んだような土層を示していて、複数の大型土坑などが埋められた可能性もあろう。Ⅴ層上面で検出された土坑群（p55　第 50 図参照）など、不整形を呈する土坑が多く見られる位置でもある。南北ベルト西壁（第 11 図：J 断面図）では、ピット状の⑱、土坑状の⑲、㉑、整地に伴うと思われる⑳が見られる。

西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）は３箇所のトレンチによる調査を行った。トレンチ１ではⅡ層上面とⅢａ層上



第７図　土層柱状図

西公園高架橋等Ⅱ区基本層序土層注記

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
Ⅰ	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	瓦礫多量　黄褐色土粒少量　暗褐色シルトとの混合土
Ⅱ	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	あり	黄褐色土粒・径５～10cm 以下の礫多量
Ⅲ a1	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 3cm 以下の礫少量
Ⅲ a2	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	あり	ややあり	黄褐色土粒・径５～10cm 以下の礫多量
Ⅲ a3	7.5YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5cm 以下の礫少量
Ⅲ a4	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	あり	ややあり	径 1cm 以下の酸化鉄　炭化物粒少量
Ⅲ b1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	砂やや多量
Ⅲ b2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物粒・焼土粒少量　径１～3cm の礫少量
Ⅲ b3	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	ややあり	褐色シルト粒　酸化鉄　白色粒子少量
Ⅲ b4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	褐色シルト粒　酸化鉄　白色粒子少量
Ⅲ b5	7.5YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	にぶい黄褐色ブロックやや多量　酸化鉄　炭化物粒少量
Ⅲ b6	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	
Ⅲ b7	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	ややあり	
Ⅲ b8	7.5YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	炭化物粒・焼土粒少量　径１～3cm の礫少量
Ⅲ b9	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	炭化物粒・焼土粒少量　径１～3cm の礫少量
Ⅳ a1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	
Ⅳ a2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	
Ⅳ a3	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	あり	あり	
Ⅳ a4	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物粒・焼土粒少量　径１～3cm の礫少量
Ⅳ a5	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	
Ⅳ a6	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土質シルト	あり	あり	不純物少なく均質な整地層
Ⅳ a7	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	
Ⅳ a8	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	あり	
Ⅳ a9	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	
Ⅳ b1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物粒・焼土粒少量　径１～3cm の礫少量
Ⅳ b2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	
Ⅳ b3	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト質粘土	あり	あり	
Ⅳ b4	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	
Ⅳ b5	5Y6/3	オリーブ褐色	シルト質砂	なし	あり	径 5cm 以下の礫少量
Ⅳ b6	7.5YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	
Ⅳ b7	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	
Ⅴ 1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト質砂	あり	あり	径 5cm 以下の礫少量
Ⅴ 2	7.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	
Ⅴ 3	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	径 5cm 以下の礫少量
Ⅴ 4	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	
Ⅵ	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然体積層（近世以前の旧表土）
Ⅶ	10YR5/6	黄褐色	シルト質粘土	あり	あり	自然堆積層（段丘礫層）

第２表　調査区基本土層注記表（１）

面で遺構を検出している。その下はⅦ層自然堆積層となる。トレンチ２では、Ⅲａ層上面で遺構を検出している。その下はⅣ層の整地層が大別２層、細別５層確認された。トレンチ３は全面削平されており、遺構・整地層は確認できてない。西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）のトレンチ２で確認された近世の整地層は、西公園高架橋等Ⅰ区・西公園高架橋等Ⅱ区に比べて約 2m 近く低い箇所で確認されている（第７図）。

西公園高架橋等Ⅱ区①～⑯土層注記

	層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
①	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	径 3cm 以下の礫少量
②	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 3cm 以下の礫少量　径１～ 3cm 黄褐色シルトブロック多量
③	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	あり	径 3cm 以下の礫少量
④	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄褐色シルト粒・径 1cm 程度の礫微量
⑤	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 3cm 以下の礫少量
⑥	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1cm 以下の酸化鉄　炭化物粒少量
⑦	1	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径１～ 2cm の炭化物ブロック　径 1cm 以下の礫少量
⑧	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄褐色シルト粒・径 1cm 程度の礫微量
	2	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径１～ 2cm の炭化物ブロック少量
	3	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	白色粒子少量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	白色粒子少量　径 1cm 以下の礫微量
⑨	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	あり	炭化物粒微量
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	あり	炭化物粒微量
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり	黄褐色シルトブロック多量
⑩	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 10cm 以下の礫多量　炭化物粒少量
⑪	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒微量
⑫	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	焼土粒多量　径 1cm 以下の礫少量
⑬	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	あり	径３～ 5cm の褐灰色シルトブロック多量
⑭	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	なし	径１～ 3cm の礫少量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄褐色シルトブロック　径 1cm 以下の礫微量
⑮	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径１～ 3cm の礫少量
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	黄灰色砂質シルトブロック多量　細礫少量
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径１～ 3cm の礫少量
	4	2.5Y5/4	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄灰色砂質シルトブロック多量
	5	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径１～ 3cm の礫少量
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1cm 以下の礫多量
	7	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト質粘土	あり	ややあり	
⑯	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	砂やや多量
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径１～ 3cm の礫少量
	3	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5cm 以下の礫多量
	4	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径５～ 10cm の礫少量
	5	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	灰黄色砂を層状に多量　径 5cm 以下の礫多量
⑰	1	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	炭化物粒微量　径 1cm 以下の礫少量
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	炭化物粒・径 1cm 以下の礫少量
	3	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径 10cm 以下の礫多量
⑱	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1cm 以下の酸化鉄　炭化物粒少量
⑲	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり	白色粒子少量　径 1cm 以下の礫微量
⑳	1	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	炭化物粒微量　径 1cm 以下の礫少量
㉑	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	なし	径１～ 3cm の礫少量

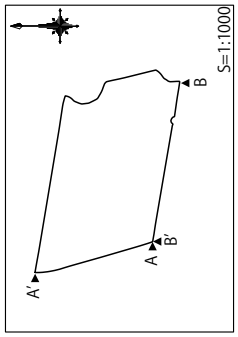
西公園高架橋等Ⅰ区基本層序土層注記

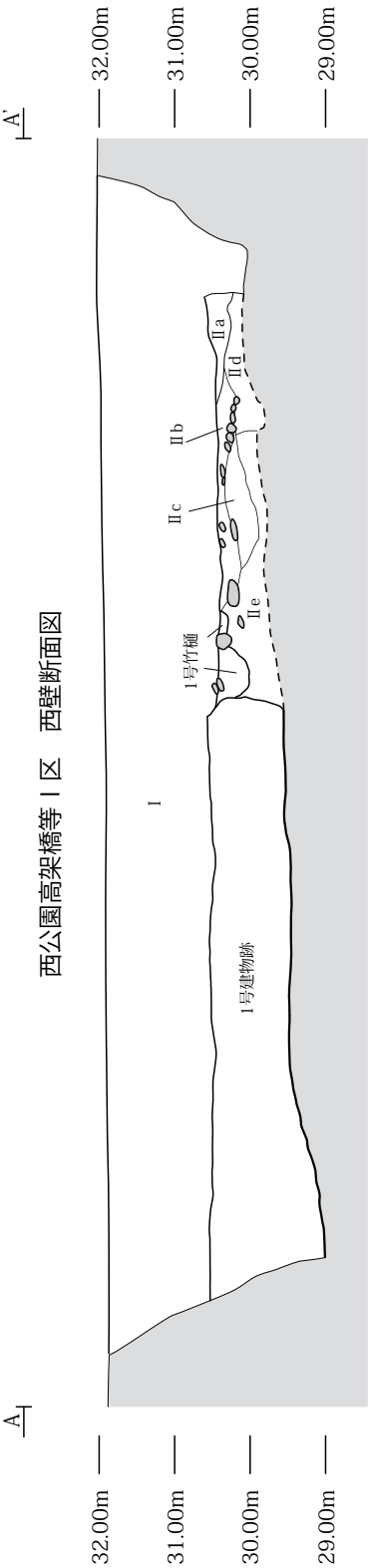
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
Ⅰ	10YR2/2	黒褐色	シルト質砂	なし	なし	瓦礫多量　黄褐色土粒少量　暗褐色シルトとの混合土
Ⅱａ	10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	あり	あり	黄褐色土粒・径５～ 10cm 以下の礫多量
Ⅱｂ	10YR6/8	明黄褐色	シルト	なし	あり	炭化物粒・焼土粒少量。径１～ 3cm の礫多量
Ⅱｃ	10YR4/4	褐色	シルト	なし	あり	炭化物粒・焼土粒・径１～ 3cm の礫少量
Ⅱｄ	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	
Ⅱｅ	10YR4/4	褐色	シルト	なし	あり	
Ⅱｄ	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	
Ⅵ	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂礫	なし	ややあり	自然堆積層（段丘礫層）粗砂と１～ 3cm 程度の礫からなる

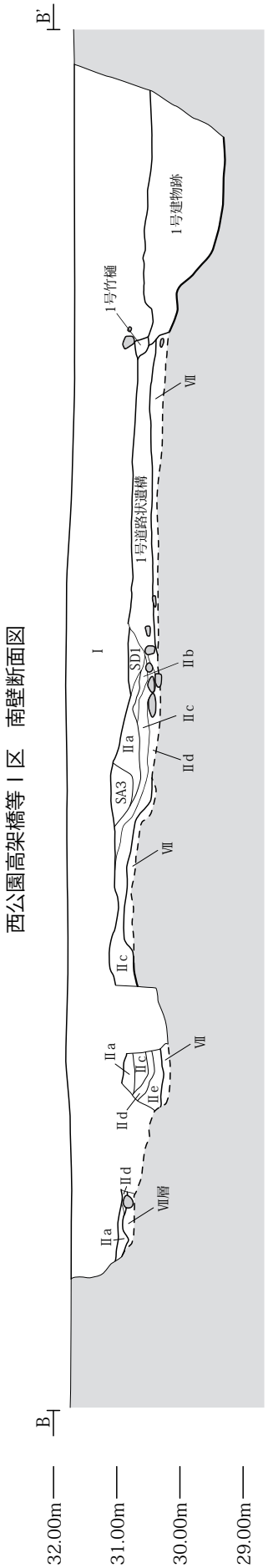
西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）基本層序土層注記

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
Ⅰ	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	瓦礫多量。黄褐色土粒少量　暗褐色シルトとの混合土
Ⅱ	10YR5/6	黄褐色	砂	あり	あり	炭化物少量　礫少量
Ⅲａ	10YR4/1	褐灰色	粘土	なし	あり	径３～５cm の礫少量　径１～３mm の炭化物粒子微量　砂質シルトブロック少量
Ⅳａ1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	炭化物中量　径５～ 10cm 前後の円礫少量
Ⅳａ2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	炭化物少量　径５cm 前後の円礫少量
Ⅳａ3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	炭化物少量　黄褐色土ブロック微量、径５cm 前後の円礫少量
Ⅳａ4	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	下層に 5Y7/2 灰白色粘土質シルト層が約１cm 推積　10YR4/1 褐灰色粘土質シルトの混合土
Ⅳｂ	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	あり	10YR6/8 明黄褐色ブロック　赤褐色鉄分　径２～３cm の砂礫多量
Ⅶ	2.5Y5/3	黄褐色	砂	なし	あり	自然堆積層

第３表　調査区基本土層注記表（２）

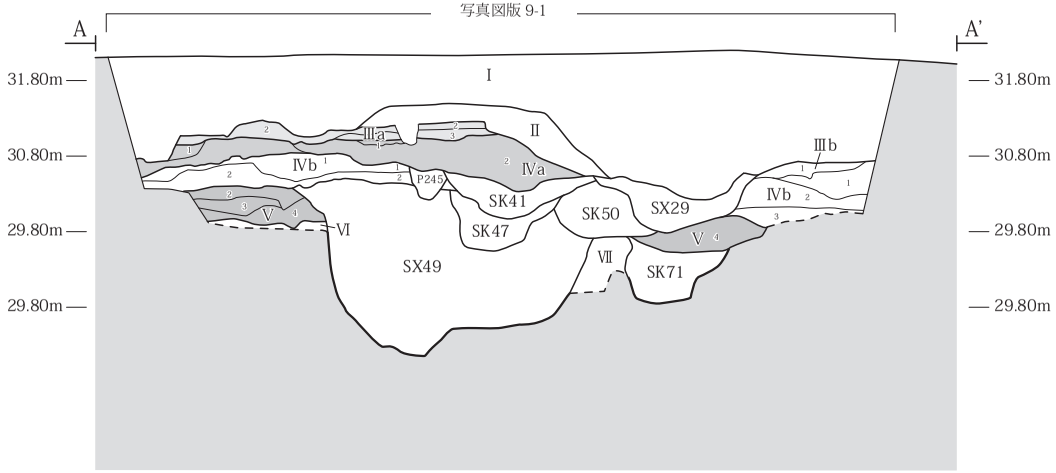


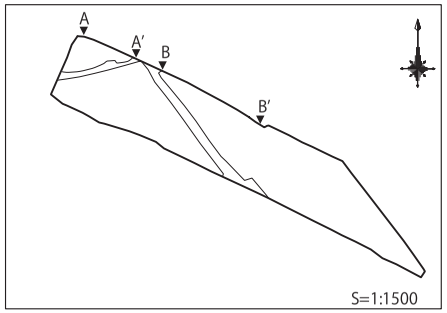




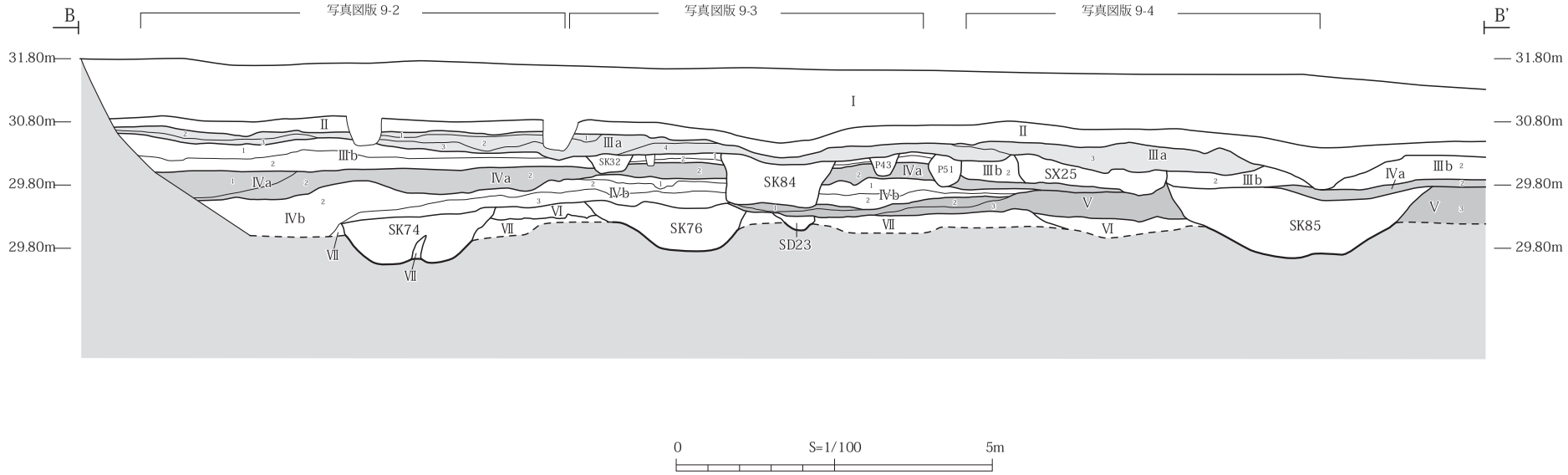
第８図　西公園高架橋等Ⅰ区　壁面土層図

西公園高架橋等Ⅱ区　北壁（A）断面図



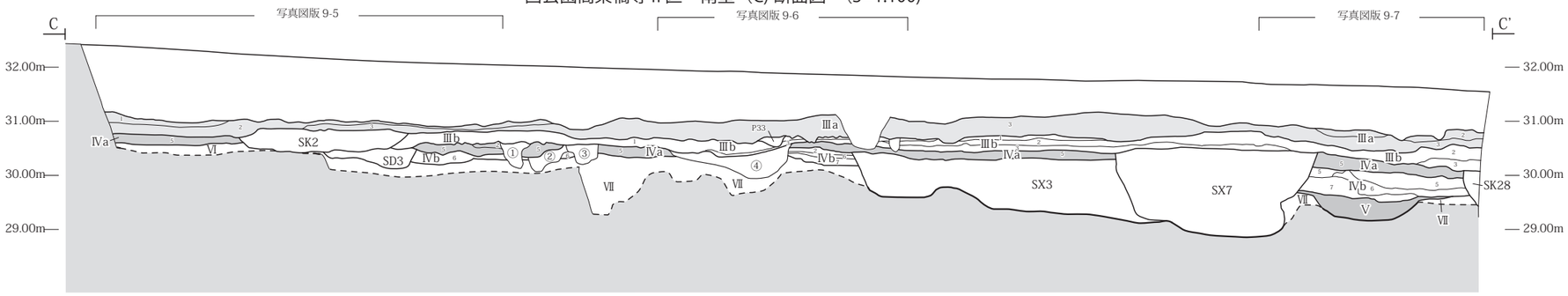


西公園高架橋等Ⅱ区　北壁（B）断面図

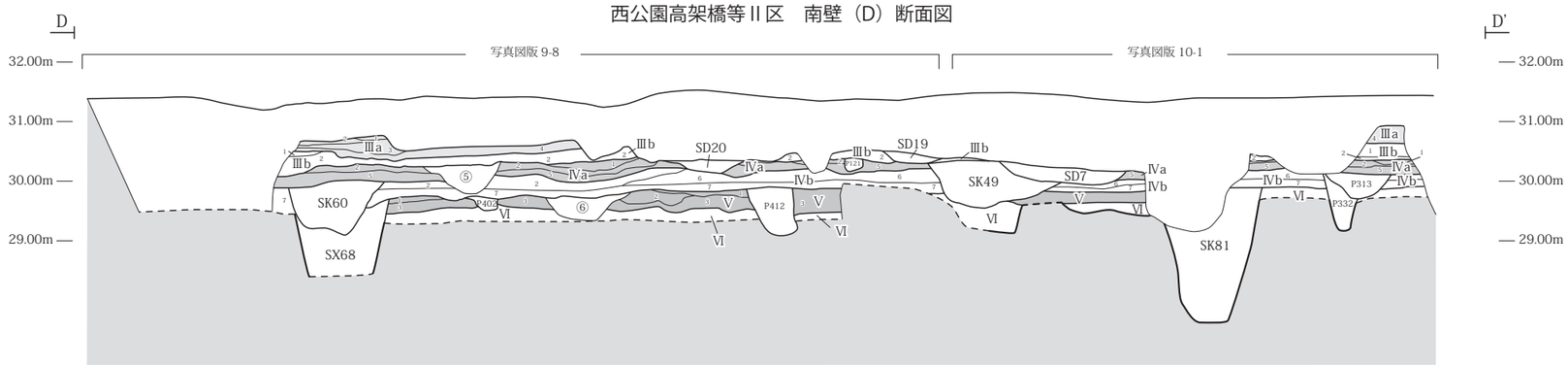


第９図　西公園高架橋等Ⅱ区　壁面土層図（１）

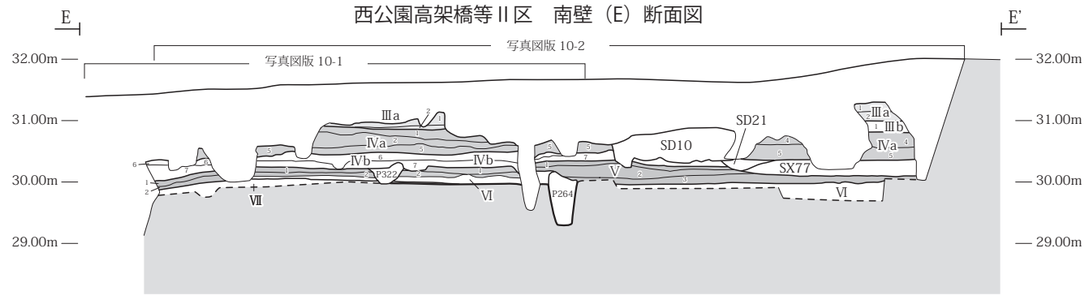
西公園高架橋等Ⅱ区　南壁（C) 断面図　（S=1:100)

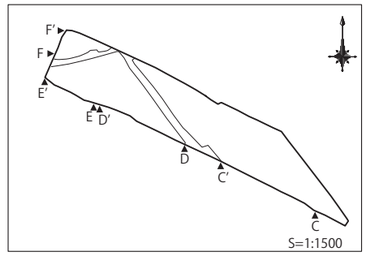


西公園高架橋等Ⅱ区　南壁（D）断面図

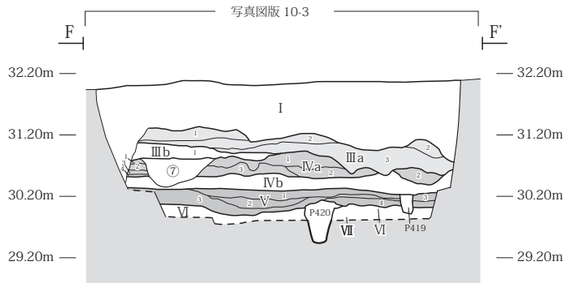


西公園高架橋等Ⅱ区　南壁（E）断面図





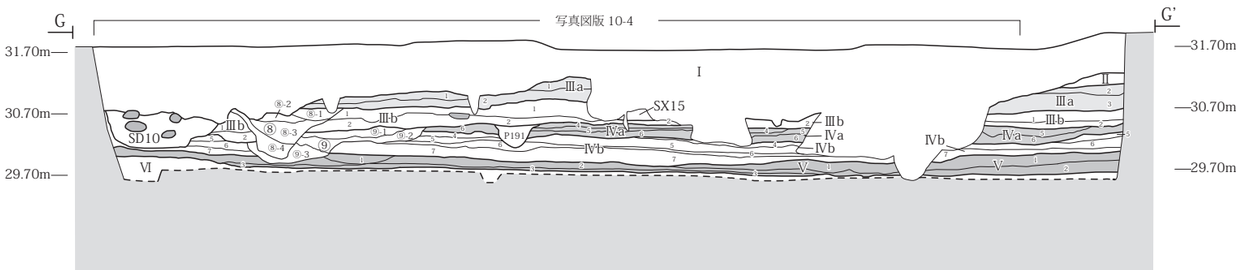
西公園高架橋等Ⅱ区　北西壁 (F) 断面図

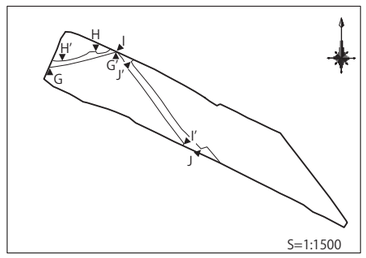


0　S=1/100　5m

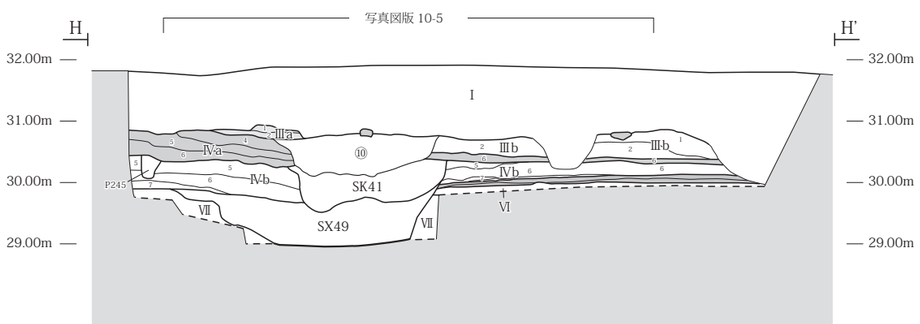
第 10 図　西公園高架橋等Ⅱ区　壁面土層図（2）

西公園高架橋等Ⅱ区　東西ベルト（G）断面図

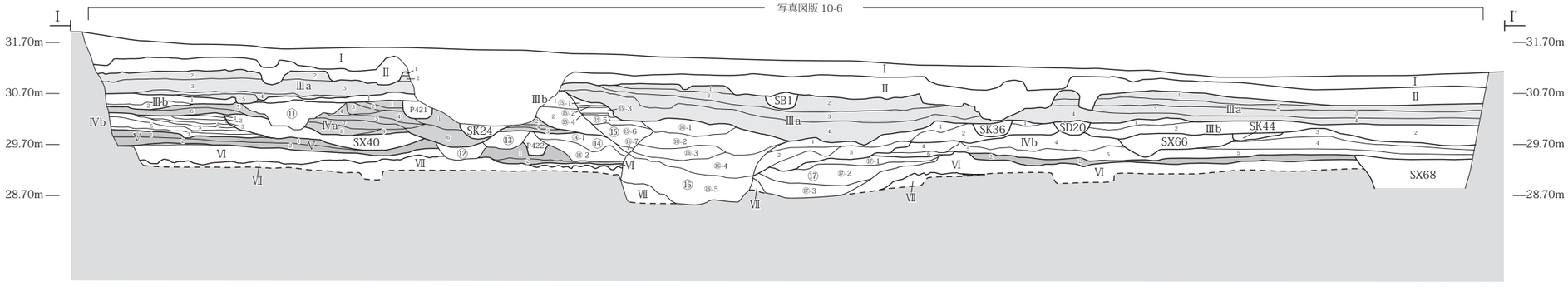




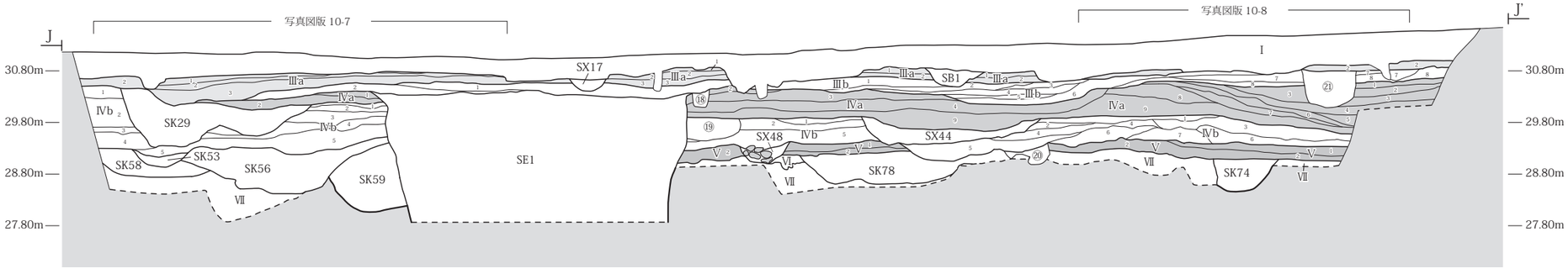
西公園高架橋等Ⅱ区　東西ベルト（H）断面図



西公園高架橋等Ⅱ区　南北ベルト（I）断面図



西公園高架橋等Ⅱ区　南北ベルト（J）断面図



0　S=1/100　5m

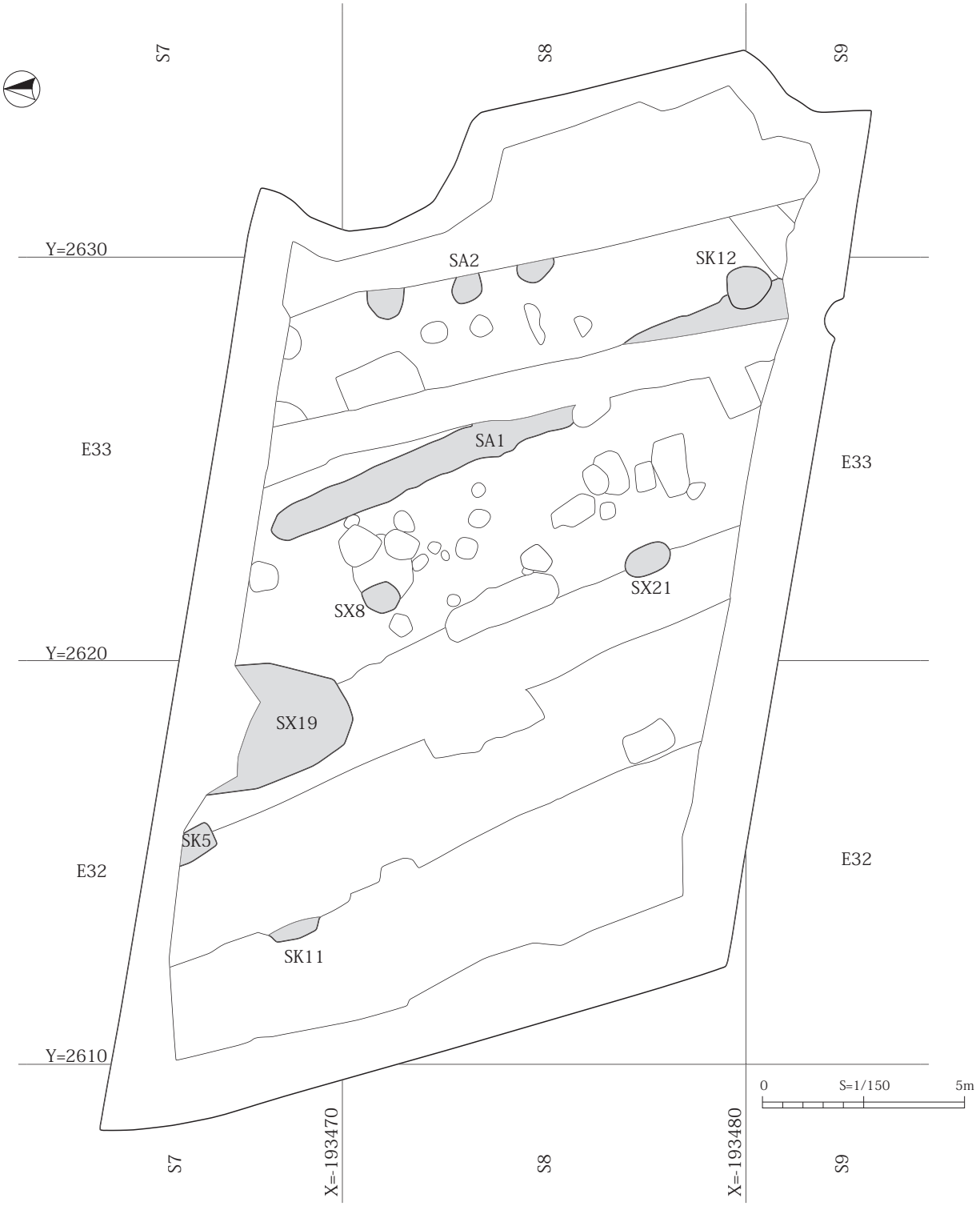
第 11 図　西公園高架橋等Ⅱ区　壁面土層図（3）

第 5 章　検出遺構と遺物

第 1 節　西公園高架橋等Ⅰ区

1　Ⅶ層上面検出遺構

Ⅶ層上面で検出された遺構は、柱列跡 2 列、土坑 6 基である。直上には近代の盛土整地層であるⅡ層が分布する。出土した遺物の年代から近世の遺構面と考えられる。



第 12 図　Ⅶ層上面遺構配置図

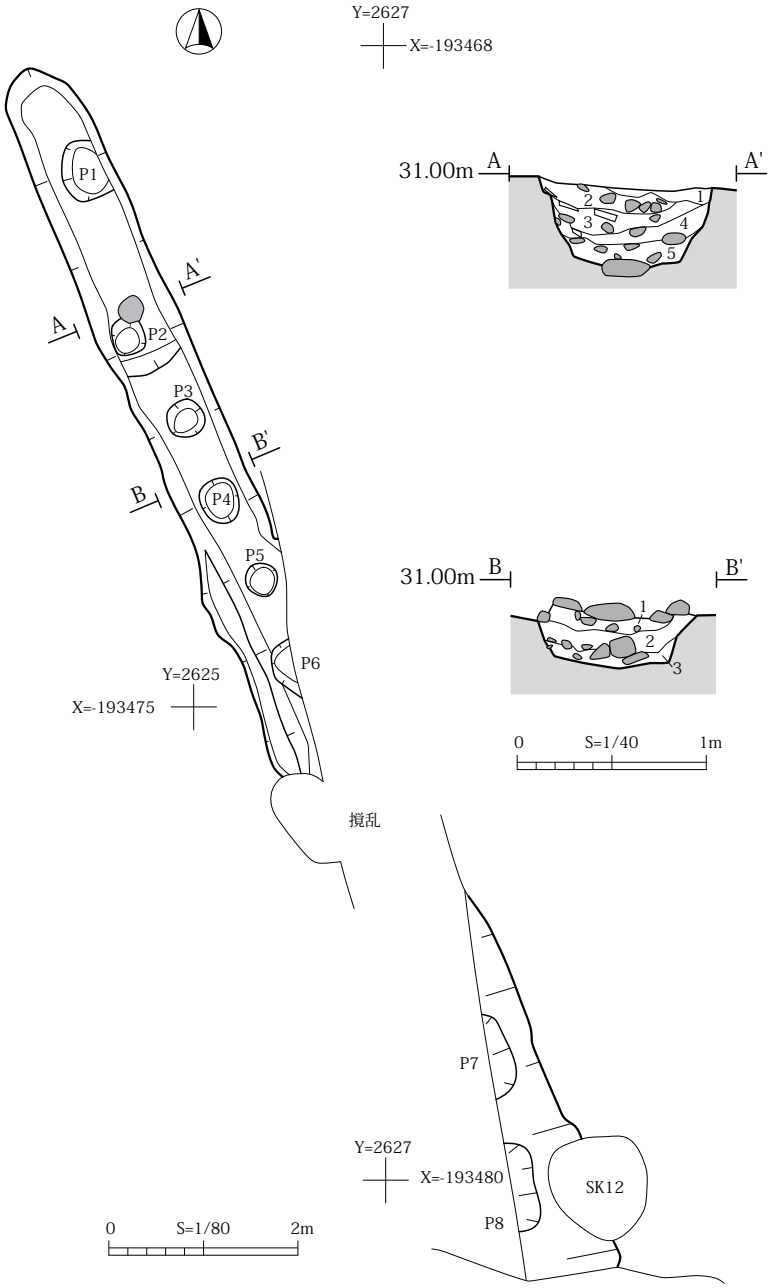
1）SA1 柱列跡　（第 13 ～ 14 図、図版 2-3 ～ 2-5、3-1）

S6-E33 グリッドに位置する。北西から南東方向に直線的に延びる布掘り状の溝の底面に 8 基の柱穴が並ぶ。主軸方位は N-25°-W を示す。残存範囲の中央部を撹乱に削平され、南東端で SK12 と重複し、SK12 より古い。南東側は調査区外へ延びる。P1 ～ P8 において柱痕は確認されなかったが、P2 の北側で根石と思われる平石が検出されている。

残存する溝の規模は、長さ約 13.97m、上端幅約 83cm、下端幅約 65cm、深さ約 26 ～ 42cm を測る。柱間の寸法は、91cm（P1 ～ P2 間 ）・54cm（P2 ～ P3 間 ）・46cm（P3 ～ P4 間）・47cm（P4 ～ P5 間）・46cm（P5 ～ P6 間）であり、P3 から P6 の間で 1 尺 5 寸（45.9cm）である他は間隔にばらつきがある。また、P7 と P8 については立ち上がり部分の検出にとどまり、柱間寸法は判然としない。

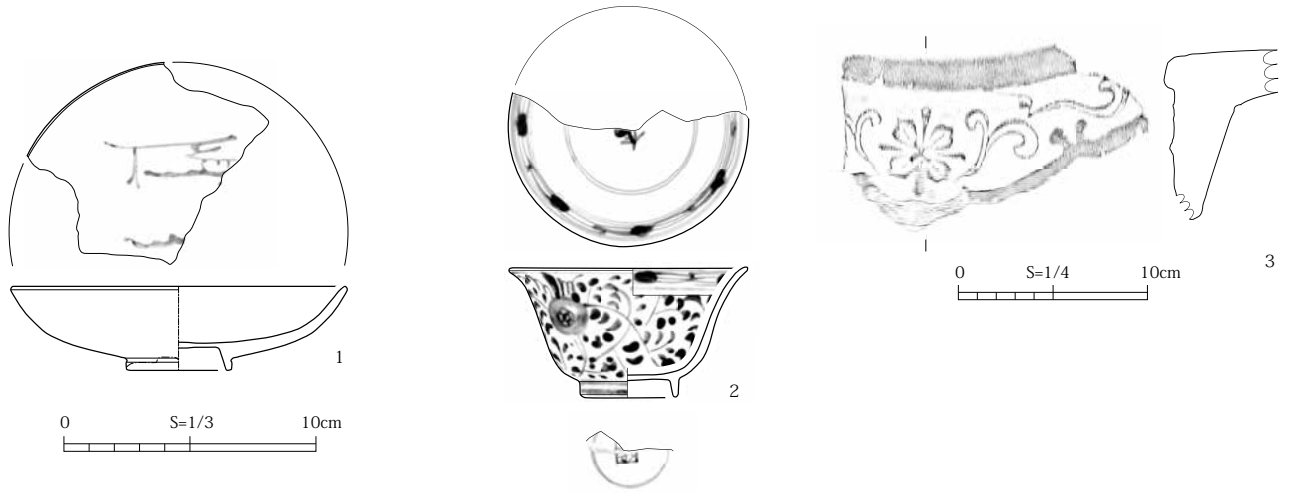
溝の断面形は逆台形を呈し、底面はやや起伏する。堆積土は 5 層からなり、1 層から 3 層、 5 層は砂質シルト、 4 層はシルトである。ピットの規模は長軸約 35 ～ 64cm、短軸約 34 ～ 46cm、深さ約 8 ～ 14cm を測る。ピットの断面形は P1 ～ P5 は逆台形を呈し、底面は平坦である。P6 ～ P8 は残存状態が悪く、判然としない。

遺物は 18 世紀後半から 19 世紀代の陶器（小野相馬・大堀相馬等）、19 世紀中頃以前の磁器（肥前・瀬戸美濃等）、瓦、瓦質土器、土師質土器が出土している。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5cm 以下の礫多量
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5cm 以下の礫少量
4	10YR3/4	暗褐色	シルト	なし	ややあり	にぶい黄褐色砂質シルト・灰黄褐色砂質シルトブロック　炭化物・焼土少量
5	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1cm 以下の礫多量

第 13 図　SA1 柱列跡平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	42-1	2 層	陶器	皿	口縁～底部	密	3.4	(13.4)	3.9	大堀相馬	19 世紀前半	鉄絵	I-4
2	42-2	2 層	磁器	端反碗	口縁～底部	密	5.2	(9.5)	(3.6)	瀬戸・美濃	19 世紀前半	花唐草文。	J-1

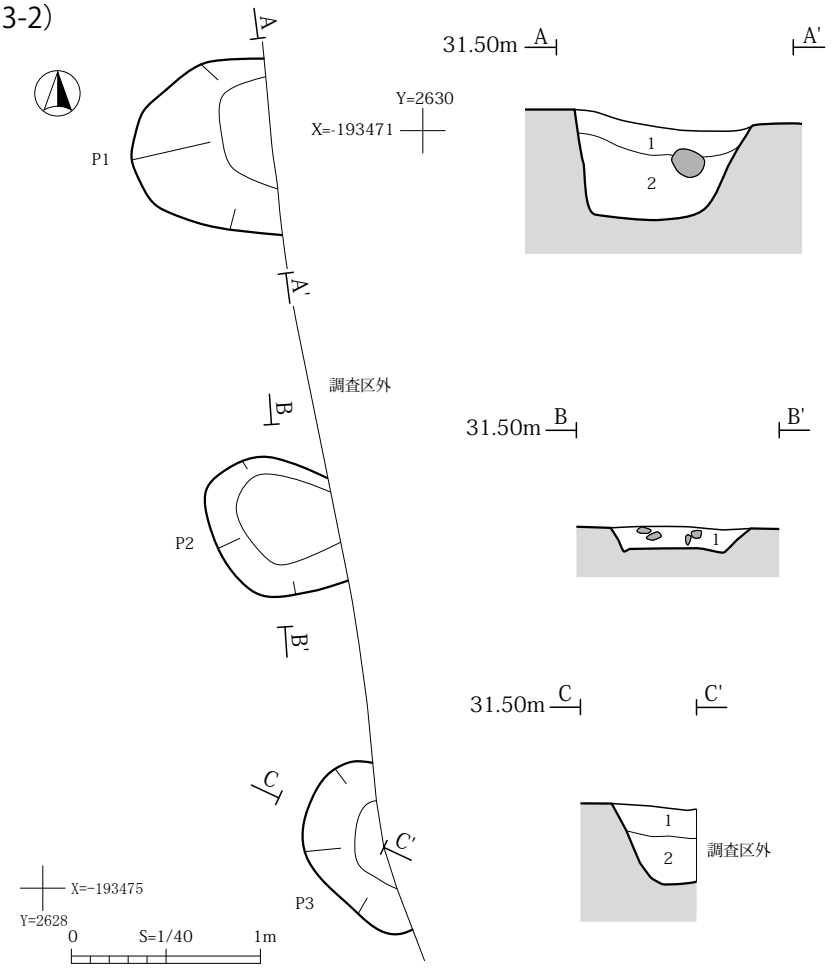
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
3	42-3	3 層	軒平瓦	6.0	15.9	2.8	滴水瓦　瓦当高 8.6　周縁高 1.9　花唐草文	G-1

第 14 図　SA1 柱列跡出土遺物

2）SA2 柱列跡　（第 15 図、図版 3-2）

S6-E33 グリッドに位置する。北西から南東方向に延びる柱列跡である。残存する規模は、総長 473cm を測り、柱間の寸法は 180 ～ 212cm(5 尺 9 寸～ 7 尺)、主軸方位は N-13° -W を示す。東は調査区外へ延びる。P1 ～ P3 において柱痕は確認されなかった。掘り方の規模は、長軸が 75 ～ 96cm、短軸 51 ～ 89cm、深さ 13 ～ 54cm を測る。柱穴の平面形は不整円形で、断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。柱穴の堆積土はおおむね砂質シルトである。1 層は酸化鉄を多く含む。

遺物は P1 から 19 世紀中頃の陶磁器片、瓦片、土師質土器片、鉄釘等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。P2、P3 からは遺物は出土していない。



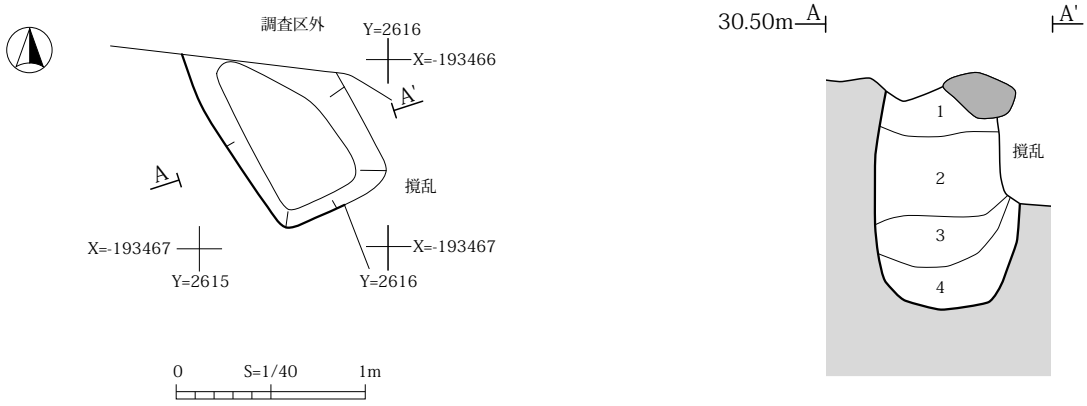
第 15 図　SA2 柱列跡平面図・断面図

SA2　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄分多量
2	10YR6/3	にぶい黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	

3）SK5 土坑　（第 16 図、図版 3-3 ～ 3-4）

S7-E32 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 98cm、短軸 70cm、深さ 123cm を測る。平面形は隅丸長方形で、断面形は U 字形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 4 層からなり、1 層から 3 層は砂質シルト、4 層はシルトである。遺物は 18 世紀代の瀬戸美濃鉄釉皿、肥前磁器片、瓦片、鉄釘等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

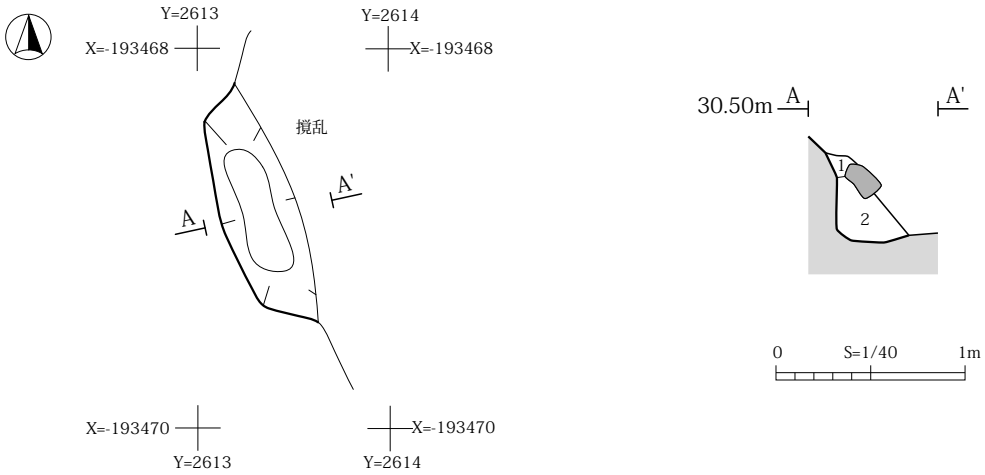


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5cm 以下の礫少量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 15cm 以下の礫少量
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5cm 以下の礫
4	10YR3/4	暗褐色	シルト	なし	ややあり	にぶい黄褐色砂質シルト・灰黄褐色砂質シルトブロック　炭化物・焼土少量

第 16 図　SK5 土坑平面図・断面図

4）SK11 土坑　（第 17 図、図版 3-5）

S7-E32 グリッドに位置する。東側を撹乱に削平されている。残存する規模は、長軸 128cm、短軸 41cm、深さ 48cm を測る。平面形は不整長楕円で、断面形は U 字形を呈すと思われる。底面は平坦である。堆積土は 2 層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は出土していない。

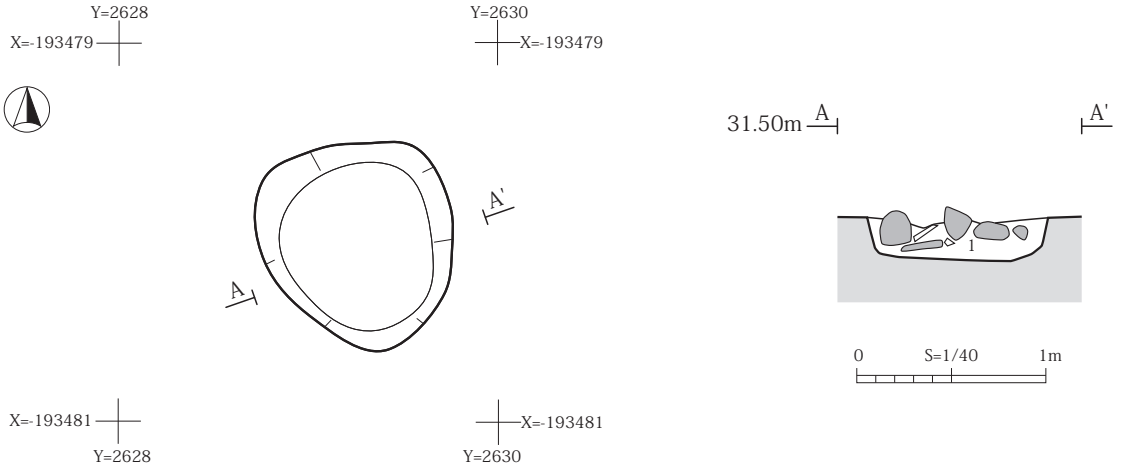


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	にぶい黄褐色シルトブロック多量

第 17 図　SK11 土坑平面図・断面図

5）SK12 土坑　（第 18 図、図版 3-6）

S9-E33 グリッドに位置する。SA1 と重複し、SA1 より新しい。残存する規模は、長軸 114cm、短軸 100cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整円形で、断面形は浅い逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土は灰黄褐色シルトの単層で、礫を多く含む。遺物は瓦片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

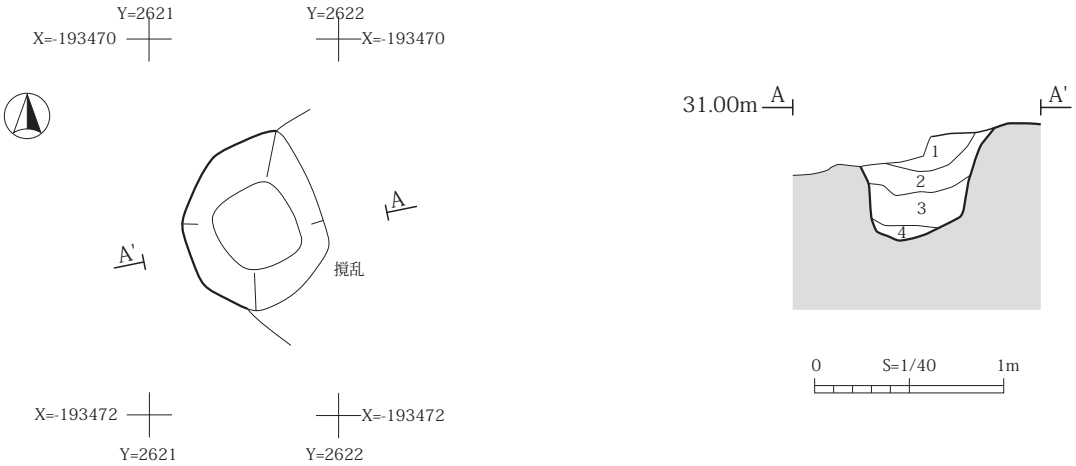


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径 20cm 以下の礫多量　径 5mm 以下の炭化物少量

第 18 図　SK12 土坑平面図・断面図

6）SX8 性格不明遺構　（第 19 図、図版 3-7 ～ 3-8）

S6-E33 グリッドに位置する。東側を撹乱に削平されている。残存する規模は、長軸 83cm、短軸 74cm、深さ 62cm を測る。平面形は不整円形で、断面形は U 字形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 4 層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は 16 世紀末～ 17 世紀初頭の美濃・志野皿の細片ほか、18 ～ 19 世紀代の陶磁器片、瓦片、鉄釘が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



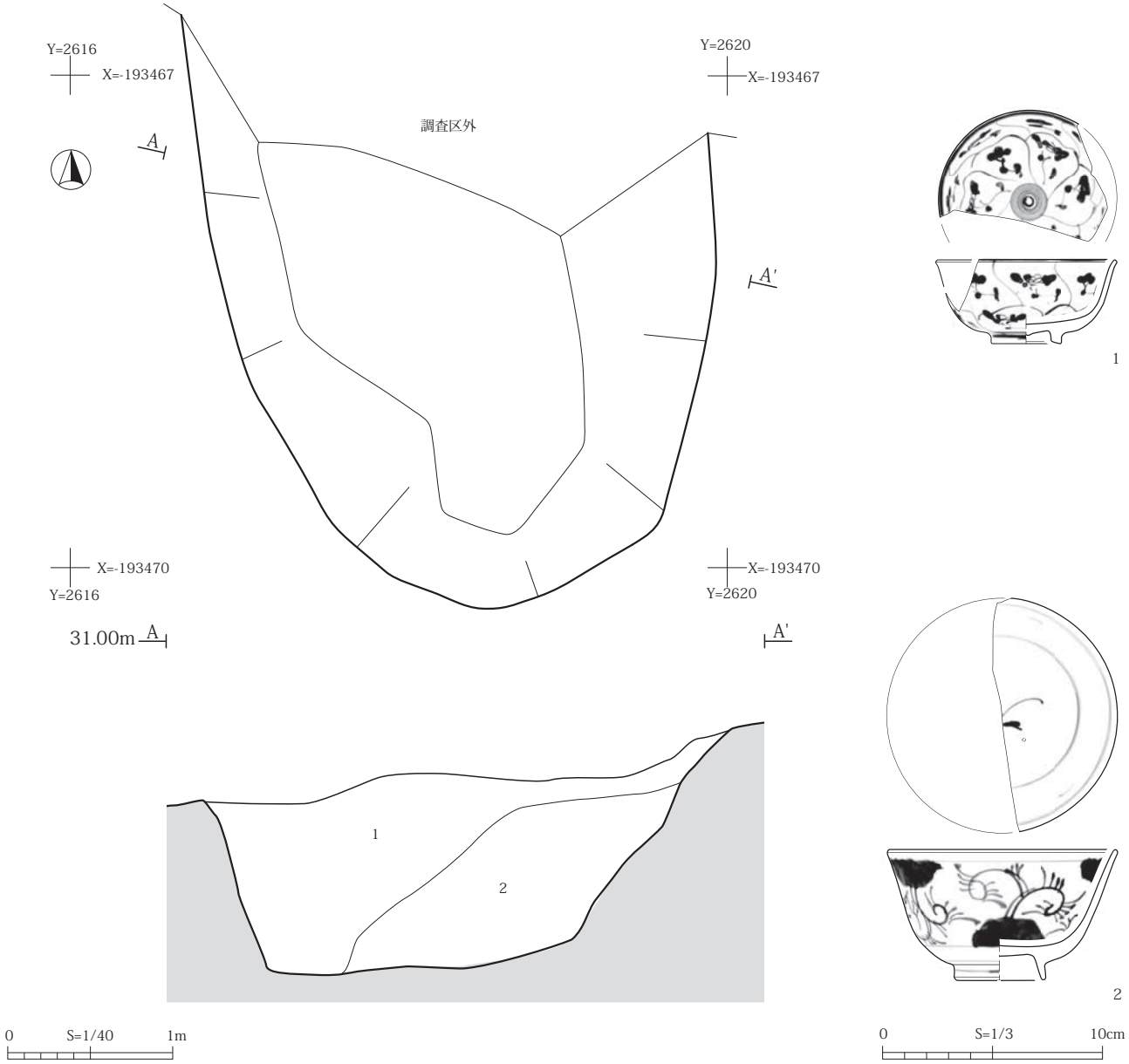
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黒褐色シルト粒・黄橙色シルト粒　炭化物粒微量
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	炭化物粒・中～小礫微量
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	褐灰色シルトブロック　中・小礫多量
4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄橙色粒　炭化物微量

第 19 図　SX8 性格不明遺構平面図・断面図

7）SX19 性格不明遺構　（第 20 図、図版 4-1）

S7-E32 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 340cm、短軸 297cm、深さ 153cm を測る。平面形は不整楕円形で、断面形は不整な逆台形を呈す。底面は起伏している。堆積土は 2 層からなり、1 層は砂質シルト、2 層はシルト質砂である。

遺物は 18 世紀代の肥前磁器片、19 世紀代の瀬戸美濃磁器片などの磁器、19 世紀中頃の堤産焙烙片、大堀相馬産土瓶片、18 世紀代の大堀相馬産掛分碗片などの陶器、土師質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、2 層から出土した瀬戸美濃磁器の碗 1 点、切込磁器の碗 1 点を図示した。



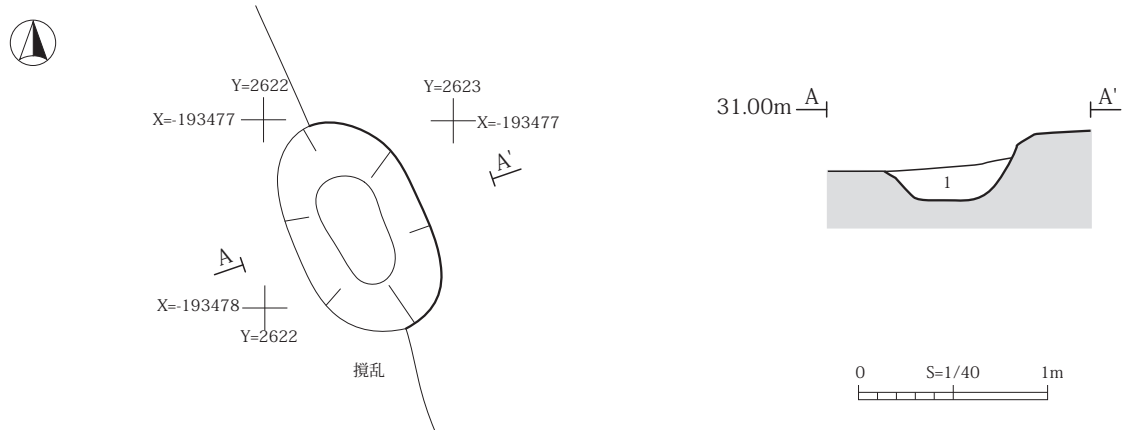
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黄橙色大ブロック（10YR7/8）　黄褐色小ブロック（10YR5/6）
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	なし	炭化物粒微量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	42-4	2 層	磁器	碗	口縁～底部	密	3.9	(8.3)	3.1	瀬戸・美濃	19 世紀前半	霊芝文	J-11
2	42-5	2 層	磁器	碗	口縁～底部	密	6.0	(10.5)	4.0	切込	19 世紀	草花文　見込み：圏線、虫文	J-12

第 20 図　SX19 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

8）SX21 性格不明遺構　（第 21 図、図版 4-2）

S6-E33 グリッドに位置する。西側を上層遺構の SD1 に削平される。残存する規模は、長軸 120cm、短軸 69cm、深さ 38cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は浅い逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は灰黄褐色シルト質砂の単層である。遺物は出土していない。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	にぶい黄橙色小ブロック（10YR5/3）

第 21 図　SX21 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

（2）Ⅱ層上面検出遺構

Ⅱ層上面で検出された遺構は、柱列跡 2 列、溝 1 条、建物跡 1 棟、土坑 4 基、性格不明遺構 3 基、道路状遺構 1 条、竹樋 1 条である。Ⅱ層から出土した遺物の年代から近代から現代の遺構面と考えられる。

1）SA3 石列　（第 23 ～ 24 図、図版 4-3 ～ 4-4）

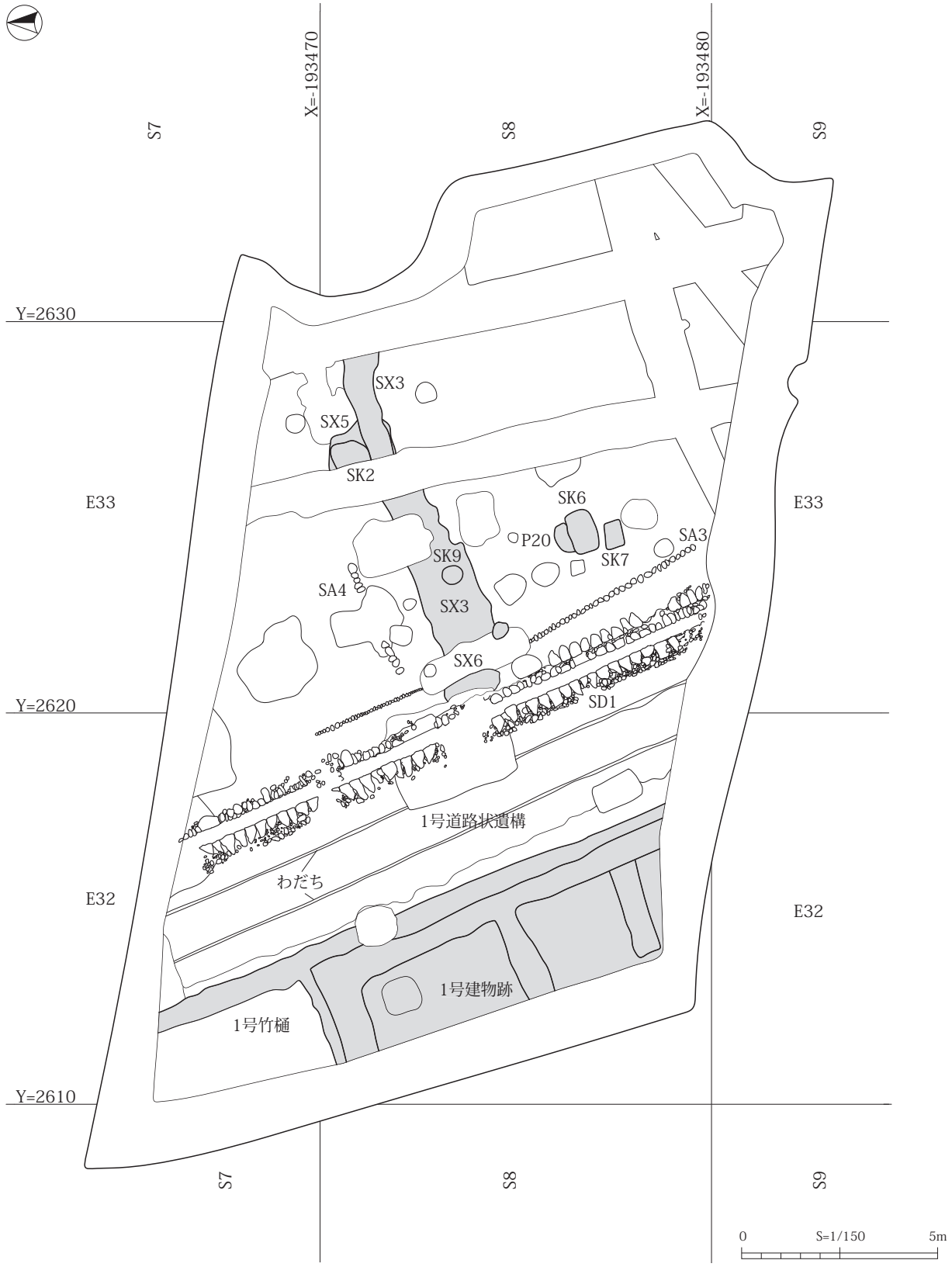
S8-E33 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる、石列跡である。残存範囲中央を撹乱に削平される。残存する規模は、長さ約 11m、掘り方上端幅 38cm、掘り方下端幅 21cm、深さ 17cm を測り、主軸方位は N-27°-W を示す。断面形は U 字形を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は掘り方から近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

2）SA4 石列　（第 23 ～ 24 図、図版 5-1）

S8-E33 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に延びる、石列跡である。残存範囲中央を撹乱に削平される。残存する規模は、長さ 310cm、掘り方上端 33cm、掘り方下端 26cm、深さ 9 ｃｍを測り、主軸方位は N-66°-E を示す。断面形は浅い皿型を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

3）SD1 石組溝　（第 23 ～ 25 図、図版 4-3 ～ 4-4）

S8-E33 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に走る石組溝跡である。北側および南側は調査区外へ延びる。側面には長さ 32 ～ 55cm、幅 25 ～ 35cm、厚さ 20 ～ 25cm の間知石が使われ、1 段分積まれている。残存する規模は、総長約 15m、石組内溝幅 31cm、掘り方上端 1.6m、掘り方下端 90cm、深さ 40cm を測り、主軸方位は N-25°-W を示す。掘り方の断面形は U 字形を呈す。底面形はほぼ平坦である。堆積土は 2 層からなり、1 層は石組溝内の堆積土で粘質シルト、2 層は裏込めの埋土で砂質シルトである。溝内の堆積土は、遺物は各層から陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘、土製品等が出土しているが、近現代の製品が主体を占める。そのうち、肥前磁器のみじん唐草文蓋 1 点を図示した。



第 22 図　II 層上面遺構配置図

4）1 号道路状遺構　（第 23 ～ 25 図、図版 4-3 ～ 4-4）

S8-E32 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる、道路状整地跡である。北東側、南西側ともに調査区外へ延びる。残存範囲中央東側および、北壁際を撹乱に削平される。残存する規模は、総長約 14.7m、幅約 3.3m、層厚約 21cm を測り、主軸方位は N-25°-W を示す。幅 7cm、深さ 10cm 前後のわだち跡が 2 条確認された。1 層

はわだちの堆積土で、２～４層は版築層である。遺物は各層から大堀相馬、堤、岸などの陶器片、肥前、瀬戸美濃などの磁器片の他、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、17 世紀中頃の肥前網目文皿 1 点を図示した。

５）1 号竹樋　（第 23 ～ 25 図、図版 5-2）

S7-E32 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に延びる、竹樋溝跡である。竹樋は残存状態が悪く、一部分でのみ確認された。竹樋の直径は 6 cm を測る。北側および南側は調査区外へ延び、残存範囲の中央よりやや北寄りで西に分岐する T 字型を呈す。分岐した西側は調査区外へ延びる。残存する規模は、総長南北約 14m、分岐した東西長約 2.5m、上端幅 28 ～ 73cm、下端幅 15 ～ 25cm、深さ 28cm を測り、主軸方位は N-23° -W を示す。断面形は U 字形を呈す。掘り方埋土は 4 層で、１層、２層、４層は砂質シルトで、3 層のみシルトである。1 号建物跡に付随する利水施設と考えられる。

遺物は 19 世紀中頃以降を中心とした陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、18 世紀代と思われる肥前紅皿 1 点を図示した。

第 23 図　SA3 柱列跡・SA4 柱列跡・SD1・１号道路状遺構・1 号建物跡・1 号竹樋平面図

6）1 号建物跡　（第 23 ～ 25 図、図版 5-3 ～ 5-4）

S6-E32 グリッドに位置する。長方形に展開する、建物の基礎跡である。西側と南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、南北 9.82m、東西 3.31m、深さ約 82 ～ 120cm を測る。構築土の 5 層を除去した段階で礫敷を検出し、建物跡と判断し調査を行なった。第 23 図は礫検出時の平面図である。礫敷は径 12 ～ 15cm の礫を平坦に敷き詰めている。敷範囲の外側には溝がめぐらされている。南東から北西に向けて延びる長軸部分と、北東から南西に向かって延びる分岐部分が 3 箇所認められた。溝は構築土の 6 層で埋まっており、その上位にさらに構築土が見られることから溝として機能していたとは考えにくく、基礎の礫を埋設するために、構築の過程で掘られたものと思われる。一番南側の溝は礫が充填されており、調査区内で収束している。この溝状掘り込みの外縁は、 1 号竹樋と重複しており、基礎となる礫を配置して埋め戻した後に 1 号竹樋を構築しているものと思われる。溝の南北部分の長さ約 9.5m、上幅 72 ～ 81cm 以上、下幅 52 ～ 75cm 以上、深さ 40cm を測る。主軸方位は N-23° -E を示す。4 箇所の礫集中箇所を検出し、建物跡の基礎の一部を構成するものと考えられる。それぞれの礫は 1.87m ～ 2m 間隔で配置されている。東西分岐箇所の規模は、［北］長さ約 2.6m、上幅 86 ～ 90cm 以上、下幅 78cm 以上、深さ 26cm、主軸方位 N-70° -E、［中央］長さ約 2.2m、上幅 58 ～ 78cm、下幅 35 ～ 52cm、深さ 35cm、主軸方位は N-67° -E、［南］長さ約 2.4m、上幅 63 ～ 68cm、下幅 46 ～ 55cm、深さ 30cm、主軸方位 N-71° -E を測る。

構築土は 14 層からなり、1 層から 7 層は砂質シルト、8 層から 14 層はシルトである。1 層から 6 層および 9 層は炭化物を含む。 6 層上面で礫を敷いている。堆積土は、全体的に傾斜堆積であり、基礎敷設のための盛土と考えられる。遺物は各層から 19 世紀中頃以降を中心とした陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、19 世紀前半の瀬戸美濃磁器 2 点と 18 世紀代の肥前磁器 1 点を図示した。瀬戸美濃磁器碗の 1 点は焼継痕がある。

SD1　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質シルト	ややあり	なし	灰黄褐色砂（10YR4/2）との互層状堆積　酸化鉄分をやや多量
2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	褐灰色砂質シルト（10YR5/1）　径 10cm 以下の礫

SA3 石列　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	

SA4 石列　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	

1 号道路状遺構　土層注記表

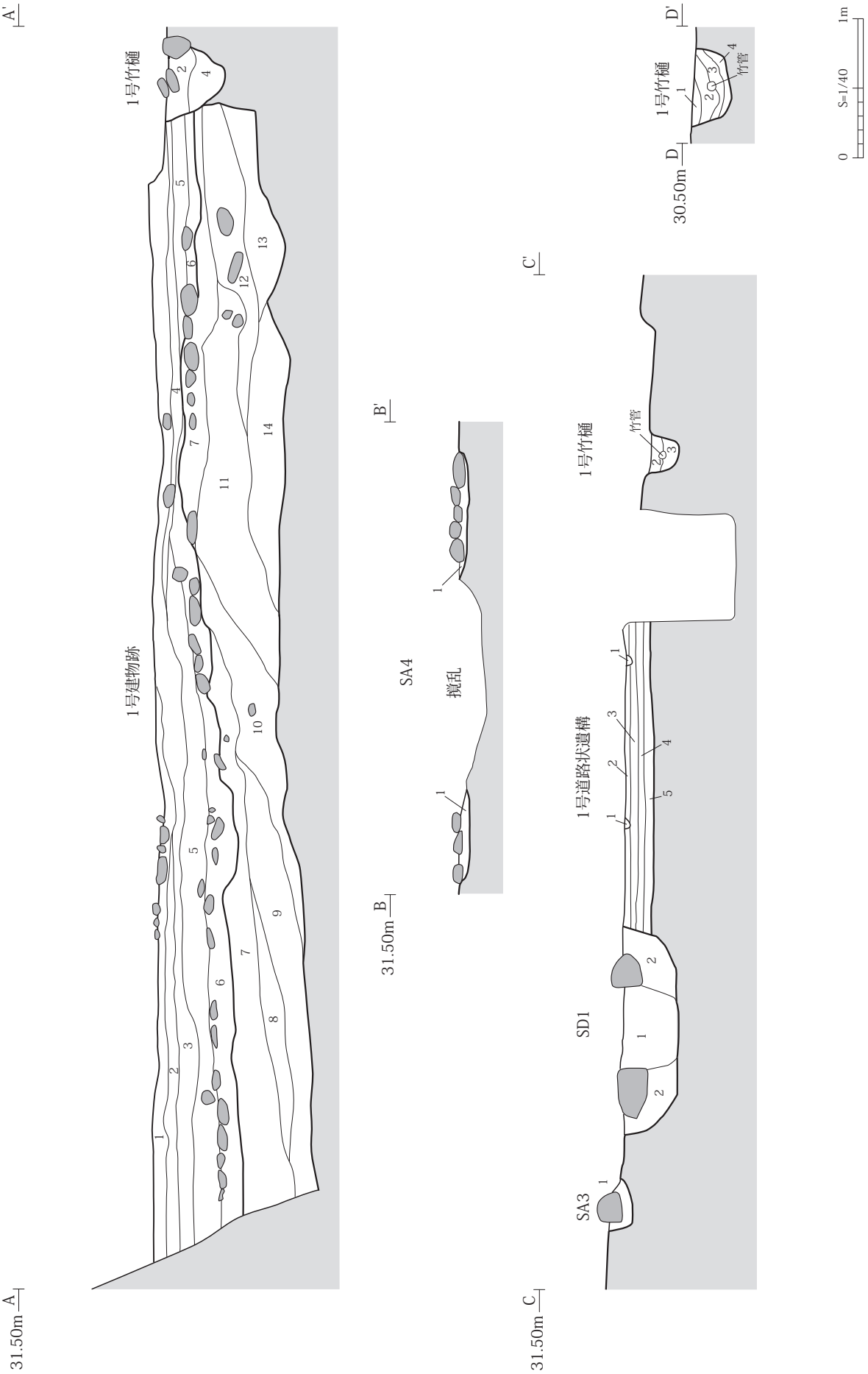
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	灰黄褐色大ブロック（10YR4/2）　大・中礫少量。
2	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	黄橙色小ブロック（10YR7/8）　黒褐色小ブロック（10YR3/2）
3	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	あり	灰黄褐色小ブロック（10YR6/2）　黄橙色粒子（10YR7/8）
4	10YR7/8	黄橙色	シルト	あり	あり	褐灰色小ブロック（10YR4/1）　明黄褐色小ブロック（10YR6/6）
5	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	明黄褐色粒子（10YR7/6）　にぶい黄褐色粒子（10YR5/4）

1 号竹樋　土層注記表

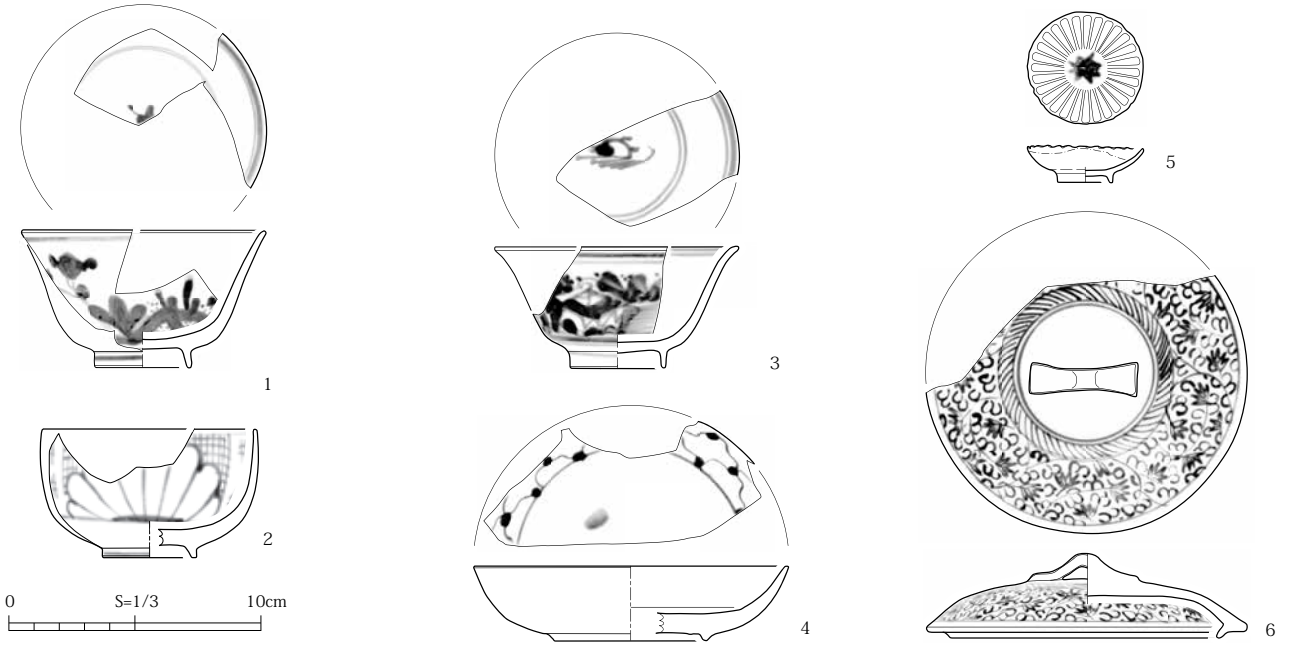
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	3Y5/2	暗灰黄色	砂質土	なし	ややあり	灰白色砂（2.5Y7/1）　炭化物少量　酸化鉄分を少量
2	3Y5/2	暗灰黄色	砂質土	なし	ややあり	灰白色砂ブロック（2.5Y7/1）　炭化物、酸化鉄分を少量
3	3Y6/4	にぶい黄色	シルト	ややあり	ややあり	径 30mm 以下の礫を少量　炭化物を少量　酸化鉄分をやや多量
4	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	黄灰色シルトブロック（2.5Y6/1）　炭化物粒少量

1 号建物跡　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	明黄褐色粒子　炭化物　小～中礫少量
2	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト	あり	ややあり	炭化物微量
3	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト	あり	ややあり	炭化物微量
4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物微量
5	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量　小礫
6	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	灰黄褐色小ブロック　炭化物粒　中・小礫少量
7	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	小礫少量
8	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	黄橙色小ブロック　にぶい黄橙色小ブロック（10YR7/2）
9	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	黄橙色ブロック　炭化物微量
10	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	なし	黄橙色小ブロック　にぶい黄褐色粒子（10YR4/3）
11	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	黄橙色小ブロック　にぶい黄橙色粒子（10YR7/2）　大礫
12	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	あり	ややあり	
13	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	なし	小・大礫多量
14	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	中・小礫微量



第 24 図　SA3 柱列跡・SA4 柱列跡・SD1・1 号道路状遺構・1 号建物跡・1 号竹樋断面図



図版番号	写真図版番号	遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	42-8	1 号建物 11 層	磁器	碗	口縁～底部	密	5.5	(9.7)	(3.7)	瀬戸・美濃	19 世紀前半	焼継痕あり	J-8
2	42-6	1 号建物 14 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(5.2)	(8.5)	(3.7)	肥前	18 世紀後半	菊文　格子文	J-6
3	42-7	1 号建物 7 層	磁器	端反碗	口縁～底部	密	4.9	(9.7)	(3.7)	瀬戸・美濃	19 世紀前半		J-7
4	43-2	1 号道路 3 層	磁器	皿	口縁～底部	密	3.0	(12.5)	(6.0)	瀬戸・美濃	19 世紀前半	網目文。高台端砂付着。	J-4
5	43-1	1 号竹樋 1 層	磁器	紅皿	口縁～底部	密	1.5	4.6	2.2	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	型押し菊紅皿。見込み染付花文。	J-3
6	43-3	SD1 1 層	磁器	蓋	口縁～底部	密	3.4	12.8	4.5	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	みじん唐草	J-2

第 25 図　SD1、1 号道路状遺構・1 号建物跡・1 号竹樋出土遺物

7）SK2 土坑　（第 26 図、図版 5-5 ～ 5-7）

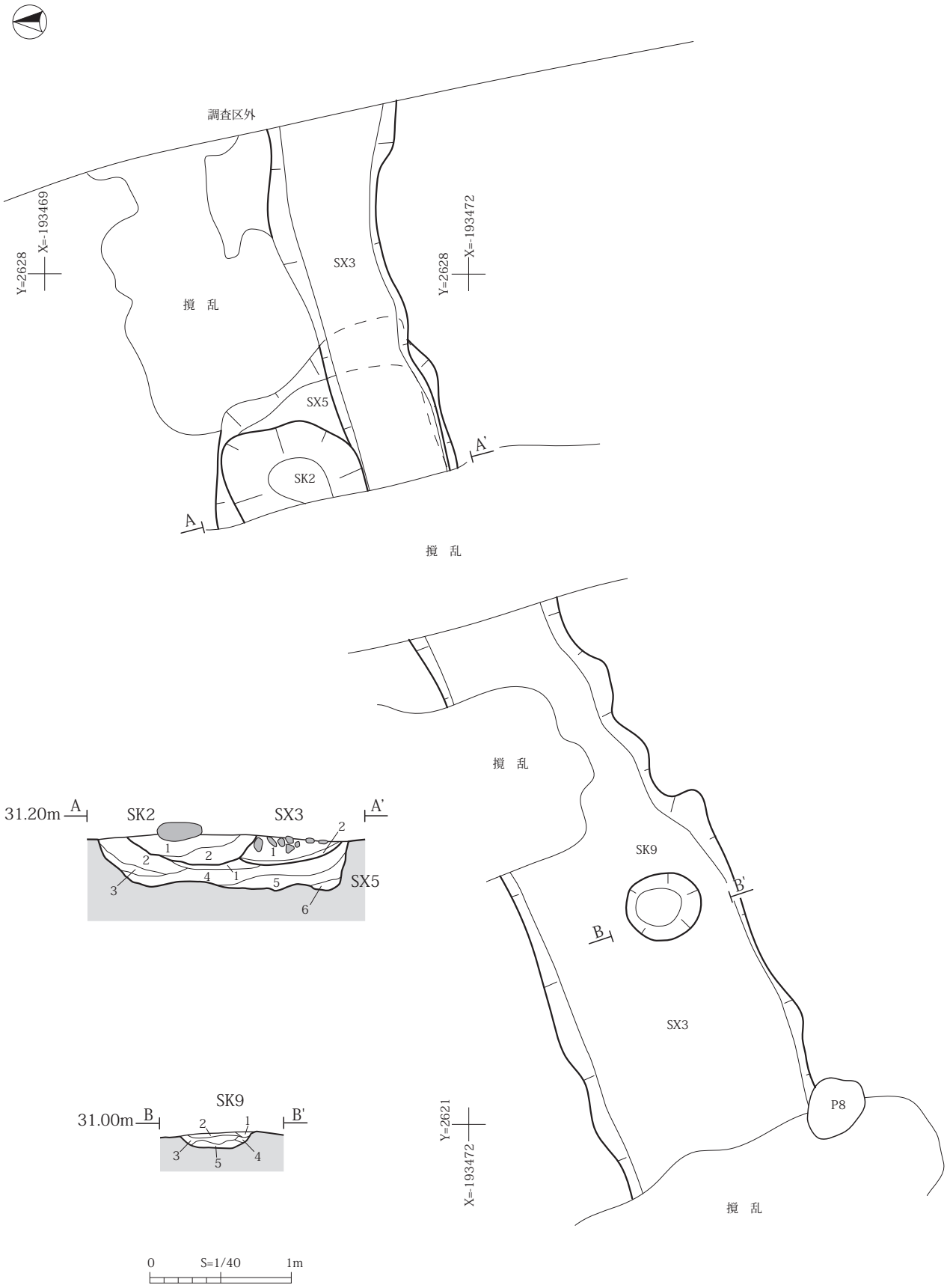
S6-E32 グリッドに位置する。南側を撹乱に削平され、東側は SX3 と重複しており、SK2 が新しい。残存する規模は、長軸 91cm、短軸 58cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整円形を呈し、断面形は浅い U 字形を呈す。底面にはやや起伏がある。堆積土は 2 層からなり、1 層は粘質シルト、2 層は砂質シルトである。遺物は近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

8）SK9 土坑　（第 26 図、図版 6-1 ～ 6-2）

S8-E33 グリッドに位置する。SX3 と重複しており、SK9 が新しい。残存する規模は、長軸 53cm、短軸 47cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整円形を呈し、断面形は浅い U 字形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 5 層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は出土していない。

9）SX3 石敷　（第 26 図、図版 5-5 ～ 5-6）

S8-E33 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる、石敷遺構である。上面に径 3 ～ 5 cm の礫を敷き詰めている。北東端および中央と、南西端を撹乱に削平される。残存する規模は、長さ約 7.80m、幅 64 ～ 160cm、深さ 21cm を測り、主軸方位は N-69° -E を示す。平面形は蛇行する溝状で、断面形は浅い U 字形を呈す。堆積土



第 26 図　SK2 土坑・SK9 土坑・SX3 石敷・SX5 性格不明遺構平面図・断面図

は 2 層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

10）SX5 性格不明遺構　（第 26 図、図版 5-5 ～ 5-6、5-8）

S8-E33 グリッドに位置する。西側を撹乱に削平され、SK2、SX3 と重複し、SX5 が最も古く、上層を削平される。残存する規模は、長軸 177cm、短軸 117cm、深さ 39cm を測る。平面形は不整方形で、断面形は逆台形を呈し、底面にはやや起伏がある。堆積土は 6 層からなり、1 層および 6 層は砂、2 層及び 3 層は砂質シルト、4 層及び 5 層はシルトである。5 層は炭化物を多量に含む。遺物は近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

SK2　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR7/3	にぶい黄橙色	粘質シルト	ややあり	あり	酸化鉄分多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 10mm 以下の礫・酸化鉄分少量

SK9　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物　小中礫少量
2	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト	あり	ややあり	炭化物微量
3	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト	あり	ややあり	炭化物少量
4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物微量
5	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量　小礫微量

SX3　土層注記表

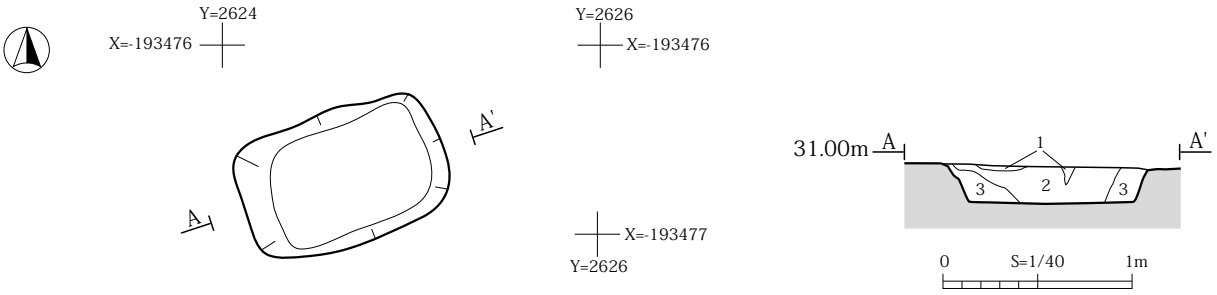
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/4	にぶい黄橙色	砂質土	なし	ややあり	上面に径 20cm 以下の礫多量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	なし	ややあり	砂粒多量

SX5　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂	なし	なし	径 30mm の礫少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	なし	なし	径 30mm の礫少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	なし	ややあり	径 30mm 以下の礫・炭化物少量
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径 20mm 以下の礫・炭化物少量
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	あり	ややあり	径 30mm 以下の炭化物多量
6	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂	なし	あり	径 30mm の礫少量

11）SK6 土坑（第 27 図、図版 6-5 ～ 6-6）

S8-E33 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 110cm、短軸 72cm、深さ 21cm を測る。平面形は隅丸長方形で、断面形は浅い逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 4 層からなり、1 層から 3 層は砂質シルト、4 層は粘土質シルトである。1 層は根撹乱、2 層および 3 層は遺物は瓦片、鉄釘が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

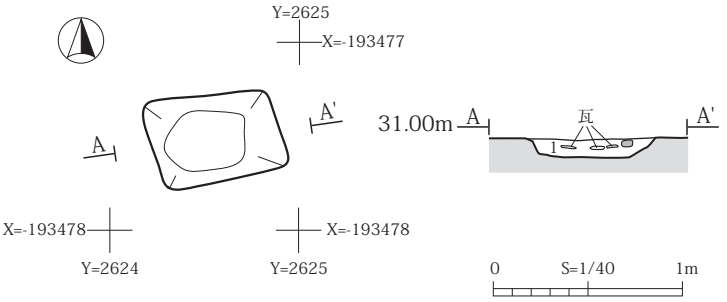


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	なし	炭化物微量
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	なし	炭化物粒微量
3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	灰黄褐色粒子（10YR5/2）　炭化物・小礫微量
4	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	黒褐色粒子（10YR3/2）　炭化物微量

第 27 図　SK6 土坑平面図・断面図

12）SK7 土坑（第 28 図、図版 6-3 ～ 6-4）

S8-E33 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 67cm、短軸 48cm、深さ 10cm を測る。平面形は隅丸長方形で、断面形は浅い逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 1 層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

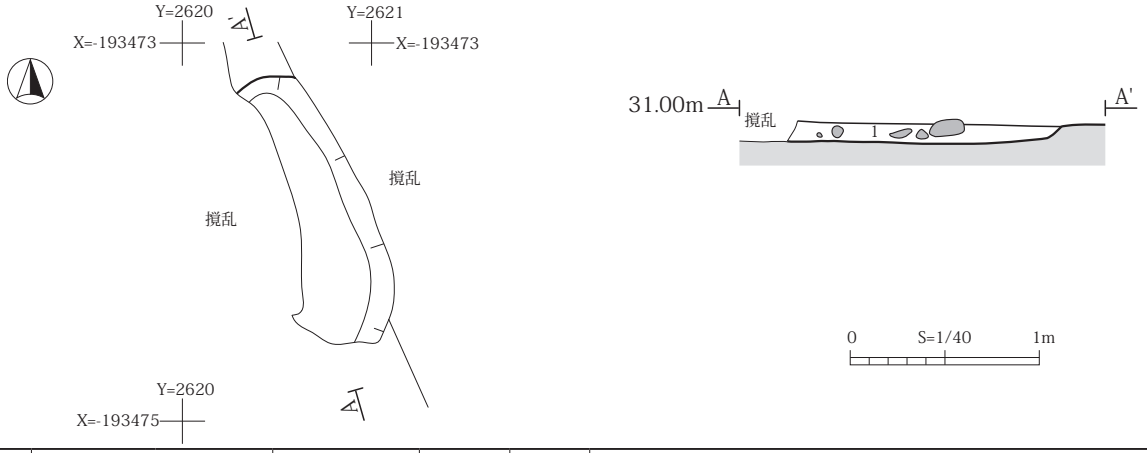


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/4	にぶい黄橙色	砂質土	なし	ややあり	小礫少量

第 28 図　SK7 土坑平面図・断面図

13）SX6 性格不明遺構（第 29 図、図版 6-7 ～ 6-8）

S8-E33 グリッドに位置する。東西両側を撹乱に削平される。残存する規模は、長軸 153cm、短軸 57cm、深さ 11cm を測る。平面形は不整楕円形で、断面形は浅い皿形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 1 層で、おおむね砂質シルトである。遺物は出土していない。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 50mm 以下の礫少量

第 29 図　SX6 土坑平面図・断面図

14）遺構外出土遺物（第 30 ～ 31 図）

Ⅰ・Ⅱ層の出土遺物点数は瓦 90 点、陶器 850 点、土師質土器 135 点、瓦質土器 46 点、磁器 901 点、石製品 5 点、金属製品 34 点、骨 5 点、その他 60 点、合計 2126 点である。

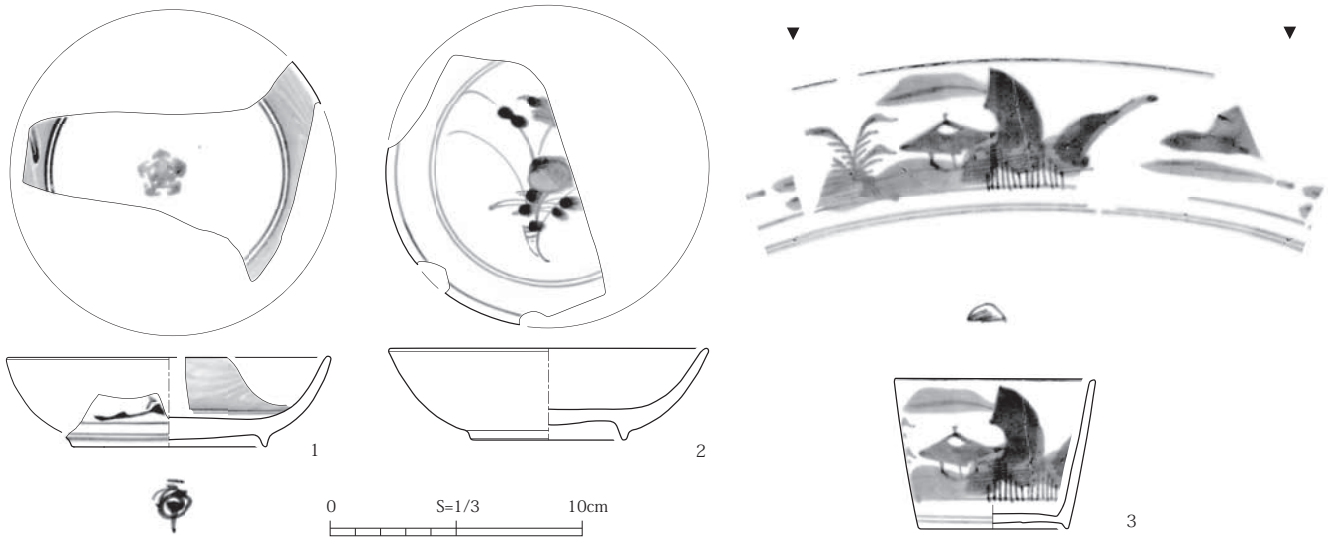
陶器を産地別にみると、堤 3 点、嬉野 2 点、大堀相馬 54 点、小野相馬 1 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 790 点となる。また、磁器を産地別にみると、肥前 76 点、瀬戸美濃 217 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 406 点、不明 202 点である。このうち、近世の所産と思われる陶器 4 点、磁器 14 点、金属製品 4 点を図示した。

撹乱出土の出土遺物点数は、瓦 166 点、陶器 602 点、土師質土器 118 点、瓦質土器 36 点、磁器 788 点、石製品 3 点、金属製品 48 点、銭貨 1 点、土製品 1 点、骨 20 点、その他 78 点、合計 1861 点である。

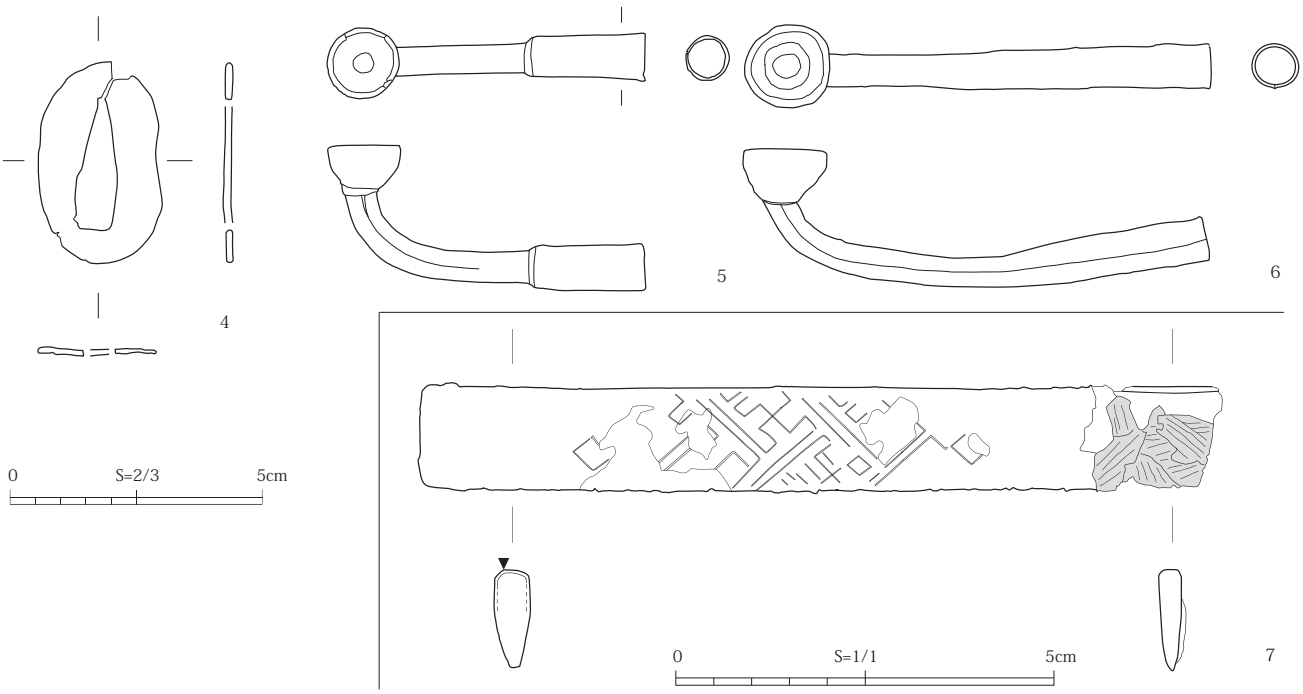
陶器を産地別にみると、嬉野 1 点、唐津 2 点、堤 4 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 24 点、大堀相馬 53 点、不明 495 点、肥前陶器 1 点、その他在地 22 点となる。また、磁器を産地別にみると、肥前 50 点、瀬戸美濃 257 点、不明 80 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 401 点である。

図版番号	写真図版番号	グリッド・層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	43-5	S8-E33 Ⅱ層	陶器	碗	口縁～底部	密	3.6	6.8	3.1	大堀相馬	18 世紀後半	灰釉	I-2
2	43-4	S8-E33 Ⅱ層	陶器	碗	口縁～底部	密	16.9	8.8	3.4	瀬戸・美濃	18 世紀後半～19 世紀前半	白濁釉	I-1
3	43-6	S8-E33 Ⅱ層	陶器	向付	口縁～底部	密	4.6	9.2	3.1	大堀相馬	18 世紀後半	鉄絵：駒絵	I-3
4	43-7	S8-E32 Ⅱ層	陶器	油受皿	口縁～底部	密	5.4	6.6	4.2	堤	19 世紀以後		I-5
5	43-10	S8-E33 Ⅱ層	磁器	紅皿	口縁～底部	密	1.7	4.2	1.4	肥前	19 世紀前半		J-9
6	43-11	S7-E32 Ⅱ層	磁器	端反碗	口縁～底部	密	4.4	(8.4)	3.2	瀬戸・美濃	19 世紀前半	口錆　外面：源氏香文	J-14
7	43-8	S8-E33 Ⅱ層	磁器	碗	体部～底部	密	(4.2)	(9.9)	(3.9)	平清水	19 世紀中葉	外面：山形武田菱　目跡 4 箇所	J-5
8	44-3	S7-E32 Ⅱ層	磁器	筒型碗	口縁～底部	密	(5.3)	(7.0)	(4.0)	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：格子地菊花	J-18
9	44-5	S8-E33 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～底部	密	(5.4)	(9.5)	(3.5)	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：牡丹唐草文　見込み：二重圏線　牡丹唐草文　外底：「宣」銘	J-15
10	44-2	S8-E32 Ⅱ層	磁器	御神酒徳利	頸縁～底部	密	(5.1)	(1.1)	(2.6)	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：草文	J-10
11	44-1	S8-E32 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～底部	密	5.3	9.0	(3.5)	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：草文	J-16
12	44-4	S8-E33 Ⅱ層	磁器	筒型碗	口縁～底部	密	6.0	8.3	4.0	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：矢羽根文　見込み：虫文	J-21
13	45-2	S8-E33 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	密	3.1	(13.9)	7.5	切込	19 世紀中葉	内面：圏線　笹文　見込み：目跡あり　凹高台。	J-19
14	44-7	S8-E33 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	密	(3.9)	(13.3)	(4.4)	肥前	17 世紀後半	内面：草文　見込み：蛇の目釉剥。	J-23
15	44-6	S7-E32 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	密	(3.6)	(13.1)	(5.0)	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	内面：草文　目跡あり。	J-17

第 30 図　遺構外出土遺物（1）



図版番号	写真図版番号	グリッド・層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	45-1	S7-E32 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	密	(3.6)	(12.9)	(7.7)	肥前	18 世紀前葉～中葉	外面：唐草文　内面：コンニャク五弁花 外底：渦福	J-22
2	45-3	S8-E33 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	密	(3.7)	(12.7)	(6.1)	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	内面：草花文　二重圏線	J-20
3	43-9	S8-E33 Ⅱ層	磁器	猪口	口縁～底部	密	6.0	8.0	5.8	肥前	19 世紀前半	外面：楼閣山水文　見込み：虫文	J-13



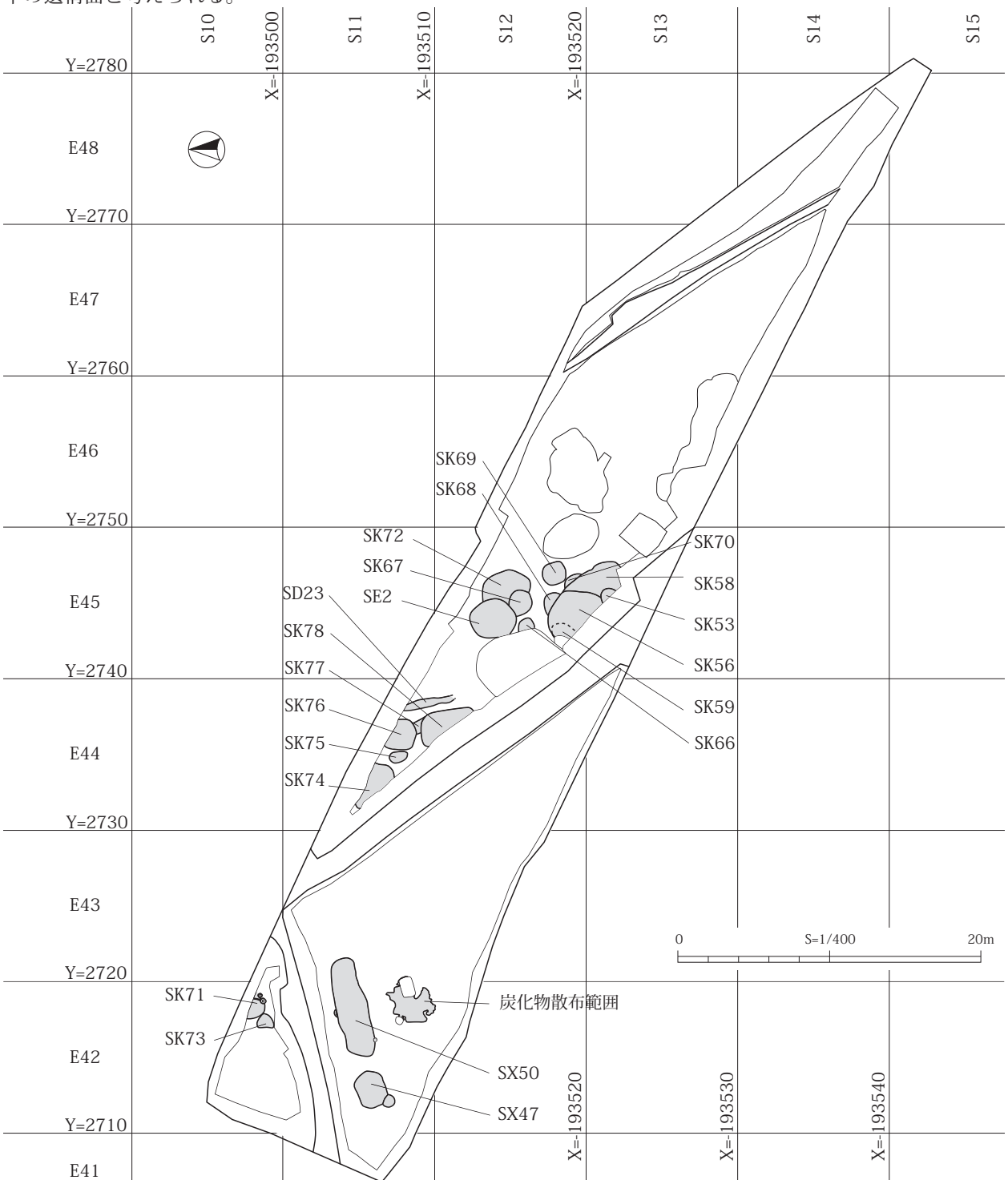
図版番号	写真図版番号	グリッド・層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
4	45-6	S8-E33 Ⅱ層	金属製品	(4.0)	2.5	0.2	切羽（銅製）	N-3
5	45-4	S8-E33 Ⅱ層	金属製品	6.4	1.5	2.9	煙管（銅製）	N-1
6	45-5	S8-E32 Ⅱ層	金属製品	9.3	1.7	2.8	煙管（銅製）	N-2
7	45-7	S7-E32 Ⅱ層	金属製品	10.6	1.4	0.5	小柄　紗綾紋　刃部付け根に木質一部残存　第 15 表（P199）参照	N-4

第 31 図　遺構外出土遺物（2）

第２節　西公園高架橋等Ⅱ区

1　Ⅵ・Ⅶ層上面検出遺構

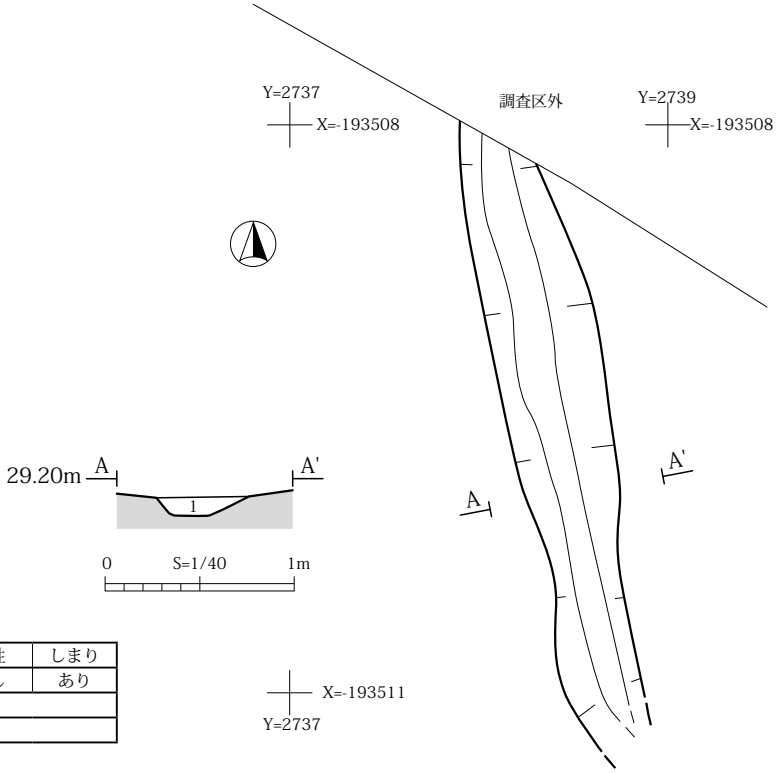
Ⅵ層・Ⅶ層上面で検出された遺構は、溝１条、井戸１基、土坑 13 基、性格不明遺構３基、合計 18 基である。また、調査区の北西側では、炭化物が東西 3m、南北 2.8m の範囲に分布している箇所が検出された。SK58 などの SD23 溝跡、SE ２井戸跡のほか、炭化物分布範囲のものと近似した質の炭化物を堆積土に含む SX47 および SX50 が検出された。遺物は SK56 から比較的まとまった量が出土しており、その年代から 17 世紀代～ 18 世紀前半の遺構面と考えられる。



第 32 図　Ⅵ・Ⅶ層上面検出遺構

1）SD23 溝跡　（第 33 図、図版 11-1）

S11・12-E44 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる素掘りの溝跡である。北側は調査区外へ延びる。南側はⅤ層の遺構 (SK51) に削平される。残存する規模は、長さ 320cm、上幅 35 ～ 60cm、下幅 12 ～ 20cm、深さ 5cm を測り、主軸方位は N-12°-W を示す。断面形は浅い逆台形を呈す。南側に向かって傾斜する。堆積土は暗オリーブ色の砂で、上位整地層による埋め戻し土と思われる。遺物は出土していない。

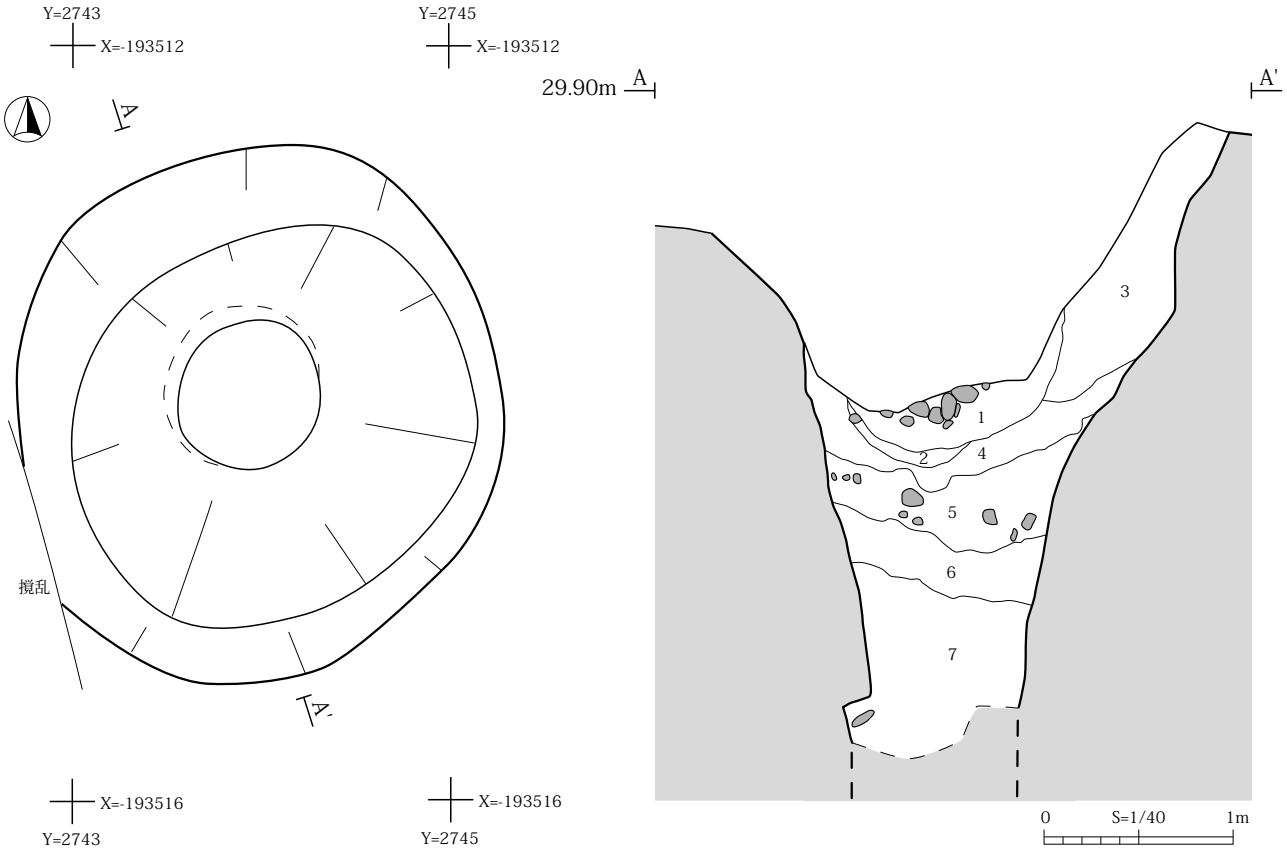


層名	土　色		土　質	粘性	しまり
1	2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂	なし	あり
備　考					
径 5cm以下の褐色砂質シルトブロック多量					

第 33 図　SD23 溝跡平面図・断面図

2）SE2 井戸跡　（第 34 図、図版 11-2 ～ 11-3）

S12-E45 グリッドに位置する素掘りの井戸跡である。北側の一部をⅣ a 層の遺構 (SE1) に削平される。SK67、SK72 と重複し、SE2 が一番新しい。検出面から 257cm まで掘り下げたが、安全のためそれ以下の掘削は行わず、



第 34 図　SE2 井戸跡平面図・断面図

そのため、底面は確認していない。確認された規模は、長軸 294cm、短軸 285cm を測る。平面形は不整円で、断面形は円錐状を呈す。堆積土は７層からなり、１層から４層はシルト、５層から６層は粘土質シルト、７層はシルト質粘土である。遺物は出土していない。

SE2　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径 1cm以下の暗褐色土粒少量　黄褐色土粒多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径 5mm以下の黄褐色土粒少量
3	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 3mm以下の黄褐色土粒少量
4	5Y6/3	オリーブ褐色	シルト	あり	なし	
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径３～ 7cm の礫多量
6	2.5Y6/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	
7	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト質粘土	あり	あり	

３）SK53 土坑　（第 35 ～ 36 図、図版 11-4 ～ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。SK56、SK58 と重複し、SK53 が一番新しい。南西側は調査区外に延びる。SK53、56、58、59 は調査時は一つの遺構として完掘したが、土層観察、検出状況の検討により複数の遺構が切りあっていることがわかった。

残存する規模は、長軸 115cm、短軸 56cm、深さ 19cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は U 字状を呈す。堆積土は２層の黒褐色砂質シルトからなり、礫、炭化物粒を含む。遺物は出土していない。

４）SK56 土坑　（第 35 ～ 38 図、図版 11-4 ～ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。SK53、SK58、SK59、SK68 と重複し、SK53 より古く、その他の遺構より新しい。残存する規模は、長軸 366cm、短軸 236cm、深さ 85cm、平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。北西側から北東側にかけてテラス状の高まりをもつ。堆積土は６層からなり、１層から２層は砂質シルト、３層はシルト質砂、４層はシルト、５層から６層はシルト質粘土である。炭化物、礫、Ⅶ層ブロック等を含む。遺物は、瓦片、飾り瓦、陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、金属製品が出土している。陶器は、16 世紀末～ 17 世紀代の志野、嬉野、瀬戸美濃、肥前陶器、岸、唐津等がある。磁器では、16 世紀末～ 18 世紀初頭の福建省系磁器、景徳鎮、肥前等がある。そのうち、陶器１点、磁器５点、土師質土器１点、飾り瓦１点、金属製品２点を図示した。

５）SK58 土坑　（第 35 ～ 36 図、図版 11-4 ～ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。SK53・SK56・SK70 と重複し、SK53・SK56 より古く、SK70 より新しい。残存する規模は、長軸 420cm、短軸 214cm、深さ 128cm、平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は U 字形を呈す。北西側らから南東側にかけてテラス状の高まりをもつ。堆積土は２層の粘土質シルトからなり、グライ化が顕著に認められる。遺物は、瓦片、陶器、磁器、土師質土器が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

６）SK59 土坑　（第 35 ～ 36 図、図版 11-4 ～ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。上面を SK56 により削平される。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 116cm、深さ 50cm、平面形は不整方形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は４層からなり、一部でグライ化が認められる。遺物は出土していない。

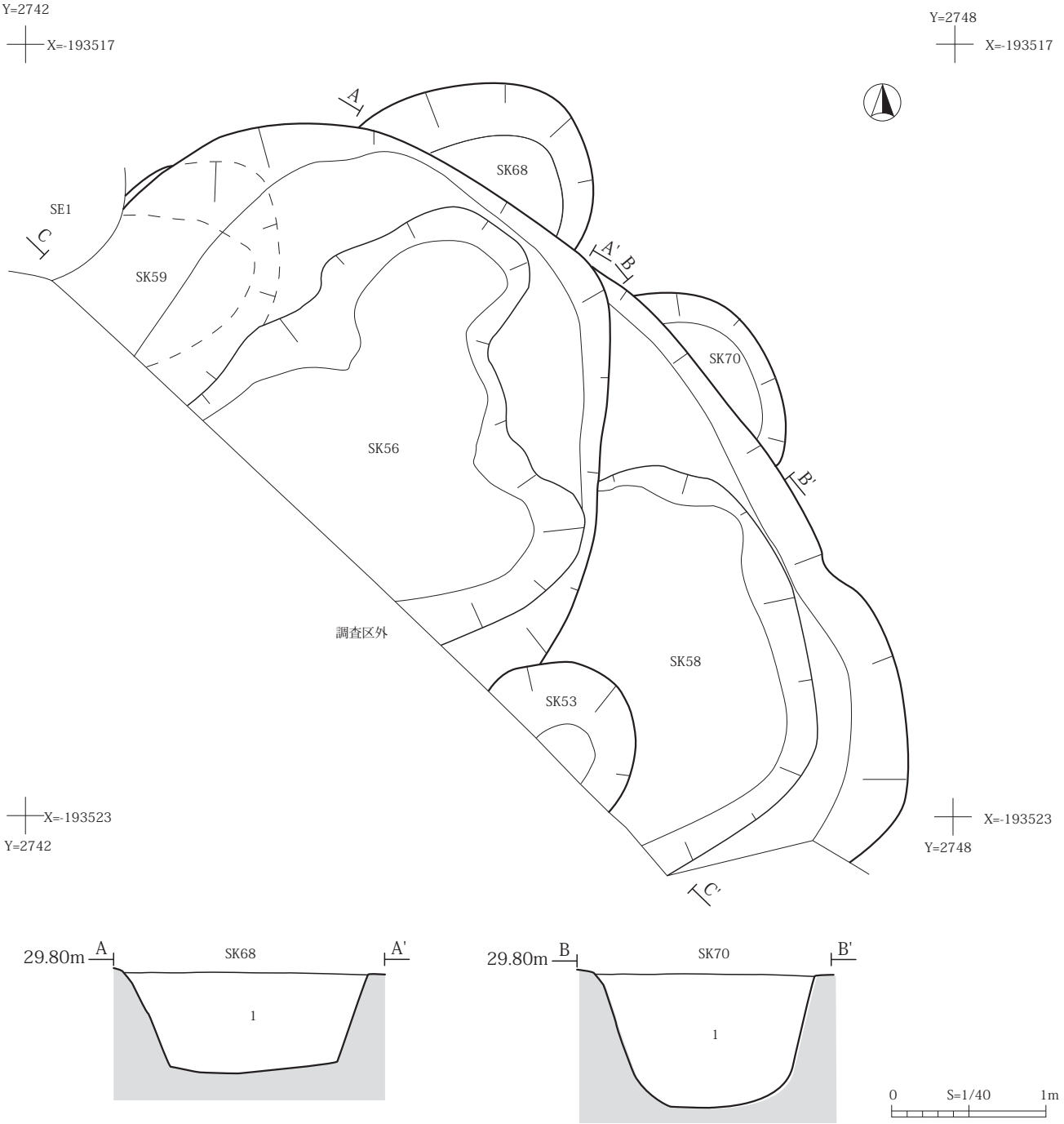
７）SK68 土坑　（第 35 ～ 36 図、図版 11-4 ～ 11-5）

S12-E45 グリッドに位置する。SK56 と重複し、SK56 より古い。残存する規模は、長軸 127cm、短軸 110cm、

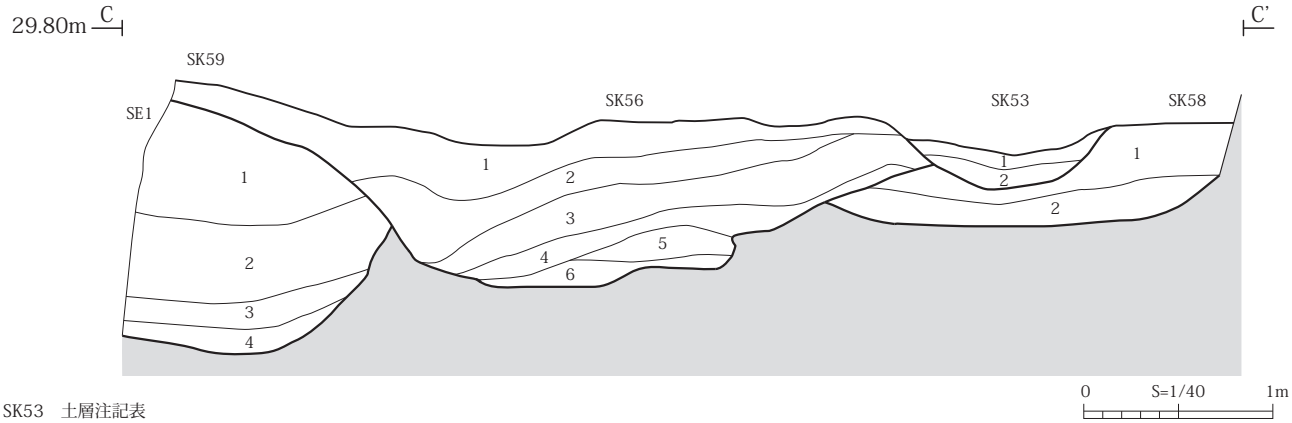
深さ 64cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

8）SK70 土坑　（第 35 ～ 36 図、図版 11-4 ～ 11-5）

S12-E45 グリッドに位置する。SK58 と重複し、SK58 より古い。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 43cm、深さ 80cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土の単層である。遺物は出土していない。



第 35 図　SK53・56・58・59・68・70 土坑平面図



SK53　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径１～３cm 礫少量
2	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	炭化物粒少量。

SK56　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径１～３cm 礫・炭化物粒少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト質砂	なし	なし	径３～５cm の礫多量
4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	ややあり	あり	Ⅶ層ブロック少量
5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト質粘土	ややあり	あり	礫少量。黒褐色粘土ブロック少量
6	2.5Y3/2	黒褐色	シルト質粘土	ややあり	あり	Ⅶ層ブロック多量

SK58　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	5G4/1	暗緑灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径１～２cm 礫少量
2	5G3/1	暗緑灰色	粘土質シルト	あり	あり	明黄褐色粒子　黒褐色粒子　黄橙色粒子

SK59　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径１～３cm 礫少量
2	5G4/1	暗緑灰色	シルト質粘土	ややあり	あり	Ⅶ層ブロック微量
3	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	あり	あり	径１～２cm 礫少量
4	10YR4/1	褐灰色	シルト質粘土	あり	あり	Ⅶ層ブロック少量

SK68　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 30mm 以下の炭化物　酸化鉄分少量

SK70　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土	あり	ややあり	にぶい黄橙色シルト　径 5mm 岡の白色粒子をやや多量　下層部分がグライ化

第 36 図　SK58・68・70 土坑断面図

９）SK66 土坑　（第 39 図、図版 11-6）

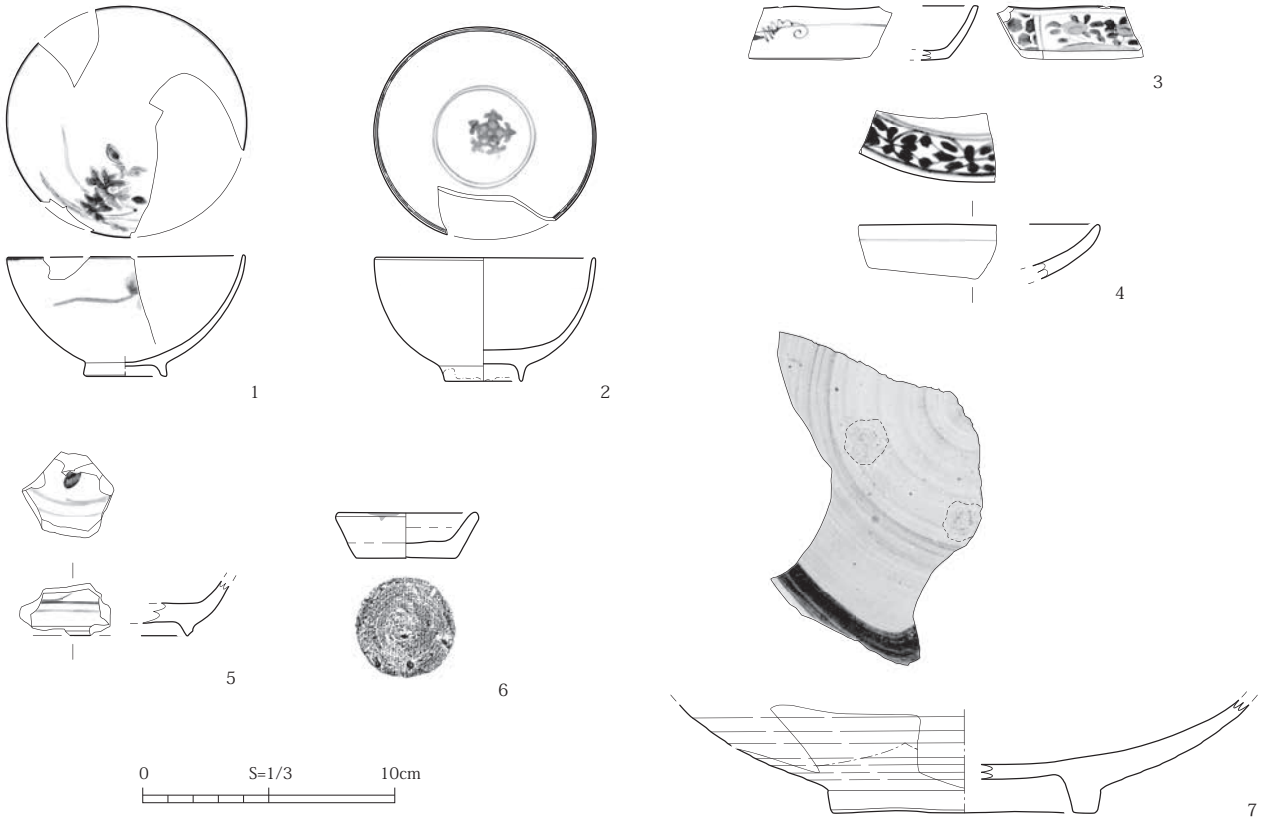
S12-E45 グリッドに位置する。北側をⅣ a 層の遺構 (SE1) に削平される。残存する規模は、長軸 108cm、短軸 70cm、深さ 30cm を測る。平面形は不整楕円を呈し、底面は西側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

10）SK67 土坑　（第 39 図、図版 11-6）

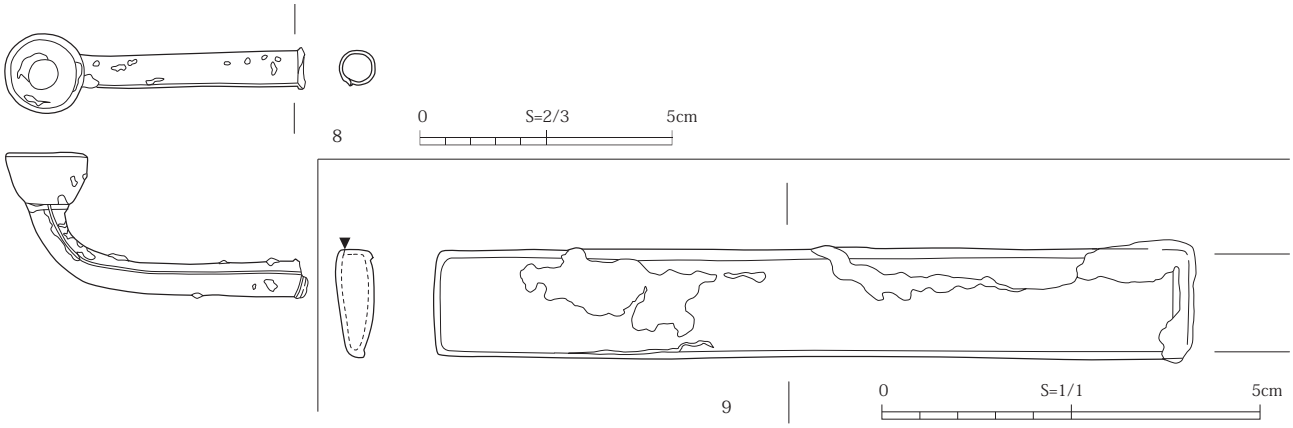
S12-E45 グリッドに位置する。SE2、SK72 と重複し、SE2 より古く SK72 より新しい。残存する規模は、長軸 154cm、短軸 152cm、深さ 57cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は東側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は鉢状を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

11）SK72 土坑　（第 39 図、図版 11-6）

S12-E45 グリッドに位置する。SE2、SK67 と重複し、SK72 が一番古い。残存する規模は、長軸 317cm、短軸 214cm、深さ 26cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は西側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

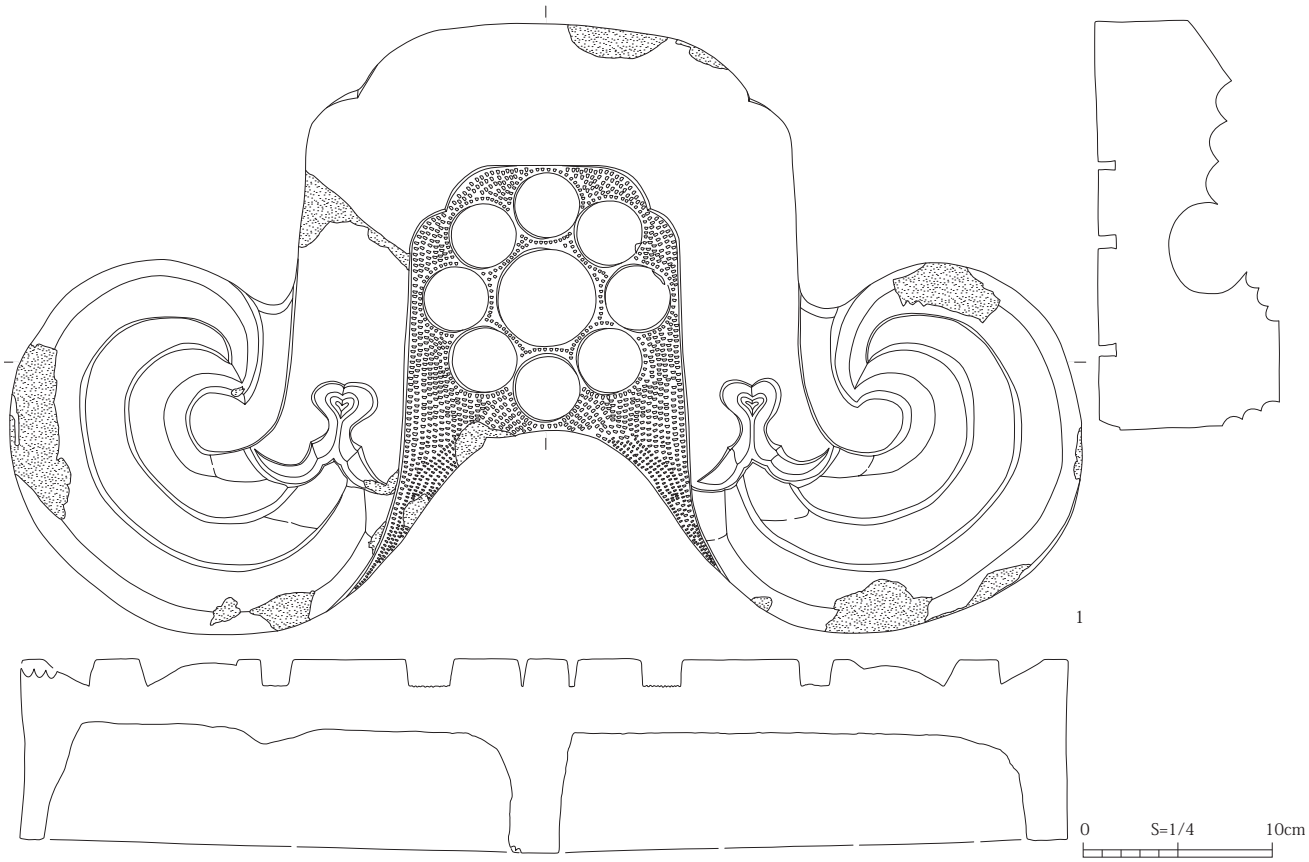


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	46-3	4 層	磁器	碗	口縁～底部	密	4.8	9.4	3.2	肥前	18 世紀前半か	色絵花文	J-32
2	46-4	4 層	磁器	碗	口縁～底部	密	4.9	8.8	3.1	肥前	18 世紀前半か	青磁染付、口錆、見込み：コンニャク五弁花	J-26
3	46-7	4 層	磁器	皿	口縁部	密	(2.5)	-	-	肥前	17 世紀後半	内面：草花文、亀甲文、外面：草文	J-25
4	46-6	3 層	磁器	皿	口縁部	密	(1.9)	-	-	肥前	17 世紀後半	内面：花文、外面：圏線	J-28
5	46-5	3 層	磁器	皿	底部	密	4.9	8.8	3.1	漳州窯	16 世紀末～17 世紀初	見込み：色絵花文、外面：色絵圏線	J-38
6	46-2	4 層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	密	1.8	5.5	4.0	在地	17 世紀～18 世紀	底部糸切り	I-6
7	46-1	4 層	陶器	皿	体部～底部	密	(10.6)	-	4.3	唐津	17 世紀後半	見込み：刷毛目＋鉄絵	I-10



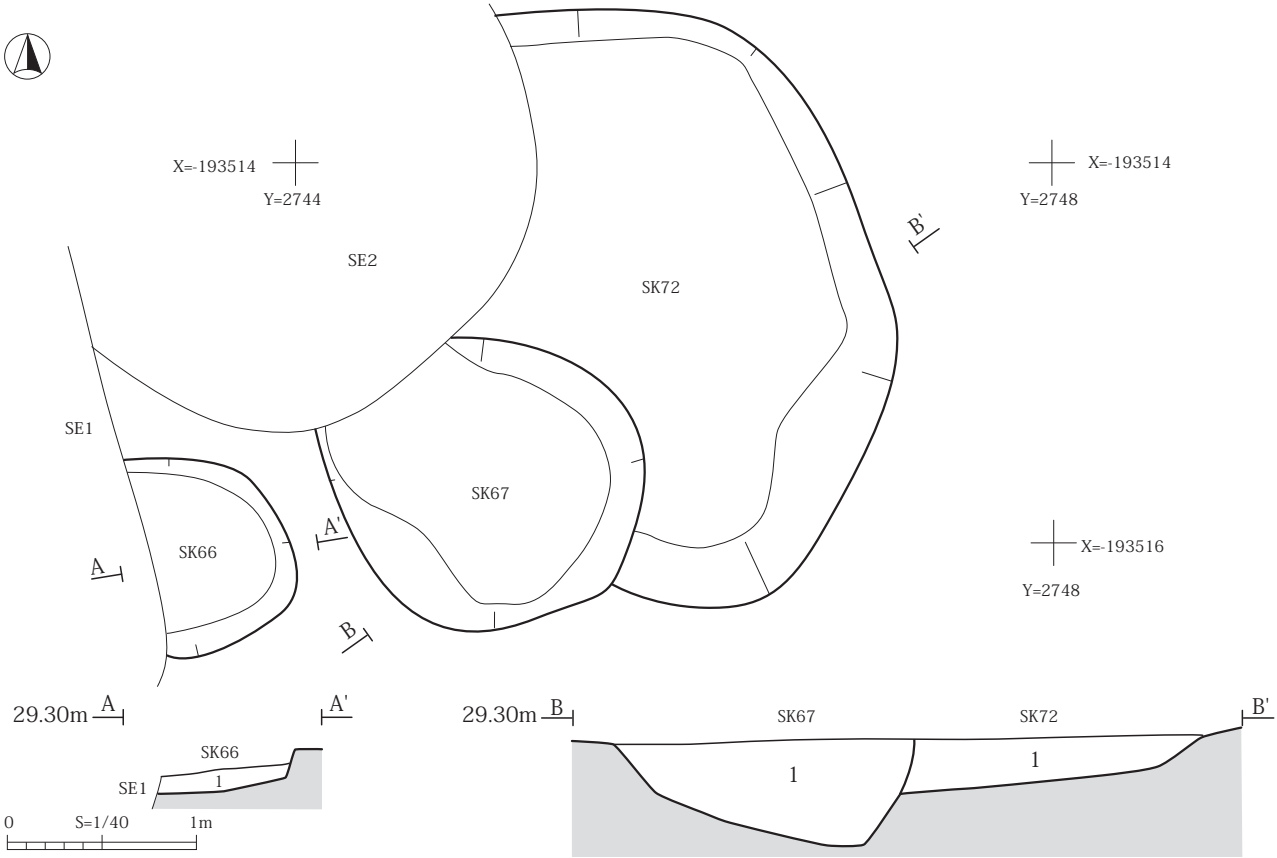
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
8	46-9	6 層	金属製品	6.0	0.6	0.6	煙管（銅製）	N-210
9	46-8	4 層	金属製品	9.8	1.4	0.5	小柄　第 15 表（P199 参照）	N-252

第 37 図　SK56 土坑出土遺物（1）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	高さ		
1	47-1	4 層	飾り瓦	9.6	56.4	21.6	九曜文	H-1

第 38 図　SK56 土坑出土遺物（２）



第 39 図　SK66・SK67・SK72 土坑平面図・断面図

SK66　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	にぶい黄橙色シルト　径 5mm の白色粘土粒多量

SK67　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	にぶい黄橙色シルト　径 5mm の白色粘土粒やや多量

SK72　土層注記表

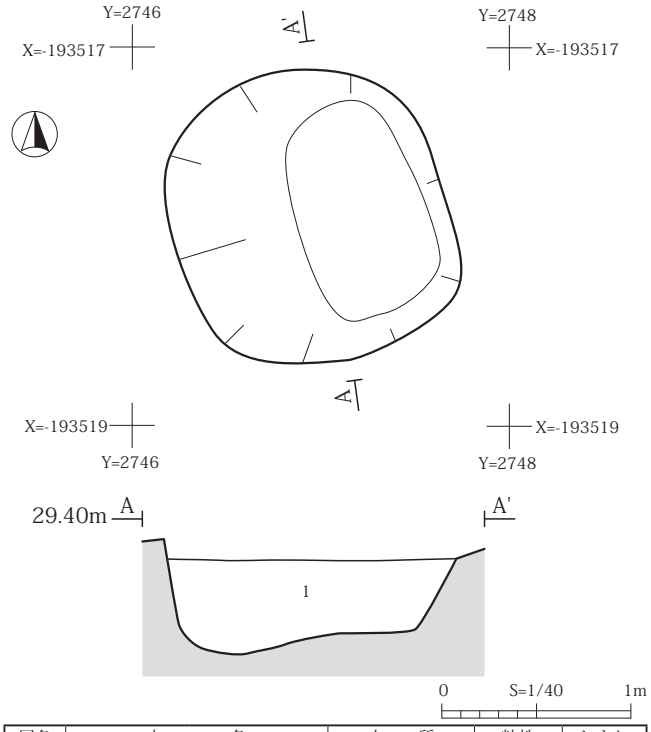
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 5mm の白色粘土粒やや多量

12）SK69 土坑　（第 40 図、図版 11-7、12-1）

S12-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 157cm、短軸 140cm、深さ 50cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面はやや起伏し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

13）SK71 土坑　（第 41 図、図版 12-2 ～ 12-3）

S10-E42 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。P422 と重複し、P422 より古い。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 98cm、深さ 89cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は不整逆台形を呈し東側に段をもつ。堆積土は 2 層からなり、1 層は粘土質シルト、2 層はシルトである。遺物は出土していない。

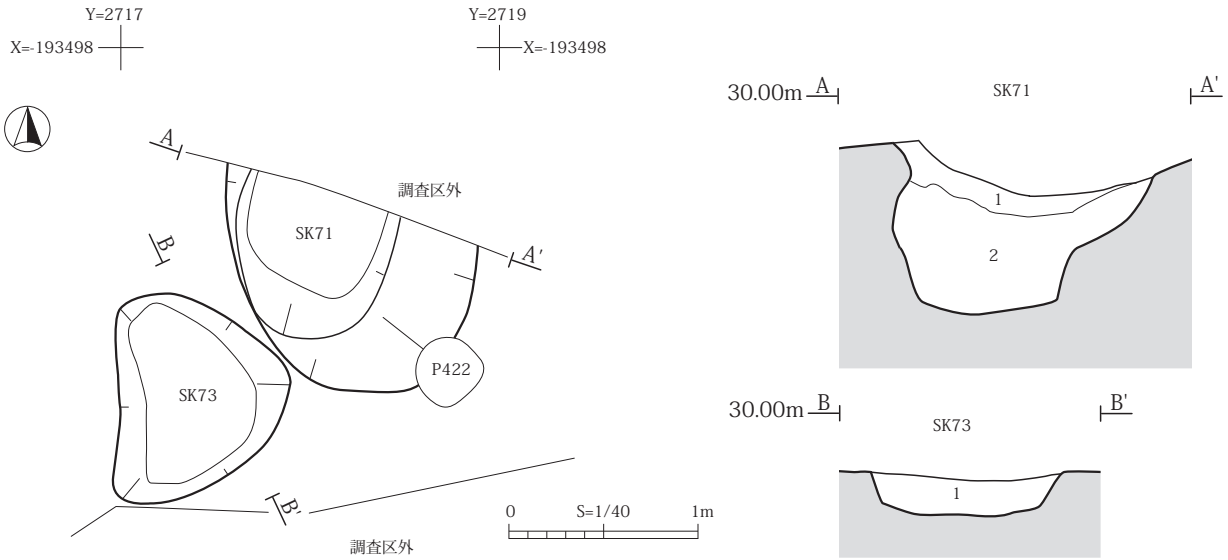


層名	土　色		土　質	粘性	しまり
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり
備　考					
にぶい黄橙色シルト　径 5mm の白色粘土粒やや多量					

第 40 図　SK69 土坑平面図・断面図

14）SK73 土坑　（第 41 図、図版 12-2、12-4）

S10-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 111cm、短軸 90cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第 41 図　SK71・SK73 土坑平面図・断面図

SK71　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	にぶい黄橙色シルト　径 5mm 岡の白色粒子をやや多量
2	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子　黒褐色粒子　黄橙色粒子

SK73　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子　黒褐色粒子　黄橙色粒子

15）SK74 土坑　（第 42 図、図版 12-5 ～ 13-2）

S11-E44 グリッドに位置する。北側と南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 343cm、短軸 145cm、深さ 38cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は南東側がテラス状に高まり、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗オリーブ色砂質シルトの単層である。遺物は志野丸皿、瀬戸美濃、肥前陶器、肥前磁器、瓦、獣骨、木製品が出土している。そのうち、漆器椀２点と箸１点を図示した。

16）SK75 土坑　（第 42 図、図版 12-5）

S11-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 124cm、短軸 72cm、深さ 20cm を測る。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗オリーブ色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

17）SK76 土坑　（第 42 図、図版 12-5、13-3）

S11-E44 グリッドに位置する。東側は調査区外へ延びる。SK77 と重複し、SK77 より新しい。残存する規模は、長軸 201cm、短軸 178cm、深さ 70cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は北側に高まりをもち、断面形は浅いＵ字状を呈す。堆積土は４層からなり、1 層から２層は砂質シルト、３層は粘土質シルト、4 層はシルトである。遺物は出土していない。

18）SK77 土坑　（第 42 図、図版 12-5）

S11-E44 グリッドに位置する。 SK76、SK78 と重複し、SK77 が一番古い。残存する規模は、長軸 88cm、短軸 75cm、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形を呈するが、残存状態が悪く判然としない。主軸方位は N-22°-W を示す。底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗オリーブ色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

19）SK78 土坑　（第 42 図、図版 12-5、13-4）

S12-E44 グリッドに位置する。西側は調査区外へ延びる。SK77 と重複し、SK77 より新しい。残存する規模は、長軸 359cm、短軸 208cm、深さ 64cm を測る。平面形は不整長方形を呈し、底面は起伏をもち、断面形は深皿状を呈し、底面の起伏が著しい。堆積土は７層からなり、１層から２層および６層は砂質シルト、３層は砂、４層から５層および７層はシルトである。遺物は出土していない。

SK74　土層注記表

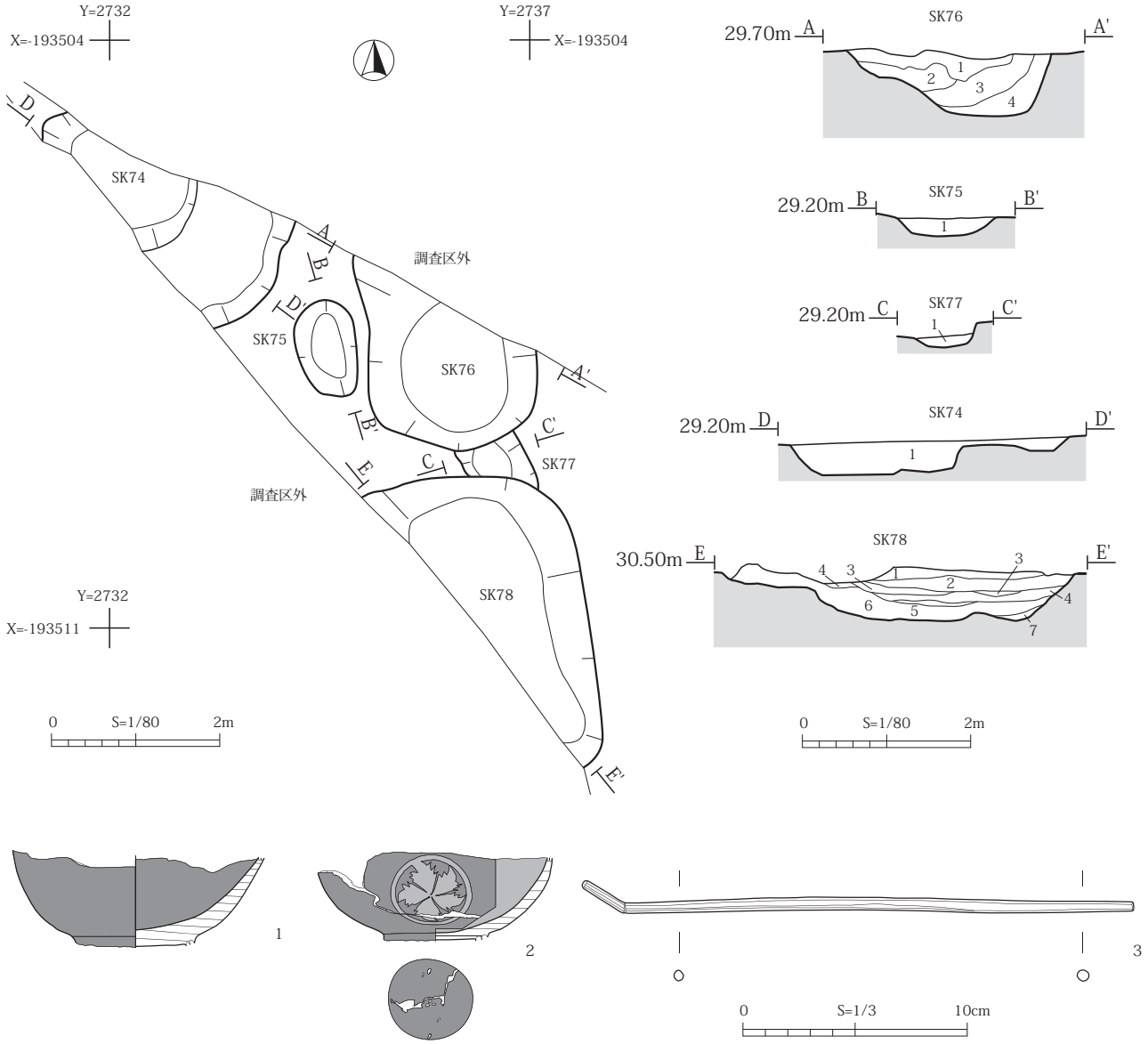
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	なし	あり	径 5㎝以下の褐色砂質シルトブロック多量

SK75　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	なし	あり	径 5㎝以下の褐色砂質シルトブロック多量

SK76　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	明黄褐色小シルトブロック。中・小礫大量
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	にぶい黄橙色大ブロック、黄橙色小ブロック。炭化物少量
3	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	にぶい黄橙色シルト。径 5mm 岡の白色粒子をやや多量
4	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子、黒褐色粒子、黄橙色粒子



SK77　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	なし	あり	径 5cm以下の褐色砂質シルトブロック多量

SK78　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	明黄褐色小シルトブロック　中・小礫大量
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	にぶい黄橙色大ブロック　黄橙色小ブロック。炭化物少量
3	2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂	なし	あり	径 5cm以下の褐色砂質シルトブロック多量
4	10YR5/1	褐灰色	シルト	あり	ややあり	にぶい黄橙色シルト　径 5mm 岡の白色粒子をやや多量
5	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子　黒褐色粒子　黄橙色粒子
6	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄褐色シルト粒　炭化物少量
7	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子　黒褐色粒子　黄橙色粒子

図版番号	写真図版番号	遺構・層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高			
1	47-3	SK74 1 層	漆器	(4.3)	(11.3)	(5.3)	ブナ属	椀　内外面：黒漆	L-562
2	47-2	SK74 1 層	漆器	(4.0)	(10.7)	(4.6)	ブナ属	椀　内面：朱漆　外面：黒漆・朱漆撫子？文	L-561

図版番号	写真図版番号	遺構・層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ			
3	47-4	SK74 1 層	木製品	24.6	1.5	0.6	ブナ属	箸	L-565

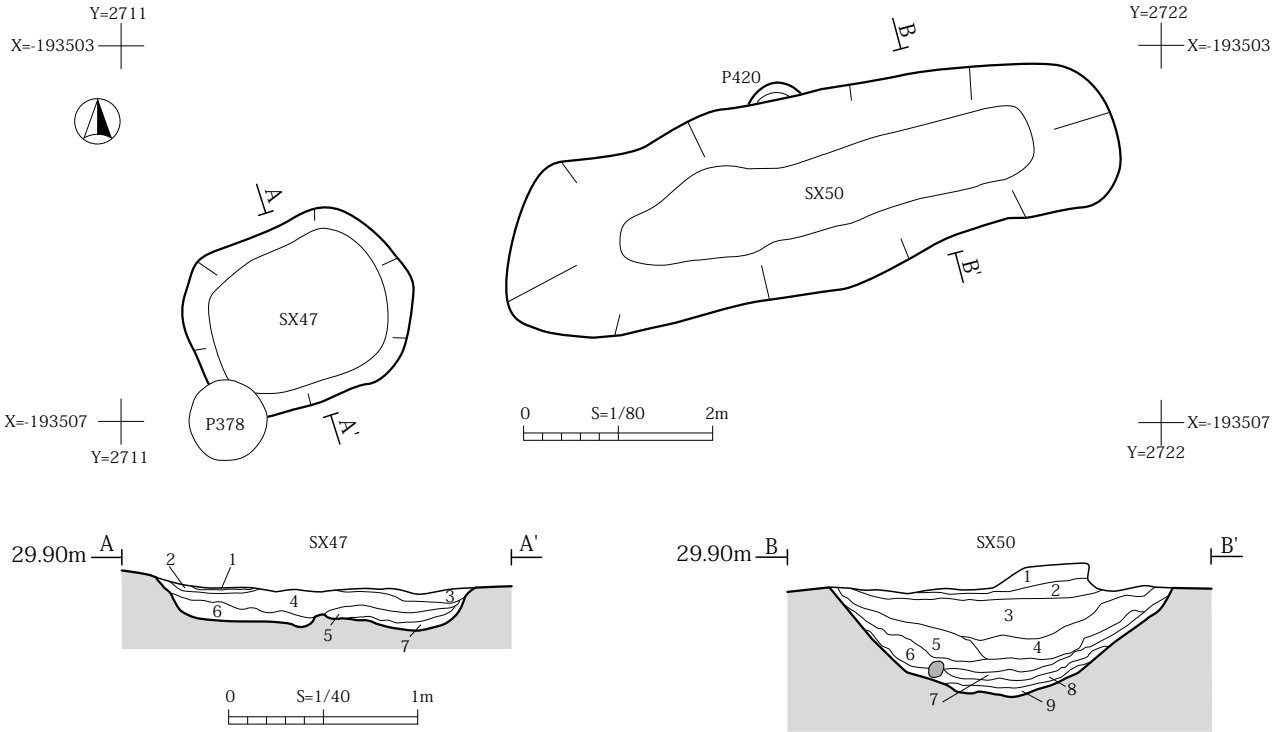
第 42 図　SK74 ～ 78 土坑平面図・断面図・出土遺物

20）SX47 性格不明遺構　（第 43 図、図版 13-5 ～ 13-6）

S11-E42 グリッドに位置する。P378 と重複し、P378 より古い。残存する規模は、長軸 246cm、短軸 195cm、深さ 19cm を測る。平面形は不整方形で、底面は起伏をもち、断面形は皿状を呈す。堆積土は７層からなり、１層および６層から７層はシルト、２層から５層は砂質シルトである。３層、６層、７層は炭化物が多く含まれている。遺物は瓦、陶器片、磁器片、土師質土器片、瓦質土器片が出土しているが細片のため図化し得なかった。

21）SX50 性格不明遺構（第 43 ～ 44 図、図版 13-5、13-7）

S11-E42 グリッドに位置する溝状の遺構である。P420 と重複し、P420 より新しい。残存する規模は、長軸 668cm、短軸 210cm、深さ 60cm を測り、主軸方位は N-77°-E を示す。平面形は長楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は半円状を呈す。堆積土は９層からなり、１層および３層から６層は砂質シルト、２層はシルト質砂、７層から９層はシルトである。３層から６層は炭化物が多く含まれている。遺物は瓦、陶器片、土師質土器、瓦質土器、鉄釘等が出土している。そのうち軒瓦２点を図示した。



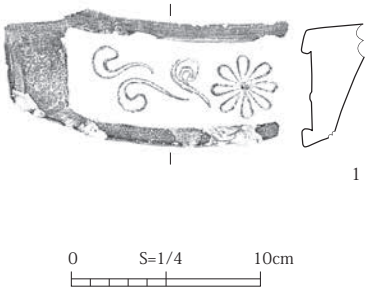
SX47　土層注記表

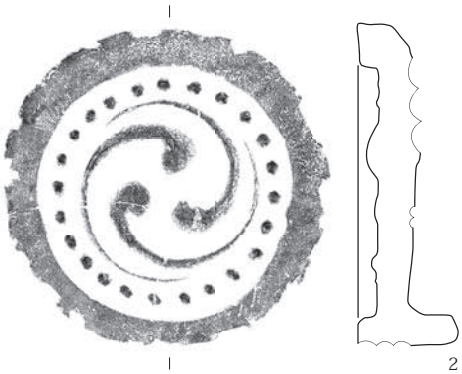
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3	にぶい黄橙色	シルト	あり	あり	明黄褐色小ブロック（10YR6/6）　黒褐色粒子（10YR3/1）
2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黒褐色粒子（10YR3/1）　にぶい黄橙色粒子（10YR6/4）
3	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	明黄褐色粒子（10YR7/6）　小・中礫多量　炭化物・有機物多量
4	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黒褐色小ブロック（10YR3/1）黄橙色粒子（10YR7/8）　小礫少量
5	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄橙色粒子（10YR6/4）　小礫微量
6	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子（10YR7/6）　小・中礫多量　炭化物・有機物多量
7	10YR6/8	明黄褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子（10YR7/6）　小・中礫多量　炭化物・有機物多量

SX50　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	明黄褐色小ブロック　中・小礫大量
2	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	黒褐色小ブロック　明黄褐色小ブロック　小礫少量
3	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	明黄褐色粒子（10YR7/6）　小・中礫多量　炭化物・有機物多量
4	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	明黄褐色粒子（10YR7/6）　小・中礫多量　炭化物・有機物多量
5	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄褐色小ブロック　黄橙色大ブロック　炭化物・有機物多量
6	10YR1.7/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄褐色粒子　黄橙色小ブロック　炭化物・有機物多量
7	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	あり	なし	明黄褐色粒子　黄橙色粒子
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	なし	黄橙色粒子
9	10YR7/8	黄橙色	シルト	あり	ややあり	にぶい黄褐色を層状に多量

第 43 図　SX47・SX50 性格不明遺構平面図・断面図





図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	47-6	４層	軒平瓦	(3.2)	(15.0)	(6.3)	菊蓮弁文　瓦当幅（14.7）、瓦当高 6.0、周縁高 0.5、谷深 (0.6)、脇区幅 3.2	G-2
2	47-5	３層	軒丸瓦	(5.3)	(17.3)	(17.1)	三ツ巴文　瓦当径 17.3、文様区径 13.3、瓦当厚 1.6、周縁高 0.9、周縁幅 2.1	F-1

第 44 図　SX50 性格不明遺構出土遺物

2　Ⅴ層上面検出遺構

Ⅴ層上面で検出された遺構は、柱列跡１条、土坑 13 基、性格不明遺構９基、合計 23 基である。調査区の中央西側部～北側で検出された土坑群は、いずれも規模が大きく、平面形、断面形が不整形なものが多い。これらは土取りなどの整地に伴う土坑の落ち込みと考えられるが、多くの遺物が出土している。また、中央部東側では石組方形土坑が検出された。

１）SA １柱列跡　（第 46 図、図版 14-1 ～ 14-5）

S13・14-E47 グリッドに位置する、南北に延びる柱列跡である。Ⅳ b 層の遺構 (SD3・SD5) に削平される。４基の柱穴からなる１列（SA1a）と、３基の柱穴からなる１列（SA1b）の計２列の柱列跡が検出された。残存する規模は、総長 613cm で、主軸方位は SA1a が N-15° -W、SA1b は N-13° -W を示す。また、SA1a と、SA1b の間は 62cm（2 尺）である。この２列は直接の重複関係がなく、同時存在か作り替えによるものかははっきりしない。

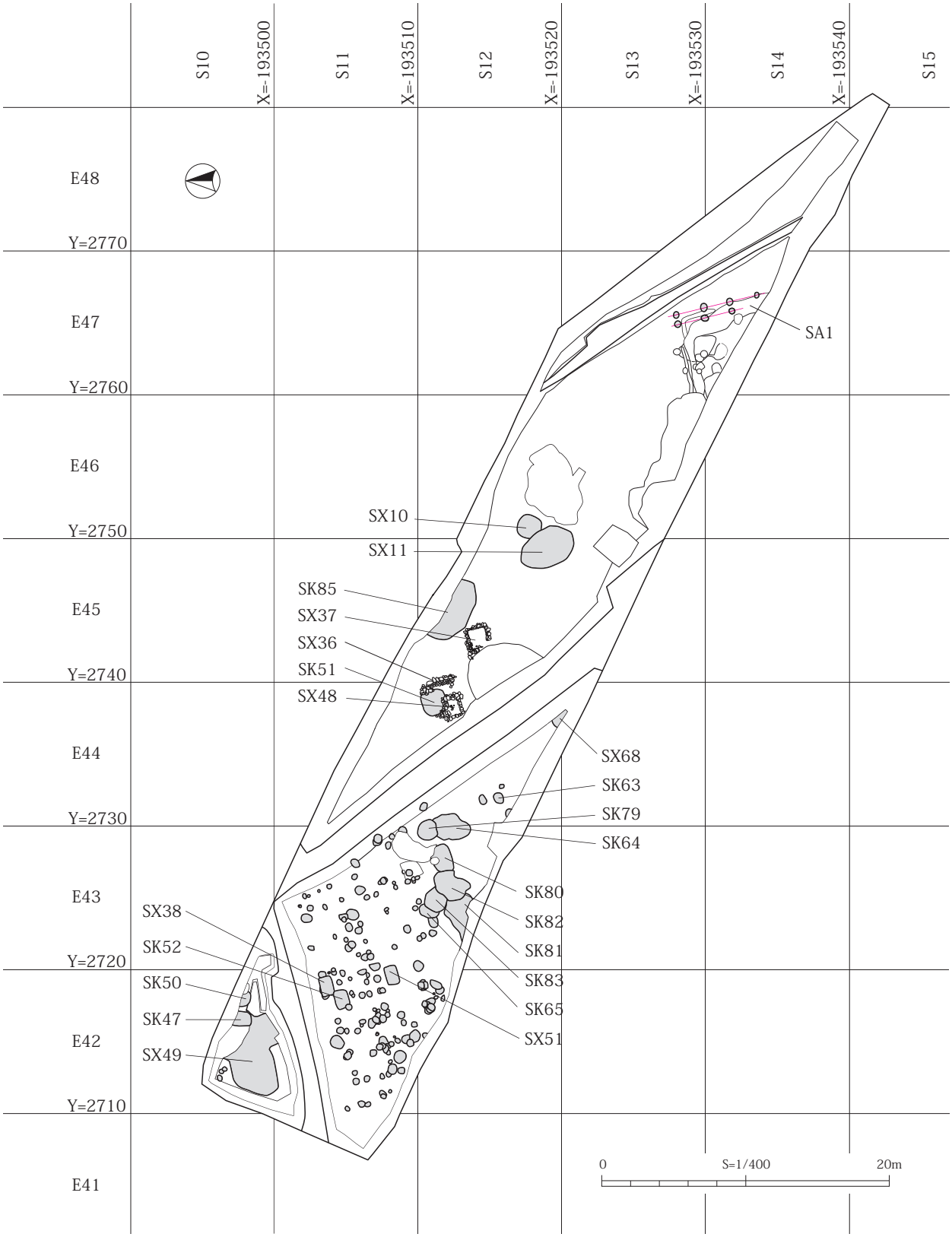
各柱穴の規模は以下のとおりである。【P1】長軸 39cm、短軸 30cm、深さ 9cm。【P2】長軸 49cm、短軸 44cm、深さ 20cm。【P3】長軸 58cm、短軸 46cm、深さ 45cm。【P4】長軸 46cm、短軸 38cm、深さ 37cm。【P5】長軸 41cm、短軸 39cm、深さ 18cm。【P6】長軸 51cm、短軸 42cm、深さ 21cm。【P7】長軸 45cm、短軸 43cm、深さ 18cm。P3 は径 12cm の柱根が残存していた。

柱間寸法は P1-P2 間 1.95m（6 尺 4 寸）、P2-P3 間 183cm（6 尺 1 寸）、P3-P4 間 2 m（6 尺 6 寸）、P5-P6 間 198cm（6 尺 5 寸）、P6-P7 間 193cm（6 尺 4 寸）を測る。

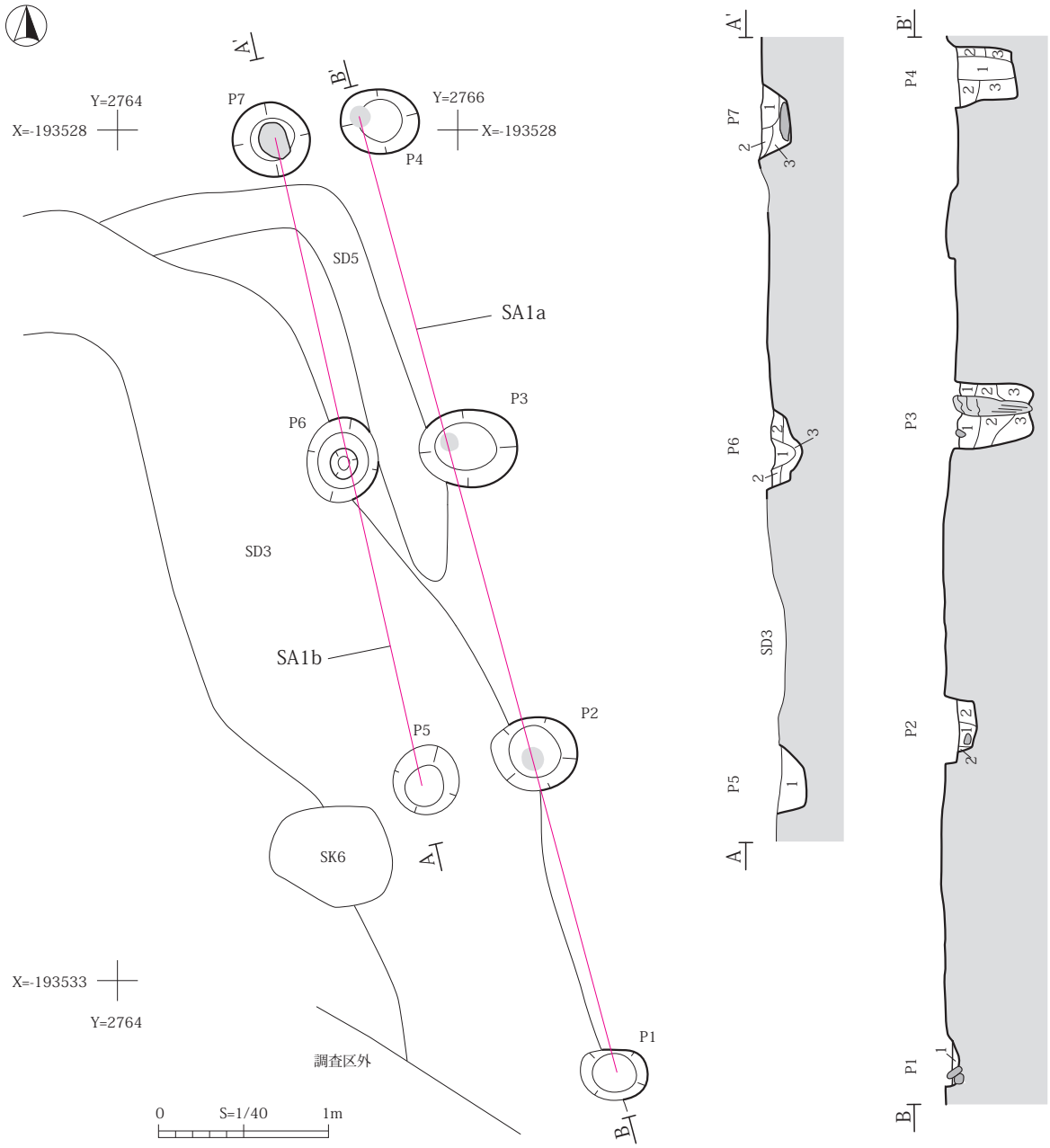
ピット	層名	土	色	土　質	粘性	しまり	備　　考
P1	1	5B3/1	暗青灰色	粘土質シルト	ややあり	なし	柱痕　グライ化
P2	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	柱痕　柱材の痕跡部分に砂が入り込んでいる
	2	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	灰黄色砂　径 5cm 以下の礫
P3	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	柱痕　柱材残存
	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	灰オリーブ色粘土ブロック　径 5cm 以下の礫・砂少量
	3	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰オリーブ色粘土小ブロック　径 3mm 以下のシルトストーン少量
P4	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	柱痕 灰オリーブ色粘土小ブロック　径 3cm 以下の礫少量
	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	灰オリーブ色粘土小ブロック　径 3cm 以下の礫・砂少量
	3	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	灰オリーブ色粘土小ブロック　径 3cm 以下の礫少量
P5	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	灰黄色砂　径 5cm 以下の礫
P6	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	柱痕　柱材残存
	2	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	なし	ややあり	灰オリーブ色粘土ブロック　径 5cm 以下の礫・砂少量
	3	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰オリーブ色粘土小ブロック　径 3mm 以下のシルトストーン少量
P7	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	柱痕　柱材残存
	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	灰オリーブ色粘土ブロック　径 5cm 以下の礫・砂少量
	3	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰オリーブ色粘土小ブロック　径 3mm 以下のシルトストーン少量

掘り方の堆積土は黄灰色の粘土質シルトもしくは砂質シルトからなり、柱痕部分はおおむね黒色粘土質シルトである。柱穴の平面形は円形ないし楕円形で、断面形は逆台形ないしＵ字状を呈す。

遺物は出土していない。



第 45 図　Ⅴ層上面検出遺構



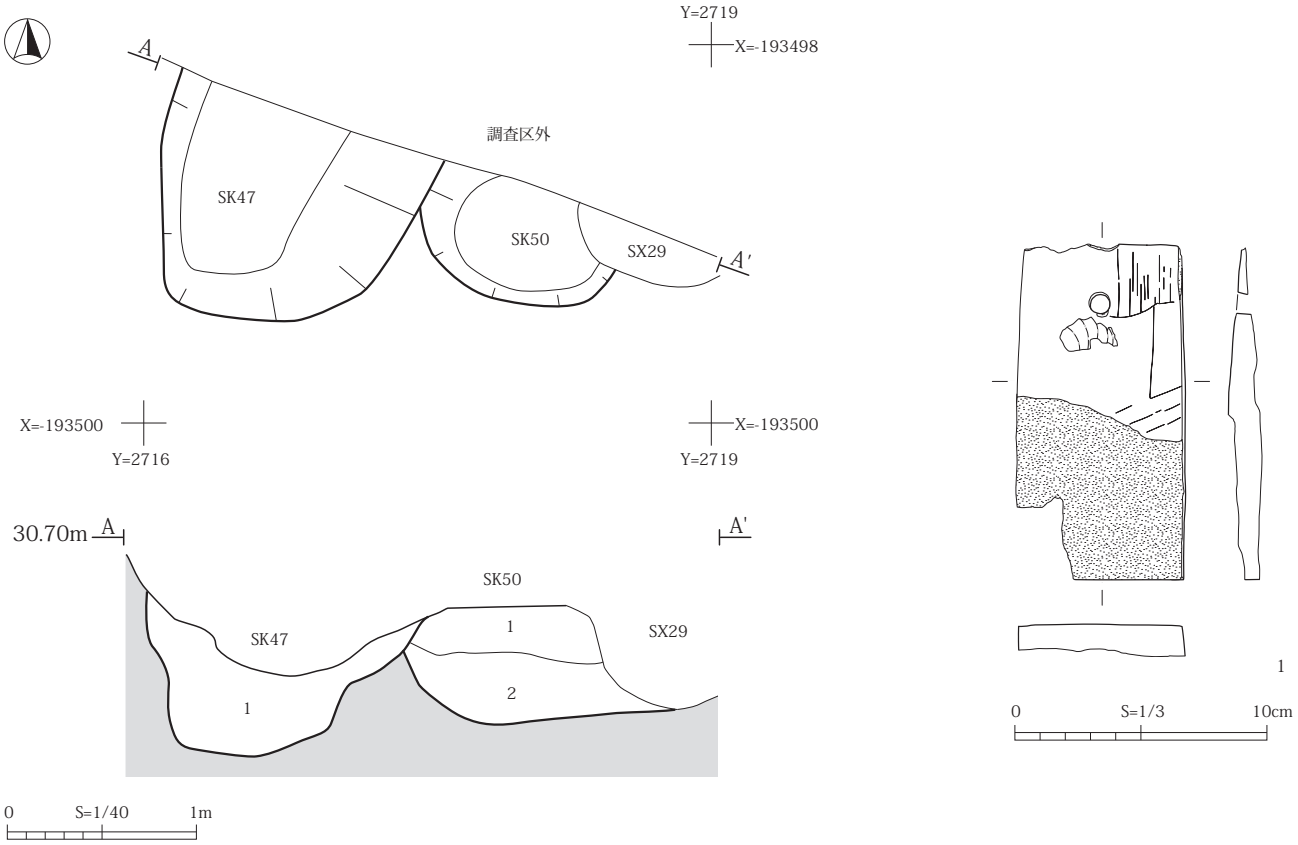
第 46 図　SA1 柱列跡平面図・断面図

2）SK47 土坑　（第 47 図、図版 14-6 ～ 14-7）

S10-E42 グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。SK50 と重複し、SK50 より新しい。残存する規模は、長軸 120cm、短軸 102cm、深さ 80cm を測る。平面形は不整長方形を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は不整逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、鉄釘等が出土している。そのうち、石製品 1 点を図示した。

3）SK50 土坑　（第 47 図、図版 14-7）

S10-E42 グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。北東側をⅣ b 層の遺構（SX29）に削平される。SK47 と重複し、SK47 より古い。残存する規模は、長軸 85cm、短軸 59cm、深さ 64cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は平坦で、断面形は U 字形を呈す。堆積土は 2 層からなり、 1 層は褐色砂質シルト、 2 層は褐灰色粘土質シルトである。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SK47　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	黒褐色粒子　褐灰色層状　炭化物微量

SK50　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	明黄褐色小ブロック　褐色小ブロック　灰黄褐色粒子　炭化物　小礫微量
2	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	黒褐色粒子　褐灰色層状　炭化物微量

図版番号	写真図版番号	遺構・層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	47-7	SK47 1層	温石	13.4	6.8	1.5	穿孔（径 7mm）	K-1

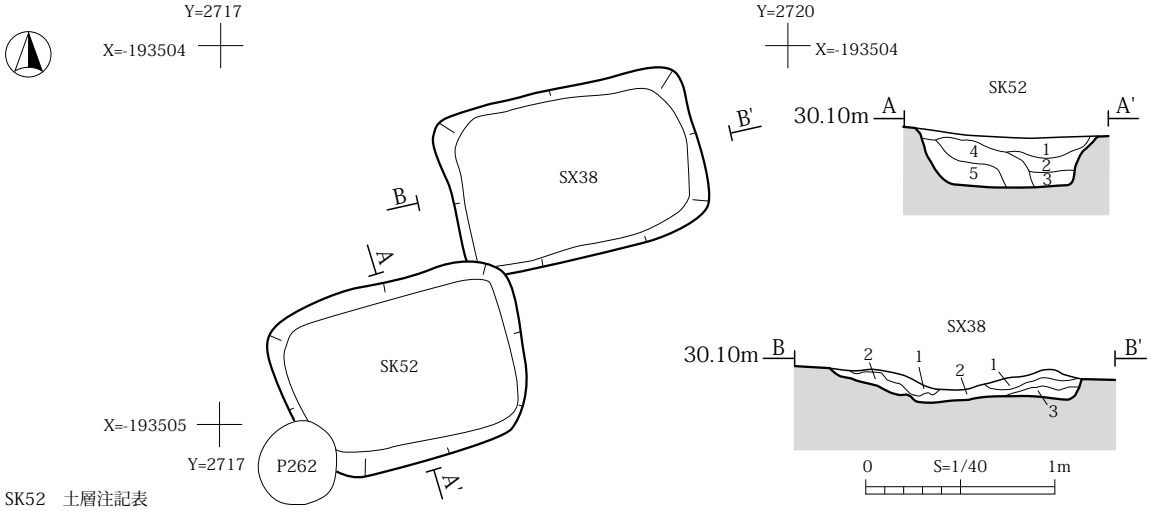
第 47 図　SK47・SK50 土坑平面図・断面図

４）SK52 土坑　（第 48 図、図版 15-1 ～ 15-2）

S11-E42 グリッドに位置する。P262、SX38 と重複し、P262 より古く、SX38 より新しい。残存する規模は、長軸 133cm、短軸 98cm、深さ 26cm を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は５層の砂質シルト層からなり。遺物は出土していない。

５）SX38 性格不明遺構　（第 48 図、図版 15-3 ～ 15-4）

S11-E42 グリッドに位置する。SK52 と重複し、SK52 より古い。残存する規模は、長軸 134cm、短軸 89cm、深さ 32cm を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面はやや起伏があるが概ね平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は３層からなり、１層は粘土質シルト、２層から３層は砂質シルトである。遺物は出土していない。



SK52　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	褐灰色小ブロック　黄褐色粒子　黄橙色粒子　炭化物微量　中・小礫多量
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄橙色粒子　褐灰色粒子　炭化物微量
3	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄褐色粒子　褐灰色粒子　黄橙色粒子　炭化物微量
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黒褐色粒子　黄橙色粒子　黄褐色粒子　炭化物微量　中・小礫多量
5	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	明黄褐色粒子　にぶい黄橙色粒子　黄褐色粒子　炭化物微量　中・小礫多量

SX38　土層注記表

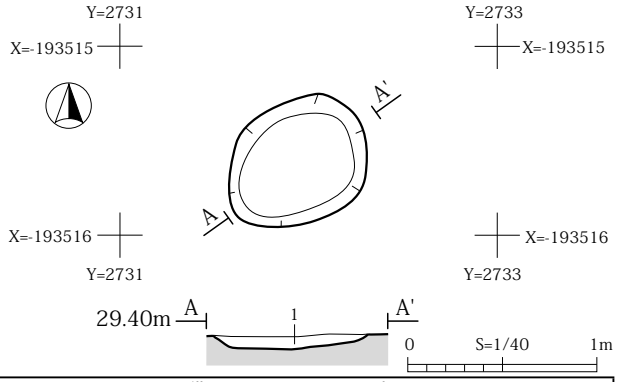
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	あり	ややあり	黒褐色小ブロック、褐灰色小ブロック、暗褐色粒子を含む。炭化物微量
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	炭化物少量
3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	にぶい黄褐色小ブロック、黒褐色小ブロック。炭化物微量

第 48 図　SK52 土坑・SX38 性格不明遺構平面図・断面図

６）SK63 土坑　（第 49 図、図版 15-5）

S12-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 73cm、短軸 69cm、深さ８cm を測る。平面形は不整楕円を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は暗青灰色粘土質シルトの単層である。

遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片等が出土しているが細片のため図化し得なかった。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	5B4/1	暗青灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	青灰色粘土質シルト小ブロック　径 5mm 以下の白色シルトストーンやや多量

第 49 図　SK63 土坑平面図・断面図

７）SK64 土坑　（第 50 ～ 52 図、図版 16-4 ～ 16-5）

S12-E43 グリッドに位置する。SK79 と重複し、SK79 より古い。残存する規模は、長軸 222cm、短軸 182cm、深さ 121cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は起伏があり、北側がテラス状に高まり、断面形は概ね逆台形を呈す。堆積土は９層からなり、３層から７層、９層は粘土質シルト、１層から２層は砂質シルト、８層はシルトである。５層以下はグライ化し変色している。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、石製品、木製品、金属製品等が出土している。そのうち陶器２点と漆器椀１点を図示した。

8）SK65 土坑　（第 50 ～ 51 図、図版 15-6、16-5）

S12-E43 グリッドに位置する。SK83 と重複し、SK83 より古い。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 61cm、深さ 31cm を測る。平面形は不整楕円を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は U 字状を呈す。堆積土は３層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。

9）SK79 土坑　（第 50 ～ 51、53 ～ 54 図、図版 16-3、16-5）

S12-E43 グリッドに位置する。SK64 と重複し、SK79 が新しい。残存する規模は、長軸 252cm、短軸 148cm、深さ 89cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、東側がテラス状に高まる。断面形は逆凸字状を呈する。堆積土は 11 層からなり、1 層から 4 層、7 層、10 層、11 層は砂質シルト、5 層、6 層、9 層は粘土質シルト、8 層はシルトである。4 層下面、および 6 層下面で層が分離できることから、少なくとも 3 段階の掘り直しがなされた可能性がある。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品等が出土している。そのうち、18 世紀前半の肥前草花文碗、17 世紀後半の瀬戸美濃菊皿、焼塩壺、金象嵌のある小柄を図示した。

10）SK80 土坑　（第 50 ～ 51、55 図、図版 16-2、16-5）

S12-E43 グリッドに位置する。北側をⅣb 層の遺構 (SX43) に削平される。P276、SK82 と重複し、SK80 が一番古い。残存する規模は、長軸 191cm、短軸 136cm、深さ 115cm を測る。平面形は不整長方形で、西側に溝状の落ち込みを有する。底面は平坦をなす。断面形は逆台形を呈す。堆積土は 9 層からなり、1 層はシルト、2 層、4 層、6 層から 9 層は粘土質シルト、3 層および 5 層は砂質シルトである。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、土師質土器片、木製品等が出土している。そのうち、17 世紀代の岸すり鉢、唐津鉄絵皿、唐津型押菊文皿、漆器椀 2 点を図示した。

11）SK81 土坑　（第 50 ～ 51、56 図、図版 15-7、16-5）

S12-E43 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。SK82、SK83 と重複し、SK81 が一番古い。残存する規模は、長軸 260cm、短軸 192cm、深さ 191cm を測る。平面形は不整形で、南側は円錐状に深く落ち込む。底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、北側はテラス状に高まる。側面は起伏が著しい。断面形は深い U 字状を呈し、北側に段を有する。堆積土は 13 層からなり、1 層から 3 層、5 層から 7 層、9 層、10 層、12 層は砂質シルト、4 層、7 層、11 層はシルト、13 層は粘土質シルトである。4 層下面、9 層下面で層が分離できることから、少なくとも 3 段階の掘り直しがなされた可能性がある。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片等が出土している。そのうち、16 世紀末～ 17 世紀初頭の志野丸皿、17 世紀前半の志野鉄絵皿、瀬戸美濃天目碗、瓦質土器火鉢、煙管、小柄を図示した。

12）SK82 土坑　（第 50 ～ 51、57 図、図版 16-1、16-5）

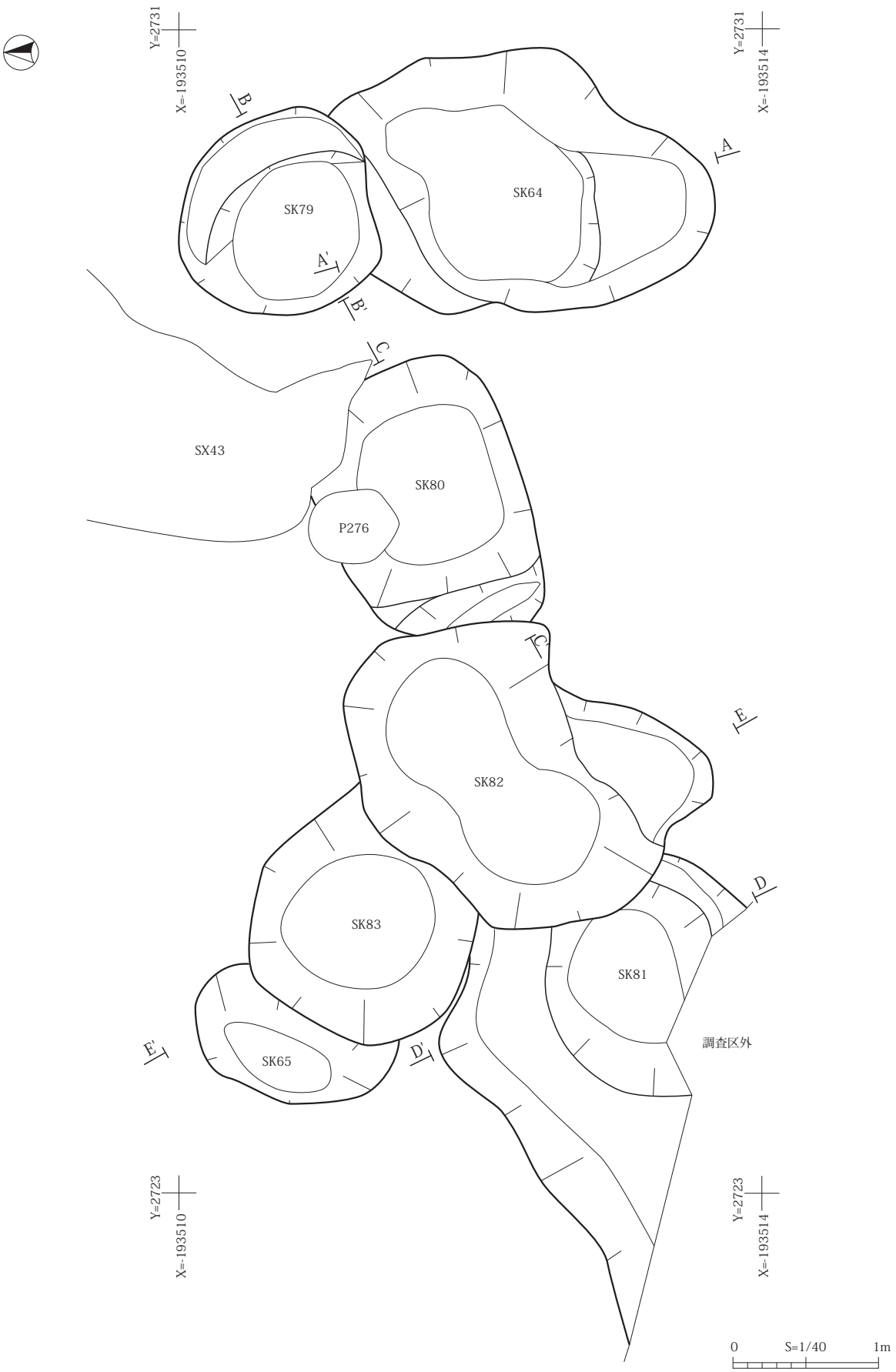
S12-E43 グリッドに位置する。SK80、SK81、SK83 と重複し、SK82 が一番新しい。残存する規模は、長軸 246cm、短軸 159cm、深さ 244cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は深い U 字状を呈す。南側に段を有する。堆積土は 7 層からなり、1 層および 4 層から 7 層は粘土質シルト、2 層はシルト、3 層は砂質シルトである。1 層および 2 層で層が分離できることから、少なくとも 2 段階の掘り直しがなされた可能性がある。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、18 世紀前半の肥前碗、肥前陶器碗、瓦 1 点を図示した。

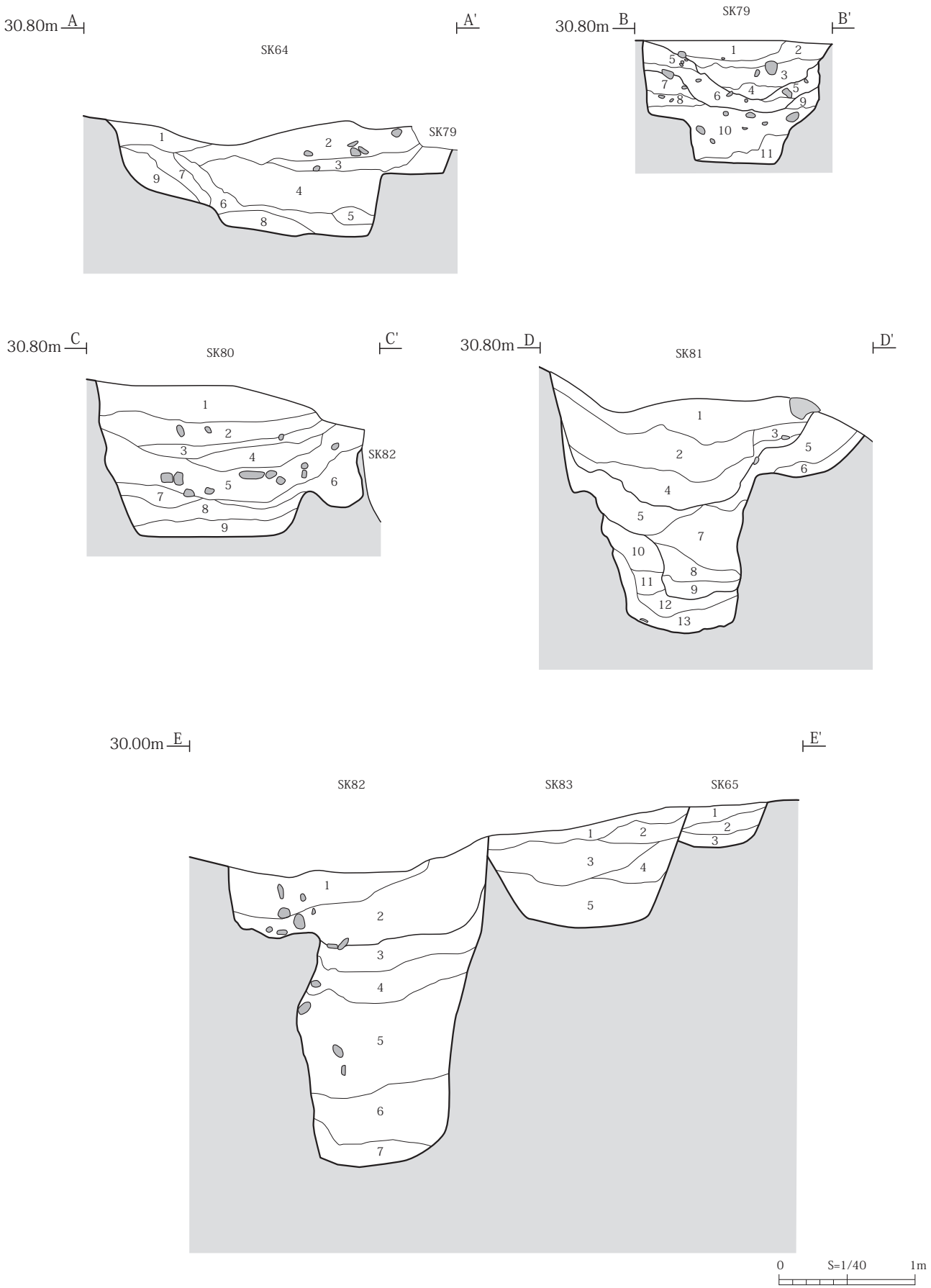
13）SK83 土坑　（第 50 ～ 51 図、図版 15-6、16-5）

S12-E43 グリッドに位置する。SK65、SK82 と重複し、SK82 より古く、SK65 より新しい。残存する規模は、長軸 162cm、短軸 136cm、深さ 87cm を測る。平面形は不整円で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は 5 層の粘土質シルト層からなる。

遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第 50 図　SK64・65・79 ～ 83 土坑平面図



第 51 図　SX64・65・79 ～ 83 土坑断面図

SK64　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 3cm 以下の礫少量
2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 3cm 以下の礫少量
3	5B2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 25cm 以下の礫・微細な白色粒子少量
4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐黄色粘土質シルトブロック　青灰色砂ブロックとの互層状堆積　酸化鉄分
5	5PB3/1	暗青灰色	粘土質シルト	なし	ややあり	青灰色粘土質シルトブロック　青灰色砂ブロック　径 10cm 以下の礫少量
6	5B6/1	青灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	暗青灰色粘土質シルト小ブロック
7	5PB2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	なし	木質・動物遺体を多量
8	5PB2/1	青黒色	シルト	あり	なし	木質・動物遺体を多量
9	5PB2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	なし	青灰色粘土質シルト小ブロック　動植物遺体少量

SK65　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	灰白色砂　径 10 ～ 40cm 程度の礫多量　炭化物・酸化鉄分少量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	灰白色砂ブロック　径 10cm 以下の礫・炭化物・酸化鉄分少量
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	地山ブロック（浅黄色シルト 2.5Y7/3）　炭化物、酸化鉄分少量

SK79　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	にぶい黄褐色砂質シルト　黒褐色シルト　シルトストーン　酸化鉄分少量
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄橙色砂　褐灰色砂質シルトとの互層状堆積　径 5cm 以下の礫少量
3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄褐色砂質シルト　にぶい黄橙色砂のブロック　径 5cm 以下の礫少量
4	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	にぶい黄橙色砂　下部に砂多量　酸化鉄分少量
5	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	灰黄褐色粘土質シルト　にぶい黄橙色粘土質シルト　炭化物少量
6	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 8cm 以下の礫
7	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	黒褐色粘土質シルト　径 5cm 以下の礫　シルトストーン多量
8	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	ややあり	灰黄褐色砂質シルト　径 7cm 以下の礫　酸化鉄分
9	3PB2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	あり	酸化鉄分　径 2cm 以下の地山ブロック少量
10	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄橙色砂小ブロック（10YR7/3）　径 5cm 以下の礫少量
11	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	にぶい黄橙色砂　黒褐色粘土質シルトとの互層状堆積

SK80　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	褐灰色粘土質シルトブロック　径 5cm 以下のシルトストーン少量
2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐灰色粘土質シルト大ブロック　径 5cm 以下の礫少量　シルトストーン多量
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	褐灰色粘土質シルト大ブロック
4	N2/	黒色	粘土質シルト	あり	なし	植物遺体含有層
5	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	褐灰色シルト大ブロック　径 10cm 以下のシルトストーンブロック
6	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 10cm 以下の礫多量　有機物遺存体含有層　炭化物多量
7	N2/1	黒色	粘土質シルト	あり	ややあり	青灰色粘土質シルトブロック（グライ化したⅦ層）
8	10BG6/1	青灰色	粘土質シルト	あり	なし	青灰色粘土質シルトブロック（グライ化したⅦ層）多量
9	N2/1	黒色	粘土質シルト	あり	ややあり	青灰色粘土質シルトブロック（グライ化したⅦ層）多量

SK81　土層注記表

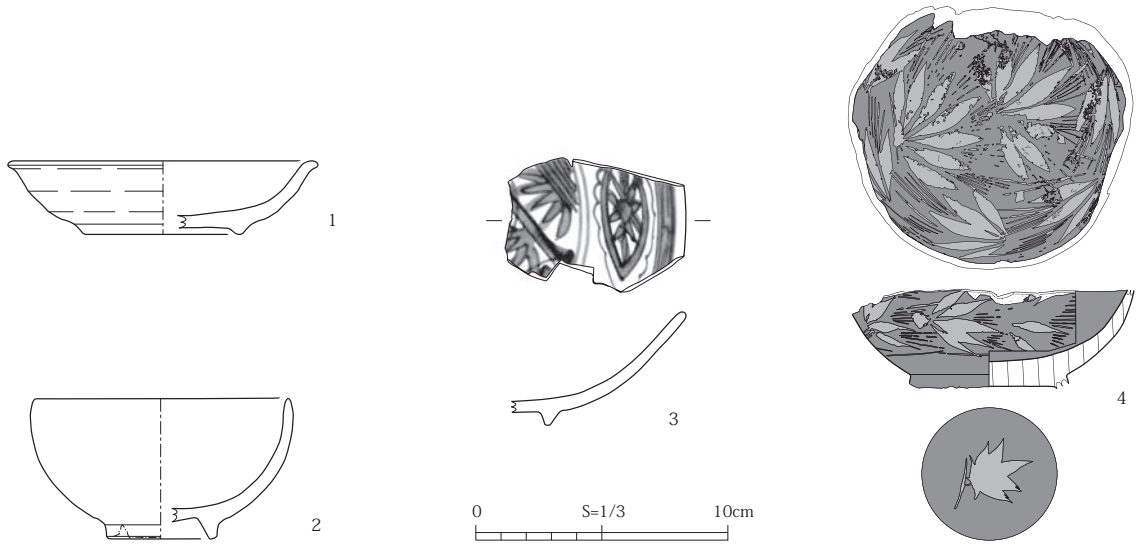
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	灰白色砂。径 10 ～ 40cm 程度の礫多量　炭化物・酸化鉄分少量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	灰白色砂ブロック　径 10cm 以下の礫・炭化物・酸化鉄分少量
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	地山ブロック（浅黄色シルト 2.5Y7/3）　炭化物、酸化鉄分少量
4	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	ややあり	ややあり	黄灰色シルトブロック　径 3cm 以下の礫・炭化物少量
5	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	黄灰色シルトブロック　径 2cm 以下の礫・炭化物少量
6	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄灰色シルト小ブロック　径 2cm 以下の礫・炭化物少量
7	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	褐灰色シルトブロック　シルトストーン　炭化物　酸化鉄分少量
8	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	なし	ややあり	灰黄褐色砂質シルト　黄灰色シルト　シルトストーン　炭化物　酸化鉄分少量
9	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄灰色シルト小ブロック　白色～黄色のシルトストーン多量
10	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	灰黄色シルト（2.5Y6/2）　白色粒子をやや多量
11	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	炭化物・酸化鉄分少量
12	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	褐灰色砂質シルト　地山ブロック・炭化物少量
13	2.5Y7/6	明黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰黄色砂質シルト　径 15cm 以下の礫少量　炭化物をやや多量

SK82　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	暗青褐色粘土質シルト小ブロック　5cm 以下の礫少量　酸化鉄分をやや多量
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	暗青褐色シルト小ブロック（5B3/1）　径 10cm 以下の礫をやや多量
3	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10cm 以下の地山ブロック少量　径 2cm 以下の白色シルトストーン少量
4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	黄褐色粘土質シルトブロック
5	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	灰黄褐色粘土質シルトブロック　最下部に酸化鉄分集積
6	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	明黄褐色粘土質シルト小ブロック　2cm 以下の炭化物多量　5cm 以下の礫少量
7	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	灰黄褐色粘土質シルトブロック　黒色粘土質シルトブロック

SK83　土層注記表

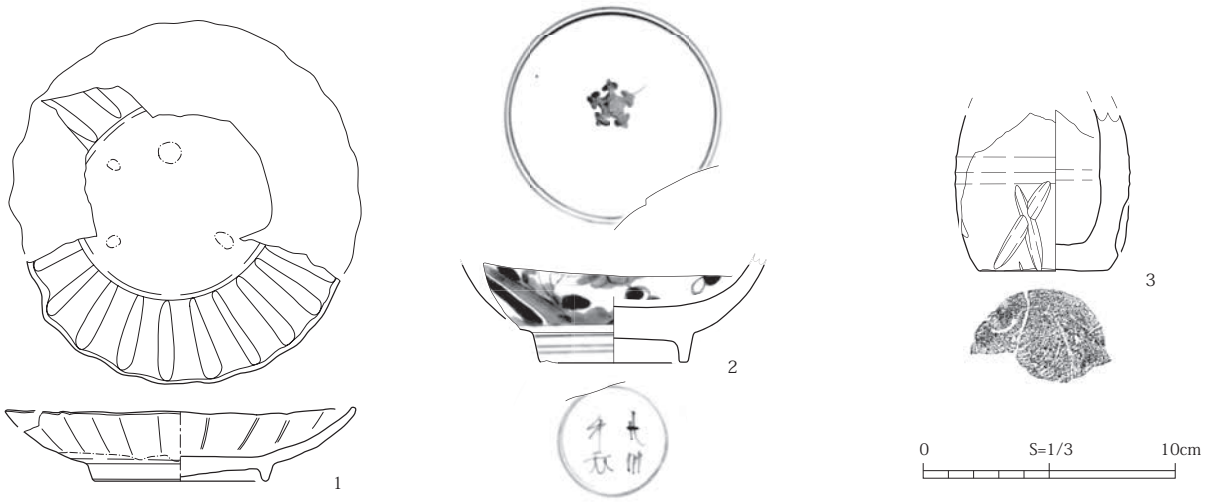
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	5PB3/1	暗青灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 5cm 以下の礫少量
2	10YR7/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	あり	ややあり	地山ブロック。酸化鉄分多量
3	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 5cm 以下の礫少量
4	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	地山小ブロック微量
5	2.5Y2/1	黒色	粘土質シルト	あり	ややあり	地山ブロック少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	47-8	7 層	陶器	皿	口縁～底部	粗	12.4	6.2	3.0	志野	17 世紀後半	志野釉	I-19
2	47-9	7 層	陶器	碗	口縁～底部	粗	10.0	4.1	5.6	大堀相馬	18 世紀	灰釉	I-21
3	93-7	3 層	磁器	皿	口縁～底部	密	―	―	4.5	中国	16 世紀後半	漳州窯　同一個体と思われる破片あり	J-41

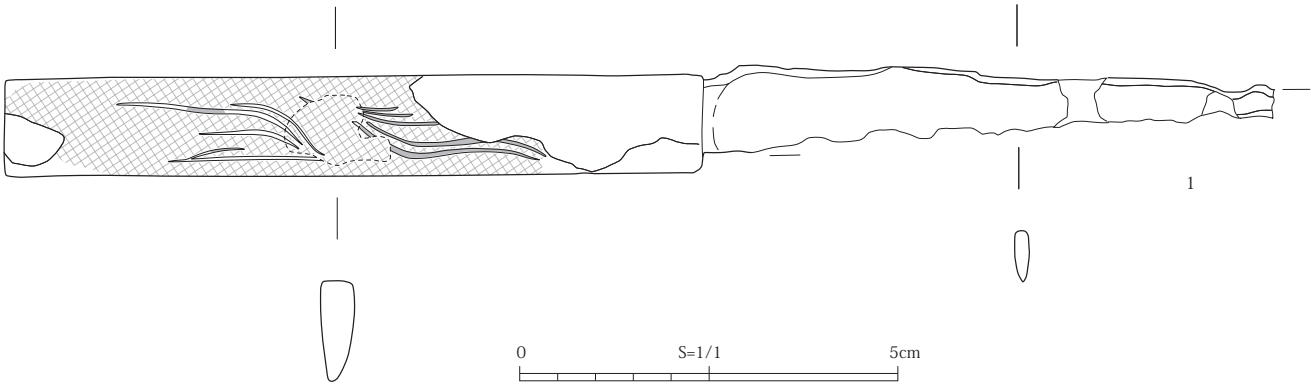
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高			
3	48-1	7 層	漆器	(3.9)	(11.5)	(5.5)	ブナ属	椀　内外面：黒漆・朱漆笹文	L-546

第 52 図　SK64 土坑出土遺物



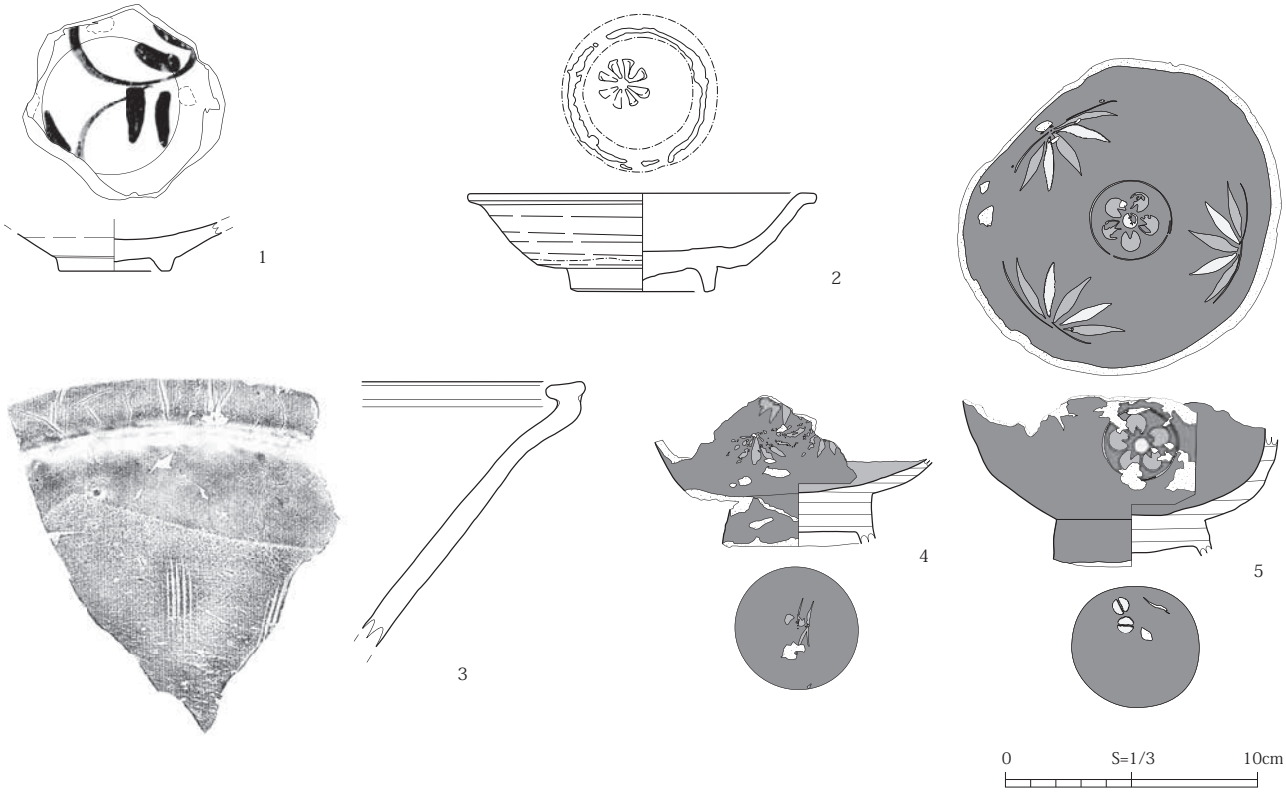
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	48-2	7 層	陶器	菊花皿	口縁～底部	やや粗	(13.9)	6.8	2.8	瀬戸・美濃	17 世紀後半～18 世紀前半	菊型押し　目跡 4 箇所	I-32
2	48-4	9 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(12.0)	5.8	(4.0)	肥前	18 世紀前半	外面：草花文　内面：二重圏線 コンニャク五弁花	J-44
3	48-3	4 層	土師質土器	焼塩壺	口縁～体部	粗	-	(6.0)	(6.6)	在地	近世	内面：ロクロナデ、タタキ目 (底部付近ヘラケズリ？) 底部：回転糸切り後ミガキ　ロクロ：右	I-35

第 53 図　SK79 土坑出土遺物（１）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	48-5	4 層	金属製品	16.8	1.4	0.5	小柄　金象嵌文様あり　第 15 表（P199）参照	N-278

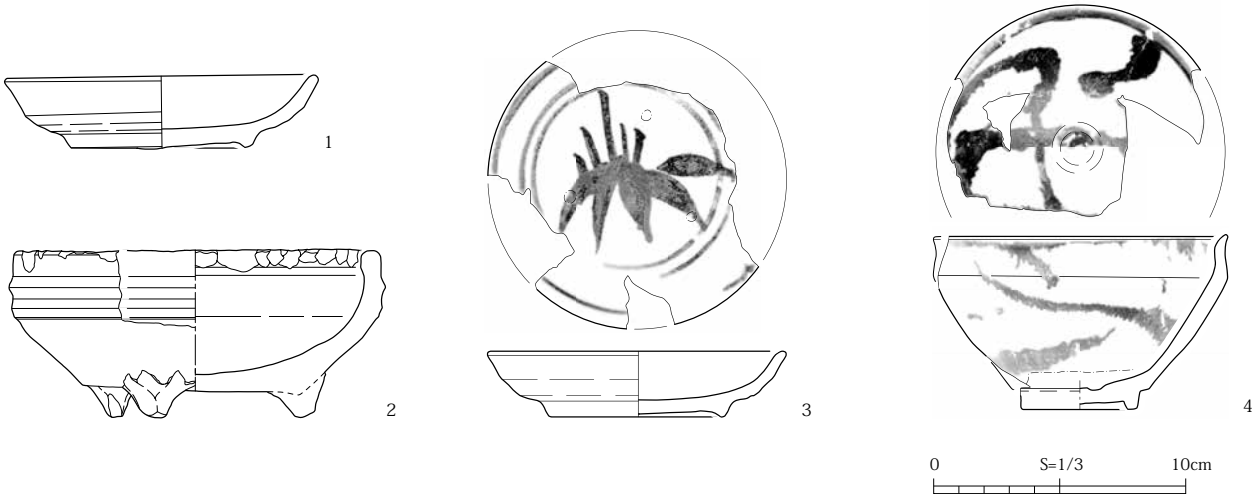
第 54 図　SK79 土坑出土遺物（2）



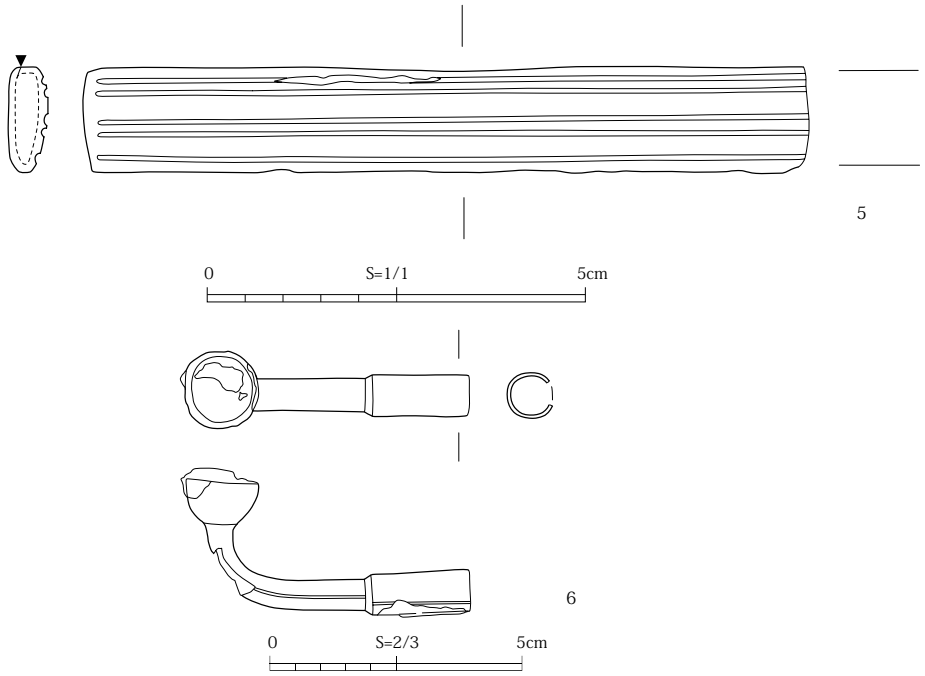
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	48-6	6 層	陶器	皿	体部～底部	粗	-	4.6	(2.1)	唐津	17 ～ 18 世紀	鉄絵草文	I-41
2	48-7	5 層	陶器	輪禿皿	口縁～底部	粗	13.8	5.7	3.9	瀬戸美濃	17 世紀中頃？	内:灰釉、貫入あり、見込みに輪剥、重ね焼き痕あり、型押し菊花文？　外：灰釉、貫入あり　轆轤左回転	I-37
3	48-8	5 層	陶器	擂鉢	口縁～体部	やや粗	-	-	(10.6)	岸	17 世紀後半		I-38

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高			
4	49-2	4 層	漆器	(6.0)	(11.4)	(6.1)	ブナ属	椀　内面：朱漆　外面：黒漆・朱漆笹文？　外底：黒漆・朱漆文様	L-553
5	49-1	4 層	漆器	(6.8)	(12.8)	(6.2)	ブナ属	椀　内外面：黒漆・朱漆（一部黄漆）笹文、梅文	L-552

第 55 図　SK80 土坑出土遺物

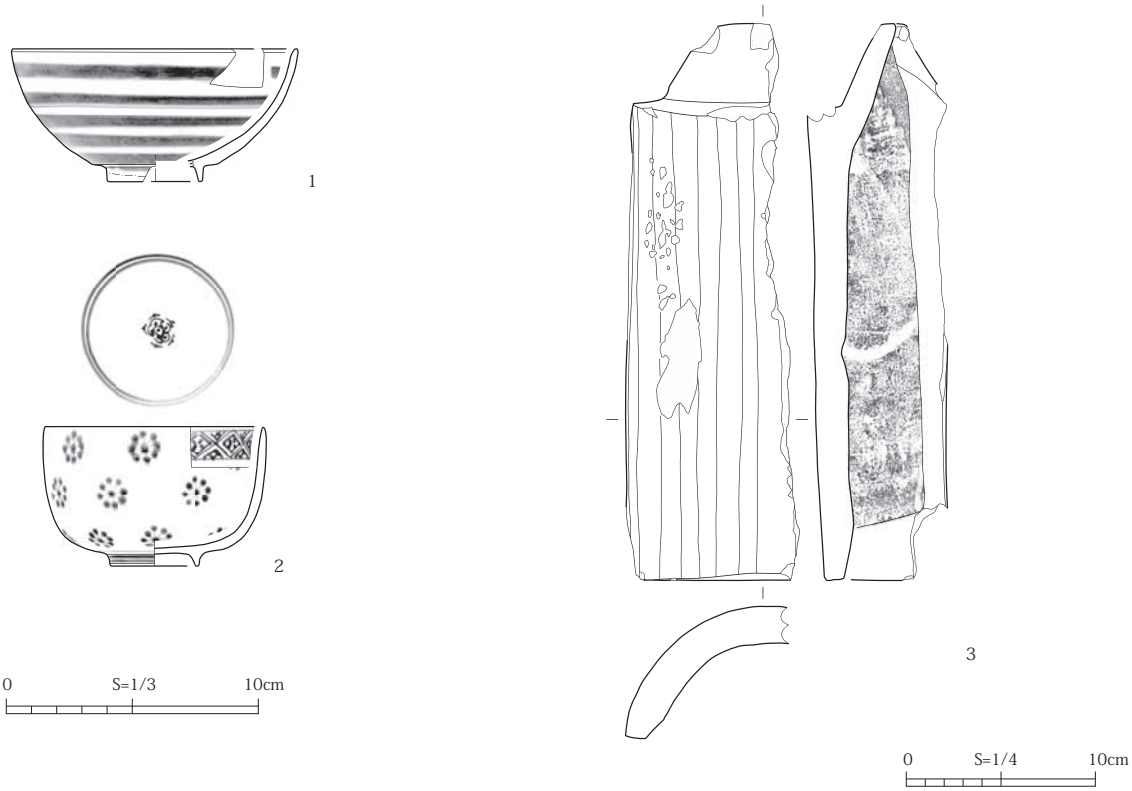


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	49-3	２層	陶器	皿	口縁～底部	粗	12.4	7.2	2.9	志野	16 世紀末～17 世紀前半	内:志野釉 (長石釉)、貫入あり　外:志野釉 (長石釉)、貫入あり　高台内：目痕×3　ロクロ：右　内径 11.6	I-840
2	49-6	10 層	瓦質土器土器	火鉢	口縁～底部	粗	(14.5)	8.4	6.7	在地	不明	三足　突帯２条　口唇部敲打痕あり　灰吹転用か	I-841
3	49-4	11 層	陶器	皿	口縁～底部	粗	(11.5)	6.8	2.6	志野	17 世紀後半	鉄絵笹文　目痕３箇所	I-846
4	49-5	11 層	陶器	天目碗	口縁～底部	やや密	(11.5)	4.4	(6.9)	瀬戸・美濃	18 世紀	柿釉・鉄釉流し掛け	I-849



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
5	49-8	４層	金属製品	9.6	1.4	0.5	小柄　平行凹線５条　第 15 表（P199）参照	N-279
6	49-7	４層	金属製品	5.7	1.6	3.0	煙管（銅製）	N-217

第 56 図　SK81 土坑出土遺物



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	49-9	2 層	陶器	碗	口縁～底部	密	(11.4)	3.6	(5.3)	肥前	18 世紀後半	灰釉　鉄絵組文	I-50
2	50-1	3 層	磁器	碗	口縁～底部	密	8.7	3.4	5.6	肥前	18 世紀後半	外面：菊文　内面：四方襷　見込み：五弁花　二重圏線	J-53

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
3	50-2	3 層	丸瓦	29.2	(9.9)	1.9	外面：ヨコナデ　ヘラケズリ　内面：コビキＢ　布目圧痕	F-6

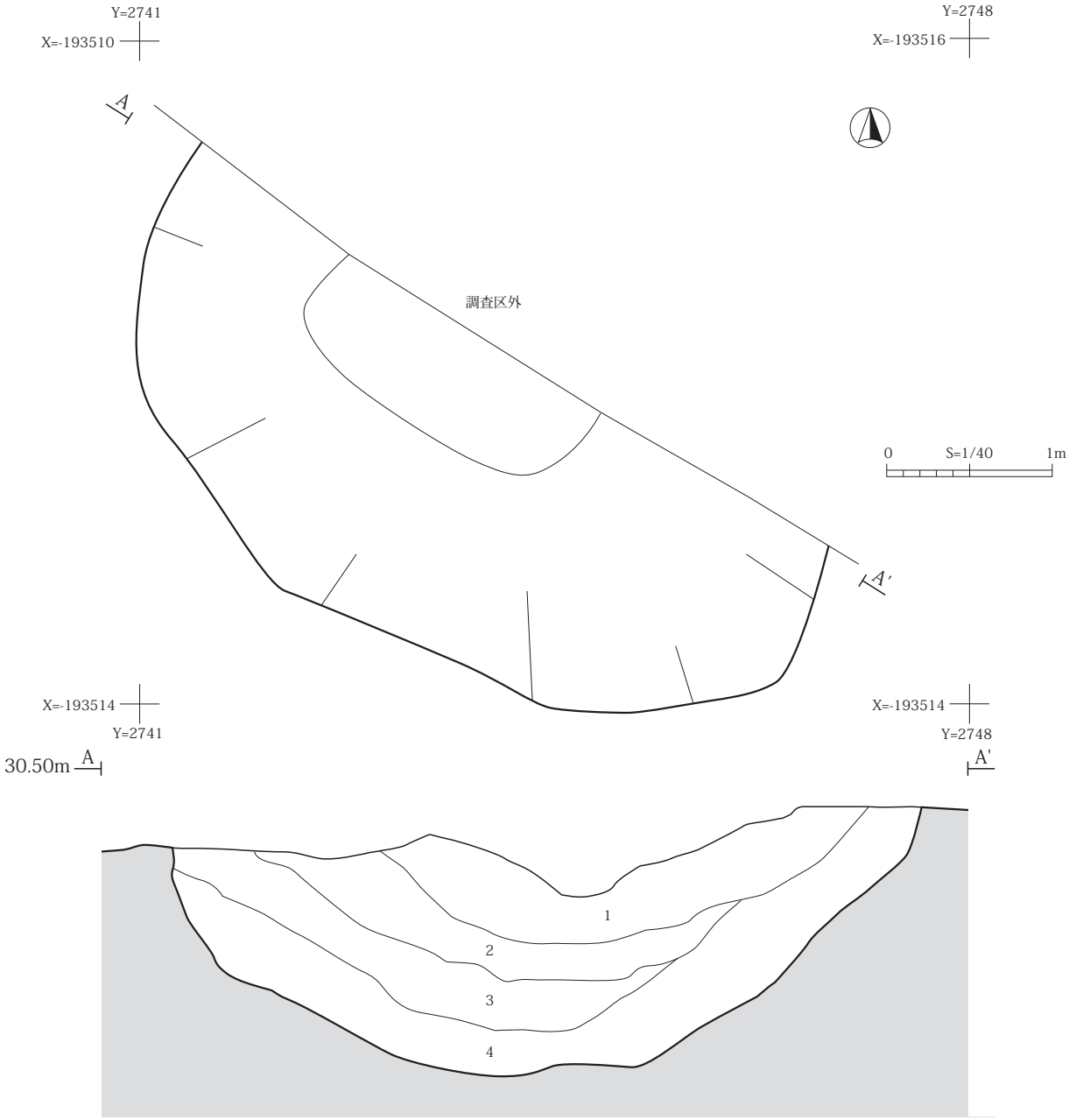
第 57 図　SK82 土坑出土遺物

14）SK85 土坑　（第 58 図、図版 17-1 ～ 17-2）

S12-E45 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 453cm、短軸 175cm、深さ 184cm を測る。平面形はおそらく不整楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は 4 層からなり、1 層は砂質シルト、2 層から 4 層は粘土質シルトである。遺物は出土していない。

15）SX10 性格不明遺構　（第 59 図、図版 17-3 ～ 17-4）

S12-E45 グリッドに位置する。SX11 と重複し、SX11 より古い。残存する規模は、長軸 403cm、短軸 261cm、深さ 100cm を測る。平面形は不整楕円形で、断面形は逆台形を呈す。底面ではいくつかの工具痕が確認された。検出面から 80cm 以下では、周辺のⅦ層の土質が粘土質シルトから岩盤層に変わっており、この岩盤層を掘り下げた時の痕跡と思われる。堆積土は 2 層からなり、1 層は砂質シルト、2 層は粘土質シルトである。遺物は出土していない。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10cm 以下の地山ブロック　径 2cm 以下の白色シルトストーン少量
2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	黄褐色粘土質シルトブロック
3	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	灰黄褐色粘土質シルトブロック
4	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	明黄褐色粘土質シルト小ブロック　2cm 以下の炭化物多量　5cm 以下の礫少量

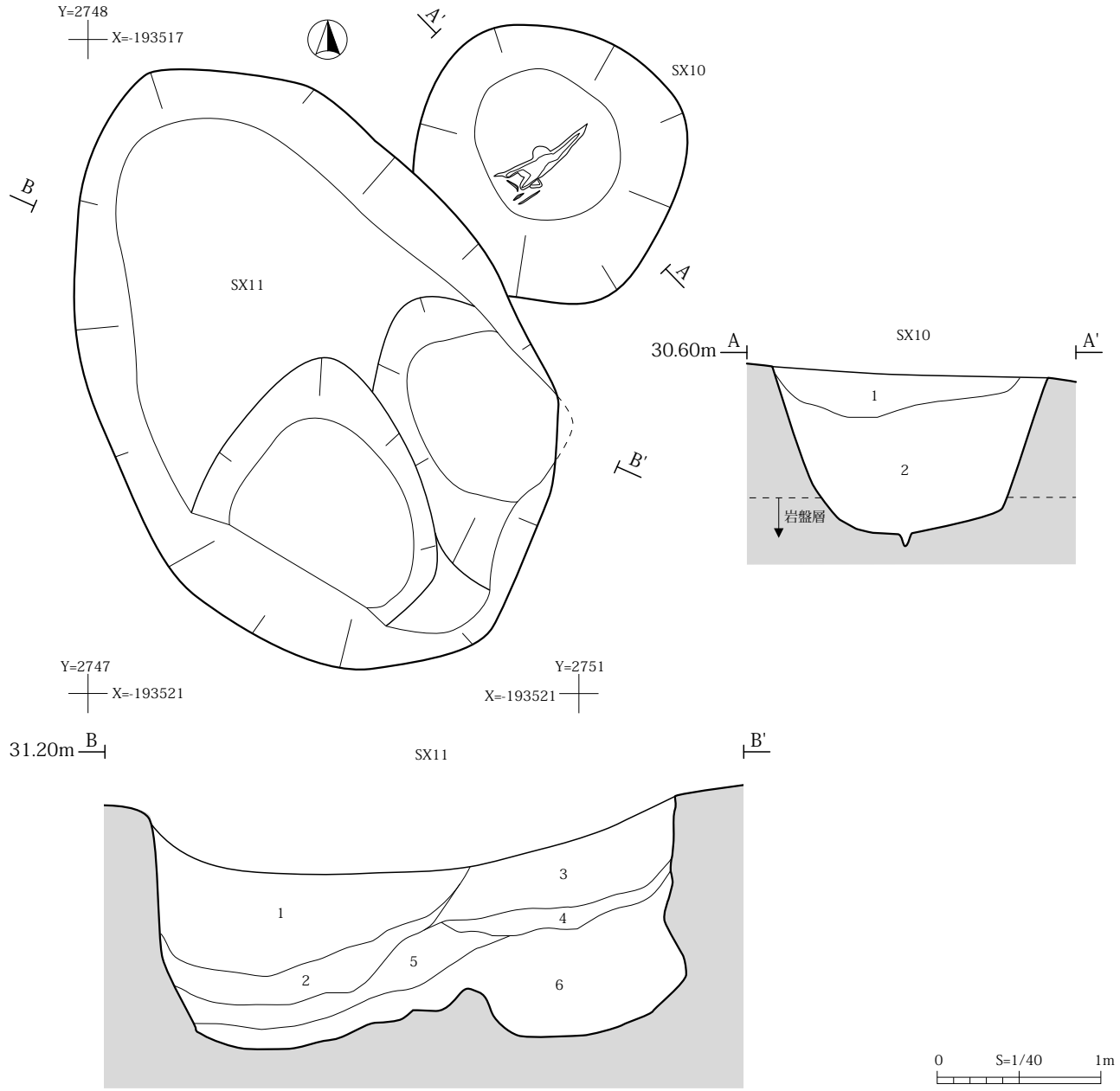
第 58 図　SK85 土坑平面図・断面図

16）SX11 性格不明遺構　（第 59 図、図版 17-5 ～ 17-6）

S12-E46 グリッドに位置する。SX11 と重複し、SX11 より古い。残存する規模は、長軸 178cm、短軸 152cm、深さ 164cm を測る。平面形は不整円形で、断面形は逆台形を呈し、側面は一部オーバーハングする。底面は起伏があり、北西側に緩やかに傾斜する。また、南側は東西に並んで更に落ち込む箇所がある。堆積土は６層からなり、１層から４層は砂質シルト、５層および６層は粘土質シルトである。SX10 の掘り込み側面で見られた岩盤層は確認されなかった。遺物は出土していない。

17）SK51 土坑　（第 60 ～ 61 図、図版 17-7）

S12-E44 グリッドに位置する。SX36、SX48 と重複し、SK51 が一番新しい。残存する規模は、長軸 173cm、短



SX10　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	褐灰色シルト大ブロック　径 10cm 以下のシルトストーンブロック
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 10cm 以下の礫・炭化物多量　動植物遺存体含有層

SX11　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	にぶい黄褐色砂質シルト　黒褐色シルト　シルトストーン　酸化鉄分少量
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄橙色砂　褐灰色砂質シルトとの互層状堆積　径 5cm 以下の礫少量
3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	にぶい黄褐色砂質シルト　にぶい黄橙色砂のブロック　径 5cm 以下の礫少量
4	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	にぶい黄橙色砂　酸化鉄分少量
5	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	灰黄褐色粘土質シルト　にぶい黄橙色粘土質シルト　炭化物少量
6	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 8cm 以下の礫

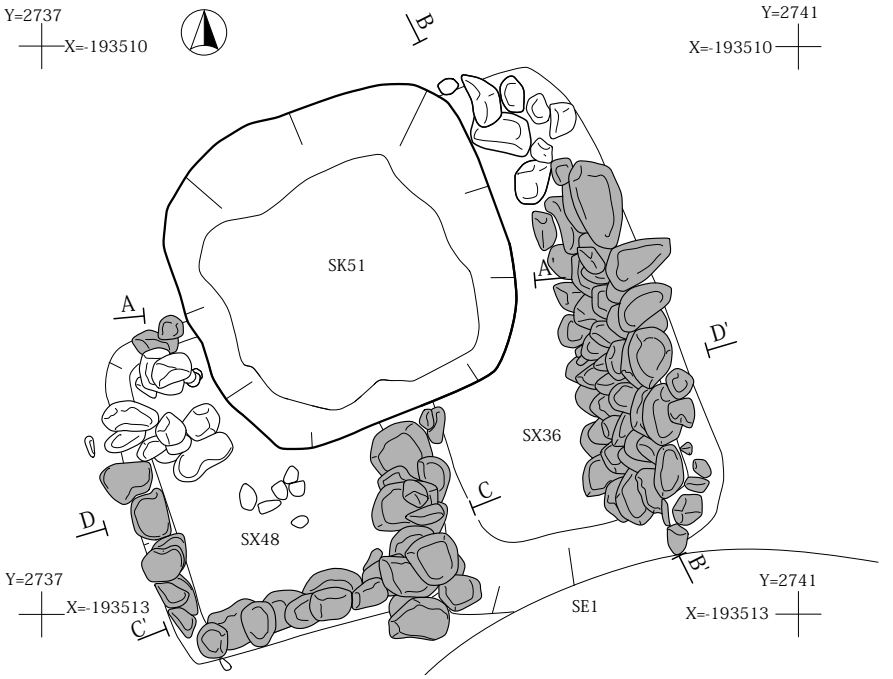
第 59 図　SX10・SX11 性格不明遺構平面図・断面図

軸 169cm、深さ 48cm を測る。平面形は不整方形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

18）SX36 石組遺構　（第 60 ～ 61 図、図版 17-8、18-1）

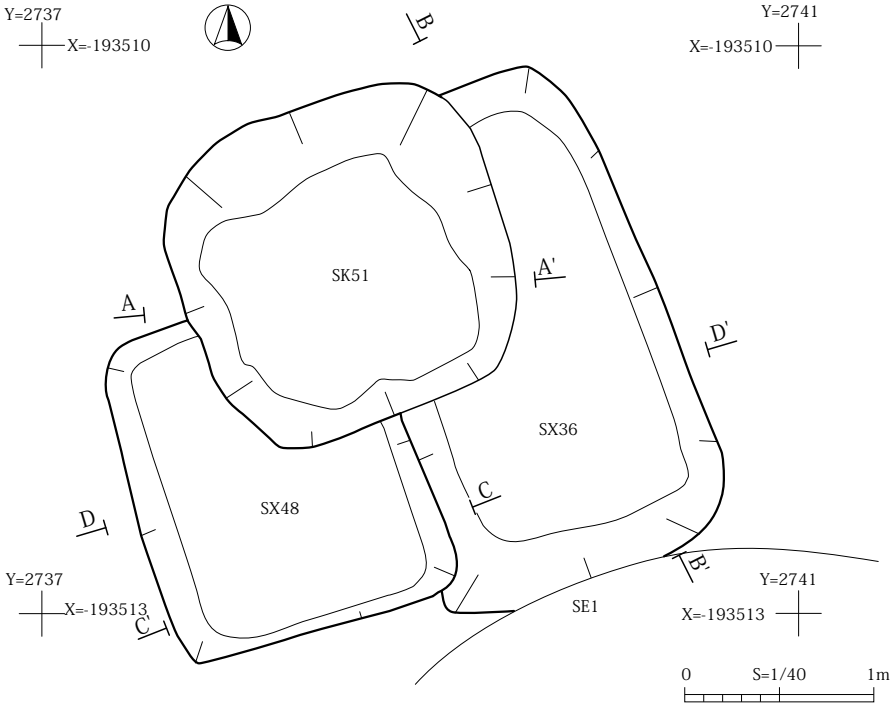
S12-E44 グリッドに位置する。方形の石組土坑と思われるが、石組みは東側部分しか残存しない。SK51、SX48 と重複し、SX36 が一番古い。残存する規模は、長軸 266cm、短軸 143cm、深さ 53cm を測る。石組みは、径 10

～ 25cm 前後の自然礫を 5 ～ 6 段積み重ね、上端には幅 30 ～ 40cm 前後の礫を用いている。石組み側面の傾斜角は 60°を測る。平面形は長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトで、掘り方の埋土は黒褐色粘土質シルトで礫を少量含む。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、石製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



19）SX48 石組遺構　（第 60 ～ 61 図、図版 18-2）

S12-E44 グリッドに位置する、方形の石組土坑である。SK51、SX36 と重複し、SK51 より古く、SX36 より新しい。残存する規模は、長軸 178cm、短軸 158cm、深さ 25cm を測る。石組は、径 16 ～ 27cm 前後の自然礫で築かれる。石組の内幅 112 ～ 125cm、外幅 168 ～ 180cm、石組み側面の傾斜角 81 ～ 90°を測る。平面形は不整方形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトで、掘り方の埋土は黒褐色粘土質シルトで礫を少量含む。遺物は出土していない。



SX36　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	黄褐色粘土質シルトブロック
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 1 ～ 3cm の礫少量

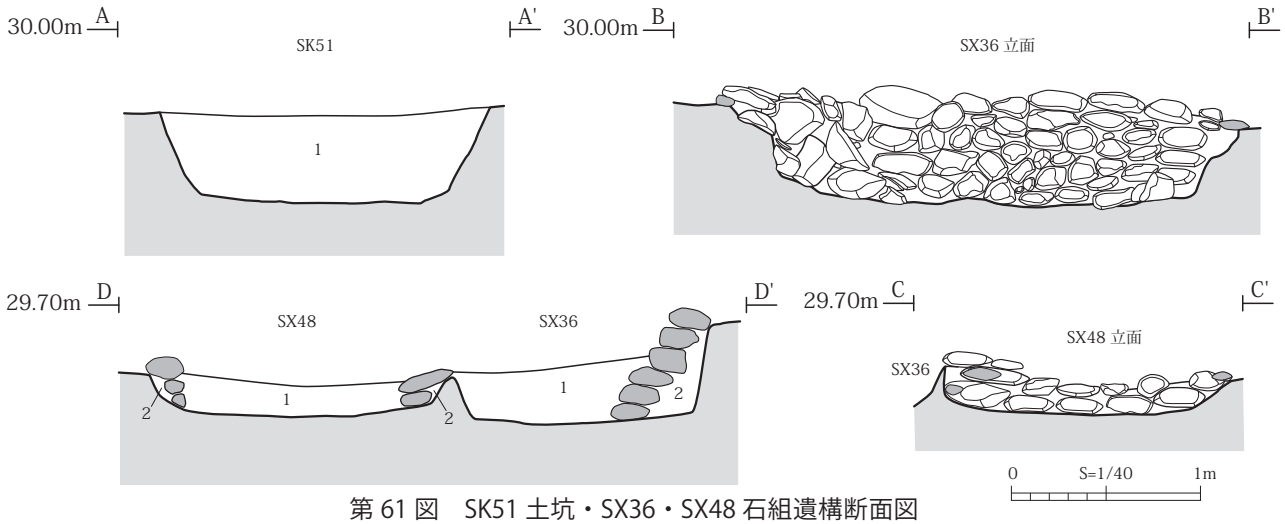
SK51　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	灰黄褐色粘土質シルトブロック

SX48　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	明黄褐色粘土質シルト小ブロック　2cm 以下の炭化物多量　5cm 以下の礫少量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 1 ～ 3cm の礫少量

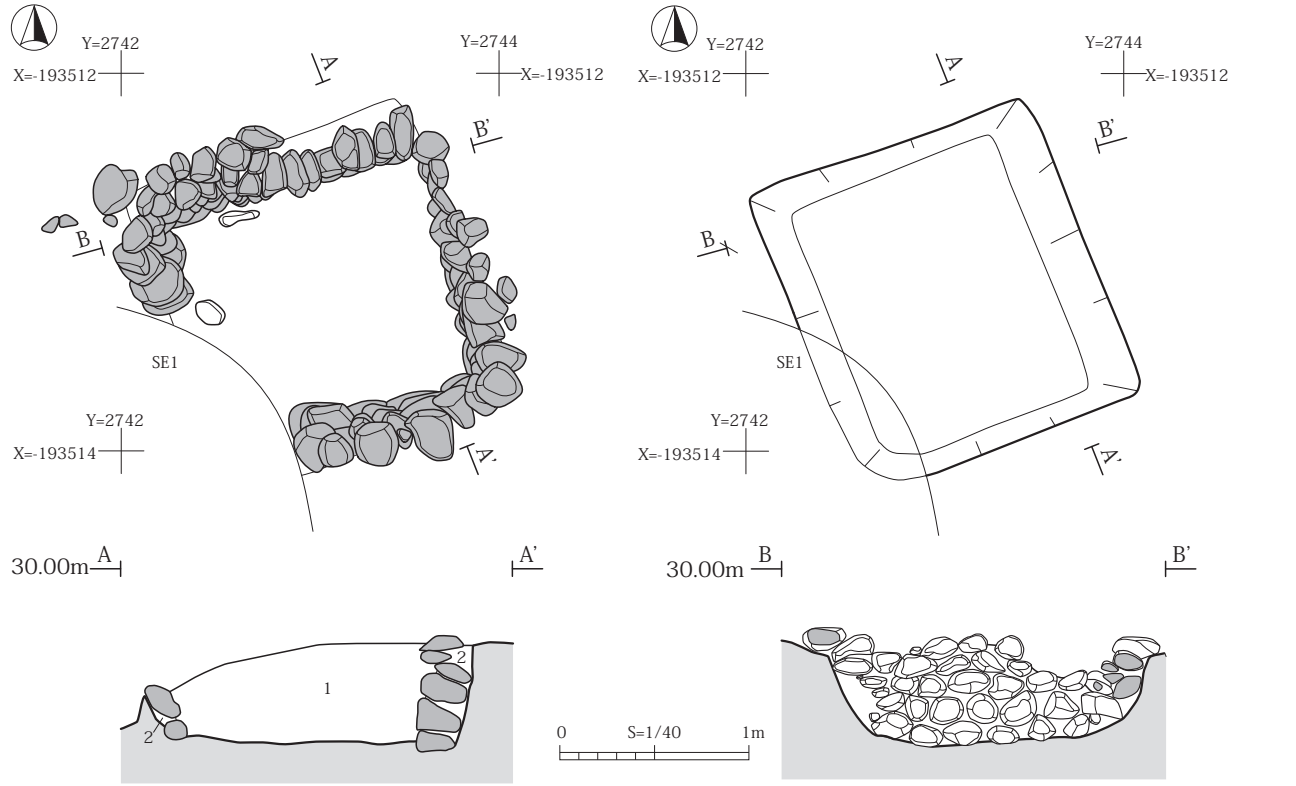
第 60 図　SK51 土坑・SX36・SX48 石組遺構平面図・掘り方平面図



第 61 図　SK51 土坑・SX36・SX48 石組遺構断面図

20）SX37 石組遺構　（第 62 図、図版 18-3 ～ 18-5）

S12-E45 グリッドに位置する、方形の石組土坑である。南西側の一部をⅣ a 層の遺構 (SE1) に削平される。残存する規模は、長軸 172cm、短軸 159cm、深さ 50 ～ 55cm を測る。石組は、径 10 ～ 25cm 前後の自然礫で築かれ、立ち上がり部分、底面、上端には奥行き 25cm 前後の礫を用いている。石組の内幅 123 ～ 135cm、外幅 180 ～ 190cm、石組み側面の傾斜角 73 ～ 75°を測る。平面形は不整方形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は砂質シルトで、掘り方の埋土は黒褐色粘土質シルトである。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

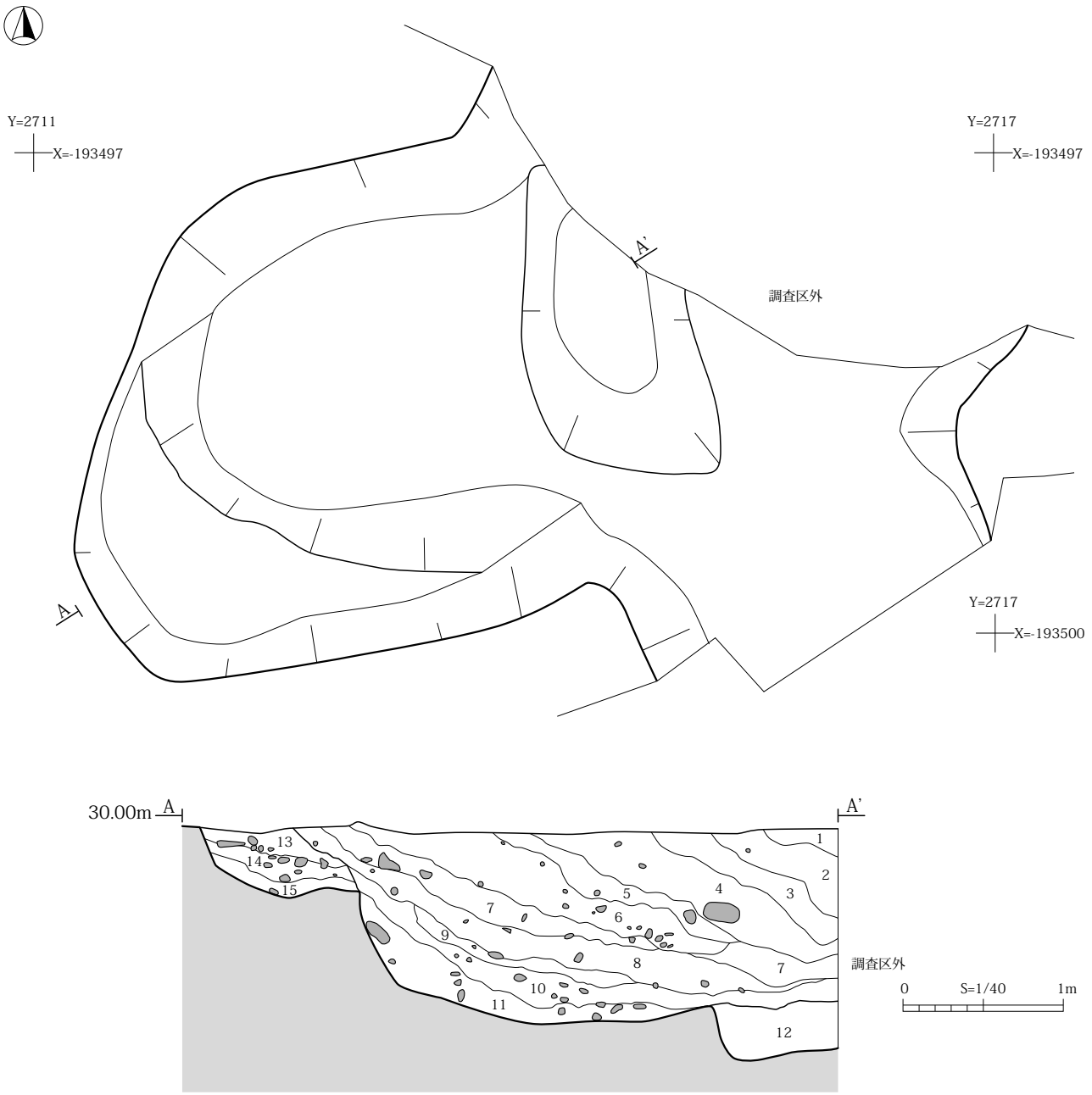


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	黄褐色粘土質シルトブロック
2	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	明黄褐色粘土質シルト小ブロック　2cm 以下の炭化物多量　5cm 以下の礫少量

第 62 図　SX37 石組遺構平面図・断面図

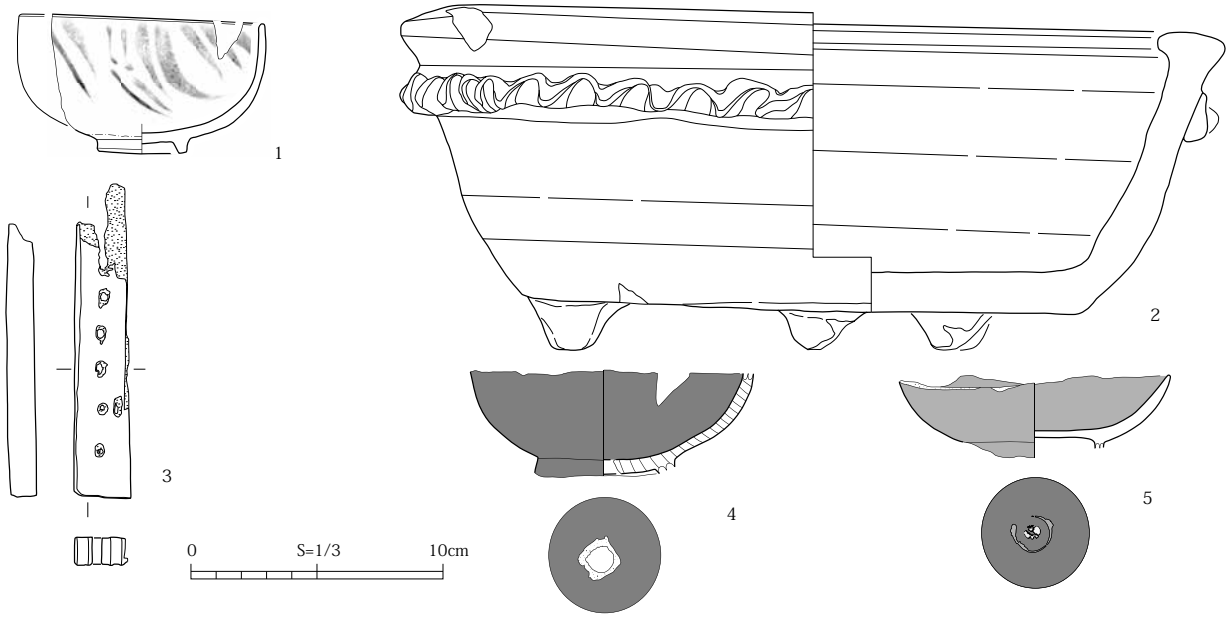
21）SX49 性格不明遺構　（第 63 ～ 65 図、図版 18-7 ～ 18-8）

S10-E42 グリッドに位置する。北側と南東側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 555cm、短軸 390cm、深さ 140cm を測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、南東側はテラス状に高まる。北東側は一段深く落ち込んでいる。断面形はおおむね逆台形を呈す。堆積土は 15 層からなり、１層および 12 層は砂、２層、13 層、14 層はシルト質砂、３層から８層は砂質シルト、11 層はシルトである。11 層下面で層が掘り込みが分離できる可能性がある。遺物は１～ 11 層から瓦片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品、古銭等が出土している。そのうち、陶器１点、瓦質土器１点、金属製品２点、木製品７点を図示した。12 層～ 15 層から遺物は出土していない。



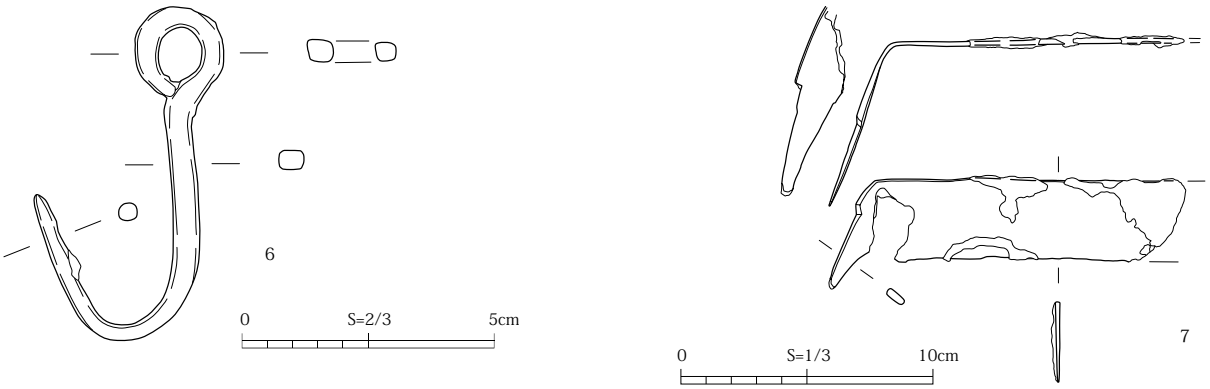
第 63 図　SX49 性格不明遺構平面図・断面図

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR6/8	明黄褐色	砂	なし	ややあり	黄灰色粒子
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	明黄褐色粒子　暗褐色小ブロック　炭化物微量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	黄橙色粒子　灰黄褐色粒子。酸化鉄粒子、中・小礫少量
4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	にぶい黄褐色小ブロック　炭化物・小～中礫少量
5	10YR/4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	黒褐色小ブロック　にぶい黄橙色小ブロック　黄橙色粒子　中～大礫大量
6	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	にぶい黄橙色小ブロック　にぶい黄橙色粒子　酸化鉄層状
7	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	にぶい黄橙色小ブロック　黄橙色粒子　にぶい黄橙色小ブロック　小礫少量
8	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	明黄褐色大ブロック　黄橙色小ブロック　中・小礫少量
9	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	なし	なし	灰白色小ブロック　黒褐色小ブロック　明黄褐色小ブロック　小礫少量
10	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	にぶい黄橙色小ブロック　明赤褐色粒子　炭化物少量
11	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	ややあり	明黄褐色小ブロック　黒褐色粒子
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂	なし	あり	明黄褐色小ブロック　炭化物　小礫少量
13	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	なし	明黄褐色小ブロック　径３～5cm の礫少量
14	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	なし	なし	明黄褐色小ブロック　径３～5cm の礫多量
15	10YR5/6	黄褐色	砂	なし	あり	灰白色大ブロック　シルトストーン微量



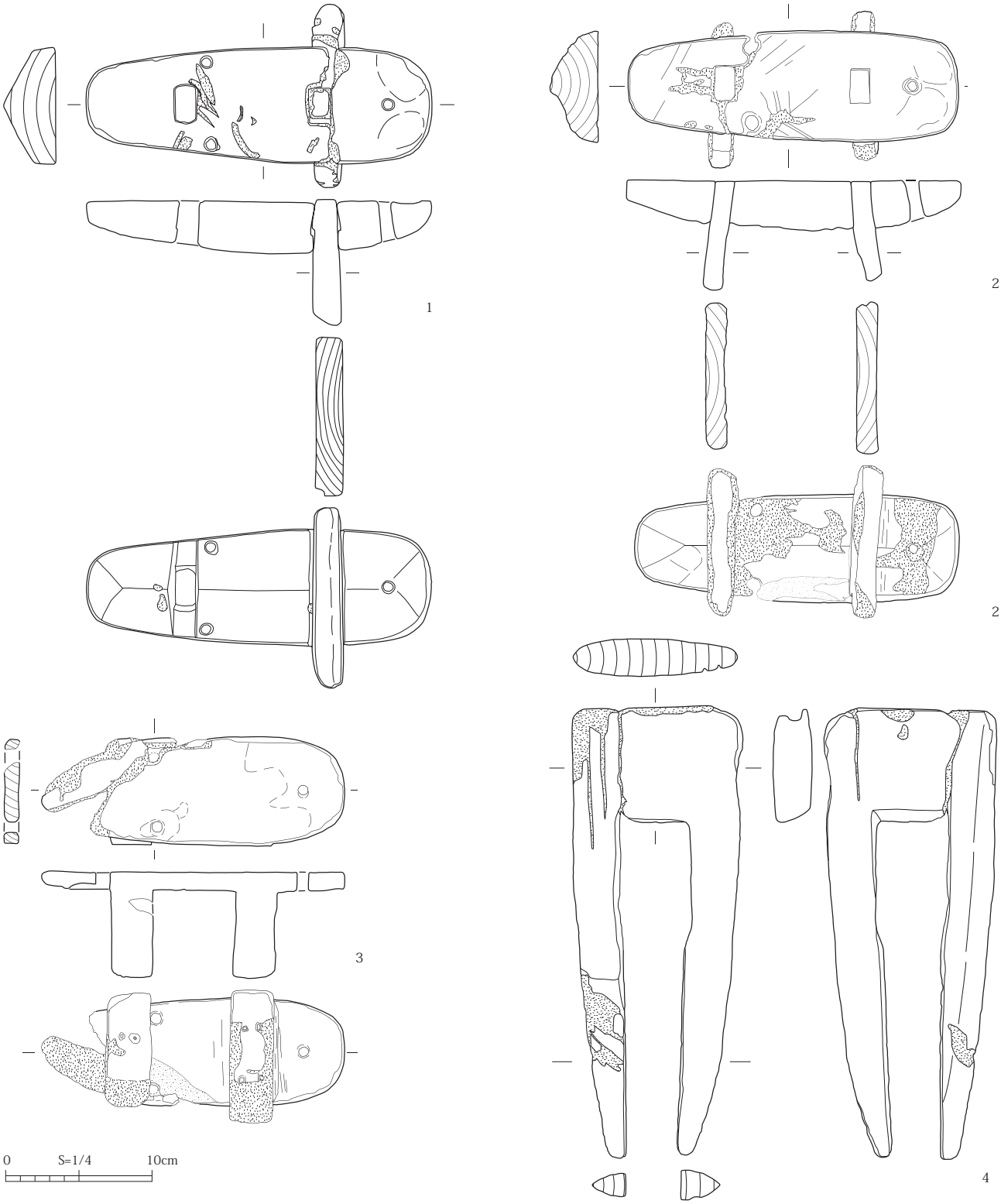
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm） 口径	底径	器高	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	50-3	5 層	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	(8.7)	3.2	5.6	京	18 世紀後半	色絵　笹	I-85
2	50-4	6 層	瓦質土器	火鉢	口縁～底部	粗	32.2	22.2	18.1	在地	不明	三足　外面：ロクロナデ　突帯（指頭押圧） 下半：ヘラケズリ	I-87

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm） 長さ（口径）	幅（底径）	厚さ（器高）	樹種	備考	登録番号
3	50-8	10 層	木製品	(12.5)	2.3	1.3	スギ	部材？	L-527
4	50-7	11 層	漆器	(11.2)	(5.5)	(4.3)	ブナ属	椀　内外面：黒漆　底部穿孔？	L-508
5	50-6	11 層	漆器	(10.4)	(5.6)	(3.3)	ブナ属	椀　内外面：朱漆　外底：黒漆・朱漆文様あり	L-507



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm） 長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
6	51-5	6 層	自在鉤	6.6	3.7	0.5	自在鉤	N-275
7	51-4	3 層	包丁？	14.1	4.5	1.7	刀子？	N-277

第 64 図　SX49 性格不明遺構出土遺物（１）

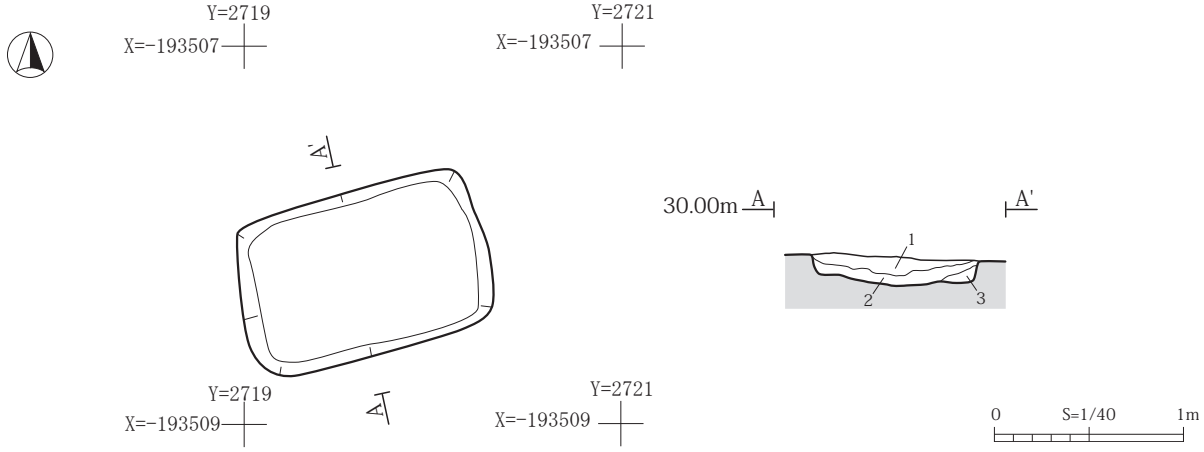


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ			
1	51-3	10 層	木製品	23.7	12.6	8.7	ケヤキ	下駄	L-520
2	51-1	10 層	木製品	22.6	10.8	7.6	ケヤキ	下駄	L-519
3	51-2	11 層	木製品	20.7	7.6	7.4	カツラ	下駄	L-517
4	50-5	10 層	木製品	31.0	11.7	2.8	コナラ属 コナラ節	長柄農具	L-528

第 65 図　SX49 性格不明遺構出土遺物（２）

22）SX51 性格不明遺構　（第 66 図、図版 19-1 ～ 19-2）

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 132cm、短軸 87cm、深さ 16cm を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は長方形を呈す。堆積土は 3 層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。

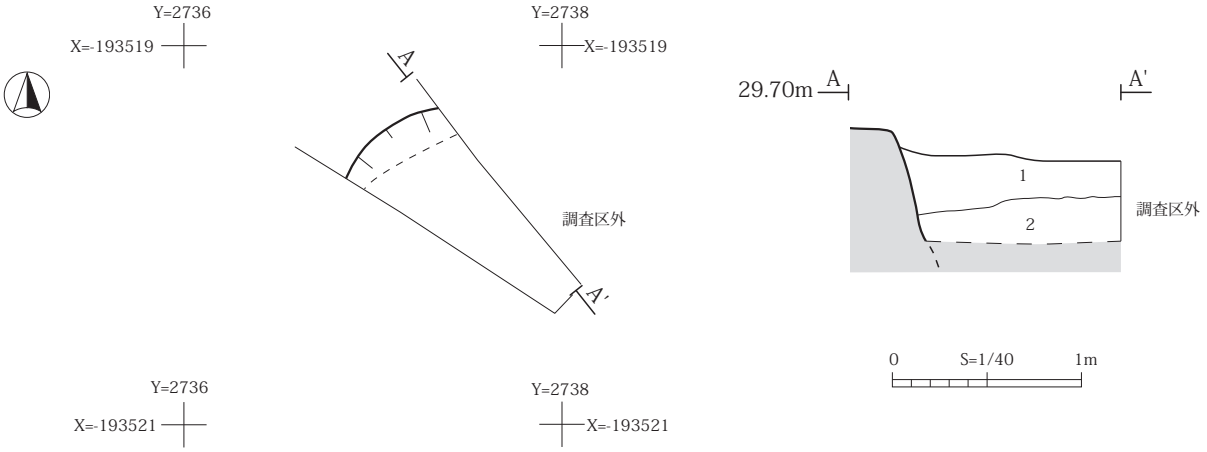


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	にぶい黄褐色小ブロック　橙色大ブロック　焼土ブロック・炭化物粒少量
2	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量
3	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	明黄褐色粒子　褐色粒子　炭化物微量　下部に焼土ブロック多量

第 66 図　SX51 性格不明遺構平面図・断面図

23）SX68 性格不明遺構　（第 67 図、図版 18-6）

S12-E44 グリッドに位置する。調査区の南東隅に位置し、検出されたのは北側の一部のみである。残存する規模は、長軸 134cm、短軸 49cm を測る。70cm まで掘り下げたが底面は確認できなかった。平面形、断面形ともに不明で、側面は鋭角に落ち込む。堆積土は 2 層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。



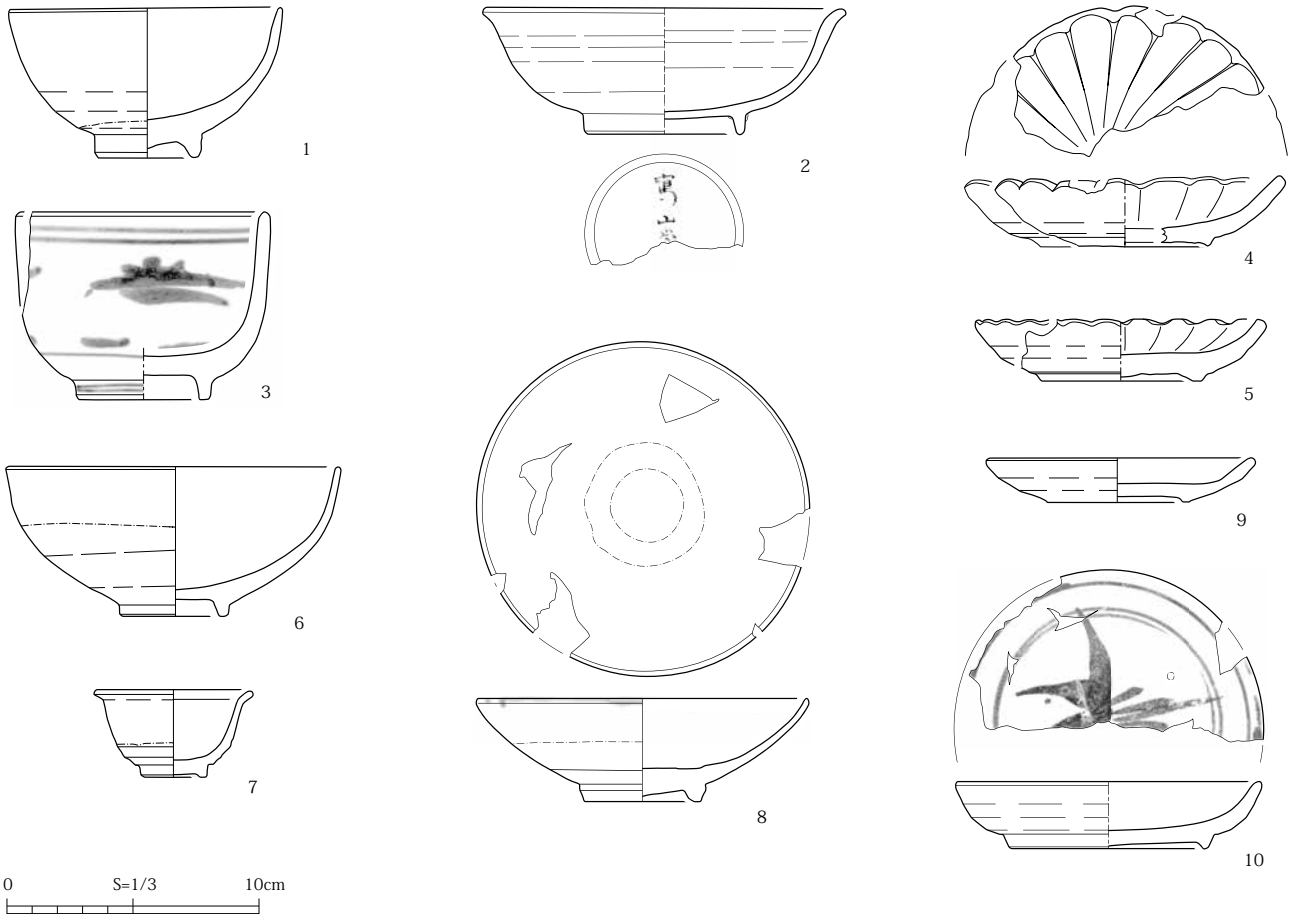
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄灰色シルト小ブロック　2cm 以下の礫・炭化物を少量
2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	褐灰色シルトブロック　シルトストーン・炭化物・酸化鉄分少量

第 67 図　SX68 性格不明遺構平面図・断面図

24）遺構外出土遺物（第 68 ～ 71 図）

Ⅴ層の出土遺物点数は瓦 501 点、陶器 414 点、土師質土器 205 点、瓦質土器 42 点、磁器 270 点、石製品 44 点、木製品 12 点、金属製品 37 点、骨 5 点、その他 45 点、合計 1588 点で、17 世紀前半から 18 世紀後半の遺物が出土している。

陶器を産地別にみると、志野３点、織部１点、唐津１点、岸１点、嬉野２点、丹波１点、肥前１点、瀬戸美濃１点、大堀相馬２点となる。また、磁器を産地別にみると、景徳鎮２点、漳州窯４点、肥前 72 点である。このうち、陶器 11 点、磁器８点、瓦質土器３点、土師質土器１点、瓦３点、木製品３点を図示した。瓦は瓦頭に金箔を塗っている軒平瓦（第 70 図 -7）、金箔が残存している飾り瓦（第 70 図 -8）が出土している。

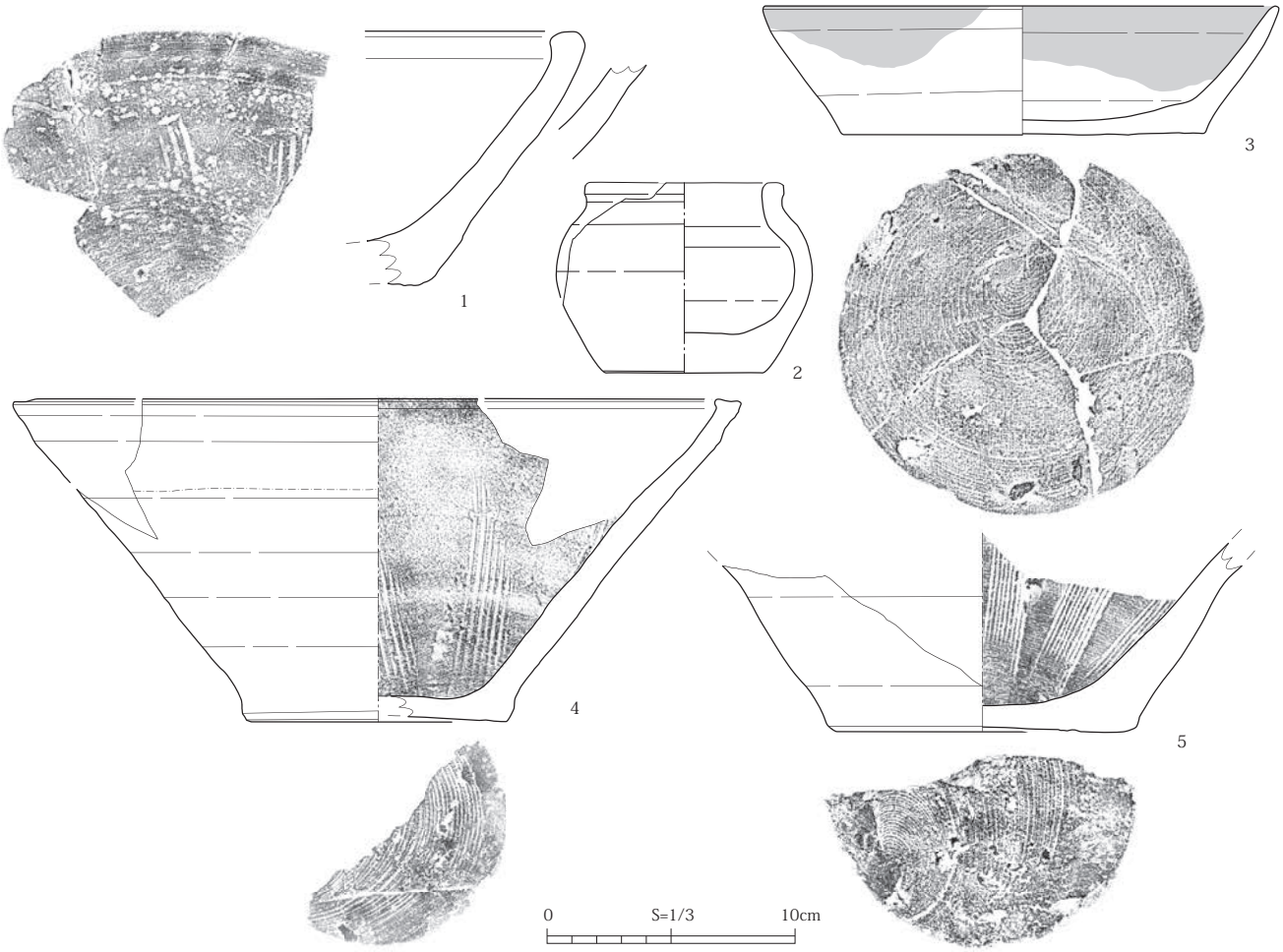


図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	51-7	S12-E44	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(10.9)	3.9	6.0	嬉野	17 世紀後半	緑釉	I-119
2	52-7	S12-E44	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	(14.6)	(6.2)	5.0	不明	不明	外底：「寫山堂」鉄絵	I-120
3	52-8	S11-E42	陶体磁器	碗	口縁～底部	やや密	(10.0)	4.9	7.5	肥前	18 世紀	外面：圏線　山水文	I-99
4	52-6	S12-E45	陶器	菊花皿	口縁～底部	粗	(12.7)	6.6	2.9	志野	17 世紀前半	志野釉	I-132
5	52-3	S12-E45	陶器	菊花皿	口縁～底部	粗	(11.6)	6.4	(2.4)	志野	17 世紀前半	志野釉	I-830
6	51-6	S12-E45	陶器	掛け分け碗	口縁～底部	やや密	13.4	6.0	4.4	大堀相馬	18 世紀後半	内面：灰釉、貫入あり　外面：灰釉、鉄釉、貫入あり　ロクロ：左	I-158
7	52-1	S11-E42	陶器	小坏	口縁～底部	やや粗	(6.3)	2.4	(3.5)	瀬戸・美濃	18 世紀	灰釉	I-115
8	52-4	S12-E44	陶器	皿	口縁～底部	やや密	13.2	4.6	4.1	嬉野	17 世紀後半	緑釉　見込み：蛇ノ目釉剥ぎ	I-168
9	52-5	S12-E45	陶器	皿	口縁～底部	粗	(10.7)	5.7	1.9	志野	17 世紀前半	志野釉	I-141
10	52-2	S12-E45	陶器	皿	口縁～体部	粗	(12.2)	(7.7)	(2.7)	志野	17 世紀	鉄絵笹文　目跡あり	I-109

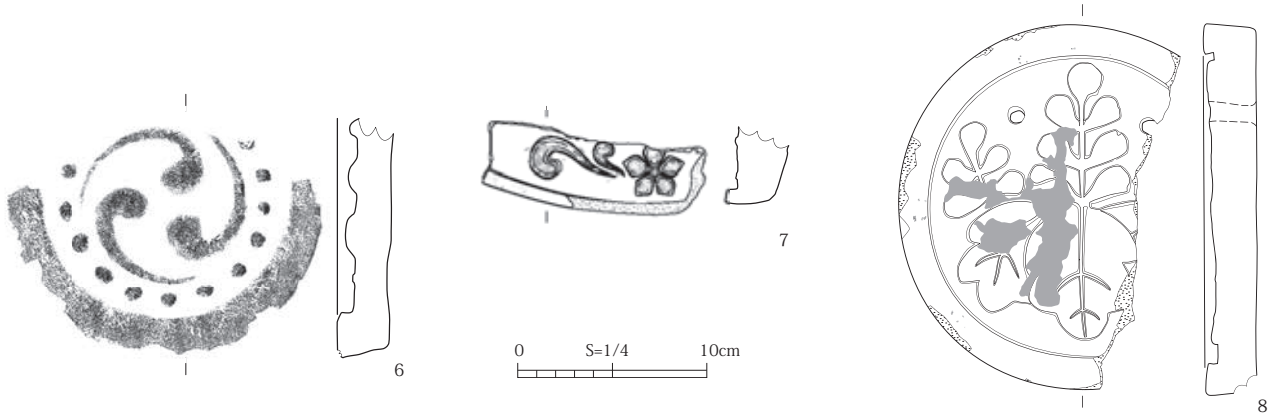
第 68 図　Ⅴ層出土遺物（１）

図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	52-10	S12-E45	磁器	碗	口縁～底部	密	(11.0)	4.5	6.3	肥前	18 世紀前半～中？	内面：透明釉　外面：梅　松　太湖石？　圏線　二重圏線　高台内：二重圏線　高台に砂付着	J-72
2	53-1	S12-E44	磁器	香炉	口縁～底部	密	12.0	8.3	8.3	肥前	18 世紀後半	青磁　陰刻草文	J-74
3	52-9	S12-E45	磁器	蕎麦猪口	口縁～底部	密	(7.0)	5.0	6.3	肥前	18 世紀後半	外面：楼閣山水文	J-79
4	53-6	S12-E45	磁器	芯立て	肩～底部	密	-	-	(3.5)	肥前	18 世紀？	頭部欠損	J-80
5	53-3	S12-E44	磁器	御酒徳利	口縁～底部	密	-	8.0	(8.8)	肥前	18 世紀	外面：蛸唐草文　松竹梅文　圏線　高台に砂付着	J-92
6	53-5	S11-E42	磁器	輪花皿	口縁～底部	密	(14.3)	8.3	3.9	肥前	18 世紀前半～中	内面：花唐草文　見込み：コンニャク五弁花　外面：唐草文　高台内：「大明年成」　圏線　目痕あり　高台に砂付着	J-76
7	53-2	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(12.5)	(3.6)	3.0	肥前	17 世紀後半	内面：草文　見込み：蛇ノ目釉剥ぎ	I-148
8	53-4	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(17.1)	12.9	(1.9)	肥前	18 世紀後半	内面：若松　鴫文　外面：唐草、二重圏線	J-73

第 69 図　Ⅴ層出土遺物（２）

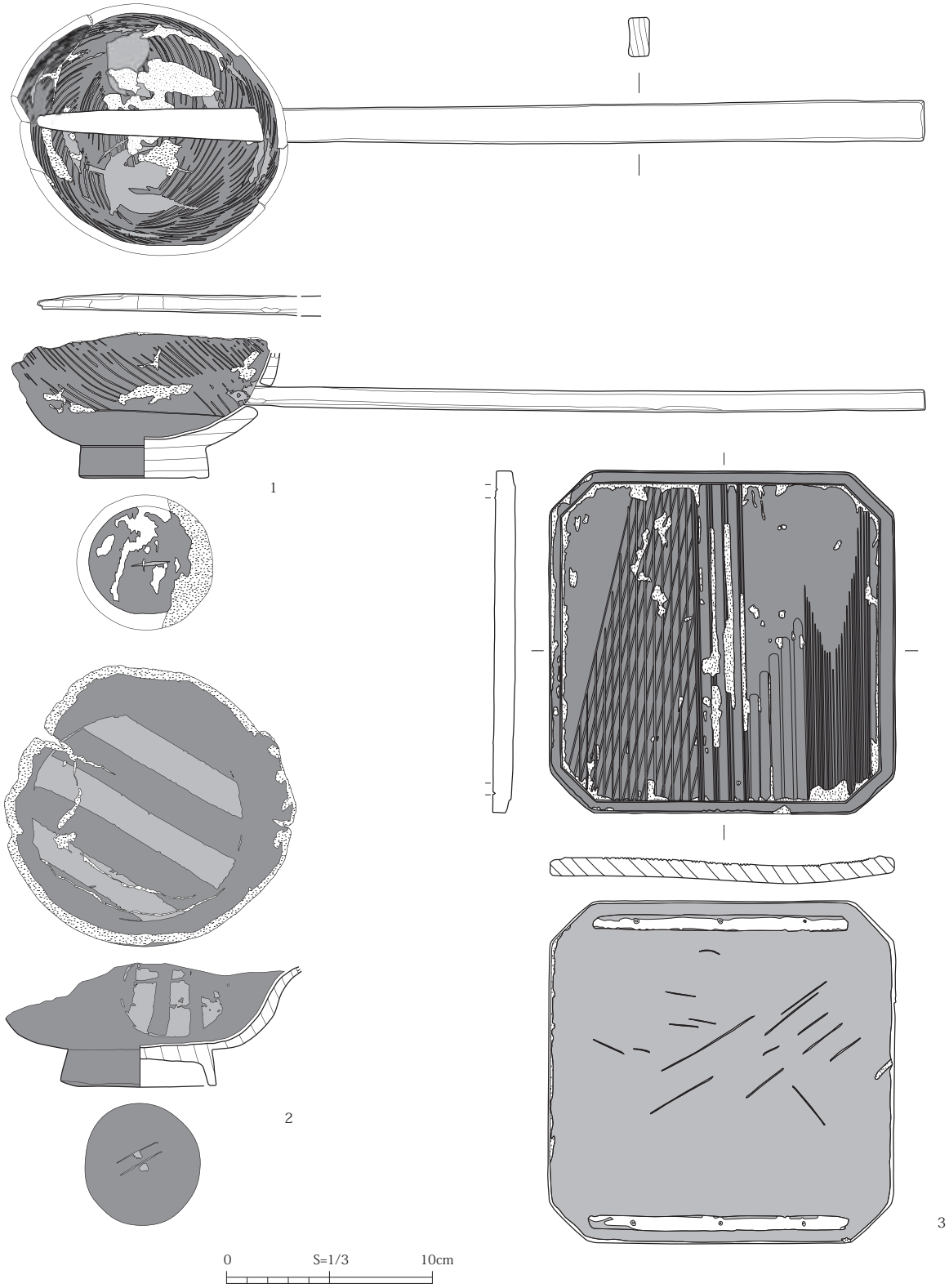


図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	54-3	S11-E42	瓦質土器	擂鉢	口縁～底部	粗	-	-	-	在地	不明	卸目４条	I-129
2	53-7	S12-E45	瓦質土器	壺	体部～底部	粗	-	6.4	7.5	在地	不明	口唇部磨耗	I-116
3	54-2	S12-E45	土師質土器	皿	口縁～底部	粗	20.8	14.7	5.2	在地	不明	油煙付着　底部：糸切　ロクロ：左	I-128
4	54-1	S12-E45	陶器	擂鉢	口縁～底部	粗	(39.4)	(10.4)	13.0	在地	不明	卸目７条	I-162
5	53-8	S12-E45	瓦質土器	擂鉢	体部～底部	粗	-	(6.0)	7.5	在地	不明	卸目 10 条	I-102



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
6	54-5	S11-E43	軒丸瓦	(2.8)	16.5	(12.7)	瓦当径 16.5　文様区径 12.5　瓦当厚 2.7　周縁高 0.4　周縁幅 2.0	F-11
7	54-6 巻頭カラー	S12-E43	軒平瓦	(2.9)	(11.7)	(3.4)	瓦当幅（11.0）　瓦当高（2.7）　周縁高 0.55　金箔残存	G-27
8	54-4	S12-E45	飾り瓦	2.8	(14.4)	19.5	瓦当径 20.0　文様区径 15.9　金箔残存	H-4

第 70 図　Ⅴ層出土遺物（３）

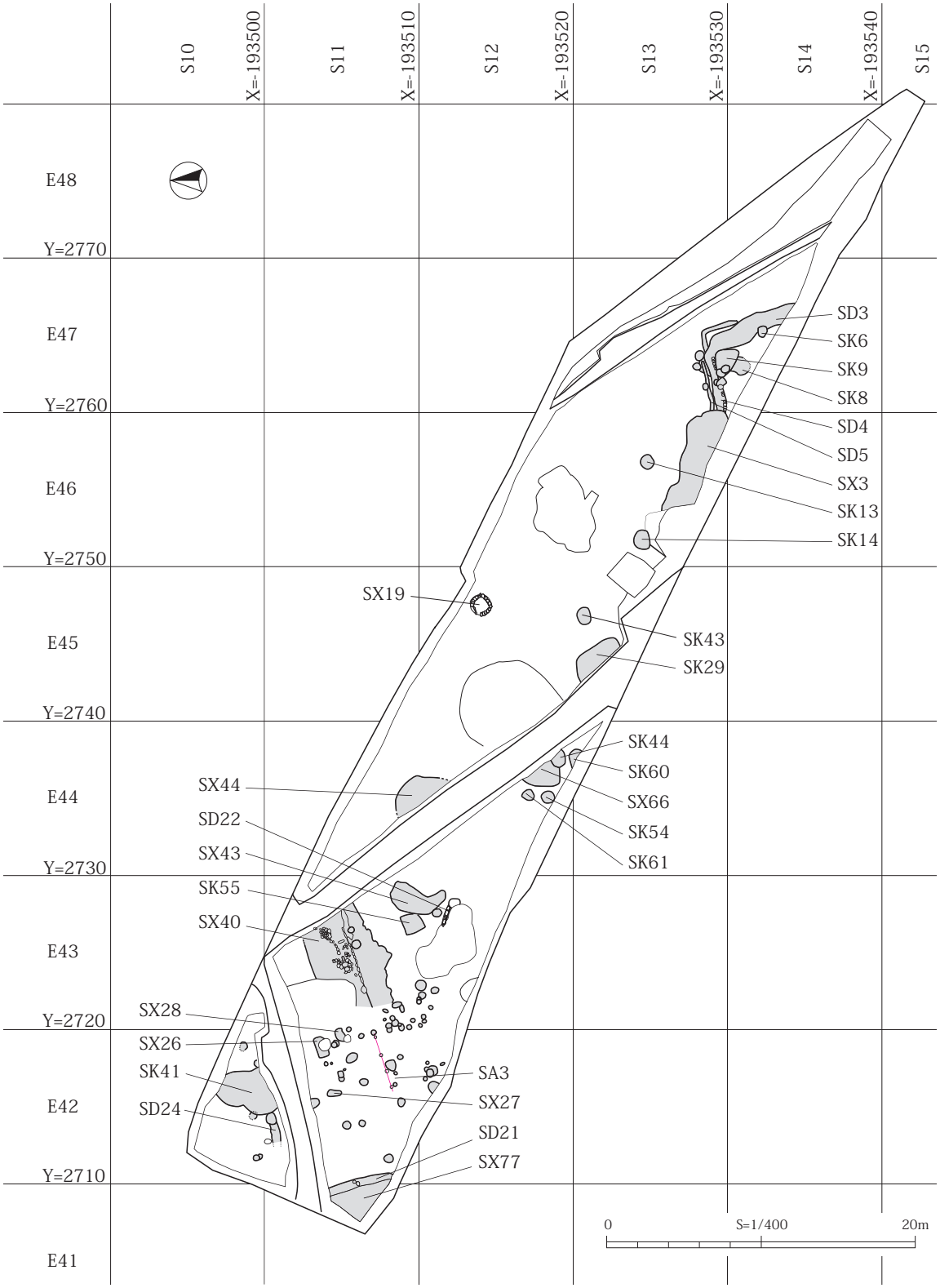


図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				長さ（口径）	幅（底径）	厚さ（器高）			
1	54-7	S12-E45	木製品	12.9	6.3	5.3	椀：ブナ属 柄：スギ	漆器椀転用　柄部：長さ 44.4　幅 2.0　厚さ 0.9	L-72
2	55-1	S12-E45	漆器	15.9	7.5	6.1	ブナ属	椀　内外面：黒漆・朱漆三ツ引両文	L-71
3	55-2	S12-E45	木製品	16.8	16.7	1.2	アスナロ属	重箱	L-79

第 71 図　Ⅴ層出土遺物（４）

３　Ⅳｂ層上面検出遺構

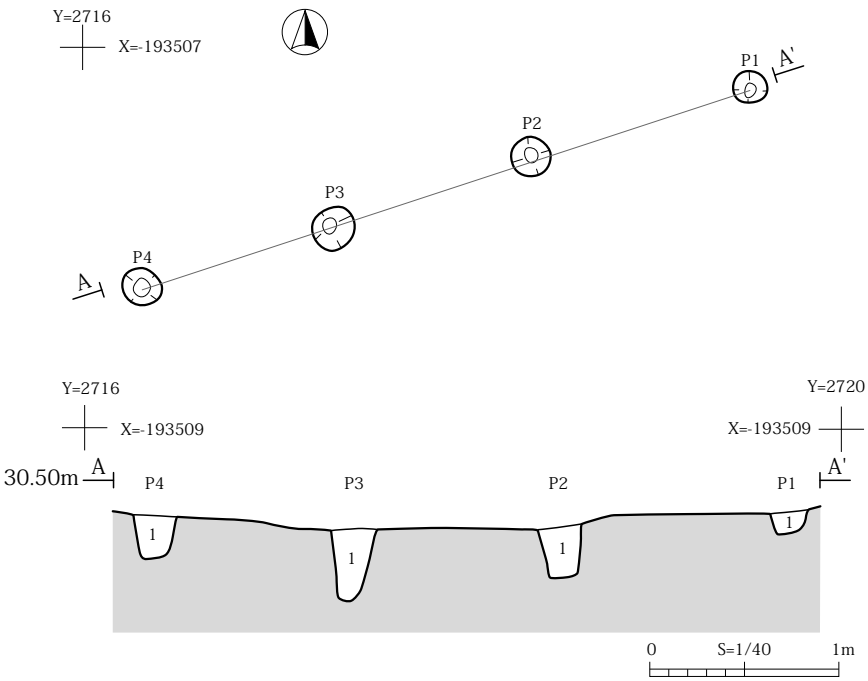
Ⅳｂ層上面で検出された遺構は、柱列跡１条、溝跡７条、土坑 13 基、性格不明遺構 10 基、合計 31 基である。調査区の西端では道路跡と思われる硬化面が検出された。その東側では区画の一部と思われる柱列跡 SA3、それらと近似した方位を示す石列および整地遺構 SX40 が検出された。調査区の中央部は性格不明の土坑群があり、南東端では溝跡および土坑が検出された。



第 72 図　Ⅳｂ層上面検出遺構

1）SA3 柱列跡　（第 73 図、図版 19-3 ～ 19-6）

S11-E42 グリッドに位置する。４基の柱穴からなる柱列跡である。確認された規模は、総長 339cm を測り、柱間の寸法は P1-P2 間 121cm（4 尺）、P2-P3 間 114cm（3 尺 7 寸）、P3-P4 間 103cm（3 尺 4 寸）である。主軸方位は N-72°-E を示す。柱穴の平面形は円形で、断面形は P3 は U 字形、その他は逆台形を呈す。いずれの柱穴においても柱痕は確認されなかった。柱穴掘り方の規模は、径 18 ～ 23cm、深さ 11 ～ 38cm を測る。堆積土は黄灰色砂質シルトである。遺物は出土していない。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 3cm 以下の礫・砂少量

第 73 図　SA3 柱列跡平面図・断面図

2）SD3 溝跡　（第 74 図、図版 19-6、20-1、20-3）

S13・14-E47 グリッドに位置する。西から東へ延びているが、調査区内で屈曲して南東へ延び、L 字状を呈する一部石組の溝跡である。SX3、SD5 と重複し、SX3 より古く、SD5 より新しい。残存する規模は、総長 979cm、東西部分の長さ 383cm、上端幅 64 ～ 73cm、下端幅 16 ～ 20cm、深さ 20cm、南北部分の長さ 5.96m、上端幅 103cm ～ 150cm、下端幅 74 ～ 81cm、深さ 16cm を測る。東西部分の主軸方位 N-80°-E、南北部分は N-28°-W を示す。断面形は浅い逆台形を呈し、底面は起伏がある。南側に向かって緩やかに傾斜する。石組みは東西部分の南際にのみ残存し、長軸 15 ～ 20cm、短軸 10 ～ 13cm 程度の礫を用いている。堆積土は 4 層からなり、1 層から 3 層は砂質シルト、4 層は砂である。4 層は流れ込みにより堆積した土と思われる。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

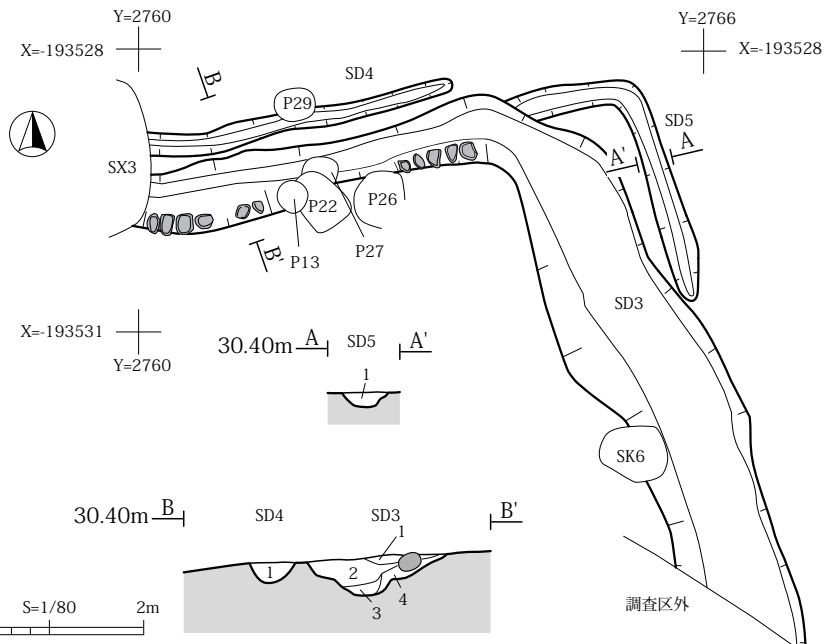
3）SD4 溝跡　（第 74 図、図版 20-2 ～ 20-3）

S13･14-E47 グリッドに位置する。SD3 と並走し、南西から北東からへ直線的に延びる溝跡である。SX3 と重複し、SX3 より古い。残存する規模は、長さ 328cm、上端幅 17 ～ 24cm、下端幅 7 ～ 10cm、深さ約 11cm を測り、主軸方位は N-78°-E を示す。断面形は U 字形を呈す。西側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は灰黄色シルト質粘土の単層である。水流の痕跡は認められなかった。遺物は出土していない。

4）SD5 溝跡　（第 74 図、図版 20-3）

S13-E47 グリッドに位置する。西から東へ延びているが、中央で南東へ延び、L 字状を呈する素掘りの溝跡である。SD3 と重複し、SD3 より古い。東西方向から南北方向に屈曲している。残存する規模は、総長 343cm、東西部分

の長さ 109cm、上端幅 23 ～ 32cm、下端幅 13 ～ 16cm、深さ 9cm、南北部分の長さ 234cm、上端幅 25m ～ 33cm、下端幅 10 ～ 12cm、深さ 9cm を測る。東西部分の主軸方位 N-79°-E、南北部分は N-29°-W を示す。断面形は U 字形を呈す。西側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は黄灰色砂質シルトの単層である。水流の痕跡は認められなかった。遺物は出土していない。



SD3　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	なし	あり	粗砂主体、酸化鉄やや少量
2	2.5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5cm の礫微量　径 5㎜の岩盤ブロック少量　酸化鉄やや少量
3	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 1cm の岩盤ブロックを少量　粗砂多量、酸化鉄やや少量
4	10YR5/6	黄褐色	砂	なし	なし	酸化した砂を帯状少量

SD4　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質粘土	あり	ややあり	径 5㎜の岩盤ブロック微量　粗砂を少量

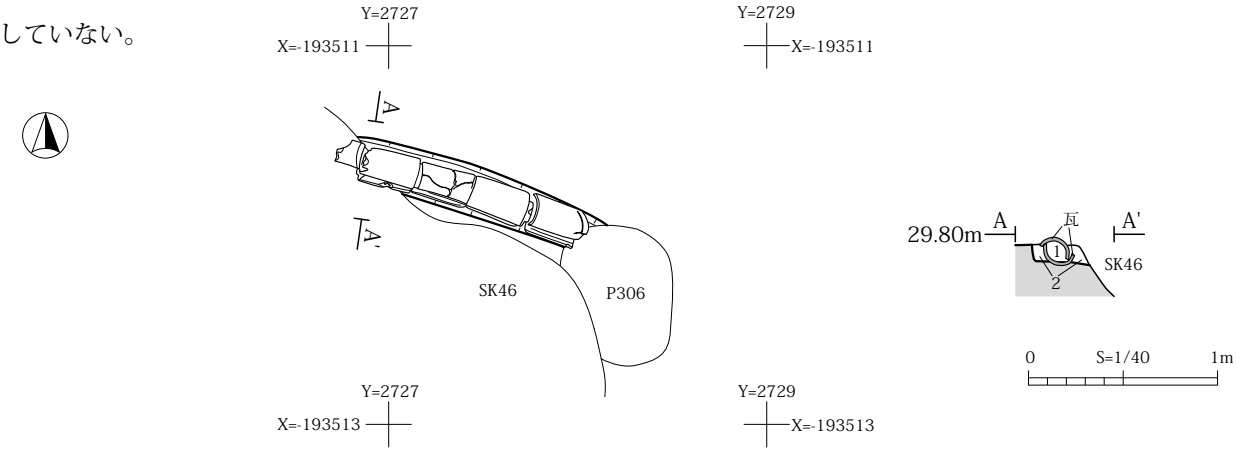
SD5　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 1cm の岩盤ブロックを少量　粗砂多量、酸化鉄やや少量

第 74 図　SD3・4・5 溝跡平面図・断面図

５）SD22 溝跡　（第 75、78 図、図版 20-4、21-1 ～ 21-3）

S12-E43 グリッドに位置する。西から東へ直線的に延びる、瓦組みの暗渠状を呈する溝跡である。丸瓦を上下に合わせ、筒状にしている。Ⅲｂ層の遺構（SK46）および P306 と重複し、SD22 が一番古い。残存する規模は、長さ 134cm、上端幅 21 ～ 25cm、下端幅 13 ～ 15cm、深さ 9cm を測り、主軸方位は N-70°-W を示す。掘り方の断面形は長方形を呈す。東側に向かって傾斜する。掘り方埋土はシルト質粘土である。瓦組内部の堆積土は暗オリーブ色の砂からなり、流れこみにより堆積した土と思われる。出土した瓦のうち、４点を図示した。瓦以外の遺物は出土していない。

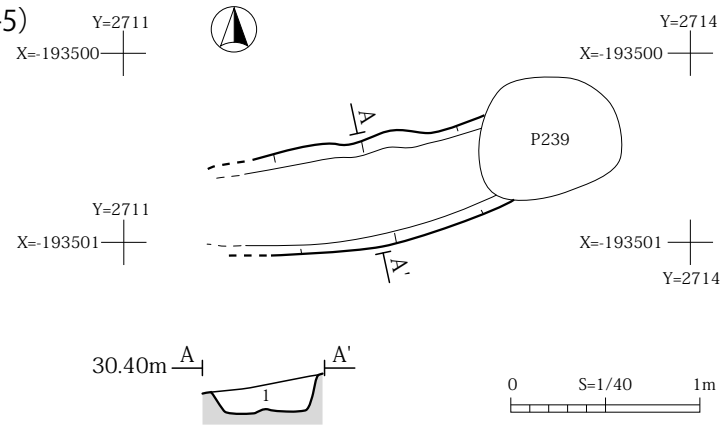


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂	なし	あり	径 5cm 以下の褐色砂質シルトブロック少量
2	3.5Y4/3	暗オリーブ色	シルト質粘土	あり	ややあり	砂多量

第 75 図　SD22 溝跡平面図・断面図

６）SD24 溝跡　（第 76 図、図版 21-4 ～ 21-5）

S11-E42 グリッドに位置する。西から東へ直線的に延びる溝跡である。P239 と重複し、P239 より古い。残存する規模は、長さ 126cm、上端幅 49 ～ 55cm、下端幅 38 ～ 43cm、深さ 18cm を測り、主軸方位は N-77°-E を示す。断面形は逆台形を呈す。底面には起伏があり、東側に向かって傾斜する。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。水流の痕跡は認められなかった。遺物は出土していない。

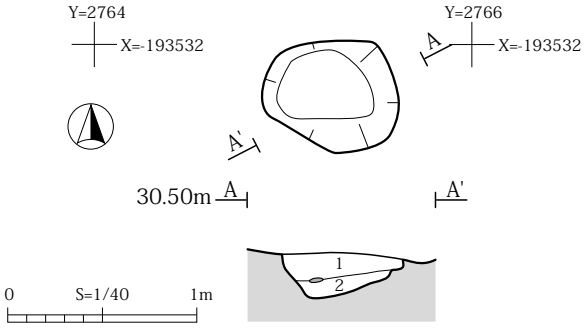


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径 1㎜以下のにぶい黄褐色土粒

第 76 図　SD24 溝跡平面図・断面図

７）SK6 土坑　（第 77 図、図版 21-6）

S14-E47 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 72cm、短軸 60cm、深さ 24cm を測る。平面形は楕円形で、底面は東側に向かって傾斜し、断面形は不整逆三角形を呈す。堆積土は２層で、オリーブ褐色および黒褐色砂質シルトからなる。遺物は、瓦片、陶磁器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10 ～ 15cm の礫やや多量
2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10cm 程度の礫多量

第 77 図　SK6 土坑平面図・断面図

８）SK8 土坑　（第 79 図、図版 21-7、22-2）

S14-E47 グリッドに位置する。SK9 と重複し、SK9 より古い。残存する規模は、長軸 117cm、短軸 104cm、深さ 27cm を測る。平面形は不整円形で、底面には起伏があり、断面形は乱れた U 字形を呈す。堆積土は３層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。

９）SK9 土坑　（第 79 図、図版 22-1 ～ 22-2）

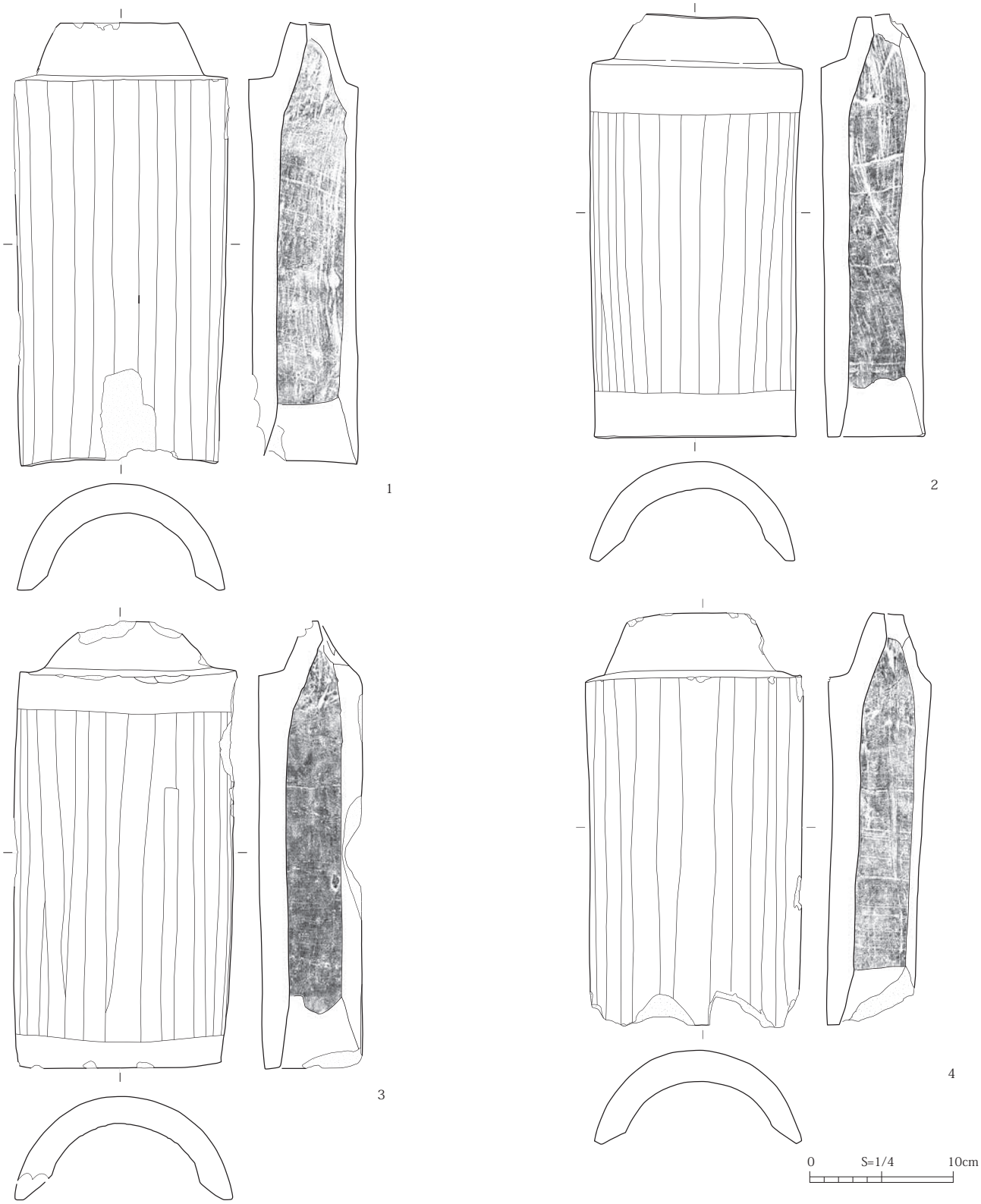
S13・14-E47 グリッドに位置する。SD3、SD4、SK8、P16、P26 と重複し、SD3、SD4、P16、P26 より古く、SK8 より新しい。残存する規模は、長軸 176cm、短軸 144cm、深さ 30cm を測る。平面形は不整円で、底面には起伏があり、断面形は乱れた皿状を呈す。堆積土は５層で、１層および３層から５層は砂質シルト、２層は砂である。遺物は出土していない。

SK8　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	7.5YR6/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5cm 以下の礫微量　酸化鉄微量
2	7.5YR5/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10cm 以下の礫少量　酸化鉄微量

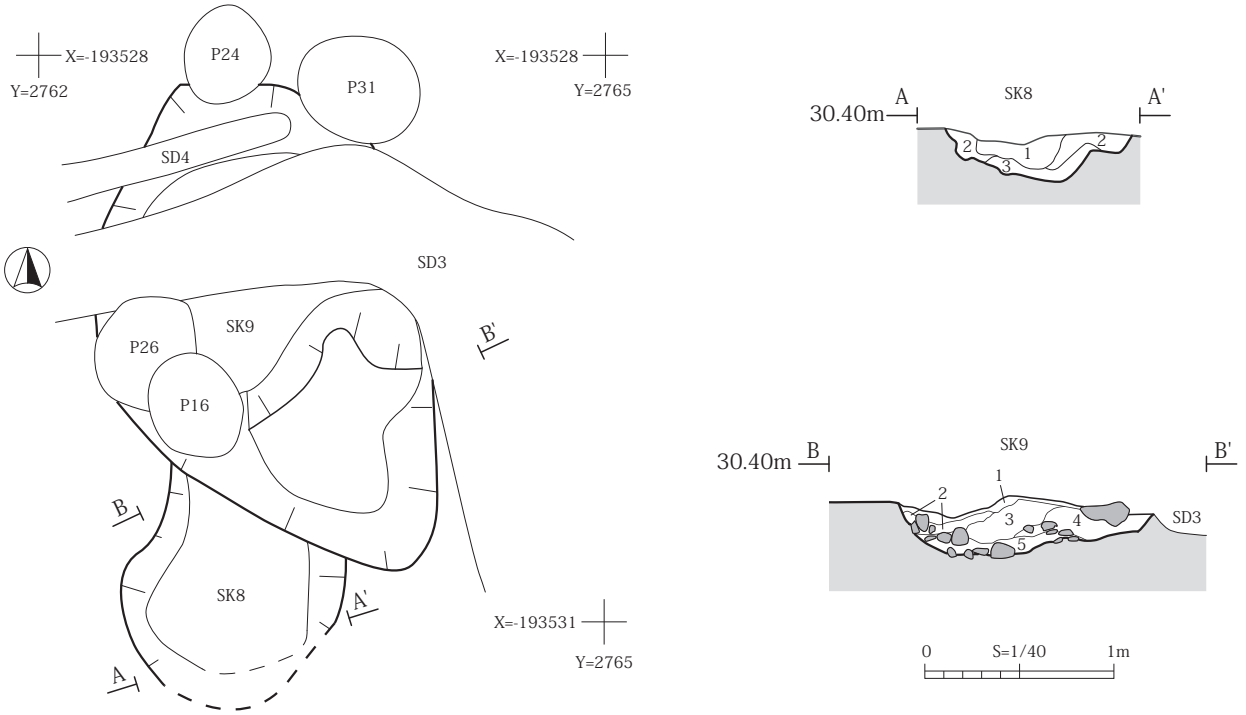
SK9　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 3cm 以下の礫微量
2	10YR6/2	褐灰色	砂	なし	なし	酸化鉄微量
3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	径 8cm 以下の礫少量　砂礫・酸化鉄の沈着多量　5㎜程度の黄褐色土粒多量
4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	径 10cm 以下の礫　酸化鉄多量
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 12cm 以下の礫多量　径 15cm 以下の酸化鉄少量



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	55-3	２層	丸瓦	30.3	14.6	7.3	尻幅 14.6cm　頭幅 13.7cm　玉縁先幅 8.2cm　玉縁先長さ 3.6cm　外面：ヨコナデヘラケズリ　内面：コビキＢ　布目圧痕	F-16
2	55-4	２層	丸瓦	30.5	14.7	7.2	尻幅 14.7cm　頭幅 14.0cm　玉縁先幅（7.7）cm　玉縁先長さ 3.1cm　外面：ヨコナデヘラケズリ　内面：コビキＢ　布目圧痕	F-20
3	55-5	２層	丸瓦	31.0	15.1	7.4	尻幅 15.1cm　頭幅 14.1cm　玉縁先幅（7.2）cm　玉縁先長さ 3.3cm　外面：ヨコナデヘラケズリ　内面：コビキＢ　布目圧痕	F-18
4	55-6	２層	丸瓦	28.4	15.1	6.5	尻幅 15.1cm　玉縁先幅 8.2cm　玉縁先長さ（8.4）cm　外面：ヨコナデヘラケズリ　内面：コビキＢ　布目圧痕	F-19

第 78 図　SD22 出土遺物



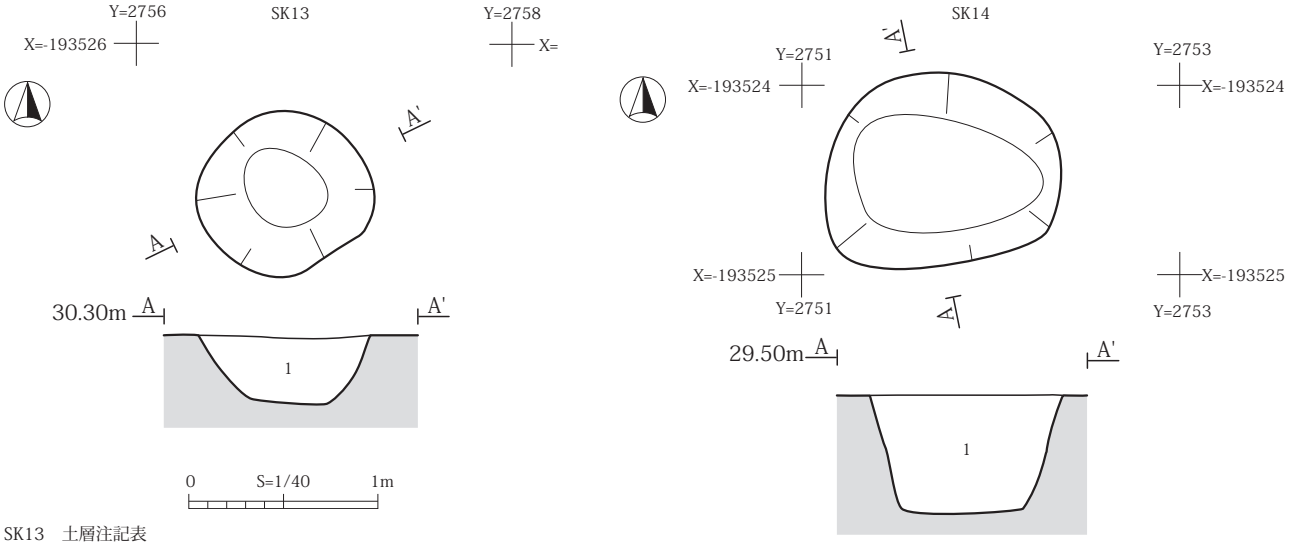
第 79 図　SK8・9 土坑平面図・断面図

10）SK13 土坑　（第 80 図、図版 22-3）

S13-E46 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 90cm、短軸 85cm、深さ 32cm を測る。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、断面形は U 字形を呈す。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

11）SK14 土坑　（第 80 図、図版 22-4）

S13-E46 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 123cm、短軸 102cm、深さ 65cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。灰黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



SK13　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂・細～中礫　酸化鉄多量

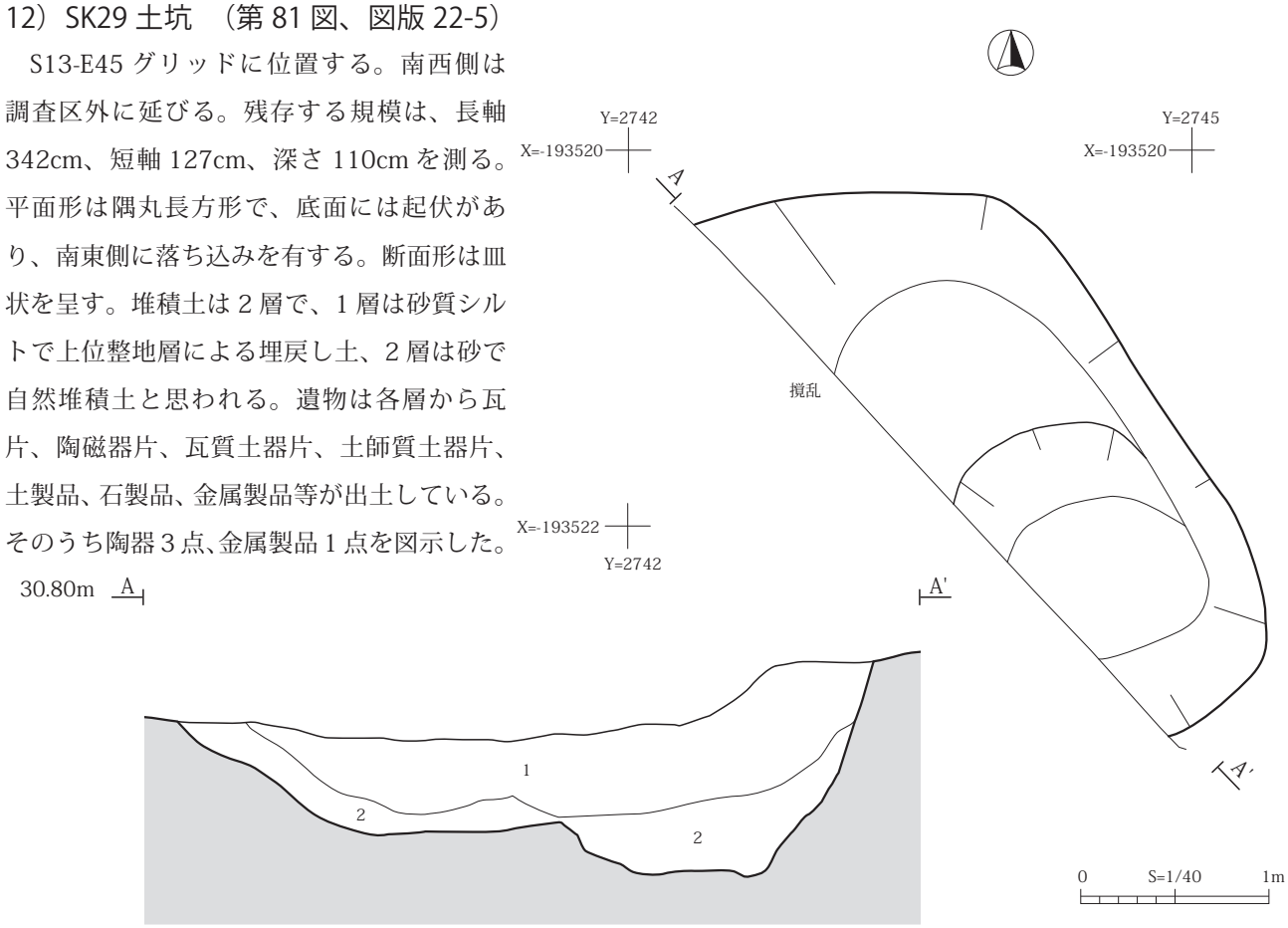
SK14　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂・細～中礫・酸化鉄多量

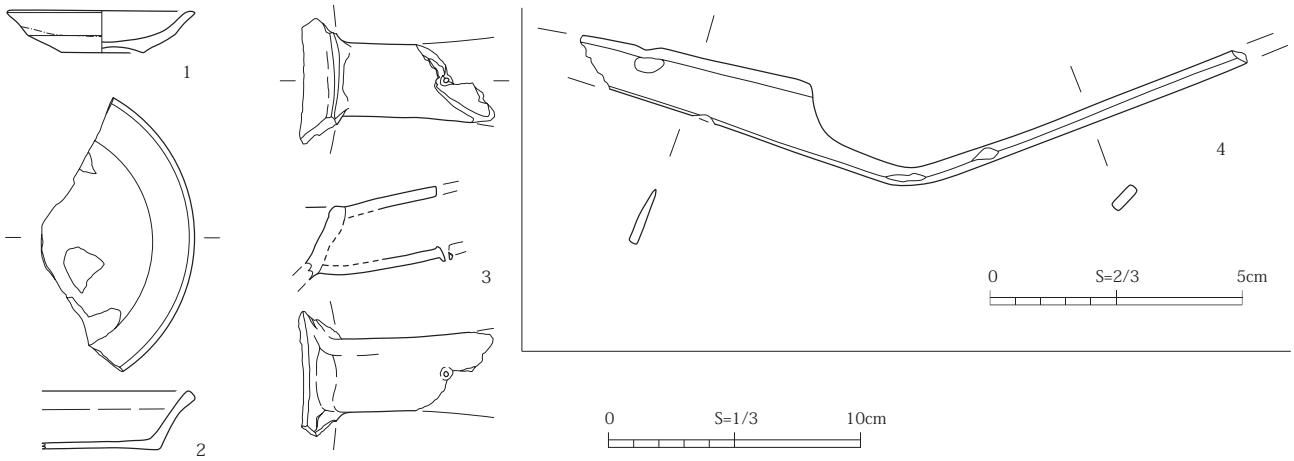
第 80 図　SK13・14 土坑平面図・断面図

12）SK29 土坑　（第 81 図、図版 22-5）

S13-E45 グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 342cm、短軸 127cm、深さ 110cm を測る。平面形は隅丸長方形で、底面には起伏があり、南東側に落ち込みを有する。断面形は皿状を呈す。堆積土は２層で、１層は砂質シルトで上位整地層による埋戻し土、２層は砂で自然堆積土と思われる。遺物は各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、石製品、金属製品等が出土している。そのうち陶器３点、金属製品１点を図示した。



層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量　腐食物多量　植物遺存体
2	10YR3/4	暗褐色	砂	なし	なし	



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）口径	法量（cm）底径	法量（cm）器高	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	55-7	1 層	陶器	小皿	口縁～底部	やや密	7.4	3.1	1.6	瀬戸・美濃	18 世紀前半		I-176
2	55-9	1 層	陶器	焙烙	口縁～底部	やや粗	(12.8)	(10.0)	2.2	堤	19 世紀	鉛釉	I-185
3	55-9	1 層	陶器	焙烙	把手	やや粗	-	-	(3.9)	堤	19 世紀	鉛釉	I-187

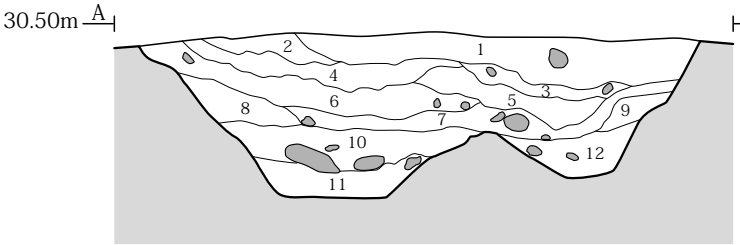
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）長さ	法量（cm）幅	法量（cm）厚さ	備考	登録番号
4	55-8	1 層	金属製品	13.3	1.6	0.2	鋏	N-250

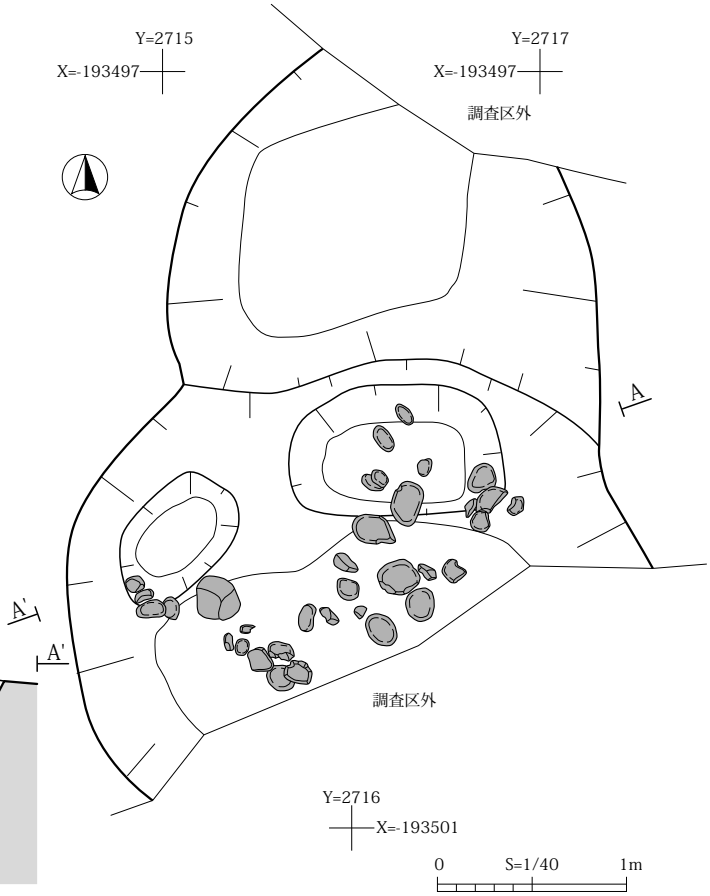
第 81 図　SK29 土坑平面図・断面図・出土遺物

13）SK41 土坑　（第 82、84 ～ 85 図、図版 22-6 ～ 22-7）

S11-E42 グリッドに位置する。北側と南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 335cm、短軸 303cm、深さ 60 ～ 87cm を測る。平面形は不整形で、底面は起伏があり、断面形はすり鉢状から逆台形を呈す。堆積土は 12 層からなり、砂質シルトを主体とし、シルト、粘土質シルト、粘土層がある。

遺物は、 1 ～ 5 層、10 ～ 11 層を中心に、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品、石製品等が出土している。そのうち、陶器 4 点、磁器 4 点、瓦質土器 1 点、土師質土器 1 点、土製品 1 点、石製品 1 点、瓦 1 点を図示した。



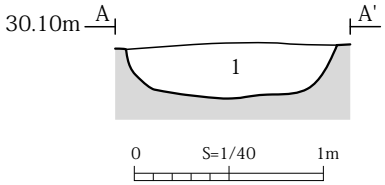


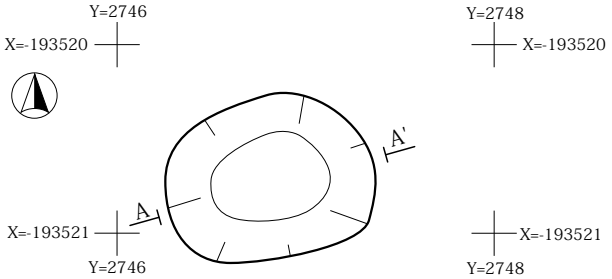
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5cm 以下の褐色砂質シルトブロック多量　焼土粒多量
2	5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	砂多量　焼土粒多量
3	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量　5Y3/1 オリーブ黒色土粒少量　酸化鉄多量
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量　酸化鉄多量　焼土粒多量
5	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄多量　焼土粒多量
6	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	砂　焼土粒多量
7	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	径 2cm 以下の礫少量　下部に径 10cm 以下の礫多量　焼土粒多量
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	酸化鉄・砂・焼土粒多量
9	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒　径 1 ～ 3cm の酸化鉄　礫多量
10	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	下部に径 10cm 以下の礫多量
11	10YR3/1	黒褐色	粘土	あり	ややあり	
12	10YR4/2	灰黄色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄多量　径 5cm 以下の礫少量

第 82 図　SK41 平面図・断面図

14）SK43 土坑　（第 83、86 図、図版 23-1 ～ 23-2）

S13-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 106cm、短軸 83cm、深さ 28cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿形を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。 遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、木製品、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器 2 点、瓦質土器 1 点、土師質土器 1 点、土製品 1 点、漆器椀 1 点を図示した。



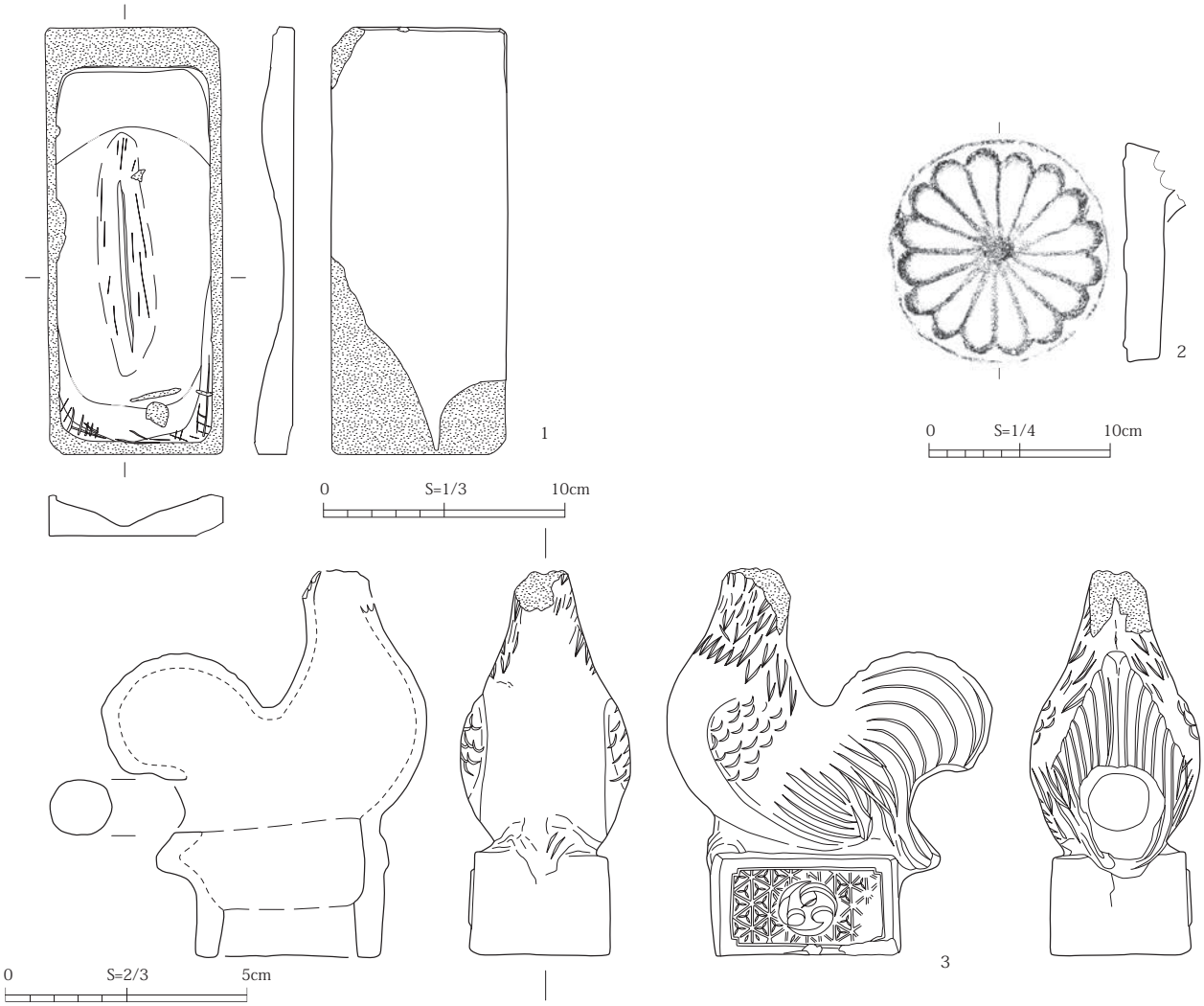


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径 1㎜以下のにぶい黄褐色土粒少量

第 83 図　SK43 土坑平面図・断面図

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	56-1	２層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(10.9)	3.9	6.2	大堀相馬	18 世紀後半	灰釉・飴釉流し掛け	I-561
2	56-2	３層	陶器	香炉	口縁～底部	粗	8.5	4.2	6.3	堤	19 世紀	褐釉　口唇部に灰釉	I-903
3	56-4	10 層	陶器	不明	口縁～底部	やや粗	8.8	9.0	3.6	不明	近世	抉り入り五カ所	I-576
4	57-2	10 層	土師質土器	かわらけ	底部	粗	-	-	-	在地	近世	底部墨書	I-583
5	56-3	10 層	陶器	皿	口縁～底部	やや粗	18.8	9.2	9.2	唐津	18 世紀後半	褐釉地白化粧土打ち	I-581
6	56-9	３層	瓦質土器	十能	取手	粗	-	-	-	在地	近世		I-563
7	56-5	３層	磁器	碗	口縁～底部	密	(10.4)	(1.5)	5.89	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：草花文　高台内：圏線	J-331
8	56-8	10 層	磁器	皿	口縁～底部	密	-	-	-	中国	16 世紀	外面：二重圏線　内面：樹木・花文　二重圏線　高台内：へら削り痕あり	J-335
9	56-6	11 層	磁器	変形皿	口縁～底部	密	(8.6)	(5.2)	2.5	肥前	18 世紀？	内面：型紙刷り花文　外面：唐草文？　圏線　二重圏線　高台内：圏線　口唇部：口剥	J-332
10	56-7	11 層	磁器	皿	口縁～底部	密	(13.0)	(8.0)	3.4	肥前	18 世紀	内面：草花文　圏線　二重圏線　見込みに染付け　外面：圏線　高台内：圏線　高台に砂付着	J-324

第 84 図　SK41 出土遺物（１）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	57-3	11 層	石製品	17.7	7.3	1.7	硯	K-16
2	57-5	3 層	軒丸瓦	3.4	11.9	2.2	瓦当径 11.9、文様区径 11.4、瓦当厚 1.6、周縁高・周縁幅：計測不可	F-65
3	57-1	3 層	土製品	8.0	6.7	3.5	鶏型土製品	P-72

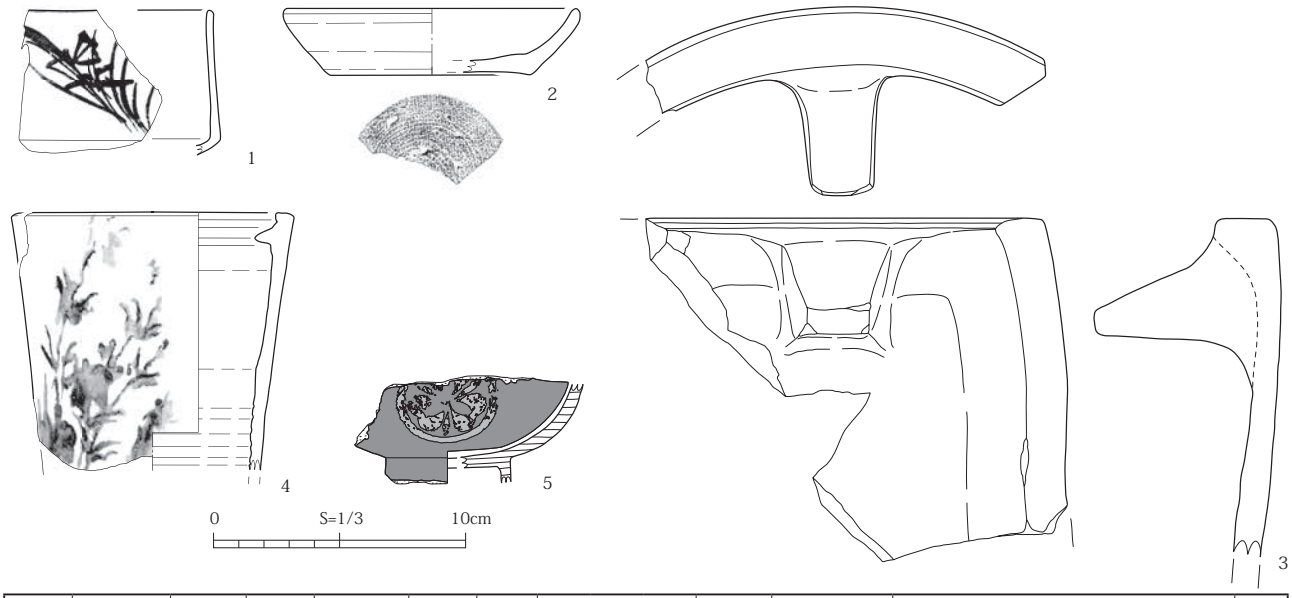
第 85 図　SK41 土坑出土遺物（2）

15）SK44 土坑　（第 87 図、図版 23-3）

S12-E44 グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びる。SX66 と重複し、SX66 より新しい。残存する規模は、長軸 195cm、短軸 176cm、深さ 14cm を測る。平面形は楕円形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は瓦片、陶器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

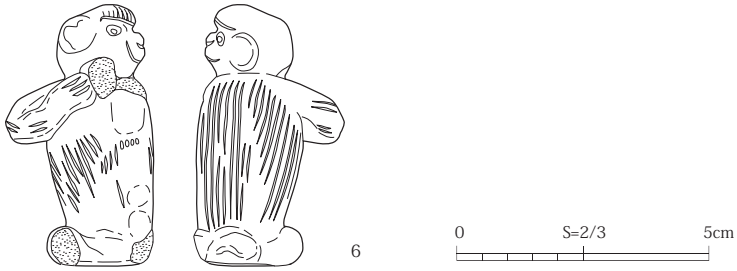
16）SK54 土坑　（第 87 図）

S12-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 81cm、短軸 77cm、深さ 11cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は陶器片、磁器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	57-6	1 層	陶器	筒型碗	口縁～底部	やや密	-	-	(5.6)	大堀相馬	不明	内：灰釉、貫入あり　外：灰釉、貫入あり 鉄絵 (草文 ?)、口錆あり　ロクロ：左？	I-197
2	57-7	1 層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	粗	(11.6)	(7.8	2.8	在地	18 世紀後半～19 世紀前半		I-191
3	58-1	1 層	瓦質土器	焜炉	口縁部	粗	(31.4)	-	(13.5)	在地	18 ～ 19 世紀		I-192
4	57-8	1 層	陶器	筒型壺	口縁～体部	粗	(11.2)	-	(10.4)	大堀相馬	18 ～ 19 世紀	鉄絵草文	I-195

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高			
5	58-3	1 層	漆器	（10.7）	（4.3）	（5.0）	ブナ属	椀　内面：朱漆　外面：黒漆・朱漆丸に方喰？文	L-79



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
6	58-2	1 層	土製品	5.2	2.9	2.0	猿型土製品	P-10

第 86 図　SK43 土坑出土遺物

17）SK60 土坑　（第 87 図、図版 23-4）

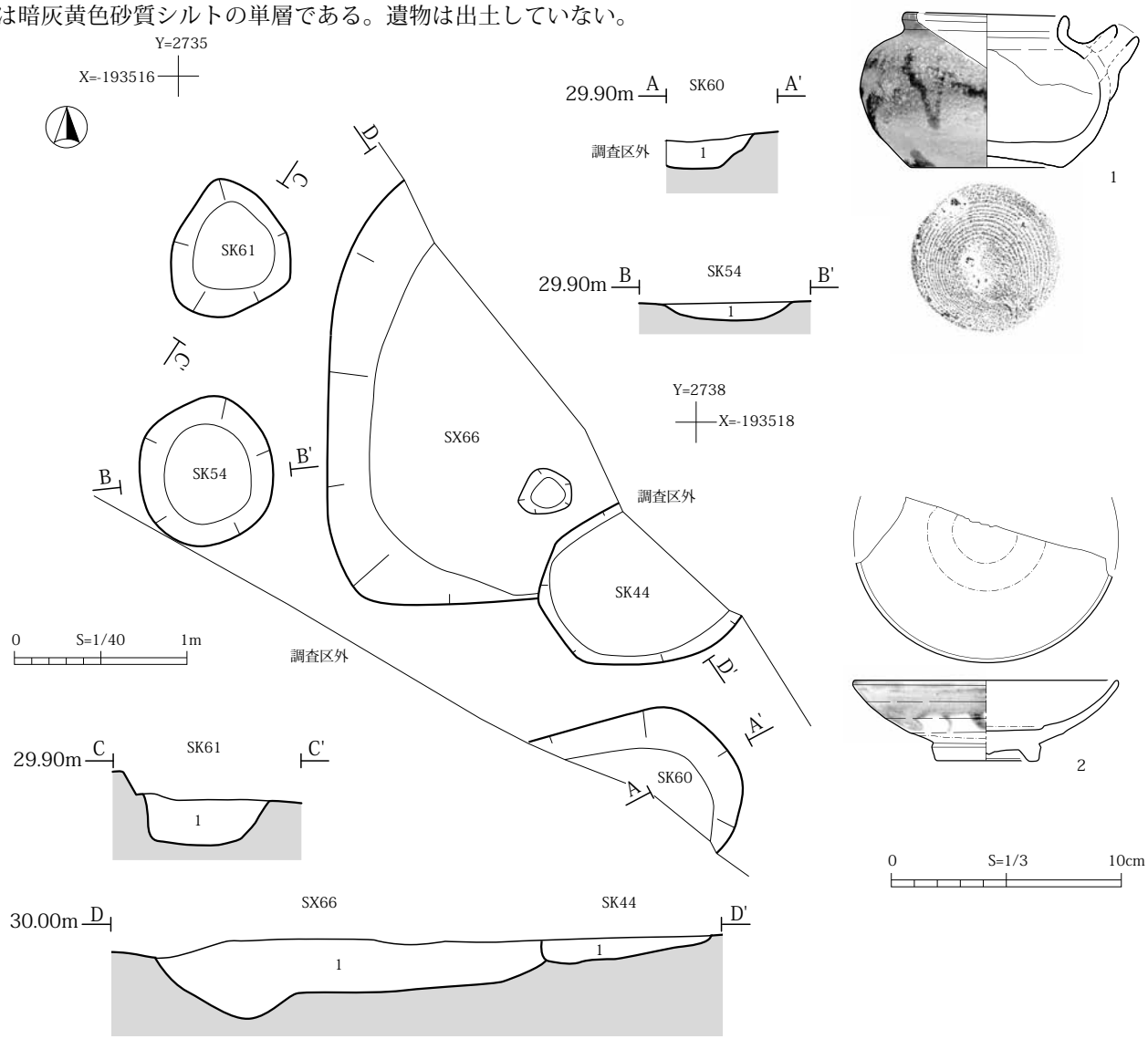
S12･13-E44 グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 113cm、短軸 105cm、深さ 19cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦であり、断面形は逆台形を呈す。褐灰色シルト質砂の単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

18）SK61 土坑　（第 87 図、図版 23-5）

S12-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 75cm、短軸 73cm、深さ 29cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦であり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品、石製品等が出土している。そのうち、18 世紀代の瀬戸美濃産注口壺および嬉野産緑釉皿を図示した。

19）SX66 性格不明遺構　（第 87 図、図版 23-6）

S12-E44 グリッドに位置する。SK44 と重複し、SK44 より古い。残存する規模は、長軸 1.47m、短軸 1.13m、深さ 45cm を測る。平面形は不整方形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗灰黄色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



SK44　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径 1㎜以下のにぶい黄褐色土粒少量

SK54　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径 2cm 以下の灰白色土粒多量

SK60　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5cm 以下の礫少量　径 3cm 以下の礫やや多量

SK61　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	粗砂少量　径 2cm の炭化物微量

SX66　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量　酸化鉄多量

図版番号	写真図版番号	遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	58-5	SK61 1 層	陶器	急須	口縁～底部	粗	7.0	6.3	6.2	不明	19 世紀？	内・外面：鉄釉　把手欠損　底部：回転糸切り痕あり　ロクロ：右	I-201
2	58-4	SK61 1 層	陶器	皿	口縁～底部	粗	(11.6)	4.6	3.5	嬉野	17 世紀後半	灰釉・緑釉　見込み：蛇ノ目釉剥ぎ	I-200

第 87 図　SK44・54・60・61 土坑・SX66 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

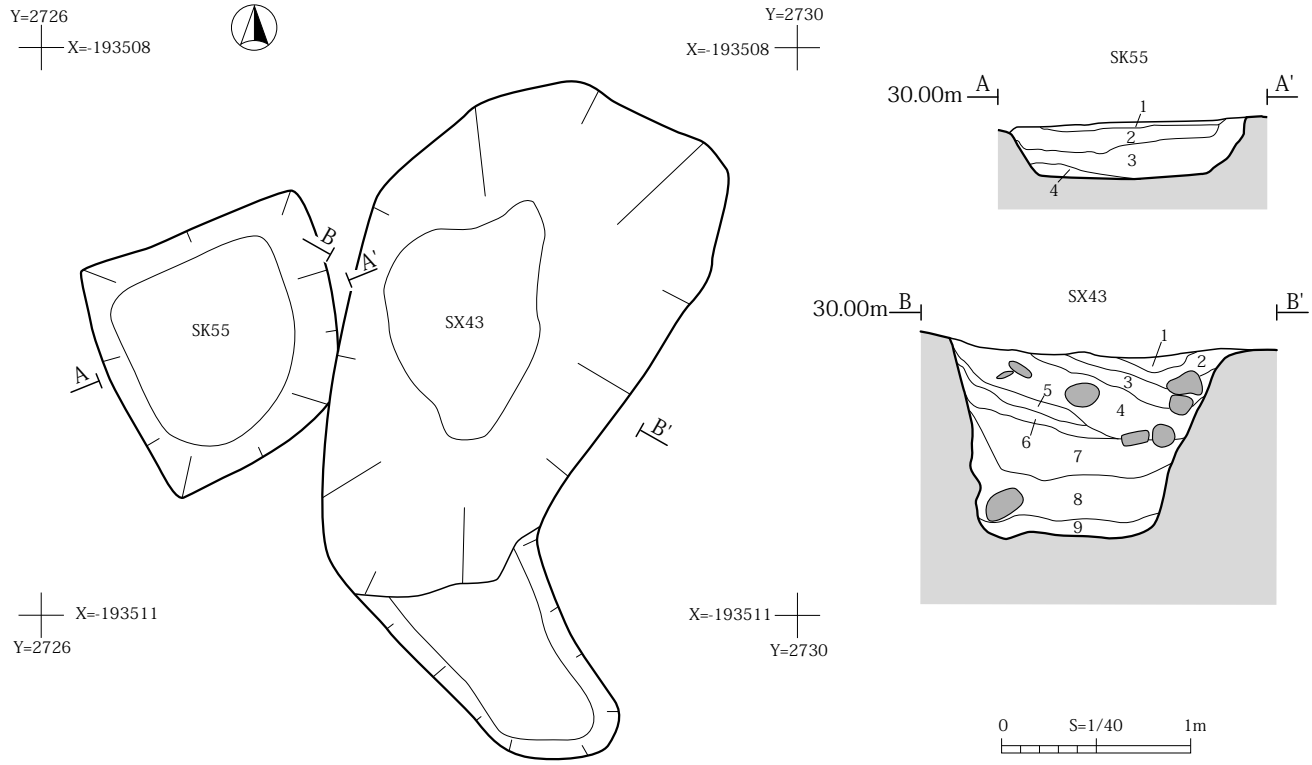
20）SK55 土坑　（第 88 図、図版 24-1 ～ 24-2）

S11-E43 グリッドに位置する。SX43 と重複し、SX43 より古い。残存する規模は、長軸 129cm、短軸 125cm、深さ 30cm を測る。平面形は不整方形を呈し、底面は平坦であり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は４層からなり、１層から２層は砂質シルト、３層から４層は粘土質シルトである。砂質シルトおよび粘土質シルトからなる。遺物は出土していない。

21）SX43 性格不明遺構　（第 88 ～ 89 図、図版 23-7 ～ 23-8、24-2）

S11･12-E43 グリッドに位置する。SK55 と重複し、SK55 より新しい。残存する規模は、長軸 351cm、短軸 172cm、深さ 98cm を測る。平面形は不整形で、南側に張り出した平坦面を有する。底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形呈す。堆積土は９層からなり、１層から２層はシルト質砂、３層から６層はシルト、７層は砂質シルト、８層は粘土質シルト、９層は砂である。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器３点、磁器１点、土師質土器１点、土製品１点、石製品１点を図示した。



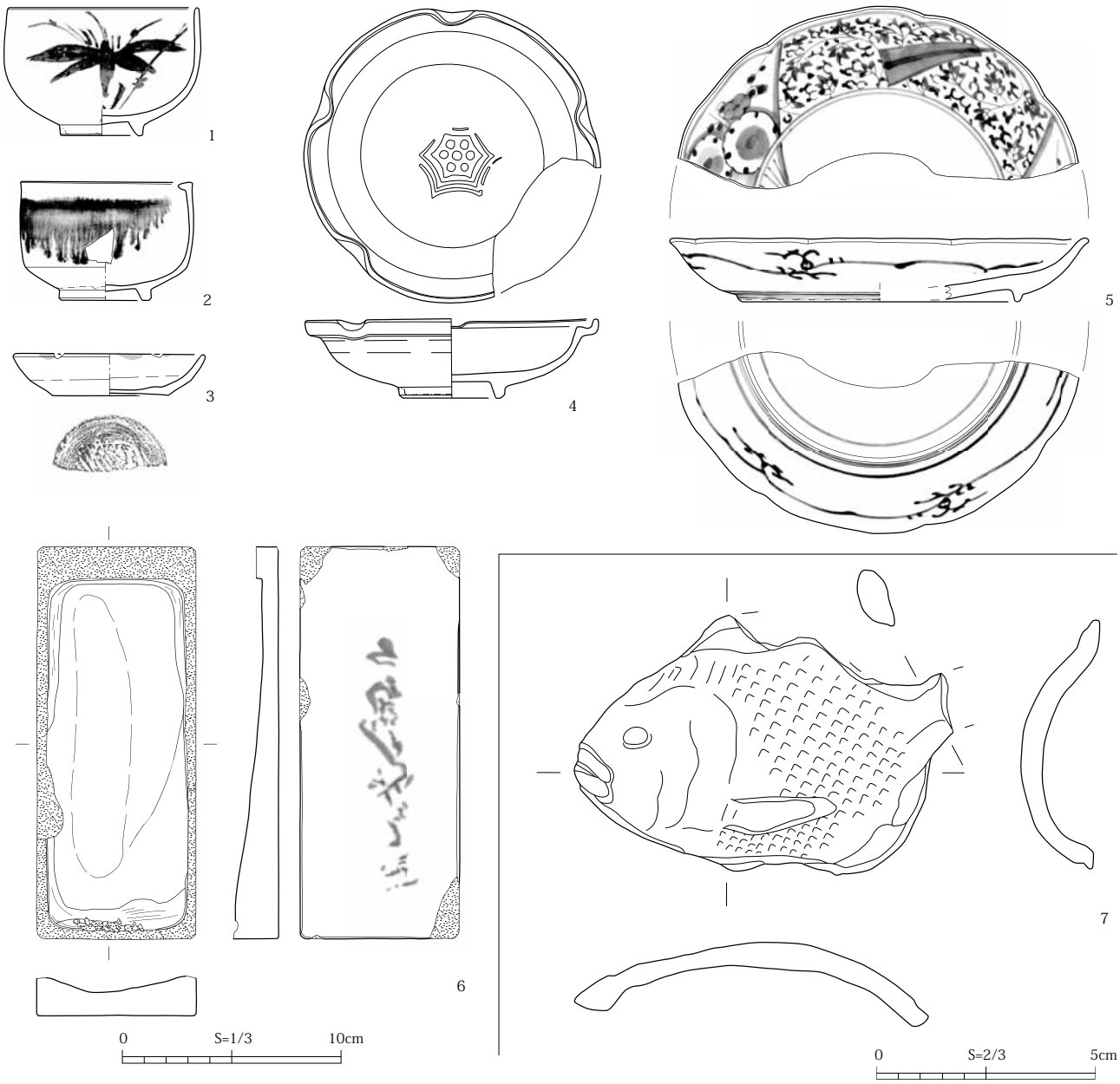
SK55　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 10cm 以下の礫多量　径 1cm の岩盤ブロックやや少量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	粗砂少量
3	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	
4	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 10cm 以下の礫微量　酸化鉄微量

SX43　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10Y4/1	灰色	シルト質砂	ややあり	あり	粗砂主体　径 5cm の岩盤ブロック微量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂主体　径 5㎜の礫と径 1cm の炭化物微量　３層に近似
3	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径 1cm 以下の暗褐色土粒少量　黄褐色土粒多量
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径 5㎜以下の黄褐色土粒少量
5	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 3㎜以下の黄褐色土粒少量
6	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	径 1 ～ 3cm の礫多量
7	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径 10cm 以下の礫多量
8	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	砂互層状に少量
9	10YR5/2	灰黄褐色	砂	なし	なし	

第 88 図　SK55 土坑・SX43 性格不明遺構平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	58-6	7 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	8.6	3.6	5.9	大堀相馬	18 世紀後半	鉄絵笹文	I-209
2	58-7	7 層	陶器	香炉	口縁～底部	やや密	7.8	4.0	5.4	大堀相馬	19 世紀	外面：灰釉・鉄釉 (飴釉) 流し掛け　貫入 口縁部に灰釉　貫入あり	I-211
3	58-8	8 層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	(8.8)	(5.2)	1.9	在地	18 世紀～ 19 世紀	油煙付着	I-207
4	59-1	4 層	陶器	皿	口縁～底部	やや粗	(13.4)	4.5	3.7	大堀相馬	18 世紀後半～ 19 世紀前半	輪花　見込み印花	I-205
5	59-2	7 層	磁器	輪花皿	口縁～底部	密	19.2	6.4	3.0	肥前	18 世紀前半～中？	内面：雪輪　梅　花唐草　扇子　二重圏線 外面：唐草文　圏線　二重圏線　高台内：圏線 高台に砂付着　※断面に漆継痕あり	J-110

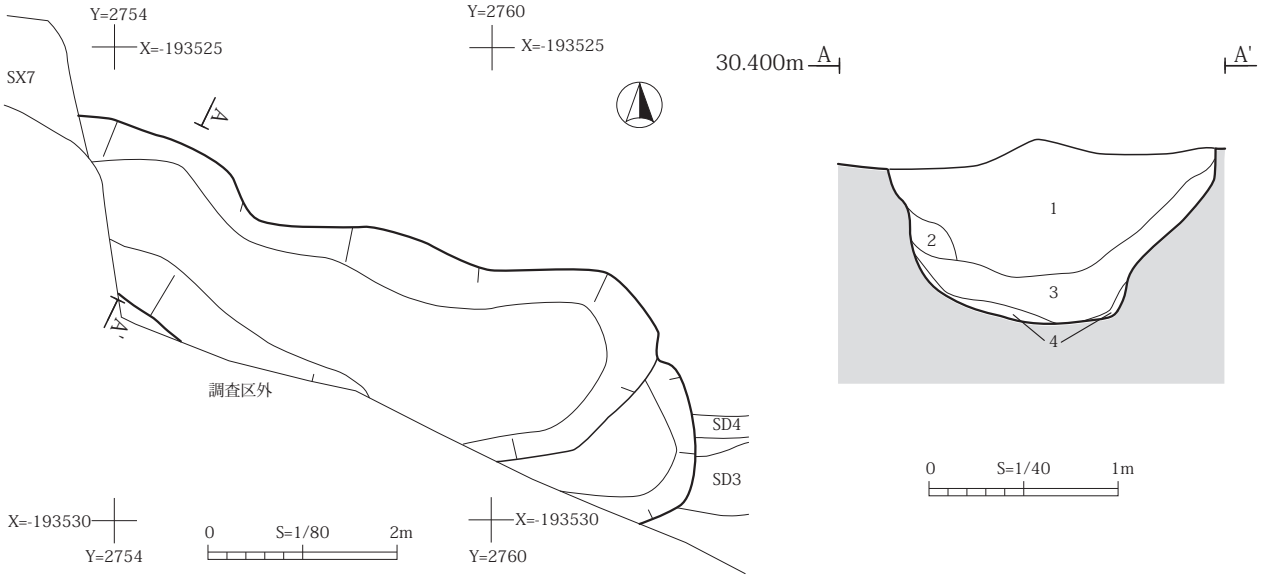
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
6	59-3	7 層	石製品	18.0	7.3	2.1	硯　裏面墨書有り（判読不能）	K-7
7	59-4	7 層	土製品	8.5	6.0	0.5	魚型土製品　型作り　裏面に指圧痕あり	P-129

第 89 図　SX43 性格不明遺構出土遺物

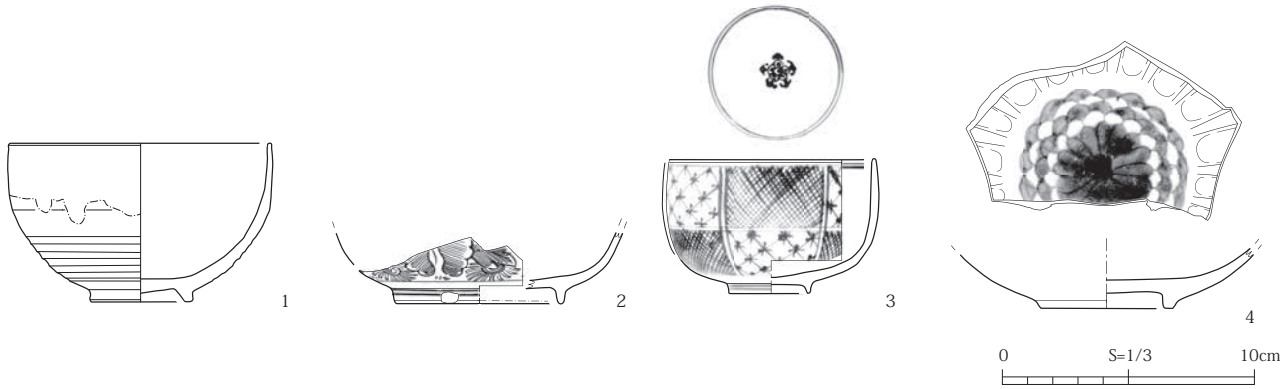
22）SX3 性格不明遺構　（第 90 ～ 91 図、図版 24-3 ～ 24-4）

S13-E46 グリッドに位置する。西側と南側の一部は調査区外へ延びる。SD3､SD4 と重複し､SX3 が一番新しい。残存する規模は、長軸 677cm、短軸 207cm、深さ 85cm を測り、主軸方位は N-60° -W を示す。平面形は溝状もしくは不整長方形で、東側にテラス状の平坦面を有する。底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は４層のシルト質砂からなる。

遺物は各層から、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、石製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器４点、磁器３点、土師質土器２点を図示した。

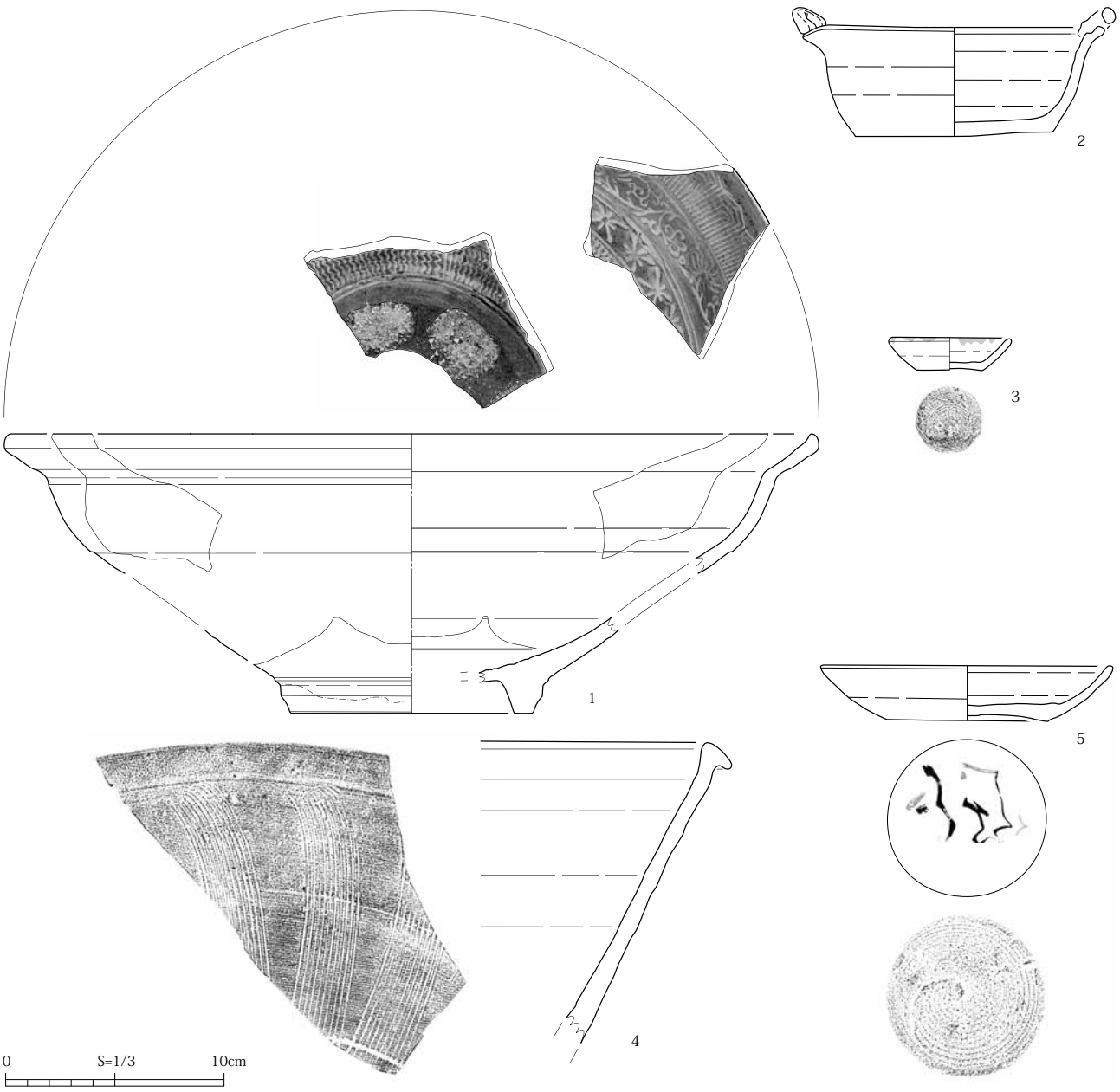


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄　径 5mm の炭化物やや多量　径 10cm 以下の礫少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄　径 10cm 以下の礫やや多量
3	10YR6/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	上面に鉄分多量　径 5cm 以下の礫微量
4	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	ややあり	なし	径 10cm の礫少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	59-5	1 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	10.5	3.9	6.3	大堀相馬	18 世紀後半	灰釉・鉄釉掛け分け	I-219
2	60-3	1 層	磁器	鉢 or 碗	体部～底部	密	-	-	(6.8)	肥前	19 世紀前半～？	外面：草花文？　圏線　二重圏線　焼継痕あり	J-117
3	60-2	1 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(8.4)	3.2	5.4	肥前	18 世紀後半	外面：紅葉文　見込み：圏線　五弁花	J-381
4	60-4	1 層	磁器	輪花皿	口縁～底部	密	-	(5.3)	(2.2)	肥前	18 世紀	内面：菊花文　高台に砂付着	J-115

第 90 図　SX3 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物（１）



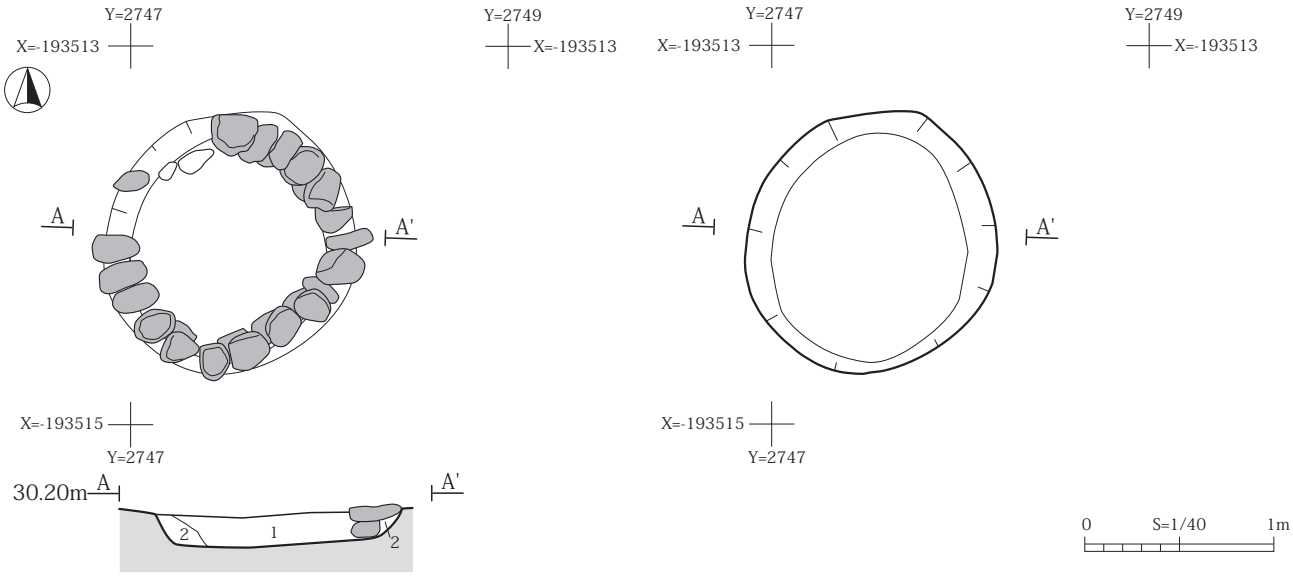
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	59-6	1 層	陶器	大皿	体部～底部	やや粗	29.0	10.0	9.9	唐津	17 世紀前半～中頃	三島手　内底砂目	I-221
2	59-9	1 層	土師質土器	鍋	口縁～底部	粗	13.8	9.0	5.9	在地	近世		I-824
3	59-8	1 層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	5.7	3.0	1.4	在地	近世	口縁部に油煙付着	I-225
4	60-1	1 層	陶器	擂鉢	口縁～体部	粗	-	-	(14.0)	在地	近世	卸目 9 条	I-218
5	59-7	1 層	土師質土器	皿	口縁～底部	粗	13.4	7.3	2.5	在地	近世	底部墨書	I-217

第 91 図　SX3 性格不明遺構出土遺物（2）

23）SX19 石組遺構　（第 92 図、図版 24-5 ～ 24-6）

S12-E45 グリッドに位置する、石組土坑である。残存する規模は、長軸 136cm、短軸 133cm、深さ 17cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。石組は、幅 13 ～ 17cm、奥行き 19 ～ 25cm、厚さ 8 ～ 10cm の自然礫を 2 段積み上げている。石組の内幅 90cm、外幅 135cm を測る。 1 層は黒褐色砂質シルトからなる石組み内の堆積土で、 2 層は褐灰色の砂質シルトからなる掘り方埋土で、礫を多量に含む。

遺物は、堆積土から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	砂・酸化鉄多量
2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 5cm 以下の礫多量　砂・炭化物少量

第 92 図　SX19 石組遺構平面図・断面図

24）SX26 性格不明遺構　（第 93 図、図版 24-7）

S11-E42 グリッドに位置する。P150 と重複し、P150 より古い。残存する規模は、長軸 138cm、短軸 72cm、深さ 14cm を測る。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平坦であり、断面形は皿状を呈す。堆積土は３層からなり、１層は砂質シルト、２層から３層は粘土質シルトである。遺物は出土していない。

25）SX27 性格不明遺構　（第 93 図）

S11-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 92cm、短軸 45cm、深さ 6cm を測る。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平坦であり、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

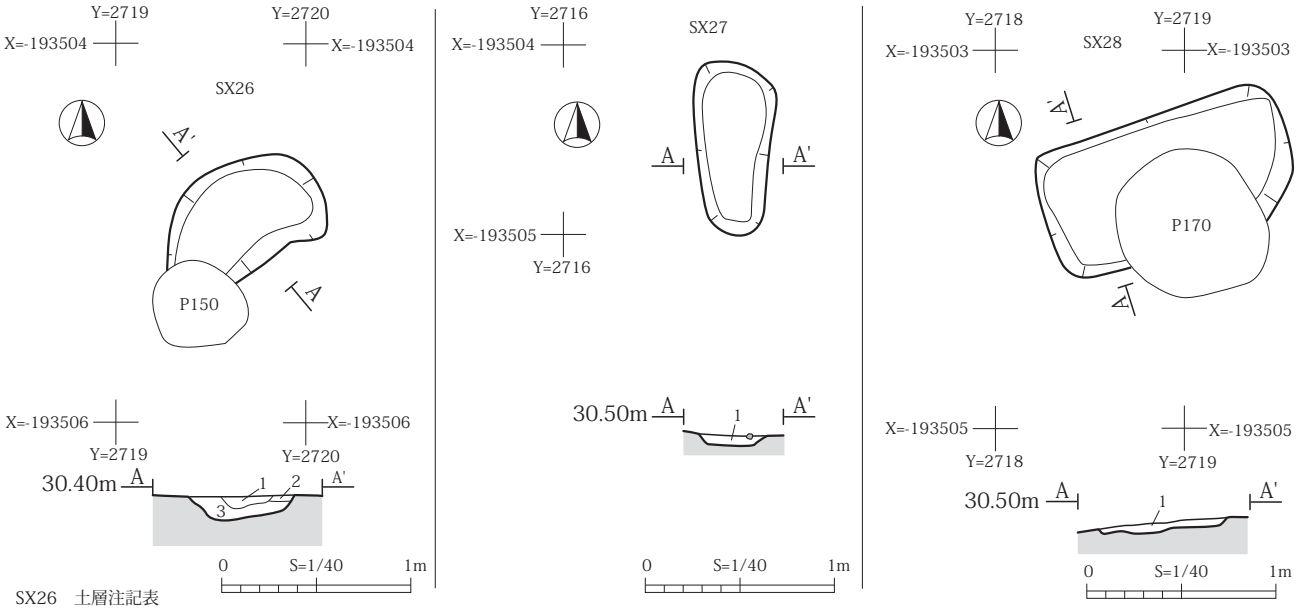
26）SX28 性格不明遺構　（第 93 図、図版 24-8、25-1）

S11-E42 グリッドに位置する。P170 と重複し、P170 より古い。残存する規模は、長軸 87cm、短軸 55cm、深さ 5cm を測る。平面形は不整長方形で、底面は南側に向かって傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は灰色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

27）SX40 整地跡　（第 94 図、図版 25-2 ～ 25-4）

S11-E43 グリッドに位置する。建物の一部を構成すると思われる石列および敷石遺構である。P366、P363 と重複し、P366、P363 より古い。北西側をⅢｂ層の遺構 (SD7) に削平され、東側は調査区外に延びる。溝状の掘り方を有し、上部に石列および石敷きを築き段差を設けている。建物を建てる際の整地跡と考えられる。

残存する規模は、掘り方の長さ 674cm、上端幅 406 ～ 516cm、下端幅 323 ～ 356cm、深さ 39cm を測り、石列は長さ 451cm が確認されている。主軸方位は N-71°-E を示す。掘り方の底面はほぼ平坦である。石列は幅 13 ～ 36cm、長さ 16 ～ 48cm、厚さ 10 ～ 15cm の自然礫を用いている。石列を境に、南側の方が 12cm 低くなっている。堆積土は 10 層からなる。1 層は柱穴の掘り方と思われるが、柱痕は確認できなかった。上端の一部は、整地の上面を構築するためのものと思われる石敷きで塞がれており同時期に存在した柱跡と考えられる。周辺に対応するピットは確認できなかった。2 層は石列を埋設するための掘り込みの埋め土と思われる。３層から 10 層は掘



SX26　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5cm の礫微量　酸化鉄多量
2	2.5Y2/1	黒色	粘土質シルト	あり	ややあり	植物遺存体
3	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	酸化鉄少量　径 1cm 以下の明黄褐色岩盤ブロック微量

SX27　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10cm 以下の礫少量　径 5cm 以下の灰白色土粒やや多量

SX28　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	7.5Y6/1	灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5cm 以下の礫微量　酸化鉄少量

第 93 図　SX26・SX27・SX28 性格不明遺構平面図・断面図

込地業に伴う整地土で、シルト、砂質シルト、粘土質シルト、シルト質砂による互層状堆積である。

遺物は瓦片、17 ～ 18 世紀代の陶磁器片、土師質土器片、石製品、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

28）SX44 性格不明遺構　（第 95 図、図版 25-5 ～ 25-6）

S11･12-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 397cm、短軸 169cm、深さ 56cm を測る。平面形は不整円形で、底面は起伏しながら南東側へゆるやかに傾斜する。断面形は皿状を呈す。堆積土は 2 層のシルトからなり、1 層は上層の整地土が堆積したものと考えられ、2 層は自然堆積の可能性がある。遺物は出土していない。

29）SX77 道路状遺構　（第 96 図、図版 26-1 ～ 26-3）

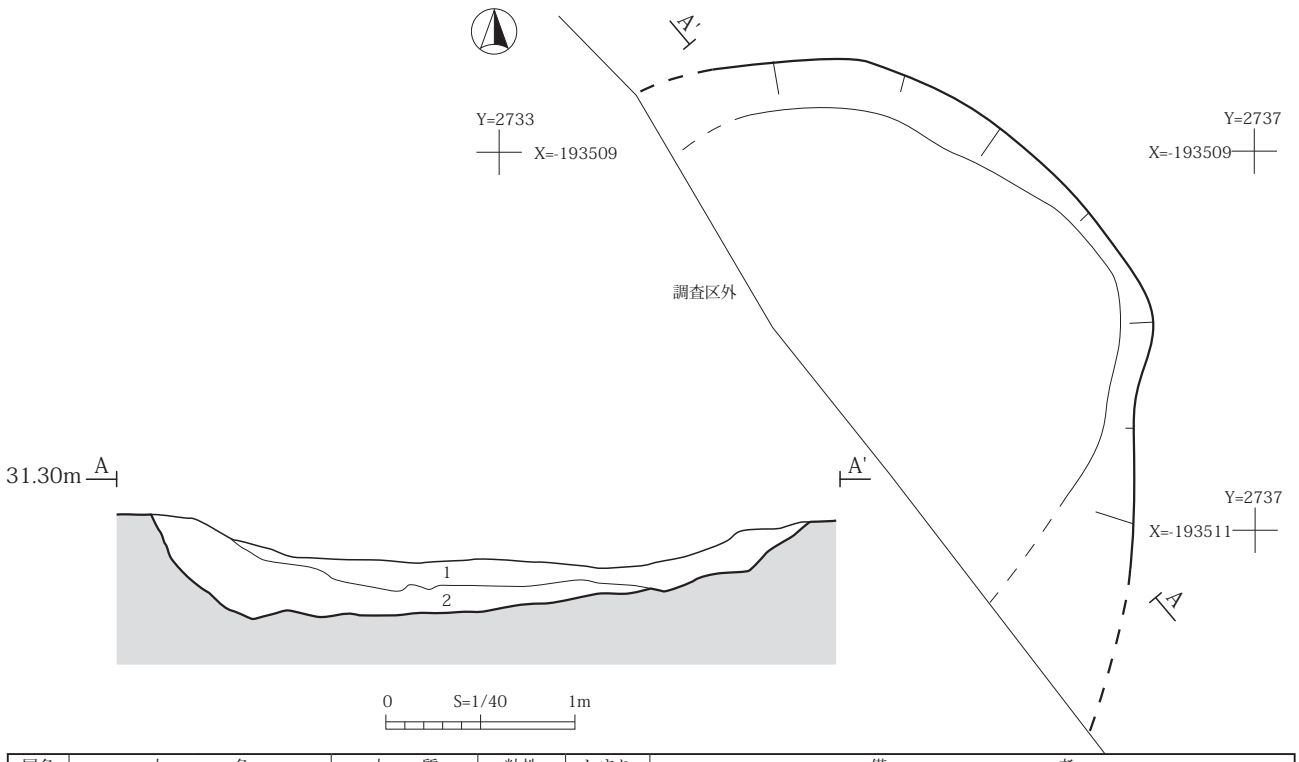
S11-E41 グリッドに位置する。礫敷を伴う整地層の堆積で、道路跡と思われる。東側の SD21 と並行する。北側、西側、南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 407cm、短軸 213cm、掘り方の深さ 19 ～ 22cm を測り、主軸方位は N-15° -W を示す。掘り方の底面は平坦である。構築土は砂質シルト、粘土質シルト、粘土を版築状に締固めて構築している。また、4 層底面で礫敷が確認されている。遺物は出土していない。

30）SD21 溝跡　（第 96 図、図版 26-1、26-3）

S11-E41・42 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に延びる溝跡である。P199、P200 と重複し、SD21 が一番古い。西側の SX77 と並行し、道路側溝と思われる。残存する規模は、長さ 425cm、上端幅 43 ～ 58cm、下端幅 30 ～ 41cm、深さ 8 cm を測り、主軸方位は N-15° -W を示す。断面形は皿状を呈す。南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

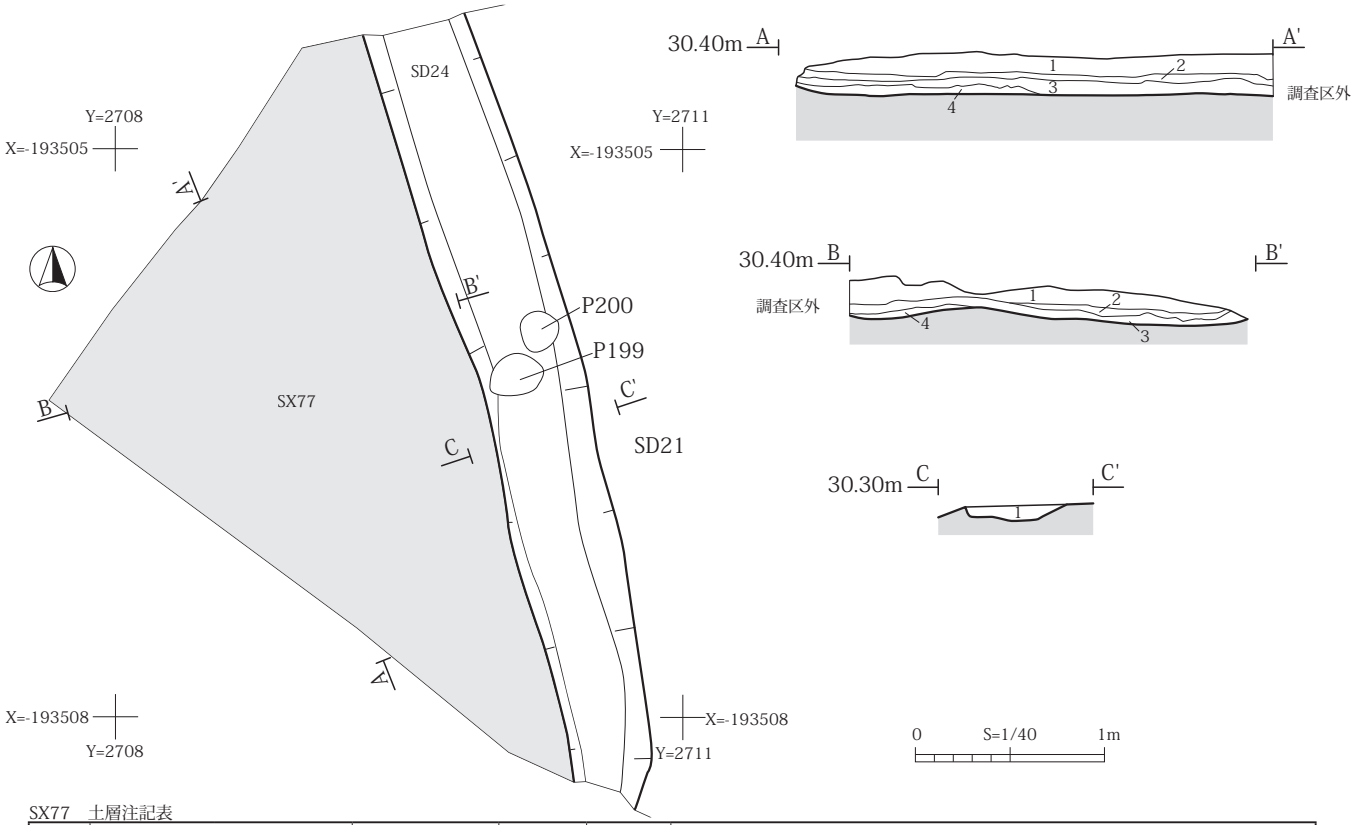
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	ややなし	ややなし	
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄多量　径 1cm 以下の炭化物微量
3	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径 2cm 以下の黒色土粒多量
4	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	粗砂少量
5	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	
6	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 15cm 以下の礫多量
7	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物微量
8	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	酸化鉄少量
9	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5cm の礫少量
10	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5cm 以下の礫少量　径 3cm 以下の礫やや多量

第 94 図　SX40 整地跡平面図・断面図



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	あり	ややあり	径 1㎜以下の炭化物微量
2	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10cm 以下の礫多量　径 5cm 以下の黒色土粒やや多量

第 95 図　SX44 性格不明遺構平面図・断面図



SX77　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	白色粒子やや少量　径 1cm の岩盤ブロック微量
2	10YR5/1	褐灰色	粘土	あり	あり	径 3cm の灰白色土粒多量
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	あり	径 5cm の礫少量
4	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	白色粒子やや多量　酸化鉄少量　底面に礫多量

SD21　土層注記表

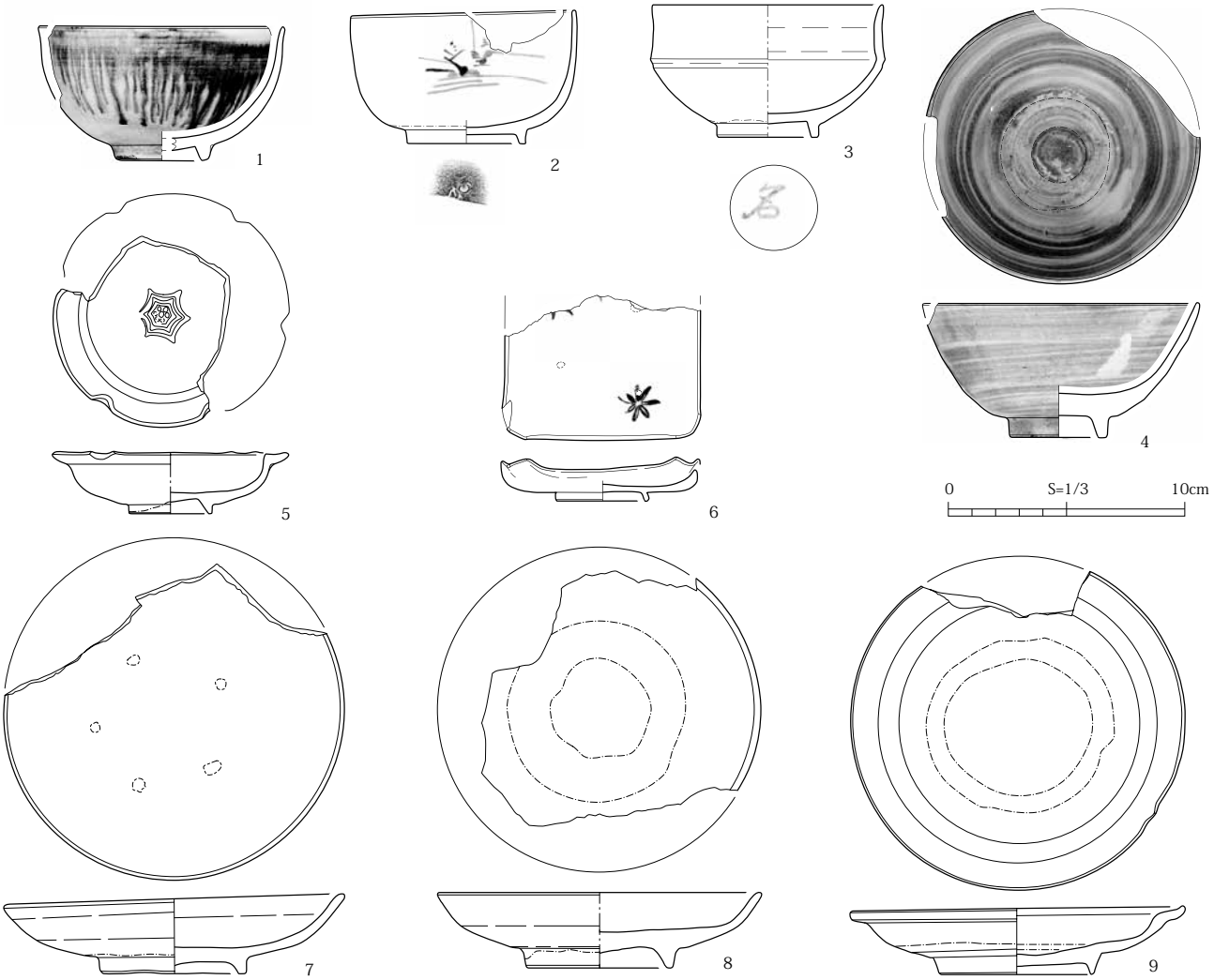
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 3 ～ 5 cm の礫少量

第 96 図　SX77 道路状遺構・SD21 溝跡平面図・断面図

31）遺構外出土遺物（第 97 ～ 103 図）

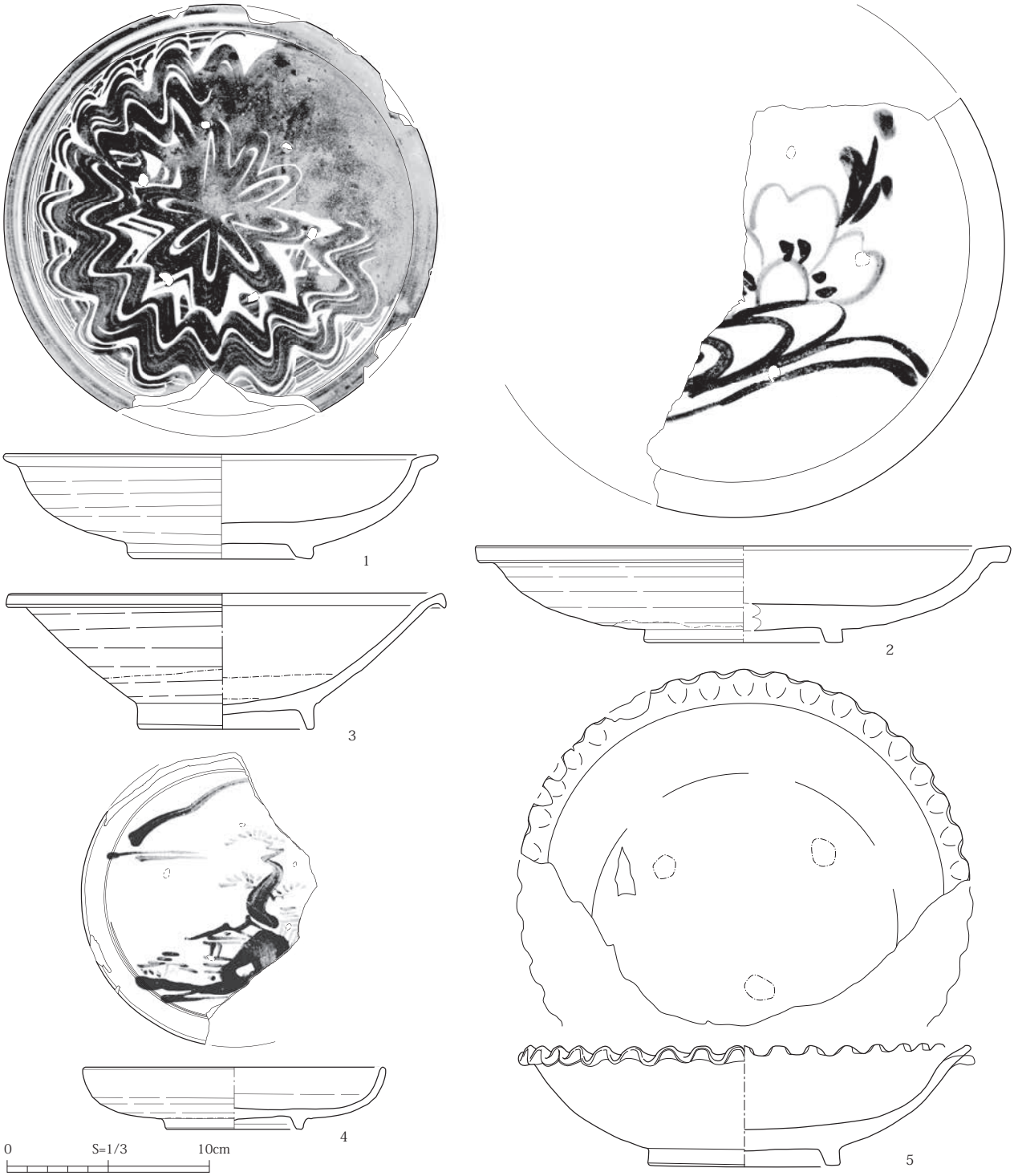
Ⅳｂ層の出土遺物点数は瓦 966 点、陶器 864 点、土師質土器 386 点、瓦質土器 74 点、磁器 671 点、石製品 25 点、木製品 41 点、金属製品 71 点、古銭 14 点、骨 1 点、その他 64 点、合計 3195 点で、18 世紀後半のものを中心に、16 世紀代から 19 世紀までの遺物が出土している。

陶器を産地別にみると、志野 2 点、織部 1 点、唐津 1 点、岸 2 点、嬉野 1 点、丹波 1 点、京・信楽系 4 点、肥前 1 点、瀬戸美濃 9 点、大堀相馬 9 点となる。また、磁器を産地別にみると、景徳鎮 3 点、漳州窯 3 点、肥前 281 点である。このうち、陶器 21 点、磁器 14 点、瓦質土器 3 点、土師質土器 5 点、瓦 2 点、金属製品 3 点、ガラス製品 1 点、石製品 1 点、土製品 3 点、木製品 1 点を図示した。



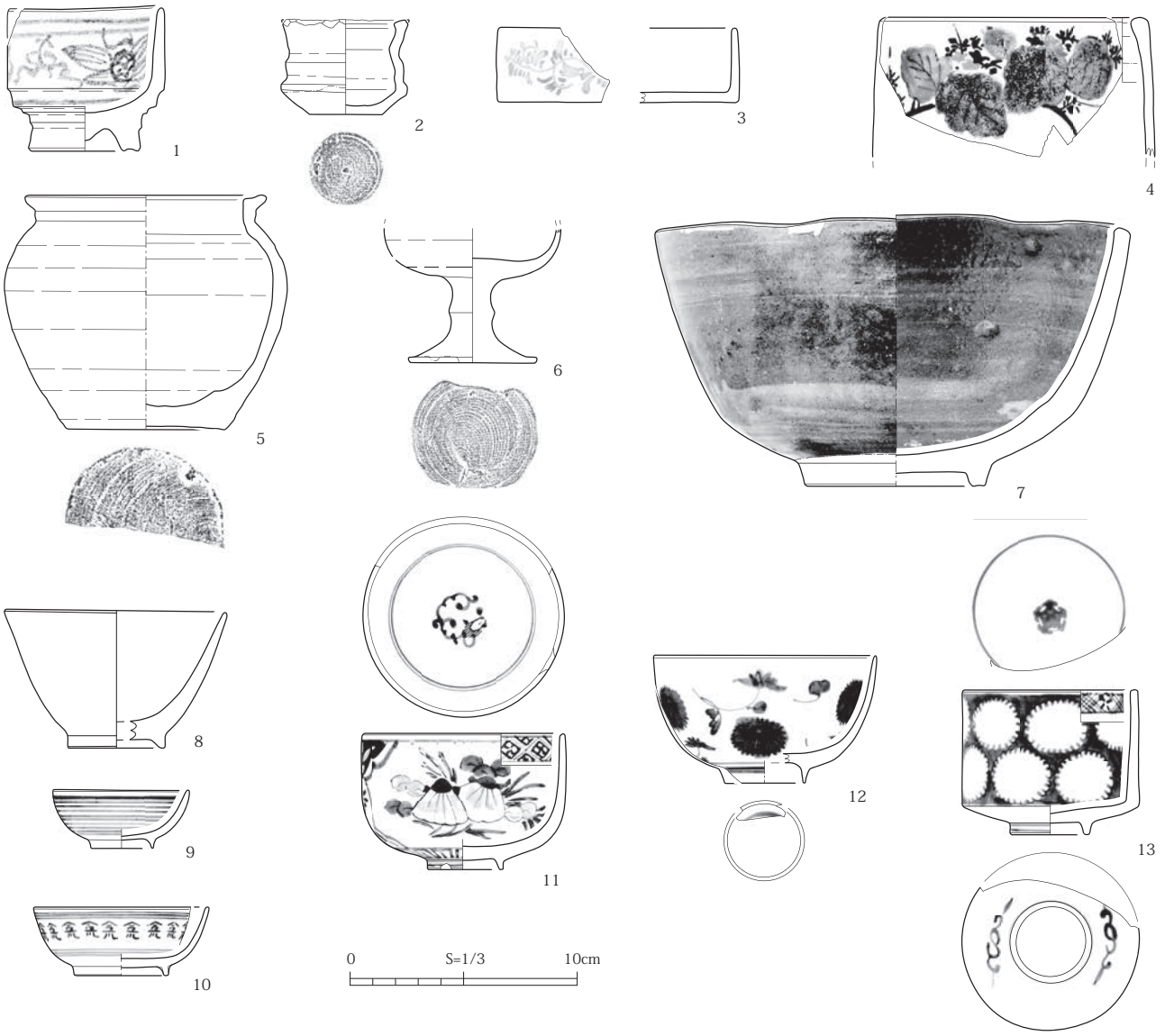
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm） 口径	底径	器高	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	60-6	S11-E42	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(5.4)	(4.0)	5.7	大堀相馬	18 世紀後半	灰釉・飴釉流し掛け	I-284
2	60-8	S12-E43	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(9.5)	5.0	5.7	大堀相馬	18 世紀後半	鉄絵山水文　外底押印あり	I-278
3	60-10	S13-E46	陶器	碗	口縁～底部	やや密	9.7	4.2	5.6	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	高台内墨書「名」	I-291
4	60-5	S11-E42	陶器	碗	口縁～底部	やや密	11.8	4.0	5.7	肥前	18 世紀後半	刷毛目	I-246
5	61-5	S11-E42	陶器	折縁輪花皿	口縁～底部	やや密	(9.5)	3.6	2.5	大堀相馬	18 世紀末～19 世紀初	内面：灰釉　見込み：陰刻文　貫入　外面：灰釉　貫入	I-301
6	61-6	S13-E46	陶器	変形皿	口縁～底部	やや密	-	3.8	1.6	瀬戸・美濃	18 世紀後半～19 世紀前半	見込み：鉄絵紅葉文　目跡あり	I-289
7	61-2	S12-E44	陶器	皿	口縁～底部	やや密	11.8	4.0	5.7	肥前	18 世紀後半	目跡 5 箇所	I-275
8	61-7	S11-E43	陶器	皿	口縁～底部	粗	(13.6)	6.2	3.2	小野相馬	18 世紀中～後？	内面：灰釉　貫入　見込み：蛇ノ目釉剥　外面：灰釉　貫入	I-304
9	61-3	S12-E44	陶器	皿	口縁～底部	やや密	14.0	6.4	2.9	瀬戸・美濃	18 世紀後半	内面：灰釉　貫入　見込み：蛇ノ目釉剥　外面：灰釉　貫入	I-292

第 97 図　Ⅳｂ層出土遺物（1）



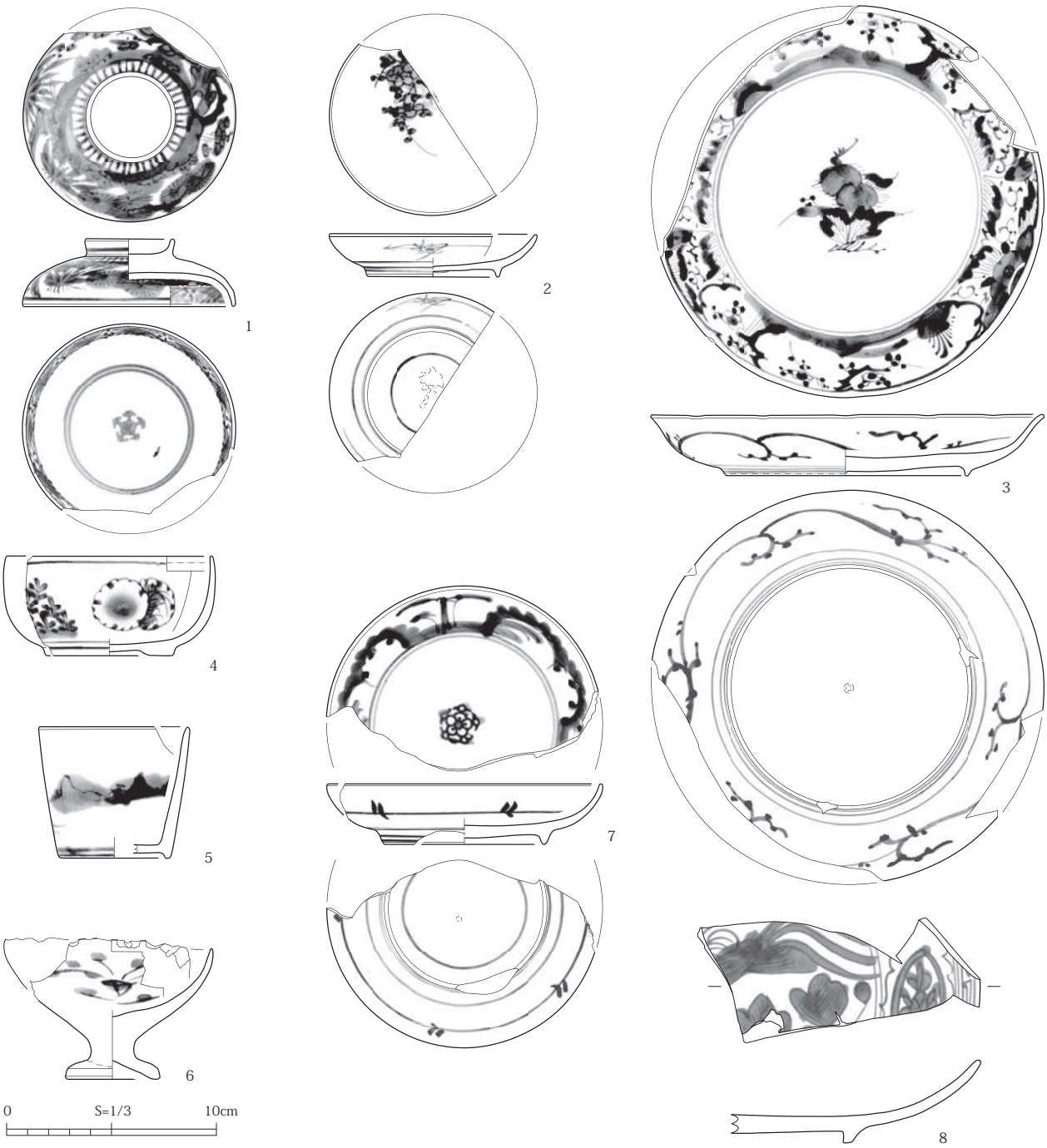
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	62-1	S12-E44	陶器	鉢	口縁～底部	粗	21.3	8.8	5.5	唐津	18 世紀？	内面：刷毛目 (白化粧土)　目痕 6 箇所 (胎土目 ?)　外面：鉄釉　ロクロ：右	I-312
2	60-11	S12-E43	陶器	大皿	口縁～底部	密	(26.2)	9.6	4.9	瀬戸・美濃	18 世紀後半～19 世紀前半	内面：鉄絵　目跡あり	I-283
3	61-9	S10-E42	陶器	鉢？	口縁～底部	粗	(21.8)	10.6	6.8	瀬戸・美濃	18 世紀？	内面：灰釉　見込み：蛇ノ目釉剥ぎ　貫 外面：灰釉　貫入　ロクロ : 右	I-305
4	61-4	S12-E44	陶器	皿	口縁～底部	粗	15.0	9.7	3.3	大堀相馬	18 世紀後半	鉄絵楼閣山水文	I-296
5	61-1	S12-E44	陶器	大皿	口縁～底部	粗	(22.7)	9.4	6.2	大堀相馬	18 世紀後半	輪花　目跡 3 箇所	I-247

第 98 図　Ⅳb 層出土遺物（2）



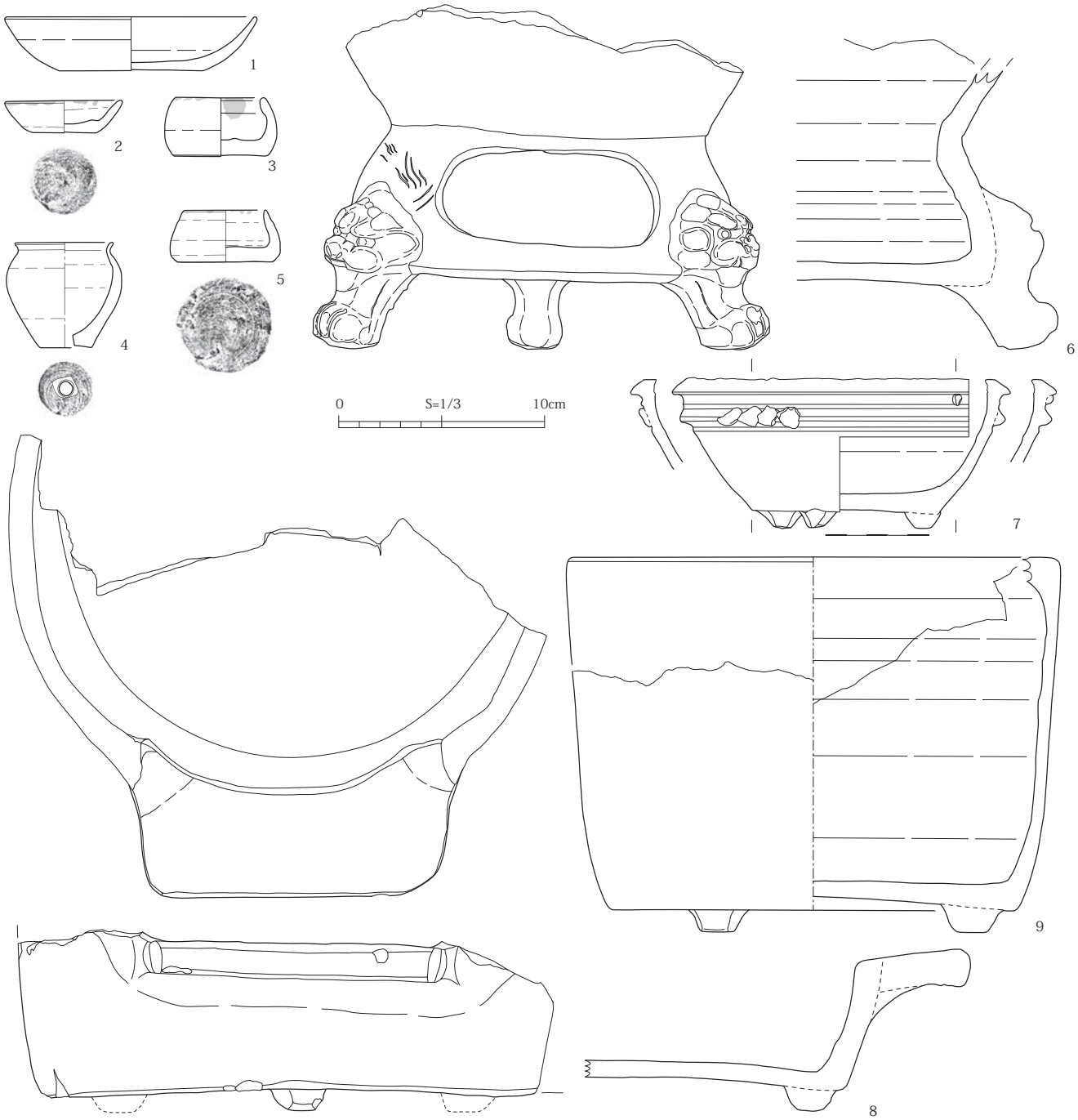
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	61-8	S11-E44	陶器	向付	口縁～底部	粗	(6.7)	4.7	6.5	不明	近世	鉄絵	I-244
2	61-10	S12-E44	陶器	瓶	口縁～底部	粗	5.6	3.0	4.2	瀬戸・美濃	18 世紀後半		I-776
3	60-7	S13-E46	陶器	鬢盥	口縁～底部	やや密	-	-	3.3	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：型紙文様	I-286
4	62-2	S11-E42	陶器	香炉	口縁～底部	やや密	11.6	-	6.1	京	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：色絵樹木文	I-288
5	62-3	S12-E43	陶器	小壺	口縁～底部	粗	10.6	7.0	10.3	在地？	18 ～ 19 世紀	内面：鉄釉　外面：鉄釉　底部：回転糸切り痕　ロクロ：右	I-311
6	61-11	S12-E43	陶器	仏飯具	口縁～底部	やや密	-	5.6	(5.8)	大堀相馬？	19 世紀	内面：灰釉　貫入　外面：灰釉　貫入 底部：回転糸切り痕　ロクロ：右	I-261
7	60-9	S10-E42	陶器	鉢	口縁～底部	粗	(21.0)	7.8	12.0	唐津	18 世紀後半	内外面：鉄釉	I-242
8	62-4	S11-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	9.8	4.2	6.2	肥前	18 世紀？	青磁　高台に砂付着	J-147
9	62-8	S13-E46	磁器	小杯	口縁～底部	密	6.0	2.8	2.6	肥前	18 世紀	外面：組文	J-148
10	62-7	S10-E42	磁器	小杯	口縁～底部	密	(7.6)	(4.2)	3.0	肥前	18 世紀後半	外面：三重圏線　文字文	J-149
11	63-4	S11-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	8.6	3.4	6.0	肥前	18 世紀後半	外面：色絵草花文　蓮弁文　二重圏線　内面：四方襷　二重圏線　見込み：宝珠？	J-158
12	63-2	S11-E42	磁器	碗	口縁～底部	密	9.8	-	5.5	肥前	18 世紀後半	外面：草花文	J-157
13	62-6	S10-E42	磁器	筒型碗	口縁～底部	密	(7.7)	(3.4)	(6.4)	肥前	18 世紀	外面：雪輪文　内面：四方襷　圏線　コンニャク五弁花	J-167

第 99 図　Ⅳｂ層出土遺物（３）



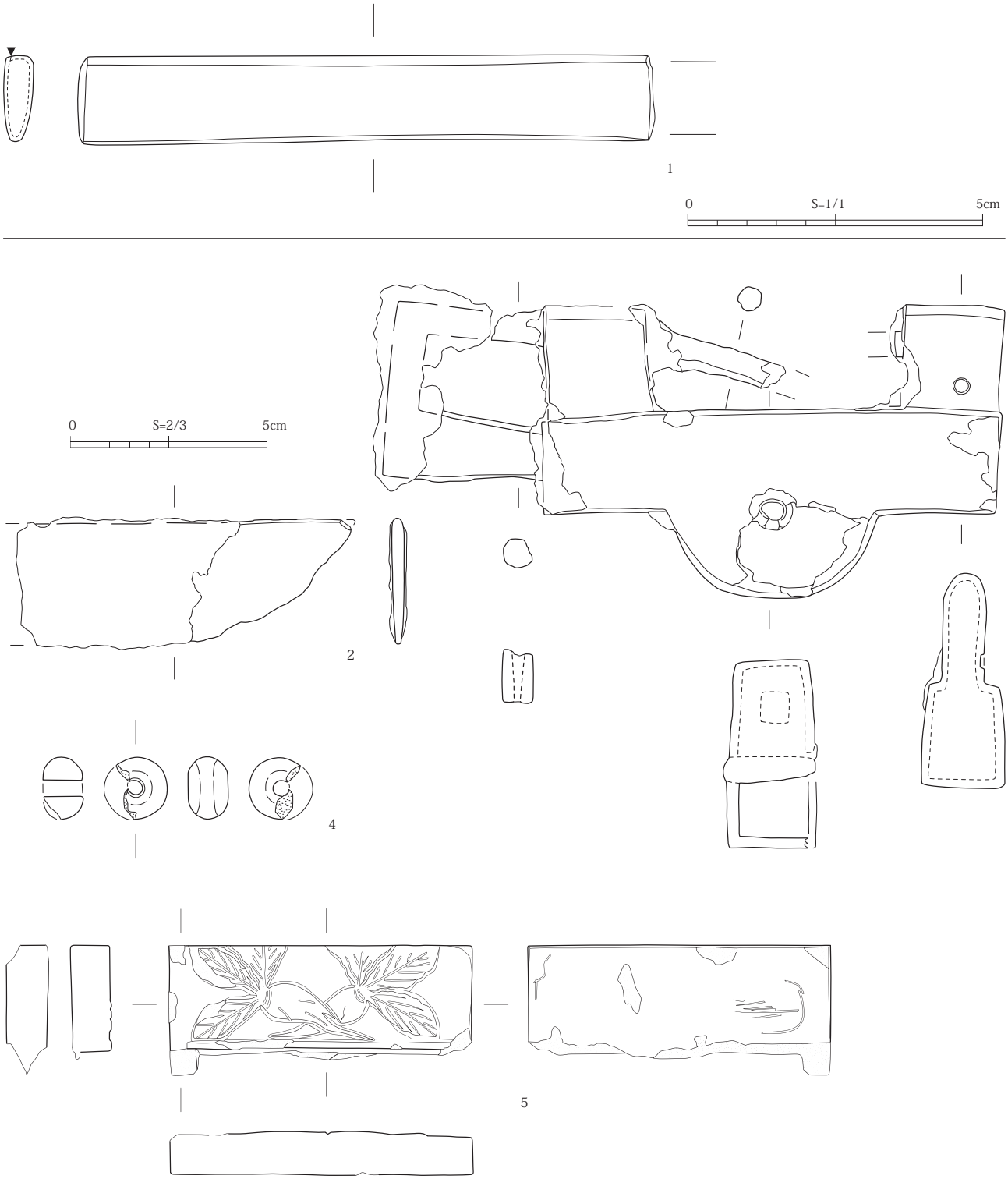
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	64-1	S11-E44	磁器	蓋	口縁～底部	密	10.2	4.3	3.3	肥前	18 世紀後半	外面：草花文　内面：四方襷　二重圏線 見込み：コンニャク五弁花	J-614
2	64-2	S10-E42	磁器	皿	口縁～底部	密	(10.0)	6.2	2.1	肥前	19 世紀？	内面：梅文　外面：紅葉文？　圏線　二重圏線　高台内：圏線　高台に砂付着	J-140
3	63-5	S13-E46	磁器	皿	口縁～底部	密	18.8	11.5	2.9	肥前	18 世紀前半	外面：唐草文　内面：牡丹文、梅文、	J-141
4	63-1	S11-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	(9.8)	(6.2)	4.7	肥前	18 世紀前半	外面：雪輪　松文　口縁内側無釉	J-131
5	62-9	S11-E44	磁器	蕎麦猪口	口縁～底部	密	(7.2)	5.2	6.3	肥前	18 世紀後半	外面：山水文	J-168
6	63-3	S12-E44	磁器	高足盃	口縁～底部	密	(10.2)	4.6	5.7	肥前	18 世紀後半	外面：草花文　口唇部敲打痕あり	I-287
7	63-6	S12-E44	磁器	皿	口縁～底部	密	13.1	7.6	2.9	肥前	18 世紀	外面：草文　内面：山水文　圏線　見込み：コンニャク五弁花	J-156
8	93-5	S12-E44	磁器	皿	口縁～底部	やや密	-	-	3.9	中国（漳州）	16 世紀	内面：染付鳳凰文　高台脇ハナレ砂　漳州窯　同一個体片あり	J-128

第 100 図　Ⅳｂ層出土遺物（４）



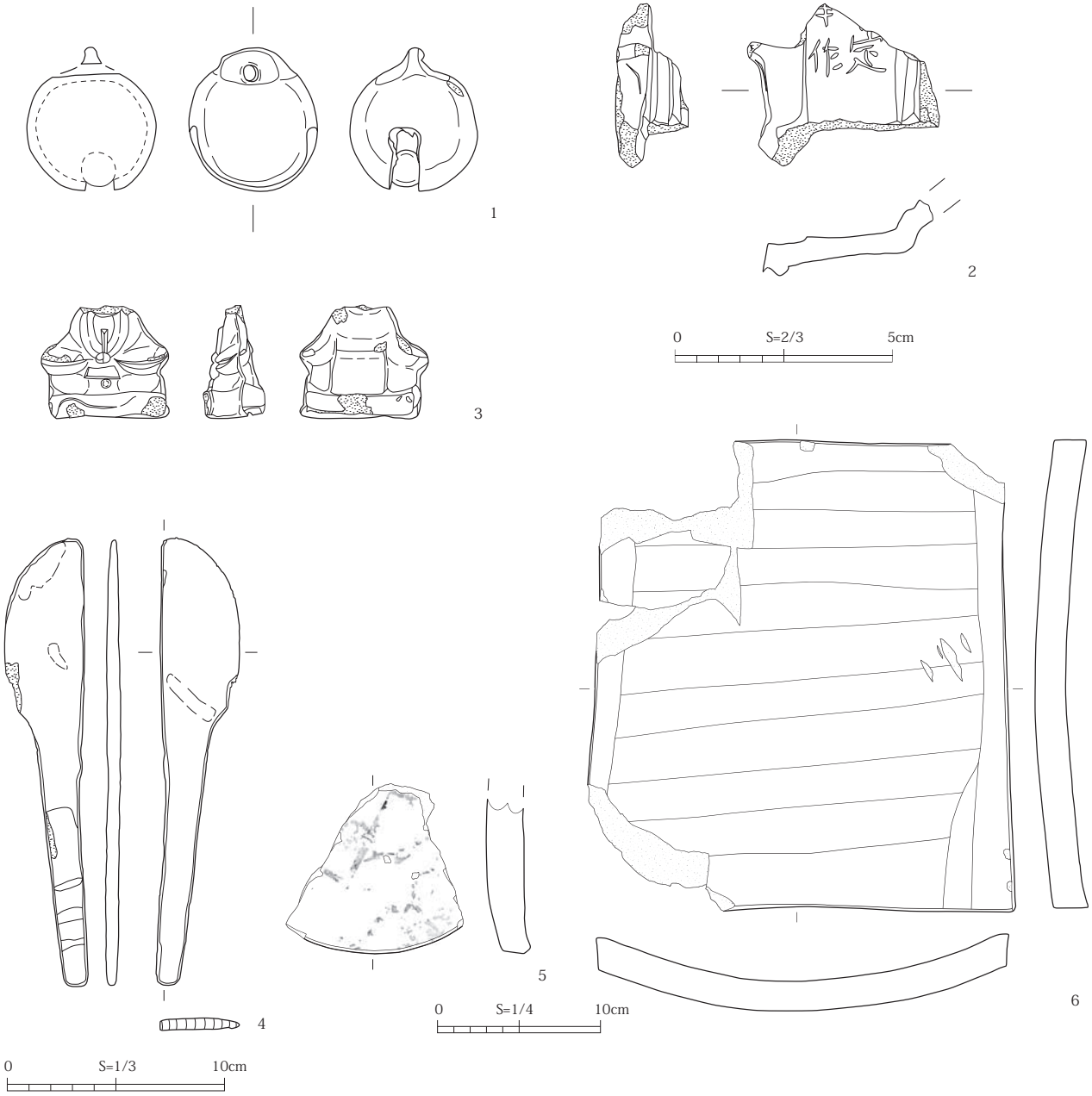
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	64-3	S12-E43	土師質土器	皿	口縁～底部	粗	12.2	7.0	2.6	在地	近世	内面：ロクロナデ　外面：ロクロナデ	I-319
2	64-6	S11-E44	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	5.7	3.5	1.6	在地	近世	内面：ロクロナデ　油煙付着　外面：ロクロナデ 油煙付着　底部：回転糸切り痕あり　ロクロ：右	I-308
3	64-4	S11-E44	土師質土器	灯明皿	体部～底部	粗	4.4	4.5	2.9	在地	近世	内面：ロクロナデ　外面：ロクロナデ　油煙付着	I-762
4	64-8	S11-E44	土師質土器	豆甕	口縁～底部	粗	4.7	2.6	5.1	在地	近世	底部穿孔	I-331
5	64-5	S12-E43	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	4.3	4.5	2.5	在地	近世	内：ロクロナデ、油煙付着？　外：ロクロナデ、油煙付着？ 底部：回転糸切り痕あり　ロクロ：右	I-326
6	64-9	S11-E42	瓦質土器	蚊遣り	口縁～底部	粗	-	18.8	16.4	在地	近世		I-323
7	65-2	S11-E42	瓦質土器	火鉢	口縁～底部	粗	14.8	8.9	7.3	在地	近世	三足　突帯　口唇部敲打痕あり	I-838
8	65-1	S10-E42	瓦質	焜炉？	口縁～底部	粗	-	(25.6)	(8.6)	在地	近世		I-302
9	64-10	S12-E45	瓦質	火入れ or 火鉢	口縁～底部	粗	-	19.8	18.2	在地	近世	内面：一部指頭痕あり　外面：ロクロ成形後ヘラによる縦方向のミガキ　口縁部ミガキ　轆轤右回転	I-328

第 101 図　Ⅳｂ層出土遺物（５）



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	65-7	S11-E42	金属製品	9.8	1.4	0.6	小柄　第 15 表（P199）参照	N-341
2	65-9	S12-E43	金属製品	(8.6)	3.4	0.5	刀子	N-350
3	65-10	S11-E44	金属製品	7.5	12.1	2.5	錠	N-331
4	66-1	S12-E44	ガラス製品	1.3	-	1.0	トンボ玉	K-12
5	65-8	S12-E45	石製品	3.3	7.7	1.1	硯	K-10

第 102 図　Ⅳ b 層出土遺物（6）

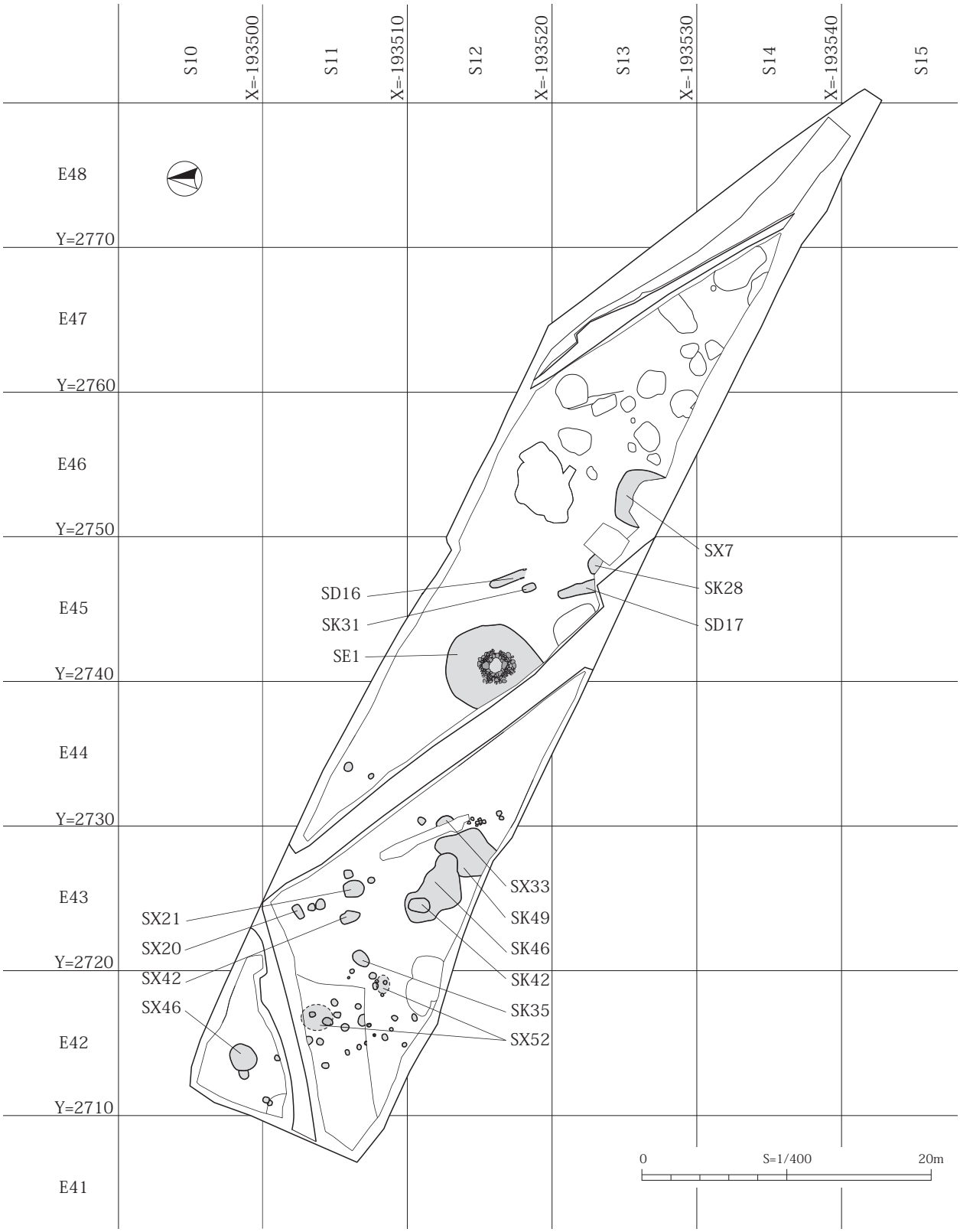


図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	65-4	S12-E45	土製品	3.3	2.9	2.9	土鈴	P-35
2	65-5	S12-E45	土製品	3.7	4.4	1.7	土人形　文字あり「…□定…□作」	P-20
3	65-3	S11-E42	土製品	2.6	2.9	1.7	土人形	P-34
4	65-6	S12-E43	木製品	20.6	3.7	0.6	箆	L-63
5	巻頭カラー	S12-E43	その他瓦	-	11.0	2.3	金箔残存	H-5
6	66-2	S12-E45	平瓦	28.3	25.0	1.8	頭幅 (13.0)　尻幅 (17.9)	G-8

第 103 図　Ⅳｂ層出土遺物（７）

4　Ⅳ a 層上面検出遺構

Ⅳ a 層上面で検出された遺構は、溝跡 2 条、井戸跡 1 基、土坑 7 基、性格不明遺構 6 基、合計 16 基である。調査区の中央部では掘り方径 6m 弱を測る井戸跡 SE 1 が検出された。その西側では、Ⅴ層、Ⅳ b 層で検出された土坑と類似した、規模の大きな土坑が検出され、そのうち SK49 からは大量の木製品が出土した。



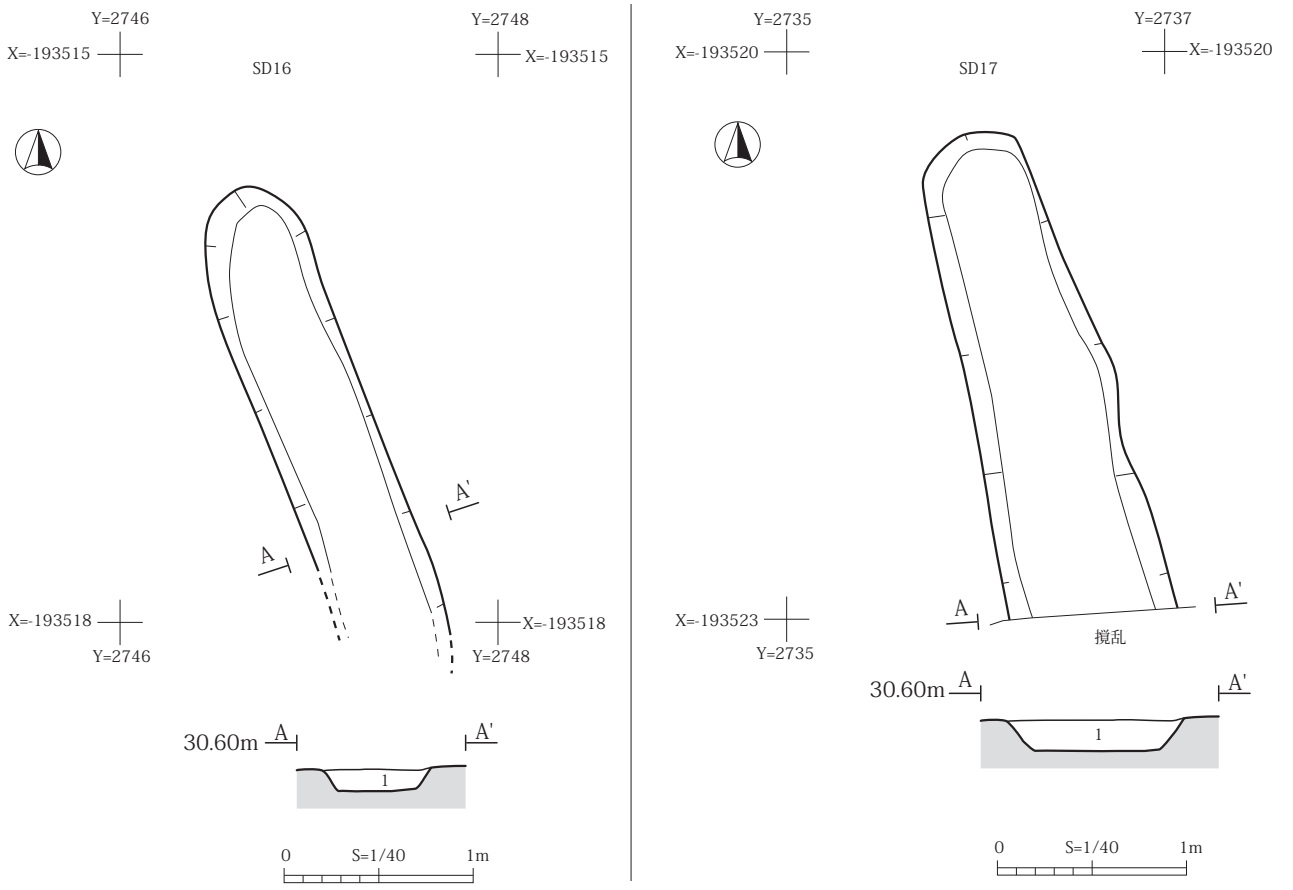
第 104 図　Ⅳ a 層上面検出遺構

１）SD16 溝跡　（第 105 図、図版 27-1 ～ 27-2）

S12-E45 グリッドに位置する。南北に直線的に延びる溝跡である。南側は不明瞭になり、確認できなかった。残存する規模は、長さ 226cm、上端幅 56 ～ 58cm、下端幅 40 ～ 45cm、深さ 11cm を測り、主軸方位は N-20° -W を示す。断面形は浅い逆台形を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもたない。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。遺物は瓦片、陶器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

２）SD17 溝跡　（第 105 図、図版 27-3 ～ 27-4）

S13-E45 グリッドに位置する。南北に直線的に延びる溝跡である。南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長さ 262cm、上端幅 63 ～ 81cm、下端幅 46 ～ 58cm、深さ 16cm を測り、主軸方位は N-18° -W を示す。断面形は浅い逆台形を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもたない。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SD16　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5 ～ 10cm の礫少量

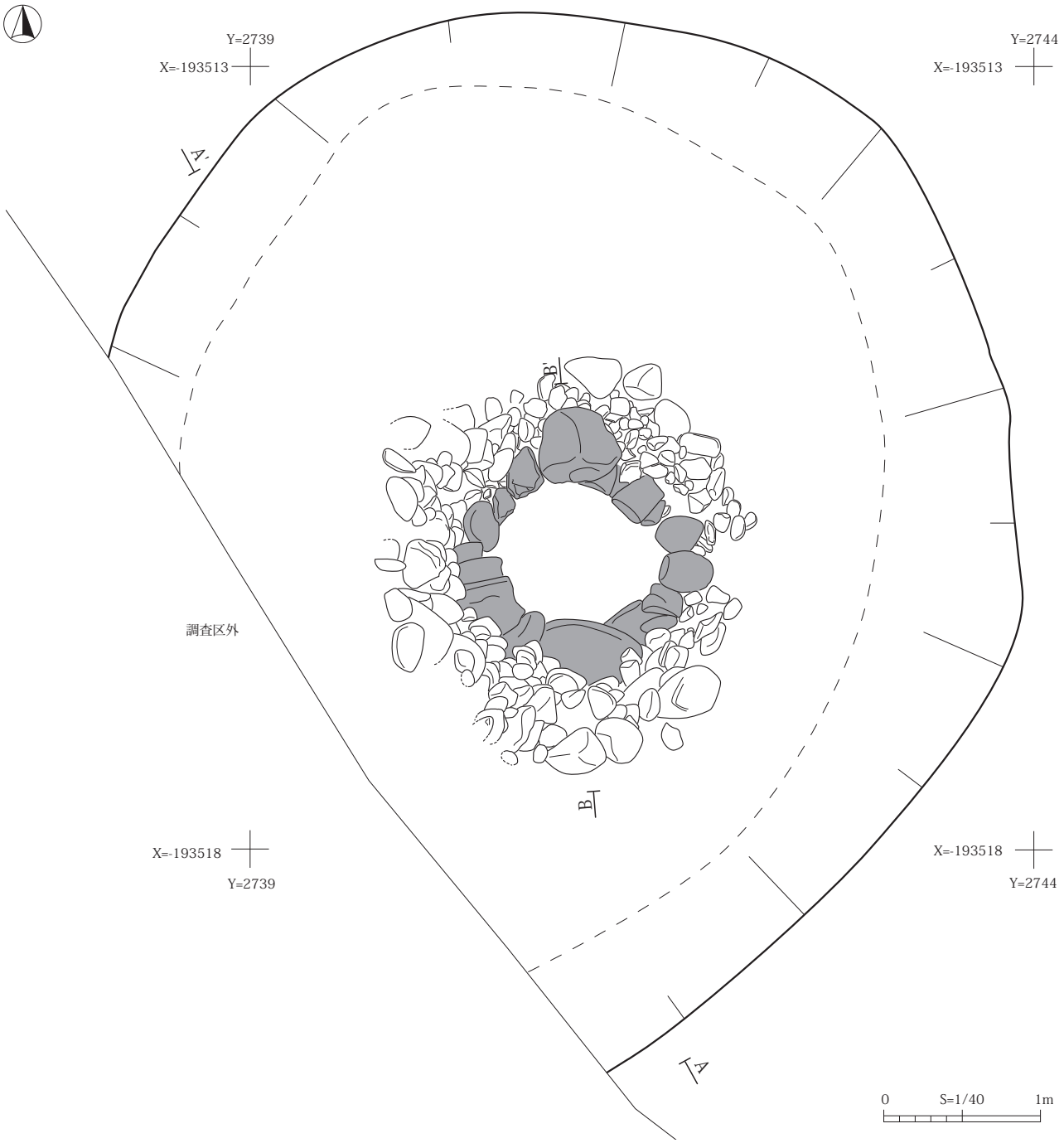
SD17　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5 ～ 10cm の礫少量

第 105 図　SD16・17 溝跡平面図・断面図

3）SE1 井戸跡　（第 106 ～ 108 図、図版 27-5 ～ 27-6、28-1 ～ 28-2）

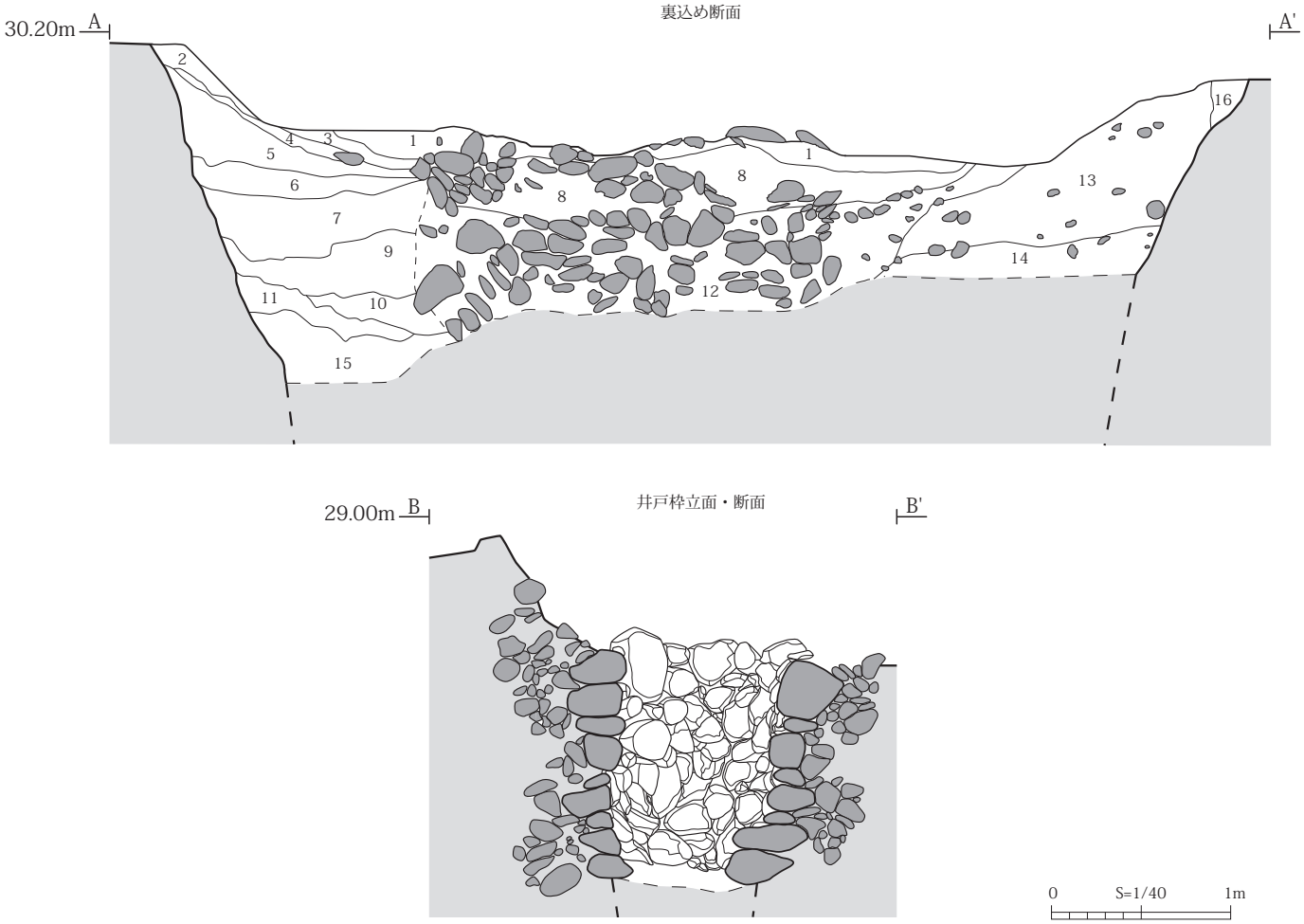
S12-E44･45 グリッドに位置する石組井戸である。西側は調査区外に延びる。平成 17 年度の試掘調査（H-1 区）の際、砂が充填された撹乱土坑として検出されている。井戸内側の堆積土は、SE1 が廃絶し、埋め戻された後に石組内側部分が陥没し、近代に入ってから砂で再度埋め戻しを行ったと考えられる。井戸内側の砂からは近代以降の陶磁器が出土している。調査当初は、撹乱として把握していたが、掘り方の検出および壁面の土層観察により掘り込み面がⅣ a 層であることが判明し、土坑として調査を行った。その後石組の検出となり、SE 番号を付し、調査を継続した。



第 106 図　SE1 井戸跡平面図

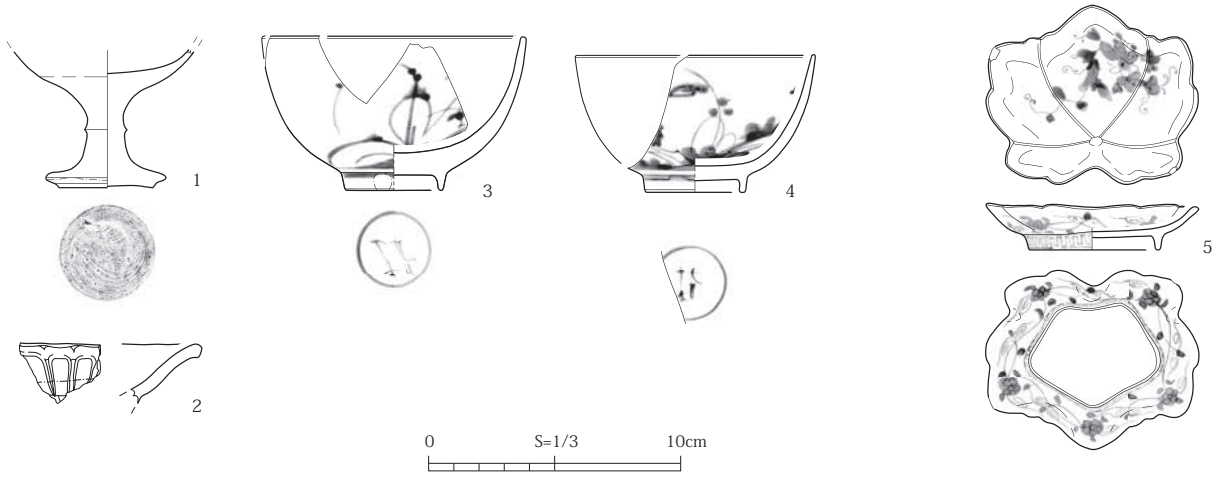
残存する掘り方の規模は、長軸 596cm、短軸 523cm を測る。深さは、320cm まで確認し、安全を考慮し、底面の検出には至っていない。平面形は楕円形で、掘り方の断面形はすり鉢状を呈す。確認面から 190cm で石組が検出された。それより上位は、崩落したものと思われる。石組の内法は、上部径 95 ～ 105cm、下部径 60cm を測る。石組は自然礫（長さ 20cm ～ 60cm、幅 20 ～ 50cm、厚さ 10 ～ 30cm 程度）を用い、割れ面を内側にして構築している。裏込めは 16 層まで確認し、石組裏込には 6cm ～ 20cm の礫を充填している。

遺物は、裏込めの各層から、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片、土製品、石製品、金属製品等が出土している。そのうち、磁器３点、陶器２点、土製品１点を図示した。

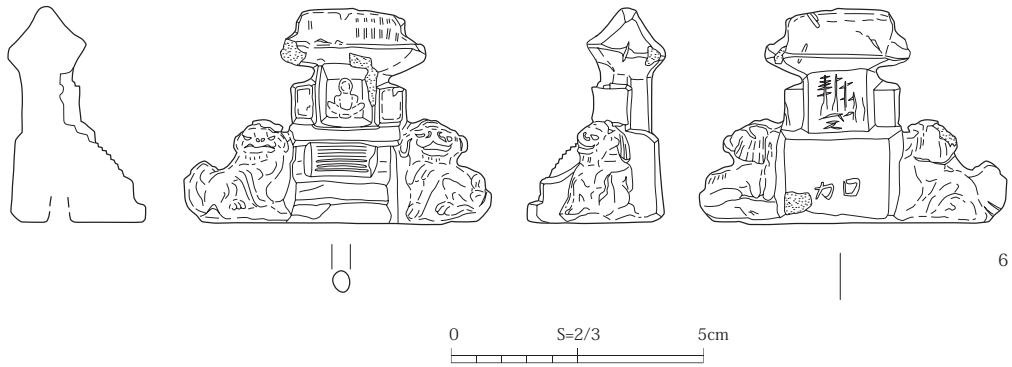


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり	径 5cm の礫微量
2	3.5Y4/3	暗オリーブ色	シルト質粘土	あり	ややあり	砂多量
3	2.5Y5/3	黄褐色	砂	なし	なし	砂
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量　酸化鉄多量
5	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	酸化鉄・砂多量
6	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	砂　壁から底面にかけて酸化鉄が沈着し、硬化している
7	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質粘土	あり	あり	酸化鉄多量　径 5cm 以下の礫少量
8	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	黒色腐植土を少量　酸化鉄多量　灰黄褐色砂質シルトを少量
9	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3 黄褐色土粒多量　径 1cm の炭化物微量
10	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒微量　酸化鉄少量
11	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量　2.5Y3/1 黒褐色土粒微量、酸化鉄多量
12	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10cm 以下の礫少量
13	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5cm の礫多量
14	10YR4/1	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR3/3 暗褐色土ブロック　酸化鉄多量
15	10BG5/1	青灰色	砂質シルト	ややあり	なし	覆土全体がグライ化
16	3.5Y4/3	暗オリーブ色	シルト質粘土	あり	ややあり	砂多量

第 107 図　SE1 井戸跡断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	66-3	6 層	陶器	仏飯器	口縁～底部	やや密	-	4.8	5.0	大堀相馬	18 世紀後半		I-369
2	66-4	6 層	陶器	皿	口縁部	やや粗	-	-	(2.1)	華南三彩	16 世紀後半～17 世紀前半	型押し　蓮弁文	I-346
3	66-5	7 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(10.5)	3.8	(6.2)	肥前	18 世紀後半	外面：草花文　高台内：圏線　「大明年製」？	J-178
4	66-6	14 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(9.5)	(3.9)	(5.5)	肥前	18 世紀後半	外面：草花文　高台内：圏線　「大明年製」？	J-179
5	66-8	14 層	磁器	小皿	口縁～底部	密	8.3	5.0	1.9	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：草花文　櫛歯文　内面：草花文	J-172

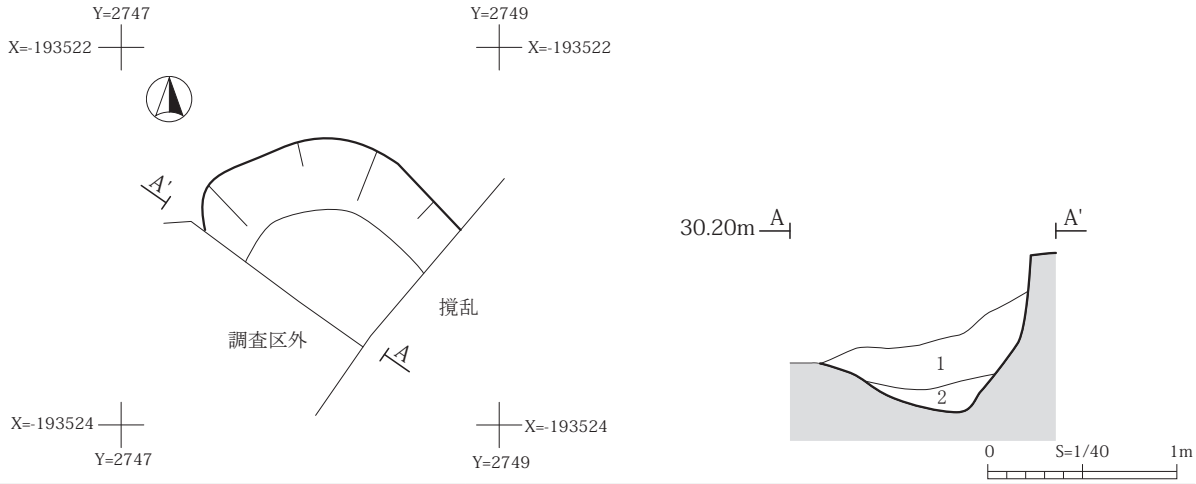


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
6	66-7	15 層	土製品	4.3	6.1	2.8	社型土製品　背面に文字「加」	P-38

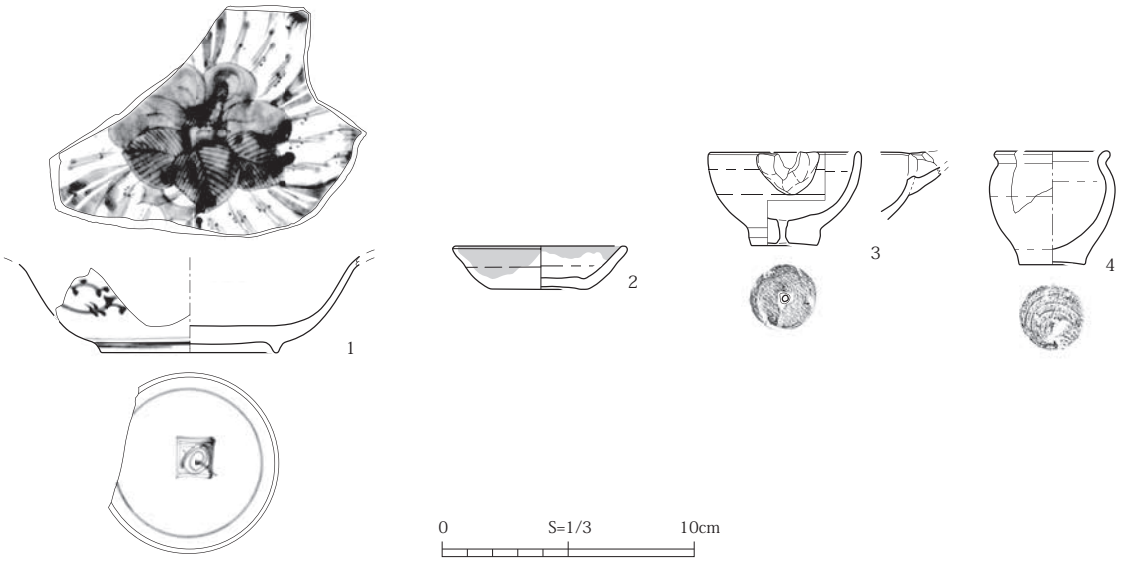
第 108 図　SE1 井戸跡出土遺物

4）SK28 土坑　（第 109 図、図版 28-3 ～ 28-4）

S13-E45 グリッドに位置する。東側を撹乱に削平され、南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 116cm、短軸 91cm、深さ 84cm を測る。平面形は楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は U 字形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は粘土、2 層は粘土質シルトである。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品等が出土している。そのうち、磁器 1 点、土師質土器 3 点を図示した。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/1	黒褐色	粘土	あり	ややあり	2.5Y5/3 黄褐色土粒多量　径 1cm の炭化物微量
2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量　2.5Y3/1 黒褐色土粒微量　酸化鉄多量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	67-1	1 層	磁器	皿	体部～底部	密	-	7.0	(3.8)	肥前	18 世紀後半	外面：唐草文　圏線　内面：花文　高台：圏線　角渦福	J-484
2	67-3	1 層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	7.0	3.7	1.7	在地	不明	内外面：油煙付着	I-797
3	67-2	1 層	土師質土器	ミニチュア片口	口縁～底部	粗	(5.3)	2.6	3.7	在地	不明		I-798
4	67-4	1 層	土師質土器	豆甕	口縁～底部	粗	(4.6)	2.6	4.6	在地	不明		I-800

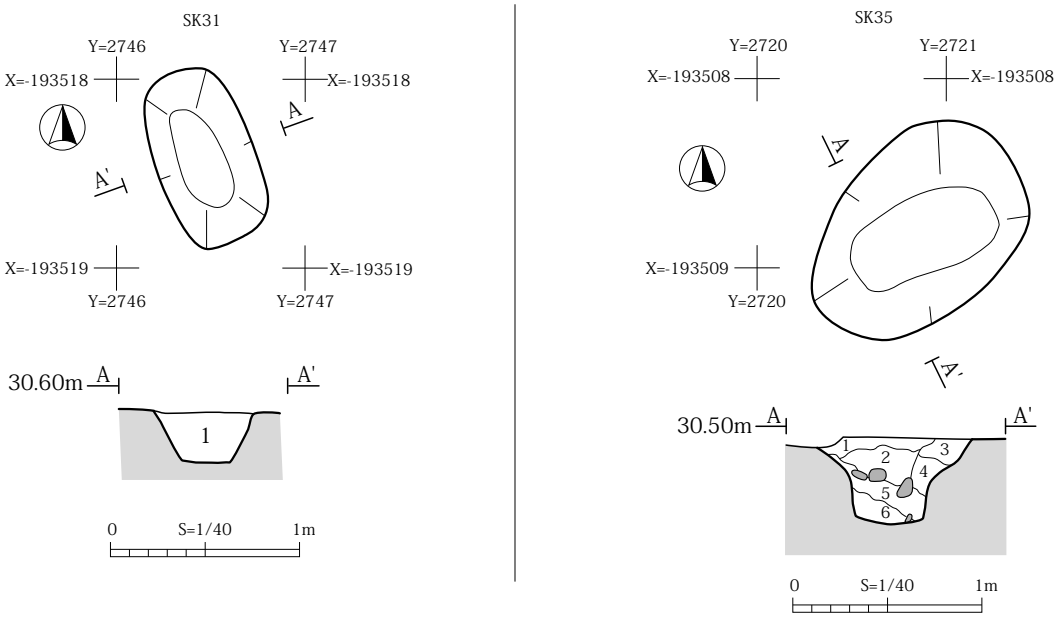
第 109 図　SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物

５）SK31 土坑　（第 110 図、図版 28-5 ～ 28-6）

S12-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 95cm、短軸 51cm、深さ 27cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

６）SK35 土坑　（第 110 図、図版 28-7 ～ 28-8）

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 132cm、短軸 92cm、深さ 45cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈し、側面は外反する。堆積土は６層で、１層から４層はシルト、５層から６層は砂質シルトである。遺物は瓦片、磁器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SK31　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰黄褐色砂質シルト少量

SK35　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり	径 5 ～ 8cm 礫　径 5㎜以下炭化物微量　瓦を多量
2	10YR5/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 15cm 以下の礫少量　径 3cm 以下の灰白色土粒少量
3	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	あり	径 5cm 以下の褐灰色シルト微量　酸化鉄少量　一部明緑灰色にグライ化
4	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 5cm 以下の褐灰色シルト少量　酸化鉄微量
5	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5cm の礫微量　酸化鉄多量
6	2.5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	有機物

第 110 図　SK31・SK35 土坑平面図・断面図

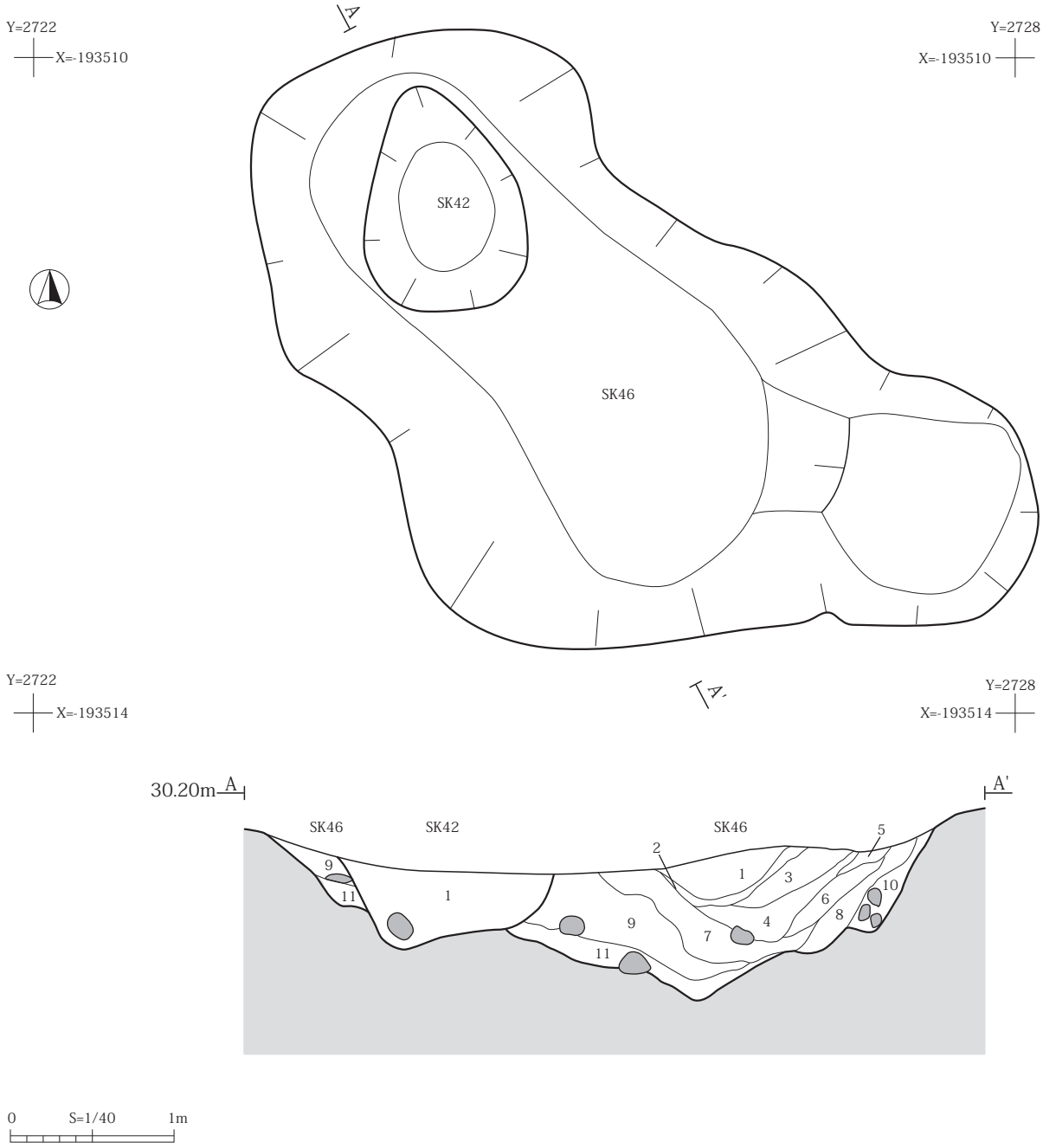
7）SK42 土坑　（第 111 図、図版 29-1）

S12-E43 グリッドに位置する。SK46 と重複し、SK46 より新しい。残存する規模は、長軸 118cm、短軸 77cm、深さ 39cm を測る。平面形は楕円形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土はオリーブ黒色粘土質シルトの単層である。遺物は瓦片、瓦質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

8）SK46 土坑　（第 111 ～ 113 図、図版 29-1 ～ 29-4）

S12-E43 グリッドに位置する。SK42、SK49 と重複し、SK42 より古く、SK49 より新しい。残存する規模は、長軸 543cm、短軸 279cm、深さ 115cm を測る。平面形は不整楕円形で、側面は起伏があり、中央に向かって緩やかに傾斜する。断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は 11 層で、1 層、3 層、6 層から 9 層、11 層は砂質シルト、2 層、4 層から 5 層、10 層は粘土質シルトである。

遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品、土製品、金属製品、ガラス製品等が出土している。そのうち、陶器 5 点、磁器 4 点、瓦質土器 1 点、土師質土器 2 点、石製品 1 点、ガラス製品 2 点を図示した。



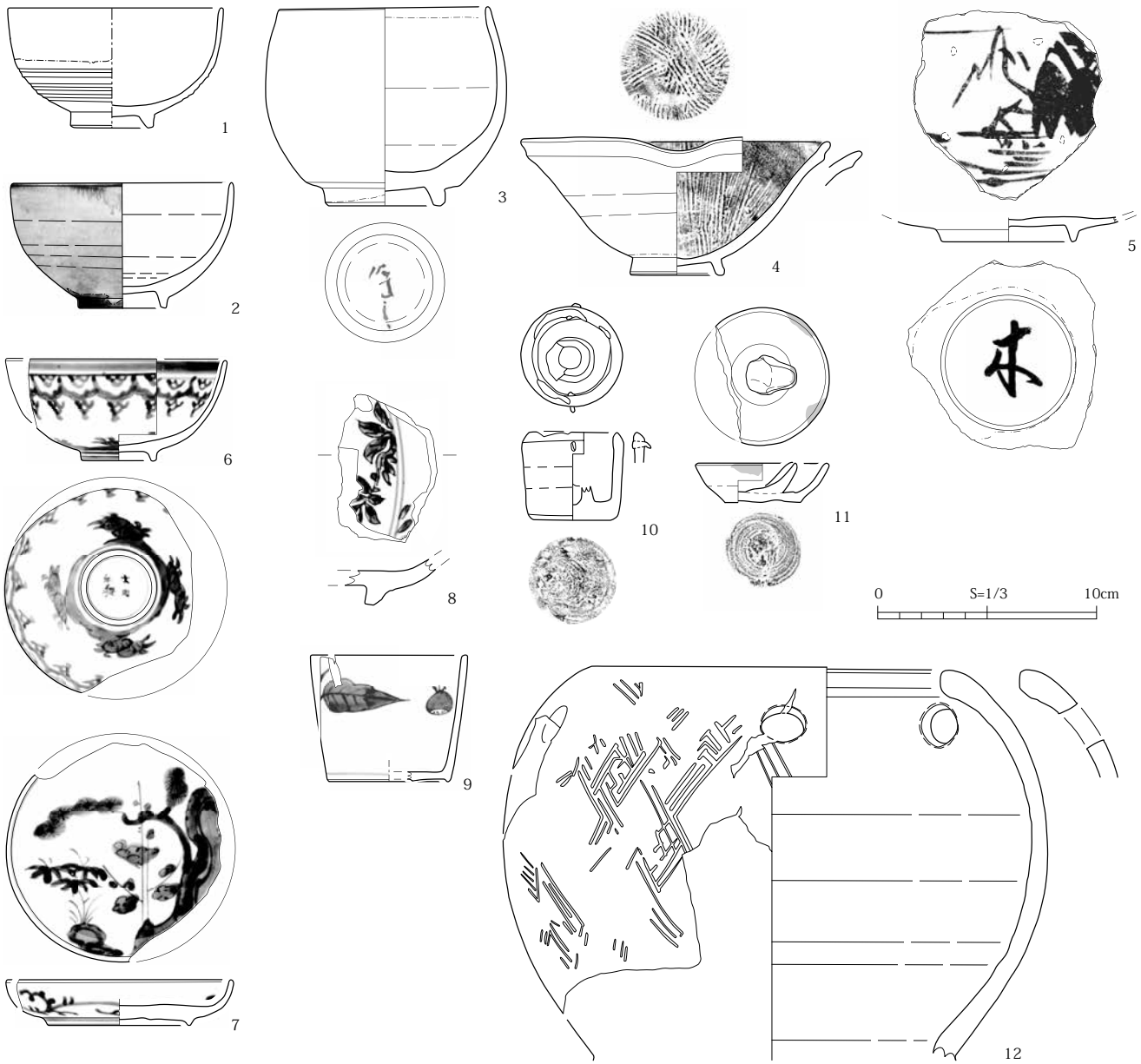
SK43　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 5㎜以下の灰色土粒少量。

SK46　土層注記表

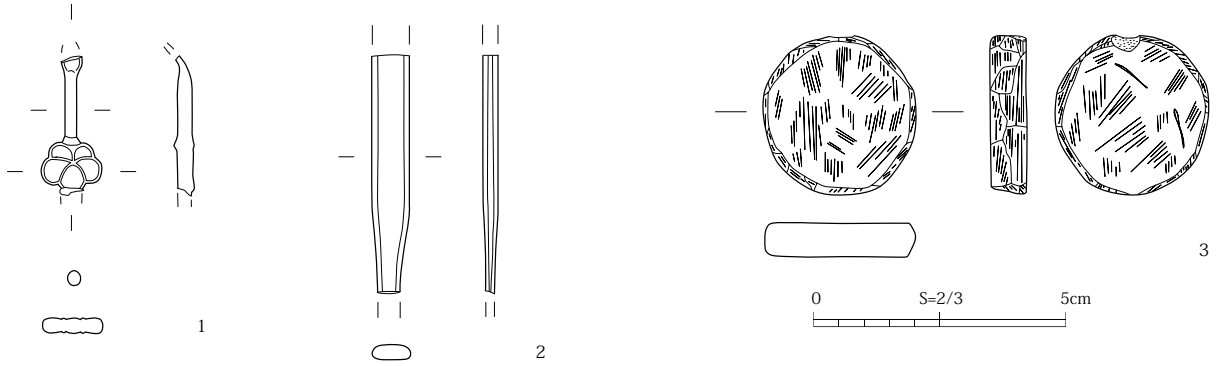
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり	径 5cm の礫微量
2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 10cm 以下の礫多量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	黒色腐植土を少量　酸化鉄多量　灰黄褐色砂質シルトを少量
4	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10cm 以下の礫微量　酸化鉄やや多量
5	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10cm 以下の礫少量
6	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5cm の礫多量
7	10YR4/1	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄多量
8	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5cm 以下の暗褐色土粒微量　上部に酸化鉄多量
9	7.5YR5/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	
10	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 5cm 以下の礫微量　径 5cm 以下の明黄褐色粘土質シルトブロック少量
11	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰黄褐色砂質シルト少量

第 111 図　SK42・SK46 土坑平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	67-6	7 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	9.9	3.4	5.5	大堀相馬	18 世紀後半？	内面：灰釉　貫入　外面：灰釉　鉄釉 (飴釉)　ロクロ：左	I-403
2	67-5	3 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	10.2	4.0	5.7	嬉野	17 世紀後半	内外面：灰釉	I-385
3	68-1	4 層	陶器	蓋物	口縁～底部	やや密	10.2	5.2	9.1	大堀相馬	18 世紀後半	内外面：黒釉　口唇部無釉　高台内墨書有り（判読不能）	I-380
4	68-4	7 層	陶器	擂鉢	口縁～底部	粗	14.0	4.2	6.1	堤	18 世紀後半～19 世紀前半		I-395
5	67-7	8 層	陶器	皿	底部	やや密	-	6.0	(1.1)	大堀相馬	18 世紀後半～	内面：灰釉　鉄絵山水文　目跡 5 箇所 外面：灰釉　高台内墨書「木」	I-387
6	68-6	7 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(10.2)	3.3	4.5	肥前	18 世紀後半	外面：瓔珞　草花文　内面：瓔珞	J-214
7	68-5	7 層	磁器	皿	口縁～底部	密	(10.5)	6.5	2.1	肥前	18 世紀後半	外面：唐草文　内面：岩と松竹梅	J-204
8	68-3	7 層	磁器	皿	底部	密	-	-	(2.1)	中国	16 世紀末～17 世紀初	外面：圏線　内面：二重圏線　樹木文 高台砂付着　へら削り痕	J-200
9	68-2	3 層	磁器	猪口	口縁～底部	密	(7.0)	(5.4)	5.8	肥前	18 世紀後～19 世紀	外面：栗　葉文　圏線　高台：蛇ノ目凹高台	J-202
10	67-8	7 層	土師器	灯明具	口縁～底部	密	4.0	3.4	4.0	在地	近世	把手金具？2 箇所	I-406
11	67-9	7 層	土師器	灯明皿	口縁～底部	密	6.3	3.6	1.8	在地	近世	油煙付着	I-405
12	69-1	3 層	瓦質	蚊遣り	口縁部	粗	15.6	-	(17.9)	在地	近世	口縁部ナデ　油煙付着　外面：紗綾文 ロクロ：左	I-397

第 112 図　SK46 土坑出土遺物（1）

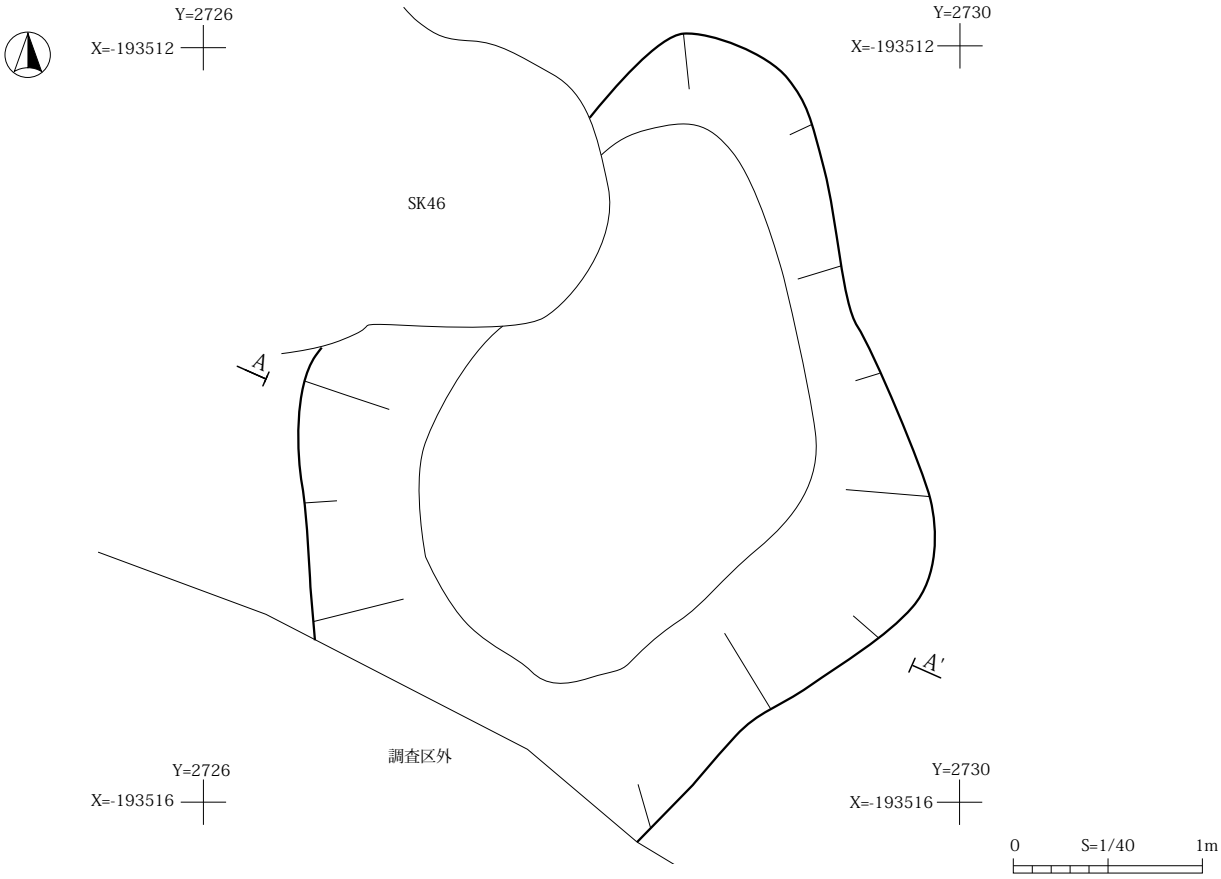


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
1	69-2	３層	ガラス製品	(2.8)	1.2	0.4	簪　先端耳かき状　柄部乳白色　花部青色	X-2
2	69-3	３層	ガラス製品	(4.8)	0.8	0.3	笄　黄色	X-1
3	69-4	４層	石製品	3.1	-	0.7		K-14

第 113 図　SK46 土坑出土遺物（２）

９）SK49 土坑　（第 114 ～ 120 図、図版 29-5 ～ 29-7）

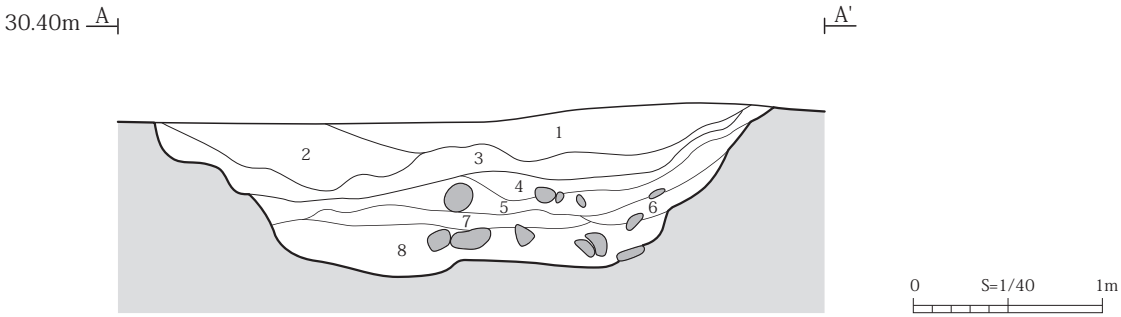
S12-E43 グリッドに位置する。南側は調査区外へ延びる。SK46 と重複し、SK46 より古い。残存する規模は、長軸 387cm、短軸 349cm、深さ 86cm を測る。平面形は不整楕円形で、底面は起伏し、断面形はほぼ逆台形を呈す。



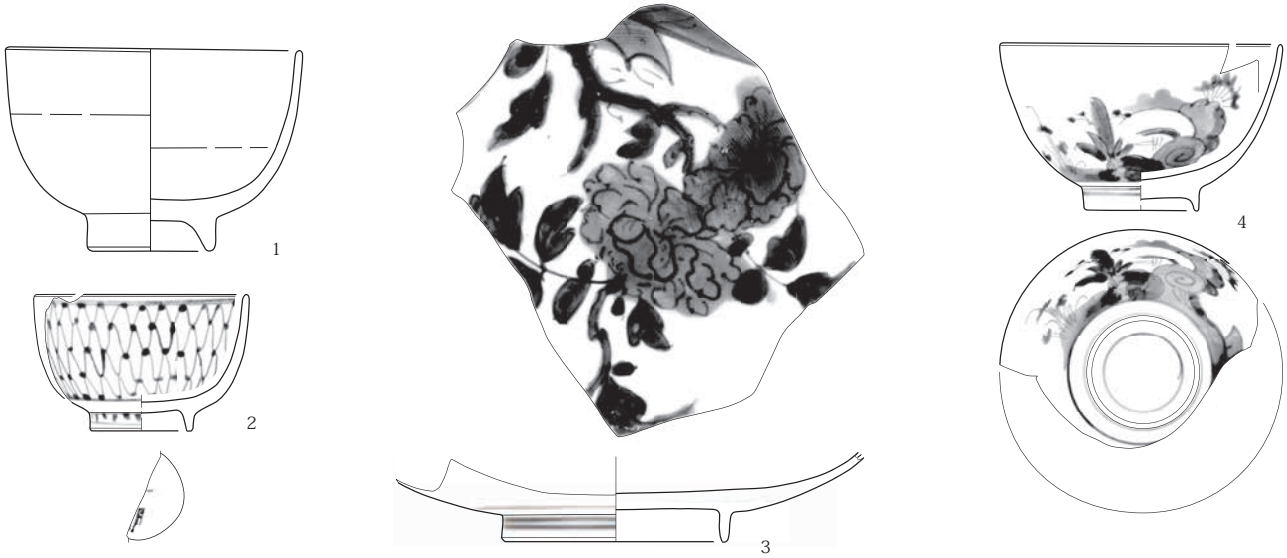
第 114 図　SK49 土坑平面図

堆積土は８層で、１層および８層は砂、２層および４層から５層はシルト、３層は粘土、６層は砂質シルト、７層は粘土質シルトである。４層以下はカンナ屑などの木片が多量に含まれている。

遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品、石製品等のほか、多量の木製品が出土している。そのうち、陶器２点、磁器３点、木製品 30 点、金属製品１点を図示した。木製品では、下駄、漆器椀、櫛、傘下轆轤などのほか、４層より木簡が出土している。

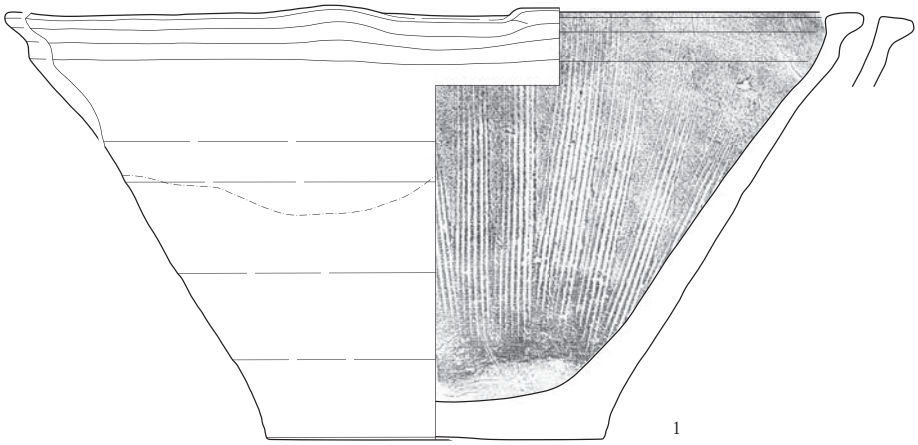


層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	5YR3/6	暗赤褐色	砂	なし	なし	径 3cm 以下の礫多量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	なし	なし	径 5㎜以下の黄褐色土粒多量
3	10YR4/4	褐色	粘土	あり	あり	砂粒少量
4	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 3㎜以下の黄褐色土粒少量　木片多量
5	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	径 1 ～ 3cm の礫多量　木片多量
6	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径 10cm 以下の礫多量　木片多量
7	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	砂互層状に少量　木片多量
8	10YR5/2	灰黄褐色	砂	なし	なし	木片多量



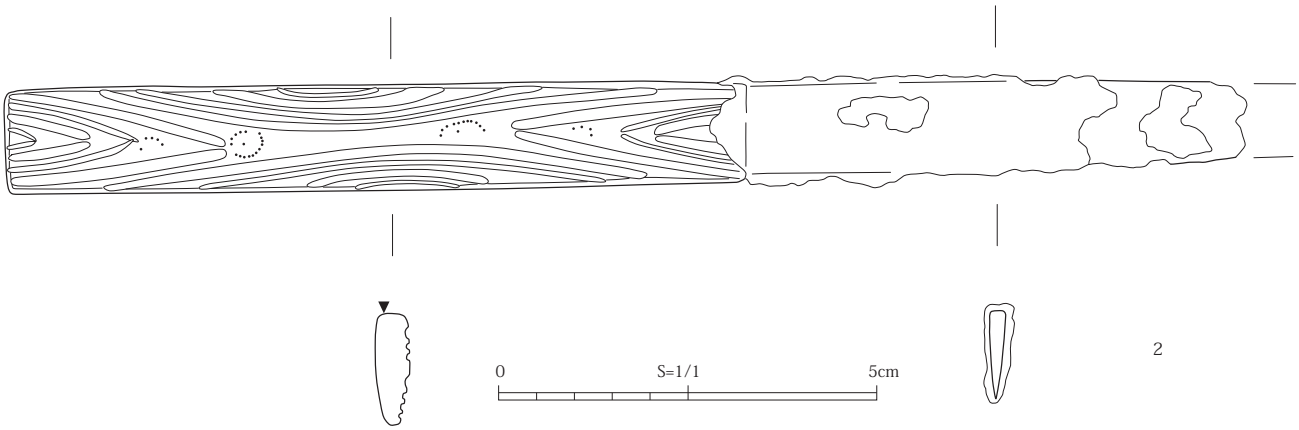
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	69-5	１層	陶器	碗	口縁～底部	粗	11.9	5.0	7.9	肥前	18 世紀後半	呉器手	I-422
2	69-7	３層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.4	4.0	5.4	肥前	18 世紀前半	外面：網目文　高台内銘あり「大明」？	J-217
3	69-8	３層	磁器	皿	体部～底部	密	(19.2)	8.7	(3.3)	肥前	18 世紀	外面：圏線　二重圏線　内面：草花文	J-216
4	69-6	２層	磁器	碗	口縁～底部	密	11.2	4.6	6.6	肥前	18 世紀	外面：松　岩文　二重圏線　高台内：圏線	J-218

第 115 図　SK49 土坑断面図・出土遺物（１）



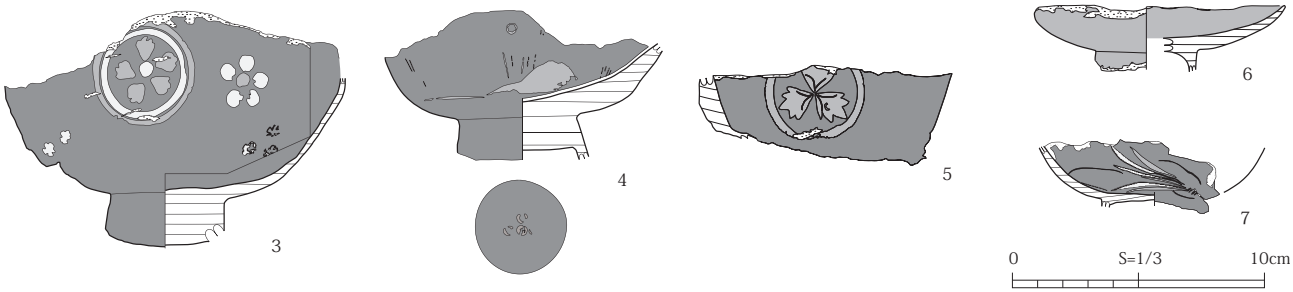
0　S=1/3　10cm

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	69-9	4 層	陶器	擂鉢	口縁～底部	粗	(34.2)	13.2	17.3	在地	18 世紀～ 19 世紀		I-420



0　S=1/1　5cm

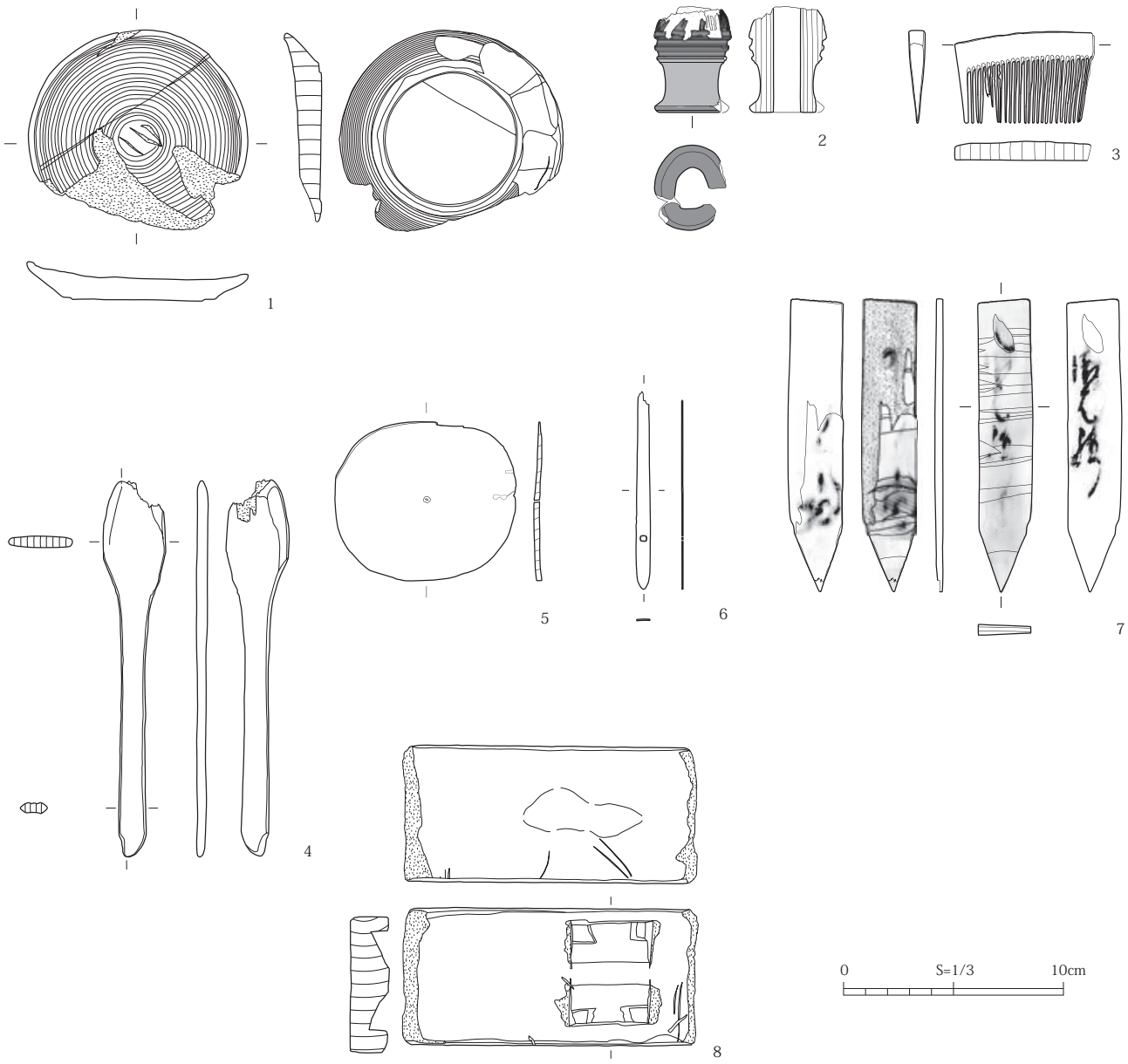
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
2	70-2	7 層	金属製品	16.3	1.4	0.5	小柄　凹線文　烈点文　第 15 表（P199）参照	N-274



0　S=1/3　10cm

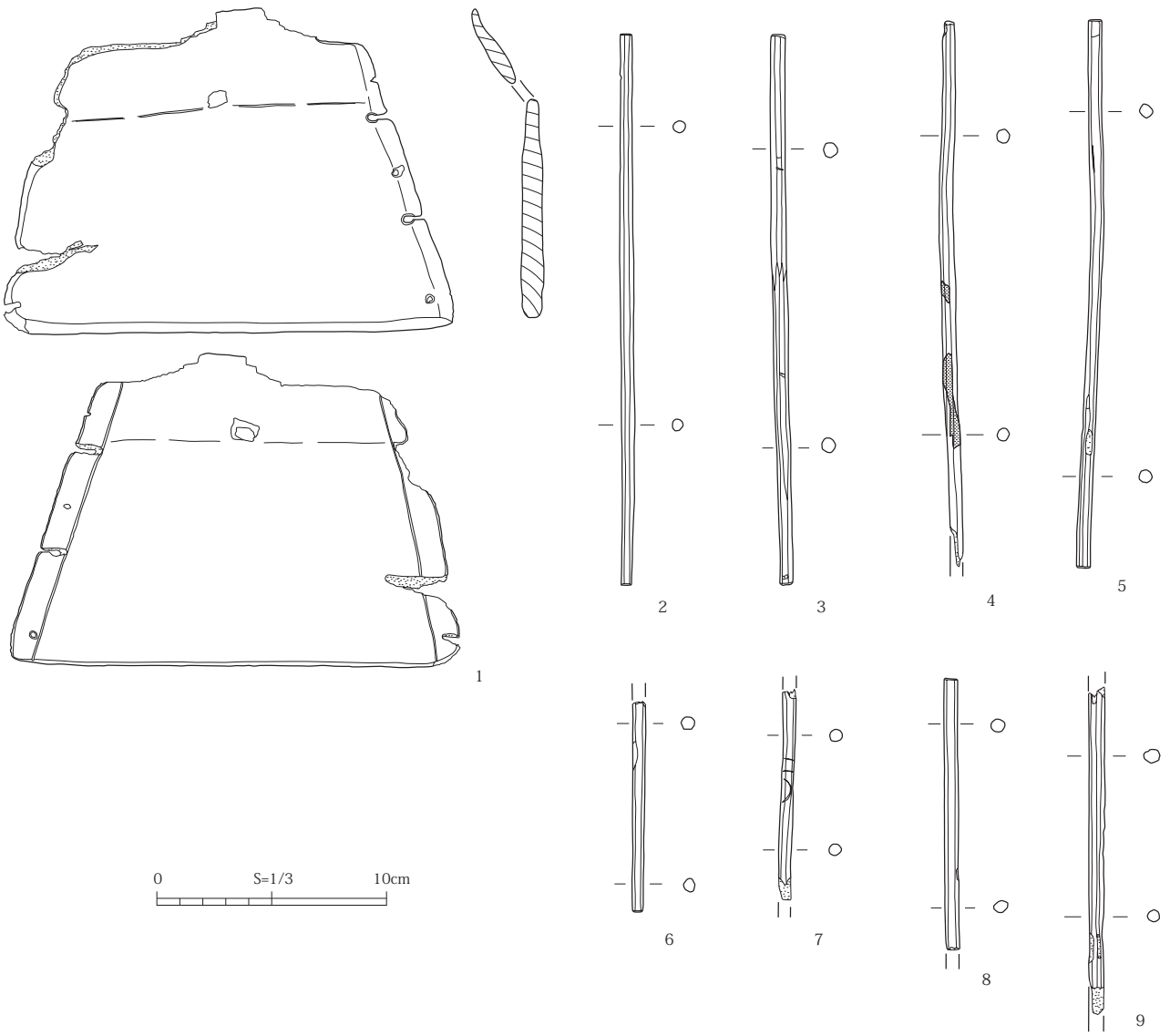
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高			
3	70-3	4 層	漆器	(13.6)	(4.7)	(9.4)	ブナ属	内面：黒漆　外面：黒漆地朱漆（一部黄漆）梅文	L-281
4	70-5	4 層	漆器	(11.2)	(5.3)	(6.0)	ブナ属	内面：黒漆　外面：黒漆地朱漆文様	L-280
5	69-11	4 層	漆器	(10.0)	-	(4.0)	ブナ属	内面：黒漆　外面：黒漆地朱漆丸に三つ柏文	L-277
6	70-1	4 層	漆器	(10.0)	(4.0)	(2.7)	アワブキ	皿か蓋　内外面：朱漆	L-279
7	69-10	5 層	漆器	(9.0)	(4.3)	(2.7)	ブナ属	内面：黒漆　外面：黒漆地朱漆（一部黄漆）草文	L-278

第 116 図　SK49 土坑出土遺物（２）



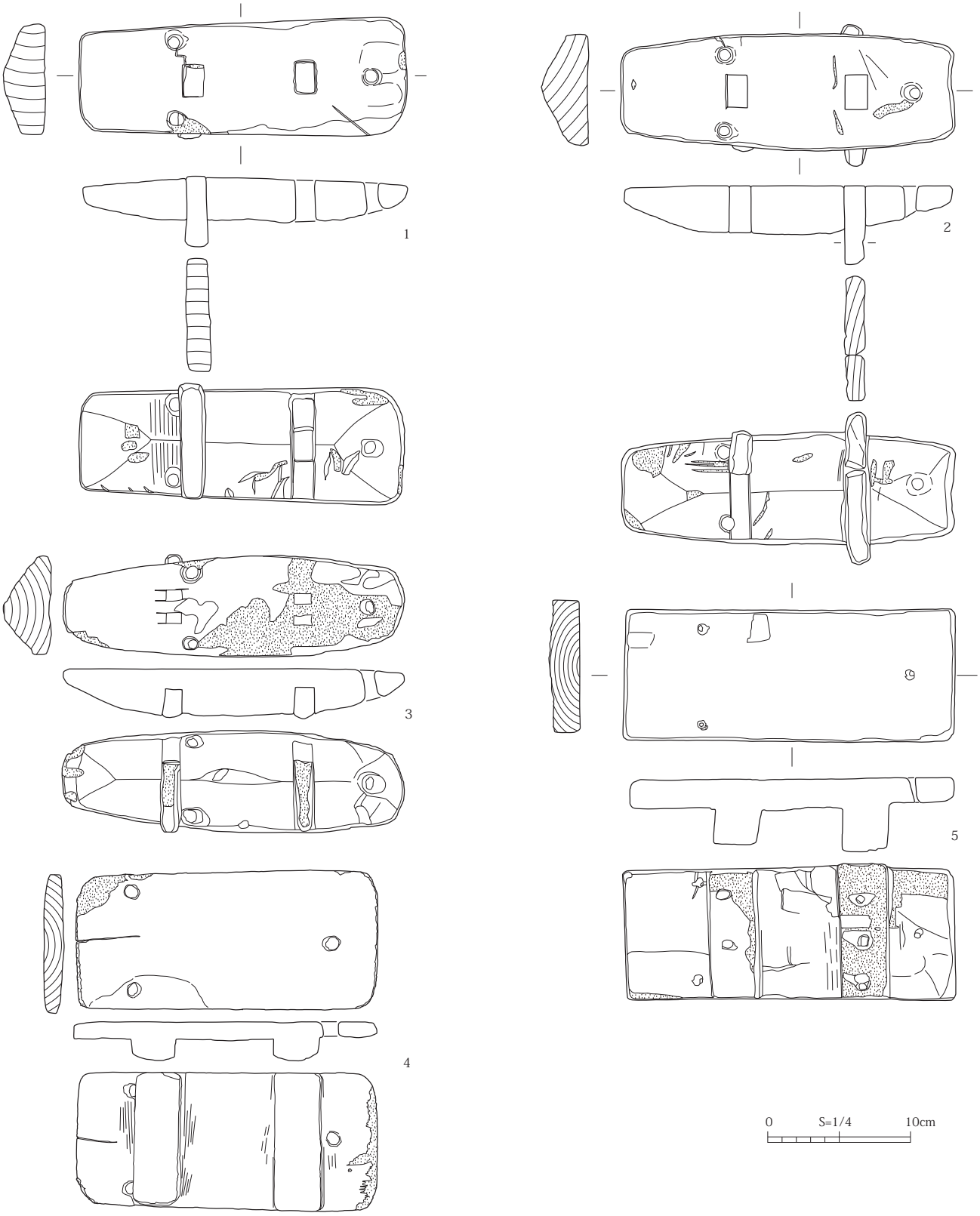
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm) 長さ（口径）	幅（底径）	厚さ（器高）	樹種	備考	登録番号
1	70-6	6 層	木製品	10.0	6.8	1.8	ブナ属	皿未成品	L-282
2	70-4	6 層	木製品	(4.8)	(3.6)	(2.9)	ミズキ	傘下轆轤	L-372
3	71-16	6 層	木製品	(4.2)	6.4	0.8	カバノキ属	櫛	L-371
4	71-15	6 層	木製品	(17.0)	2.9	0.6	スギ	匙	L-357
5	72-1	4 層	木製品	7.3	8.3	0.4	スギ	曲げ物底板	L-374
6	71-4	4 層	木製品	(9.0)	0.7	0.2	樹皮	扇子の骨？	L-389
7	70-7	4 層	木製品	13.7	2.6	0.4	スギ	木簡　墨書有り「御者□…」	L-388
8	71-5	6 層	木製品	(17.9)	8.5	2.4	アスナロ属	下駄未成品？	L-391

第 117 図　SK49 土坑出土遺物（3）



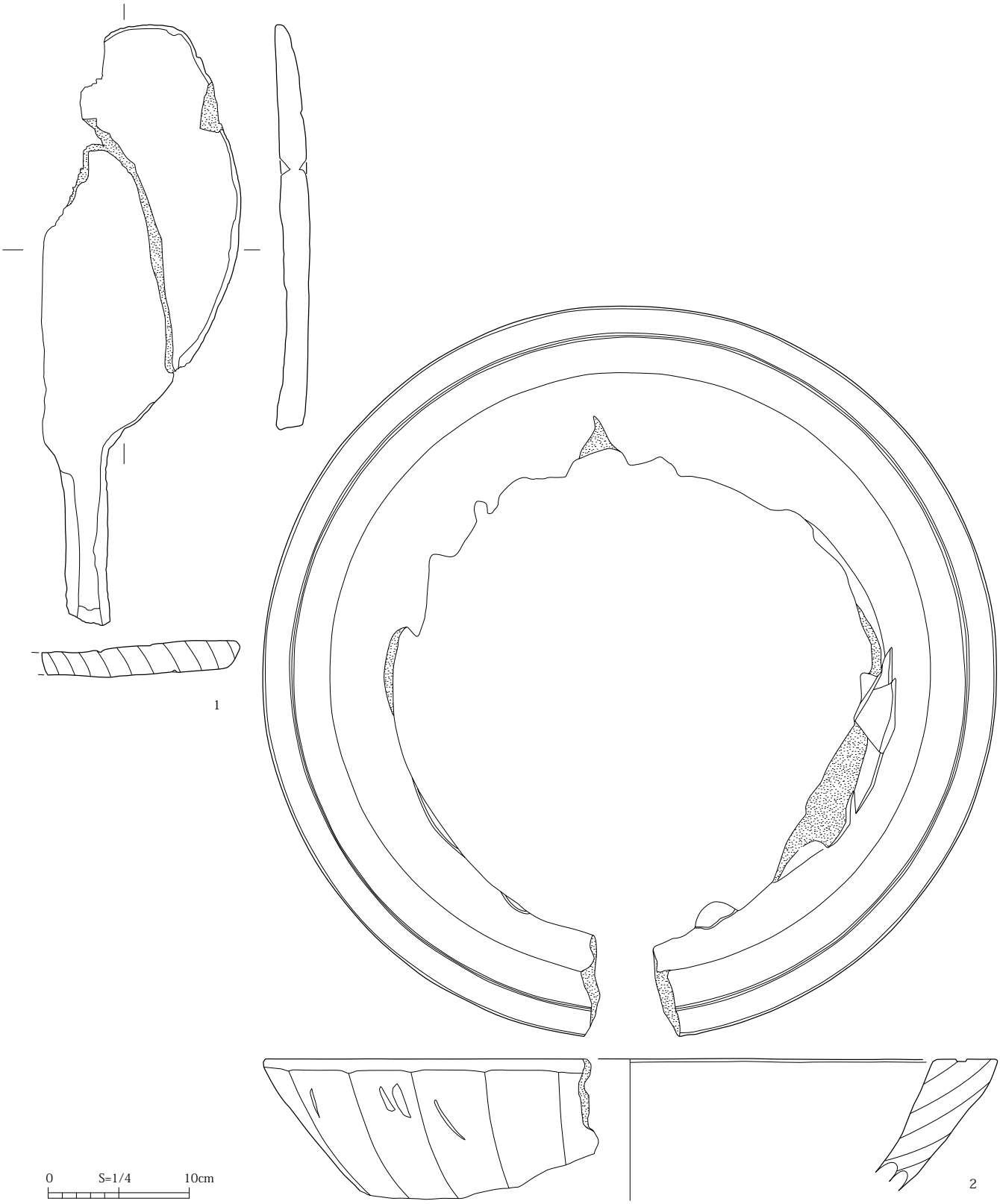
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	樹種	備考	登録番号
1	71-6	6 層	木製品	13.7	19.6	1.0	針葉樹	箱？	L-392
2	71-7	7 層	木製品	24.0	0.7	0.5	アスナロ属	箸	L-304
3	71-8	7 層	木製品	(24.0)	(1.0)	0.7	アスナロ属	箸	L-305
4	71-9	7 層	木製品	(23.0)	11.0	0.6	針葉樹	箸	L-306
5	71-11	4 層	木製品	(24.0)	(1.2)	0.7	アスナロ属	箸	L-308
6	71-14	4 層	木製品	(9.0)	0.7	0.6	アスナロ属	箸	L-311
7	71-12	4 層	木製品	(9.0)	(0.8)	0.6	アスナロ属	箸	L-309
8	71-13	7 層	木製品	(12.0)	0.7	0.6	アスナロ属	箸	L-310
9	71-4	7 層	木製品	(14.0)	(0.7)	0.6	アスナロ属	箸	L-307

第 118 図　SK49 土坑出土遺物（４）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	樹種	備考	登録番号
1	70-9	6 層	木製品	(23.0)	22.7	8.5	クリ 歯：ブナ属	露卯下駄　角型	L-359
2	71-3	8 層	木製品	(23.5)	23.0	10.0	ニレ属	露卯下駄　丸型	L-358
3	70-8	6 層	木製品	(24.0)	23.0	7.2	ケヤキ 歯：ニレ属	露卯下駄　丸型	L-360
4	71-1	6 層	木製品	(21.0)	21.0	9.8	トチノキ	連歯下駄　角型	L-361
5	71-2	6 層	木製品	23.0	22.0	9.4	スギ	連歯下駄　角型	L-362

第 119 図　SK49 土坑出土遺物（5）

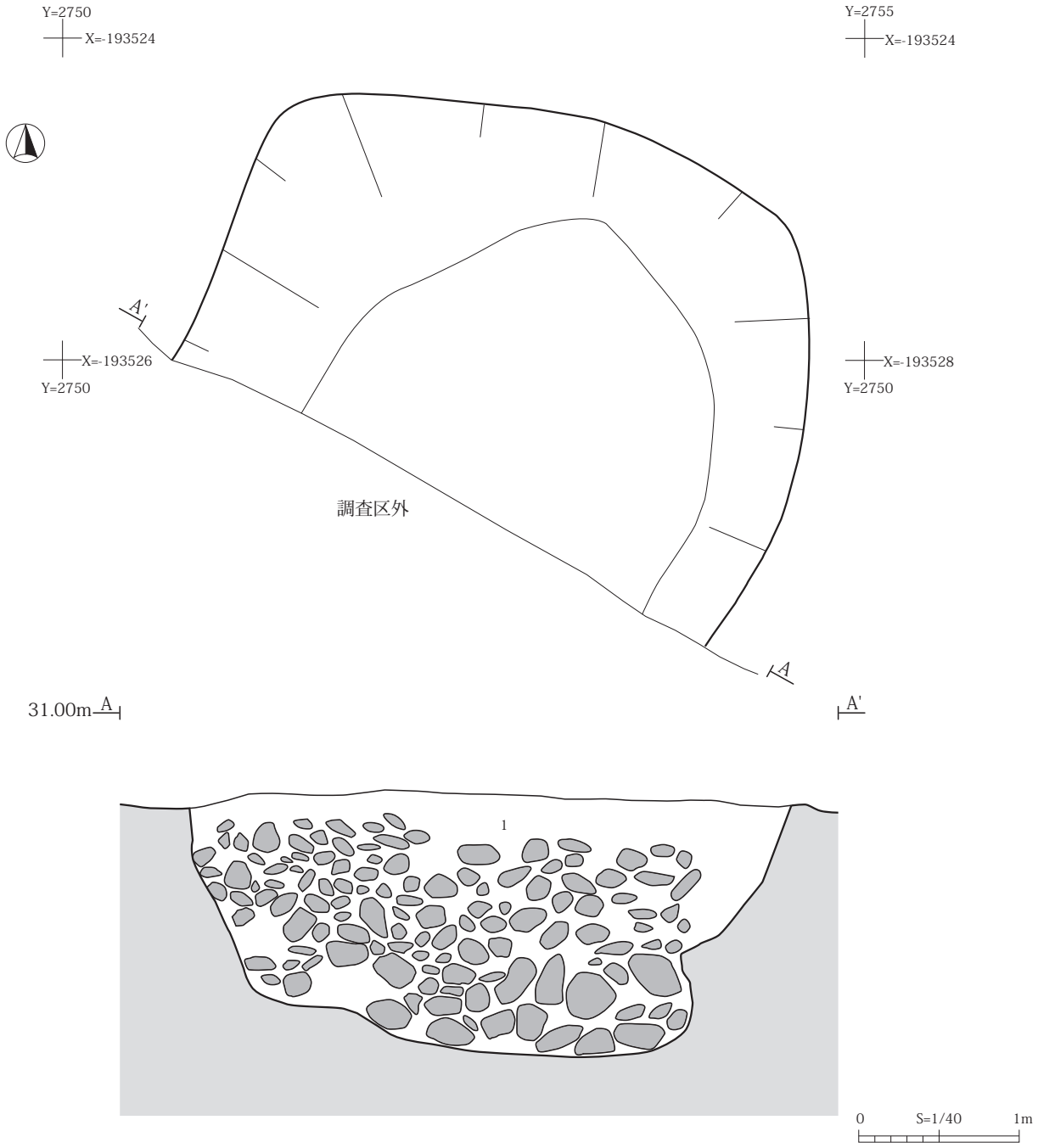


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	樹種	備考	登録番号
1	71-17	7 層	木製品	32.0	(10.7)	1.9	コナラ属 コナラ節	へら？	L-387
2	72-1	8 層	木製品	(5.0)	26.0	19.0	トチノキ	鉢	L-390

第 120 図　SK49 土坑出土遺物（６）

10）SX7 性格不明遺構　（第 121 図、図版 29-8）

S13-E46 グリッドに位置する。南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 383cm、短軸 250cm、深さ 162cm を測る。平面形は隅丸長方形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形を呈す。堆積土はシルトおよび砂質シルトの混合土からなり、礫を多量に含む。礫は 10cm ～ 40cm を測る自然礫である。遺物は出土していない。

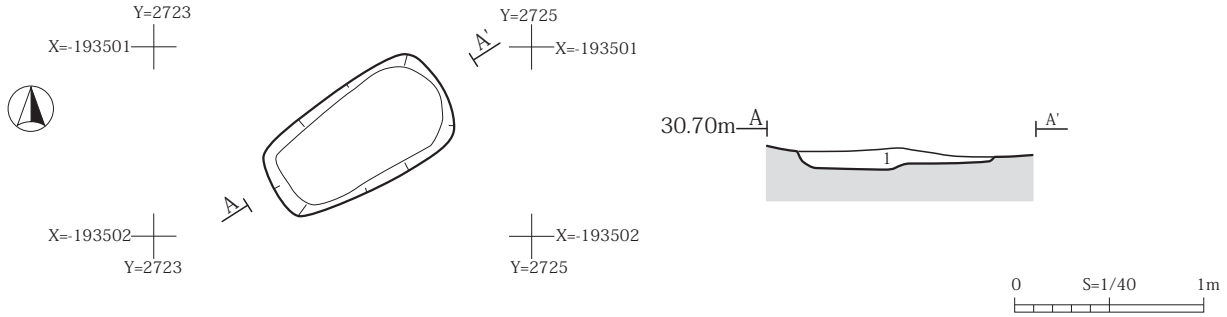


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3・2.5Y5/3	にぶい黄褐色・黄褐色	砂質シルト・シルト	あり	ややあり	酸化鉄多量・礫多量

第 121 図　SX7 性格不明遺構平面図・断面図

11）SX20 性格不明遺構　（第 122 図、図版 30-1 ～ 30-2）

S11-E43 グリッドに位置する。 残存する規模は、長軸 106cm、短軸 60cm、深さ 10cm を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で、上層の整地土が堆積したものと考えられる。遺物は出土していない。

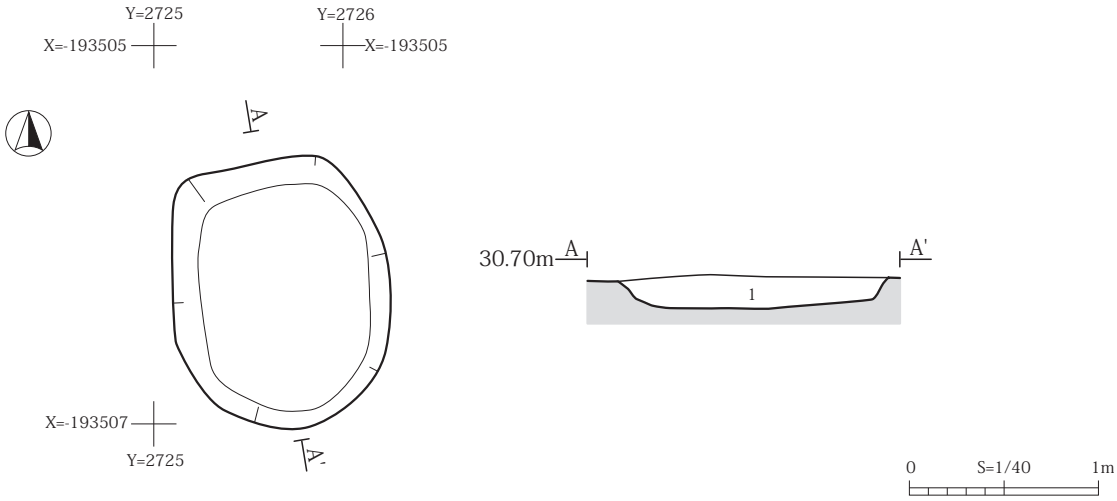


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄多量　径 1cm 程度の礫多量　径 5cm 程度の礫微量

第 122 図　SX20 性格不明遺構平面図・断面図

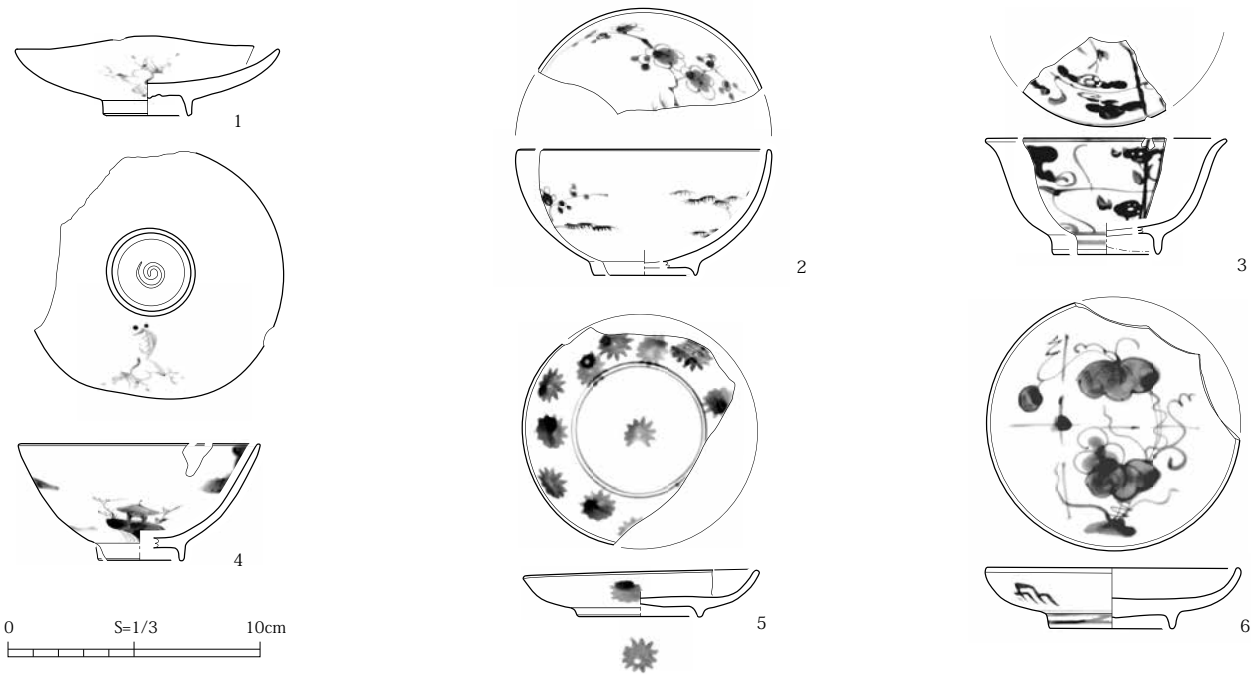
12）SX21 性格不明遺構　（第 123 ～ 124 図、図版 30-3 ～ 30-4）

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 144cm、短軸 115cm、深さ 17cm を測る。平面形は不整楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの単層で、上層の整地土が堆積したものと考えられる。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器 1 点、磁器 5 点を図示した。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	あり	にぶい黄橙色細粒砂多量　酸化鉄多量

第 123 図　SX21 性格不明遺構平面図・断面図

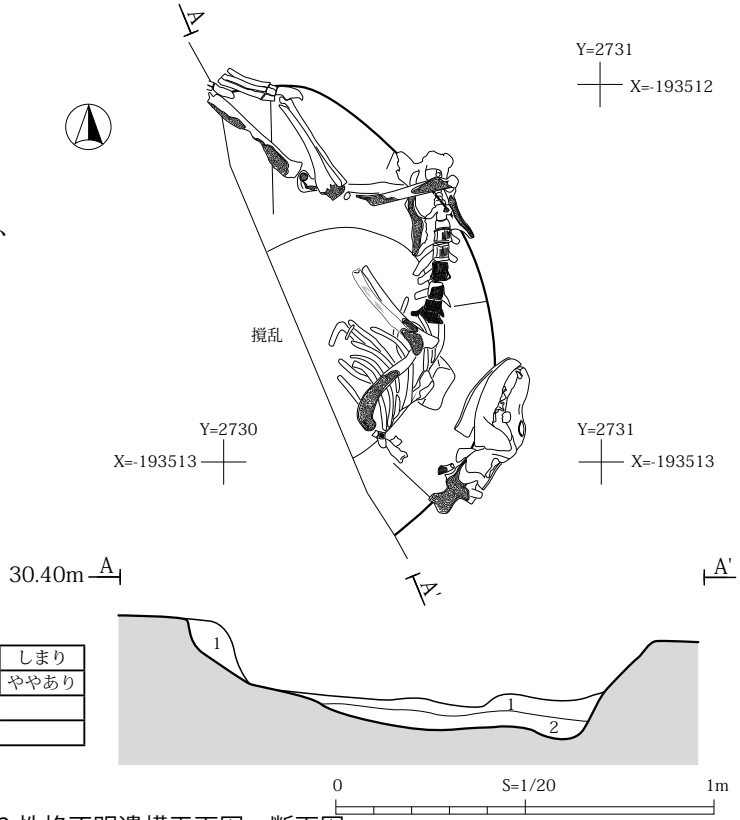


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	72-3	1 層	陶器	変形皿	口縁～底部	やや密	(10.4)	3.3	3.2	大堀相馬	19 世紀	白濁釉　外面：鉄絵駒文	I-374
2	72-4	1 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(10.4)	(4.0)	5.0	肥前	18 世紀前～中	内面：折枝梅文 (梅文)　竹文　外面：梅竹文　※断面に漆継痕あり	J-188
3	72-6	1 層	磁器	端反碗	口縁～底部	密	(9.4)	(3.7)	4.5	瀬戸・美濃	19 世紀	内面：草花文？　外面：草花文？　圏線　焼継痕あり	J-190
4	72-5	1 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(9.6)	(3.3)	4.7	肥前	18 世紀後半	外面：楼閣山水文	J-193
5	72-8	1 層	磁器	小皿	口縁～底部	密	(9.4)	4.8	1.9	肥前	18 世紀前半	コンニャク印判紅葉文（内外面および外底）	J-191
6	72-7	1 層	磁器	皿	口縁～底部	密	10.0	4.9	2.4	肥前	17 世紀後半	外面：染付　圏線　内面：葡萄文	J-192

第 124 図　SX21 性格不明遺構出土遺物

13）SX33 性格不明遺構　（第 125 図、図版 30-5 ～ 30-7）

S12-E44 グリッドに位置する。獣骨（犬）が 1 頭分出土しており、埋葬のための土坑の可能性がある。西側を撹乱に削平される。残存する規模は、長軸 125cm、短軸 48cm、深さ 34cm を測る。平面形は楕円形で、底面は南側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い U 字形を呈す。堆積土はオリーブ黒色粘土質シルトの単層である。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

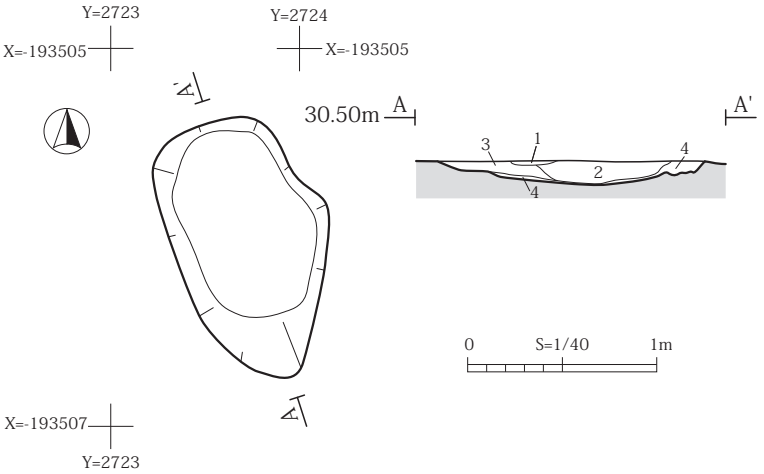


層名	土色		土質	粘性	しまり
1	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	ややあり	ややあり
備考					
径 5㎜以下の灰色土粒少量					

第 125 図　SX33 性格不明遺構平面図・断面図

14）SX42 性格不明遺構　（第 126 図、図版 31-1 ～ 31-2）

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 142cm、短軸 84cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は４層で、１層は砂質シルト、２層から４層はシルトである。遺物は、磁器片、土師質土器片、金属製品、等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

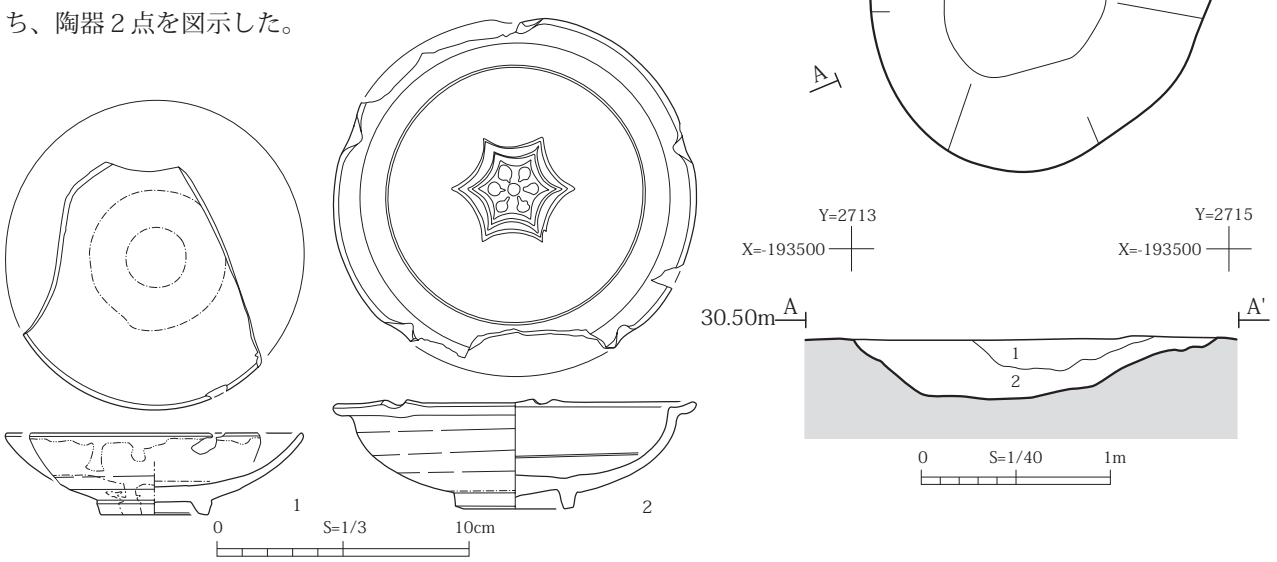


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色砂少量　径 3㎜の炭化物微量
2	10YR6/8	明黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径 3cm 以下ブロック状多量　褐灰色土少量
3	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり	径 10cm 前後の礫　径 5㎜以下炭化物微量　瓦を多量
4	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	ややあり	黄褐色土粒多量　褐色土粒少量　混土層

第 126 図　SX42 性格不明遺構平面図・断面図

15）SX46 性格不明遺構　（第 127 図、図版 31-3 ～ 31-4）

S10-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 193cm、短軸 171cm、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は２層で、１層は粘土質シルトで上層の整地土が堆積したものと考えられ、２層はシルトで自然堆積の可能性がある。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片が出土している。そのうち、陶器２点を図示した。



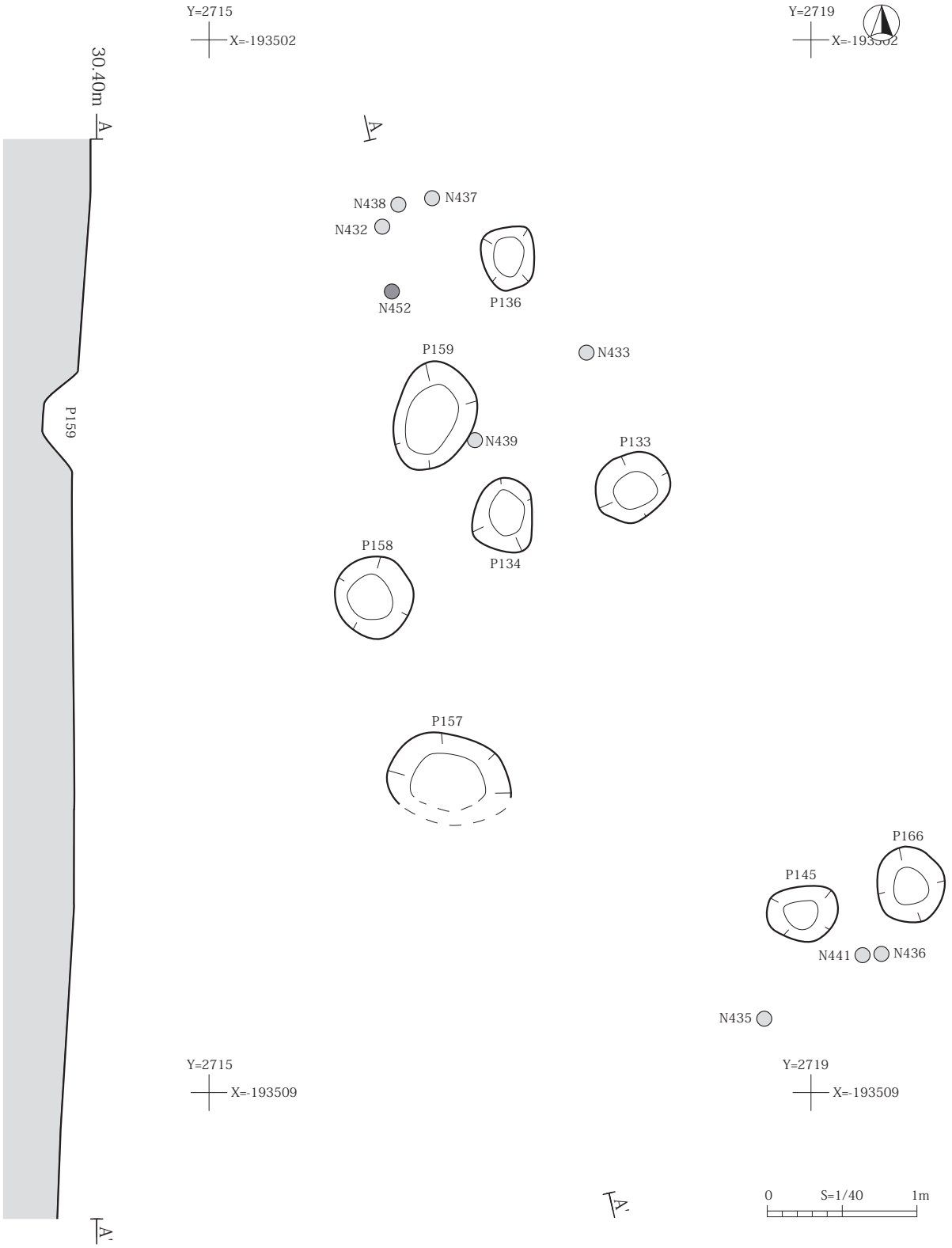
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 3cm 以下の灰色粘土少量
2	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	なし	

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	73-1	1 層	陶器	皿	口縁～底部	やや粗	(12.1)	4.2	3.3	嬉野	17 世紀後半	内外面：緑釉　見込み：蛇ノ目釉剥ぎ	I-371
2	73-2	1 層	陶器	輪花皿	口縁～底部	やや密	14.4	4.8	4.2	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀初頭	内面：型押し陰刻文 (見込み)　沈線　灰釉貫入　外面：灰釉　貫入　ロクロ：右	I-372

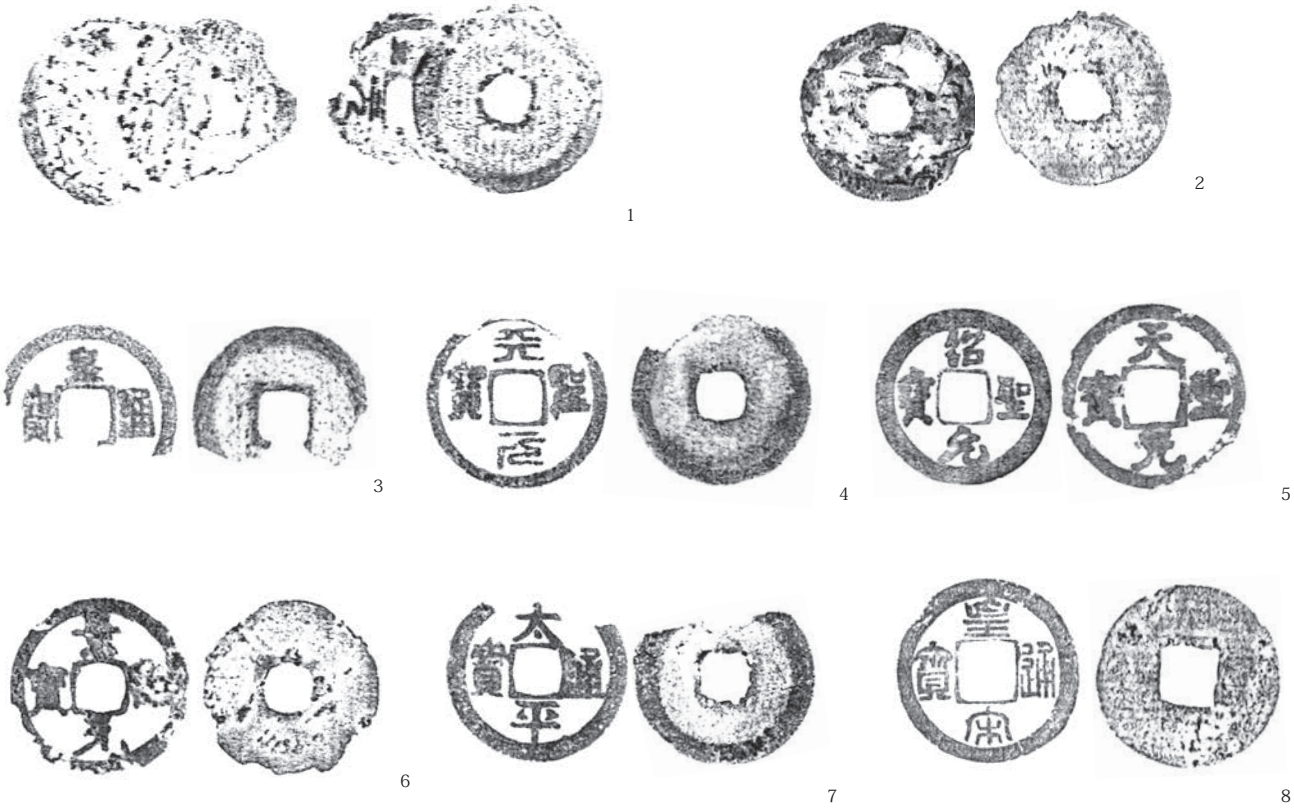
第 127 図　SX46 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

16）SX52 祭祀遺構　（第 128 ～ 129 図、図版 31-5）

S11-E42 グリッドに位置する。東西約 3.7 m、南北約 5.6 mの範囲に、8 枚の渡来銭と一分判金が分布していた。これらは上位整地層のⅢ b 層を敷設する前に散布したものと考えられる。配置に規則性は認められなかった。整地前の地鎮等の性格が考えられる。



第 128 図　SX52 祭祀遺構古銭分布状況



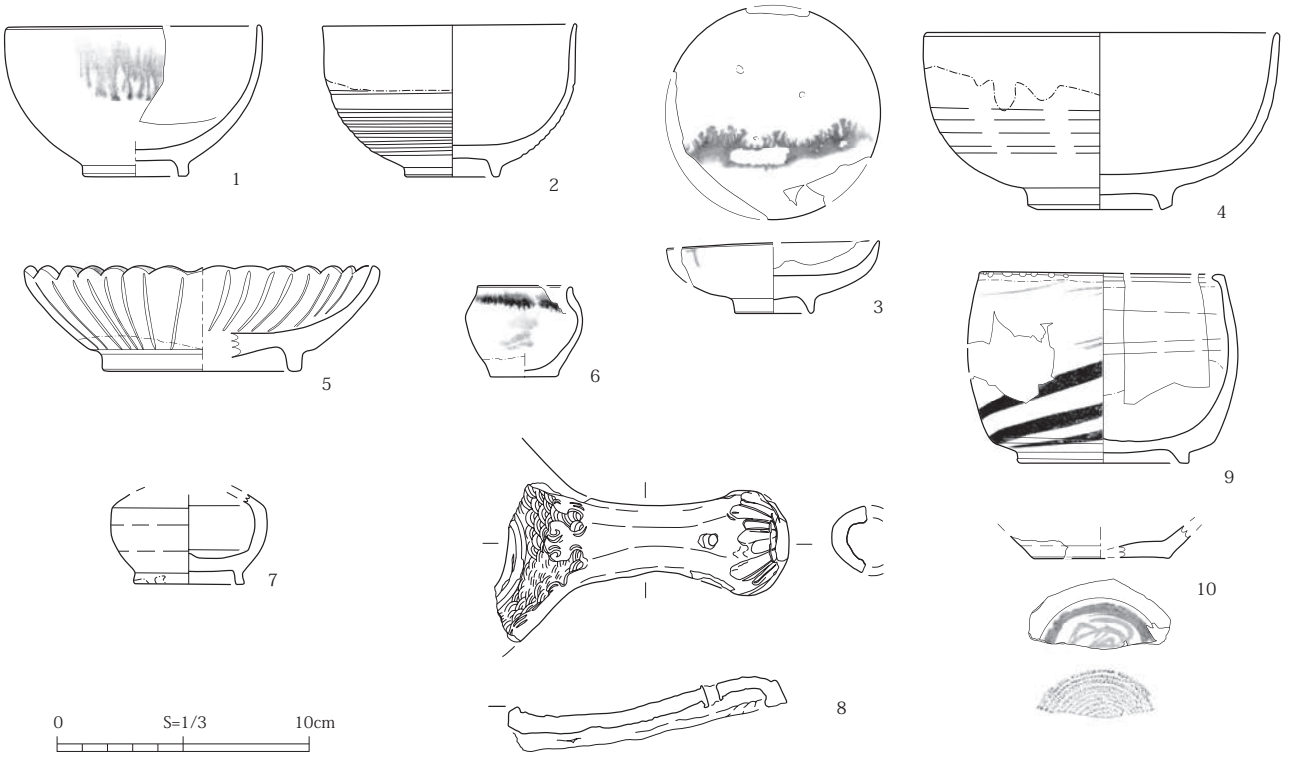
図版番号	写真図版番号	グリッド	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
1	73-4	S11-E42	□□元寶	-	2.5	0.6	4.79	2 枚癒着	N-432
2	73-6	S11-E42	皇（宋）通寶	北宋 1038 年	(2.3)	0.7	1.46		N-433
3	73-7	S11-E42	皇宋通寶	北宋 1038 年	2.4	0.6	2.02		N-435
4	73-8	S11-E42	天聖元寶	北宋 1023 年	2.4	0.6	6.05		N-436
5	73-9	S11-E42	天聖元寶 紹聖元寶	北宋 1023 年 北宋 1094 年	2.3	0.6	2.67	2 枚癒着	N-437
6	73-10	S11-E42	景（祐？）元寶	北宋 1034 年	2.3	0.6	2.31		N-438
7	73-11	S11-E42	太平通寶	北宋 976 年	2.3	0.6	2.59		N-439
8	73-12	S11-E42	皇宋通寶	北宋 1038 年	2.4	0.7	2.29		N-441

図版番号	写真図版番号	グリッド	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					長さ	幅	重さ		
9	73-3 巻頭カラー	S11-E42	一分判金	1714 か	1.65	1.0	4.44	享保一分判金か	N452

第 129 図　SX52 祭祀遺構出土銭貨

17）遺構外出土遺物（第 130 ～ 132 図）

Ⅳ a 層の出土遺物点数は瓦 897 点、陶器 1144 点、土師質土器 420 点、瓦質土器 58 点、磁器 982 点、石製品 12 点、木製品 36 点、金属製品 65 点、古銭 4 点、土製品 20 点、骨 1 点、その他 63 点、合計 3702 点で、18 世紀後半から 19 世紀前半のものが出土している。陶器を産地別にみると、志野 1 点、織部 1 点、唐津 3 点、岸 2 点、嬉野 1 点、京・信楽系 1 点、肥前 1 点、瀬戸美濃 4 点、小野相馬 1 点、大堀相馬 10 点、堤 3 点となる。また、磁器を産地別にみると、景徳鎮 2 点、肥前 325 点、瀬戸美濃 18 点である。このうち、陶器 9 点、土師質土器 1 点、磁器 10 点、瓦 1 点、土製品 2 点、金属製品 3 点、木製品 2 点を図示した。



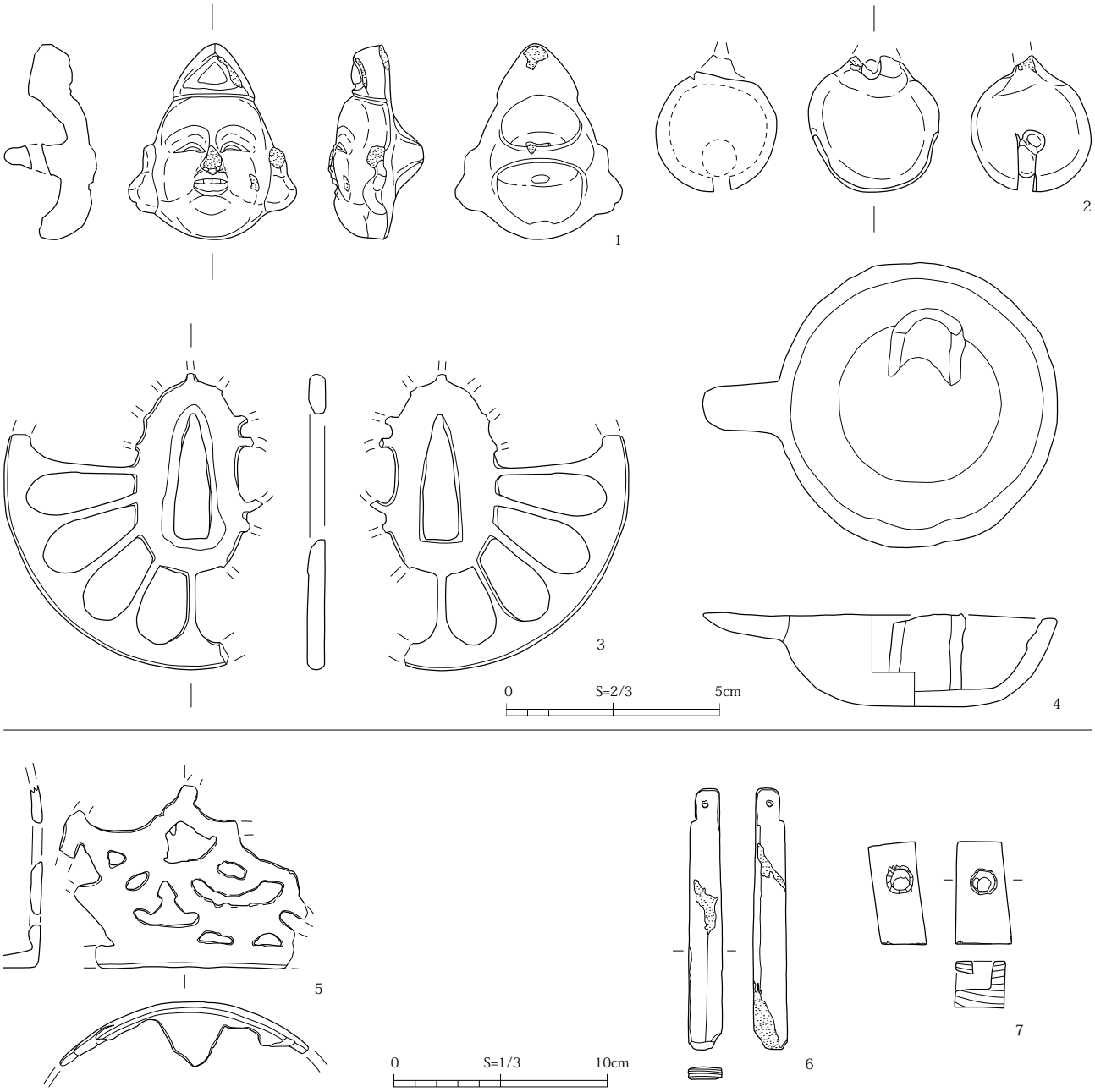
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	73-13	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(10.2)	4.0	(6.0)	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：灰釉・飴釉流し掛け	I-446
2	74-4	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	やや密	10.1	3.6	6.1	大堀相馬	18 世紀後半	外面：灰釉・鉄釉掛け分け	I-427
3	74-7	S12-E45	陶器	皿	口縁～底部	やや密	8.4	3.0	2.9	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	内面：白濁釉・緑釉流し掛け　目跡 3 箇所	I-443
4	74-1	S11-E42	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	14.1	4.9	7.0	瀬戸・美濃	18 世紀	外面：灰釉・鉄釉掛け分け	I-425
5	74-5	S12-E45	陶器	菊皿	口縁～底部	やや粗	(14.1)	7.7	4.2	瀬戸・美濃	17 世紀	黄瀬戸菊皿	I-493
6	73-15	S12-E45	陶器	豆甕	口縁～底部	やや密	3.8	2.6	3.7	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：白濁釉・緑釉流し掛け	I-442
7	73-14	S12-E45	陶器	壺	口縁～底部	やや密	-	4.4	3.5	大堀相馬	19 世紀前半	外面：灰釉	I-433
8	74-2	S12-E45	軟質施釉陶器	胡麻炒り	取手	粗	-	-	-	堤	19 世紀	内面：指頭痕あり　外面：透明釉　片押し成形 (菊花・青海波)　ナデ調整	I-463
9	74-3	S12-E45	陶器	香炉	口縁～底部	やや密	9.5	6.7	7.6	不明	18 ～ 19 世紀	内面:口縁部灰釉？鉄釉　外面:口縁部灰釉？鉄釉　鉄絵　ロクロ：右	I-450
10	74-6	S11-E42	土師質土器	皿	体部～底部	粗	-	5.8	-	在地	近世	底部墨書あり	I-436

第 130 図　Ⅳ a 層出土遺物（1）

図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	75-2	S11-E42	磁器	小碗	口縁～底部	密	9.6	4.3	5.4	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：草花文　焼継痕　高台内：焼継印あり	J-342
2	74-8	S12-E45	磁器	碗	口縁～底部	密	8.8	3.5	5.0	肥前	18 世紀前半～中頃	外面：青磁　見込み：圏線　コンニャク五弁花	J-255
3	74-9	S12-E45	磁器	碗	口縁～底部	密	9.9	3.5	5.0	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：梵字文崩し　見込み：圏線　吉祥紋	J-279
4	76-1	S11-E43	磁器	皿	口縁～底部	密	13.0	6.7	3.2	肥前	18 世紀後半	外面：唐草文　圏線　二重圏線　内面：草花文コンニャク印判五弁花　高台：圏線　大明年製	J-265
5	75-1	S12-E45	磁器	碗	体部	密	10.0	4.0	5.7	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：蛸唐草　見込み：手書き五弁花　外底：圏線、「大明成化年製」	J-226
6	75-5	S12-E45	磁器	蓋	口縁～底部	密	(8.8)	(3.8)	2.8	瀬戸・美濃	19 世紀	内面：二重圏線　見込み：染付けあり（不明）　外面：草花文？　二重圏線　つまみ内：染付けあり（不明）	J-246
7	75-4	S12-E43	磁器	皿	口縁～底部	密	(11.4)	5.8	2.8	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	内面：四方襷　圏線　二重圏線　見込み：草花文　外面：圏線	J-229
8	75-3	S13-E46	磁器	小坏	口縁～底部	密	(6.2)	(2.2)	2.9	肥前	17 世紀末～18 世紀前半	外面：雨降文　圏線　高台内銘あり	J-241
9	75-6	S12-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	8.8	3.3	5.1	肥前	18 世紀後半	外面：「大神宮」	J-225

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
10	77-2	S12-E44	軒平瓦	4.5	11.5	2.6	瓦当高 4.6　周縁高 3.6　雪持ち笹蓮弁文	G-21

第 131 図　Ⅳ a 層出土遺物（２）



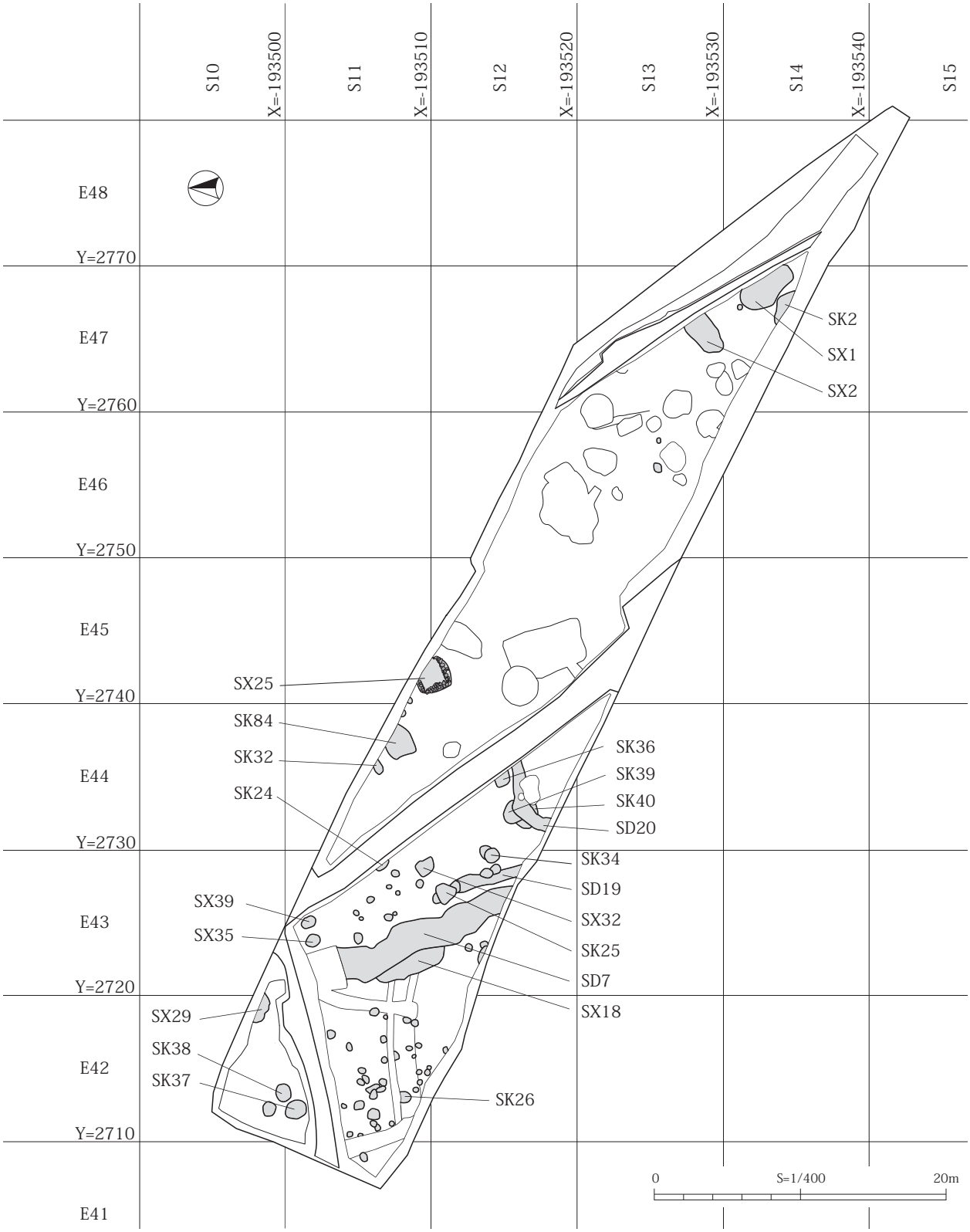
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
1	76-5	S12-E44	土製品	4.6	3.9	2.2	土人形	P-52
2	76-6	S12-E45	土製品	(3.2)	3.1	2.3	土鈴	P-51
3	77-1	S11-E43	金属製品	(6.9)	(6.0)	0.5	鐔　菊透かし　小柄櫃孔あり	N-431
4	76-7	S12-E43	金属製品	2.2	6.7	2.6	灯明皿	N-322
5	77-2	S11-E42	金属製品	8.6	11.7	3.0	銅製　透かし	N-323

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	樹種	備考	登録番号
6	76-4	S12-E45	木製品	12.3	1.7	0.6	針葉樹	部品？	L-45
7	76-3	S12-E45	木製品	4.8	-	-	針葉樹	部品？	L-43

第 132 図　Ⅳ a 層出土遺物（3）

５　Ⅲｂ層上面検出遺構

Ⅲｂ層上面で検出された遺構は、溝跡３条、土坑 11 基、性格不明遺構８基、合計 22 基である。調査区の南東側では、SX1 が検出され、荷札木簡３点ほか木製品が多く出土した。また、南北に蛇行して延びる溝 SD ７、SD19 が検出された。

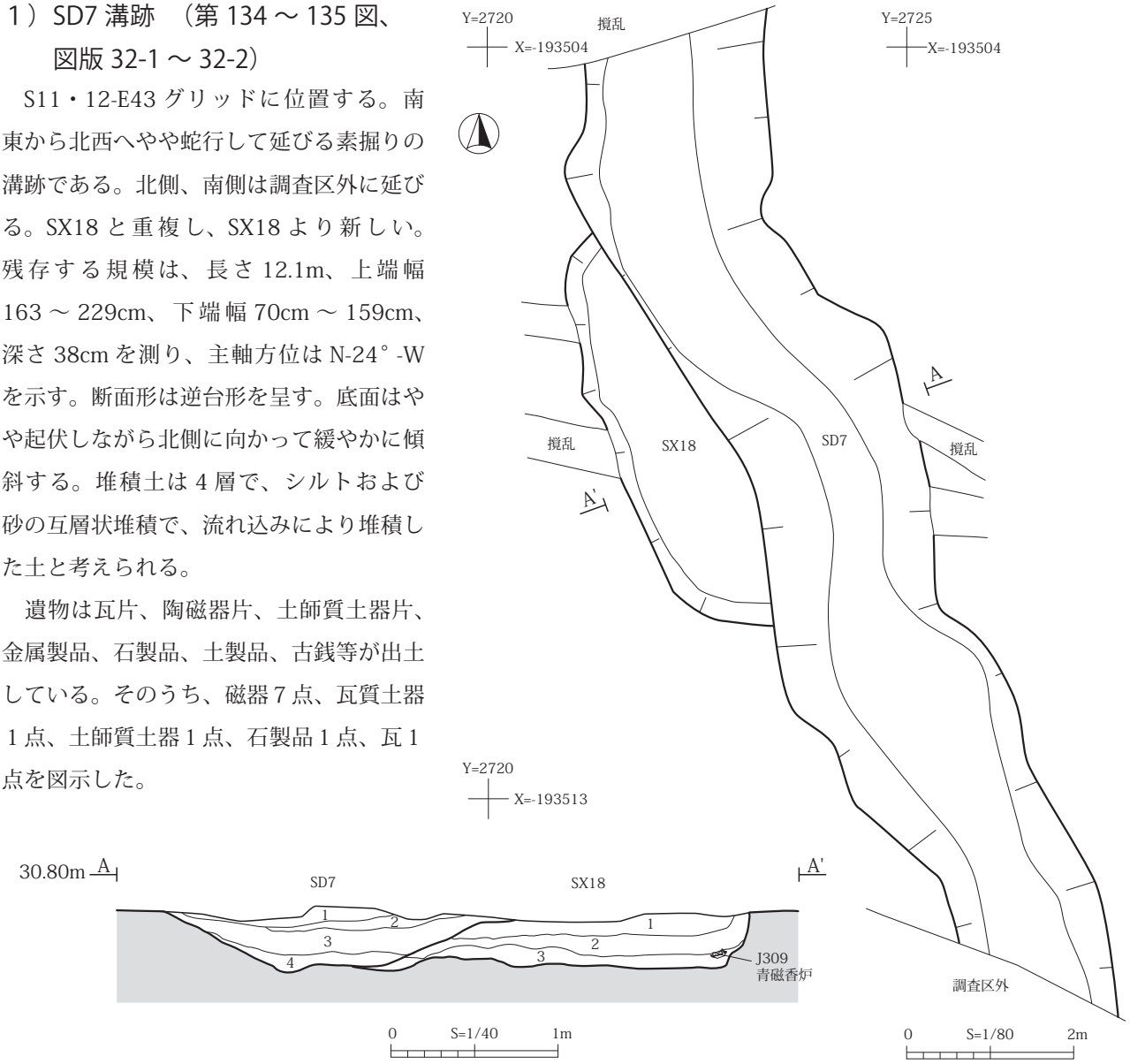


第 133 図　Ⅲｂ層上面検出遺構

１）SD7 溝跡　（第 134 ～ 135 図、図版 32-1 ～ 32-2）

S11・12-E43 グリッドに位置する。南東から北西へやや蛇行して延びる素掘りの溝跡である。北側、南側は調査区外に延びる。SX18 と重複し、SX18 より新しい。残存する規模は、長さ 12.1m、上端幅 163 ～ 229cm、下端幅 70cm ～ 159cm、深さ 38cm を測り、主軸方位は N-24°-W を示す。断面形は逆台形を呈す。底面はやや起伏しながら北側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は４層で、シルトおよび砂の互層状堆積で、流れ込みにより堆積した土と考えられる。

遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品、石製品、土製品、古銭等が出土している。そのうち、磁器７点、瓦質土器１点、土師質土器１点、石製品１点、瓦１点を図示した。



SD7　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄多量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり	径 4cm以下の黒褐色土粒やや多量
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	グライ化顕著　有機物多量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質砂	なし	ややあり	グライ化顕著　径 2㎜以下の黒褐色土粒微量

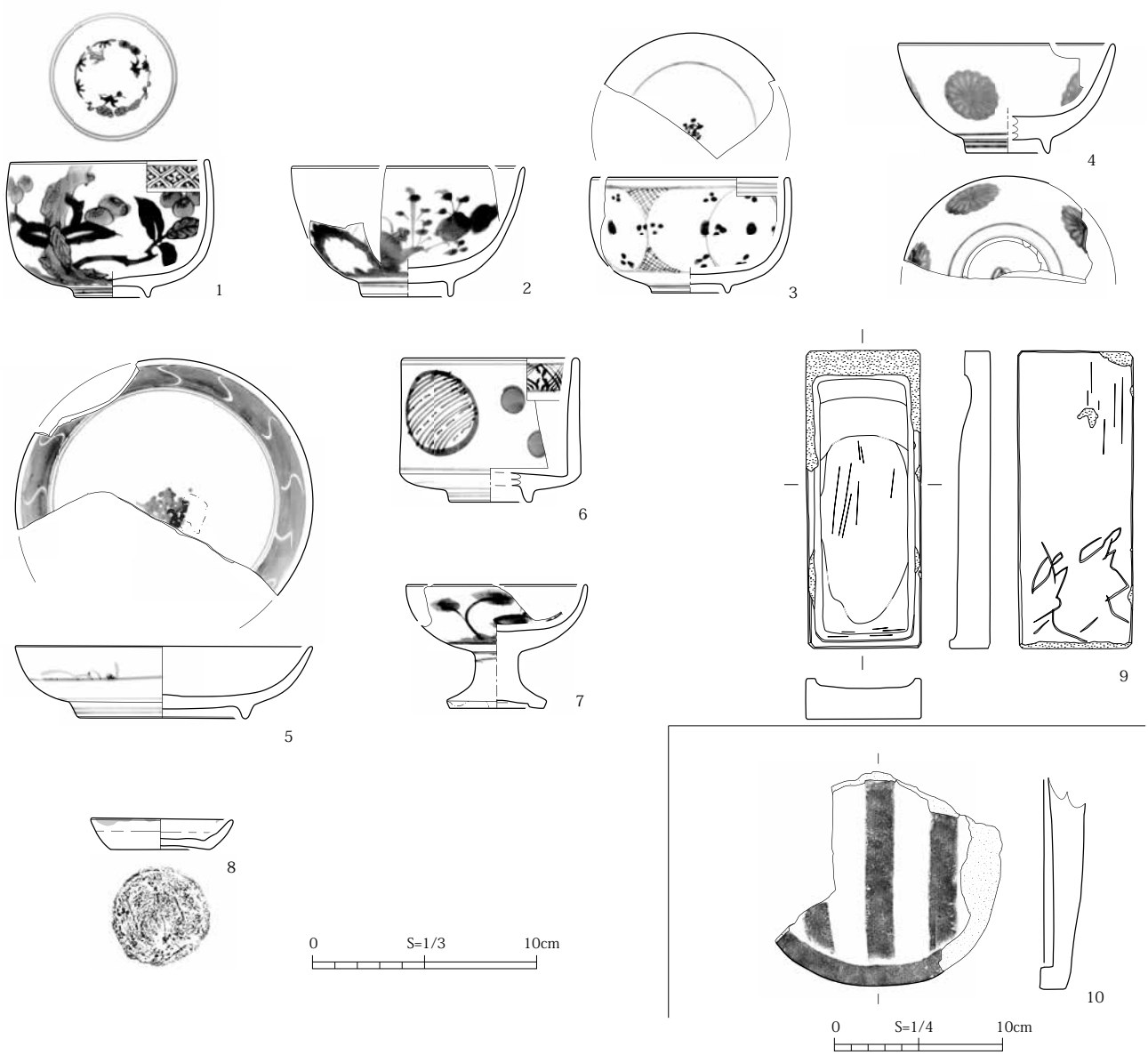
SX18　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	礫・砂粒多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂・細～中礫・酸化鉄多量
3	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	砂粒多量　上部に酸化鉄多量

第 134 図　SD7・SX18 平面図・断面図

２）SX18 性格不明遺構　（第 134、136 図、図版 32-1 ～ 32-3）

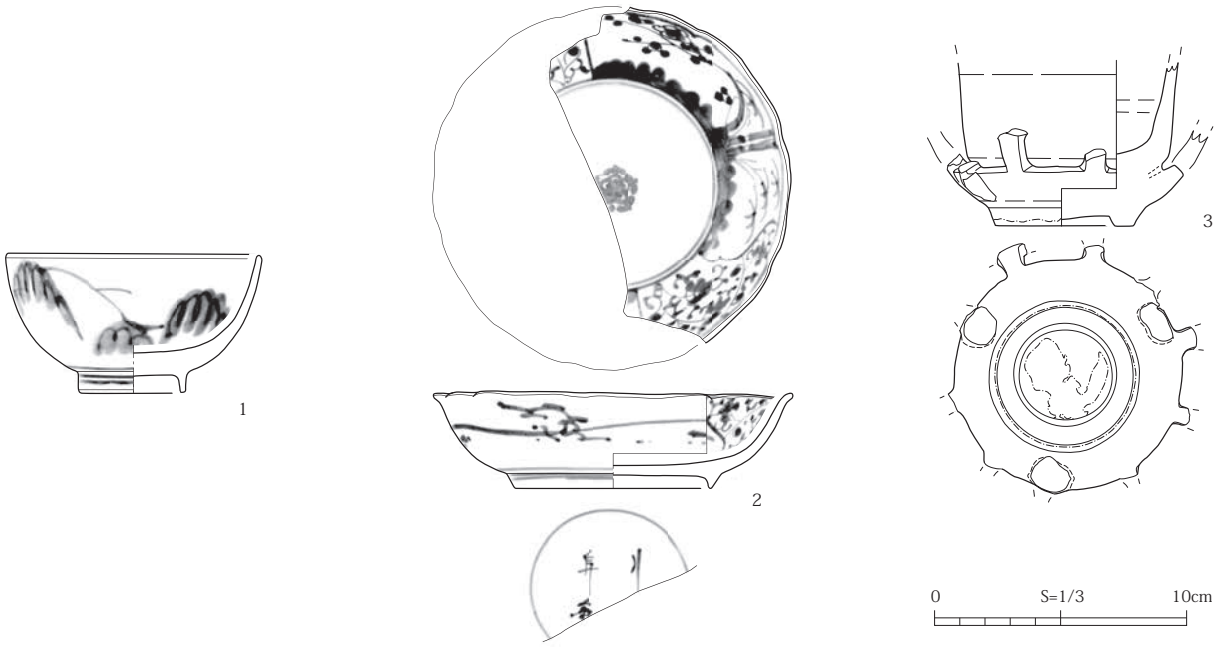
S11・12-E43 グリッドに位置する。SD7 と重複し、SD7 より古い。残存する規模は、長軸 515cm、短軸 137cm、深さ 33cm を測る。平面形は不整楕円を呈し、底面はやや起伏があり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は３層で、１層から２層は砂質シルト、３層はシルトである。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、磁器３点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	78-1	３層	磁器	碗	口縁～底部	密	8.9	3.3	6.1	肥前	18 世紀後半	外面：樹木文　内面：四方襷　見込み：二重圏線　松竹梅文	J-290
2	78-4	４層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.4	3.9	5.9	肥前	18 世紀後半	外面：草花文	J-284
3	78-3	３層	磁器	碗	口縁～底部	密	(8.9)	3.4	5.2	肥前	18 世紀後半	外面：草花文　内面：圏線　花文	J-288
4	78-7	３層	磁器	碗	口縁～底部	密	9.6	(3.8)	4.9	波佐見？	18 世紀中？	外面：コンニャク印判菊花文　圏線　二重圏線　高台内：渦福？　高台に砂付着	J-297
5	78-8	３層	磁器	皿	口縁～底部	密	13.3	7.7	3.2	肥前	17 世紀後半～18 世紀前半	外面：草文　内面：墨弾き　見込み：コンニャク五弁花	J-305
6	78-2	４層	磁器	筒型碗	口縁～底部	密	(8.0)	(4.2)	6.5	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：丸文　圏線　二重圏線　内面：四方襷　二重圏線	J-291
7	78-5	３層	磁器	仏飯具（器）	口縁～底部	密	(8.2)	4.2	5.5	肥前	18 世紀	外面：草花文　圏線　二重圏線　内：貫入目跡３箇所	J-302
8	79-1	３層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	6.4	4.4	1.3	在地	18 ～ 19 世紀	油煙付着	I-532

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
9	79-3	２層	石製品	14.3	5.2	1.8	硯　背面に刻文（判読不能）	K-26
10	79-4	３層	軒丸瓦	2.5	13.5	1.9	瓦当径（12.5）　文様区径（11.0）　瓦当厚 1.4　周縁高 0.6　周縁幅 1.1　三引両文	F-57

第 135 図　SD7 溝跡出土遺物



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	77-4	1 層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.1	4.0	5.6	肥前	17 世紀後半～18 世紀前半	外面：樹木文　二重圏線	J-310
2	77-6	1 層	磁器	皿	口縁～底部	密	(14.3)	(7.8)	3.9	肥前	18 世紀前半	外面：唐草文　内面：松竹梅　花唐草　見込み：コンニャク五弁花	J-615
3	77-5	3 層	磁器	香炉	体部～底部	密	-	5.5	6.8	肥前	18 世紀	青磁　透かし付き筒皿一体型香炉	J-309

第 136 図　SX18 性格不明遺構出土遺物

3）SD19 溝跡　（第 137 図、図版 31-7、32-4）

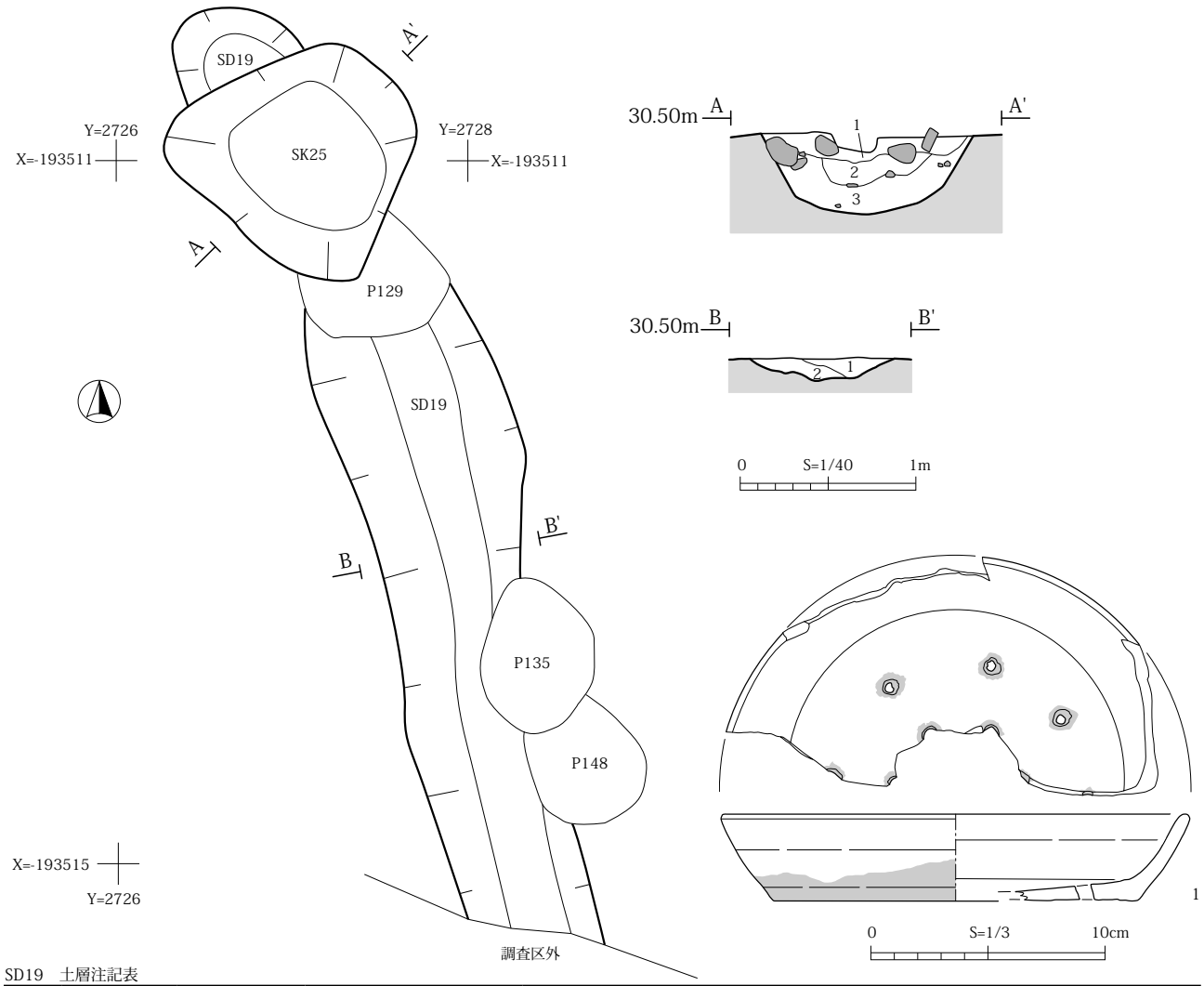
S12-E43 グリッドに位置する。南から北に延びる溝跡である。北側は調査区内で収束し、南側は調査区外へ延びる。SK25、P135、P148 と重複し、SD19 が一番より古い。残存する規模は、長さ 558cm、上端幅 73 ～ 104cm、下端幅 25 ～ 31cm、深さ 6 cm を測り、主軸方位は N-33°-W を示す。北側に向かって緩やかに傾斜する。断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は 2 層の砂質シルトである。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、土師質土器 1 点を図示した。

4）SK25 土坑　（第 137 図、図版 31-7、32-5）

S12-E43 グリッドに位置する。SD19 と重複し、SD19 より新しい。残存する規模は、長軸 133cm、短軸 126cm、深さ 44cm を測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は U 字形を呈す。堆積土は 3 層からなり、1 層はシルト、2 層から 3 層は粘土質シルトである。遺物は、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

5）SD20 溝跡　（第 138 ～ 139 図、図版 33-1）

S12-E44 グリッドに位置する。北東から南西へ弧を描きながら延びる溝跡である。西側、東側は調査区外へ延びる。Ⅲ a 層の遺構（SX12）に削平される。SK39、SK40、P154 と重複し、SK39、SK40 より新しく、P154 より古い。残存する規模は、長さ 513cm、上端幅 77 ～ 107cm、下端幅 43 ～ 58cm、深さ 21cm を測り、主軸方位は N-63°-E を示す。断面形は皿状を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもたない。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。遺物は、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、陶器 1 点、土師質土器 1 点を図示した。



SD19　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10 ～ 15cm の礫やや多量
2	10 Y R 3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10cm の礫多量

SK25　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	あり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量　2.5Y3/1 黒褐色土粒微量　酸化鉄多量
2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量　腐食物多量　植物遺体
3	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒微量　酸化鉄少量

図版番号	写真図版番号	遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	79-5	SD19 1 層	土師質土器	皿	口縁～底部	粗	(20.1)	(16.4)	3.2	在地	18 ～ 19 世紀	穿孔部、外面に油煙付着　蚊遣り蓋に転用か	I-534

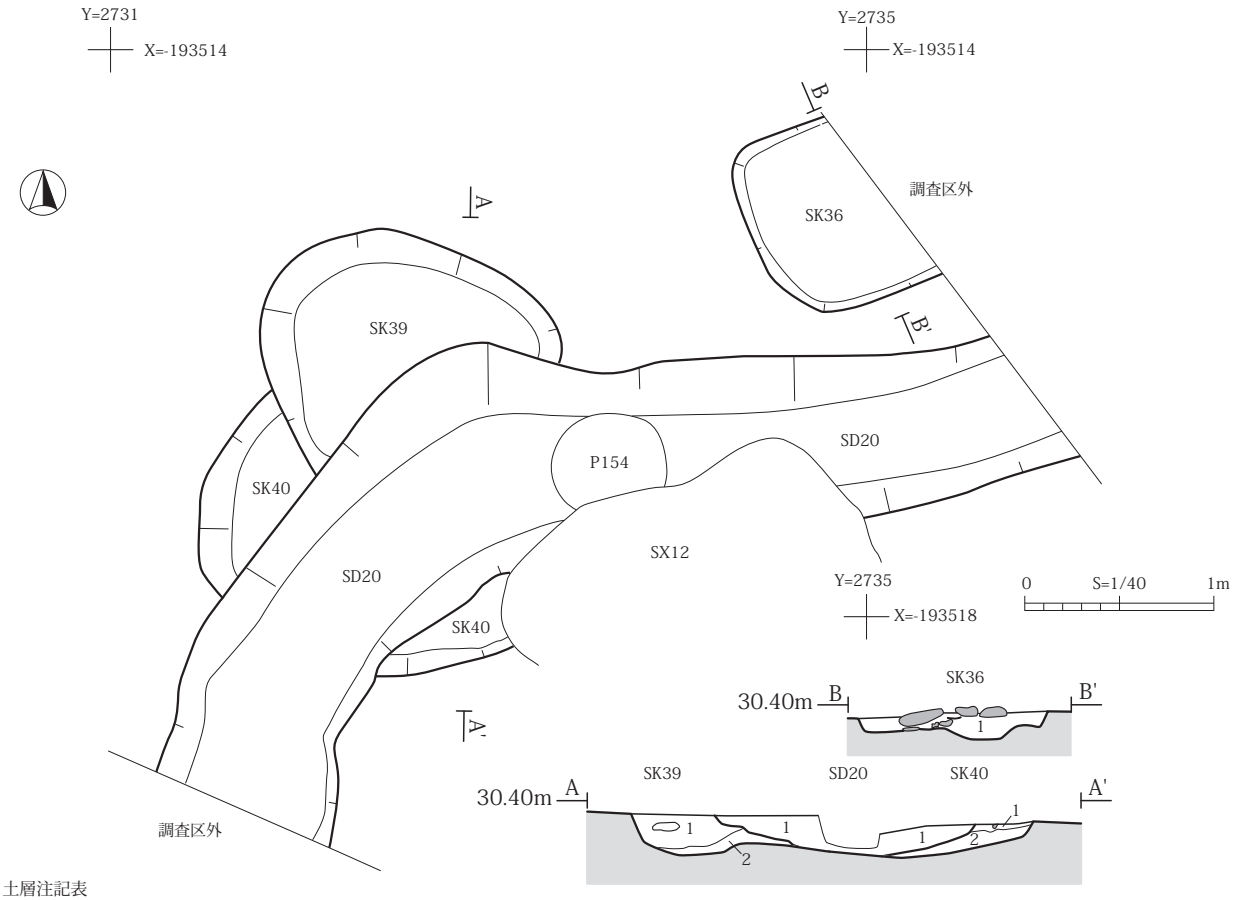
第 137 図　SD19 溝跡・SK25 土坑平面図・断面図・出土遺物

６）SK36 土坑　（第 138 図、図版 33-1、33-2）

S12-E44 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 107cm、短軸 72cm、深さ 14cm を測る。平面形は隅丸方形で、底面はやや起伏し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は礫を多く含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、石製品が出土している。そのうち石製品 1 点を図示した。

７）SK39 土坑　（第 138、140 図、図版 33-1）

S12-E44 グリッドに位置する。SD20、SK40 と重複し、SD20 より古く SK40 より新しい。残存する規模は、長軸 151cm、短軸 126cm、深さ 21cm を測る。平面形は楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は 2 層の砂質シルト層に分層され、2 層は礫を多量に含む。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SD20　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	礫、砂粒多量

SK36　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	ややあり	酸化鉄少量　径 1cm以下の明黄褐色岩盤ブロック微量　径 10cm 以下の礫多量

SK39　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	なし	径 15cm以下の礫やや多量　径 5cm以下の礫多量

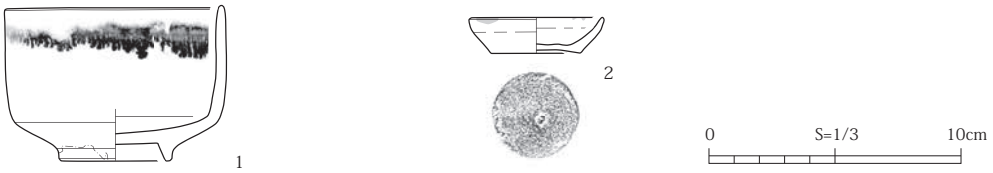
SK40　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5㎜以下の灰白色土粒少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	なし	ややあり	径 1㎜以下の岩盤ブロック少量

第 138 図　SD20 溝跡・SK36・SK39・SK40 土坑平面図・断面図

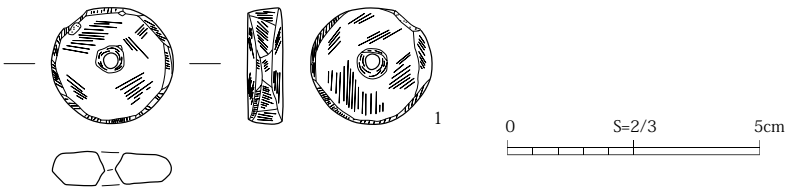
8）SK40 土坑　（第 138 図、図版 33-1）

S12-E44 グリッドに位置する。Ⅲ a 層の遺構（SX12）に削平される。SD20、SK39 と重複し、SK40 が一番古い。残存する規模は、長軸 139cm、短軸 85cm、深さ 18cm を測る。平面形は楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は砂質シルト、2 層はシルトである。遺物は出土していない。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	79-6	1 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	8.6	4.3	6.1	大堀相馬	18 世紀後半	外面：白濁釉・飴釉流し掛け	I-343
2	79-7	1 層	土師質土器	小皿	口縁～底部	粗	5.4	3.4	1.5	在地	近世	油煙付着	I-336

第 139 図　SD20 溝跡出土遺物

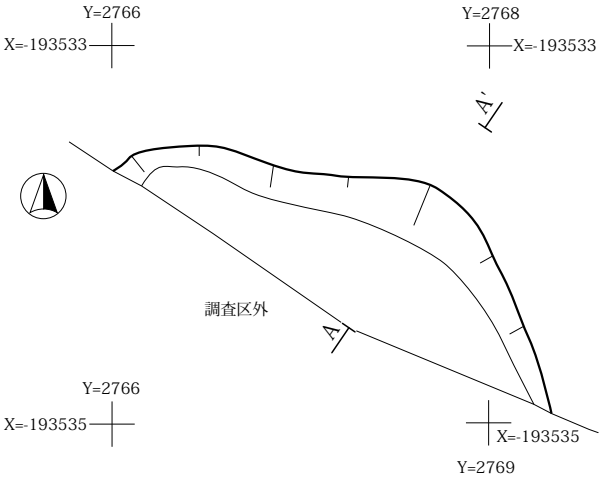


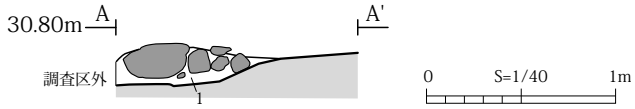
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
1	80-2	1 層	石製品	2.3	2.3	0.7		K-13

第 140 図　SK36 土坑出土遺物

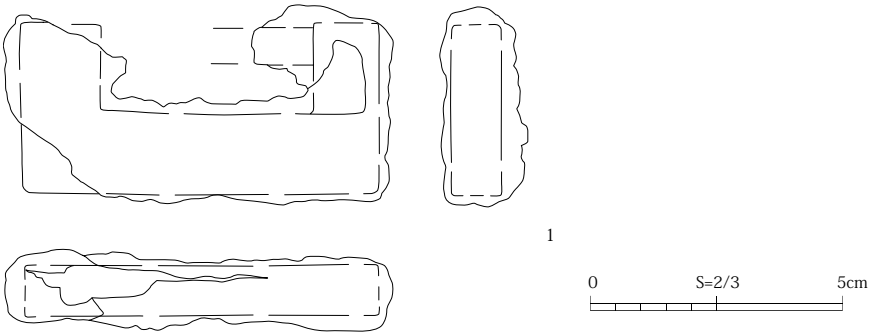
9）SK2 土坑　（第 141 図、図版 33-3）

S13-E47 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 389cm、短軸 102cm、深さ 18cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は礫を多量に含むシルト質砂である。遺物は瓦片、陶磁器片、金属製品等が出土している。そのうち、錠前 1 点を図示した。





層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄、径 0.5cmの炭化物やや多量　径 10cm以下の礫少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄、径 10cm以下の礫やや多量



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm） 長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
1	79-8	1 層	金属製品	4.0	7.7	1.7	錠前	N-280

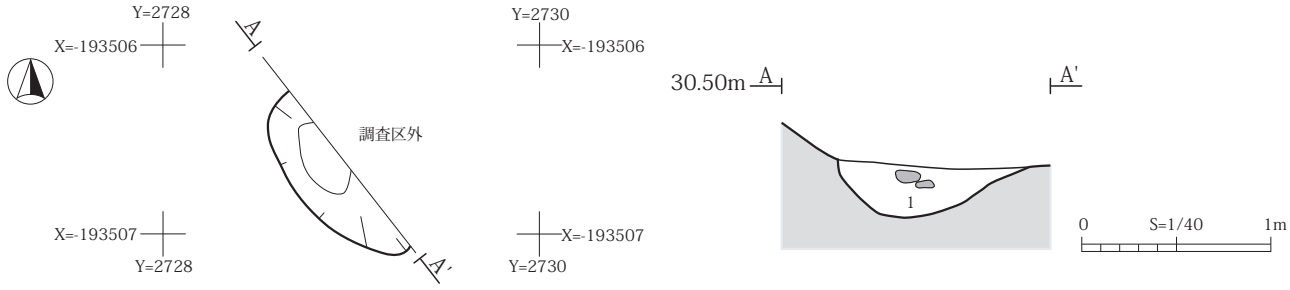
第 141 図　SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物

10）SK24 土坑　（第 142 図、図版 33-4 ～ 33-6）

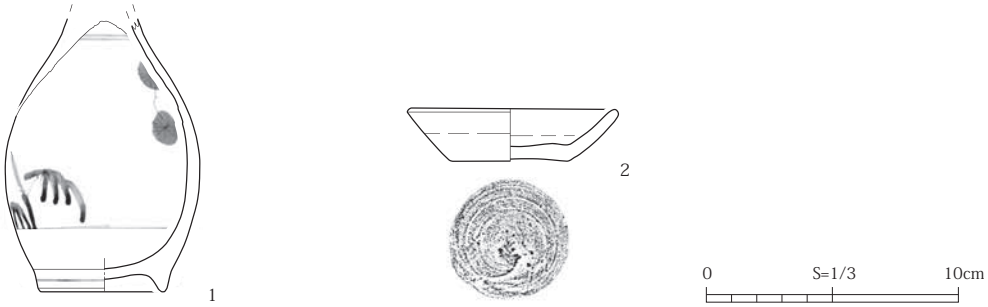
S11-E43 グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 106cm、短軸 31cm、深さ 28cm を測る。平面形は不整楕円形を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い U 字状を呈す。堆積土は黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、磁器 1 点と土師質土器 1 点を図示した。

11）SK26 土坑　（第 143 図、図版 33-7 ～ 33-8）

S11-E42 グリッドに位置する。北側を撹乱に削平される。残存する規模は、長軸 77cm、短軸 71cm、深さ 19cm を測る。平面形は楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は 2 層の粘土質シルトに分層される。遺物は瓦片、磁器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

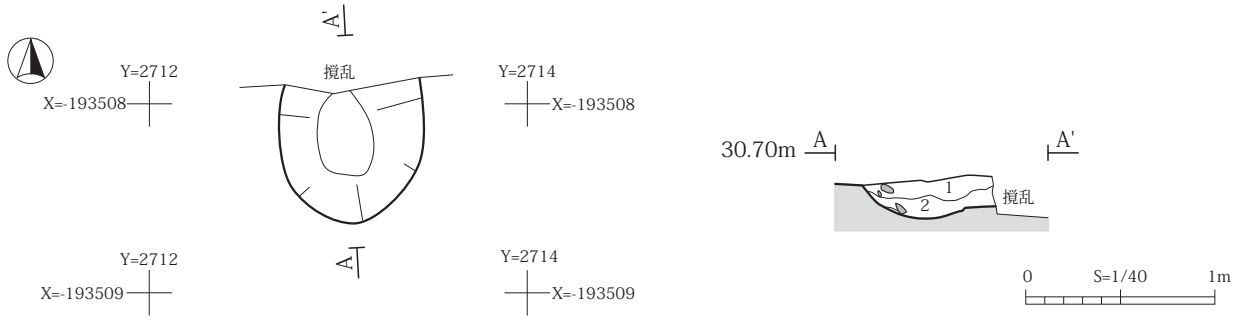


層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	2.5Y5/3 黄褐色土粒少量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	80-1	1 層	磁器	瓶	口縁～底部	密	-	5.0	(10.8)	肥前	18 世紀	外面：二重圏線　圏線　竹・菊文　高台に砂付着	J-312
2	80-2	1 層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	粗	8.3	4.8	2.0	在地	近世		I-542

第 142 図　SK24 土坑平面図・断面図・出土遺物

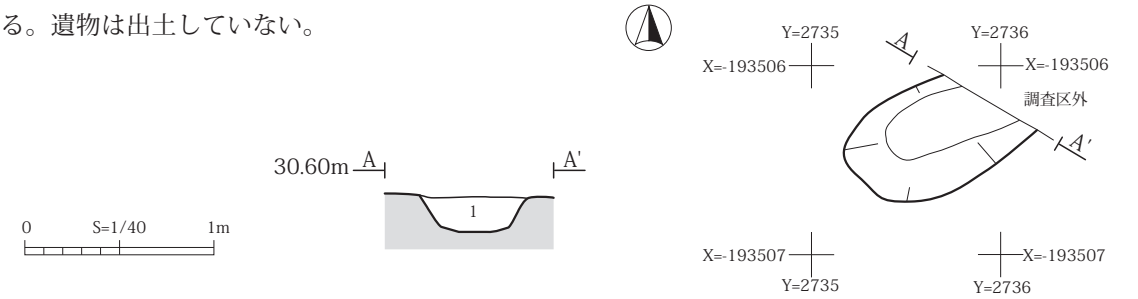


層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	なし	あり	
2	7.5Y6/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 3cmの礫少量

第 143 図　SK26 土坑平面図・断面図

12）SK32 土坑　（第 144 図、図版 34-1）

S11-E44 グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 77cm、短軸 58cm、深さ 18cm を測る。平面形は不整楕円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土はオリーブ黒色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量

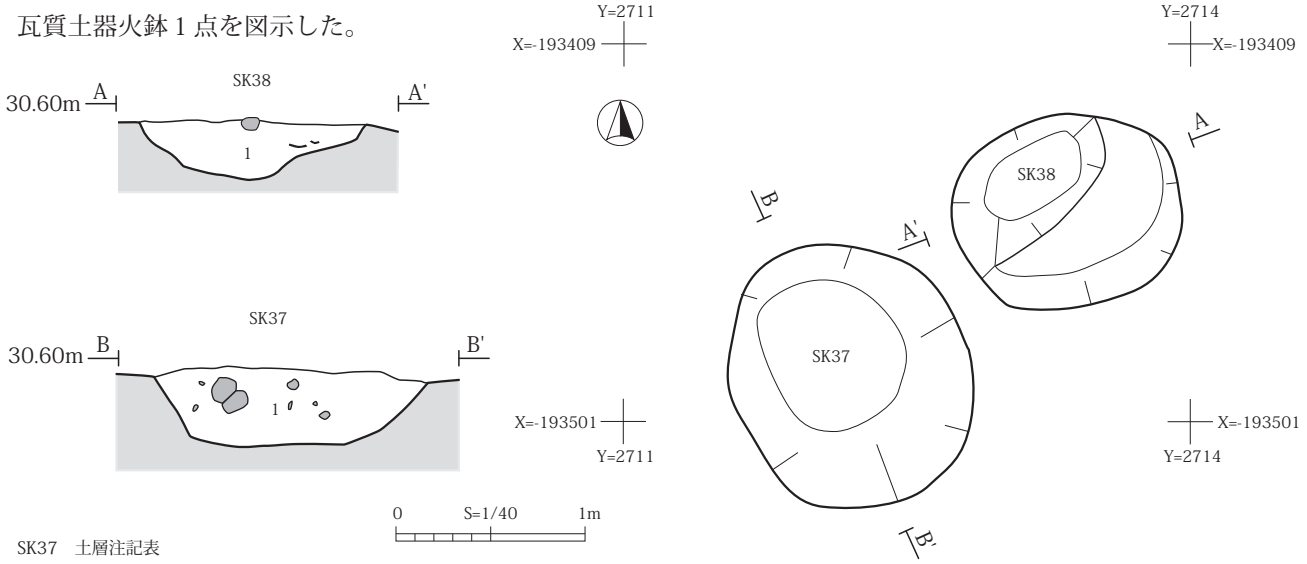
第 144 図　SK32 土坑平面図・断面図

13）SK37 土坑　（第 145 図、図版 34-2 ～ 34-3）

S11-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 154cm、短軸 122cm、深さ 40cm を測る。平面形は楕円形で、底面はやや起伏があり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

14）SK38 土坑　（第 145 図、図版 34-4、34-5）

S11-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 118cm、短軸 103cm、深さ 31cm を測る。平面形は楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、南側がテラス状に高まる。断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は灰色砂質シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、瓦質土器火鉢１点を図示した。

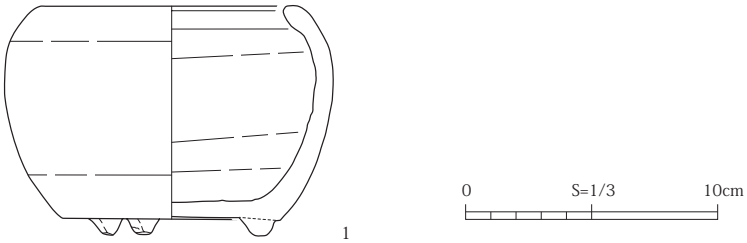


SK37　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10cm以下の礫少量　径 5cm以下の灰白色土粒やや多量

SK38　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	7.5Y6/1	灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の礫微量　酸化鉄少量



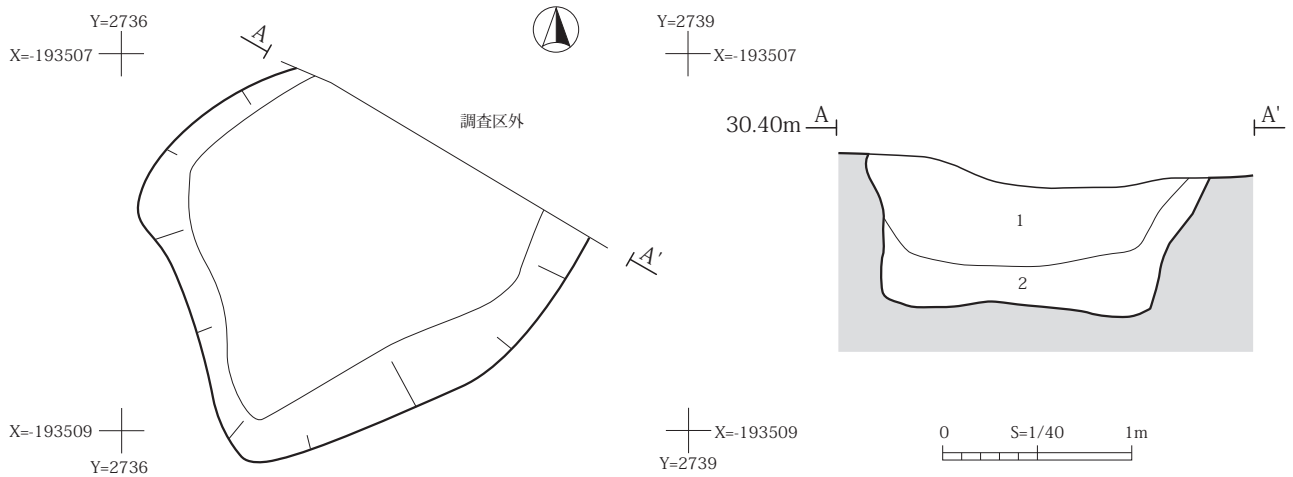
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	80-3	S10-E42	瓦質土器	火鉢	口縁～底部	やや粗	9.0	8.5	9.1	在地	近世		I-543

第 145 図　SK37・SK38 土坑平面図・断面図・出土遺物

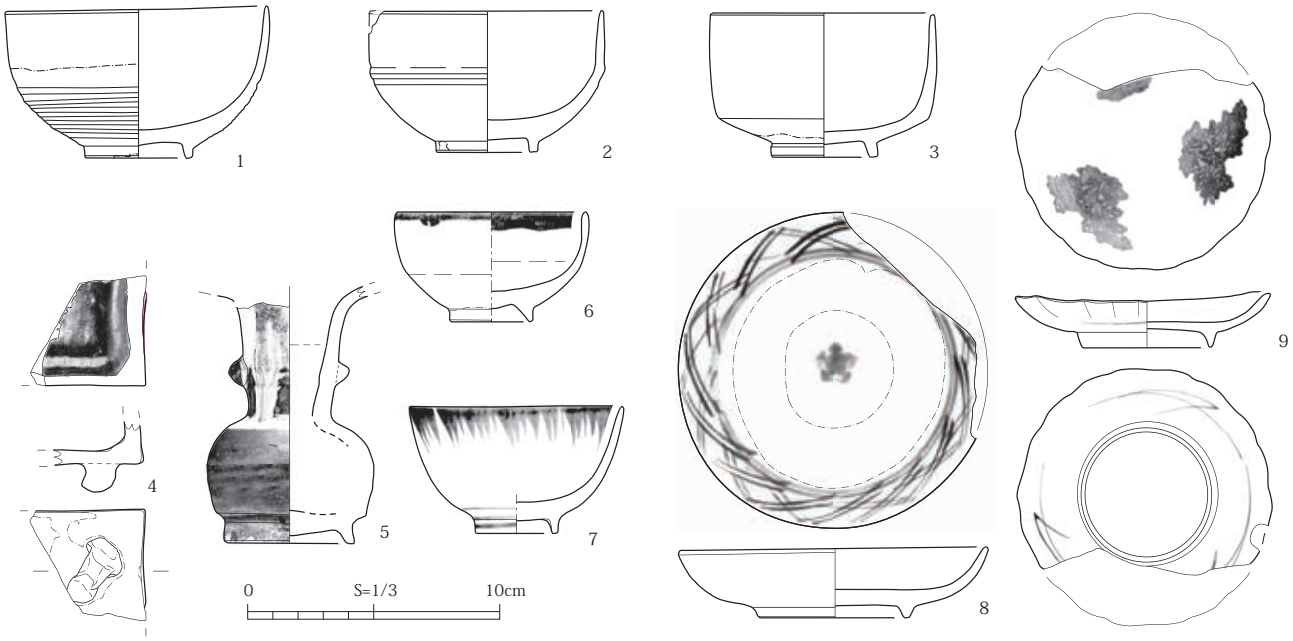
15）SK84 土坑　（第 146 ～ 147 図、図版 34-6 ～ 34-7）

S11-E44 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 202cm、短軸 196cm、深さ 80cm を測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに隆起し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は２層の粘土質シルトに分層され、１層は上位整地層による埋め戻し土の可能性がある。

遺物は１層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、石製品等が出土している。そのうち、陶器６点、磁器４点、木製品４点、金属製品１点を図示した。２層から遺物は出土していない。

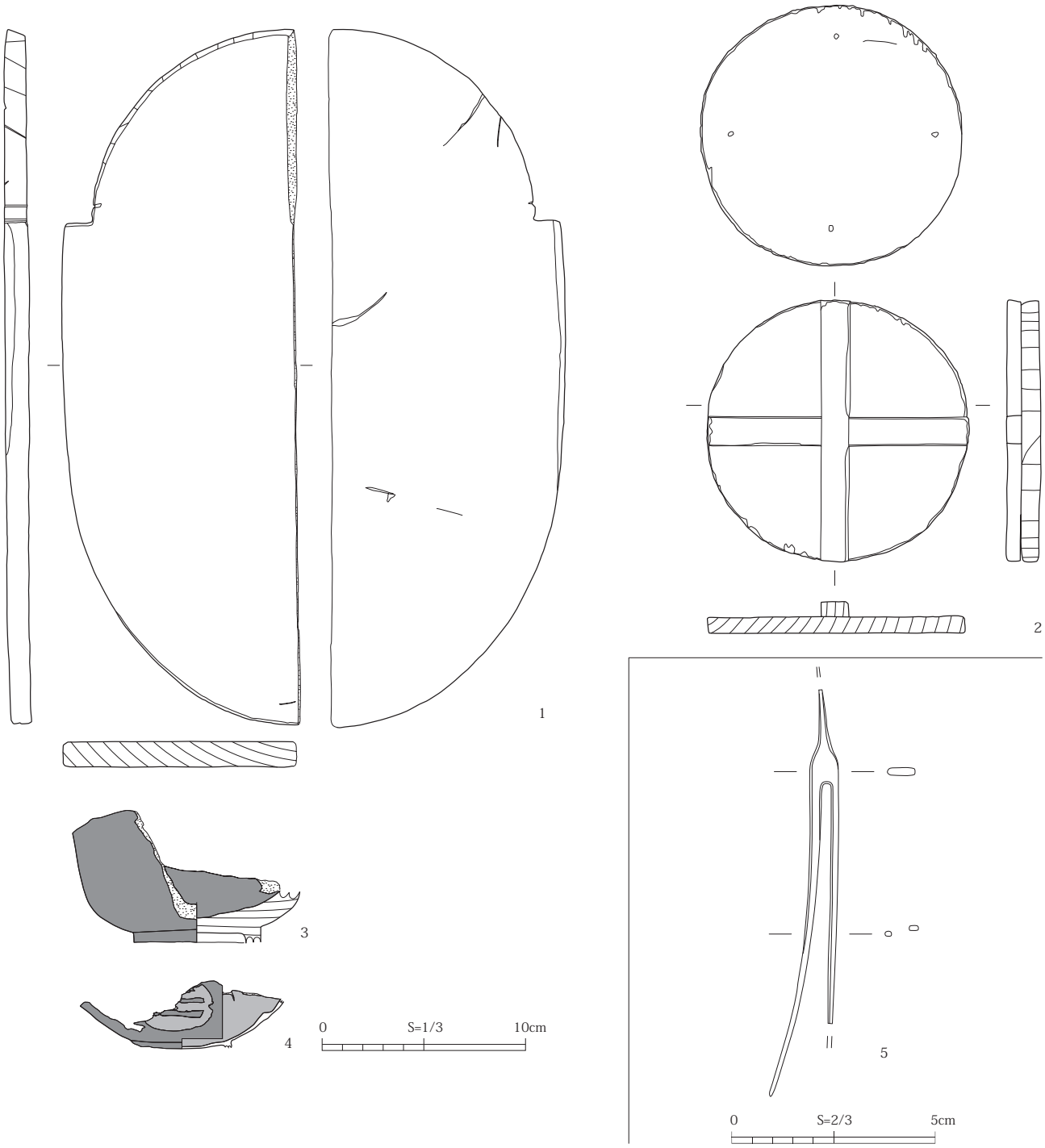


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	灰黄褐色粘土質シルト　にぶい黄橙色粘土質シルト　炭化物少量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 8cm 以下の礫



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	80-7	1 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(10.4)	4.0	5.9	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：白濁釉・鉄釉掛け分け	I-77
2	80-5	1 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(9.3)	3.8	5.7	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	灰釉	I-69
3	80-4	1 層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	8.9	4.0	5.8	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	灰釉	I-62
4	80-10	1 層	陶器	向付	底部	やや粗	-	-	2.8	瀬戸・美濃	17 世紀前半～後半	織部釉	I-74
5	80-9	1 層	陶器	仏花器	体部～底部	やや粗	-	5.1	(10.2)	小野相馬	18 世紀後半	内面：灰釉　貫入　外面：鉄釉　口縁～頸部灰釉流し掛け？　一部貫入　胴部中程までヘラケズリ　ロクロ：右	I-63
6	80-6	1 層	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	7.5	3.3	4.4	小野相馬	18 世紀後半	内面：灰釉　貫入　外面：灰釉　貫入　口唇部鉄釉　ロクロ：左	I-64
7	80-8	1 層	磁器	碗	口縁～底部	密	(8.6)	(3.3)	4.9	肥前	17 世紀末～18 世紀前半	外面：雨降文　圏線	I-70
8	81-2	1 層	磁器	皿	口縁～底部	密	12.3	5.8	2.9	肥前	18 世紀前半～中頃	内面：網目文　コンニャク五弁花　見込み：蛇ノ目釉剥ぎ	J-57
9	81-1	1 層	磁器	輪花皿	口縁～底部	密	10.1	5.1	2.1	肥前	17 世紀後半～18 世紀前半	外面：草文　内面：コンニャク印判	J-56

第 146 図　SK84 土坑平面図・断面図・出土遺物（1）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				長さ（口径）	幅（底径）	厚さ（器高）			
1	81-7	1 層	木製品	34.0	(11.8)	(1.4)	スギ	曲げ物底板	L-237
2	81-4	1 層	木製品	13.0	13.0	1.8	スギ	蒸篭？	L-235
3	81-6	1 層	木製品	(12.3)	(6.3)	(6.5)	ブナ属	漆器椀	L-214
4	81-5	1 層	木製品	(10.1)	(4.9)	(3.4)	ブナ属	漆器椀　外：三ツ引両文	L-213

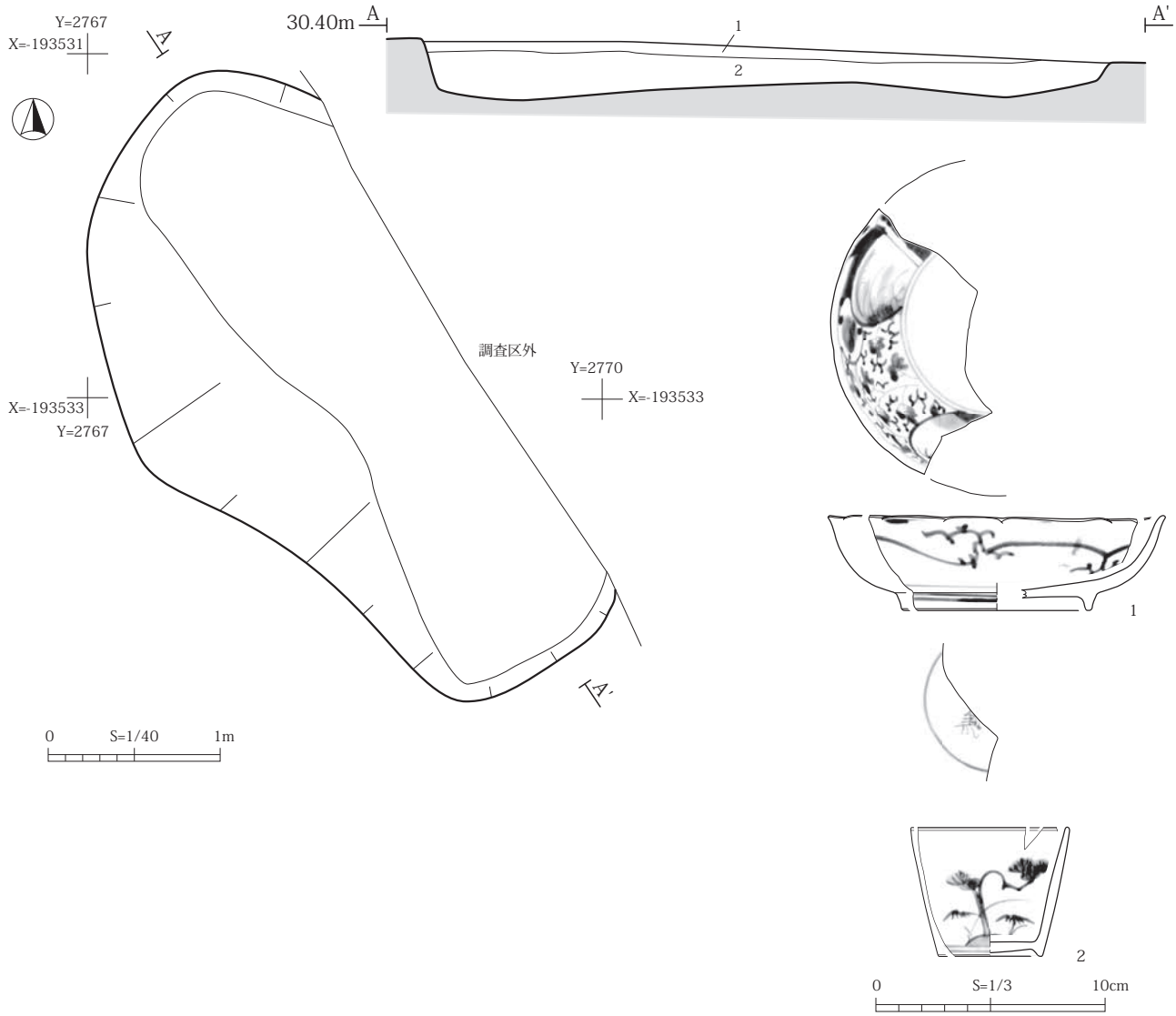
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				口径	底径	器高		
5	81-3	1 層	金属製品	10.0	1.7	1.2	簪（銅製）	N-330

第 147 図　SK84 土坑出土遺物（２）

16）SX1 性格不明遺構　（第 148 ～ 150 図、図版 34-8、35-1）

S14-E47 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 404cm、短軸 193cm、深さ 19 ～ 32cm を測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに隆起し、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は砂質シルトで上層の整地による堆積土と思われる。2 層はシルト質砂で、木片を多量に含んでいる。木片は多量のカンナ屑などからなり、木製品加工に伴う廃棄物と思われる。

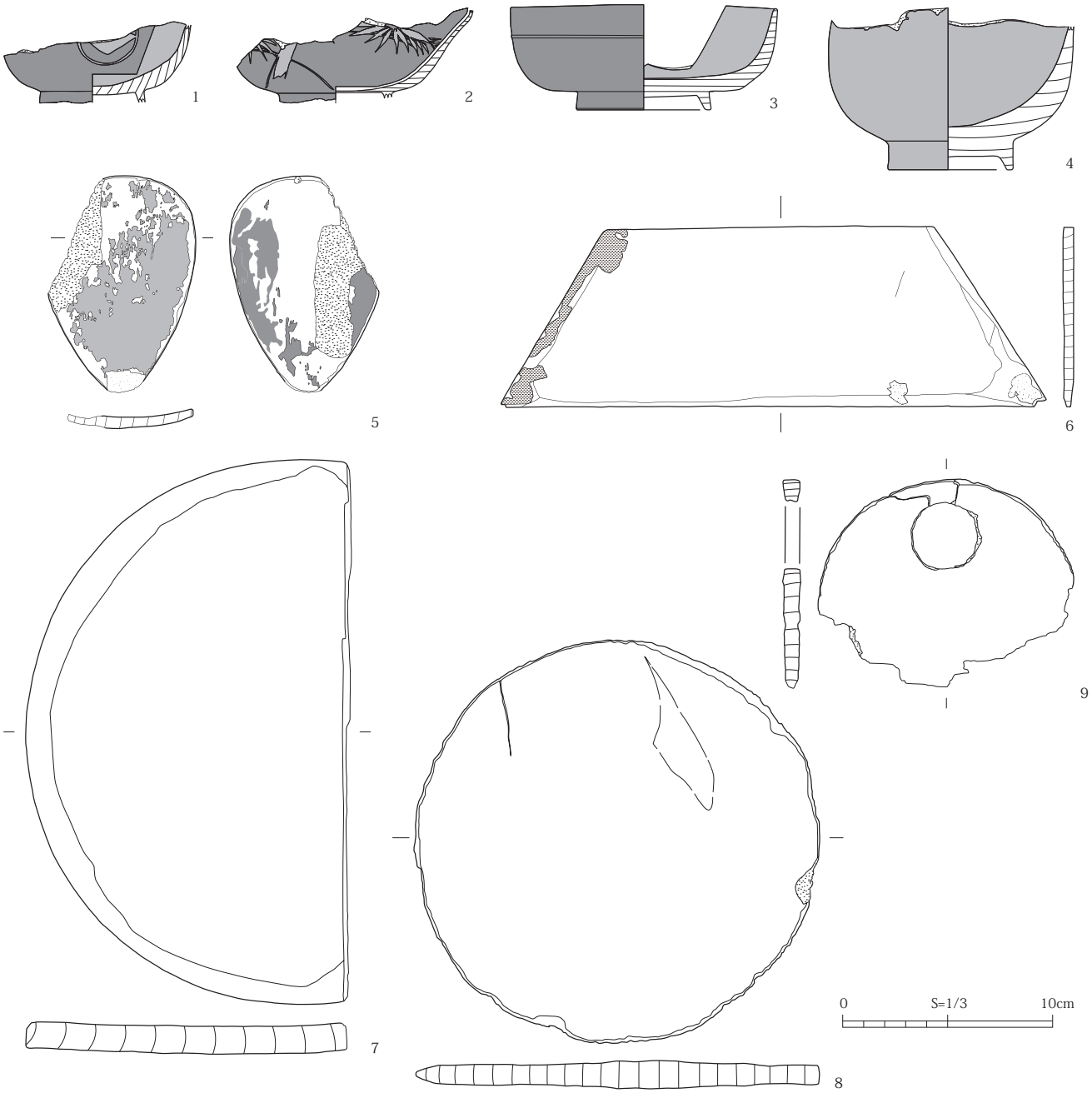
遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品、土製品、木製品が出土している。そのうち、磁器 2 点、金属製品（兜頭）、漆器椀 4 点、杓文字 1 点、箱物の側板 1 点、曲げ物の底板 2 点、穿孔木製円盤 1 点、木簡 3 点を図示した。



層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂粒多量　径 5cm以下の礫少量
2	7.5YR3/2	黒褐色	シルト質砂	なし	なし	酸化鉄層状に多量　木片多量

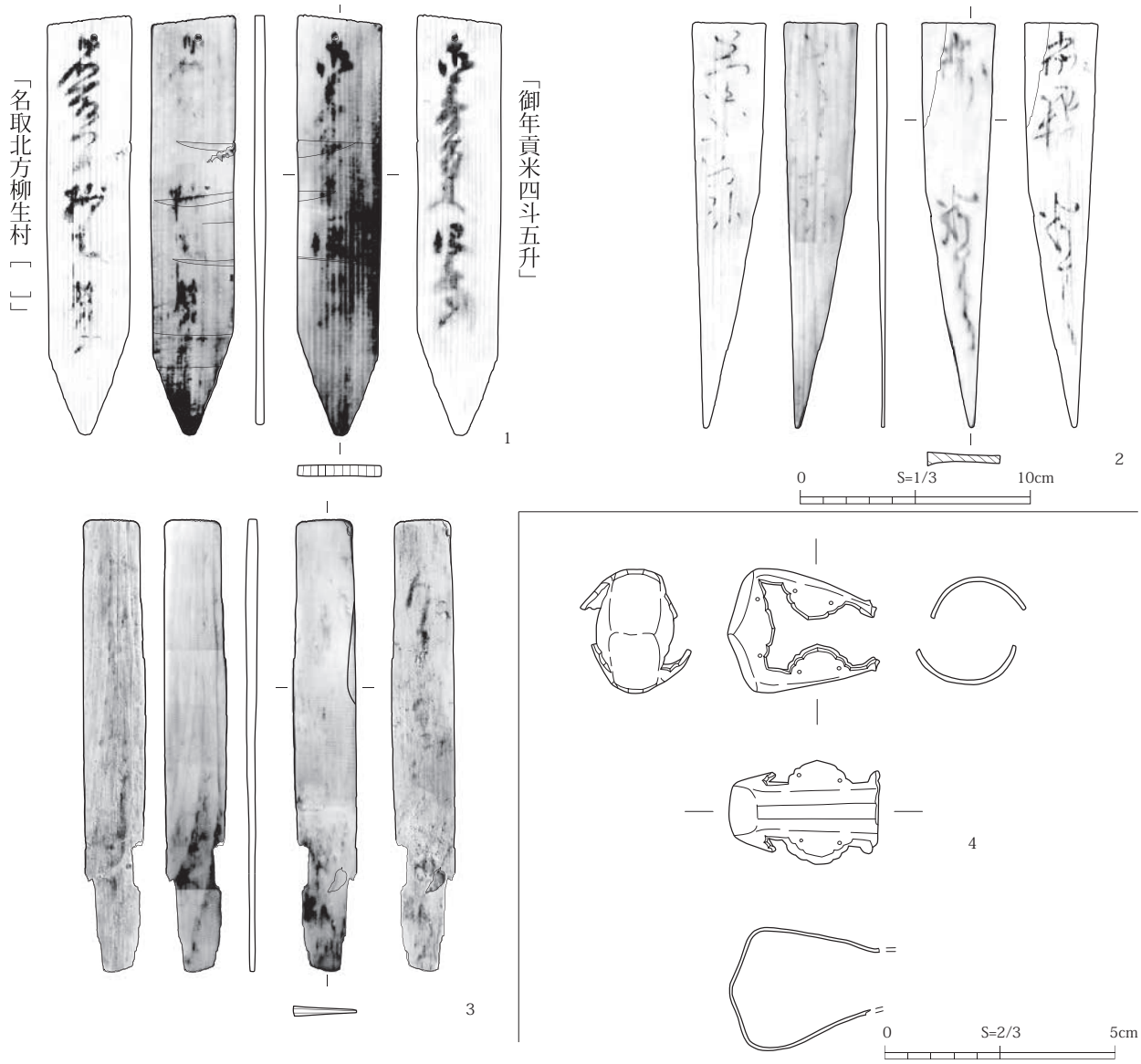
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	82-1	2 層	磁器	皿	口縁～底部	密	(14.7)	(8.2)	4.2	肥前	18 世紀後半	外面：唐草文　内面：圏線　花唐草文　高台内：圏線　銘あり	J-320
2	81-8	2 層	磁器	猪口	口縁～底部	密	(6.9)	(4.5)	5.7	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：樹木文	J-314

第 148 図　SX1 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物（1）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			樹種	備考	登録番号
				長さ（口径）	幅（底径）	厚さ（器高）			
1	81-10	２層	木製品	(9.4)	(5.1)	(3.9)	ブナ属	漆器椀	L-106
2	82-3	２層	木製品	(13.2)	(5.4)	(4.6)	ブナ属	漆器椀	L-103
3	81-9	２層	木製品	(12.7)	6.4	(5.0)	ブナ属	漆器鉢？	L-104
4	82-2	２層	木製品	(11.5)	5.9	(7.7)	ブナ属	漆器椀	L-105
5	82-9	２層	木製品	10.3	7.0	1.0	ブナ属	しゃもじ	L-113
6	83-1	２層	木製品	26.0	8.7	0.6	スギ	箱？	L-129
7	83-7	２層	木製品	26.0	(15.6)	(1.6)	スギ	曲げ物底板	L-118
8	83-5	２層	木製品	19.3	19.3	1.4	スギ	曲げ物底板	L-119
9	83-6	２層	木製品	(9.9)	(12.4)	0.9	針葉樹	曲げ物底板	L-120

第 149 図　SX1 性格不明遺構出土遺物（２）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	82-10	2 層	木製品	18.3	3.4	0.5	木簡　樹種：スギ　墨書有り「御年貢米四斗五升」「名取北方柳生村□」	L-126
2	82-4	2 層	木製品	17.7	3.3	0.5	木簡　樹種：スギ　墨書有り判読不能	L-127
3	83-2	2 層	木製品	19.7	2.7	0.6	木簡　樹種：スギ　墨書有り判読不能	L-128
4	82-8	2 層	金属製品	3.3	2.7	2.3	兜頭（銅製）	N-256

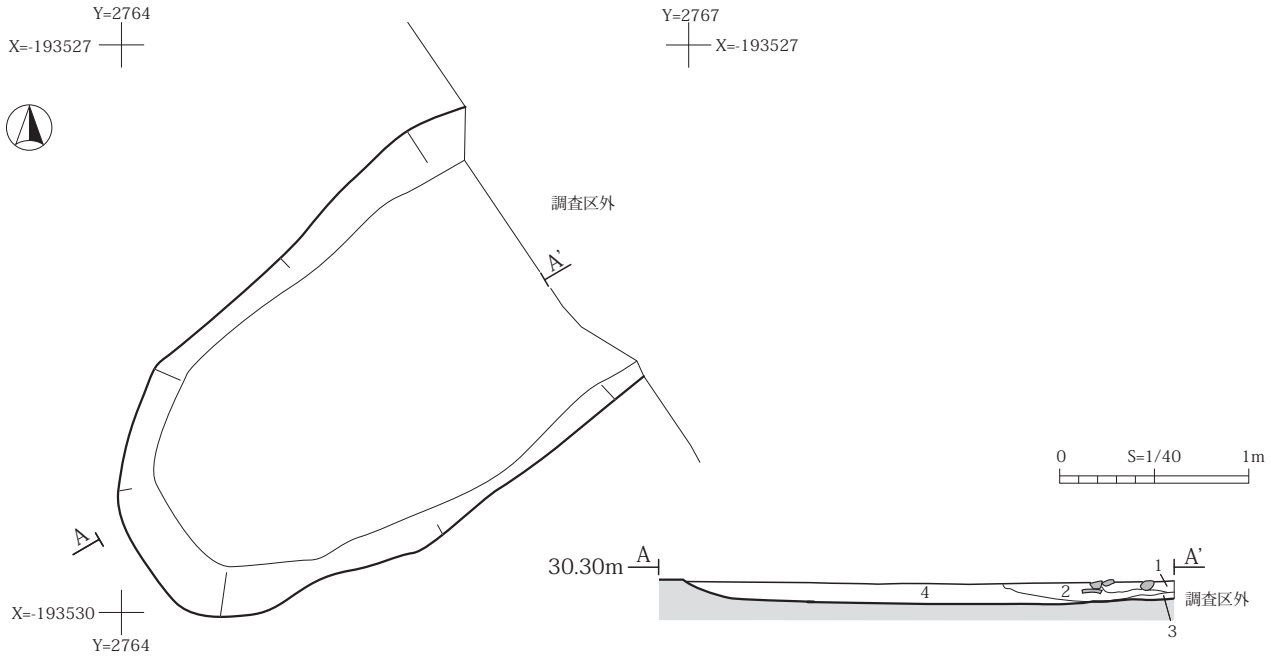
第 150 図　SX1 性格不明遺構出土遺物（3）

17）SX2 性格不明遺構　（第 151 図、図版 35-2 ～ 35-3）

S14-E47 グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 282cm、短軸 181cm、深さ 10cm を測る。平面形は不整長円形を呈し、底面は平坦で、断面形は広い皿状を呈す。堆積土は 4 層の砂質シルトからなる。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

18）SX25 石組遺構　（第 152 ～ 155 図、図版 35-4 ～ 35-5）

S11・12-E45 グリッドに位置する、石組方形土坑である。北東側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 240c m、短軸 224cm、深さ 38cm を測る。石組は、径 5 ～ 10cm の小礫もしくは幅 13 ～ 18cm、奥行き 25 ～

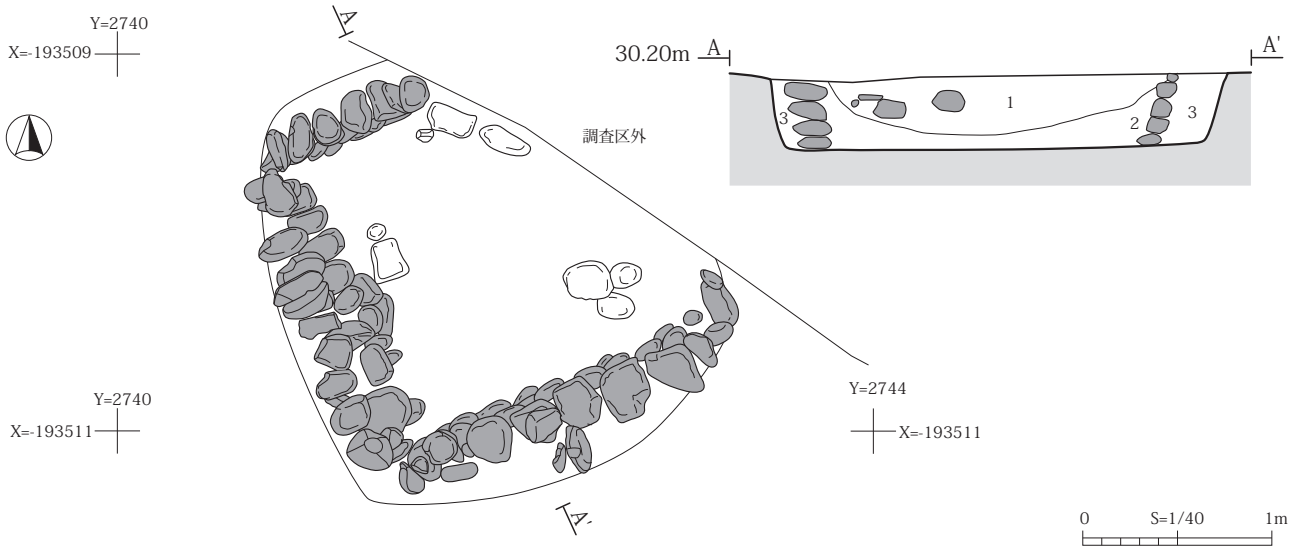


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5cm以下の礫やや多量　径 10cmの礫少量
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5cm以下の礫・径 10cmの礫少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 3cmの礫やや多量　径 10cmの礫少量　炭化物やや多量
4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10cmの礫少量

第 151 図　SX2 性格不明遺構平面図・断面図

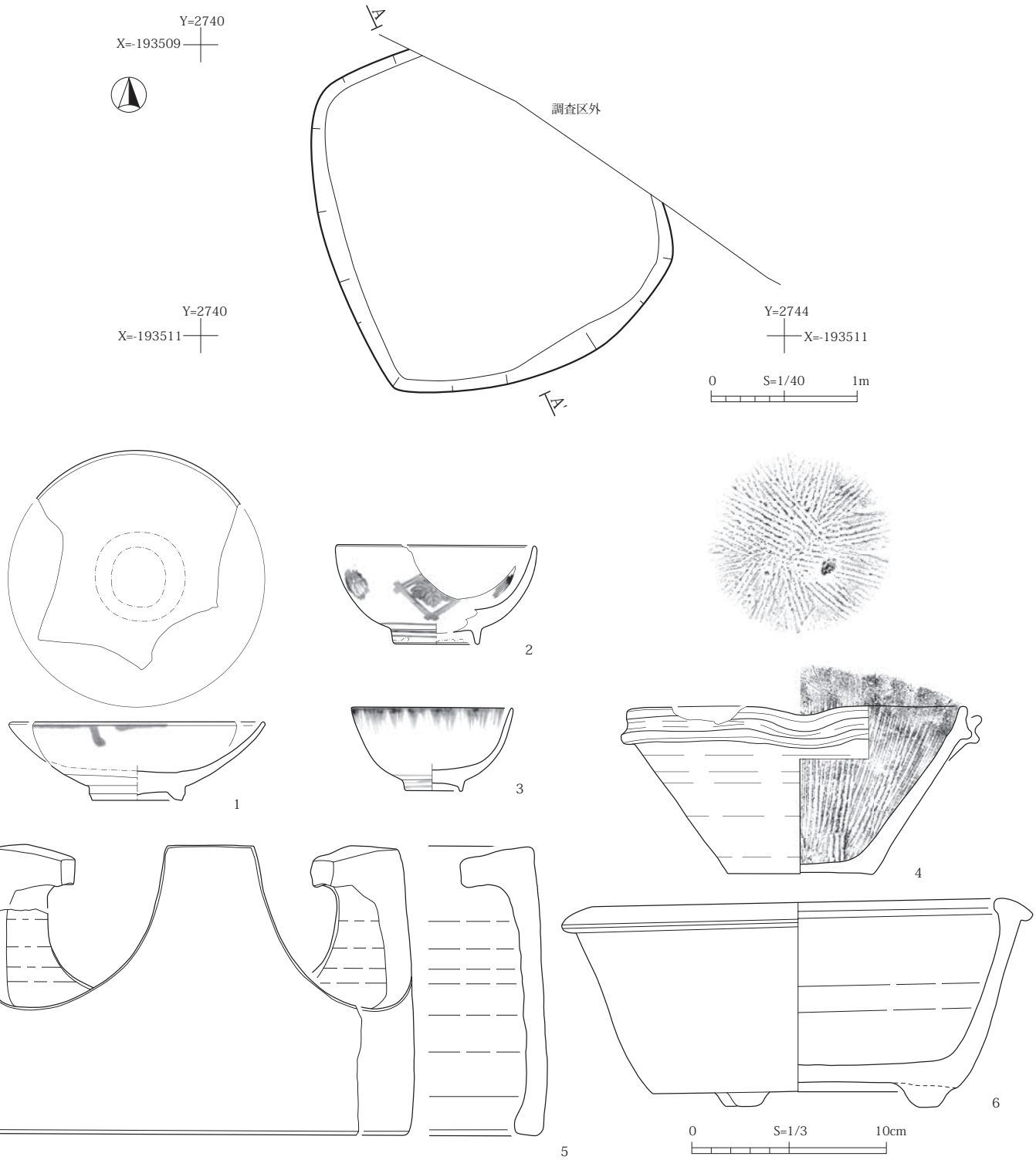
30cm、厚さ６～９cm の縦長の自然礫を４～５段積み上げている。石組の内幅 196cm、外幅 230cm、傾斜角 72～81°を測る。平面形は不整方形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。１～２層は褐灰色および灰黄褐色シルトからなる石組内の堆積土で、３層は褐灰色シルトからなる掘り方埋土である。

遺物は１～２層より瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品、石製品、古銭が出土している。そのうち、陶器２点、磁器２点、瓦質土器２点、瓦１点、金属製品１点、古銭 10 点を図示した。



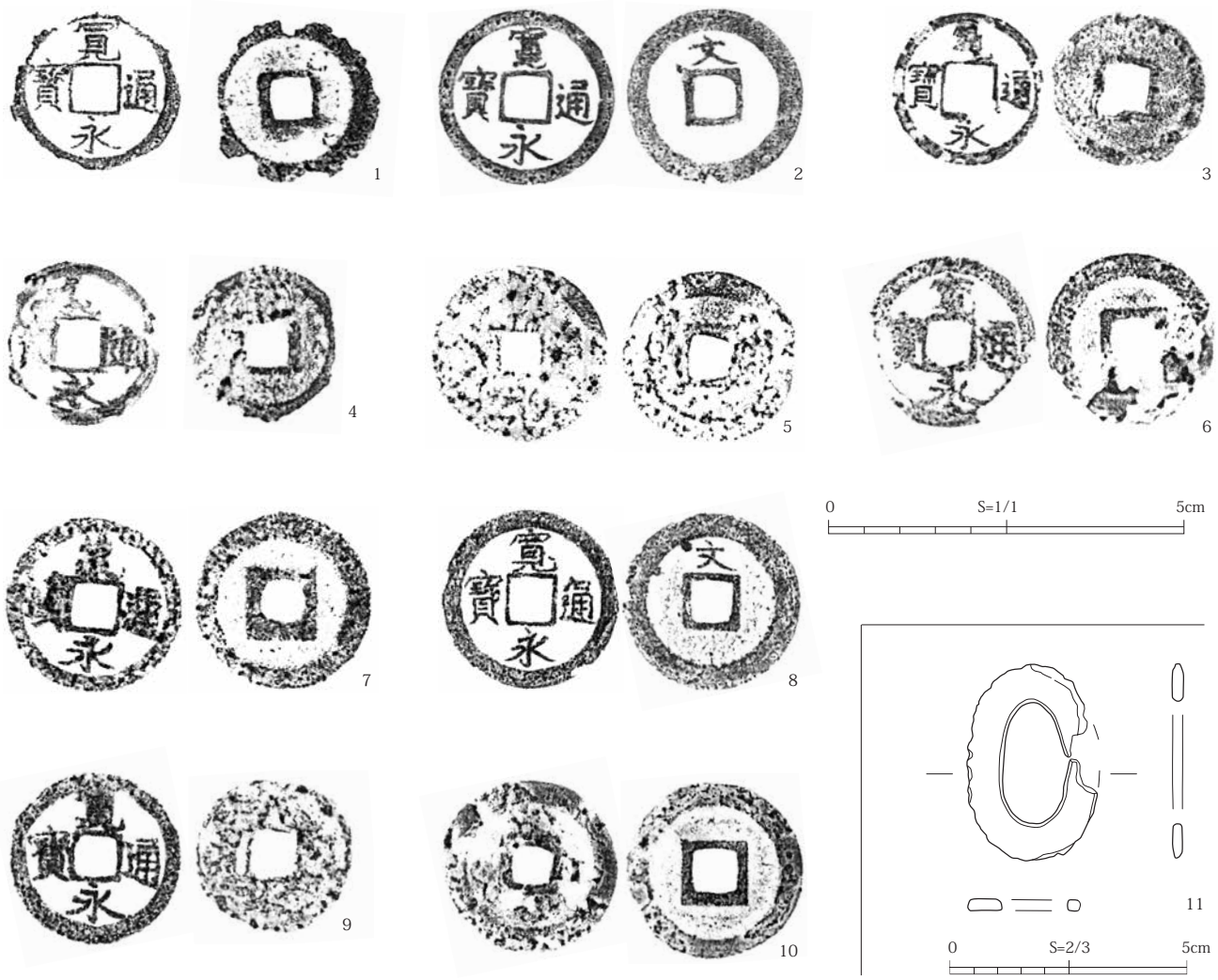
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 15cm以下の礫少量　径 3cm以下の灰白色土粒少量
2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	あり	径 5cm以下の褐灰色シルト微量　酸化鉄少量　一部明緑灰色にグライ化
3	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 5cm以下の褐灰色シルト少量　酸化鉄微量

第 152 図　SX25 石組遺構平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	83-5	1 層	陶器	皿	口縁～底部	やや粗	(13.2)	4.6	(4.1)	嬉野	17 世紀後半	緑釉　見込み：蛇ノ目釉剥ぎ	I-233
2	83-3	2 層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.2	4.4	5.2	肥前	18 世紀前半～中	外面：井桁　コンニャク印判桐文　圏線　二重圏線	J-123
3	83-4	1 層	磁器	碗	口縁～底部	密	8.5	3.1	4.3	肥前	17 世紀末～18 世紀前半	外面：雨降文　圏線　二重圏線	J-125
4	83-6	2 層	陶器	擂鉢	口縁～底部	粗	18.4	7.5	8.6	在地	19 世紀前半		I-238
5	83-9	1 層	瓦質土器	焜炉	口縁～底部	粗	20.8	21	14.9	在地	近世	内面：底部ヨコナデ　外面：一部ヨコナデによる調整　ロクロ：右回転	I-237
6	83-8	1 層	瓦質土器	火鉢	口縁～底部	粗	21.4	15.5	10.7	在地	近世	三足	I-239

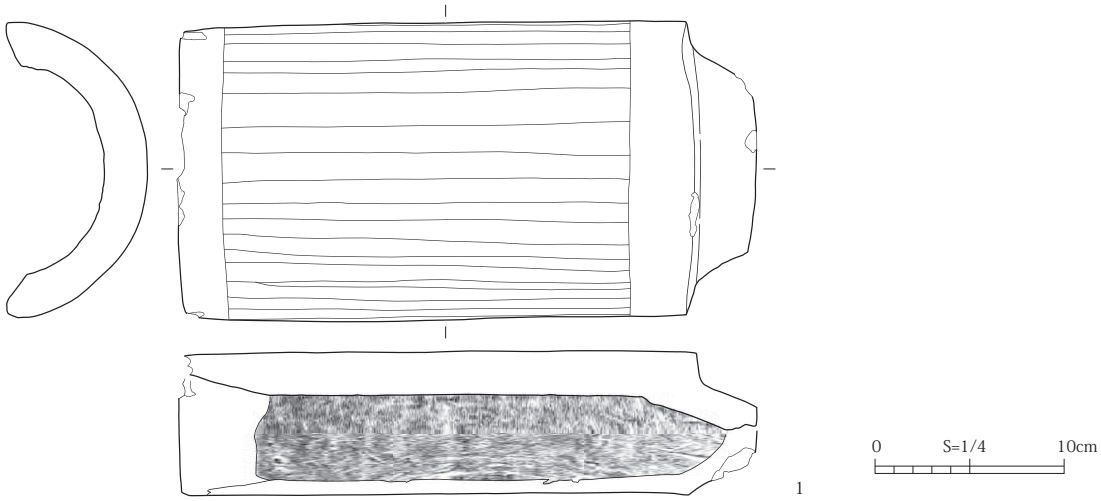
第 153 図　SX25 石組遺構掘り方平面図・出土遺物（1）



図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
1	84-1	２層	寛永通宝	1668	2.3	0.6	2.68	新寛永	N-442
2	84-2	２層	寛永通宝	1668	2.4	0.6	2.89	新寛永	N-443
3	84-3	２層	寛永通宝	1668	2.1	0.7	1.41	新寛永	N-444
4	84-4	２層	寛永通宝	1668	(2.0)	0.6	1.68	新寛永	N-445
5	84-5	２層	寛永通宝	1668	2.3	0.6	3.01	新寛永	N-446
6	84-6	２層	寛永通宝	1668	2.3	0.5	2.95	新寛永	N-447
7	84-7	２層	寛永通宝	1668	2.4	0.6	4.17	新寛永	N-448
8	84-8	２層	寛永通宝	1668	2.5	0.6	3.55	新寛永	N-449
9	84-10	２層	寛永通宝	1668	2.4	0.5	27.74	新寛永　８枚？癒着	N-451
10	84-9	２層	寛永通宝	1668	2.4	0.5	7.93	新寛永　２枚癒着	N-450

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
11	84-11	２層	金属製品	4.2	2.8	0.3		N-324

第 154 図　SX25 石組遺構出土遺物（２）

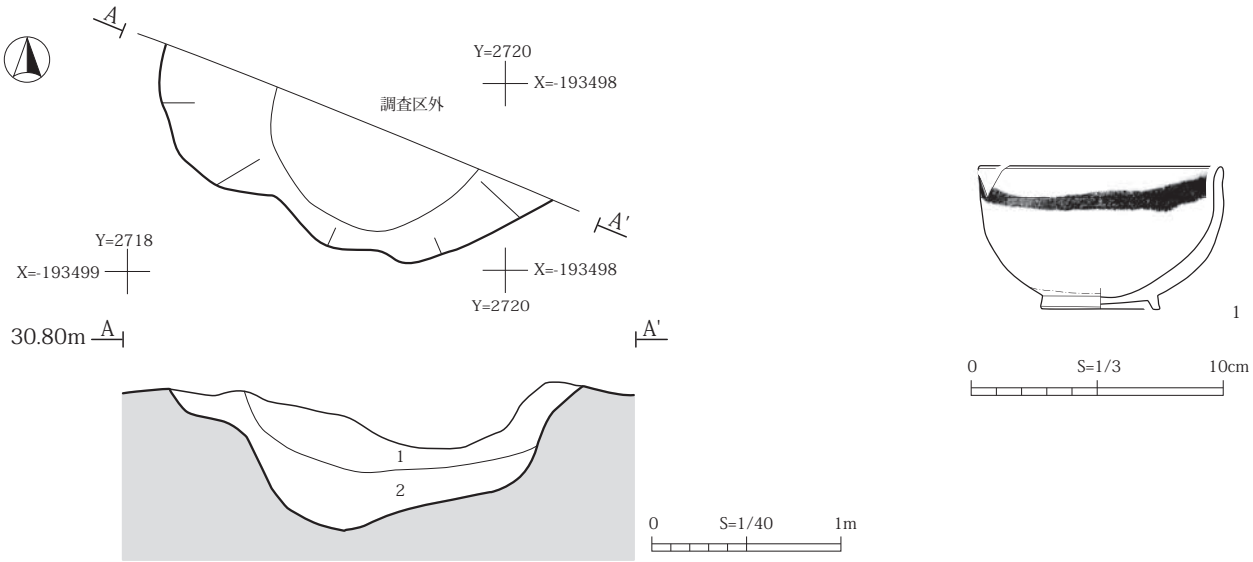


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	83-7	2 層	丸瓦	29.2	15.5	7.3	頭幅 14.9　尻幅 15.5　玉縁先幅（8.2）　玉縁先長さ 2.9　内面：コビキ B　布目圧痕	F-26

第 155 図　SX25 石組遺構出土遺物（3）

19）SX29 性格不明遺構　（第 156 図、図版 35-6）

S11-E42 グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 216cm、短軸 71cm、深さ 85cm を測る。平面形は不整形で、底面は起伏があり、断面形は U 字形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は砂質シルト、2 層は砂である。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片が出土している。そのうち、陶器 1 点を図示した。



層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂	なし	なし	径 15cm以下の礫やや多量　径 5cm以下の礫多量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	84-12	1 層	陶器	碗	口縁～底部	密	9.8	4.7	5.7	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀	外面：白濁釉・飴釉流し掛け	I-812

第 156 図　SX29 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

20）SX32 性格不明遺構　（第 157 図、図版 35-7）

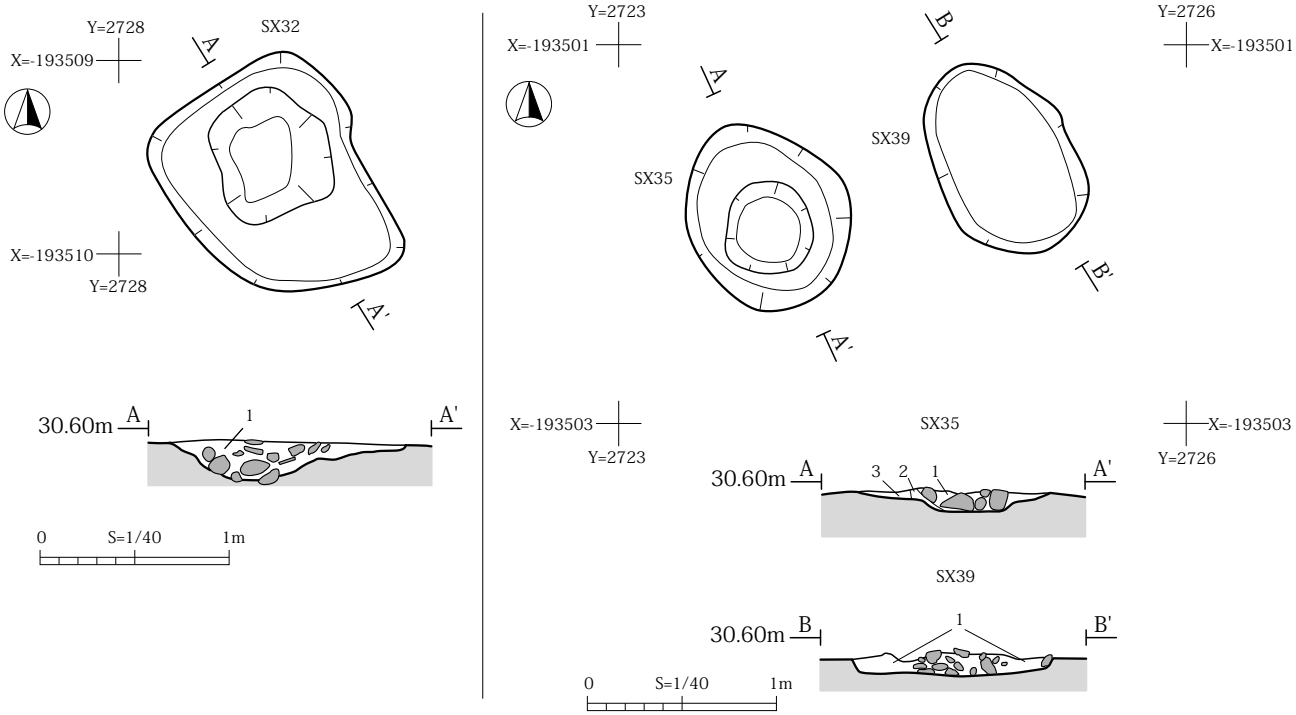
S11・12-E43 グリッドに位置する。確認された規模は、長軸 133cm、短軸 105cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整楕円形で､底面は中央北側で一段落ち込む。断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層で、底面付近に礫を多量に含む。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

21）SX35 性格不明遺構　（第 157 図、図版 35-8）

S11-E43 グリッドに位置する。確認された規模は、長軸 104cm、短軸 85cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整楕円で、底面は中央で一段下がり、断面形は皿状を呈す。堆積土は３層で、１層から２層は砂質シルト、３層は粘土質シルトで礫を多量に含む。遺物は陶器片、瓦質土器片、金属製品が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

22）SX39 性格不明遺構　（第 157 図、図版 36-1）

S11-E43 グリッドに位置する。確認された規模は、長軸 107cm、短軸 70cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層で礫を多量に含む。遺物は、磁器片、金属製品が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SK20　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄多量　径 10cm 以下の礫多量

SK21　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	砂少量
2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	径 2cm以下の礫少量　下部に径 10cm以下の礫多量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	酸化鉄・砂多量

SK22　土層注記表

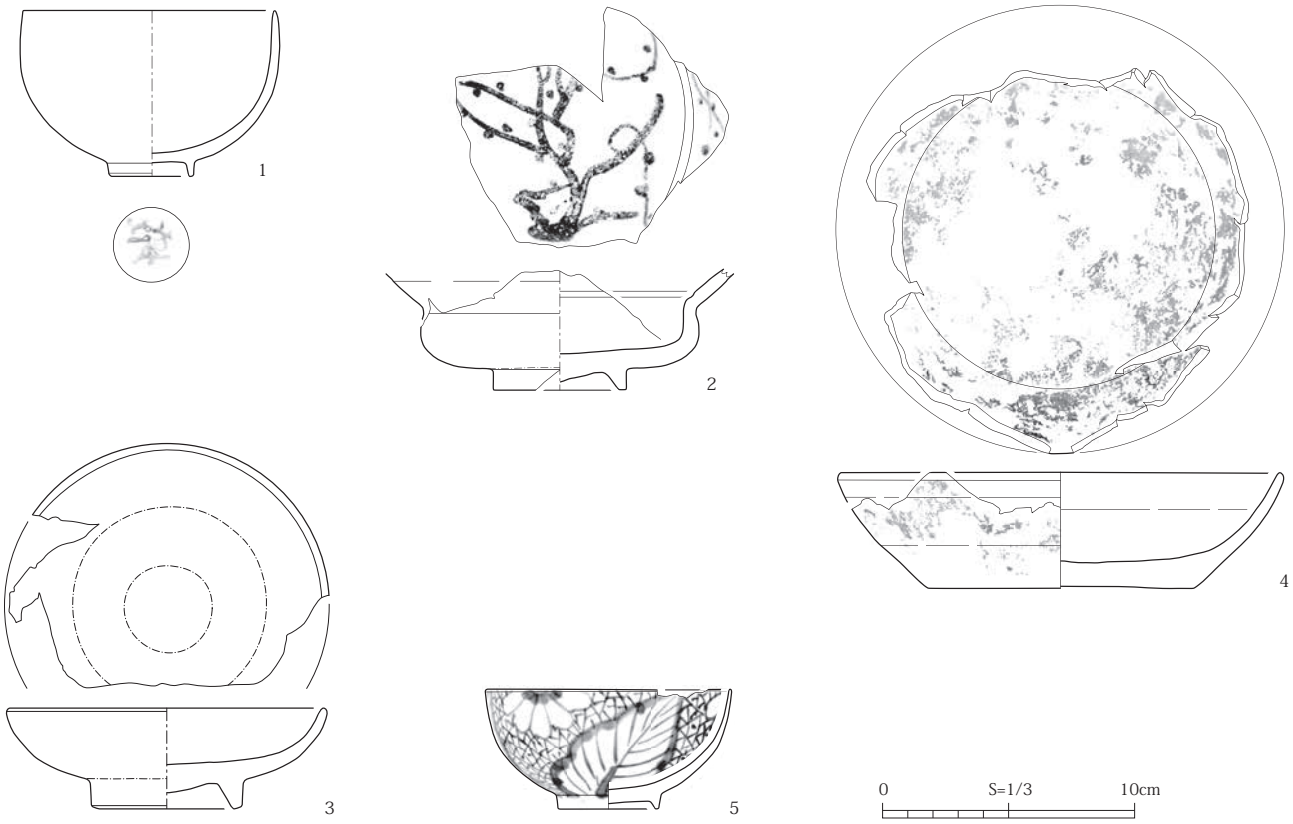
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄多量

第 157 図　SX32・SX35・SX39 性格不明遺構平面図・断面図

23）遺構外出土遺物（第 158 図～ 160 図）

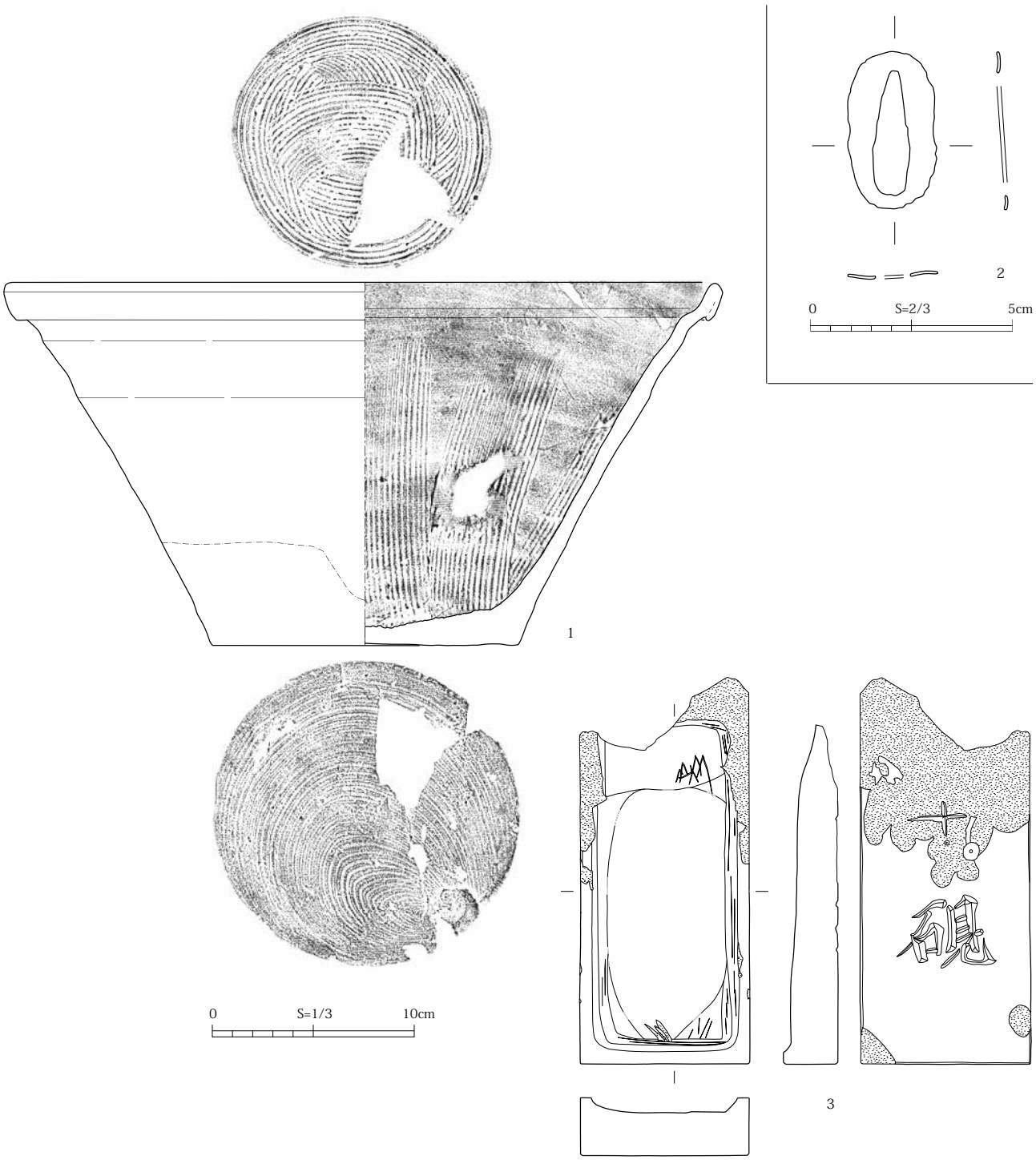
Ⅲ b 層の出土遺物点数は瓦 506 点、陶器 969 点、土師質土器 281 点、瓦質土器 37 点、磁器 791 点、石製品 10 点、木製品 20 点、金属製品 45 点、古銭 13 点、土製品 21 点、ガラス製品 1 点、その他 71 点、合計 2765 点で、18 世紀後半以降のものが中心に出土している。

陶器を産地別にみると、志野 1 点、織部 1 点、唐津 4 点、岸 1 点、嬉野 1 点、京・信楽系 1 点、肥前陶器 2 点、瀬戸美濃 8 点、小野相馬 1 点、大堀相馬 9 点、堤 3 点、その他在地 6 点となる。また、磁器を産地別にみると、景徳鎮 2 点、漳州窯 1 点、肥前 222 点、瀬戸美濃 4 点、切込 1 点である。このうち、陶器 4 点、磁器 1 点、土師質土器 1 点、金属製品 1 点、石製品 1 点、木製品 3 点、瓦 1 点を図示した。土師質土器は金箔が残存した状態で出土しているものが 1 点確認された。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	84-13	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	密	(10.0)	3.1	(6.6)	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀前半	灰釉　焼継痕あり　高台内：焼継銘あり	I-601
2	84-15	S12-E45	陶器	皿	体部～底部	密	(13.9)	(5.2)	(4.8)	唐津	17 世紀	鉄絵樹木文	I-602
3	84-14	S11-E42	陶器	皿	口縁～底部	密	(12.7)	5.4	4.0	小野相馬	18 世紀後半	見込み：蛇ノ目釉剥ぎ	I-608
4	84-16	S12-E45	土師質土器	皿	体部～底部	粗	(8.8)	10.6	4.6	在地	18 世紀後半～19 世紀前半	内外面金箔残存	I-607
5	85-1	S12-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	5.0	4.0	4.8	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：氷裂文　葉花文	J-365

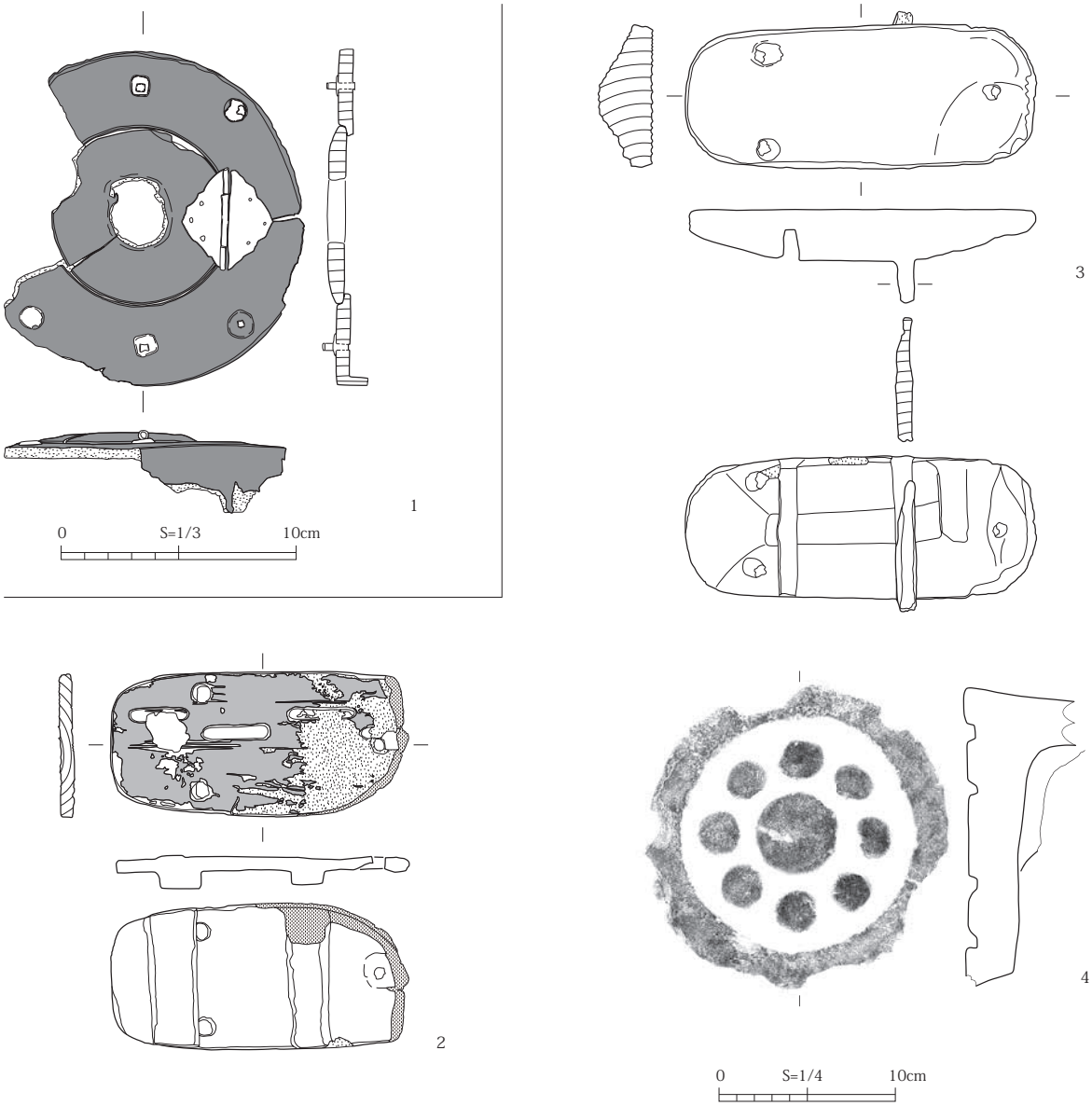
第 158 図　Ⅲ b 層出土遺物（1）



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	85-3	S12-E44	陶器	擂鉢	口縁～底部	密	35.5	15.0	17.9	在地	19 世紀		I-589

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
2	85-5	S11-E43	金属製品	3.9	2.2	0.5	切羽（銅製）	N-320
3	85-2	S13-E46	石製品	19.1	8.4	2.9	硯　背面に「十硯」刻字あり	K-17

第 159 図　Ⅲ b 層出土遺物（２）

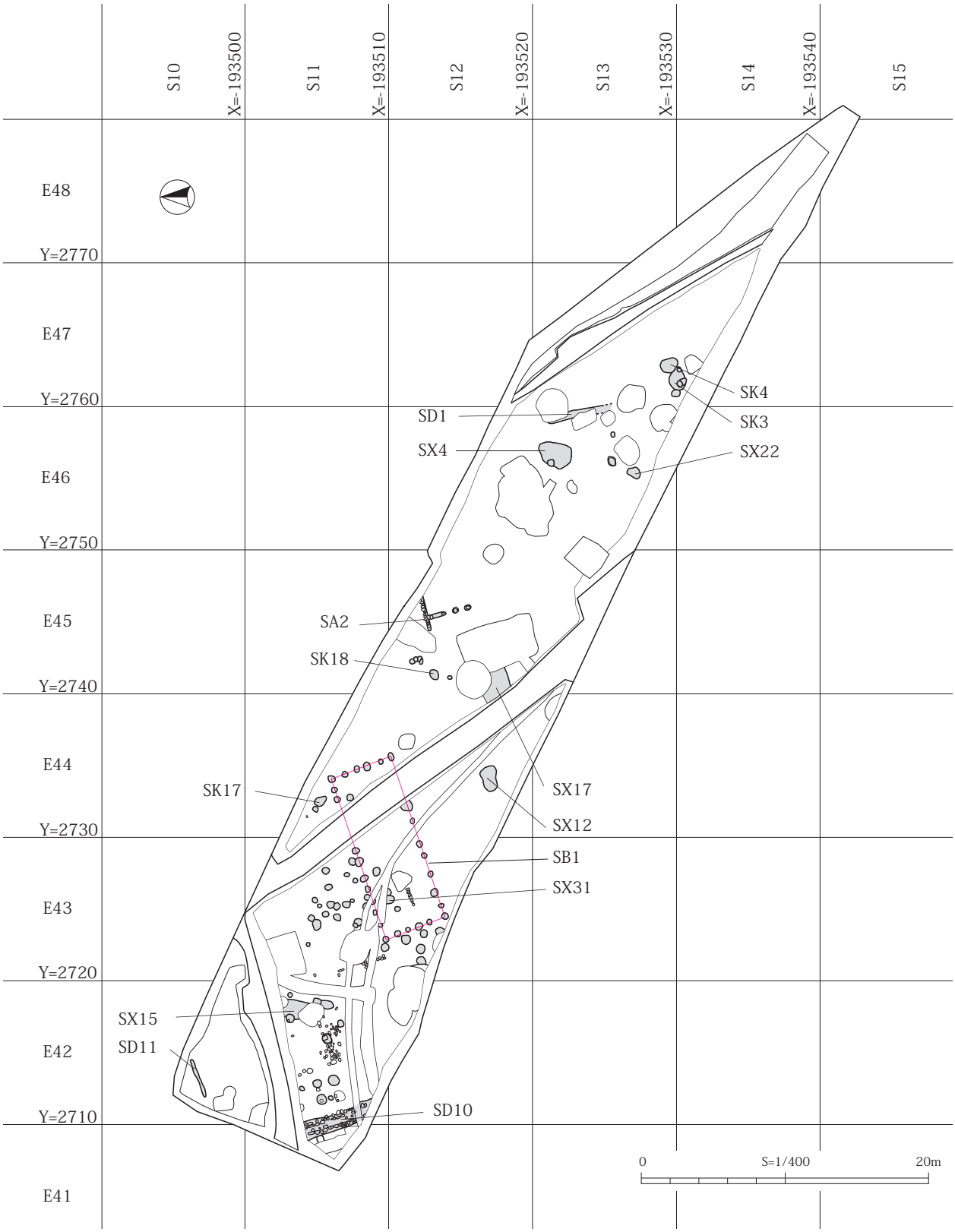


図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量（cm）			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	85-6	S12-E45	木製品	(3.5)	(12.0)	-	調度品？　樹種：ブナ属　金具残存	L-10
2	85-8	S12-E45	木製品	16.9	8.3	16.7	連歯下駄　樹種：針葉樹	L-8
3	85-7	S11-E42	木製品	20.0	8.2	19.7	陰卯下駄　樹種：針葉樹	L-7
4	85-4	S12-E45	軒丸瓦	6.8	17.1	3.0	瓦当径 17.4　文様区径 12.7　瓦当厚 2.4　周縁高 0.5　周縁幅 2.3	F-66

第 160 図　Ⅲ b 層出土遺物（3）

６　Ⅲａ層上面検出遺構

Ⅲａ層上面で検出された遺構は、柱列跡１列、溝跡３条、建物跡１棟、土坑４基、性格不明遺構６基、合計 15 基である。SB １は長屋風建物の基礎部分と推定され、下層遺構の SD ７を埋め立てた上に構築されている。また、調査区中央部で検出された石列 SA ２も、建物基礎の可能性がある。調査区西橋では、石組溝 SD10 が検出された。

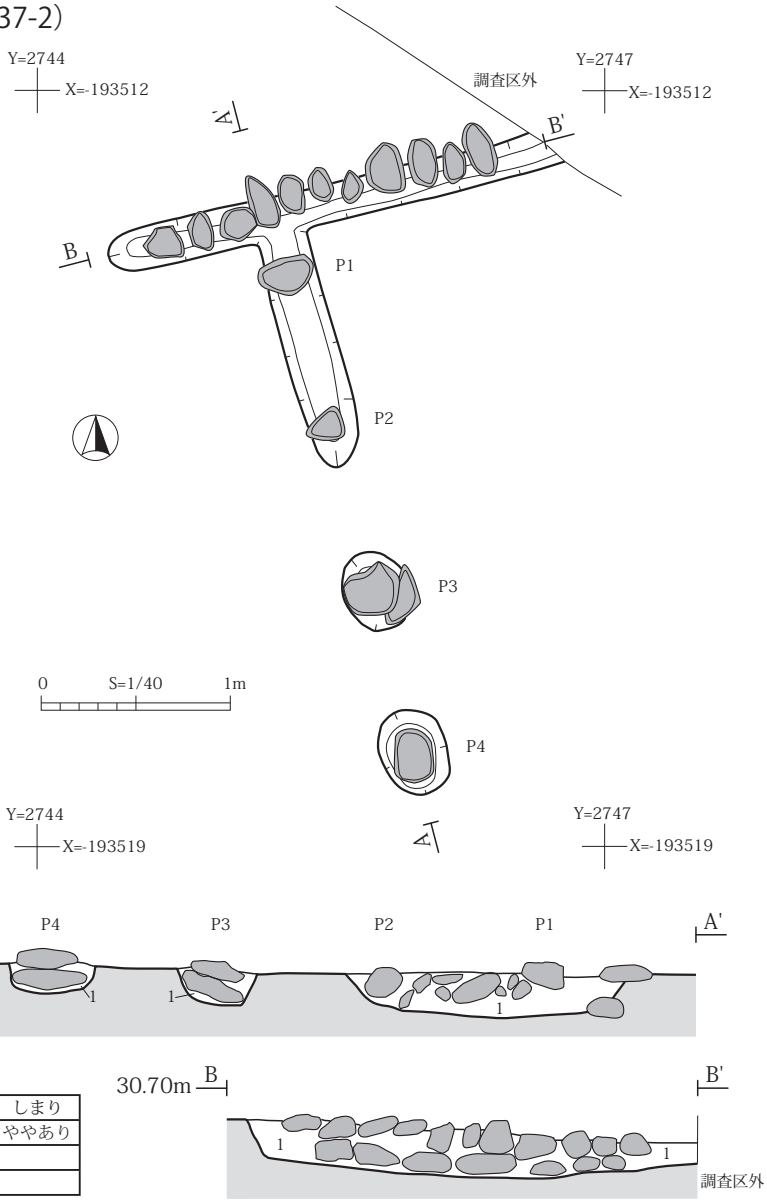


第 161 図　Ⅲａ層上面検出遺構

1）SA2 柱列跡　（第 162 図、図版 37-1 ～ 37-2）

S12-E45 グリッドに位置する。東西方向および南北方向に延びる石列跡である。東側は調査区外に延びる。東西方向と、南北方向の石列北半は、布掘り状の掘り方をともない、南半は２基の柱穴からなる。東西方向の掘り方規模は、長さ 238cm、上端幅 24cm、下端幅 5 ～ 10cm、深さ 23cm を測り、主軸方位は N-77° -E を示す。南北方向の掘り方規模は、長さ 1.46m、上端幅、下端幅、深さ 23cm を測り、主軸方位は N-13° -W を示す。２基の柱穴は、長軸 42 ～ 46cm、短軸 32 ～ 34cm、深さ 16 ～ 20cm を測り、平面形は楕円形を呈す。

東西方向の石列は、15 ～ 25cm 程度の自然礫を２段に積み上げている。南北方向の石列の柱間間隔は、Ｐ１～Ｐ２間 83cm（２尺７寸）、Ｐ２～Ｐ３間 90cm（２尺９寸）、Ｐ３～Ｐ４間 91cm（３尺）を測る。P1 ～ P2 は、基礎となる礫の周辺に、裏込の石を充填している。Ｐ３およびＰ４は、礫を２段に組んで築いている。堆積土は黄灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり
1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり
備　考					
径 5cm以下の灰色　暗褐色土粒やや多量					

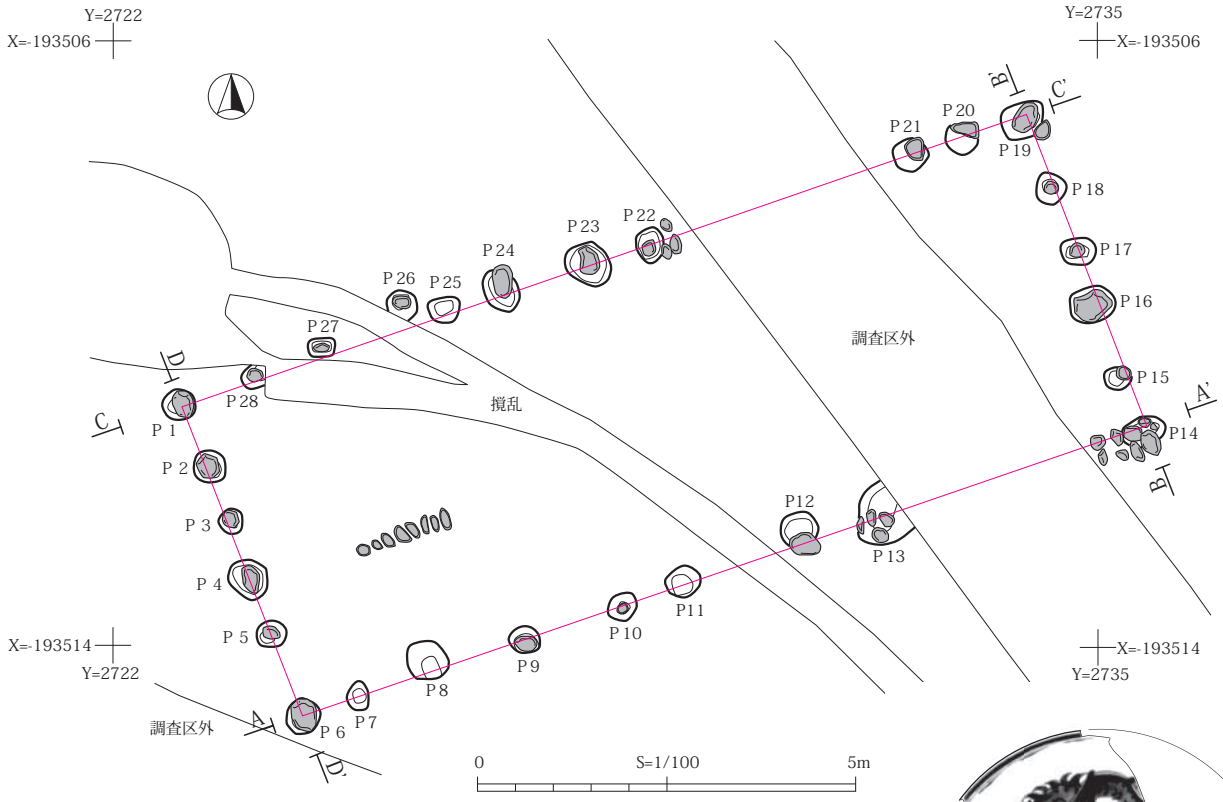
第 162 図　SA2 平面図・断面図

2）SB1 建物跡　（第 163 図、図版 36-4）

S11･12-E43・44 グリッドに位置する 11 間× 5 間の建物跡である。確認された規模は、桁行 11 間（11.83m）、梁行 5 間 (4.62 m) を測り、柱間の寸法はＰ１～ P6 からなる西列が 72cm ～ 90cm（平均 81cm）、Ｐ６～ P14 からなる南列が 81cm ～ 1.7m（平均 1.16m）、P14 ～ P19 からなる東列が 78cm ～ 1.02m（平均 90cm）、P19 ～ Ｐ１からなる北列が 71cm ～ 1.12m（平均 99cm）である。柱穴掘り方の規模は、長軸が 38 ～ 64cm、短軸 28 ～ 48、深さ 16 ～ 30cm を測る。主軸方位は N-72° -E を示す。

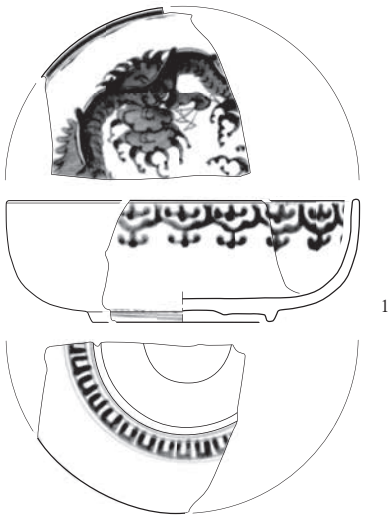
柱間寸法にはばらつきがあり、根石上に直接柱を建てたとは考えにくく、基礎の横木を支えるためのものだった可能性が高い。Ｐ７、Ｐ８、P11、P25 において根石は確認されなかった。また、P14 は根石が柱穴から南側に動いている。P14 の根石は複数の礫を敷並べている。P25、P26 は軸方向に整合しておらず、前述の通り、横木基礎として使われた可能性を示唆する。P4 と P17 を結ぶ桁方向には、長さ 1.3m の石列が確認され、建物の基礎を構成する一部と思われる。堆積土はオリーブ褐色シルトないし灰黄褐色シルトを主体としている。

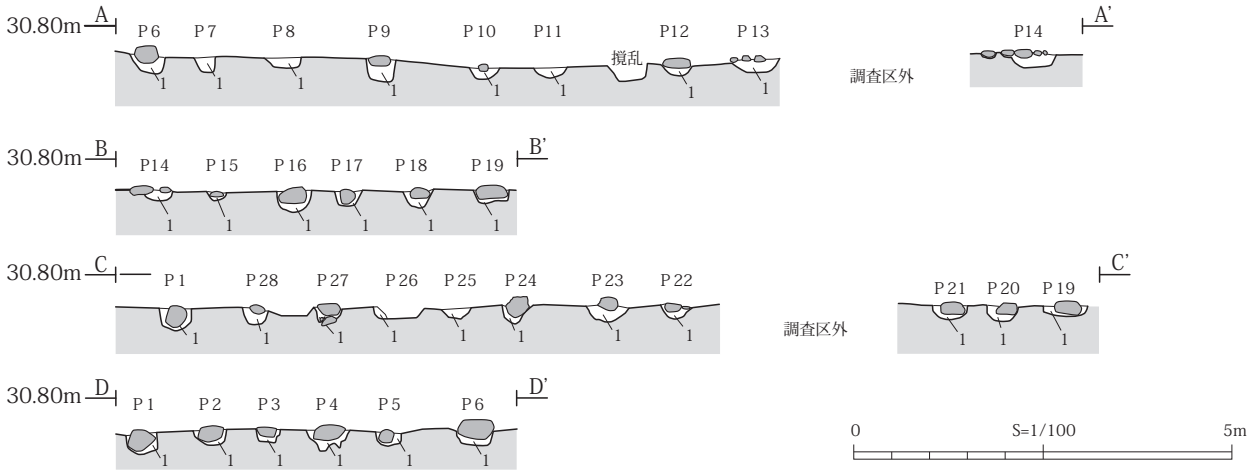
遺物は柱穴掘り方から、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、磁器 1 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	ピット・層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地
							口径	底径	器高	
1	86-1	SB1-P23 1層	磁器	碗	口縁～底部	密	(14.0)	(7.1)	4.9	肥前

時期	文様・備考	登録番号
18 世紀後半～ 19 世紀前半	外面：瓔珞文　蓮弁文　内面：松竹梅文？　蛇ノ目凹高台	J-375





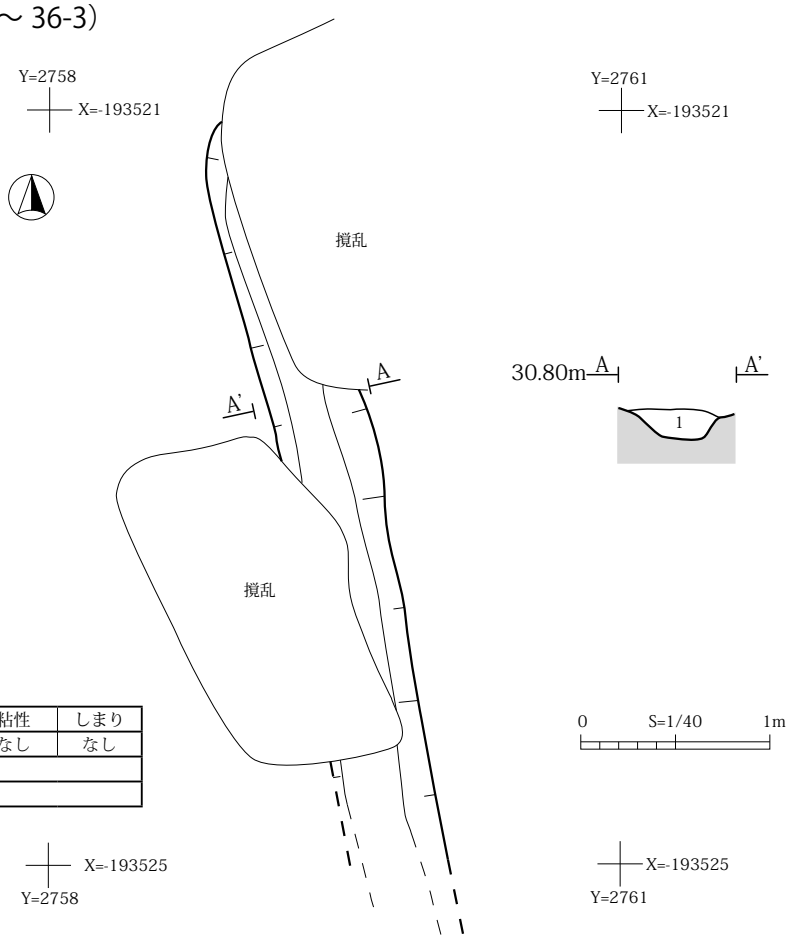
第 163 図　SB1 建物跡平面図・断面図・出土遺物

ピット	層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
P1	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量　径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P3	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P4	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	なし	
P5	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P6	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P7	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量　径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P8	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色、暗褐色土粒やや多量、径 3mm以下の岩盤ブロック少量。
P9	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P10	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	なし	
P11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P12	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P13	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P14	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量　径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P15	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P16	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	なし	
P17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P19	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P20	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量　径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P21	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P22	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	なし	
P23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P24	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P25	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P26	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P27	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量　径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P28	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり	径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量

第 165 図　SB1 建物跡断面図

3）SD1 溝跡　（第 164 図、図版 36-2 ～ 36-3）

S13-E46 グリッドに位置する。南北方向へ直線的に延びる溝跡である。北東側と中央部を撹乱に削平される。南側は残存状態が悪く、確認できなかった。残存する規模は、長さ 388cm 上端幅 52cm、下端幅 20 ～ 30cm、深さ 17cm を測り、主軸方位は N-25° -W を示す。断面形は逆台形を呈す。南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は褐灰色シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



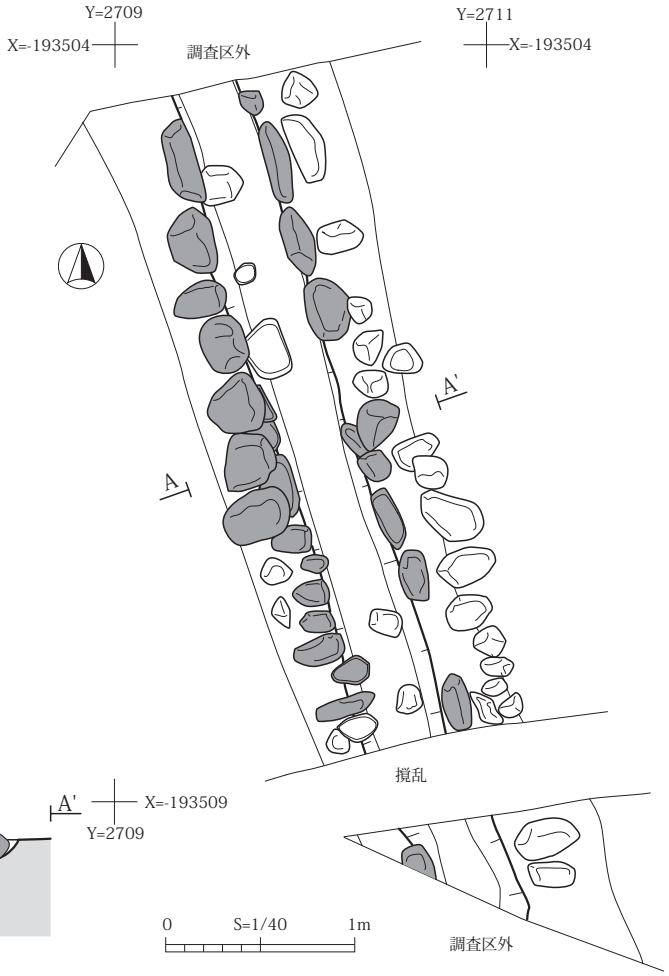
層名	土　色		土　質	粘性	しまり
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし
備　考					
径 3cm以下黄褐色土粒少量					

第 164 図　SD1 溝跡平面図・断面図

４）SD10 溝跡　（第 165 図、図版 37-3、37-5）

S11-E41・42 グリッドに位置する。南北に直線的に延びる、石組の溝跡である。北側と南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長さ 456cm、掘り方の上端幅 106 ～ 128cm、石組みの内幅 34 ～ 36cm、下端幅 28 ～ 37cm、深さ 36cm を測り、主軸方位は N-19°-W を示す。断面形は逆台形を呈す。北側に向かって傾斜する。石組みは 20cm ～ 30cm の自然礫を用い、２～３段築く。堆積土は４層からなり、１層から２層は粘土質シルトで流れ込みによる堆積土と考えられる。３層から４層はシルトで掘り方の埋土である。

遺物は、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

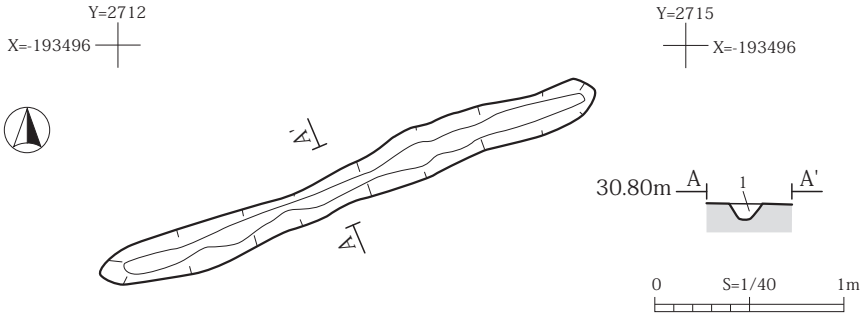


層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	7.5YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	木片・細枝を多量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 10cm以下の礫少量
3	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	なし	灰白色粘土粒縞状に混入
4	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	あり	径 5cm以下の礫少量　径 2cm以下の褐灰色土粒少量。

第 165 図　SD10 溝跡平面図・断面図

５）SD11 溝跡　（第 166 図、図版 37-4）

S10-E42 グリッドに位置する。南西から北東へ直線的に延びる溝跡である。残存する規模は、長さ 278cm、上端幅 18 ～ 25cm、下端幅 4 ～ 10cm、深さ 9 cm を測り、主軸方位は N-70°-E を示す。断面形は U 字状を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもたない。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。



層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10cm以下の礫多量

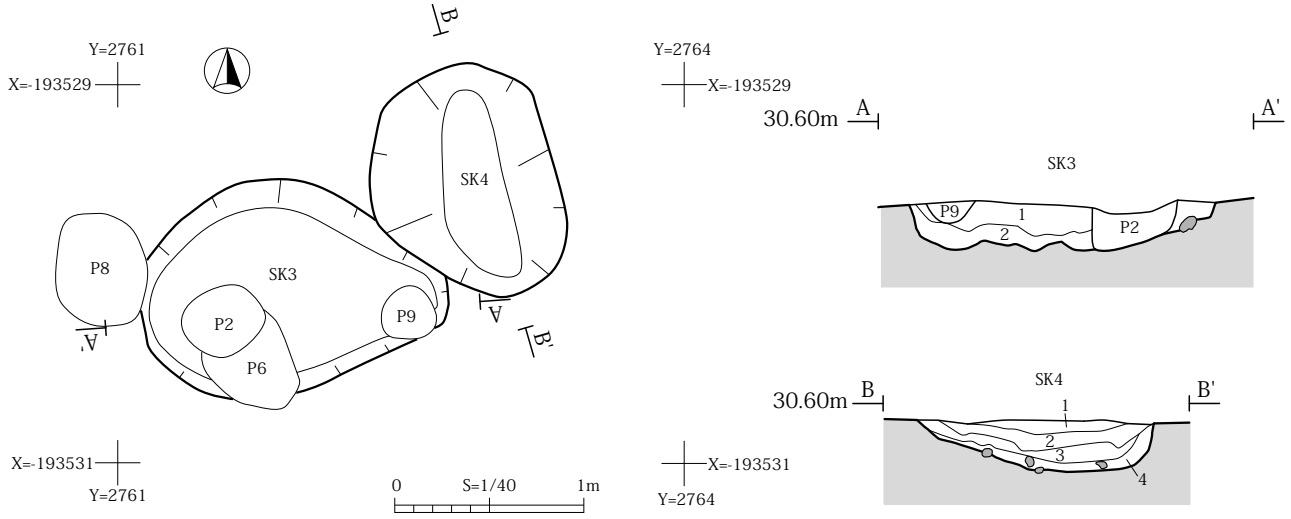
第 166 図　SD11 溝跡平面図・断面図

6）SK3 土坑　（第 167 図、図版 37-6、38-1）

S13･14-E47 グリッドに位置する。SK4 ほかピット 4 基と重複し、SK3 が一番古い。残存する規模は、長軸 167cm、短軸 116cm、深さ 24cm を測る。平面形は不整楕円で、底面は起伏が著しく、断面形は逆台形を呈す。堆積土は 2 層からなり、1 層はシルト質砂、2 層は粘土質シルトである。遺物は、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

7）SK4 土坑　（第 167 図、図版 38-1）

S13･14-E47 グリッドに位置する。SK3 と重複し、SK3 より新しい。残存する規模は、長軸 132cm、短軸 96cm、深さ 27cm を測る。平面形は不整楕円で、底面は南側に向かって傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は 4 層で、1 層は粘土質シルト、2 層から 4 層は砂質シルトである。遺物は、瓦片、陶磁器片、土師質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SK3　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR6/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	上面に鉄分多量　径 5cm以下の礫微量
2	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	なし	あり	径 5cm以下の礫多量

SK4　土層注記表

層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	なし	なし	にぶい黄橙色砂多量
2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量　径 1cm以下の明黄褐色シルトブロック微量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄多量
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄少量

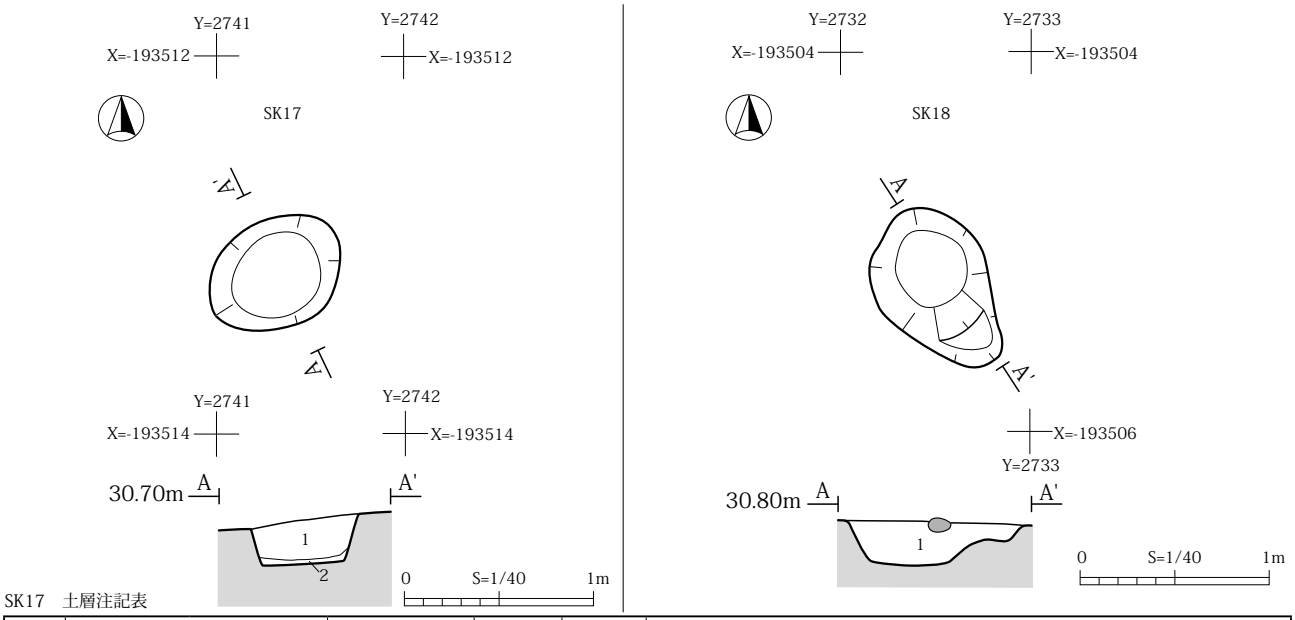
第 167 図　SK3・4 土坑平面図・断面図

8）SK17 土坑　（第 168 図、図版 38-2 ～ 38-3）

S11-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 90cm、短軸 63cm、深さ 24cm を測り、主軸方位は N-38°-W を示す。平面形は不整楕円を呈し、底面はほぼ平坦で、南側はテラス状に高まる。断面形は逆台形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は砂質シルト、2 層はシルトである。遺物は出土していない。

9）SK18 土坑　（第 168 図、図版 38-4 ～ 38-5）

S12-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 79cm、短軸 65cm、深さ 23cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は黄褐色シルトの単層である。遺物は、陶磁器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SK17　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	砂多量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量　5Y3/1 オリーブ黒色土粒少量　酸化鉄多量

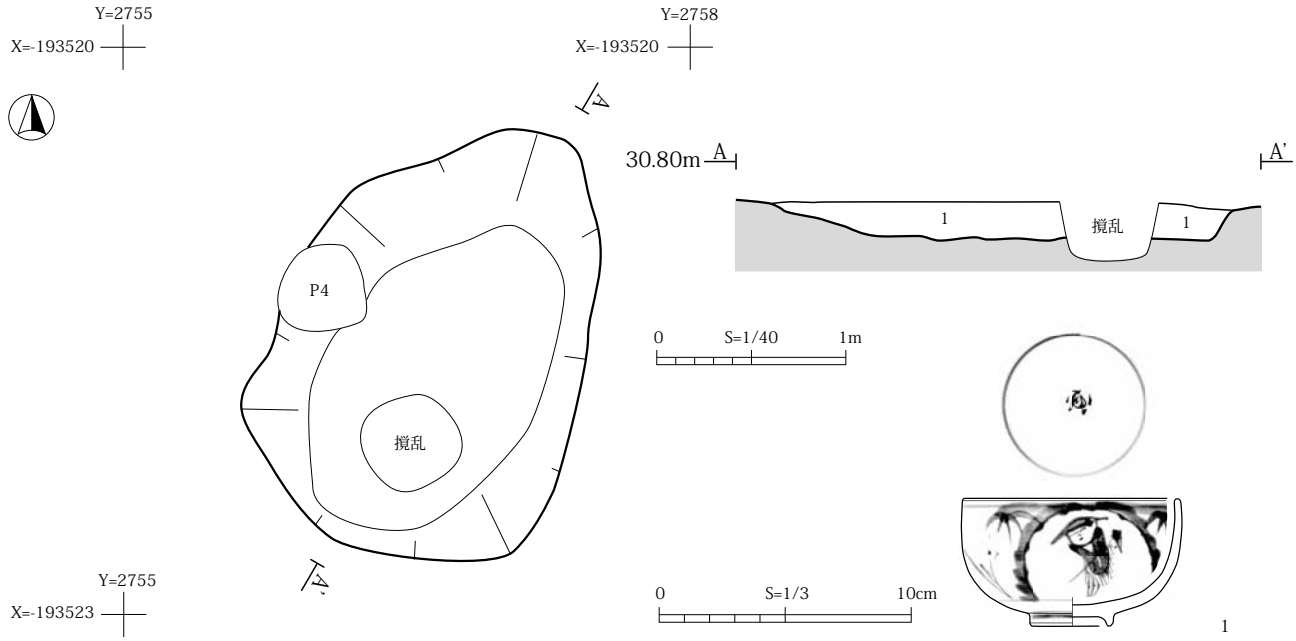
SK18　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	なし	なし	酸化鉄少量

第 168 図　SK17・SK18 土坑平面図・断面図

10）SX4 性格不明遺構　（第 169 図、図版 38-6 ～ 38-7）

S13-E46 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 240cm、短軸 164cm、深さ 19cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は陶磁器等が出土している。そのうち磁器 1 点を図示した。



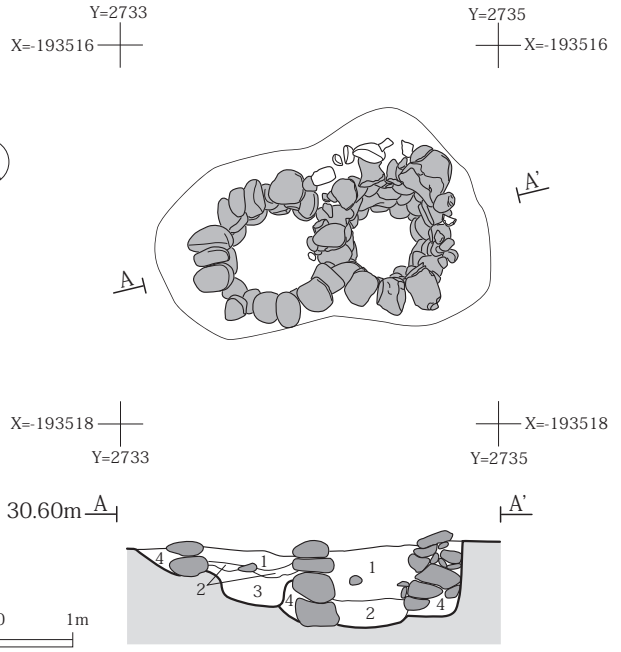
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	なし	なし	にぶい黄橙色砂多量

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	86-4	1 層	磁器	碗	口縁～底部	密	8.7	3.1	5.1	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：竹　人物文　見込み：圏線　花文	J-613

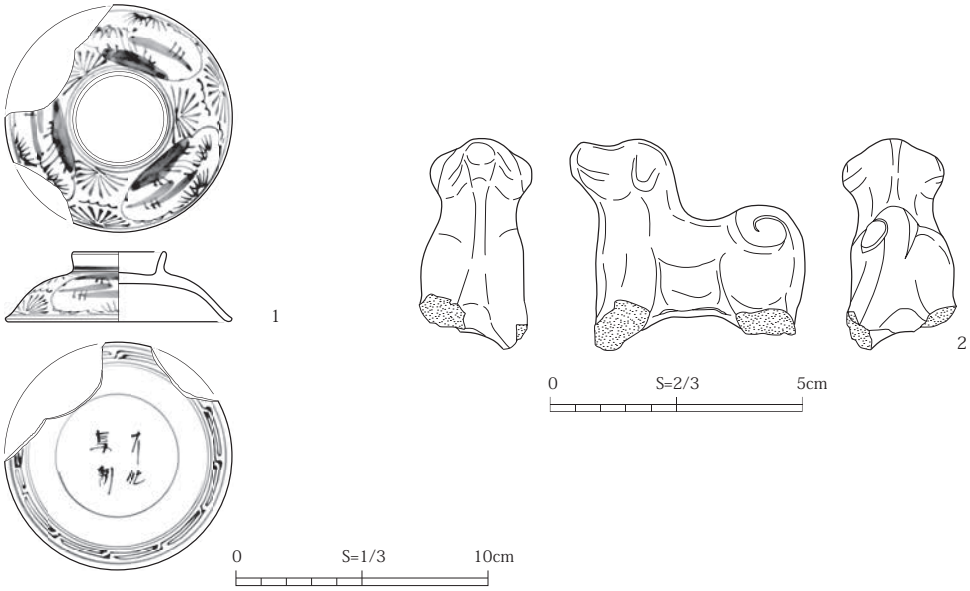
第 169 図　SX4 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

11）SX12 性格不明遺構　（第 170 図、図版 38-8、39-1）

S12-E44 グリッドに位置する、石組土坑である。P4 と重複し、P4 より古い。2 基の石組土坑が連結した状態で検出された。残存する規模は、長軸 170cm、短軸 95cm ～ 116cm、深さ 43cm、石組みの内径 45cm および 48cm を測る。平面形は瓢形で、断面形は不整逆台形を呈す。掘り方の底面はほぼ平坦である。1 ～ 3 層は石組内部の堆積土で、4 層は掘り方埋土である。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品、土製品等が出土しているが、近代以降の遺物が数点出土している。そのうち、磁器 1 点と犬型土製品 1 点を図示した。



層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	なし	径 5cm以下の礫少量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径 5cm以下の礫多量
3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5mmの炭化物微量　径 2cm以下の礫微量　酸化鉄微量
4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	径 10cm以下の礫少量　砂礫・酸化鉄の沈着多量　5mm程度の黄褐色土粒多量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	86-2	4 層	磁器	蓋	口縁～底部	密	9.0	3.8	2.8	瀬戸・美濃	19 世紀	外面：窓に竹文　花文　内面：雷文帯　圏線　「成化年製」銘	J-388

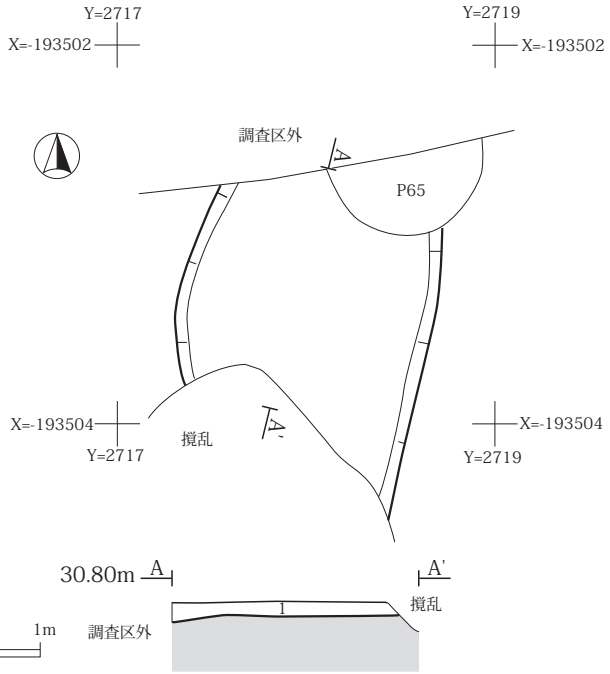
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
2	86-3	3 層	土製品	4.2	2.2	4.7	犬型土製品　手造ね	P-93

第 170 図　SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

12）SX15 性格不明遺構　（第 171 図、図版 39-2 ～ 39-3）

S11-E42 グリッドに位置する。P65 と重複し、P65 より古い。南側を撹乱に削平される。北側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 165cm、短軸 136cm、深さ 6 cm を測る。平面形は不整楕円を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は、陶磁器片、土師質土器片出土しているが、細片のため図化し得なかった。

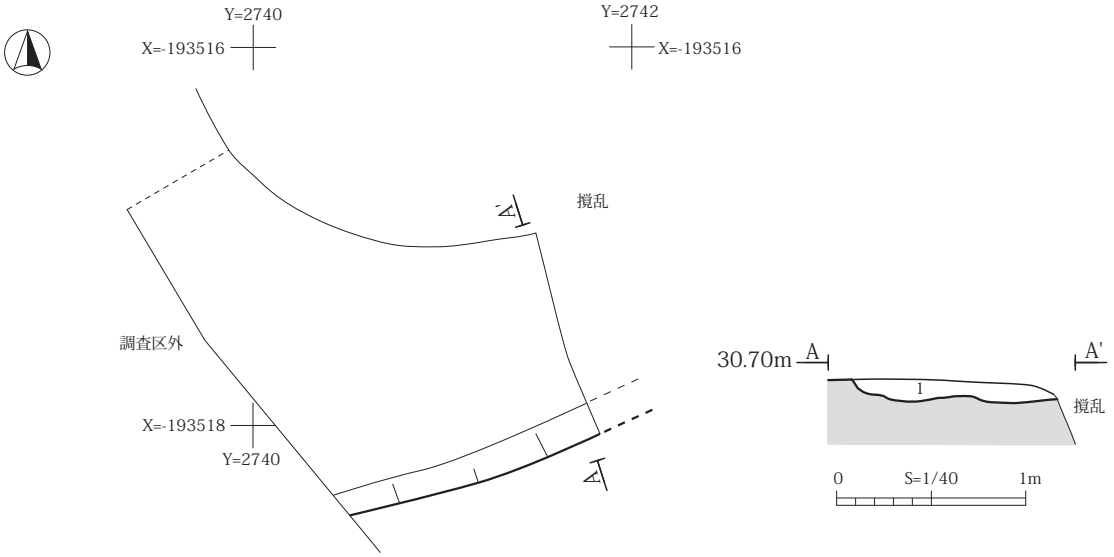
層名	土　色		土　質	粘性	しまり
1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり
備　考					
径 2cm以下の黒色粘土粒多量					



第 171 図　SX15 性格不明遺構平面図・断面図

13）SX17 性格不明遺構　（第 172 図、図版 39-4 ～ 39-5）

S12-E44･45 グリッドに位置する。北東～東側を撹乱に削平される。北側は不明瞭となり、確認できなかった。西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 207cm、短軸 174cm、深さ 13cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面はやや起伏がある。断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層で、径 15 ～ 20cm の礫を多量に含む。遺物は、瓦片、陶磁器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



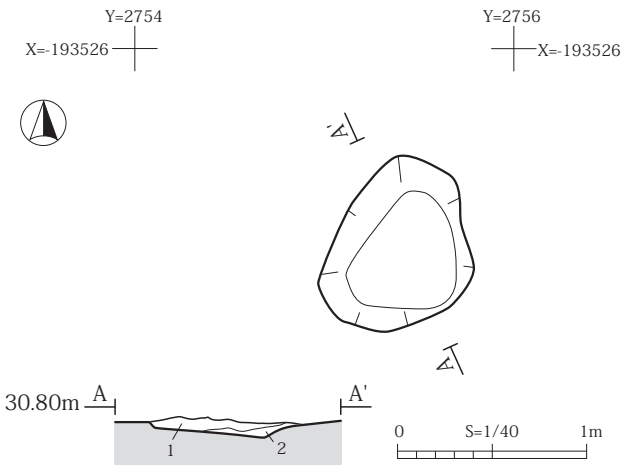
層名	土　色		土　質	粘性	しまり	備　考
1	10YR4/1	褐灰色	粘土シルト	あり	ややあり	径 15 ～ 20cm の礫多量　酸化鉄

第 172 図　SX17 性格不明遺構平面図・断面図

14）SX22 性格不明遺構　（第 173 図、図版 39-6）

S13-E46 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 99cm、短軸 70cm、深さ 8 cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は黒褐色シルト質砂の単層である。遺物は陶磁器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

層名	土　　色		土　質	粘性	しまり
1	7.5YR3/2	黒褐色	シルト質砂	なし	あり
備　　考					
酸化鉄層状に多量					

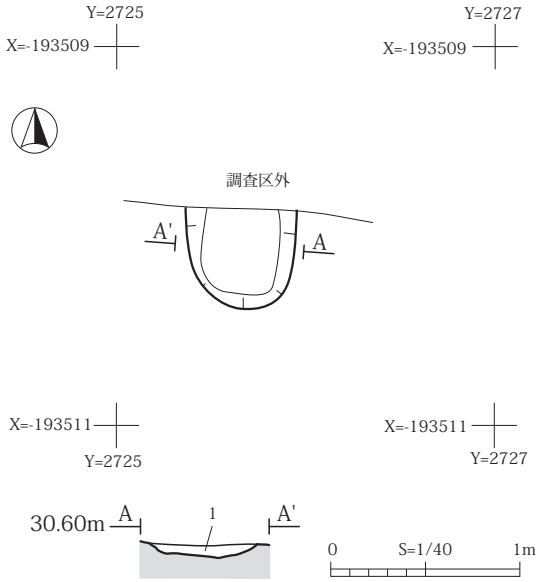


第 173 図　SX22 性格不明遺構平面図・断面図

15）SX31 性格不明遺構　（第 174 図、図版 39-7）

S11・12-E43 グリッドに位置する。北側を撹乱に削平される。残存する規模は、長軸 58cm、短軸 56cm、深さ 6 cm を測る。平面形は不整楕円を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

層名	土　　色		土　質	粘性	しまり
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり
備　　考					
5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量　酸化鉄多量					



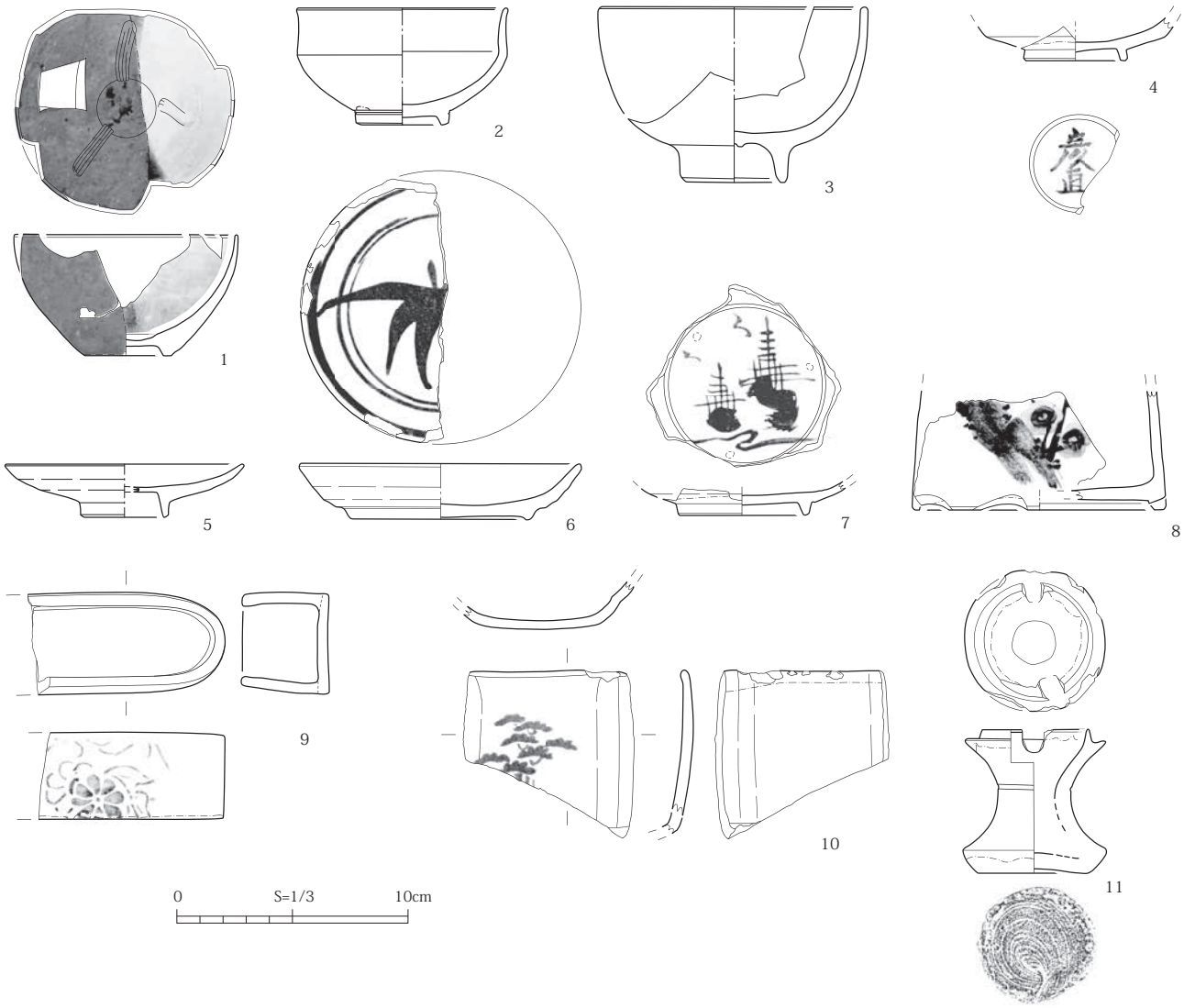
第 174 図　SX31 性格不明遺構平面図・断面図

16）遺構外出土遺物（第 175 図～ 181 図）

Ⅲ a 層の出土遺物点数は瓦 406 点、陶器 1,653 点、土師質土器 446 点、瓦質土器 91 点、磁器 1,481 点、石製品 8 点、木製品 2 点、金属製品 43 点、古銭 11 点、土製品 31 点、骨 4 点、その他 97 点、合計 4,273 点で、19 世紀代のものが多く出土している。

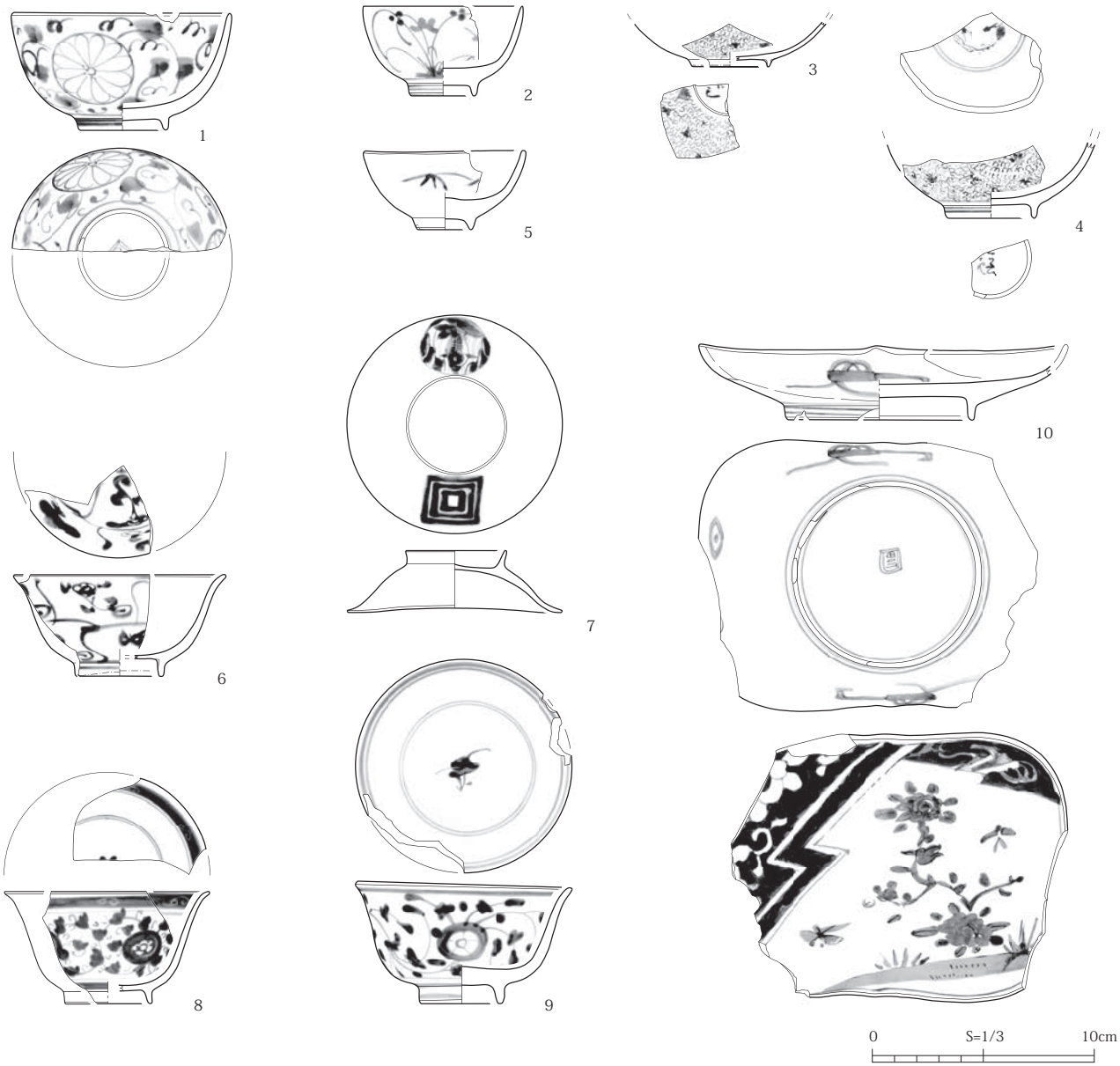
陶器を産地別にみると、志野 2 点、唐津 1 点、岸 2 点、嬉野 1 点、京・信楽系 2 点、肥前陶器 1 点、瀬戸美濃 5 点、小野相馬 2 点、大堀相馬 13 点、堤 6 点、その他在地 5 点となる。また、磁器を産地別にみると、景徳鎮 9 点、肥前 304 点、瀬戸美濃 215 点、切込他地方窯 2 点である。このうち、陶器 11 点、磁器 16 点、土師質土器 3 点、金属製品 4 点、土製品 1 点、瓦 2 点を図示した。磁器では、他に出土例を見ない切込焼の精製品が出土している。

Ⅰ層・Ⅱ層および撹乱出土の遺物点数は、瓦 810 点、陶器 4,810 点、土師質土器 814 点、瓦質土器 179 点、磁器 8,564 点、石製品 47 点、木製品 13 点、金属製品 175 点、古銭 57 点、土製品 31 点、骨 5 点、合計 15,804 点である。そのうち、近世の所産と思われる陶器 3 点、磁器 5 点、金属製品 3 点、土製品 1 点、瓦 4 点を図示した。陶磁器では、焼継による補修痕のあるものが多数出土している。また、撹乱土坑の底面から鯱瓦頭部が出土している。同じ撹乱土坑から出土した同一個体の破片が接合し、尾部を除いてほぼ完全な形に接合された。鯱瓦の背面には「寛政三　勇［　］」の刻字が認められる（寛政三年は西暦 1791 年）。



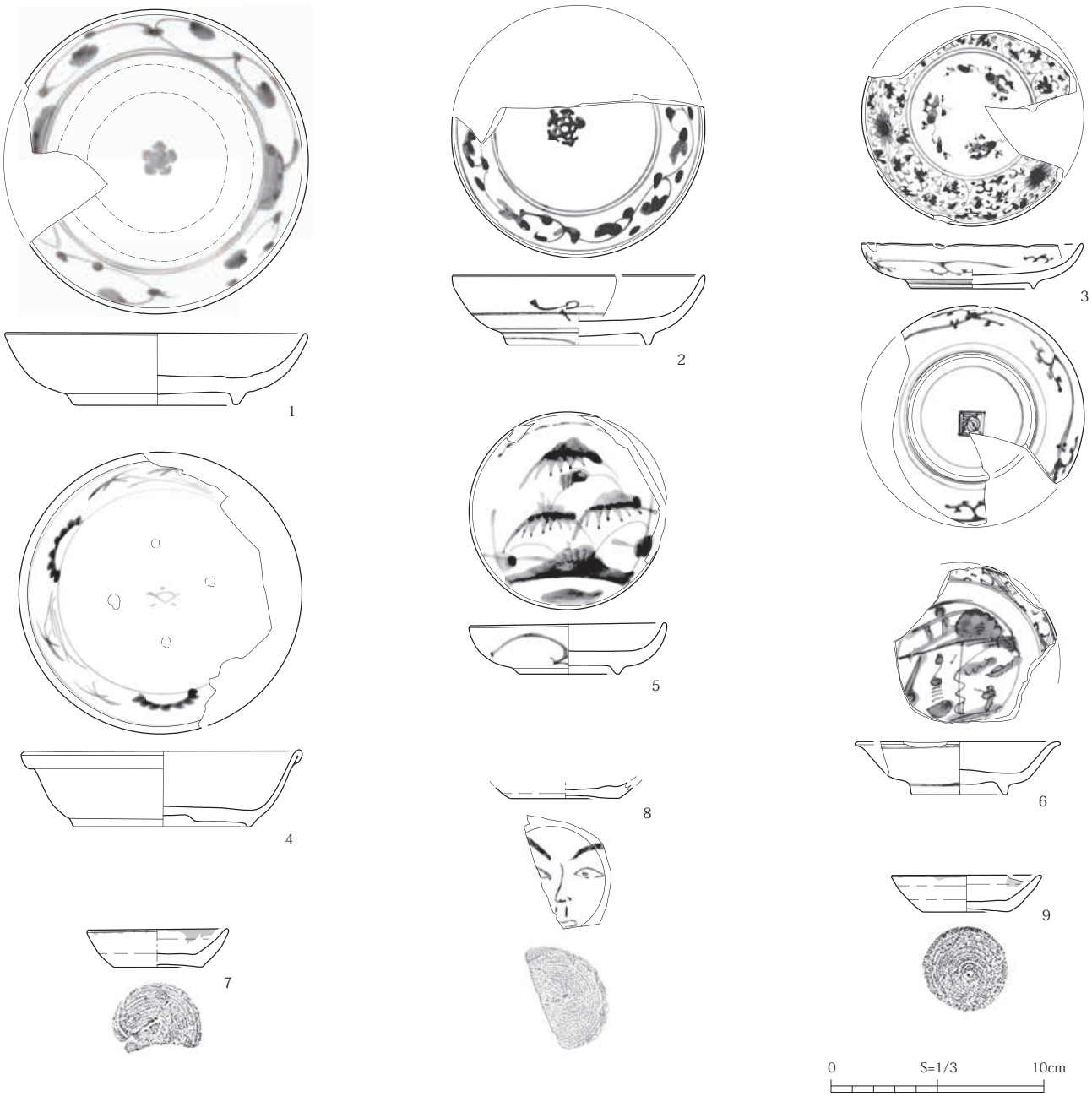
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	86-5	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	やや密	9.6	3.7	5.3	大堀相馬	18 世紀後半	内外面：灰釉・鉄釉掛け分け	I-781
2	86-7	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	やや密	(9.0)	(4.0)	5.1	大堀相馬	18 世紀後半	灰釉	I-694
3	86-6	S11-E43	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	(11.6)	4.2	7.6	肥前	18 世紀後半	呉器手	I-611
4	87-3	S12-E45	陶器	筒型碗	体部	やや密	-	4.3	1.3	大堀相馬？	18 世紀～ 19 世紀	内外面：灰釉　貫入　高台内墨書「彦直？」	I-673
5	87-2	S11-E42	陶器	皿	口縁～底部	粗	10.2	-	3.3	瀬戸・美濃	18 世紀後半		I-699
6	87-5	S12-E45	陶器	皿	口縁～底部	粗	(17.0)	(8.0)	2.5	志野	17 世紀後半	鉄絵笹文	I-637
7	87-4	S12-E45	陶器	皿	底部	やや密	-	5.7	-	大堀相馬	18 世紀後半	鉄絵山水楼閣文	I-709
8	87-1	S12-E45	陶器	香炉	底部	やや密	-	(9.8)	(5.2)	大堀相馬	18 世紀～ 19 世紀	鉄絵・色絵梅文	I-614
9	87-10	S11-E42	陶器	鬢盥	口縁～底部	粗	-	-	3.6	瀬戸・美濃	18 世紀前半～中頃	内面：灰釉　貫入　外面：灰釉　型紙刷り（花文）　底部指頭痕	I-697
10	87-9	S12-E45	陶器	火入れ	口縁～体部	粗	-	-	-	瀬戸・美濃	18 世紀後半～ 19 世紀前半	外面：鉄絵松文	I-693
11	87-8	S12-E45	陶器	油受皿	口縁～底部	やや密	4.5	4.5	6.1	大堀相馬	18 世紀後半～ 19 世紀		I-687

第 175 図　Ⅲ a 層出土遺物（１）



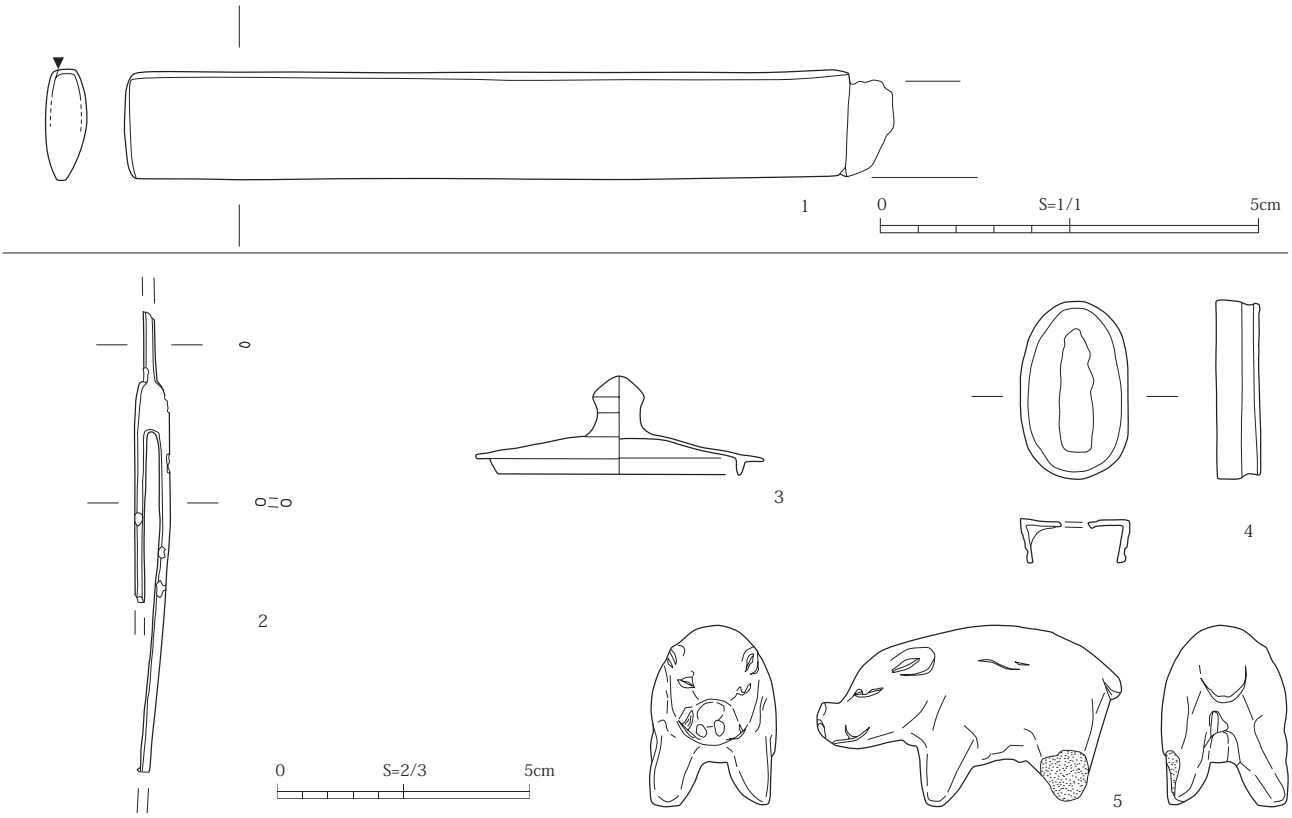
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	88-1	S12-E45	磁器	碗	口縁～底部	密	10.0	(4.2)	5.3	肥前	18 世紀後半	外面：菊唐草文　圏線　二重圏線　高台内：角渦福？	J-361
2	87-12	S12-E45	磁器	碗	口縁～底部	密	(7.4)	3.0	4.1	肥前	18 世紀後半	外面：草花文　圏線　二重圏線	J-395
3	87-11	S11-E43	磁器	碗	体部～底部	密	-	3.4	2.0	肥前	19 世紀	外面：みじん唐草　焼継　高台：焼継銘あり	J-428
4	87-10	S12-E45	磁器	碗	体部～底部	密	-	3.8	3.4	瀬戸・美濃	19 世紀	外面：みじん唐草　内面：二重圏線、環状松竹梅文　焼継　高台：焼継銘	J-405
5	87-13	S11-E43	磁器	小坏	口縁～底部	密	7.2	2.6	3.6	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：笹文　高台に砂付着	J-369
6	87-9	S12-E45	磁器	端反碗	口縁～底部	密	(9.5)	(3.8)	4.6	瀬戸・美濃	19 世紀前半	内外面：霊芝文	J-400
7	88-4	S12-E44	磁器	蓋	口縁～底部	密	9.8	-	2.8	瀬戸・美濃	19 世紀前半	つまみ径 4.4　外面：鯉　二重方形文	J-071
8	88-3	S12-E45	磁器	端反碗	口縁～底部	密	(9.3)	(3.84)	5.1	瀬戸・美濃	19 世紀前半	外面：草花文　内面：圏線　見込み：染付	J-402
9	88-2	S13-E46	磁器	端反碗	口縁～底部	密	9.8	3.9	5.3	瀬戸・美濃	19 世紀前半	外面：草花文　内面：圏線　見込み：虫文	J-475
10	89-1	S12-E45	磁器	変形皿	口縁～底部	密	16.5/11.7	(8.0)	4.4	肥前	19 世紀	内面：草花文　蝶文（呉須、赤絵、鉄釉、赤彩、緑釉）　外面：染付け　圏線　二重圏線　高台内：角富　圏線	J-466

第 176 図　Ⅲ a 層出土遺物（2）

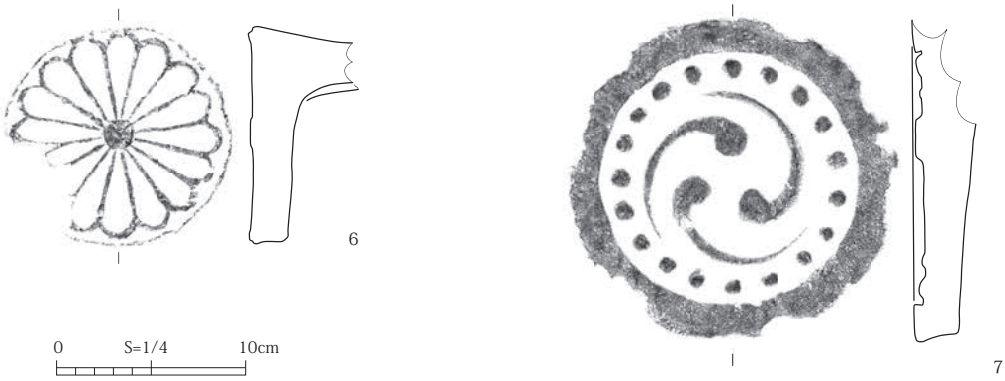


図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	89-3	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	14.3	7.6	3.4	肥前	18 世紀前半	内面：唐草文　見込み：コンニャク五弁花 蛇ノ目釉剥ぎ	J-483
2	89-2	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(11.7)	6.4	3.3	肥前	18 世紀後半	内面：圏線　二重圏線　唐草文　見込み：コンニャク印判五弁花　外面：圏線　唐草文　二重圏線	J-417
3	88-8	S11-E42	磁器	皿	口縁～底部	密	(10.4)	5.9	2.1	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：唐草文　内面：二重圏線　牡丹唐草文　環状梅文？　高台：圏線　角渦福	J-362
4	88-6	S11-E42	磁器	皿	口縁～底部	密	13.2	8.2	3.6	切込	19 世紀以後	内面：松　笹文　目跡４箇所　胎土は白色度が強くガラス質（精製品）	J-413
5	88-5	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	9.3	4.6	2.3	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：唐草文　内面：笹文	J-436
6	88-7	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(9.3)	(4.6)	2.5	中国	16 世紀末～17 世紀初	外面：圏線　口唇内側：四方襷　見込み：楼閣山水人物文　高台砂付着	J-414
7	87-6	S12-E44	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	(6.7)	4.2	1.9	在地	近世	油煙付着	I-621
8	87-8	S11-E42	土師質土器	皿	底部	粗	-	5.1	(0.6)	在地	近世	人面墨書	I-674
9	87-7	S12-E45	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	7.0	3.8	1.7	在地	近世	油煙付着	I-730

第 177 図　Ⅲ a 層出土遺物（３）

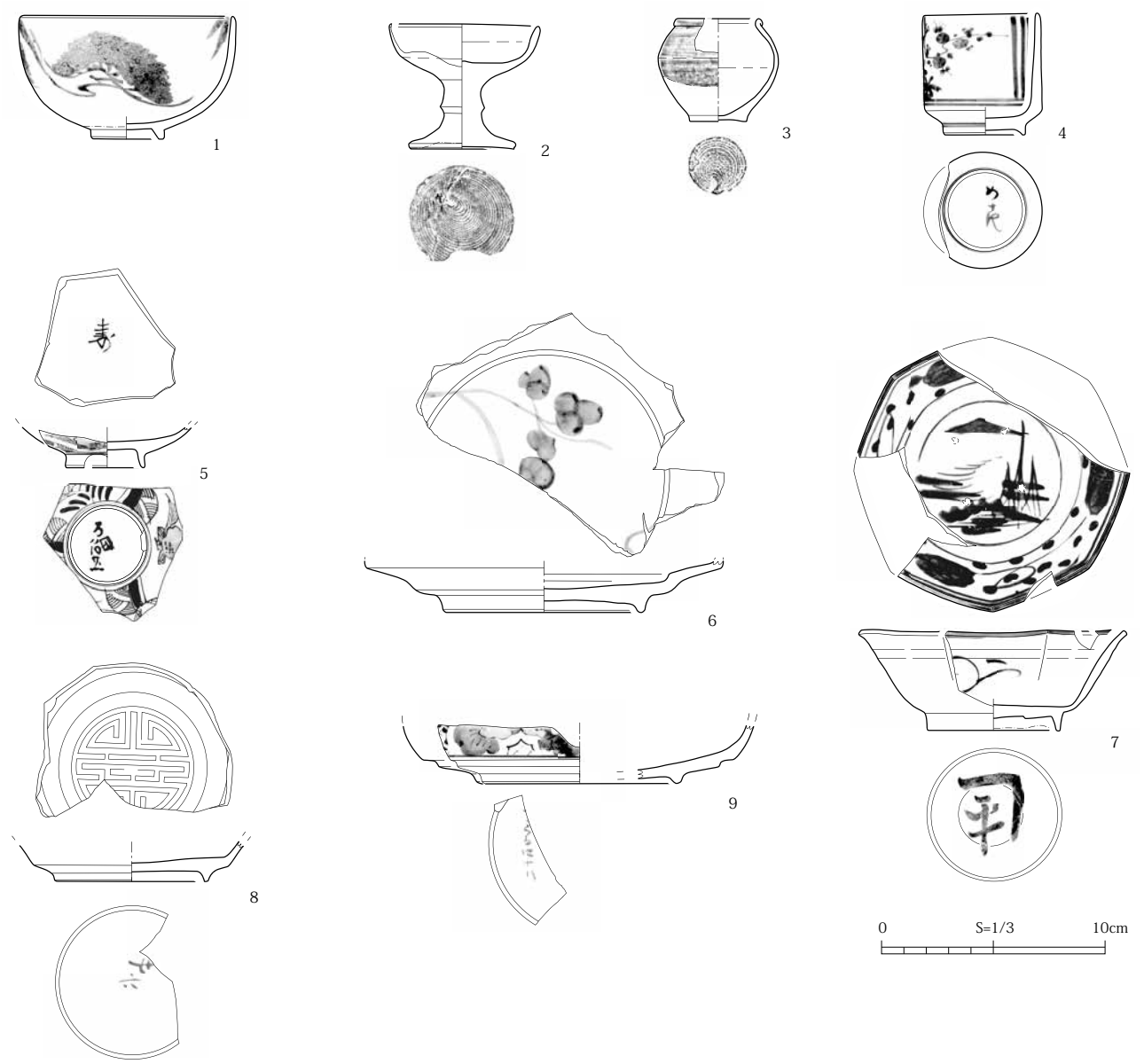


図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
1	90-2	S11-E42	金属製品	10.2	1.4	0.6	小柄　第 15 表（P199) 参照	N-302
2	89-7	S12-E45	金属製品	(10.2)	0.7	-	簪	N-311
3	90-1	S12-E45	金属製品	5.7	2.0	-	蓋	N-315
4	89-5	S11-E42	金属製品	3.5	2.2	0.9	刀剣部品　柄縁	N-253
5	89-4	S12-E45	土製品	6.0	3.6	2.8	猪形土製品	P-106



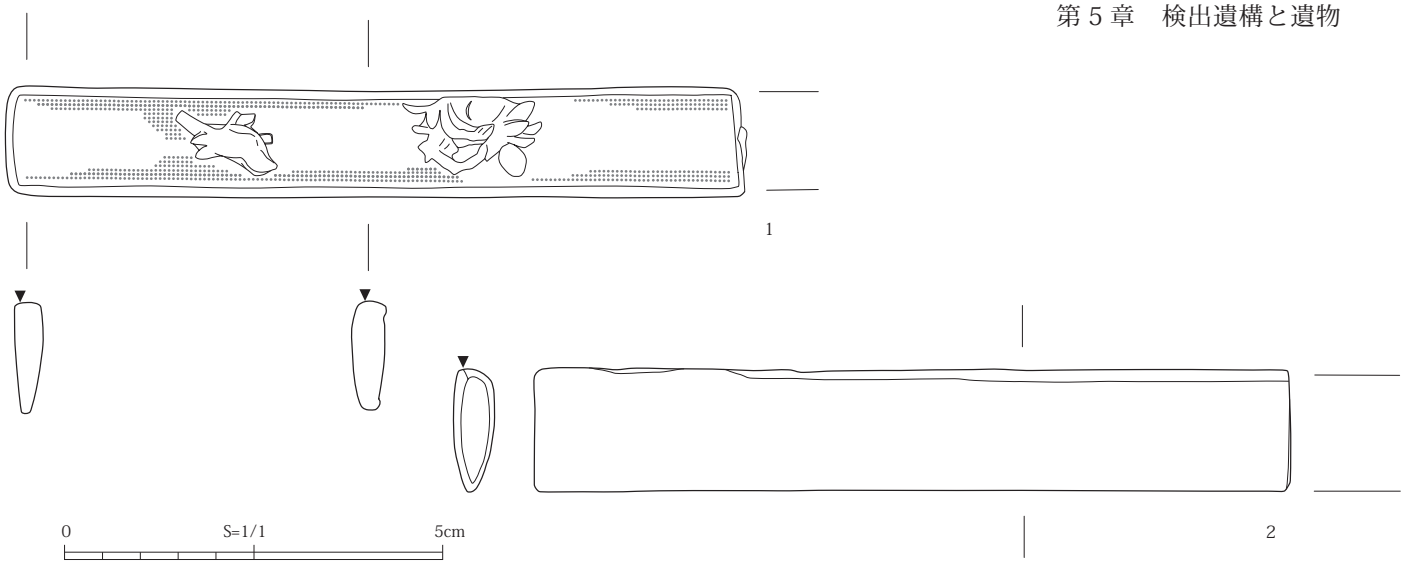
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	備考	登録番号
6	90-3	S12-E45	棟込瓦	5.7	12.0	2.4	瓦当径 11.2　文様区径 11.0　瓦当厚 1.65	F-68
7	90-4	S12-E44	軒丸瓦	3.2	17.0	3.2	瓦当径 17.4　文様区径 13.3　瓦当厚 2.2　周縁高 0.4　周縁幅 2.1	F-77

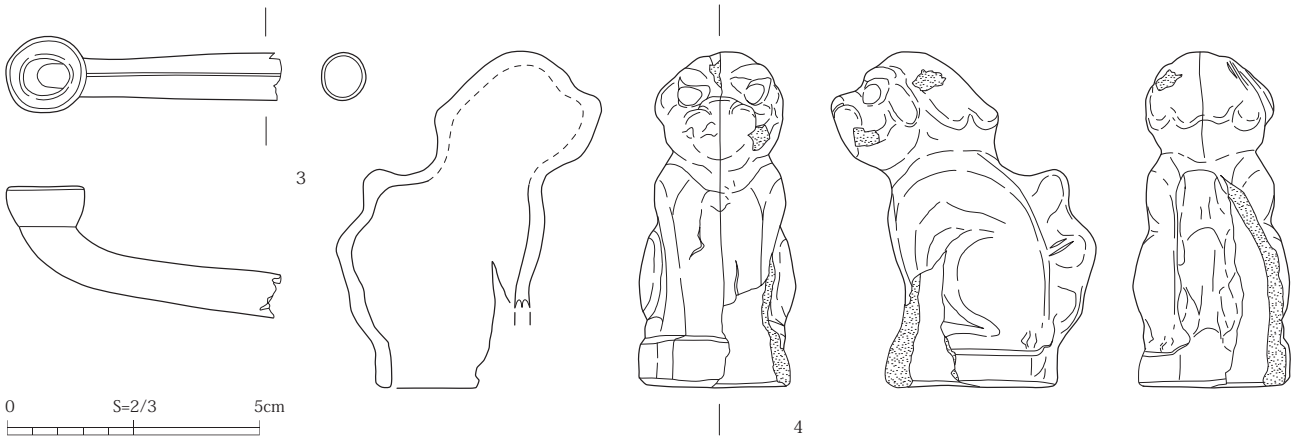
第 178 図　Ⅲ a 層出土遺物（4）

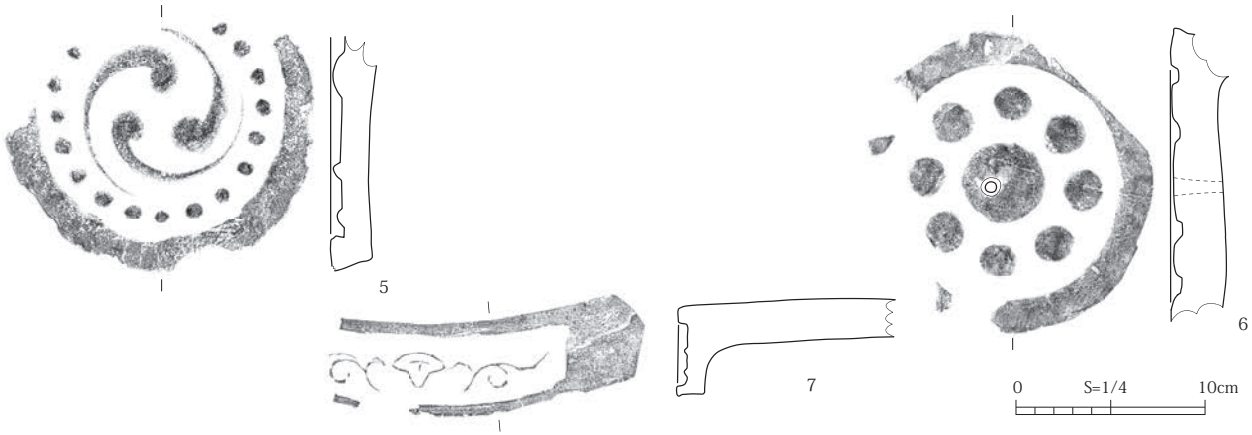


図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量（cm）			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	90-5	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	やや密	9.5	3.3	5.5	京	18 世紀前半	色絵松竹文	I-065
2	90-6	S11-E42	陶器	仏飯器	口縁～底部	やや密	6.7	4.6	5.6	大堀相馬	18 世紀後半	灰釉	I-636
3	90-7	S12-E45	陶器	豆甕	口縁～底部	やや粗	(3.7)	2.5	4.6	瀬戸・美濃	18 世紀後半	外面上部から内面：褐釉	I-892
4	90-10	S12-E45	磁器	小杯	口縁～底部	密	5.1	3.6	5.4	肥前	19 世紀	上絵染付け　外面：二重圏線　梅　笹文（呉須）　赤絵　金彩　焼継痕あり　高台内：焼継印あり	J-603
5	91-1	S12-E45	磁器	皿	体部～底部	密	-	3.6	(1.8)	肥前	18 世紀後半	外面：色絵草花文　内面：色絵「寿」文　高台内焼継印「ろノ□廿一」	J-513
6	90-8	S11-E42	磁器	皿	体部～底部	密	-	8.8	(2.3)	肥前	17 世紀？	見込み：草花文	I-897
7	91-3	S12-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	11.8	6.0	4.5	肥前	18 世紀後半～19 世紀前半	外面：唐草文　内面：草花文　圏線　楼閣山水文　高台内：墨書「カネ平」　蛇ノ目凹高台　口錆	J-604
8	91-2	S12-E45	磁器	皿	体部～底部	密	-	6.5	(1.8)	肥前	19 世紀前半	見込み：寿字文　高台内：焼継印「廿六」	J-589
9	90-9	S12-E45	磁器	鉢	体部～底部	密	-	8.4	2.6	肥前	18 世紀後半～19 世紀	上絵染付け　外面：圏線　赤絵　緑釉　鉄釉　焼継痕あり　重焼継あり（砂付着）　高台内：焼継印「□□四十八」	J-546

第 179 図　Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（１）

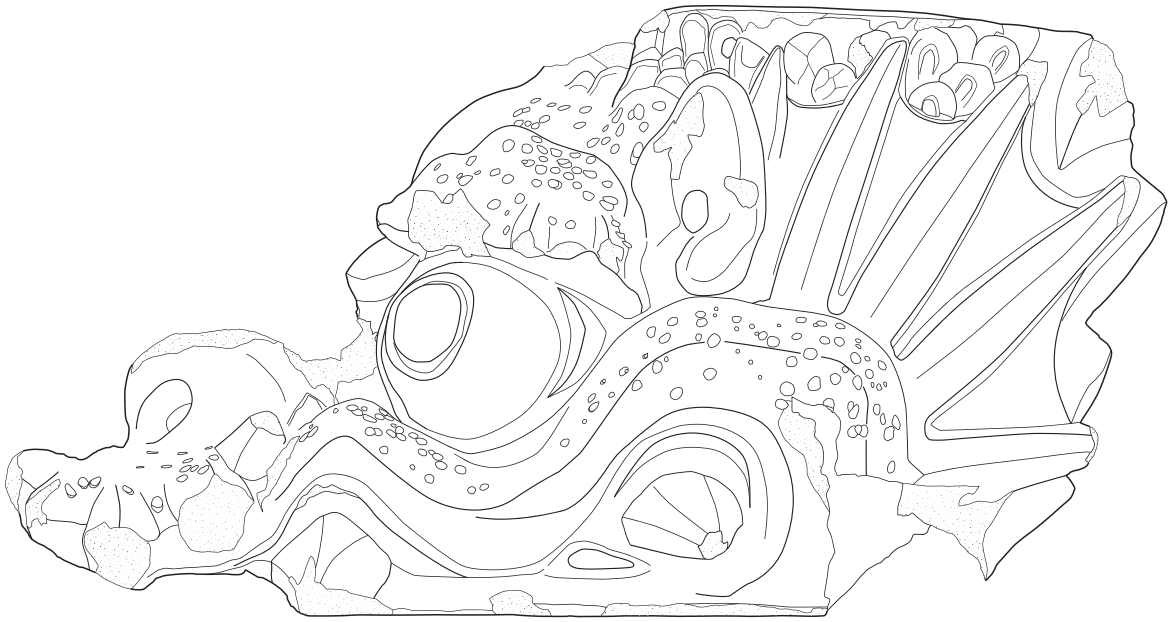






図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	91-4	S12-E44	金属製品	9.7	1.3	0.5	小柄　地文：魚子文　高彫（鳥と牡丹？）　第 15 表（P199) 参照	N-298
2	91-5	S11-E42	金属製品	10.0	1.6	0.6	小柄　未製品？　第 15 表（P199) 参照	N-289
3	91-6	S11-E43	金属製品	5.5	1.5	2.6	煙管	N-221
4	92-2	S12-E45	土製品	6.6	5.2	3.1	土人形　型作り	P-97
5	91-8	S12-E45	軒丸瓦	2.5	16.4	1.5	瓦当径 16.5　文様区径 13.0　瓦当厚 2.2　周縁高 0.6　周縁幅 1.8	F-100
6	91-7	S11-E43	軒丸瓦	3.0	15.6	2.5	瓦当径 16.1　文様区径 12.0　瓦当厚 2.4　周縁高 0.4　周縁幅 1.8	F-99
7	92-1	S12-E45	軒平瓦	11.4	16.2	2.2	脇区幅 4.0　瓦当高 4.7　周縁高 4.5 ～ 7.0	G-33

第 180 図　Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物（2）

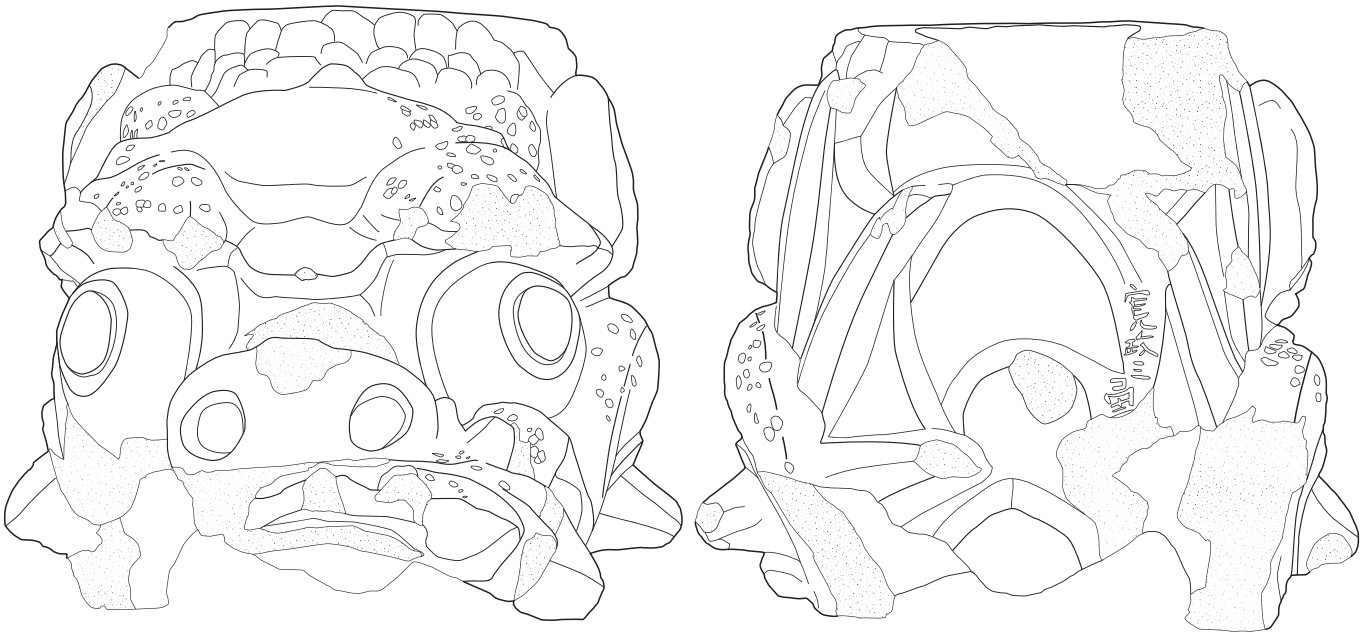


1

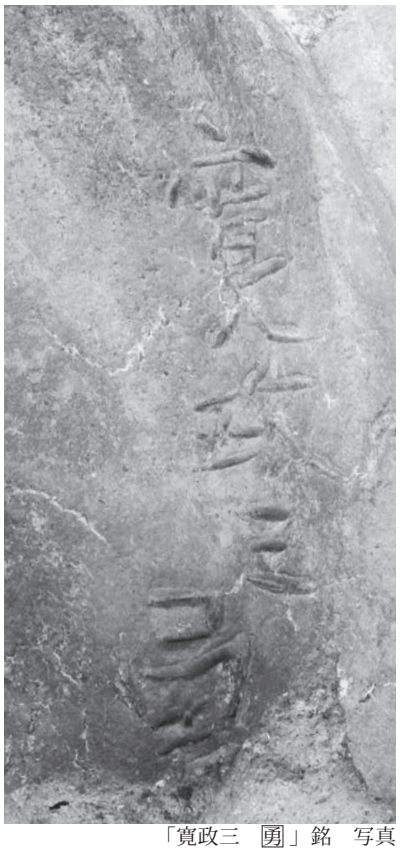
0　S=1/10　50cm

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	92-3 巻頭カラー	S12-E46	鯱瓦	153.5	89	18	背面に「寛政三　勇［　］」刻字　内面ユビナデ顕著	H-1

第 181 図　鯱瓦（1）



0　S=1/10　50cm



「寛政三　勇」銘　写真

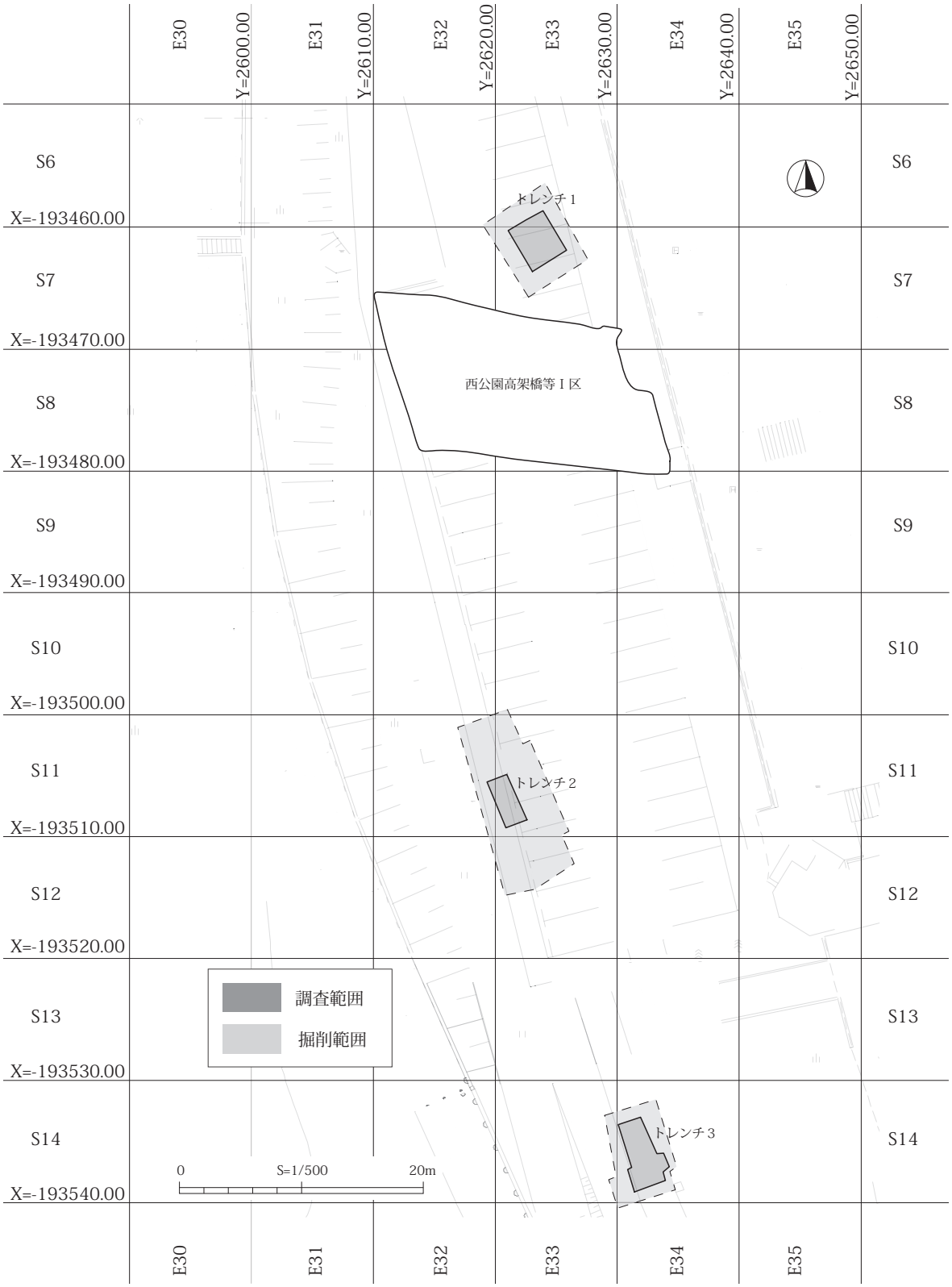
「寛政三　勇」銘　拓本

0　S=1/1　5cm

第 182 図　鯱瓦（2）

第３節　西公園高架橋等Ｉ区（排水管部）

西公園高架橋等Ｉ区（排水管部）の調査では、西公園高架橋等Ｉ区の北側１箇所、南側２箇所、合計３箇所のトレンチを設定して調査を行った。



第 183 図　西公園高架橋等Ｉ区（排水管部）　トレンチ配置図

1　トレンチ１　（第 184 ～ 188 図、図版 40-1、40-3）

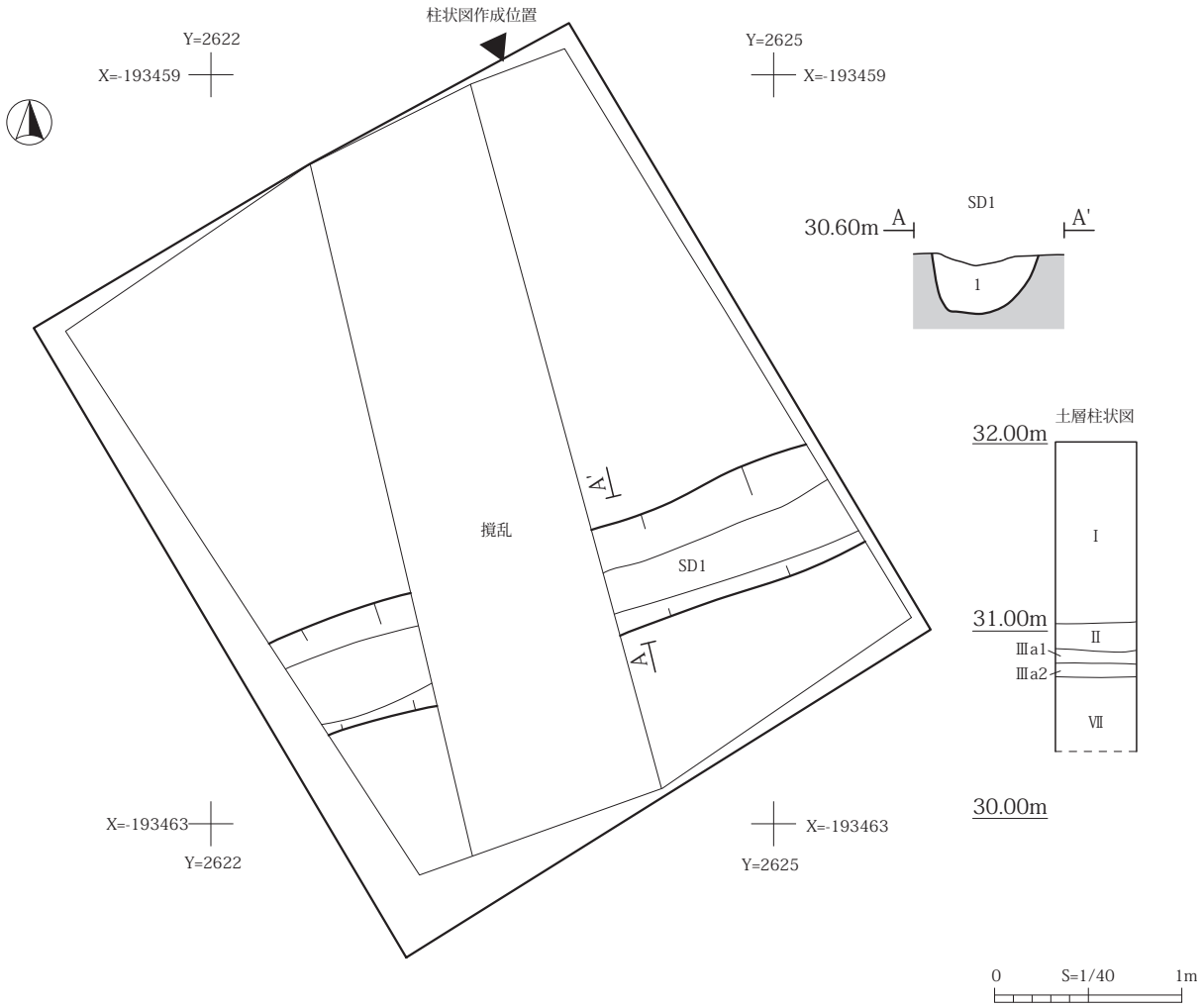
トレンチ１では３面の遺構面が確認された。Ⅲａ層の最下層から出土している遺物が近世末～近代初頭のものが含まれているため、上層２面の遺構面をⅢａ１層上面およびⅢａ２層上面とした。

Ⅶ層上面検出遺構

トレンチ１のⅦ層上面では、溝跡１条が検出された。

１）SD1 溝跡　（第 184 図、図版 40-1、40-2）

S7-E33 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる溝跡である。残存する規模は、長軸 305cm、上幅 65 ～ 57cm、下幅 56 ～ 23cm、深さ 32cm を測り、主軸方位は N-19° -E を示す。断面形は U 字状を呈す。底面は平坦で、北東から南西へ緩やかに傾斜している。堆積土は暗灰黄色砂質シルトの単層で、流れ込みにより堆積した土と考えられる。遺物は陶器片、瓦片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/4	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	径３～ 5cm の黒褐色砂質シルトブロック多量　砂質シルトブロック少量

第 184 図　トレンチ１　Ⅶ層上面遺構平面図・断面図

Ⅲ a2 層上面検出遺構

トレンチ１のⅢａ２層上面では、土坑３基が検出された。

１）SK5 土坑　（第 185 ～ 186 図、図版 40-3、40-4）

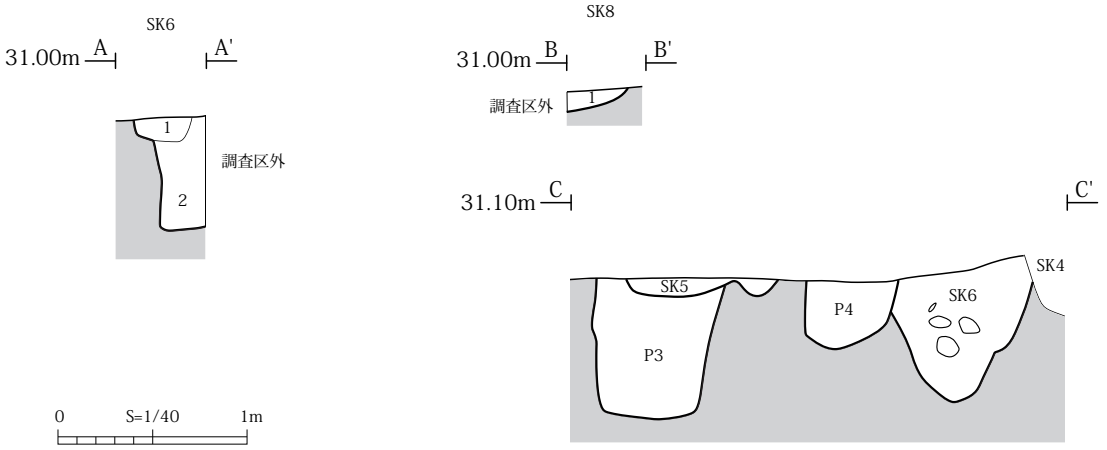
S6-E33 グリッドに位置する。P3 と重複し、P3 より古い。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 93cm、短軸 37cm、深さ 10cm を測る。平面形は不整長方形で、断面形は皿状を呈す。底面は起伏がある。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

２）SK6 土坑　（第 185 ～ 186 図、図版 40-3、40-5）

S7-E33 グリッドに位置する。P4 と重複し、P4 より古い。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 68cm、短軸 33cm、深さ 70cm を測る。平面形は不整楕円形で、断面形は長方形を呈す。底面は平坦である。堆積土は２層の砂質シルトに分層され、炭化物、礫を少量含む。遺物は陶器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

３）SK8 土坑　（第 185 ～ 186 図、図版 40-3、40-6）

S7-E33 グリッドに位置する。西側を撹乱に削平され、南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 54cm、短軸 26cm、深さ 9cm を測る。平面形はおそらく長楕円形で、断面形は皿状を呈す。底面は中央に向かってなだらかに傾斜する。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



SK5　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径１～ 3cm の礫少量

SK6　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径１～３mm の炭化物少量
2	10YR3/1	明黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径５～ 15cm の礫少量

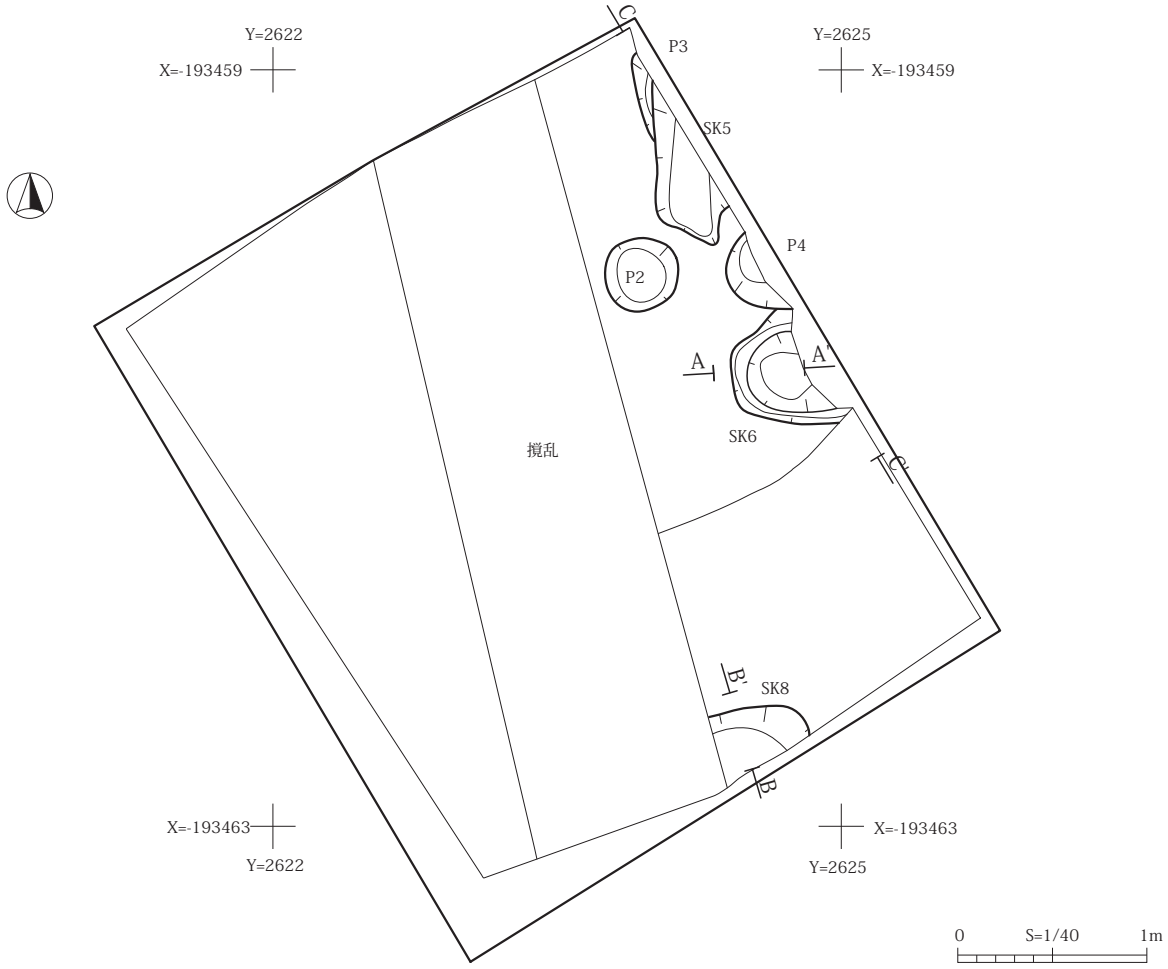
SK8　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径１～３cm の礫少量、径１～３mm の炭化物少量

第 185 図　トレンチ１　Ⅲ a2 層上面遺構断面図

Ⅲ a1 層上面検出遺構

Ⅲａ１層上面では、４基の土坑が検出された。



第 186 図　トレンチ 1　Ⅲ a2 層上面遺構平面図

1）SK1 土坑　（第 187 ～ 188 図、図版 40-3、40-7）

S7-E33 グリッドに位置する。SK3 と重複し、SK3 より新しい。東側を撹乱に削平される。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 76cm、深さ 103cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈す。底面は起伏がある。堆積土は 6 層の砂質シルトに分層され、礫、炭化物を含む。遺物は陶器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

2）SK3 土坑　（第 187 ～ 188 図、図版 40-3、40-8）

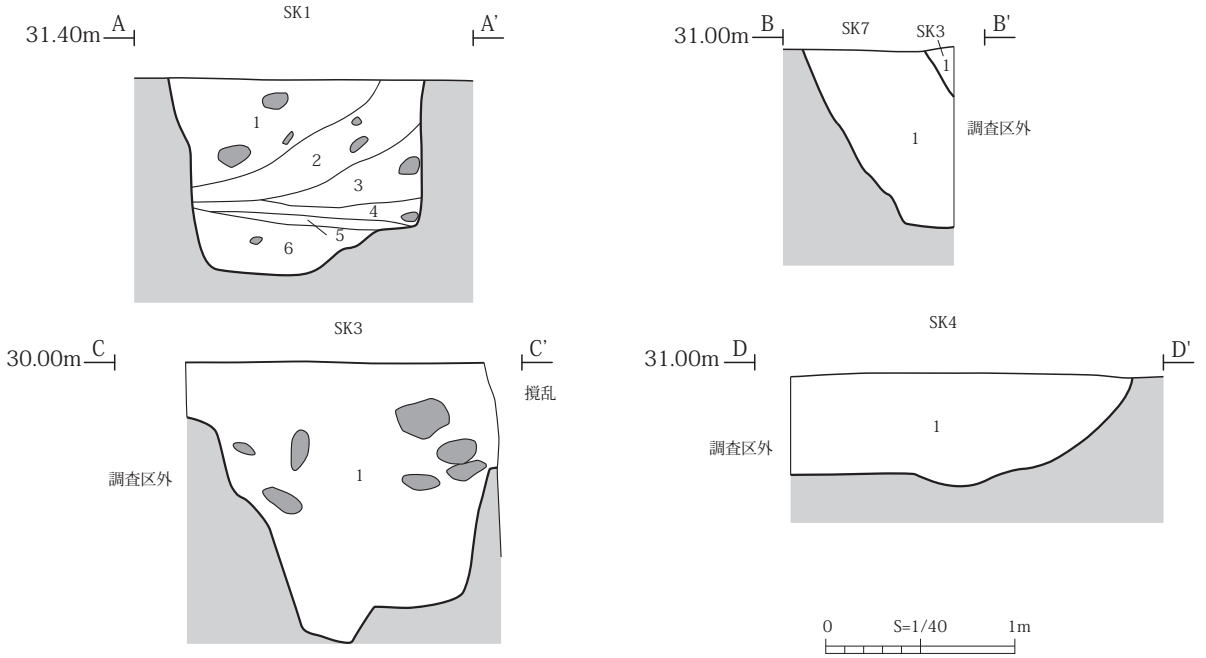
S6・7-E33 グリッドに位置する。SK1、SK7 と重複し、SK1 より古く SK7 より新しい。北西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 71cm、短軸 56cm、深さ 1.48m を測る。平面形は不整形で、断面形は逆台形を呈す。底面は起伏が著しい。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で、礫を含んでいる。遺物は出土していない。

3）SK4 土坑　（第 187 ～ 188 図、図版 40-3、41-1）

S7-E33 グリッドに位置する。中央部を撹乱に削平され、東西は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 303cm、短軸 120 ～ 180cm、深さ 59cm を測り、主軸方位は N-61°-E を示す。平面形は溝状で、断面形は皿状を呈す。底面は起伏がある。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層で、小礫を少量含む。遺物は陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

4）SK7 土坑　（第 190 ～ 191 図、図版 40-3、41-2）

S7-E33 グリッドに位置する。SK3 と重複し、SK3 より古い。西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 64cm、短軸 22cm、深さ 96cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層で、礫、炭化物を少量含む。遺物は出土していない。



SK1　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径１～３mm の炭化物粒子微量、径 10cm 大の礫含む
2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 10cm 大の礫少量
3	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	炭化物粒子少量、径 10cm 大の礫少量
4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	径１～３mm の炭化物粒子少量
5	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	なし	なし	
6	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径３cm 程の小礫微量

SK3　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径 10 ～ 25cm の礫多量

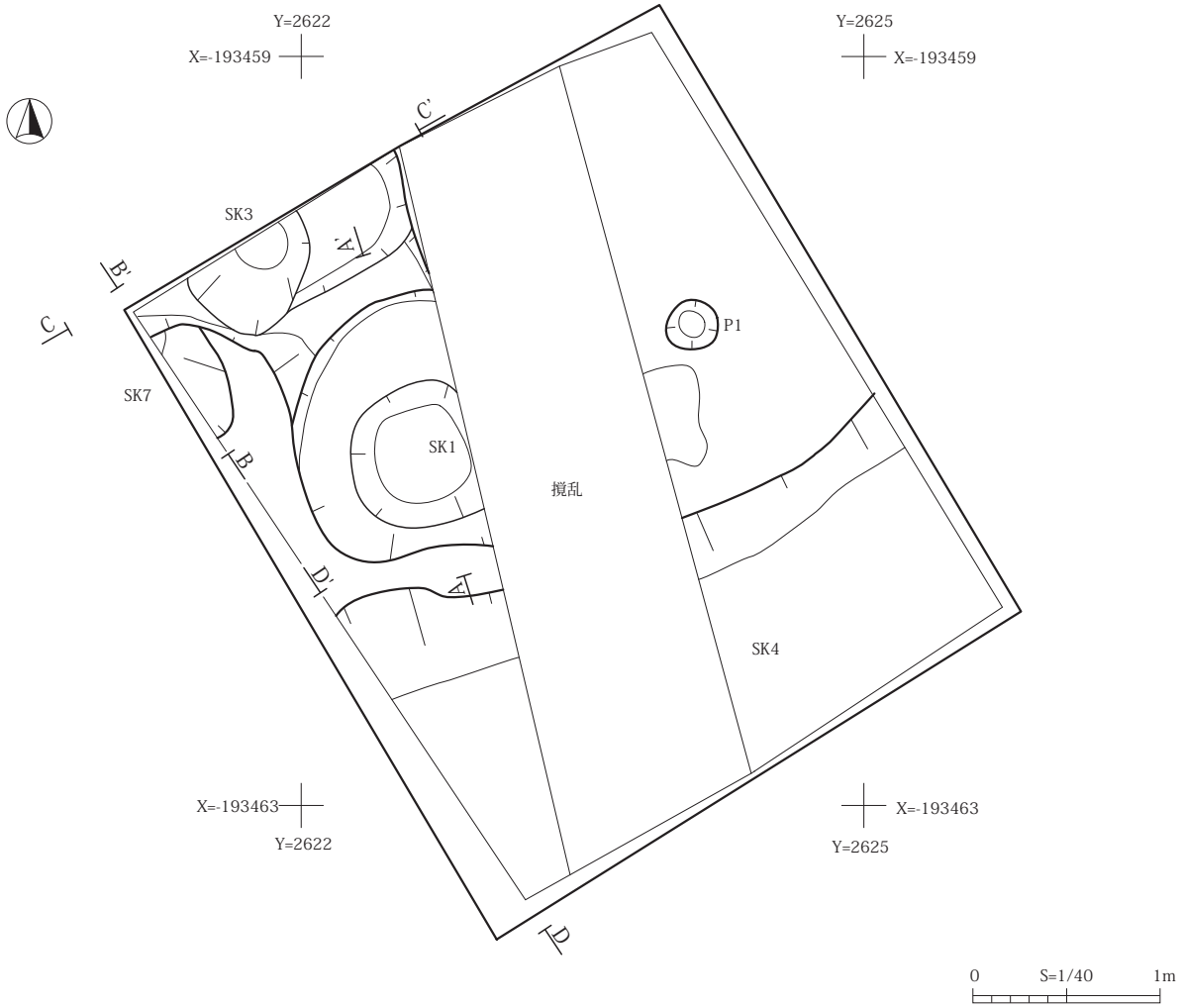
SK4　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径３～ 5cm の礫少量

SK7　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 10 ～ 15cm の礫少量、径１～ 3mm の炭化物少量

第 187 図　トレンチ１　Ⅲ a1 層上面遺構断面図



第 188 図　トレンチ 1　Ⅲ a1 層上面遺構平面図

2　トレンチ 2　（第 189 図、図版 41-3）

トレンチ 2 では 1 面の遺構面が確認された。また、遺構面以下は遺物包含層が確認され、出土遺物の年代から平成 21 年度調査区のⅢ a 層、Ⅲ b 層、Ⅳ a 層、Ⅳ b 層、Ⅴ層に対応すると考えられる。

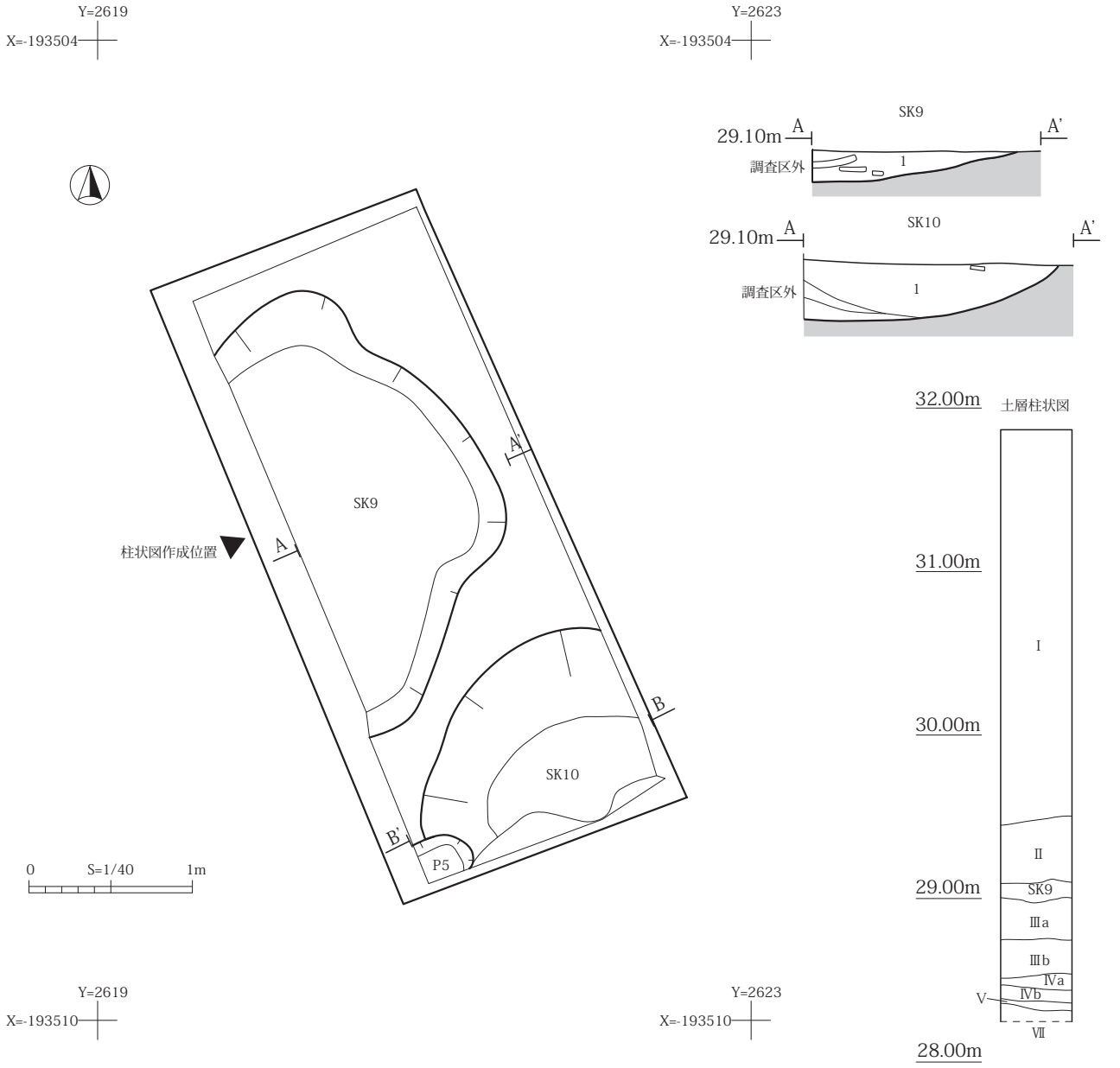
1）SK9 土坑　（第 189 図、図版 41-3 ～ 41-4）

S11-E32・33 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 276cm、短軸 157cm、深さ 20cm を測る。平面形は不整形で、断面形は皿状を呈す。底面は西側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、瓦片等の遺物を多量に含む。遺物は瓦片、19 世紀代を中心とした陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

2）SK10 土坑　（第 189 ～ 190 図、図版 41-3、41-5）

S11-E33 グリッドに位置する。P5 と重複し、P5 より古い。南側と東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 165cm、短軸 82cm、深さ 37cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈す。底面は中央に向かって

緩やかに傾斜する。堆積土は３層の砂質シルト層に分層される。遺物は瓦片、19 世紀代を中心とした陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片等が出土している。そのうち、陶器１点、磁器１点を図示した。



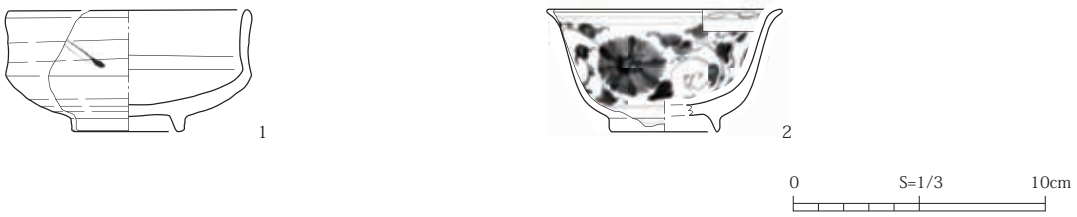
SK9　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	瓦片多量、径１～３mm 炭化物少量

SK10　土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	径１～３mm 炭化物少量、遺物、径３～５ｃｍの礫少量

第 189 図　トレンチ２　Ⅲａ層上面遺構平面図

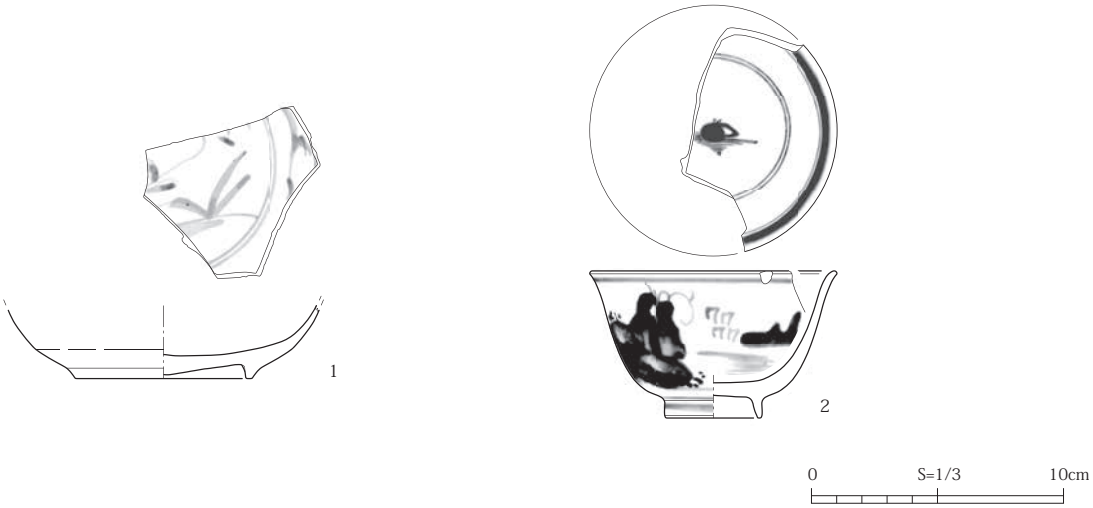


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm) 口径	底径	器高	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	92-4	1 層	陶器	腰折碗	口縁～底部	やや密	9.5	4.5	4.8	大堀相馬	18 世紀後半～ 19 世紀	外面：鉄絵	I-904
2	92-5	1 層	磁器	端反碗	口縁～底部	密	9.4	4.2	4.9	瀬戸・美濃	19 世紀	外面：牡丹唐草　内面：雷文	J-616

第 190 図　SK10 出土遺物

3）遺構外出土遺物（第 191 図）

平成 22 年度調査区の出土遺物点数は瓦 272 点、陶器 316 点、土師質土器 59 点、瓦質土器 18 点、磁器 237 点、石製品 3 点、金属製品 10 点、土製品 3 点、その他 33 点、合計 951 点である。トレンチ 2 では整地層の残存状況が良く、上層のⅢｂ層と、最下層のⅤ層出土遺物を図示した。

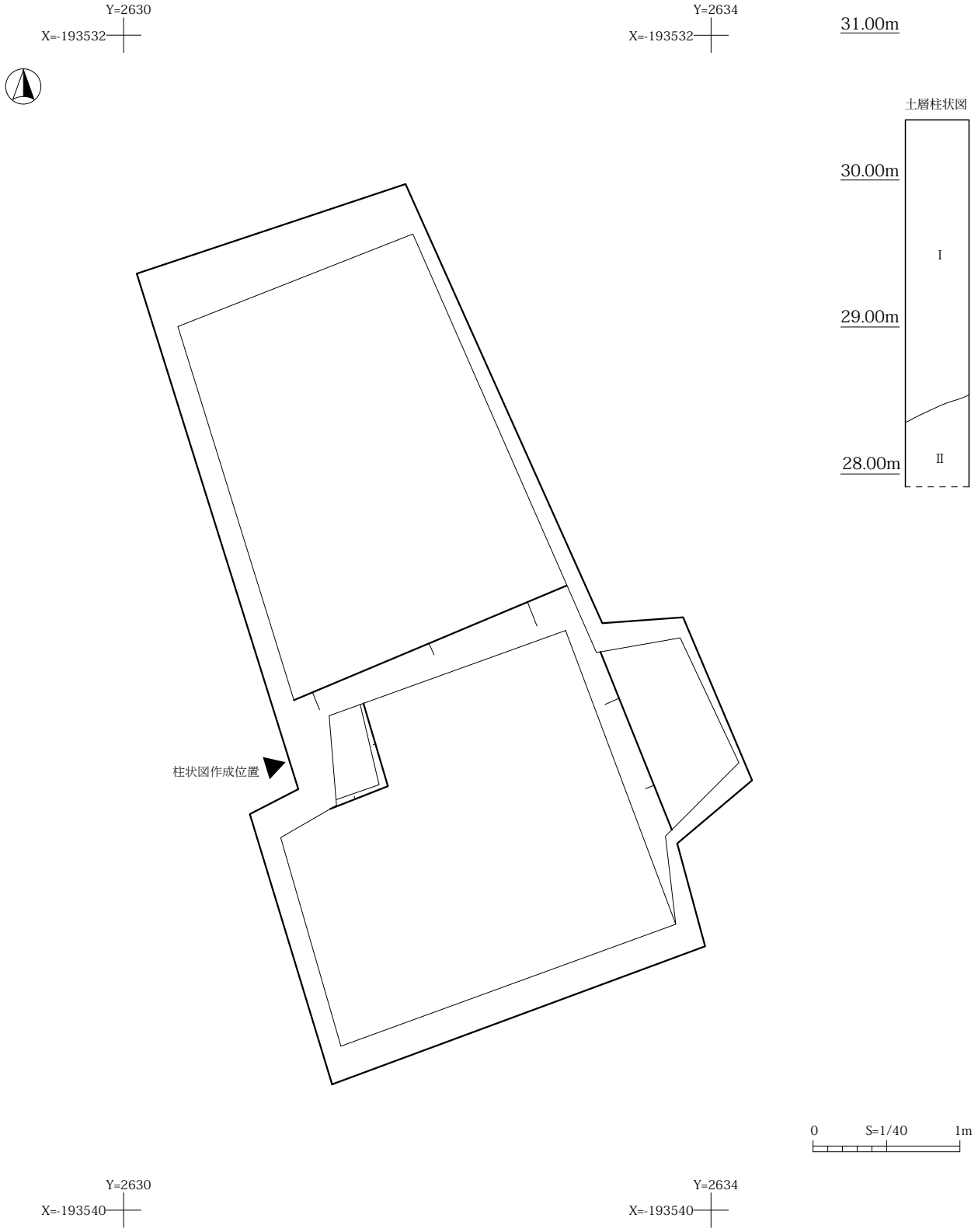


図版番号	写真図版番号	グリッド・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm) 口径	底径	器高	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	92-6	S11-E33 Ⅴ層	磁器	Ⅲ	体部～底部	密	-	7.1	(2.9)	肥前	17 世紀後半	内面：唐草文　二重圏線　草花文	J-617
2	92-7	S11-E33 Ⅲｂ層	磁器	端反碗	口縁～底部	密	9.8	3.8	5.8	瀬戸・美濃	19 世紀	外面：山水文　内面：圏線　二重圏線 見込み：虫文？	J-618

第 191 図　トレンチ 2 出土遺物

３　トレンチ３　（第 192 図、図版 41-7 ～ 41-8）

トレンチ３では調査開始面より 2.5m 掘り下げたが、遺構面および近世の整地層は確認されなかった。隣接する調査区から推定される検出標高値を下回っても遺構面が検出されないことと、安全を考慮した上で調査を終了した。



第 192 図　トレンチ３平面図

第 6 章　自然科学分析

第 1 節　樹種同定

吉川純子 (古代の森研究舎)

1. 試料と分析方法

仙台市青葉区の桜ヶ岡公園遺跡は、江戸時代に仙台藩の上級家臣の屋敷や、「小人」と呼ばれる下級家臣の住まい、「作事方会所」ほかの藩の施設などが置かれた遺跡である。平成 21 年度調査区では、柱列跡、井戸跡、土坑、溝跡などの遺構が検出され、当時利用されていた木製品も多数出土した。そこで当時の木材利用状況を調査するため 143 試料の木製品の樹種同定を行った。分析方法は出土木製品から直接剃刀を用いて横断面、接線断面、放射断面の 3 方向の薄片を採取し、ガムクロラールを用いてプレパラートに封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。

2. 同定結果と考察

桜ヶ岡公園遺跡から出土した木材の樹種同定結果を第 4 ～ 5 表に示す。出土した樹種は、モミ属、スギ、アスナロ属、針葉樹、ヤナギ属、カバノキ属、ブナ属、クリ、コナラ属コナラ節、ニレ属、ケヤキ、モクレン属、カツラ、トチノキ、アワブキ、ミズキ、同定不能環孔材であった。以下に同定された分類群の記載を行う。

モミ属 (Abies)：分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1-3 個あり、放射柔細胞の壁は厚くじゅず状末端壁を有する。

スギ (Cryptomeria japonica (Linn. Fil .) D.Don)：早材から晩材への移行は急で晩材部が厚い。分野壁孔はスギ型で横に長い楕円形となり、1 分野に 2 ～ 3 個ある。

アスナロ属 (Thujopsis)：早材から晩材への移行はゆるやかで年輪界が比較的明瞭なヒノキに似た針葉樹。晩材部付近に樹脂細胞があり水平壁が数珠状に肥厚する。分野壁孔はスギないしヒノキ型で小さく 1 分野に 2-4 個存在する。

針葉樹：分野壁孔が溶けて確認できず、細胞壁も薄く組織が失われている可能性があるものを針葉樹とした。

ヤナギ属 (Salix)：中くらいの道管が単独ないし数個放射方向に複合して年輪内にほぼ均一に分布する散孔材で、晩材部で径を減じる。年輪界は比較的明瞭。放射組織は異性で単列である。道管は単穿孔を有し道管側壁は交互状、道管放射組織間壁は大きなふるい状である。

カバノキ属 (Betula)：中程度の管孔が単独ないし 2-4 個放射方向に複合して年輪内にまばらに分布する散孔材。道管は階段穿孔を有し、側壁の壁孔は流れてらせん肥厚のように見える。道管放射組織間壁孔は大変細かく多数ある。放射組織は異性で 1-5 細胞幅。

ブナ属 (Fagus)：中程度の管孔が年輪内にほぼ均等に分布する散孔材で晩材部で個数と径が急に減じる。広放射組織のある部分で年輪界が外側に引っ張られる。放射組織は単列と広放射組織があり異性、道管は単穿孔と階段穿孔を有する。

クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.)：年輪はじめに大きい道管が花弁状に配列し、急に径が減じて火炎状に配列する環孔材である。道管は単穿孔、放射組織は 1 ～ 2 列でほぼ同性である。

コナラ属コナラ節 (Quercus sect. Prinus)：年輪のはじめに大きな道管が 2-3 列集合し、その後径が急減して波状に薄壁で角張った小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で放射組織は同性で単列と広放射組織があり、横断面で広放射組織が目立つ。

ニレ属 (Ulmus)：やや大型の管孔が年輪はじめに 1,2 列集合し、晩材部では薄壁の角張った管孔が斜め方向に塊で連なる環孔材。道管の穿孔板は単一で小道管の内部にはらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で晩材部では連合翼状につらなる。放射組織は同性で外縁がすっきりした紡錘形である。

試料番号	登録番号	器種	出土地点	樹種
1	L10	黒漆塗金具付き容器	Ⅲｂ層	ブナ属
2	L113	赤漆塗杓文字付き	SX1	ブナ属
3	L63	器具	Ⅳｂ層	アスナロ属
4	L372	傘下轆轤	SK49	ミズキ
5	L398	容器底板	SK49	スギ
6	L391	容器？	SK49	アスナロ属
7	L390	鉢	SK49	トチノキ
8	L371	櫛	SK49	カバノキ属
9	L389	匙？	SK49	樹皮
10	L357	匙	SK49	スギ
11	L79	重箱	Ⅴ層	アスナロ属
12	L528	長柄農具	SX49	コナラ属コナラ節
13	L387	農具？	SK49	コナラ属コナラ節
14	L236	鋤？	SK84	コナラ属コナラ節
15	L73	柄 (柄杓転用 138 と同一試料)	Ⅴ層	スギ
16	L45	部品？	Ⅳａ層	針葉樹
17	L43	器具部品？	Ⅳａ層	針葉樹
18	L527	器具部品？	SX49	スギ
19	L385	桶側板	SK49	針葉樹
20	L477	桶側板内側黒漆塗	SK49	スギ
21	L378	桶底板	SK49	針葉樹
22	L384	桶側板	SK49	スギ
23	L235	桶底板	SK84	スギ
24	L235	桶側板	SK84	スギ
25	L377	容器底板	SK49	スギ
26	L121	容器底板	SX1	針葉樹
27	L131	容器側板	SX1	スギ
28	L118	桶底板	SX1	スギ
29	L123	桶底板	SX1	モミ属
30	L129	容器薄板	SX1	スギ
31	L119	容器底板	SX1	スギ
32	L66	容器底板	Ⅳａ層	針葉樹
33	L376	容器底板	SK49	スギ
34	L374	容器底板	SK49	スギ
35	L458	容器薄板	SK49	アスナロ属
36	L394	容器薄板	SK49	アスナロ属
37	L448	容器薄板	SK49	アスナロ属
38	L392	容器薄板	SK49	針葉樹
39	L375	曲げ物底板	SK49	スギ
40	L382	容器側板	SK49	カツラ
41	L240	桶側板	SK84	スギ
42	L241	桶側板	SK84	スギ
43	L120	桶蓋板	SX1	針葉樹
44	L242	桶側板	SK84	針葉樹
45	L529	曲げ物底板	SX49	針葉樹
46	L237	容器蓋板	SK84	スギ
47	L7	下駄	Ⅲｂ層	針葉樹
48	L7	下駄歯	Ⅲｂ層	針葉樹
49	L8	下駄	Ⅲｂ層	針葉樹
50	L369	下駄	SK49	アスナロ属
51	L220	下駄	SK84	ブナ属
52	L230	下駄	SK84	ヤナギ属
53	L116	下駄	SX1	同定不能環孔材
54	L270	下駄	SX39	ニレ属
55	L64	下駄	Ⅳｂ層	針葉樹
56	L65	下駄	Ⅳｂ層	ケヤキ
57	L358	下駄	SK49	ニレ属
58	L358	下駄歯	SK49	ニレ属
59	L359	下駄	SK49	クリ
60	L359	下駄歯	SK49	ブナ属
61	L360	下駄	SK49	ケヤキ
62	L360	下駄歯	SK49	ニレ属
63	L364	下駄	SK49	ニレ属
64	L364	下駄歯	SK49	ケヤキ
65	L365	下駄	SK49	ケヤキ
66	L365	下駄歯	SK49	ケヤキ
67	L361	下駄	SK49	トチノキ
68	L367	下駄	SK49	同定不能環孔材
69	L367	下駄歯	SK49	ケヤキ
70	L368	下駄	SK49	カツラ
71	L362	下駄	SK49	スギ

第４表　桜ヶ岡公園遺跡出土木製品樹種同定結果（１）

試料番号	登録番号	器種	出土地点	樹種
72	L77	漆器	Ⅴ層	ブナ属
73	L517	下駄	SX49	カツラ
74	L124	曲げ物底板	SX1	スギ
75	L518	下駄	SX49	ケヤキ
76	L518	下駄歯	SX49	ケヤキ
77	L519	下駄	SX49	ケヤキ
78	L519	下駄歯	SX49	ケヤキ
79	L521	下駄	SX49	ケヤキ
80	L521	下駄歯	SX49	ケヤキ
81	L520	下駄	SX49	ケヤキ
82	L520	下駄歯	SX49	ケヤキ
83	L522	下駄	SX49	ケヤキ
84	L522	下駄歯	SX49	ケヤキ
85	L523	下駄	SX49	カバノキ属
86	L233	下駄	SK84	モクレン属
87	L566	下駄	SK74	ケヤキ
88	L30	下駄	Ⅳａ層	トチノキ
89	L554	漆器	SK80	ブナ属
90	L32	下駄	Ⅳａ層	トチノキ
91	L525	下駄	SX49	クリ
92	L525	下駄歯	SX49	クリ
93	L126	荷札木簡	SX1	スギ
94	L127	荷札木簡	SX1	スギ
95	L128	荷札木簡	SX1	スギ
96	L388	荷札木簡	SK49	スギ
97	L311	箸	SK49	アスナロ属
98	L310	箸	SK49	アスナロ属
99	L309	箸	SK49	アスナロ属
100	L308	箸	SK49	アスナロ属
101	L565	箸	SK74	針葉樹
102	L307	箸	SK49	アスナロ属
103	L306	箸	SK49	針葉樹
104	L305	箸	SK49	アスナロ属
105	L304	箸	SK49	アスナロ属
106	L215	漆器	SK84	ブナ属
107	L213	漆器	SK84	ブナ属
108	L216	漆器	SK84	ブナ属
109	L214	漆器	SK84	ブナ属
110	L217	漆器	SK84	ブナ属
111	L284	漆器	SK49	ブナ属
112	L103	漆器	SX1	ブナ属
113	L104	漆器	SX1	ブナ属
114	L107	漆器	SX1	ブナ属
115	L105	漆器	SX1	ブナ属
116	L106	漆器	SX1	ブナ属
117	L109	漆器	SX1	トチノキ
118	L98	漆器	SK43	ブナ属
119	L266	漆器	SX39	ブナ属
120	L278	漆器	SK49	ブナ属
121	L277	漆器	SK49	ブナ属
122	L287	漆器	SK49	ブナ属
123	L288	漆器	SK49	ブナ属
124	L282	未成品	SK49	ブナ属
125	L279	漆器	SK49	アワブキ
126	L511	漆器	SX49	ブナ属
127	L508	漆器	SX49	ブナ属
128	L292	漆器	SK49	ブナ属
129	L510	漆器	SX49	ブナ属
130	L280	漆器	SK49	ブナ属
131	L281	漆器	SK49	ブナ属
132	L507	漆器	SX49	ブナ属
133	L553	漆器	SK80	ブナ属
134	L546	漆器	SK64	ブナ属
135	L552	漆器	SK80	ブナ属
136	L561	漆器	SK74	ブナ属
137	L74	漆器	Ⅴ層	ブナ属
138	L72	漆器 (柄杓転用 15 と同一試料)	Ⅴ層	ブナ属
139	L71	漆器	Ⅴ層	ブナ属
140	L297	漆器	SK49	ブナ属
141	L283	漆器	SK49	ブナ属
142	L562	漆器	SK74	ブナ属
143	L563	漆器	SK74	ブナ属

第５表　桜ヶ岡公園遺跡出土木製品樹種同定結果（２）

ケヤキ (Zelkova serrata (Thunb.) Makino)：年輪はじめに大型で丸い道管が単独で 1 列並び、晩材部では小型で薄壁の角張った管孔が多数集合して斜めないし接線方向に帯状に連なる環孔材。道管の穿孔板は単一で小道管内壁にらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で晩材部では小道管の周囲を囲んで帯状となる。放射組織は異性で 1-8 細胞幅で放射細胞の縁にしばしば大型の結晶がある。

モクレン属 (Magnolia)：中程度の道管が数個放射方向に複合して年輪内に散在する環孔材で年輪界は明瞭である。道管は単一と階段穿孔がある。放射組織は異性で 2-3 細胞幅で道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状である。

カツラ (Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.)：やや小さく薄壁でやや角張った管孔が年輪内に均一に高密度で分布する散孔材。道管は階段穿孔を有し、道管側壁は階段状で道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状である。放射組織は異性で 1-2 細胞幅である。

トチノキ (Aesculus turbinata Blume)：中くらいの道管が単独ないし数個放射方向に複合して年輪内に均一に分布する散孔材。道管は単穿孔を有し道管内壁にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状配列を呈する。

アワブキ (Meliosma myriantha Sieb. et Zucc.)：中くらいでやや厚壁の道管が単独ないし軸方向柔細胞を間に挟んで 2-4 個放射方向に複合する散孔材。道管は単一穿孔と段数の少ない階段穿孔を有する。放射組織は異性で 1-4 細胞幅でかなり高い。

ミズキ (Cornus controversa Hemsl. ex Prain)：中くらいの道管が単独ないし数個複合して年輪内に散在する環孔材。道管は階段穿孔を有し階段数は 30 以上。放射組織は異性で 1-4 細胞幅である。

樹皮：放射断面と接線断面ともに管孔が確認されず、柔細胞などが層状に配列している。

本遺跡で出土した木製品の器種別樹種集計を第 5 表にまとめた。まず樹種から見ると最も多い樹種はブナ属 42 点で以下スギ 25 点、ケヤキ 17 点、針葉樹 16 点、アスナロ属 14 点が上位 5 種である。ブナ属が多かった要因としては、木製品 143 点中漆器が 40 点と多いためと考えられる。スギは曲物と容器に多く利用され、荷札に関しては全てがスギであった。3 番目に多いケヤキはすべて下駄と下駄歯に使われていた。アスナロ属は箸と容器に多く使われていた。また、コナラ属コナラ節はすべて農具であった。

器種別では、漆器はトチノキとアワブキ以外はすべてブナ属であった。曲物にはスギが多く利用され 1 点はモミ属であり、すべて針葉樹が使われていた。容器はスギとアスナロ属で針葉樹がほとんどだがブナ属とカツラも使われていた。箸は 9 点中 7 点がアスナロ属であった。これに対し下駄と下駄歯はケヤキが多いものの、スギ、アスナロ属、ニレ属、トチノキ、ブナ属、クリ、カバノキ属、カツラ、モクレン属、ヤナギ属と様々な樹種を利用している。

	漆器	鉢	箸	匙	柄杓	曲物	容器	傘下轆轤	櫛	下駄	下駄歯	農具	荷札	部品	樹種計
ブナ属	38	-	-	-	1	-	1	-	-	1	1	-	-	-	42
スギ	-	-	-	1	1	9	8	-	-	1	-	-	4	1	25
ケヤキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	8	-	-	-	17
針葉樹	-	-	2	-	-	5	3	-	-	3	1	-	-	2	16
アスナロ属	-	-	7	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	1	14
ニレ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	5
トチノキ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	5
クリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	3
コナラ属コナラ節	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3
カツラ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	3
カバノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2
モミ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
モクレン属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
アワブキ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ミズキ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
同定不能環孔材	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
樹皮	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
器種計	40	1	9	2	2	15	18	1	1	30	13	3	4	4	143

第 6 表　桜ヶ岡公園遺跡出土木製品器種別集計表

このように漆器、曲物、容器、箸、農具は樹種を限定して利用していたと考えられる。一方、生活具の中でも下駄は消耗が激しいため、あまり限定せずに容易に調達できる樹種を利用していたと考えられ、これらの樹種のほとんどは東北の森林を構成する種類である。漆器に１点だけ使われていたアワブキは東北地方に分布しているもののほとんど出土例がないが、西日本では炭化材や加工材、自然木で出土例があり、大径木になることが少ないので燃料材以外では小物に加工されることが多い。

第２節　獣骨同定

中村賢太郎 (パレオ・ラボ)

１. 試料と分析方法

桜ヶ岡公園遺跡は、江戸時代に仙台藩の上級家臣の屋敷や、「小人」と呼ばれる下級家臣の住まい、「作事方会所」ほかの藩の施設などが置かれた遺跡である。 ここでは平成 21 年度調査区において出土した動物遺体についての同定結果を報告する。

試料は発掘調査現場において取り上げられた動物遺体である。動物遺体は水洗され、取上げられた単位ごとに収納されていた。ただし、イヌ１頭分については出土時の状態を保ったまま周囲の土ごと採取された。このイヌについては、今後の保管・活用を考え、個々の部位に分離させずに観察と記載を行った。

試料が採取されたのは、SK46、SK49、SK64、SK79、SK80、SK80、SK74、SX21、SX33、SX42、Ｖ層等である。同定は肉眼および実体顕微鏡下で現生標本との比較により行った。各部位の計測は Driesch（1976）に従って行った。なお、現生標本の閲覧と同定にあたっては、国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生と早稲田大学の樋泉岳二先生にご協力をいただいた。

２. 同定結果と考察

同定された動物遺体の一覧を第７表に、個々の動物遺体の観察所見は第８表～第９表に示す。

（1）魚類

魚類は、サメ類、マトウダイ科、フサカサゴ科、タイ科、マグロ属、ヒラメ科が同定された。

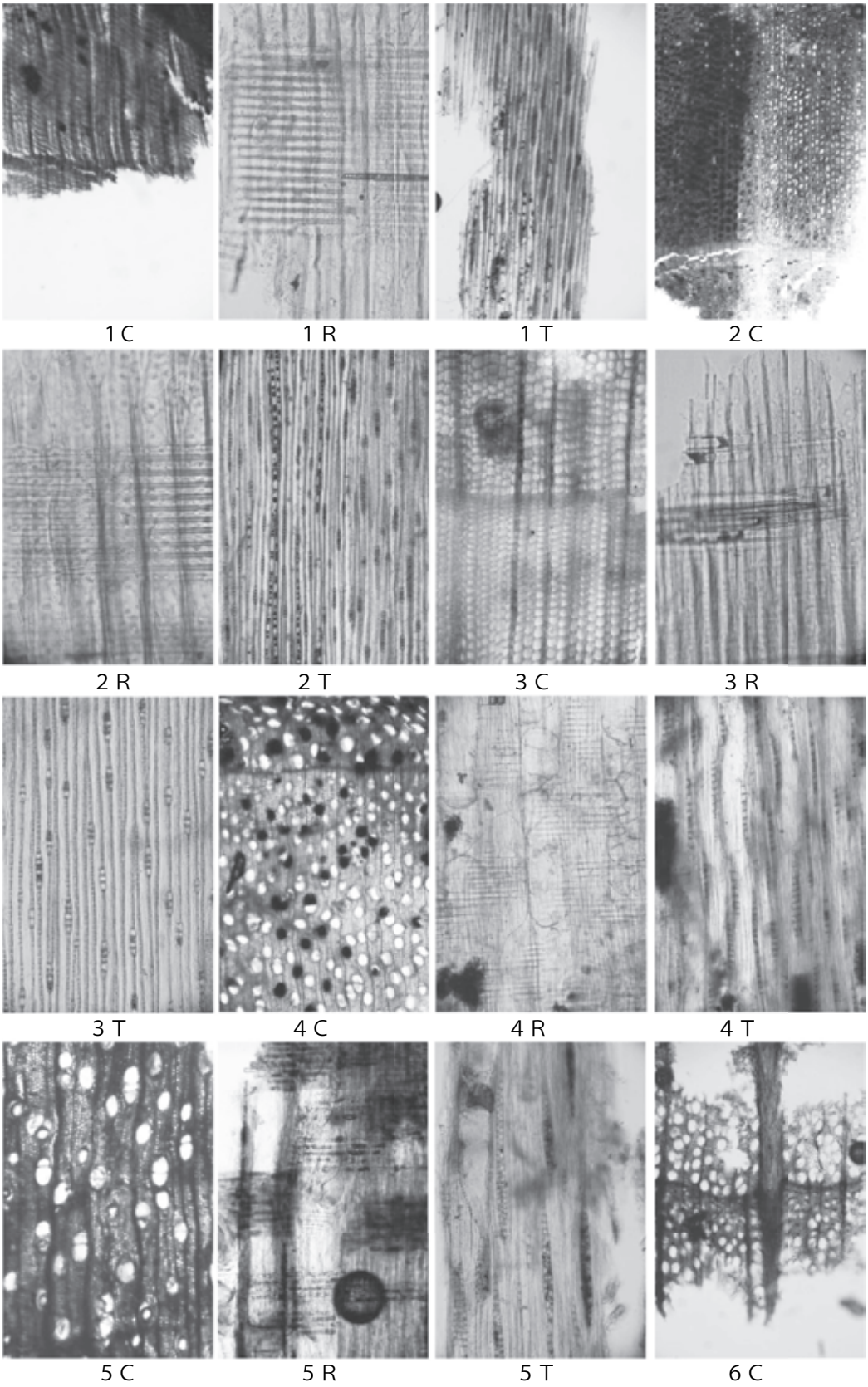
サメ類の椎骨が SK64、マトウダイ科の右主上顎骨と左前上顎骨がＶ層 S11-E43、フサカサゴ科の左前鰓蓋骨が SK49、タイ科の椎骨が SX42、マグロ属の椎骨がＶ層 S12-E45、同じくマグロ属の椎骨と尾椎および尾部棒状骨が SK64、ヒラメ科の左主上顎骨がＶ層 S11-E44、同じくヒラメ科の椎骨が SX42 で見られた。これらのうち、SX42 のタイ科椎骨とヒラメ科椎骨は焼けており、それ以外は焼けていなかった。

（2）哺乳類

哺乳類は、イヌ、ニホンジカ、イルカ類が同定された。イヌは、SX33 より１体分がまとまって出土した他、SX49、SK64、SK79、SK80 からも出土した。その他に SK46 ではイヌの可能性のある骨が見られた。

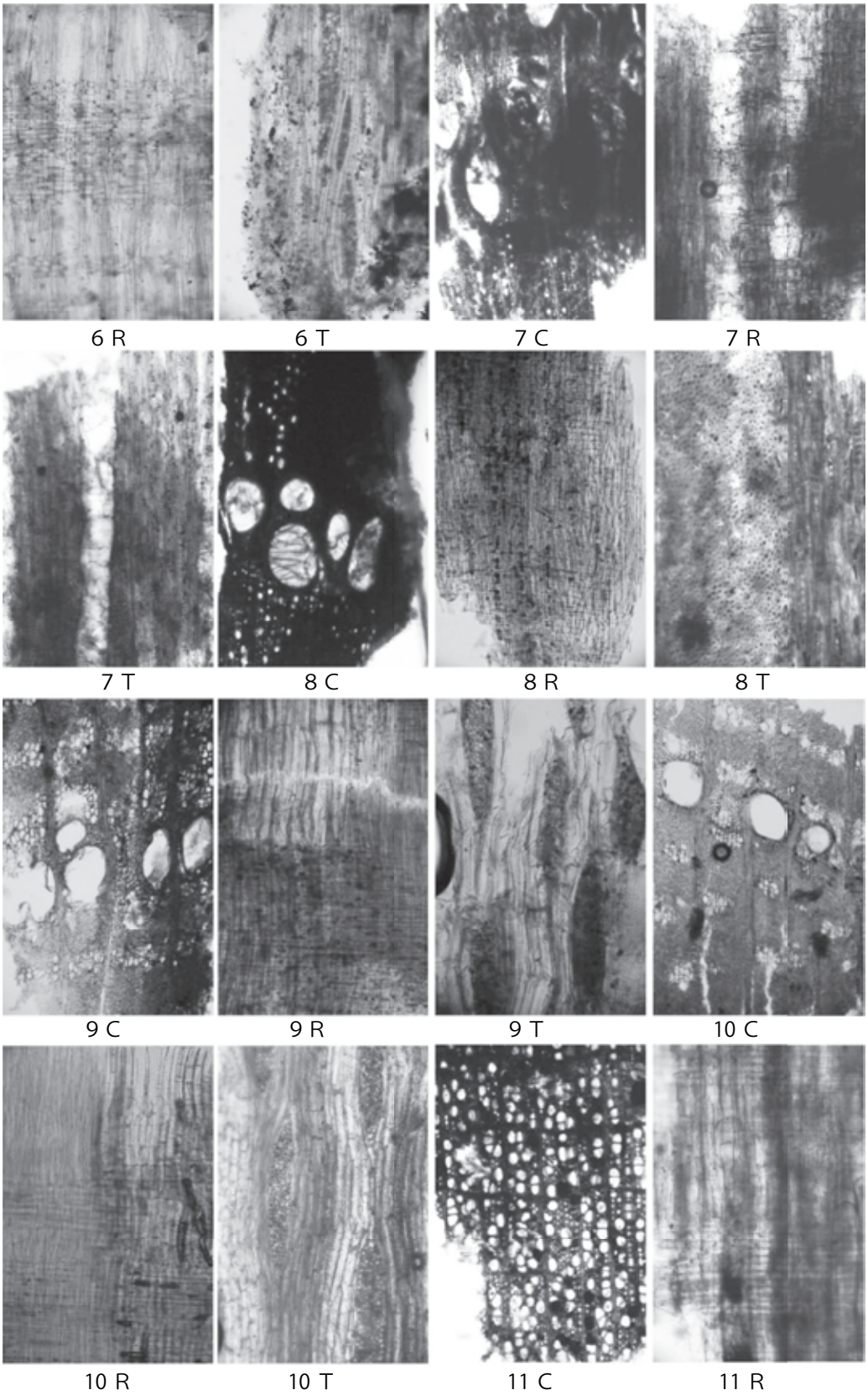
一体分が出土したイヌは、頸椎の一部や四肢の先端が失われていたが、ほぼ全身の部位が見られた。それぞれの部位は互いに交連した状態だった。頭部は左側を上、胴部や四肢は右側を上に向けていた。SK79 から SK80 にかけて出土したイヌは、頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎、胸椎、肋骨など頭部から胴部にかけての部位、右肩甲骨、左上腕骨、左右尺骨など前肢、左右大腿骨、左右脛骨など後肢が見られた。前肢や後肢の各部位には焼けた痕が見られ、白色化している部分も多く見られた。SX49 ではイヌの右下顎骨と右下顎第１後臼歯（M1）、SK64 ではイヌの左肩甲骨が見られた。

ニホンジカは、SK49、SK64、SK79 あるいは SK80、SK74、SX21、SX49、Ｖ層 S12-E45 で見られた。その他



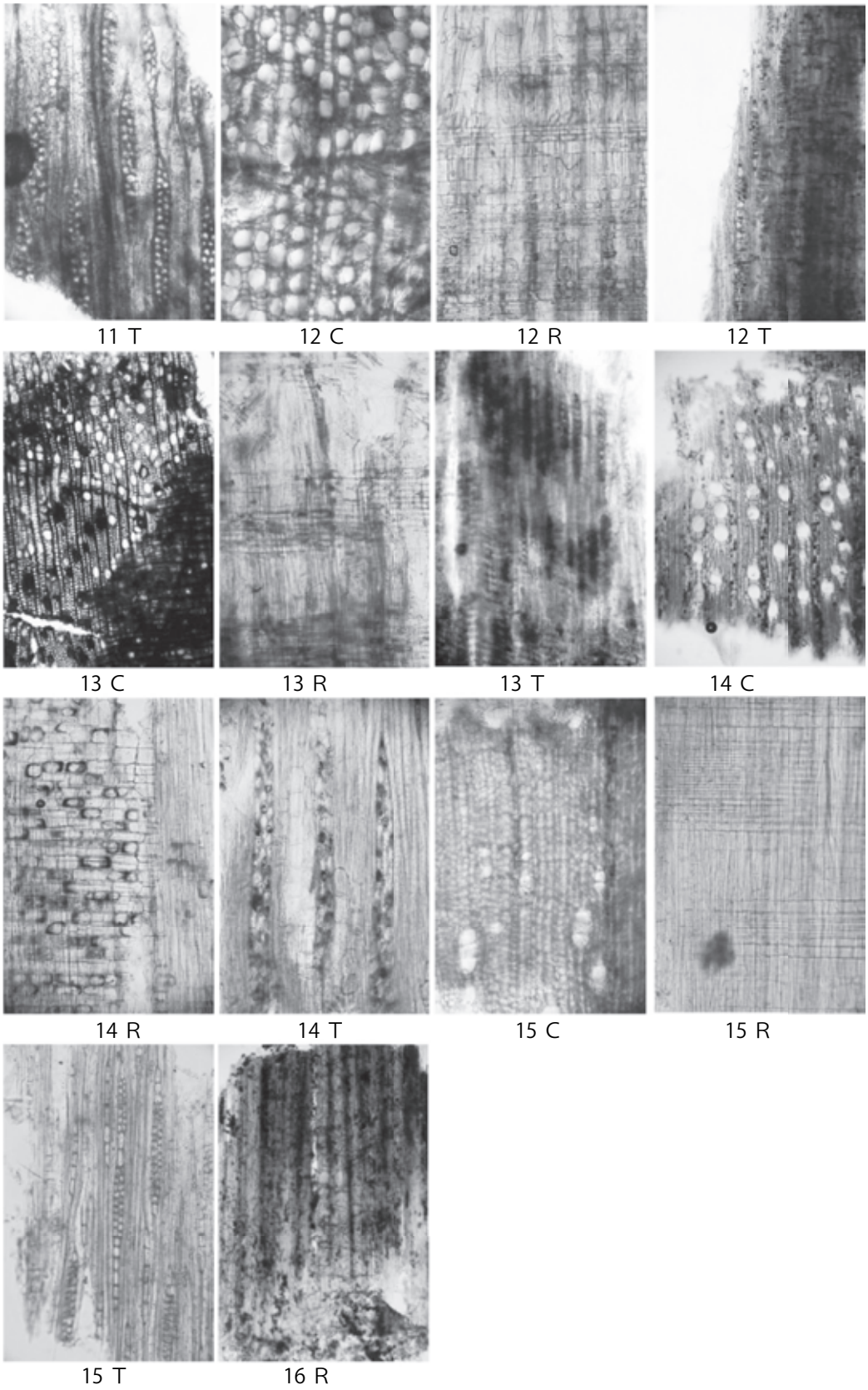
第 193 図　桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 1

1. モミ属 (No.29 曲物底板) 2. スギ (No.39 曲物底板) 3. アスナロ属 (No.102 箸) 4. ヤナギ属 (No.52 下駄) 5. カバノキ属 (No.85 下駄) 6. ブナ属 (No.131 漆器)　C: 横断面 ,R: 放射断面 ,T: 接線断面 , スケールは 0.1mm



第 194 図　桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 2

6. ブナ属 (No.131 漆器) 7. クリ (No.92 下駄歯) 8. コナラ属コナラ節 (No.12 農具) 9. ニレ属 (No.54 下駄) 10. ケヤキ (No.77 下駄)
11. モクレン属 (No.86 下駄)　C: 横断面 ,R: 放射断面 ,T: 接線断面 , スケールは 0.1mm



第 195 図　桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 3

11. モクレン属 (No.86 下駄)12. カツラ (No.40 容器側板)13. トチノキ (No.7 鉢)14. アワブキ (No.125 漆器)15. ミズキ (No.4 傘下轆轤)16. 樹皮 (No.9 匙 ?)　C: 横断面 ,R: 放射断面 ,T: 接線断面 , スケールは 0.1mm

にＶ層 S11-E44 ではニホンジカの可能性のある骨が見られた。SX49 ではニホンジカの左脛骨、SK49 では左右大腿骨、SK64 では左橈骨と右大腿骨、SK79 あるいは SK80 では左中足骨、SK74 では右下顎骨 2 点と左右が癒合した寛骨および左寛骨、Ｖ層 S11-E44 および S12-E45 では左下顎骨と左肩甲骨および右上腕骨、SX21 では左脛骨が見られた。ニホンジカと同定できた試料は、いずれも焼けていなかった。SK49 の左上腕骨には切創が見られた。SX49 の左脛骨近位端、SK64 の左橈骨遠位端および右大腿骨遠位端は未癒合であった。イルカ類（小型のハクジラ亜目）は、Ｖ層 S11-E44 から左肋骨が見られた。焼けていなかった。

（3）貝類

貝類は、種不明の破片 1 点が SX42 で見られた。

魚類は、他の種類の動物遺体と共に出土する遺構が多いことから、食用後に廃棄されたと考えられる。魚類として、サメ類（ホシザメ、アオザメほか）、マトウダイ科（マトウダイ、カガミダイほか）、フサカサゴ科（カサゴ、メバルほか）、タイ科（マダイ、クロダイほか）、マグロ属（クロマグロ、メバチマグロほか）、ヒラメ科（ヒラメ、タマガンゾウビラメほか）など海産魚類が食用とされていたと考えられる。

イヌについては、SX33 から一体分がまとまって出土したイヌと、SK79 から SK80 にかけて出土したイヌとで、取り扱われ方が対照的であった。一体分が出土したイヌは、ほぼ全身が見られ、部位と部位が交連した状態であり、埋葬されたと考えられる。埋葬姿勢は、首を後ろに捻り、前肢をやや曲げ、後肢をやや伸ばした姿勢である。年齢は、下顎の第 3 後臼歯（M3）が萌出しており、成獣と考えられる。性別は、陰茎骨が見られなかったことからメスと思われる。ただし、陰茎骨を見落とした可能性もあり、性別については断定できない。大きさは、頭蓋最大長が 200㎜あり、大型である。

SK79 から SK80 にかけて出土したイヌは、各部位が分離しているものの、部位の重複がないため、一体分の可能性が高い。同じ遺構からニホンジカの骨も出土しており、SK79 から SK80 にかけて出土したイヌは埋葬ではなく廃棄されたと考えられる。イヌは、頭部から胴部が焼けておらず、四肢が焼けている点が特徴的である。焼けた四肢骨は白色になっている部分が多く、高温の熱を受けたと考えられる。被熱に伴う亀裂や変形は少なく、被熱時に新鮮な状態であった可能性は低い。高温で焼けていることから意図的に火にさらされた可能性が高いものの、被熱した時点で新鮮だった可能性が低いことから、食用とされたかどうかについては疑問が残る。年齢は、下顎第 4 前臼歯（P4）が萌出しており、成獣と考えられる。性別は、頭蓋骨の矢状稜が発達しており、オスの可能性がある。大きさは中型と見られる。

ニホンジカは、いずれの遺構でも一部の部位のみが出土することや、他の種類の動物遺体と共に出土する遺構が

脊索動物門　Chordata
軟骨魚綱　Chondrichthyes
サメ類　Selachii
サメ類の一種　Selachii ord., fam., gen. et sp. Indet.
条鰭魚綱 Actinopterygii
真骨類　Teleostei
真骨類の一種　Teleostei ord., fam., gen. et sp. Indet.
マトウダイ目　Zeiformes
マトウダイ科　Zeidae
マトウダイ科の一種　Zeidae gen. et sp. Indet.
カサゴ目　Scorpaeniformes
フサカサゴ科　Scorpaenidae
フサカサゴ科の一種　Scorpaenidae gen. et sp. Indet.
スズキ目　Perciformes
タイ科　Sparidae
タイ科の一種　Sparidae gen. et sp. Indet.
サバ科　Scombridae
マグロ属　Thunnus
マグロ属の一種　Thunnus sp.
カレイ目　Pleuronectiformes
ヒラメ科　Paralichthyidae
ヒラメ科の一種　Paralichthyidae gen. et sp. Indet.
哺乳綱　Mammalia
哺乳綱の一種　ord., fam., gen. et sp. Indet.
食肉目　Carnivora
イヌ科　Canidae
イヌ属　Canis
イヌ　Canis lupus familiaris
鯨偶蹄目　Cetartiodactyla
シカ科　Cervidae
シカ属　Cervus
ニホンジカ　Cervus nippon
ハクジラ亜目　Odontoceti
ハクジラ亜目の一種　Odontoceti fam., gen. et sp. Indet.
軟体動物門　Mollusca
貝殻亜門　Conchifera
貝殻亜門の一種　Conchifera class, ord., fam., gen. et sp. Indet.

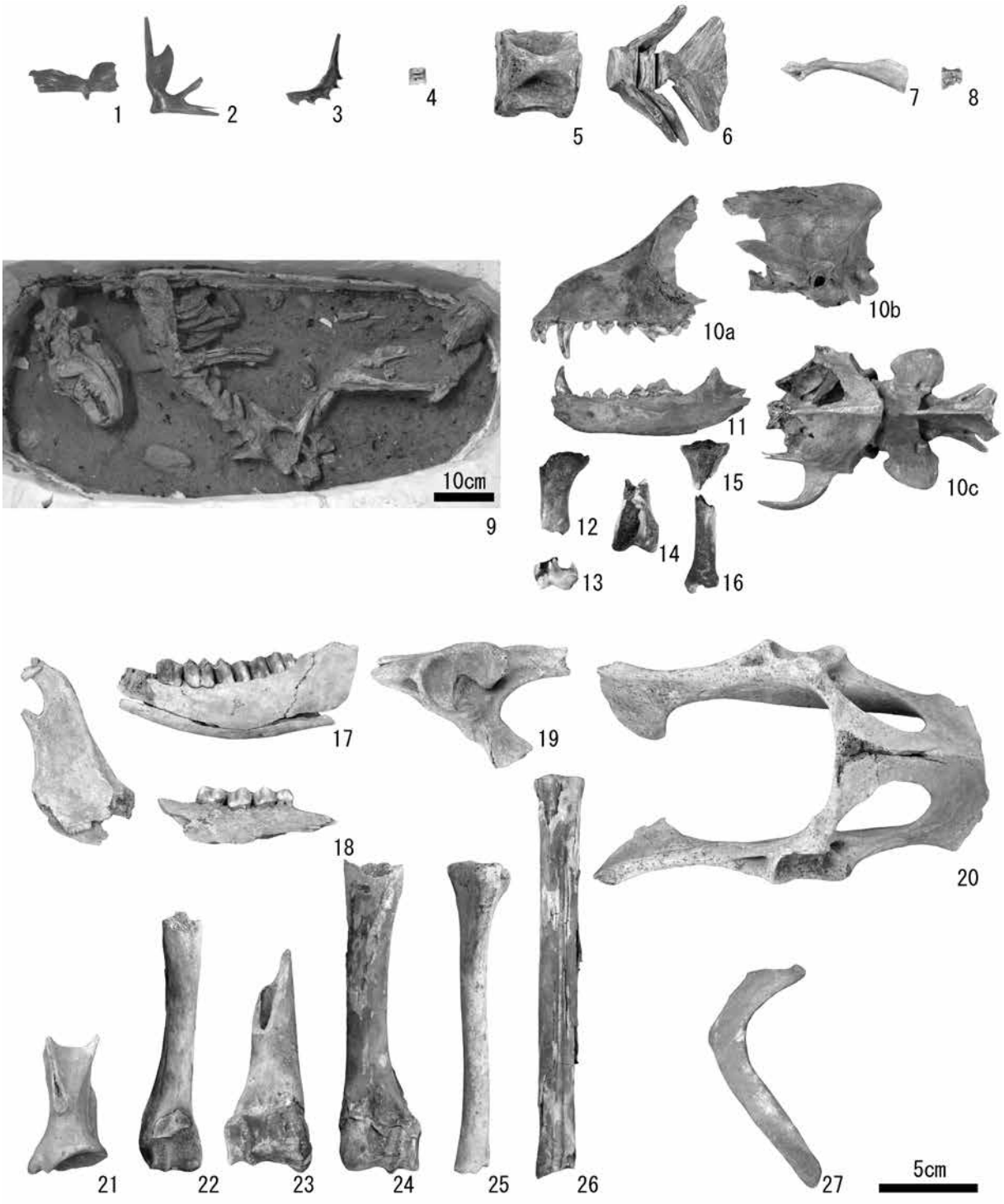
第７表　桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表

出土地点	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	計測値	備考
SK46	イヌ？	中手骨 or 中足骨	?	—	7		
		手根骨 or 足根骨	?	—	1		
		指骨	?	—	1		
SK49	フサカサゴ科	前鰓蓋骨	左	ほぼ完存	1		
	真骨類	不明	?	破片	＋		
	ニホンジカ	上腕骨	左	遠位端	1	最大長 :155m<, 遠位端最大幅 :41.6㎜	遠位端に切創
			右	遠位端	1	最大長 :135㎜ <, 遠位端最大幅 :30.3㎜	
SK64	サメ類	椎骨	—	半欠	1		斜めの割れ
	マトウダイ科？	主鰓蓋骨	左？	ほぼ完存	1		
	マグロ属	椎骨	—	ほぼ完存	8		
			—	破片	2		
		尾椎	—	ほぼ完存	2		
		尾部棒状骨	—	ほぼ完存	1		
		肋骨ほか	—	破片	＋		
	真骨類	不明	?	破片	＋		
	イヌ	肩甲骨	左	ほぼ完存	1	最大高 :124.6㎜ , 関節最大幅 :28.3㎜	
	ニホンジカ	橈骨	左	遠位端	1	遠位端最大幅 :32.4㎜	遠位端未癒合
		大腿骨	右	遠位端	1	計測不可	遠位端未癒合
SK74	ニホンジカ	下顎骨	右	下顎体 (P2-M1)	1	前臼歯列長 (P2-P4):35.6㎜	おそらく下顎枝と同一個体
			右	下顎枝	1	下顎枝高 :102.0㎜ <	おそらく下顎体と同一個体
		寛骨	左右	ほぼ完存	1	" 寛骨最大長 :196.5㎜ 寛骨臼最大幅 :36.2㎜ "	
			左	寛骨臼	1	寛骨臼最大幅 :41.8㎜	
SK79	イヌ	下顎骨	左	下顎体 (C-M2)	1	前臼歯列長 (P1-P4):36.8㎜ ,P2-P4:31.1mm	
		肩甲骨	右	関節窩	1	計測不可	焼 , 黒～白
		上腕骨	左	骨幹近位部	1		焼 , 茶～黒～白
		尺骨	左	肘頭	1		焼 , 黒～白
			右	骨幹	1		焼 , 茶～黒～白
		脛骨	左	骨幹破片	1		焼 , 茶～黒～白
			左	遠位端	1	遠位端最大幅 :17.4㎜	焼 , 茶～黒～白
			右	近位端	1		焼 , 茶～黒～白
			右	骨幹破片	1		焼 , 茶～黒～白
	イヌ？	上腕骨	左	近位端破片	1		焼 , 黒～灰
		肋骨	?	背側端	1		
			?	ほぼ完存	2		焼 , 黒～白
		橈骨	?	骨幹	1		焼 , 黒～白
	ニホンジカ	中足骨	左	近位端	1	最大長 :205㎜ <, 近位端最大幅 :26.2㎜	
	ニホンジカ？	椎骨	—	棘突起	1		焼 , 黒～白
	哺乳綱	不明	?	破片	＋		焼
SK80	イヌ	頭蓋骨	左	前上顎骨 , 上顎骨 , 頬骨 , 前頭骨	1	吻長 :103.7㎜	" 後頭骨などと同一個体 I1-M2"
			左右	側頭骨 , 頭頂骨 , 後頭骨	1	頭蓋高 :55.0㎜ , 後頭三角幅 :61.0㎜	" 上顎骨などと同一個体 矢状稜発達強い "
		環椎	—	完存	1		
		軸椎	—	完存	1		
		頸椎	—	ほぼ完存	1		
		胸椎	—	ほぼ完存	2		
		肋骨	?	ほぼ完存	4		
		上腕骨	左	遠位端	1	遠位端最大幅 :23.4㎜	焼 , 黒～白

第８表　桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表（１）

SK80	イヌ	尺骨	左	切痕	1		焼 , 黒～白
		大腿骨	左	遠位端	1	遠位端最大幅 :24.1㎜	焼 , 黒～白
			右	遠位端破片	1		焼 , 黒～白
		脛骨	左	近位端	1	近位端最大幅 :26.0㎜	焼 , 茶～黒～白 , 一部生
	イヌ？	橈骨	?	骨幹	1		焼 , 黒～白
		不明	?	破片	1		焼 , 黒～白
SX21	ニホンジカ	脛骨	左	近位端	1	最大長 :155㎜ <, 近位端最大幅 :33.5㎜	7-7
SX33	イヌ	全身	—	" 頭蓋骨 , 下顎骨 頸椎 (一部欠), 胸椎 , 腰椎 , 仙骨 肋骨 , 寛骨 右肩甲骨 , 右上腕骨 , 右橈骨 , 右尺骨 左大腿骨 , 左脛骨 , 左腓骨 左踵骨 右大腿骨 , 右脛骨 , 右腓骨 右踵骨 , 右距骨 , 右中足骨 "	1	" 頭蓋最大長 :200㎜ 右上腕骨最大長 :160㎜ 右橈骨最大長 :145㎜ 左大腿骨最大長 :170㎜ 右脛骨最大長 :160㎜ "	" 一体分 頭部は左側が上 胴部は右側が上 下顎は M3 まで萌出 除茎骨確認できず 矢状稜発達弱い "
SX42	貝類	—	?	破片	1		
	タイ科	椎骨	—	—	2		焼
	タイ科？	椎骨	—	—	4		焼
	ヒラメ科	椎骨	—	—	1		焼
	ヒラメ科？	前上顎骨？	?	—	1		焼
	真骨類	不明	?	破片	＋		焼
SX49	イヌ	下顎骨	右	下顎体 (P2-M3)	1	" 後臼歯列長 (M1-M3):45.7mm P2-M3:69.4mm,P2-P4:35.4mm"	
		歯	右	下顎 M1	1		
	ニホンジカ	脛骨	左	骨幹近位部	1	最大長 :170㎜ <	近位端未癒合
	哺乳綱	不明	?	破片	＋		
Ⅴ層 S11-E43	マトウダイ科	主上顎骨	右	ほぼ完存	1		
		前上顎骨	左	完存	1		
	マトウダイ科？	擬鎖骨	右	ほぼ完存	1		
		不明	?	破片	＋		
Ⅴ層 S11-E44	ヒラメ科	主上顎骨	左	完存	1	最大長 :67.4㎜	
	ニホンジカ？	肋骨	?	ほぼ完存	2		腹側に切創
		肩甲骨	左	関節窩破片	1		
	イルカ類	肋骨	左	完存	1		
	哺乳綱	不明	?	破片	1		
	マグロ属	椎骨	—	—	4		
	ニホンジカ	肩甲骨	左	関節窩	1	関節最大幅 :41.3㎜	
		上腕骨	右	遠位端	1	遠位端最大幅 :43.1㎜	
Ⅴ層 S12-E45	真骨類	不明	?	—	＋		
	ニホンジカ	下顎骨	左	下顎体 (P4-M3)	1	" 後臼歯列長 (M1-M3):55.9㎜ M1 磨滅指数 :3"	

第９表　桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表（２）



第 196 図　桜ヶ岡公園遺跡の動物遺体

1-2. マトウダイ科 : 1. 右主上顎骨 (Ⅴ層 S11-E43) 2. 左前上顎骨 (Ⅴ層 S11-E43)　3. フサカサゴ科 : 左前鰓蓋骨 (SK49)　4. タイ科 椎骨 (SX42)　5-6. マグロ属 : 5. 椎骨 (Ⅴ層 S11-E44) 6. 尾椎・尾部棒状骨 (SK64)　7-8. ヒラメ科 : 7. 左主上顎骨 (Ⅴ層 S11-E44) 8. 椎骨 (SX42)　9-16. イヌ : 9. 全身 (SX33) 10. 頭蓋骨・環椎・軸椎 (SK80) 11. 左下顎骨 (SK79) 12. 左上腕骨 (SK79) 13. 左上腕骨 (SK80) 14. 左大腿骨 (SK80) 15. 左脛骨 (SK80) 16. 左脛骨 (SK79)　17-26. ニホンジカ : 17. 左下顎骨 (Ⅴ層 S12-E45) 18. 右下顎骨 (SK74) 19. 左寛骨 (SK74) 20. 寛骨 (SK74) 21. 左肩甲骨 (Ⅴ層 S11-E44) 22. 右上腕骨 (SK49) 23. 右上腕骨 (Ⅴ層 S11-E44) 24. 左上腕骨 (SK49) 25. 左脛骨 (SX21) 26. 左中足骨 (SK79)　27. イルカ類左肋骨 (Ⅴ層 S11-E44)

多いことから、食用後に廃棄されたと考えられる。また、上腕骨には切創が見られ、解体時についたと考えられる。ニホンジカの頭部、前肢、後肢やニホンジカの可能性がある椎骨や肋骨が見られることから、桜ヶ岡公園遺跡にニホンジカの全身が持ち込まれ、解体され、食用とされたと考えられる。また、骨端が未癒合の四肢骨が見られ、成獣だけでなく年齢の若い個体も利用していたと考えられる。なお、ニホンジカと同じく狩猟対象となる大型陸生哺乳類のイノシシが見られない点が注目される。

イルカ類は肋骨が 1 点のみの出土であるが、食用とされていた可能性がある。

その他、種類は不明であるが、貝類も食用とされていたと考えられる。

３.終わりに

桜ヶ岡公園遺跡にから出土した動物遺体を同定した結果、食用と考えられる動物として、サメ類、マトウダイ科、フサカサゴ科、タイ科、マグロ属、ヒラメ科などの魚類、ニホンジカやイルカ類などの哺乳類、貝類が見られた。イヌについては、埋葬されたイヌと、被熱し廃棄されたイヌが見られた。後者のイヌが食用であったか否かは判断できなかった。

参考文献

Driesch, Angela von den (1976) A guide to measurement of animal bones from archaeological sites. 137p，Peabody museum.

金子浩昌（2001）食料残滓とその他の動物遺体．江戸遺跡研究会編「図説江戸考古学研究事典」：393-401，柏書房.

松井章（2008）動物考古学．312p，京都大学学術出版会.

西本豊弘・松井章編（1999）考古学と動物学．210p，同成社.

第 7 章　出土遺物と検出遺構について

第 1 節　出土遺物について

本調査区からは陶器、磁器、瓦質土器、土師質土器、土製品、石製品、木製品、金属製品、銭貨、瓦、ガラス製品等が出土している。出土遺物は、同一個体等を確認し、接合した後の総数で 52,560 点を数える。それらを各基本層及び基本層上面検出遺構からの出土遺物として集計した（第 10 表）。本節では桜ヶ岡公園遺跡の出土遺物について、その様相を整地層と遺構の堆積層とともに概観していきたい。

1　陶磁器

（1）層位別の産地変遷について

陶磁器は 16 世紀末～ 19 世紀代までの各時期のものが出土しており、接合後の破片数は陶器 14,748 点、磁器 17,218 点、合計で 31,966 点を数える。ここでは、近世の整地層が良好に残存していた西公園高架橋等Ⅱ区について、出土層別の産地集計を行なった結果について報告する。西公園高架橋等Ⅰ区は出土した遺物の大部分が近代以降の盛土層や撹乱出土であること、西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）については出土点数が少ないことから、傾向を判断するのに適さないと判断されたため、集計結果は掲載していない。西公園高架橋等Ⅱ区の出土陶磁器 27,236 のうち、近現代の所産とわかる遺物、及び小片で産地や時期が判別できないものを除いた 2,784 点について出土層位順に、産地別に分類して集計した（第 11 表）。磁器の時期分類については、九州陶磁の編年（九州近世陶磁学会 2000）に基づいて 17 世紀後半以前（Ⅱ -2 期・Ⅲ期）、17 世紀末～ 18 世紀後半（Ⅳ期）、18 世紀後半～ 19 世紀中頃（Ⅴ期）の三段階に分類した。

志野や嬉野、岸、中国磁器等、年代が限定される遺物が、各層から一定量出土しており、各整地層は他所から持ち込まれた客土と考えられる。そのため、量的な分析とともに、整地層に含まれている内容の検討から、各整地層の年代を考えることとする。

磁器では肥前Ⅳ期の遺物が最も多く出土しており、Ⅴ期の遺物は少ない。瀬戸美濃磁器はⅢａ層に集中している。また、16 世紀後半～ 17 世紀前半の景徳鎮産磁器（32 点）、漳州窯磁器（18 点）も出土している。

Ⅵ・Ⅶ層の遺構出土遺物からは、相馬産陶器が出土していないことから、これらの遺構は 18 世紀前半以前の構築と考えられる。Ⅴ層整地層は肥前磁器のⅤ期遺物が含まれないことから、18 世紀後半以前の構築と考えられ、Ⅵ・Ⅶ層の遺構の時期からみて、18 世紀前半から後半の間に整地されたと推定される。大堀相馬産陶器が 2 点出土しているが、全体からみて少量なので、混ざりこみの可能性がある。

Ⅳｂ層の整地層は、瀬戸美濃産磁器が含まれないことから、19 世紀初頭以前に構築された整地層と考えられる。また、Ⅳｂ層の遺構からは瀬戸美濃産磁器が出土するが、これはⅣａ層の整地の際に混ざり込んだものと考えられる。Ⅳａ層からは瀬戸美濃産磁器、大堀相馬産陶器が多く出土しており、19 世紀初頭以降に構築された整地層と考えられる。

Ⅲｂ層では、遺構出土遺物に大堀相馬産陶器が多く含まれている。Ⅲａ層の整地層からは瀬戸美濃産磁器が多量に出土しており、切込産磁器ほか地方窯の製品も少量ながら含まれる。切込産磁器は他に出土例を見ない精製品が出土している（第 177 図 - 4）。Ⅲａ層は 19 世紀中頃の構築と考えられ、Ⅲｂ層はⅢａ層とⅣａ層の中間、19 世紀初頭から中頃の年代が考えられる。

まとめると、Ⅴ層：18 世紀前半～後半、Ⅳｂ層：19 世紀初頭以前、Ⅳａ層：19 世紀初頭、Ⅲｂ層：19 世紀前半～中頃、Ⅲａ層：19 世紀中頃の構築と考えられる。

西公園高架橋等Ⅰ区

	丸瓦	軒丸瓦	平瓦	軒平瓦	飾り瓦	その他瓦	桟瓦	不明瓦	陶器	瓦質土器	土師質土器	磁器	石製品	木製品	金属製品	古銭	土製品	骨	ガラス製品	その他	計
Ⅵ・Ⅶ層遺構	37		275			5	1		152	10	29	126	4		14	7				12	672
Ⅱ層遺構	110		858			3	2		262	80	62	301	4		59	7	6	25	25	73	1877
撹乱・一括	205	5	3566	2		22			1554	26	251	1782	7		119	48	4	27		188	7806
小計	352	5	4699	2		30	3		1968	116	342	2209	15		192	62	10	52	25	273	10355

西公園高架橋等Ⅱ区

	丸瓦	軒丸瓦	平瓦	軒平瓦	飾り瓦	その他瓦	桟瓦	不明瓦	陶器	瓦質土器	土師質土器	磁器	石製品	木製品	金属製品	古銭	土製品	骨	ガラス製品	その他	計
Ⅵ・Ⅶ層遺構	74		122				2		29		35	10	2	8	2		1	1		9	295
Ⅴ層	61	8	337	2		4		89	414	42	205	270	44	12	37	8	5	5		45	1588
Ⅴ層遺構	160	5	213	2	1				331	94	95	235	23	50	39	5	1	14		22	1290
Ⅳｂ層	334	5	587	3	1	22	1	13	864	74	386	671	25	41	71	14	18	1		64	3195
Ⅳｂ層遺構	145	23	132	2		3		1	1005	143	167	703	32	1	107	6	9	4	2	32	2517
Ⅳａ層	223	13	602	5	2	10	1	41	1144	58	420	982	12	36	65	4	20	1		63	3702
Ⅳａ層遺構	303	10	710	5	1	7	1		238	45	499	244	11	264	28	8	27	1		98	2500
Ⅲｂ層	145	9	310	4		6	9	23	969	37	281	791	10	20	45	13	21		1	71	2765
Ⅲｂ層遺構	193	5	403	1		8		9	230	28	273	138	4	140	19	19	26	1		65	1562
Ⅲａ層	85	3	284	2		3	2	27	1653	91	446	1481	8	2	43	11	31	4		97	4273
Ⅲａ層遺構	8	7	42	2				25	777	82	44	683	8	6	50	6	4	2	2	15	1763
撹乱・一括	135	24	501	9	12	9	52	68	4810	179	814	8564	47	13	175	57	31	5		299	15804
小計	1866	112	4243	37	17	72	68	296	12464	873	3665	14772	226	593	681	151	194	39	5	880	41254

西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）

トレンチ１	丸瓦	軒丸瓦	平瓦	軒平瓦	飾り瓦	その他瓦	桟瓦	不明瓦	陶器	瓦質土器	土師質土器	磁器	石製品	木製品	金属製品	古銭	土製品	骨	ガラス製品	その他	計
Ⅲａ2 層遺構										1	2										3
Ⅲａ2 層		1	1						4	1	8	10			1						26
Ⅲａ1 層遺構			12			1			14	3	8	1								3	42
Ⅲａ1 層			2						3						1						6
撹乱・一括									19			54								1	74

トレンチ２	丸瓦	軒丸瓦	平瓦	軒平瓦	飾り瓦	その他瓦	桟瓦	不明瓦	陶器	瓦質土器	土師質土器	磁器	石製品	木製品	金属製品	古銭	土製品	骨	ガラス製品	その他	計
Ⅴ層			10									2									12
Ⅳｂ層			24	3					3	1	1	5									37
Ⅳａ層	2		25						8		2	5								1	43
Ⅲｂ層	4	1	41	2		1			146	8	21	25	3		1		1			6	260
Ⅲａ層			2																		2
Ⅲａ層遺構	2	1	46			3			60	3	13	30			6		2			9	175
撹乱・一括			14						49		2	91			1					8	165

トレンチ３	丸瓦	軒丸瓦	平瓦	軒平瓦	飾り瓦	その他瓦	桟瓦	不明瓦	陶器	瓦質土器	土師質土器	磁器	石製品	木製品	金属製品	古銭	土製品	骨	ガラス製品	その他	計
撹乱・一括			74						10	1	2	14								5	106
小計	8	3	251	5		5			316	18	59	237	3		10		3			33	951
合計	2226	120	9193	44	17	107	71	296	14748	1007	4066	17218	244	593	883	213	207	91	30	1186	52560

第 10 表　出土遺物集計表

陶器	華南三彩	志野	織部	唐津	岸	嬉野	丹波	京・信楽系	信楽	肥前陶器	瀬戸美濃	小野相馬	大堀相馬	堤	その他在地	合計
Ⅵ・Ⅶ層遺構		3		1	1	1				2	5				1	13
Ⅴ層構成土		3	1	1	1	2	1			1	6		2		2	19
Ⅴ層遺構		4		4	6	3		2		6	13	1	11		7	50
Ⅳｂ層構成土		2	1	1	2	1	1	4		1	9	3	9	2	3	36
Ⅳｂ層遺構		6		4	2	2	1	5	1	6	8	7	14	6	15	62
Ⅳａ層構成土		1	1	3	2	1		1		1	4	1	10	3	6	28
Ⅳａ層遺構	1	7	2	5	1	6	2	6		7	14	5	29	8	25	93
Ⅲｂ層構成土		1	1	4	1	1		1		2	8	1	9	3	6	32
Ⅲｂ層遺構		3	1	7		5		3		8	16	3	29	13	15	88
Ⅲａ層構成土		2		1	2	1		2		1	5	2	13	6	5	35
Ⅲａ層遺構				2		1		1		4	4		13	5	8	30
合計	1	32	7	33	18	24	5	25	1	39	92	23	139	47	92	486

磁器	中国				肥前						瀬戸美濃		切込他地方窯		合計
	景徳鎮		漳州窯		17 世紀中頃～後半 Ⅱ-2 期～Ⅲ期		17 世紀末～ 18 世紀後半 Ⅳ期		18 世紀後半～ 19 世紀中頃 Ⅴ期						
	点数	割合	点数	割合	点数	割合	点数	割合	点数	割合	点数	割合	点数	割合	
Ⅵ・Ⅶ層遺構	3	15.8%	1	5.3%	6	31.6%	9	47.4%		0.0%		0.0%		0.0%	19
Ⅴ層	2	2.6%	4	5.1%	2	2.6%	70	89.7%		0.0%		0.0%		0.0%	78
Ⅴ層遺構	4	8.3%	5	10.4%	2	4.2%	37	77.1%		0.0%		0.0%		0.0%	48
Ⅳｂ層	3	1.0%	3	1.0%	4	1.4%	265	92.3%	12	4.2%		0.0%		0.0%	287
Ⅳｂ層遺構	2	0.9%	1	0.5%	12	5.4%	166	75.1%	35	15.8%	5	2.3%		0.0%	221
Ⅳａ層	2	0.6%		0.0%	8	2.3%	266	77.1%	51	14.8%	18	5.2%		0.0%	345
Ⅳａ層遺構	3	1.1%	2	0.8%	6	2.3%	204	78.2%	38	14.6%	8	3.1%		0.0%	261
Ⅲｂ層	2	0.9%	1	0.4%	5	2.2%	176	76.5%	41	17.8%	4	1.7%	1	0.4%	230
Ⅲｂ層遺構	2	0.9%	1	0.4%	7	3.1%	177	78.0%	36	15.9%	4	1.8%		0.0%	227
Ⅲａ層	9	1.7%		0.0%	6	1.1%	212	40.0%	86	16.2%	215	40.6%	2	0.4%	530
Ⅲａ層遺構		0.0%		0.0%		0.0%	33	63.5%	15	28.8%	3	5.8%	1	1.9%	52
合計	32	1.4%	18	0.8%	58	2.5%	1615	70.3%	314	13.7%	257	11.2%	4	0.2%	2298

第 11 表　産地別出土遺物集計表

（2）機能別産地分類

本調査区出土の陶磁器類を、その機能から、食膳具、調理具、貯蔵具、調度・化粧・信仰・文房具、喫茶喫煙具、暖房具、灯明具、その他に分類し、産地別に破片数を集計すると以下のとおりになる（第 12 表）。なお、ここでは、土師質土器の皿、灯明皿、瓦質土器の蚊遣りや火鉢等も集計に加えた。

食膳具は、碗皿、変形皿、筒形碗、杯、鉢、半筒碗、猪口、向付、銚子、薬味入れ、土瓶、焼塩壺、耳皿がある。碗は唐津、嬉野、京・信楽系、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、小野相馬、大堀相馬、景徳鎮、漳州窯、瀬戸美濃磁器、肥前磁器等が見られる。特に肥前陶器、大堀相馬、肥前磁器に集中している。皿は、志野、織部、唐津、嬉野、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、小野相馬、大堀相馬、景徳鎮、漳州窯、瀬戸美濃磁器、肥前磁器、切込等が見られる。特に志野、嬉野、瀬戸美濃陶器、大堀相馬、肥前磁器に集中している。これらの内、嬉野については、皿がほとんどだが、碗が 1 点認められる。また、焼塩壺は 3 点しか出土していない。調理具はすり鉢、鉢、片口、胡麻炒り、焙烙、鍋、焜炉、さなが確認された。すり鉢は岸、在地のものが大半を占める。また、焙烙は全体で 16 点出土しているが、堤のものが大部分を占める。貯蔵具は壺、甕があり、在地のものがほとんどである。

調度具、化粧具、信仰具、文房具では、紅皿、香炉、合子、鬢盥、人形、水滴、十能、蚊遣り、御神酒徳利、瓶、仏飯具、餌入れ、ミニチュア（ままごと道具）、植木鉢、水注がある。喫茶喫煙具では、風炉、天目碗、灰落とし、急須が確認された。暖房具は火入れ、火鉢、火消し壷、火消し壷の蓋があり、大部分は瓦質土器である。灯明具は灯明皿、灯明具（平仄等）、油受け皿、油徳利がある。灯明皿は、その大部分が土師質土器皿の転用品である。その他豆甕、不明袋物、把手部分、坩堝、蓋、器台、五徳等がある。坩堝は陶器碗を転用しているものが出土している。

（3）補修痕のある陶磁器について

今回調査で、焼継による補修痕のある陶磁器が 81 点確認された。内訳は陶器 3 点、肥前磁器 37 点、瀬戸美濃磁器 38 点、切込ほか地方窯の可能性のある製品 3 点である。出土地点では、撹乱・Ⅰ～Ⅱ層から 59 点が出土しておりその大部分を占める。Ⅳ a 層整地層から 6 点、Ⅳ a 層の遺構から 4 点、Ⅲ b 層整地層から 1 点、Ⅲ b 層の遺構から 3 点、Ⅲ a 層整地層から 6 点、Ⅲ a 層の遺構から 2 点が出土した。陶器 2 点は大堀相馬産と思われる（図版 93- 2・3）。遺物の時期は、18 世紀前半の肥前産網目文碗 1 点（Ⅰ・Ⅱ層より出土）から 19 世紀中頃以降、近代初頭に位置づけられる瀬戸美濃産磁器（4 点：図版 93- 1 ほか）にわたる。Ⅳ a 層整地層から出土しているものは肥前産磁器に限られ、18 世紀後半～ 19 世紀初頭の年代のものと思われる。これら 80 点のうち、高台内に文字が書かれているものは 6 点確認できた。J-405（第 176 図 -4）、J-428（第 176 図 -3）はⅢ a 層から、J-513（第 179 図 -5）、J-546（第 179 図 -9）、J-589（第 179 図 -8）、J-603（第 179 図 -4）はⅠ・Ⅱ層および撹乱より出土している。

（4）　漳州窯磁器

桜ケ岡公園遺跡からは漳州窯磁器が 17 点出土した。第 37 図 -5（J-38）は色絵で圏線・葉文を書いている。底部の小片で、底径 7cm 程度の小皿と思われる。第 52 図 -3（J-41）は青花の皿の破片で、同一個体と思われる破片が SK79、Ⅳ b 層、Ⅲ b 層から出土している。それらを高台、圏線等から推定径 24.6cm として復元すると第 197 図 -1 のようになり、鳳凰文の皿と推定される。釉厚があり、外底の釉は所々途切れているが、高台端のみ無釉にする施釉方法によって製作されたものと思われる。漆継による補修痕がある。第 100 図 -8（J-128）も同一個体と思われる破片がⅣ b 層、Ⅳ a 層から出土しており、同一モチーフの鳳凰文皿として復元できる。推定径は 26cm である（第 196 図 -2）。釉調は J-41 より発色がよく、釉厚も薄い。外底を無釉にする施釉方法で作成され

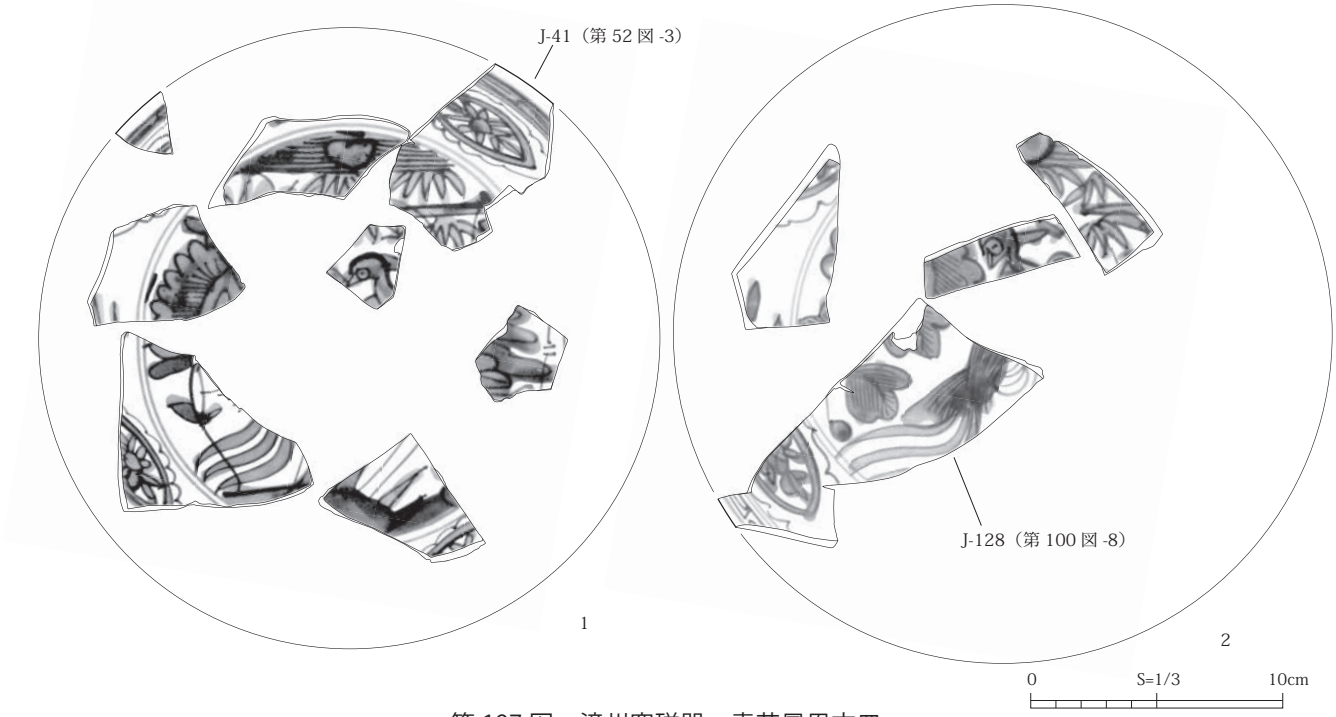
		食膳															調理								貯蔵		調度・化粧・信仰・文房具															喫茶喫煙				暖房				灯明具				その他								合計
	器種→ 産地↓	碗	碗 or 皿	皿	変形皿	筒型碗	杯	鉢	半筒碗	猪口	向付	銚子	薬味入れ	土瓶	焼塩壺	耳皿	すり鉢	鉢	片口	胡麻炒り	焙烙	鍋	焜炉	目皿	壺	甕	紅皿	香炉	合子	髪盥	芯立て	水滴	十能	蚊遣り	御神酒徳利	瓶	仏飯具	餌入れ	ミニチュア	植木鉢	水注	風炉	天目碗	灰落とし	急須	火入れ	火鉢	火消し壺	消し壺の蓋	灯明皿	灯明具	油受け皿	油徳利	豆甕	袋物	把手	甘堝	蓋	器台	五徳	不明	
陶器	華南三彩			1																																																											1
	志野			29							3																																																			32
	織部			5							2																																																			7
	岸			1				1									15											1																																			18
	唐津	5	1	18				6			2																																																		1	33
	嬉野	1		23																																																										24
	京・信楽系	21																										2		1																																1	25
	信楽																																																								1				1
	丹波																5																																													5
	肥前陶器	32		3							1						1											1																																			1	39
	瀬戸美濃	21	4	31	1		2	8			3						3								3			4														2								2				2						7	93
	小野相馬	3		7				3																						1						2	1																	1						1	19
	大堀相馬	39	12	24		2	4	3	2	1	2			8			1		2						4			2	1	1						7	6								1					4	3		3	2			3			6	143
	堤			1				1									4			1	15				1	2		1							2	1			3	1	1		1						2			1	1			2			6	47
	在地	2		3				8					1				41								7	2		3								1		1		3				2					1				1		1	1	5			1			8	92
	不明	29	24	24		2		23			2	1		5			8		2		1	1			13	11		4		1						6	5		1		1												1	17	1	2	7			35	227
	小計	153	41	170	1	4	6	53	2	1	15	1	1	13			78		4	1	16	1			28	15		18	1	4						18	13	1	1	6	2	1	2	3		1	1				9	3	1	6	28	1	2	14			66	806
磁器	景徳鎮	3		9							1																																																		13
	漳州窯	1		10																																																									11
	瀬戸美濃	10	3	3		2	1	1																												1									1												1			3	26
	肥前	55	31	42	1	6	6	5	1	12																	5	5	2		2	1			2	19	11		2						1									3			9			12	233
	切込			2																															1																											3
	在地	2		3																															1	1																										7
	不明	7	6	8		2				1																		1	1						1	3	1								1									1						8	41
	小計	78	40	77	1	10	7	6	1	13	1																5	6	3	0	2	1			5	24	12	0	2						3									4			10			23	334
瓦質土器																	16	4				3	23	2	5							6	26								2				2	179	1	4									4			409	684
土師質土器		1566													3	1		1				2		1	2								9																250	8					1		2	1	2	901	2750
合計		1797	81	247	2	14	13	59	3	14	16	1	1	13	3	1	94	5	4	1	16	6	23	3	35	15	5	24	4	4	2	1	6	31	5	42	25	1	3	6	2	3	2	3	3	3	180	1	4	250	17	3	1	6	32	2	2	30	1	2	1399	4574

第 12 表　機能別出土遺物集計表

ている。当遺跡から出土した 17 点の漳州窯磁器は色絵 1 点と青花 2 点の個体数 3 点と考えられ、そのうち 2 点は同一モチーフの皿であり、別々の出土地点・層位のものが接合する。この 2 点は他所で廃棄されたものが攪拌された状態で混入したものと考えられ、遺構出土のものも整地層に含まれるものが混入した可能性が高い。

桜ケ岡公園遺跡の既存調査地点、仙台城および東西線関係での漳州窯磁器は、仙台城跡川内駅部池 1（仙台市 2011d）、仙台城跡亀岡トンネル開削部 SX14（仙台市 2009b）、桜ケ岡公園遺跡第 4 次調査（仙台市 2010a）、二の丸北方武家屋敷第 7 地点 14 号土坑（東北大 2009）、二の丸北方武家屋敷第 4 地点 4 層（東北大 2000）、仙台城本丸跡 1 次調査（仙台市 2005a）等に出土例が見られる。仙台城本丸跡では 87 点の漳州窯磁器が出土している。

これらの漳州窯磁器は、生産年代は 16 世紀代にさかのぼるが、整地層の年代では 18 世紀後半から 19 世紀代と年代の差が大きく。また、補修痕跡等が見られることから伝世品の可能性が高い。



第 197 図　漳州窯磁器　青花鳳凰文皿

2　瓦質土器

瓦質土器はすり鉢、火鉢、蚊遣り、蓋、焜炉、火消し壷および蓋、目皿、十能、鍋、壺、鉢、風炉、火入れ等が出土している。出土数の大半は火鉢が占め、焜炉、蚊遣り等が比較的多く出土している。その他の破片の出土量は少ない。火鉢は法量の大きなもの（第 64 図 -2：I-87、第 153 図 -6：I-239）、小さいもの（第 56 図 -2：I-841、第 101 図 -7：I-838）がある。I-841 には口縁部に敲打痕がある。蚊遣りでは、I-397（第 112 図 -10）に外面文様が認められる。型紙によるものと思われ、紗綾文を施している。

	すり鉢	火鉢	蚊遣り	蓋	不明	焜炉	火消し壷の蓋	目皿	十能	鍋	壺	鉢	風炉	火消し壷	火入れ	合計
Ⅵ・Ⅶ層遺構		5														5
Ⅴ層	4	7			29		1				1					42
Ⅴ層遺構		10	2		2				1			1			1	17
Ⅳ b 層		21	5	1	43	1		1	1	2	2					76
Ⅳ b 層遺構	2	27	1	1	55	4						1				91
Ⅳ a 層		5	4		47	2										58
Ⅳ a 層遺構	4	39	7		68	6	1			1	1		2		1	130
Ⅲ b 層		9			26	2	1									38
Ⅲ b 層遺構	2	40	6		63	6	1	1	3		1	2		1		126
Ⅲ a 層	3	13	1	2	73	2										94
Ⅲ a 層遺構	1	3			3				1							102
合計	16	179	26	4	409	23	4	2	6	3	5	4	2	1	2	779

第 13 表　瓦質土器出土集計表

3　土師質土器

土師質土器は皿、灯明皿、灯明具、目皿、耳皿、器台、五徳、鍋、焼塩壷、壷、鉢、火入れ等が出土している。大部分は皿および灯明皿が占め、その他は少量の出土のみである。皿の底面に墨書を施したものが数点確認された。第 91 図 -5：I-217、第 84 図 -5：I-583、第 177 図 -8：I-674、第 130 図 -10：I-436 等である。I-674 は人面を墨書で描いている。その他の墨書については判読不能である。また、金箔が残存している土師質土器皿が出土している（第 158 図 -4：I-607）。灯明具では、鉄製の耳をつけた筒型の灯明具が出土している（第 112 図 -10：I-406）。その他、芯立てを伴う灯明皿（第 112 図 -11：I-405）が出土している。また、底部に穿孔し、蚊遣りの蓋に転用している皿が数点確認された（第 137 図 -1：I-534）。

	皿	不明	灯明皿	灯明具	金箔皿	目皿	蚊遣り蓋	把手	蓋	耳皿	器台	五徳	鍋	焼塩壷	壷	鉢	火入れ	合計
Ⅵ・Ⅶ層遺構	31		4															35
Ⅴ層	116	63	22	1					1	1								204
Ⅴ層遺構	74	6	6	1										2		1	1	91
Ⅳ b 層	198	143	36	1			2	1										381
Ⅳ b 層遺構	147	1	7			1					1	2	1	1	1			162
Ⅳ a 層	225	164	31															420
Ⅳ a 層遺構	296	125	17	1			4		1				1				1	446
Ⅲ b 層	130	130	18		1													279
Ⅲ b 層遺構	181	5	75	2			3								1			267
Ⅲ a 層	145	264	32	2														443
Ⅲ a 層遺構	22		2															24
合計	1565	901	250	8	1	1	9	1	2	1	1	2	2	3	2	1	2	2752

第 14 表　土師質土器出土集計表

4　金属製品

金属製品は煙管、釘、刀子、小柄、切羽、鐔、兜頭、簪、自在鉤、錠前、毛抜き、金具、蓋、針金状金属製品、平仄、鋲等が出土した。出土点数は少ないものの、刀子、小柄、切羽、鐔、兜頭等の刀装具が出土している。鐔（第 132 図 -3：N-431）は、櫃孔が一つ確認できる。櫃の形状が半月状を呈するものと思われ、小柄櫃と考えられる。また、錠前が 2 点出土している（第 141 図 -1：N-280、第 102 図 -3：N-331）。

Ⅳ a 層上面で出土した一分判金と銭貨は、Ⅲ b 層整地の際に地鎮等の意図で配されたものと考えられる。一分判金の周辺での出土例としては、仙台城三ノ丸 Q-16 区 9 号溝（仙台市 1985）で正徳一分判金と思われるものが、仙台城造酒屋敷 1 次調査（仙台市 2009a）の I 層から享保一分判金、Ⅲ a 層から宝永一分判金が出土しており、そのほか若林城跡の出土例もある（慶長一分判金もしくは正徳一分判金：仙台市 2010c）。当遺跡出土の一分判金は重さが 4.44g で、約 1.19 匁である。1.19 匁の一分判金は慶長一分判金、元禄一分判金、正徳一分判金、享保一分判金がある。桜ケ岡公園遺跡出土の一分判金は、背面の「光次」の「光」の末画と「次」の四画目が離れる「離光次」であるため、享保一分判金と思われる。

5　出土小柄の製作技法について

今回の調査では各層・遺構から 9 点の小柄が出土した。資料の観察から近世における小柄の製作技法の一端を窺い知る事ができるのでここにまとめておきたい。

（1）小柄の形状、細部名称と計測値

小柄の各部の名称については従来の美術刀剣の用語に準じ、各部の計測部位は巻頭の凡例に示している（学研 2006）。

小柄は日本刀の打刀などの鞘裏（腰に差した時の体面側）につくられた内側の溝に装着する小刀で、武器というよりも各種工作時などの日常小刀として多用されたものと考えられている。小柄を装着する鞘の反対面（鞘表）側

は笄（こうがい）すなわち「髪掻き＝結髪用具」を収めるつくりとなっているが、こうした小柄、笄が打刀の刀装具として定型化されたのは、一般的に室町時代後期以降とされている。

小柄の平面形は長方形をなし、板金を扁平な筒形に加工して小刀の茎（なかご）を差し込む。小刀の茎を差し込む側を戸口（こぐち）、その反対側を戸尻（こじり）、上下の側辺を小刀の部位名に合わせて棟方、刃方と呼ぶ。刃方は薄く、棟側はやや厚い。表面は地板と言い、中央部がやや蒲鉾状に膨らみここに装飾を行う事も多い。戸口の端部はほぼ直で戸尻の端部面はやや弓形をなすものや僅かに隅丸状をなすもの（第 200 図２、３、４、５、６、７）と直線的なもの（第 200 図 1、9）がある。

（２）出土小柄の大別

今回の出土小柄は次のＡ～Ｃ型の３つに大別され、これは美術刀剣の型式と対応する。A・B 型は銅製の柄に鉄小刀を挿入したもので、C 型は刃と柄を一体につくった鉄製のものである。前者の例が多い。次に銅製柄は表面に縁取り（小縁）をつくる手の込んだ A 型と単純な筒形としたもの B 型に細分される。装飾文の有無があり、装飾方法には今回の出土資料に限っても多様性が認められるので、施文方法による型式分類はここでは行わない。

【A 型・銅製】N-252、N-298 がこのタイプである。小柄表面の地板外周に幅 1 ミリほど一段高い小縁を設けるもので、地板内部は一段低くつくられ、この中に装飾図柄を配する。この種の製作技法としては（１）小柄表側の銅版表面に縁を残し、それより内側を長方形に刳り貫き、ここに別板を嵌め込む方法のほか、（２）小縁部分を残して表面内部を一段下げてすき取るなどの方法も考えられている。今回の出土例２点は（１）の方法と考えられ、従来、地板嵌込式小柄とされるものである。

【B 型・銅製】N-279、N-341、N-274、N-302、N-4、N-289 がこのタイプに属する。このうち N-289 は半完成品とも考えられ後述する。B 型は A 型のように小縁を設けず単純な袋状をなすもので、従来、棒小柄とされるものである。

【C 型・鉄製】刃と柄を一体につくったものである。N-278 の 1 点である。従来、共小柄とされるものである。

鉄小刀は棟（上辺）、刃（下辺）として図示し断面形は細長い二等辺三角形状をなし、茎部も同様な形状をなす。小刀は基部から折れて茎のみが柄内部に残るものが多いが、N-274、N-4、N-302 は一部刃部が残る。また N-289 は中空となっており鉄錆も付着せず、鉄小刀を差し込んだ痕跡はない。

（３）製作技法

【材料】

A・B 型の柄では錆が剥離して地金が見えている部分があり、この色は赤銅色を呈し銅板を使用していると見られる（N-252、N-274、N-298、N-289）。C 型 N-278 は前述のように鉄製である。

【小柄の加工法（綴じ方）】

小柄は幅 10cm 程度の銅版を筒状に折曲げ、棟方幅 5mm、刃方２mm、柄幅 15mm 程のサイズとしたもので、柄表となる地板の中央に僅かに膨らみをつけ、反対側の裏板面はほぼ直線的で断面は略半月形をなす。鉄製 N-278 の柄も同様な断面である。

A・B 型は棟方の裏側で裏版を被せて蝋付け（図中の▼の位置）し筒形とした例がすべてであり（N-252、N-279、N-341、N-274、N-302、N-298、N-289、N-4）、一定の成形法が確認できる（第 198 図 1 ～ 8）。N-302 は鉄茎の錆化肥大で柄戸口の蝋付け部分が開いたもので、このダメージにより上記の蝋付け痕跡を明示する例となる（第 198 図 9）。また、筒型の作例では 1 枚板を折り曲げてつくる場合（一枚張り）と２枚の板でつくる場合（二枚張り）があり、半成品と見られる N-289 では、明らかに刃方側も蝋付けされ「二枚張り」の技法とわかる。N-302 の刃

方側は錆で開いており、これも二枚張りの可能性が強い。他のものは仕上げ研磨を刃方に行ない丸みをつけ、あるいは錆化によりこうした点が明らかでない。

戸尻面は別の細長い三角形状の銅版で蝋付けされ塞がれる。その技法は筒の内部に嵌め込まれた例が多い（N252、N-279、N-341、N-302、N-298　第 199 図１～５）。なお N-4 は錆により不明であり、N-274 は戸尻面に鑢掛けを行っているためこの痕跡は不明である。出土した８例中、５例は嵌め込み式である。

【装飾技法】

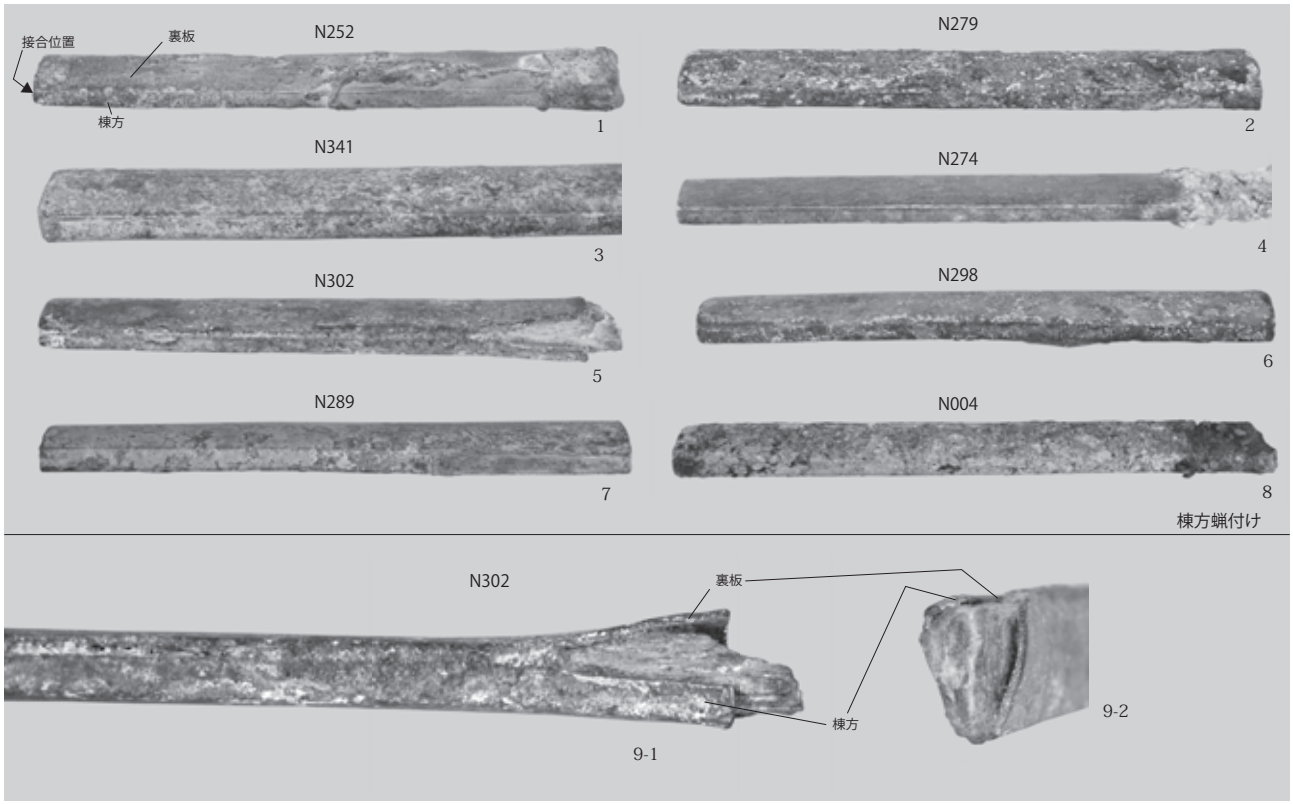
小柄の表面、地板には装飾を施すものと、無紋の例がある。装飾には高彫、線彫、象嵌などが今回の出土品に見られ、文様や技法については多様性があって、一定パターンは認めがたい。地板は彫金などで背景の地文を施したうえで象嵌や一段高く飾り文様を施す場合があり、高くなった飾り文様を高彫という。

A 型の N-298 は地板にかなり細かい魚子彫りがあり（第 199 図 7-2）、この列は整然としている。高彫が残り、この手の装飾の明らかな例である。高彫部分はやや肉厚の銅製装飾文様を蝋付けで仕立てており、一材を削り込んで陽刻文としたものではない。鳥と花文の高彫文は緻密なものとは言えず、雀、牡丹とも見えるが確定し難い。小刀の刃を下向きとした場合は文様は天地逆となるが、打刀に装着した場合は正位置となる（第 199 図 7）。

N-252 は地板中央部のみ銅錆色をなし、この部分に蝋付けされた高彫文が剥落したと考えられる（第 198 図 6。

B 型は線彫文の例がある。N-274 は多重の太い凹線文を全体に付け、文様は上下、左右対称に配され、左右は重層した花弁形である。中央水平軸に沿って細い針先状の工具で環状に烈点文を４箇所つけるが、３箇所は半周のままとする。凹線文は丸刀鑿を使用したらしく線底は丸い（第 199 図９）。環状烈点文の類例として川内 B 遺跡（仙台市 2011c）Ⅲ層出土例がある。

N-4 は細い線彫の紗綾文がある。錆化のため全面施文されるか不明。戸口の小鉄刀基部には多方向の木質が錆付くが、下緒などの紐痕跡ではない。



第 198 図　桜ケ岡公園遺跡出土の小柄（１）

N-279 は線彫の平行線がある。棟方寄りと中央は 2 条線、刃方寄りは 1 条である。

C 型は N-278 の 1 点である。刃部（穂）と柄を一体としたためか刃部の残りも比較的よい。刃部の棟は柄よりも僅かに高く、基部は柄側にかけて厚みを増す。柄の戸尻はやや膨らみ弓形をなす。柄の地板文は全面に細かい格子目を線彫りし、その後左右に流れる細い線刻を行い、さらにここに金線の象嵌を行っていて丁寧なつくりとなっている。また中心部分には鉄地とは別に環状に銅錆が回っており、本来ここに図柄の主体となる高彫装飾が蝋付けされた痕跡を示すが剥落している（第 199 図 8）。これに近い類例として仙台市中野高柳遺跡第 3 次調査 SK311 土坑（墓）出土の小柄がある。柄の表面は暗赤褐色を呈し、刃部の錆色より黒ずんでいるが、材質は鉄または銅か不明で、鉄ならば何らかの仕上げ、表面加工が行われたものと思われる。B 型か C 型か決し難い。地板の主題文様は中央に海老（金象嵌）、左右は海老の触覚を細い線で表した金象嵌でこの触覚部分のつくりは今回の N-278 と酷似する。しかし N-278 の主題はこれと同様のものか不明である。墓は 16 世紀後半～ 17 世紀前半とされる（仙台市 2010b）。

【仕上げの調整や使用痕跡など】

N-279 の裏板には斜め方向に走る粗い鑢（やすり）目が目立ち、美術刀剣ではこれも装飾のひとつ時雨鑢目とされ、刀剣鞘からの抜け落ちを防ぐすべり止めともされる。ただし裏板面のみではなく戸尻面、棟方の刃方面にもこの痕跡が確認される（第 199 図 10）。

N-298 地板につけられた細かな魚子文は浅く刻まれており潰れ易いが、中央部は摩滅し消失しており使い込まれた使用痕と思われる（第 199 図 7-3）。

（4）小柄の半製品と考えられる例

N-289 は中空となっており鉄小刀を差し込んだ痕跡はない。戸尻を塞いだ痕跡はなく、両端は直線的で戸口、戸尻の区別は不明瞭となる（第 199 図 11）。ただし棟方の蝋付け痕から推定すると、戸尻側が判明し、他の完成品と同じように、図示した側となる。小柄の表になる地板についても筒の断面の両面は僅かに膨らんで相似形となり、半月形をなしていない。前述のように、この例は「二枚張り」により蝋付けされ、内部にはその痕跡が残る。刃方は蝋付け後、鑢で面取りされ角がつく。

他の完成品の A・B 型小柄は全体に軽く磨きをかけ、各端部は丸みを帯び板厚みが 1mm 弱とやや薄い例が多い。すなわち手になじむように最終的な研磨がなされている。

N-289 は折り曲げた棟方、刃方端部が鋭利である事や板厚みは 1mm ほどあり、他より肉厚である。これらの点から N-289 は鉄小刀を装着する前の半製品と考える。

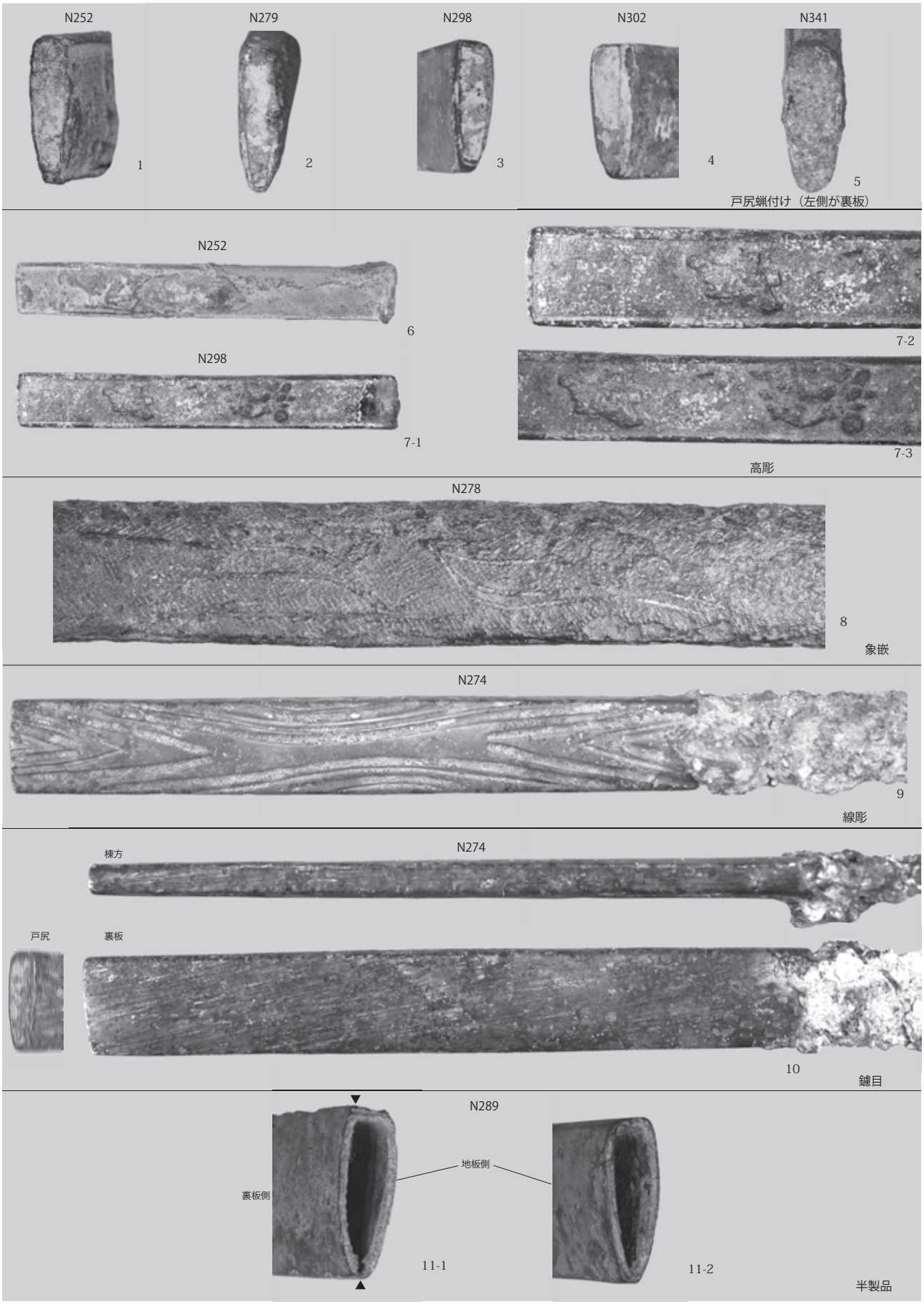
（5）小柄の出土層位と傾向

小柄の出土層位はⅥ・Ⅶ層上面遺構、Ⅴ層上面遺構、Ⅳ b 層整地層、Ⅳ a 層上面遺構、Ⅲ a 層整地層、近代遺構の盛土層と、各地点に点在しており（第 200 図）、意図的に配されたものとは考えにくい。

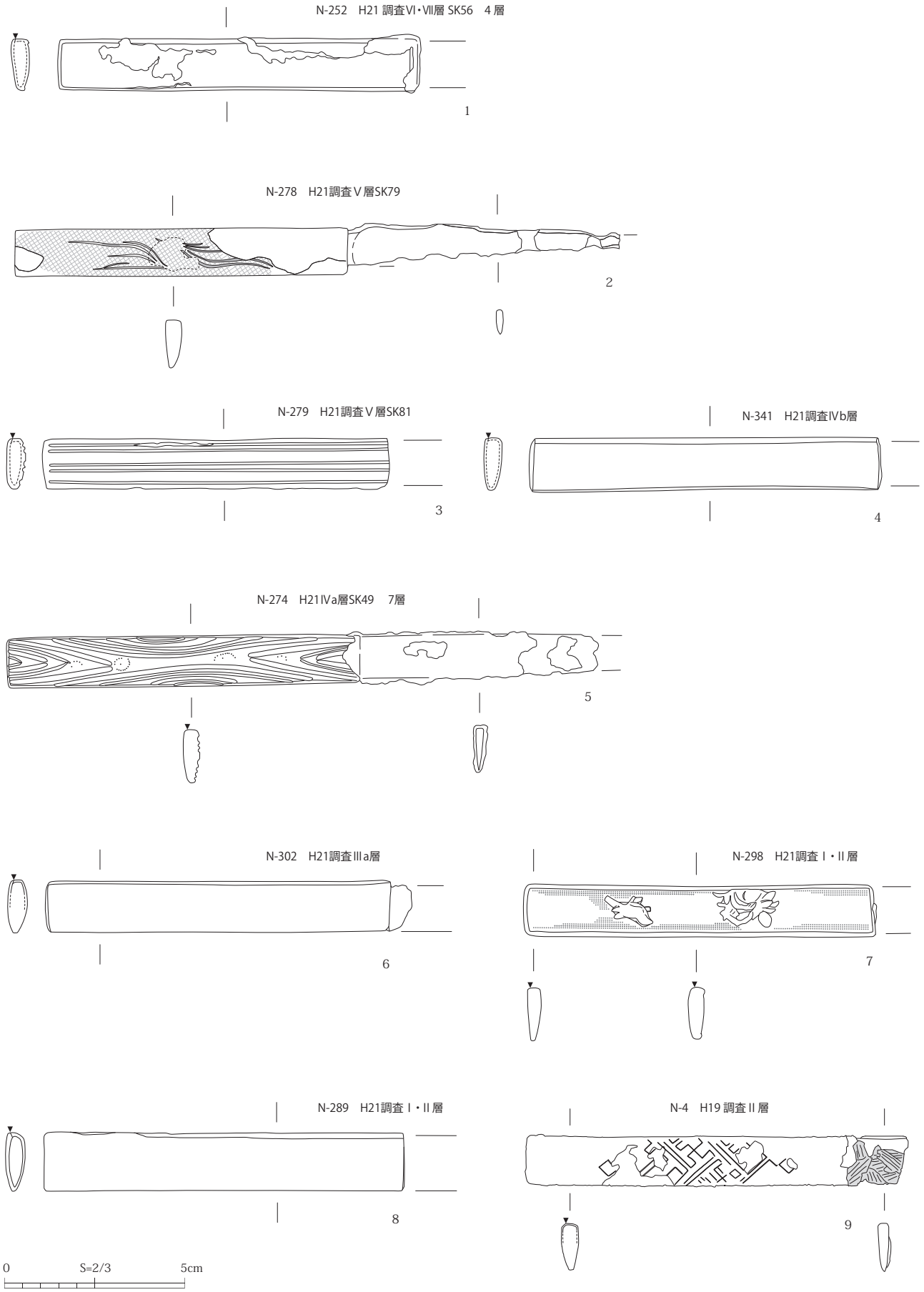
（6）刀剣関連遺物

小柄に関連する刀剣側の装具として鐔（Ⅳ a 層出土）、兜頭、切羽、柄責金などがある。鐔は完形ではないが透彫りで小柄を収めた半月形の小柄櫃孔の部分が残存する（笄櫃孔はなし）。

以上、小柄 A・B 型については、表面が錆などの劣化により上記で観察された以外の装飾技法が隠れている可能性もあり、また地金の素材についても素銅、赤銅（銅、金の合金）、黄銅などの点は明らかにし得ない点もあり X 線分析や金属分析を今後行う必要があろう。



第 199 図　桜ケ岡公園遺跡出土の小柄（２）



第 200 図　桜ケ岡公園遺跡出土の小柄（3）

登録番号	型式	調査年度／出土地点	法量 (mm) 長さ 残存長	長さ 柄部	長さ 刃部	幅	棟方厚	刃方厚	中心厚	小縁幅	内法	板厚	重量（g）※	地板表面装飾	裏板（鑢目）	戸尻の形状
N-252	A	H21 SK56	97.5～98.5	97.5～98.5	-	13.5	4弱	1.5	4.5	0.5弱	12.5	1弱	180.9	表中央：高彫剥離？地文不明	-	直
N-278	C	H21 SK79	168.5	92	(76.5)	13.5	4.5	0.5	5	-	-	鉄一体	290.1	線彫格子文（地文紋）・金象嵌・貼り付け痕跡	-	やや孤
N-279	B	H21 SK81	95.5	95.5	-	13.5	4	3	5	-	-	-	203.9	平行凹線	-	わずかに孤
N-341	B	H21 Ⅳb層	97.5	97.5	-	14	4～5	2	6	-	-	1以下	278.4	なし	-	隅丸状か
N-274	B	H21 SK49	163	95.5	(67.5)	中央14.0 戸尻13.5	4	2.5	5	-	-	1弱	326.6	多重線＋環状烈点	鑢目あり	わずかに孤 鑢目でケズリ接合痕ケシ
N-302	B	H21 Ⅲa層	101.5	95	(6.5)	14	4	2～2.5	6	-	-	0.5～1弱	289.0	なし	-	わずかに孤
N-298	A	H21 Ⅰ・Ⅱ層	97	97	-	13.3	4.5	2.5	4.8	1.3	11.5	約0.5	269.0	魚子文（地文）・花鳥文貼り付け（蝋付け）	-	やや弓形
N-289	B'	H21 Ⅰ・Ⅱ層	99.5	99.5	-	15.5	4	2	6	-	-	1	283.0	なし	-	直
N-4	B	H19 Ⅱ層	106	91	(15.0)	14	3.5	2	5.0	-	-	1以下	254.5	紗綾文	-	ほぼ直

※ N289 以外は鉄小刀一部（刃部・茎の重さを含む）

第 15 表　小柄観察表

	煙管	釘	切羽	刀子	小柄	鍔	柄頭	かんざし	自在鉤	錠前	毛抜き	金具	鋲	蓋	平仄	不明	合計
Ⅲa層	1	30		1	1			1								7	40
Ⅲa層遺構		6										2				2	10
Ⅲb層	1	24	1											1		18	45
Ⅲb層遺構	6	85	1	2			1	1		1	1	2				7	107
Ⅳa層	9	38				1									1	16	65
Ⅳa層遺構	3	69			1							1				17	91
Ⅳb層	4	41		1	1					1		1	1			20	71
Ⅳb層遺構	2	25										1				11	39
Ⅴ層	4	20		1								4				8	37
Ⅴ層遺構		9		1	2				1							1	14
Ⅵ・Ⅶ層遺構	1	1			1											1	4
合計	31	348	2	6	6	1	1	2	1	2	1	11	1	1	1	108	523

第 16 表　金属製品出土集計表

6　土製品

土製品は猿、鳥、犬、猪型土製品、その他の土人形、社型、ミニチュア等の箱庭道具、碁石、土鈴等が出土している。猿（第 86 図 -1：P-10）、犬（第 170 図 -2：P-93）、猪（第 178 図 -5：P-106）は手造ね成形で、狛犬（第 180 図 -4：P-97）、鳥型（第 85 図 -3：P-72）、その他土人形や社型土製品（第 103 図 -2：P-20、第 103 図 -3：P-34、第 108 図 -6：P-38）は型作りである。P-20、P-38 の社型土製品の背面には、型の段階で施された文字が確認できる。P-20 は「□定…□作」、P-38 には「加」の文字が見られる。

7　木製品

木製品は漆器椀、皿、皿未製品、漆塗膜、重箱、箱の側板、桶・曲げ物、箸、杓文字、ヘラ・匙、下駄、櫛、傘下轆轤、調度品の部品、荷札木簡、杭、部材、農具、その他製品等が出土している。漆器椀・皿は土圧により変形

	猿型土製品	鳥型土製品	犬型土製品	猪型土製品	魚型土製品	箱庭道具	土鈴	土人形	ミニチュア	碁石	不明	合計
Ⅵ・Ⅶ層遺構								1				1
Ⅴ層	1						3	1				5
Ⅴ層遺構								1				1
Ⅳ b 層	1		1				7	8	1			18
Ⅳ b 層遺構	1				1		3	4	1			10
Ⅳ a 層						1	8	10			1	20
Ⅳ a 層遺構	4		1	4		1	10	3	2	2		27
Ⅲ b 層遺構	2	1	1	1			11	3	3	2		24
Ⅲ a 層	2		1	3		1	4	5	1		7	24
Ⅲ a 層遺構			1		1		1	1				4
Ⅲ a 層遺構					1							1
合計	11	1	5	8	3	3	47	37	8	4	8	135

第 17 表　土製品出土集計表

しているものが大部分で、器形を正確につかむことは難しい。施文されているものが多くあり、花文（第 86 図 -5：L-98）、笹文（第 149 図 -2：L-103）、丸に菱文（第 149 図 -1：L-106）、三引両文（第 147 図 -4：L-213、第 71 図 -2：L-71）、丸に三つ柏（第 116 図 -5：L-277）、水草（第 116 図 -7：L-278）、梅花（第 116 図 -3：L-281）等が見られる。また、椀に柄を差し込み、柄杓に転用したものがある（第 71 図 -1：L-72）。下駄は連歯下駄（第 65 図 -3：L-517、第 160 図 -2：L-8、第 119 図 -4：L-361、第 119 図 -5：L-362）、陰卯下駄（第 160 図 -3：L-7）、露卯下駄（第 119 図 -3：L-360、第 65 図 -2：L-519、第 65 図 -1：L-520、第 119 図 -1：L-359）がある。連歯下駄と露卯下駄は丸型と角型の両方が出土している。Ⅴ層 SX49 出土の下駄は露卯下駄で、Ⅳ a 層 SK49 出土の下駄は露卯下駄と連歯下駄両方があり、陰卯下駄はⅢ b 層整地層から出土していることから、露卯下駄から陰卯下駄への変遷が伺える。

木簡は 4 点出土している。SX1 から出土した 1 点（第 150 図 -1：L-126）は「御年貢米四斗五升」「名取北方柳生村」、SK49 から出土した木簡（第 117 図 -7：L-388）には「御者□」と記され、他 2 点は判読困難である。荷札木簡は仙台城三ノ丸（仙台市 1985）、仙台城造酒屋敷跡 2 次調査（仙台市 2011a）などで出土している。仙台城三ノ丸跡出土の荷札木簡では「文化□年宮城郡實沢村□」の墨書のあるものが出土している。造酒屋敷の調査では KS746 井戸跡から、木札木簡および荷札木簡が合計 63 点出土しており、荷札木簡の中では、植松村、名取笠嶋村、名取四郎丸村、国分靏カ村、下余田村等の地名が見られる。

8　石製品

石製品は碁石、硯、砥石、温石、火打石等が出土している。硯では、文字を刻印しているものがある。第 159 図 -3：K-17 は「十硯」の刻印があり、第 135 図 -9：K-26 も判読不能だが文字を刻んでいる。第 89 図 -6：K-7 は判読不能だが背面に墨書がある。また、碁石の出土量が比較的多く認められた。

9　ガラス製品

ガラス製品は簪、笄、トンボ玉等が出土している。第 113 図 -1 は花部分を青色に着色し、先端は耳かき状になっており、乳白色に呈色されている。簪の破片と思われる。第 113 図 -2 は黄色に着色された笄の破片と思われる。トンボ玉（第 102 図 -4）は緑色に着色されている。

	碗・皿	皿未製品	漆膜	重箱	箱	桶・曲物	箸	しゃもじ	ヘラ・匙	下駄	櫛	傘下轆轤	調度品	荷札木簡	杭	部材	農具	その他	不明	合計
Ⅴ層	3		3	1						1					1			2		11
Ⅴ層遺構	16		10			2				10						2	1	5	6	52
Ⅳb層	2		15						1	2						1		1	1	23
Ⅳb層遺構	19	1	10			2			1	10	1	1		1	1		1	7	3	58
Ⅳa層	3		27			1				1					1	3			2	38
Ⅳa層遺構			3													7				10
Ⅲb層	1		3							3			1			2				10
Ⅲb層遺構	7		15		1	7		1		3				3	1	3		6	1	48
Ⅲa層			2																	2
Ⅲa層遺構			1				13									2				18
撹乱・一括	6		7							1					2	2				21
合計	57	1	96	1	1	12	13	1	2	31	1	1	1	4	6	22	2	21	18	291

第 18 表　木製品出土集計表

	碁石	硯	砥石	温石	火打石	錘	不明	合計
Ⅴ層	29		3			4	8	44
Ⅴ層遺構	2	3	1	1	1	1		9
Ⅳb層	5	5	11			1	2	24
Ⅳb層遺構	3	8	1		1		3	16
Ⅳa層	5	3	4					12
Ⅳa層遺構	6	5	10		2	1	5	29
Ⅲb層		5	1		1		3	10
Ⅲb層遺構	1	8	3		2	1		15
Ⅲa層	1	7						8
Ⅲa層遺構		1						1
合計	52	45	34	1	7	8	21	168

第 19 表　石製品出土集計表

10　瓦

瓦は 11,595 点出土している。丸瓦 2132 点、平瓦 8918 点、その他の瓦 98 点、桟瓦 56 点、軒丸瓦 108 点、軒平瓦 40 点、その他軒瓦 12 点、不明 231 点を数える。西公園高架橋等Ⅰ区では滴水瓦（第 14 図 -3：G-1）が出土している。軒丸瓦は、連珠三巴文（第 44 図 -2：F-1、第 70 図 -6：F-11、第 178 図 -7：F-77、F-100）、三引両（第 135 図 -10：F-57）、菊文（第 85 図 -2：F-65、第 178 図 -6：F-68、）、九曜文（第 160 図 -4：F-66、第 181 図 -2：F-99）が確認できる。軒平瓦では雪持ち笹唐草文（第 131 図 -10：G-21）、笹唐草文（第 181 図 -3：G-33）菊唐草文（第 44 図 -1：G-2）、等がある。SK56 から出土した飾り瓦（第 38 図 -1：H-2）は九曜文を中央に配し、両脇に雲文を配す。九曜文の周囲には細いヘラ状工具等を用いて地紋を施している。また、金箔瓦が３点出土している。第 70 図 -7：G-27 は桔梗文軒平瓦で、文様部分に金箔がよく残存している。第 70 図 -8：H-4 は桐文の飾り瓦で、第 103 図 -5：H-5 は軒先の飾り瓦と思われる。金箔瓦は仙台城本丸跡（仙台市 2005a）で 57 点出土しており、G-27 と類似した桔梗文軒平瓦が出土している。

11　鯱瓦

「寛政三　勇［　］」の紀年銘（寛政三年：1791 年）をもつ鯱瓦は撹乱坑から出土した（第 181 ～ 182 図：H-1、図版 39-8）。「勇」字については、堤人形工人で、瓦師でもある初代庄子勇七（1732-1799）との関連も考えられ

る（仙台市博物館 1989）。周辺での鯱瓦の出土例は、仙台城本丸跡（仙台市 2005a）、仙台城二ノ丸第 10 地点（東北大 1998）、仙台城川内駅部（仙台市 2011d）、川内 B 遺跡（仙台市 2011c）ほか複数の出土例がある。仙台城本丸跡では、Ⅲ期石垣の裏込め、近世の整地層および遺構、近代盛土、表土層等から鯱瓦が出土しており、その数は 206 点である。これには各部位が認められるが、今回のように鯱の頭部がほぼ完全な形で出土した例はない。一部には金箔のつく例もあり、Ⅲ期石垣の裏込め（石垣 B 面 21 段目の裏込め）から出土している。また、尾鰭部分が単独で二ノ丸第 10 地点、仙台城川内駅部、川内 B 遺跡から出土している。

桜ヶ岡公園遺跡の例は、撹乱坑の底面付近で目、耳、額部分、また、撹乱埋土中で鼻・顎部、胴部、胸鰭部、腹鰭部が出土し、接合すると一個体として復元できた（第 181 ～ 182 図）。背面の腹鰭部には紀年銘が刻字されている（第 182 図）。ただ尾鰭部は、今回の調査では 1 点も出土しておらず、別の地点から移動してきた可能性が考えられる。鯱瓦が出土した撹乱坑は、仲の町崖面近くに位置していることから、東側崖上に位置していた武家屋敷に本来は伴っていたと見ることもできよう。

形状

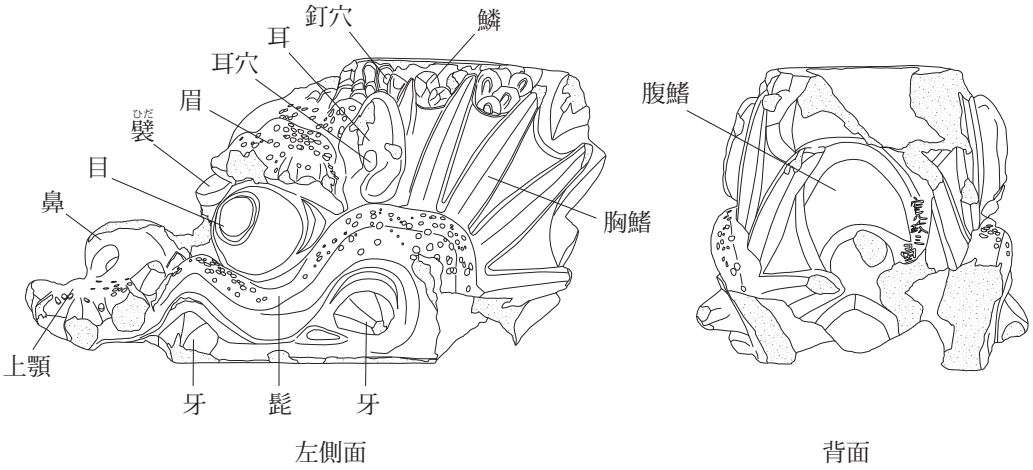
鯱瓦の残存長は 153.5cm、最大幅 89cm、厚さ 4cm ～ 18cm を測る。上顎には棘状の髭が付いていたと思われるが欠失している。内面まで貫通する部分は鼻穴、耳穴、後方の牙の下にある。耳穴は長軸 35mm、短軸 17mm である。目は、中に円を削り黒目とし、目の上には眉を盛り上げ、眉間に襞を 1 段設けている。耳穴の上には径 8mm 程度の釘穴が左右に一対ある。胸鰭は 4 本確認できる。 3 本は斜め上に向かい、下の 1 本は後ろに直線的に伸ばしている。腹鰭は 4 段となり、一番上の段は上半部が欠失している（第 201 図）

製作技法（第 202 図 -1 ～ 5）

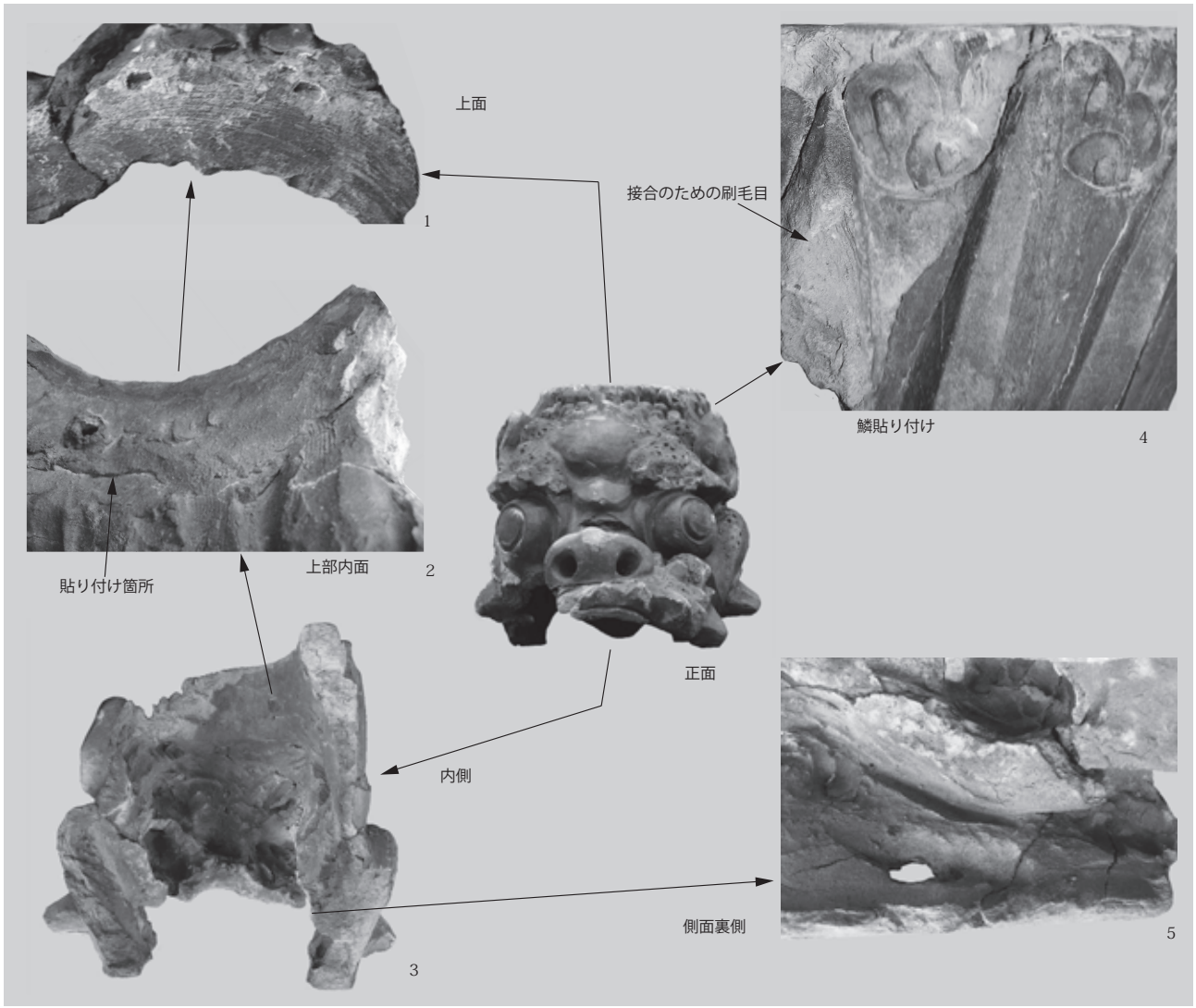
本例のような鯱瓦は他の瓦類とは異なり量産は困難で、立体的に起伏も大きく特別な製作方法が必要とされるだろう。今回の例では内面全体に指頭による強いナデの痕跡（再調整）が多く、外面は綿密な仕上げ調整が行われている事から第一段階の成形方法に結びつくような痕跡は確認できない。全体に起伏の大きいものであるから型づくりによる成形、あるいは部分的な型づくりの併用も考えられるがこの点は明確ではない。

①内面

内面全体には指頭による強いナデの痕跡が残る。目、目下の髭、鼻、耳、眉、眉間の襞（ひだ）、腹鰭等の突出部分の裏側はこの凹凸が著しい。胸鰭の内面は鰭に沿って強くナデを行っている。また側面の前後の牙は角柱状の部材を貼り付けしたもので、その内面は指押さえ程度の痕跡であり、上記のように強くナデを施したものではない。上顎の



第 201 図　鯱瓦部位名称



第 202 図　鯱瓦

数本の髭は短く、貼り付けか掻き取りによるものと思われ、内面は平坦に近い。

上端部の平面形は円形に近く、端部は削り調整 (一部刷毛目か）により平坦につくり、端部幅 3.8 ～ 4.5cm である（1)。この面は別づくりの尾鰭と結合するため面調整が丁寧である。上端部から約 8cm 下位の内面では粘土を補充した痕跡が認められ、上端からこの境にかけて器肉が厚くなる。尾鰭との結合部に対する補強ならびに接合面のずれ防止など安定性を考慮したものだろう（2)。なお補充粘土の境には貼り付け前に粗い刷毛目を行った痕跡が一部残る。

下面は左側面のみ残りがよく、その端部は肥厚し下端部に断面長方形の棒状部材を貼り付け補強していると思われる。この下端面は上面に比べて凹凸があり、精緻なつくりではない。

②外面

目、鼻側面、牙、側面髭上部、胸鰭、胸鰭上の鱗の境などにはヘラで鋭利な線を縁取りし、ヘラ器面調整を行う。各部位の境にはナデを行う。胸鰭上の間はは逆向き半円状に低く段差をつけ、ここに複数の鱗を一枚ずつ貼り付けた手間のかかる手法が行われている。鱗は上から下へ順に貼り付けており、各鱗の中央部は二重に盛り上がる。

外面の文様についても貼りつけを行う前に粗い刷毛目をつけ、密着度の強化を行った部分がある。図と反対側の右側面では鱗を貼り付けた本体部分の面に刷毛目があり、また鱗の剥落面では、下方へ鱗継ぎ足しの際に若干粘土を盛りつけ、再度刷毛目をつけている。胸鰭の剥落部（4 左下）にも刷毛目痕跡があり、これは表面に近い事から

胸鰭欠落面のミス部分に粘土を補充したものであろう。

最終的な装飾として上顎、髭、眉部分に刺突文を施す。これには二種類用いられ、径 8mm 前後の先端の丸い棒状のものと、径 4mm 前後で先の尖った棒状のものである。

類例

鯱瓦の出土例について成形、組み合わせ、施文方法などの一部について比較できるが、詳細な点では今後の追究課題も多い。

まず成形においては、仙台城本丸出土例では裏面に布目痕、指頭痕、ナデの痕跡、ハナレ砂が見られることから型づくりによるものと推測される。桜ヶ岡例では上述のようにこの点は明らかではない。

次に鯱瓦の頭部と尾鰭部を一体として製作したものと別々に製作して組み合わせた例がある。一体製作例としては広島県広島市、広島城の出土例、安土城の出土例などがあり、広島城では 16 世紀末、完形品としても現存する最古のもので、安土城例も含めて初期の鯱瓦に属するとされる（佐藤 2009）。組み合わせの例では仙台城本丸跡８A 区の溝跡出土のものがあり、頭部上面の平坦面を残す。

施文の一部、鱗の表現では、立体的につくるものと、平面的な線書きのものがあり、前者の例としてでは今回の桜ヶ岡例のほか安土城、滋賀県津山城（津山市 2005）等、後者では加賀藩上屋敷（追川 2000）、浜松城（浜松市 2010）等があげられる。

また出土例ではないが建物改修などの際に保管されたものがあり、大阪府高槻城の例は一体型で鱗は線描き、また、京都府丹波亀山城の例では組み合わせ型で鱗は貼り付けである。

各地の出土例は破片であるために一体型か組み合わせ型か不明なものが多く、製作技法や装飾においてもまだ系統的に把握できるとは言い難い。桜ヶ岡出土例は出土状態に難点があるが寛政 3 年（1791）銘の標識資料として、上記の鯱瓦の製作技法を整理するうえで貴重な資料と位置づけされる。

12　出土遺物のまとめ

桜ケ岡公園遺跡で出土した遺物は量も多く、種類も豊富である。中国陶磁器は 16 ～ 17 世紀代の景徳鎮青花、漳州窯色絵および青花等の伝世品と思われる製品が出土している。肥前産磁器の出土傾向としては 18 世紀後半までの遺物が多数出土しており、18 世紀末から 19 世紀代の遺物は少なく、広東碗・端反碗の出土数は非常に少ない。瀬戸美濃産磁器はⅢ a 層段階において急増する傾向にある。17 世紀代の志野産陶器や岸産陶器などの年代を特定しやすい遺物に関してⅤ層段階からⅢ a 層段階まで比較的均質に出土している。焼継痕跡のある遺物については、下限を示すと思われる近代初頭の磁器の出土例などが認められた。木製品は SK49、SX49、SX1 等で依存状態が良く、荷札木簡や傘下轆轤などの例が見られた。金属製品では刀の鍔や小柄など、刀剣関係の遺物が多く出土している。また金箔瓦、ガラス製品、紀年銘のある鯱瓦など珍しい遺物が出土した。

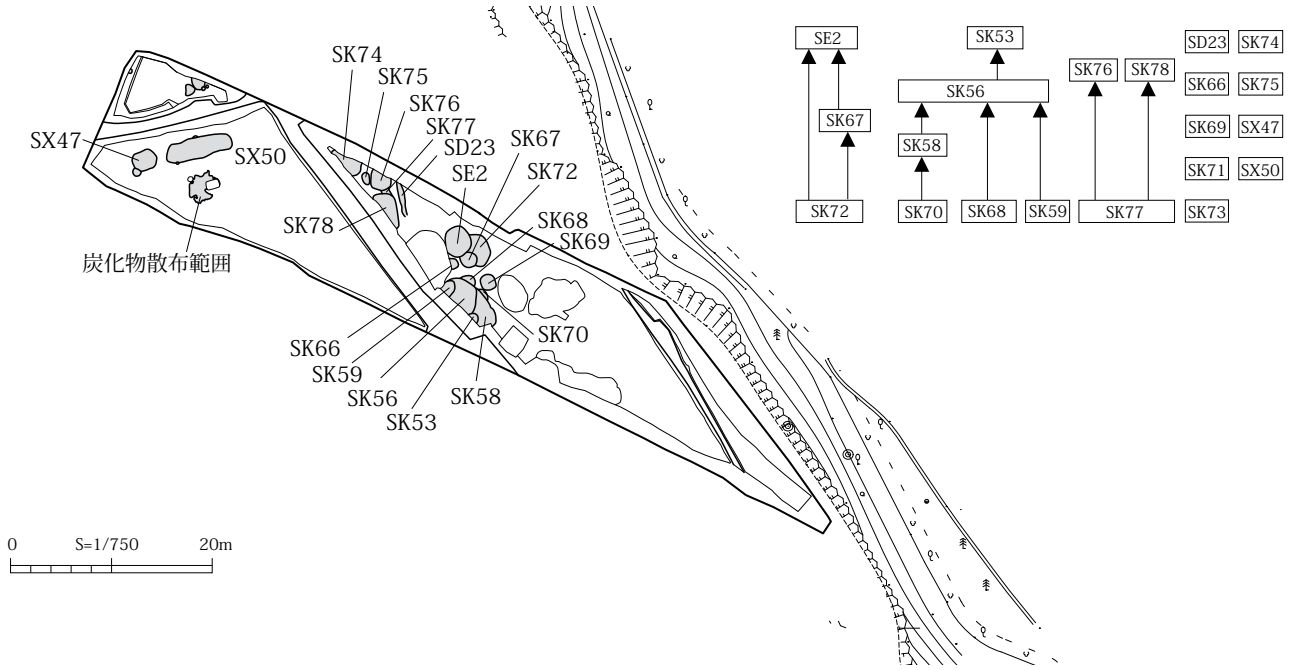
第２節　検出遺構について

桜ケ岡公園遺跡では、154 基の遺構が検出された。近世の整地面はⅢａ層、Ⅲｂ層、Ⅳａ層、Ⅳｂ層、Ⅴ層の５面が確認され、その他自然堆積層であるⅥ層・Ⅶ層上面および近代面のⅡ層上面で遺構が検出された。ここでは、検出された主要な遺構について検討し、桜ケ岡公園遺跡の様相について概観してみたい。特に、層位的に整地面を捉えることが出来た西公園高架橋等Ⅱ区を中心に、土地利用の変遷について触れる。土地利用のあり方において、第 203 図から第 208 図に崖面の位置を示し、検出された方位を示す遺構が、崖面とどのような関係にあるのかを表示している。

１　Ⅵ・Ⅶ層上面遺構

自然堆積層であるⅦ層および旧表土と思われるⅥ層上面で確認された遺構群である。調査区中央部に土坑が集中している。SK56、SK58 は遺物を伴うが、その他の遺構からの遺物の出土は少ない。また、調査区西側では、Ⅵ層上面に炭化物が堆積している範囲を確認し、同一のものと思われる炭化物は SX47、SX50 の土層中にも堆積していた。SX47、SX50 は土地利用に先立つ周辺整備、整地等に伴う遺構の可能性がある。また、遺物を伴わない土坑は抜根などの整地の痕跡と見ることもできる。

西公園高架橋等Ⅰ区の SA1、SA2、西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）の SD1 などもⅦ層上面で確認されている。これらは区画を示すものの可能性があるものの、上面の整地層が削平されてしまっているため正確な年代は不明である。

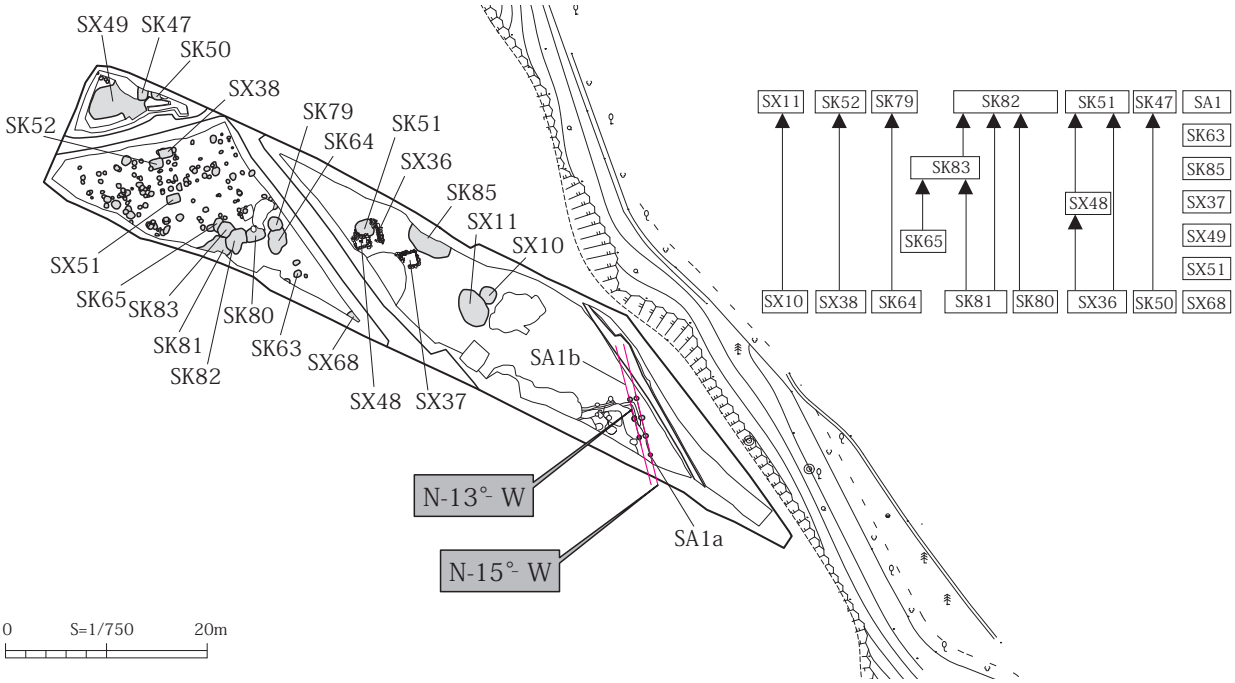


第 203 図　Ⅵ・Ⅶ層上面遺構分布図

２　Ⅴ層上面遺構

今回の調査で確認された近世の整地層で、最も古いⅤ層上面で確認された遺構群である。出土遺物の年代から 18 世紀前半まで機能していたと思われる。多数のピットが検出されており、建物として明確に組めるものは確認できなかったが、柵列などの遺構の痕跡の可能性はある。調査区中央西寄りには複数の土坑が重複して検出された（SK64、SK65、SK79 ～ 83）。平面形、断面形ともに不整形で性格は不明である。廃棄土坑としては遺物の量がま

ばらで、埋め戻しの際に土と一緒に入り込んだものと思われ、土取り等の掘り起こし、埋戻しを繰り返し行なっていた可能性がある。調査区中央部では石組土坑が３基（SX36、SX37、SX48）確認された。底面に石敷き、粘土貼り付け等は見られず、利水関係とは考えにくく、ムロとして利用されていたものと思われる。調査区北側のSX49からは多数の木製品が出土した。また、調査区東側には２列７穴からなる柱列跡SA1が確認された。方位はN-13°-WおよびN-15°-Wを示し、区画施設の可能性がある。



第204図　Ⅴ層上面遺構分布図

３　Ⅳｂ層上面遺構

出土遺物の年代から18世紀後半まで機能していたと思われる。Ⅴ層段階のSA1とほぼ同じ位置にSD3・4・5溝跡が位置する。これらの溝により方形区画をつくっているように思われるが区画内部と思われる部分は調査区外に延びており詳細は不明である。方位は南北方向がN-28°-Wで、崖面の方位に近く、東西方向はN-78°-Eを示す。SA3、SX40の南側では瓦組の暗渠と思われるSD22が検出されたが、周辺の建物跡として明確なものは認められなかった。調査区北西側には、道路状の硬化面を伴うSX77および側溝の可能性のあるSD21、柱列跡SA3、石列・石敷きを伴う整地跡と思われるSX40によりつくられる区画が見られる。SX77・SD21はN-15°-Wを示し、SA3からSX40につながる直線はN-71°-Eを指す。

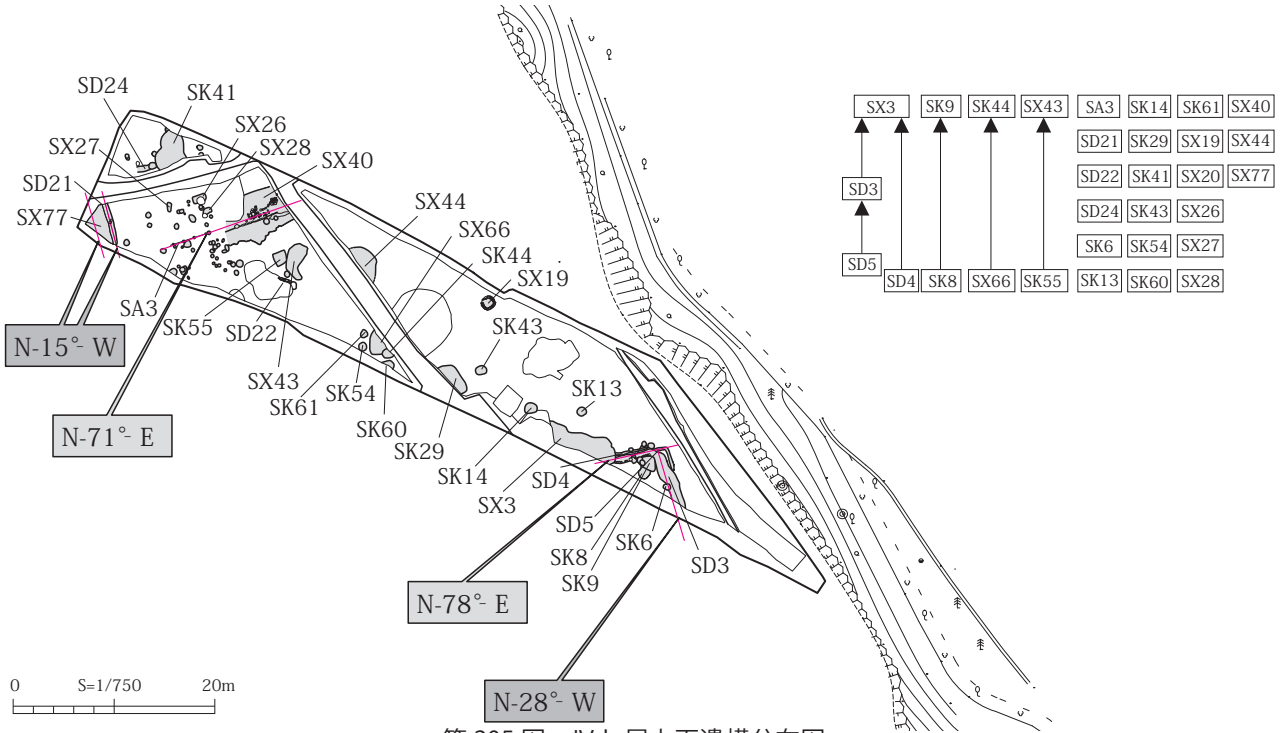
４　Ⅳａ層上面遺構

出土遺物の年代から18世紀後半から19世紀初頭まで機能していたと思われる。調査区の中央部には掘り方の径が6m近くある井戸跡SE1が確認された。SK49からは多数の木製品が良好な状態で出土しており、下駄や漆器皿の未製品、荷札木簡なども含まれていた。SK49を切るSK46からはガラス製品が出土している。また、調査区西側では、一分判金と中国銭が出土した。出土状況から、次段階のⅢｂ層敷設直前に、地鎮等の目的により散布したものと思われる。

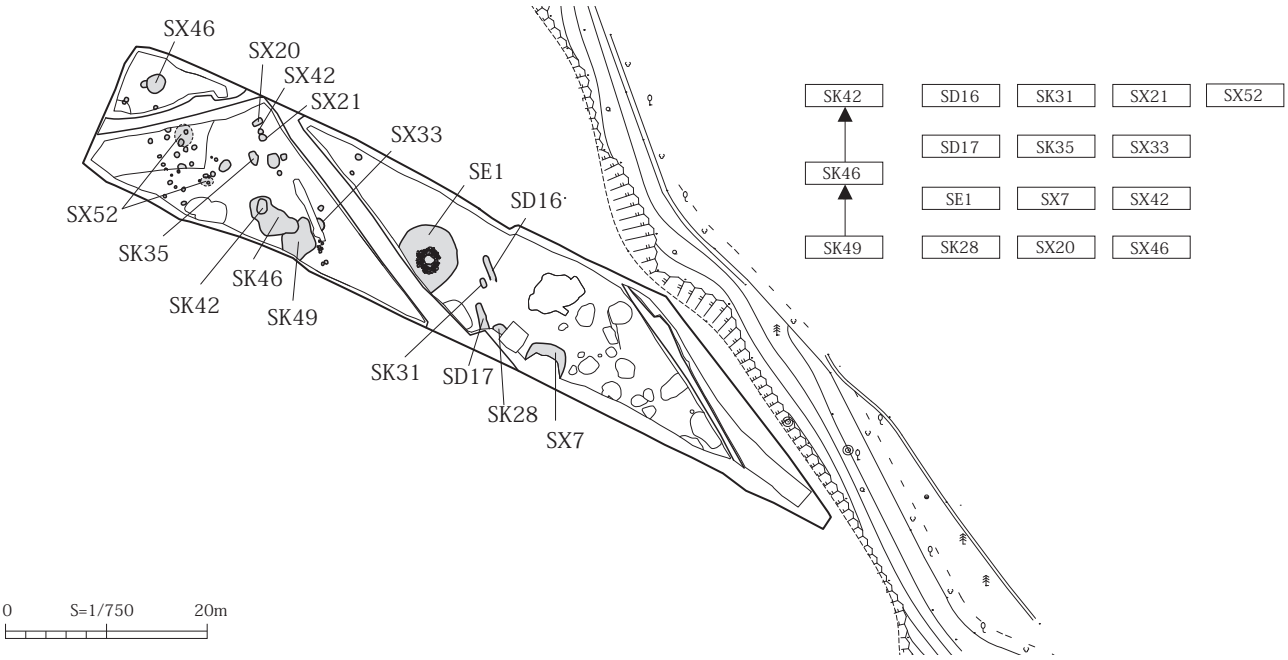
５　Ⅲｂ層上面遺構

出土遺物の年代から19世紀前半～中頃まで機能していたと思われる。調査区の西側ではやや蛇行して延びるSD7溝跡があり、方位はN-24°-Wを示す。SD7の東側にもほぼ同じ方位をとり、SD7の規模を小さくしたような

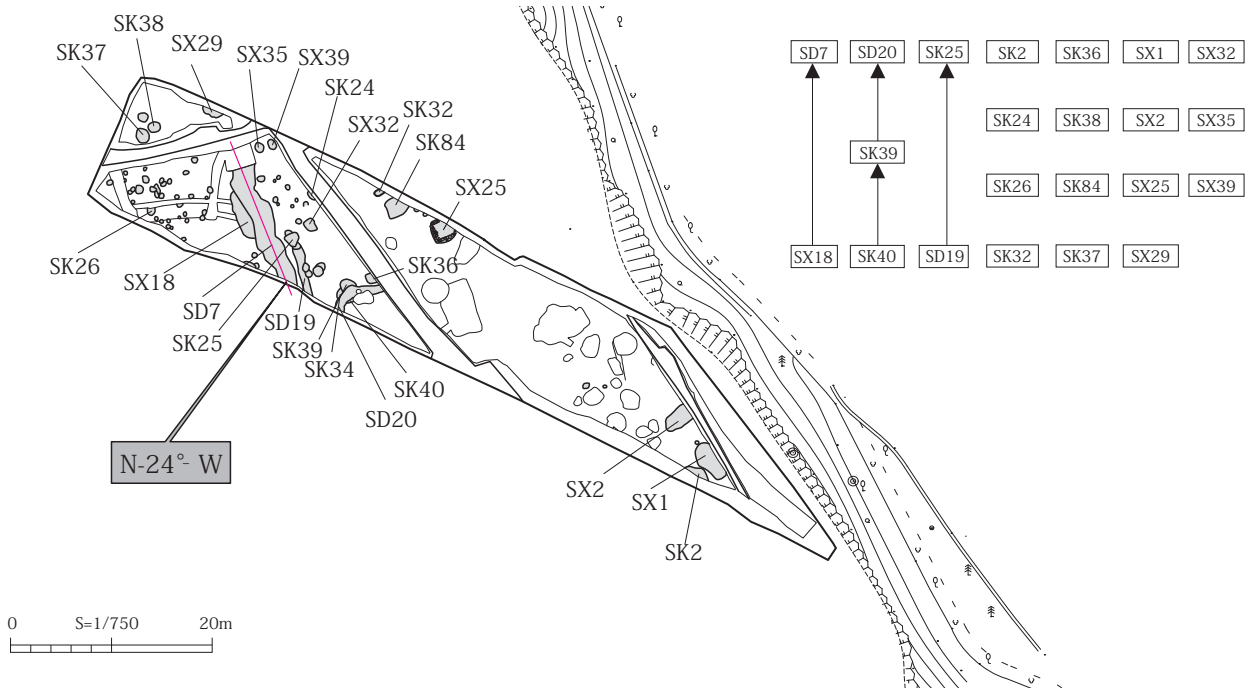
形状の SD19 がある。また、調査区東側の SX1 からは前段階の SK49 と同様に依存状態のよい木製品が多数出土した。その中には木簡が 3 点含まれており、そのうち 1 点では「御年貢米四斗五升」「名取北方柳生村」の墨書が確認された。



第 205 図　Ⅳ b 層上面遺構分布図



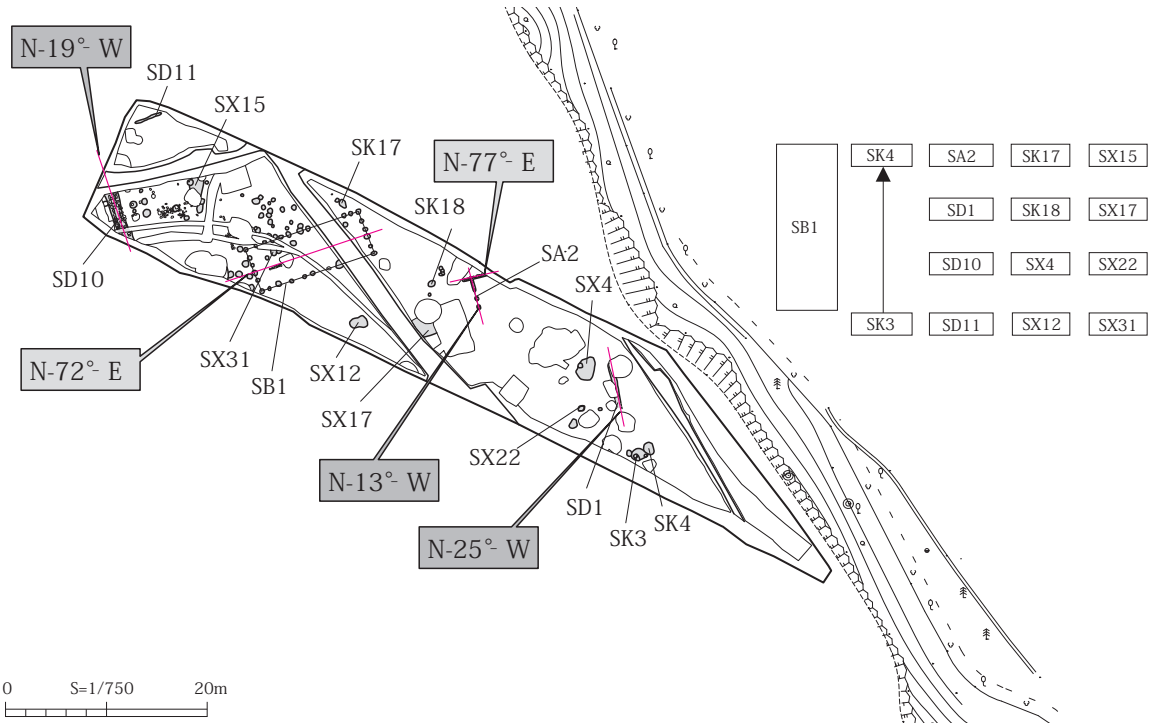
第 206 図　Ⅳ a 層上面遺構分布図



第 207 図　Ⅲ b 層上面遺構分布図

6　Ⅲ a 層上面遺構

出土遺物の年代から 19 世紀中頃まで機能していたと思われる。調査区の西側では石組溝 SD10 が検出された。方位は N-19° -W を示し、道路側溝の可能性もある。調査区東側には SD1 溝跡があり、方位 N-25° -W を示す。調査区中央では建物跡 SB1 が確認され、桁行方向の方位は N-72° -E を示す。SB1 は小さな掘り方に根石を据えており、間隔も一定でないため、横木を渡してその上に柱を建てる構造の建物であったと考えられる。SB1 の南東側には T 字状に広がる石列 SA2 があり、東西方向の方位 N-77° -E、南北方向の方位 N-13° - Wを示す。SB1 と同様に長屋風建物の一角を構成するものの可能性があるが、検出範囲が狭く明確でない。



第 208 図　Ⅲ a 層上面遺構分布図

７　Ⅱ層上面遺構

西公園高架橋等Ⅰ区において検出された石敷き SX3、道路状遺構、建物跡、竹樋、石組溝、石列等は出土遺物の年代から 19 世紀後半以降の年代と思われる。建物跡と道路を中心とした一連の施設と考えられる。

８　検出遺構のまとめ

西公園高架橋等Ⅱ区では近世の整地面が５面確認されたが、年代の幅が比較的短く、一番古い整地層で 18 世紀前半までしか遡ることができず、17 世紀代の様相は不明である。西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）の遺構は、Ⅲａ層段階の新しい時期の土坑が確認されたほか、Ⅶ層上面において時期不明の溝跡が検出されている。西公園高架橋等Ⅰ区の調査では整地層が確認できず、近世の可能性のある遺構についても時期は不明である。

	北西→南東	北東→南西
Ⅴ層	N-15°-W	
	N-13°-W	
Ⅳｂ層	N-15°-W	N-71°-E
	N-15°-W	N-78°-E
	N-28°-W	
Ⅲｂ層	N-24°-W	
Ⅲａ層	N-19°-W	N-72°-E
	N-13°-W	N-77°-E
	N-25°-W	

第 20 表　検出遺構の方位の移り変わり

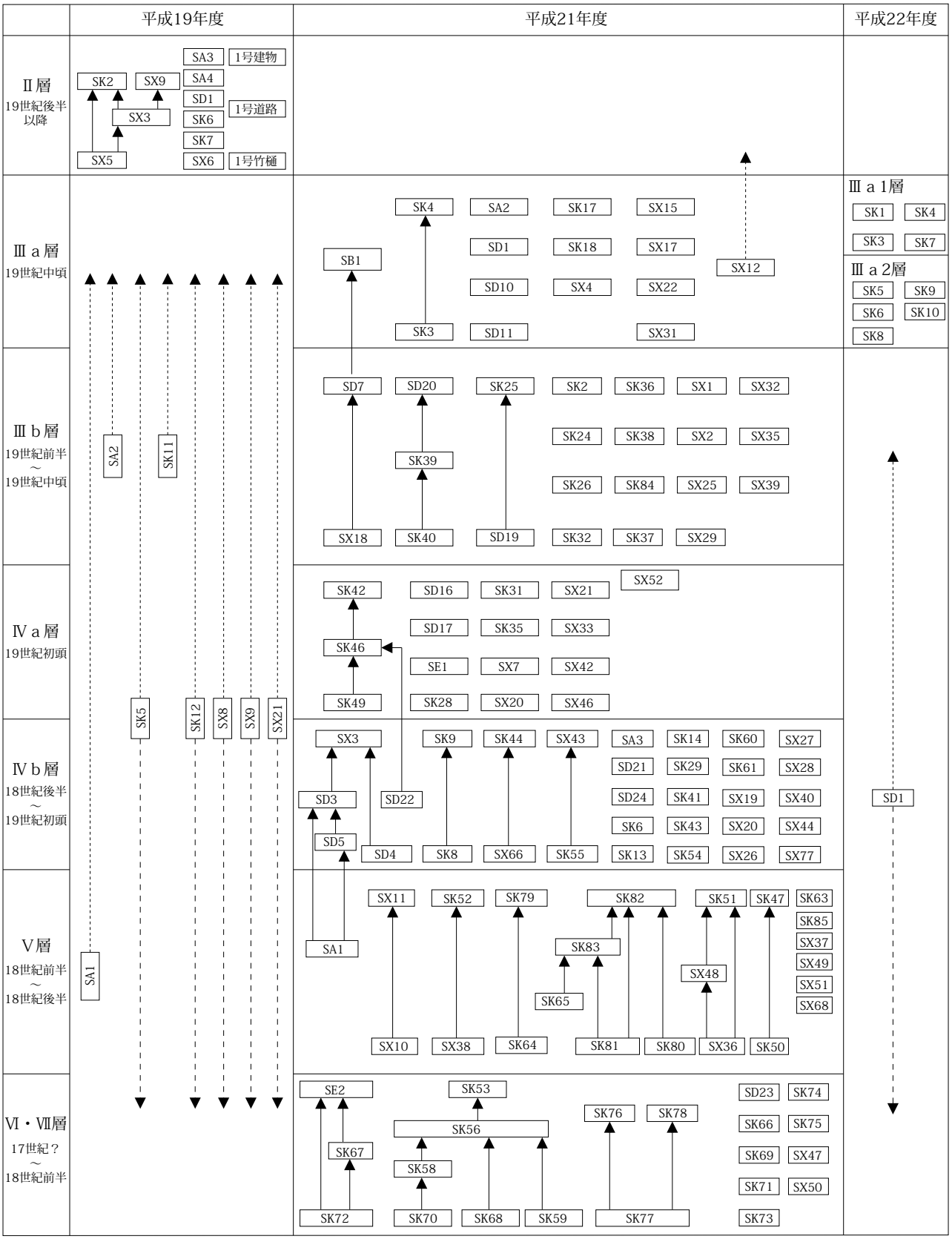
西公園高架橋等Ⅱ区で確認された遺構の大半は、性格不明の土坑である。これらは土取りや抜根などの整地に伴うものの可能性があるが、判然としない。居住空間として利用されていたと判断できるものは比較的少なく、建物跡として明確なものはⅢａ層段階の SB1 のみである。また、Ⅳｂ層段階の SA3、SX40 は居住空間に伴う施設の一角と思われ、SX77 は道路跡の可能性が高い。また、Ⅴ層段階の SA1、Ⅳｂ層段階の SD3 ～ 5 から推定される区画は、調査区の南側に展開しており、詳細は不明である。

Ⅵ・Ⅶ層段階の SE2 井戸跡、Ⅴ層段階の石組土坑 SX36、SX37、SX48、Ⅳａ層段階の SE1 井戸跡などは土地利用としては屋敷地の裏手にあたる施設のように思われる。以上のように西公園高架橋等Ⅱ区の検出遺構は、調査区北西側の一部が居住空間として利用され、その他の大部分は裏手にあたる場所であったと考えられる。

方向性をもつ遺構を見ると、長軸を北西－南東方向にもつものと、それに直交する方向のものがある（第 20 表）。これらの遺構の南北方向は、N-13°-W から N-28°-W の間にあり、その差は 15°以内であり、近世各面の異なる時期においても大きな偏差は少ない。こうした点で長期を通じて何らかの土地割に関する制約を受けていた点が看守される。自然地形の仲の町崖の方向はこれらの遺構と大きく偏差がある点で、遺構の方位に直接影響した可能性は低く、土地利用の面的な制約に限られる。絵図などから見ると、むしろ道路方向に遺構方位が規制を受けていると思われる。こうした点で、今後道路延長線の検出が望まれるところとなる。

桜ヶ岡公園でのこれまでの調査は、第１次～４次調査および２回の試掘調査が行われている（第５図）。第１次調査は今回の調査と同じく地下鉄東西線関係の調査で、遺構面が３面確認された。武家屋敷に伴うと考えられる掘立柱建物、区画溝跡、地鎮遺構等が検出されている。第２次～４次調査は西公園再整備事業に伴うトレンチ調査で、第２次調査では武家屋敷に伴うと考えられる礎石建物や区画溝が検出され、第４次調査では景徳鎮、漳州窯といった中国陶磁器、県内３例目となる鍋島焼等が出土している。

今回の調査地点は崖下の地区にあたり、土地の利用状況・居住者の性質ともに過年度の調査地点とは異なり、注目すべき点もある。下級武士の居住地として、たび重なる敷地割の造成が繰り返され、廃棄場の状況と遺物のあり方等の一端が把握された。今後の調査により、さらに土地利用の変遷について解明していく必要がある。



第 209 図　桜ケ岡公園遺跡遺構変遷図

第８章　まとめ

１．桜ケ岡公園遺跡では総数 52,560 点の遺物が出土した。

２．陶器は華南三彩、志野、織部、唐津、岸、嬉野、丹波、京・信楽系陶器、肥前陶器、瀬戸美濃、小野相馬、大堀相馬、堤、その他在地産のものが出土した。焼継痕跡のある陶器は３点確認された。

３．磁器は景徳鎮、漳州窯磁器、肥前、瀬戸美濃、切込、平清水等が出土した。景徳鎮は 32 点出土している。漳州窯磁器は 17 点出土し、３個体に復元された。また焼継痕のある磁器が多数出土し、磁器の製作年代では 18 世紀前半から 19 世紀中頃までの幅がある。19 世紀中頃の資料は焼継の下限資料と思われる。

４．土師質土器は皿、灯明皿が大部分を占め、金箔を貼り付けた皿が１点出土している。蚊遣りの蓋に転用したものが９点出土した。

５．瓦質土器は火鉢が大部分を占める。外面に型紙によるものと思われる紗綾文を施文する蚊遣りが出土している。

６．金属製品では切羽、刀子、鐔、小柄などの刀装具が比較的多く出土している。小柄には細工の細かいものがみられる。小柄には未製品と思われるものが１点確認された。

７．古銭では寛永通宝のほか、一分判金、中国銭が見られる。中国銭と一分判金は整地前の地鎮行為に使用されたと思われる状況で出土している。

８．土製品は動物型、箱庭道具、土人形、碁石、土鈴などが見られ、社型の土製品の背面に文字が書かれているものが見られた。

９．木製品は SK49、SX49、SX1 等から多量に出土している。碗や重箱、曲げ物、櫛、傘下轆轤のほか、漆器皿の未製品、下駄の未製品等が出土している。また、荷札木簡が４点出土した。

10．石製品は刻字のある硯、温石のほか、碁石が 52 点出土している。

11．ガラス製品は簪、笄、トンボ玉が出土している。

12．瓦は 11,595 点出土している。金箔瓦が３点、滴水瓦が１点、鯱瓦が１点出土した。鯱瓦は撹乱土坑からの出土だが、「寛政三」（1791 年）の紀年銘資料である。

13．整地層は５面確認された。遺構面は、自然堆積層であるⅦ層および旧表土と思われるⅥ層上面の１面と、平成 19 年度調査区で確認したⅡ層上面の近代以降の面と合わせて７面ある。整地層の年代は出土遺物の傾向が判然とせず、明確に区分することは困難であったが、概ね 18 世紀前半から 19 世紀中頃までの変遷が伺える。

14．Ⅵ・Ⅶ層上面検出遺構は 18 世紀前半以前の年代が考えられる。井戸跡、土坑群などが検出された。炭化物の分布域が認められ、土地利用に際して整地等を行なった痕跡と思われる。

15．Ⅴ層上面検出遺構は 18 世紀前半～後半頃に機能していたものと思われる。多数のピット、不整形の土坑群、柱列等が検出された。

16．Ⅳｂ層上面検出遺構は 19 世紀初頭以前に機能していたものと思われる。道路跡と思われる SX77、柱列跡、掘込地業跡、区画を示すと思われる溝跡などが検出された。

17．Ⅳａ層上面検出遺構は 19 世紀初頭を中心に機能していたものと思われる。掘り方の径が 6m 近くある SE1 や、多数の木製品が出土した SK49 などが見られる。

18．Ⅲｂ層上面検出遺構は 19 世紀前半から中頃まで機能していたものと思われる。蛇行する溝跡や荷札木簡が出土した SX1 が見られる。

19．Ⅲａ層上面検出遺構は 19 世紀中頃まで機能していたものと思われる。長屋風建物の基礎と思われる SB1 や石組溝などが確認された。

引用・参考文献

江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房

追川吉生 2000「本郷邸の御殿空間 - 考古学からのアプローチ -」『加賀殿再訪　東京大学本郷キャンパスの遺跡』東京大学コレクションX　西秋良宏編　東京大学出版会

大橋康二構成 2002『そば猪口事典』平凡社

学研 2006　歴史群像編集部編　銀座長洲屋協力『図解日本刀事典』

九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』

新宿区内藤町遺跡調査会 1992『内藤町遺跡 - 放射 5 号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 -』

芹沢長介ほか編 1981『日本やきもの集成 1 北海道 東北 関東』平凡社

仙台市教育委員会 1985『仙台城三ノ丸跡』仙台市文化財調査報告書第 76 集

仙台市教育委員会 2005a『仙台城本丸跡 1 次調査』仙台市文化財調査報告書第 282 集

仙台市教育委員会 2005b『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査 (1) 概要報告書』仙台市文化財調査報告　書第 289 集

仙台市教育委員会 2006『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査 (2) 概要報告書』仙台市文化財調査報告　書第 302 集

仙台市教育委員会 2007a『川内 A 遺跡 - 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ -』仙台市文化財　調査報告書第 312 集

仙台市教育委員会 2007b『桜ヶ岡公園遺跡第 2 次調査報告書』仙台市文化財　調査報告書第 318 集

仙台市教育委員会 2008『桜ヶ岡公園遺跡第 3 次調査報告書』仙台市文化財　調査報告書第 335 集

仙台市教育委員会 2009a『仙台城跡 9』仙台市文化財調査報告書第 348 集

仙台市教育委員会 2009b『仙台城跡―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ―』仙台市文化財調査報告書第 342 集

仙台市教育委員会 2010a『桜ケ岡公園遺跡―第 4 次発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 378 集

仙台市教育委員会 2010b『中野高柳遺跡第 1 ～ 5 次調査、宮城県仙台港背後地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書 Ⅳ』仙台市文化財調査報告書第 361 集

仙台市教育委員会 2010c『若林城跡－第 8 次・第 9 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 377 集

仙台市教育委員会 2011a『仙台城跡 11』仙台市文化財調査報告書第 395 集

仙台市教育委員会 2011b『桜ケ岡公園遺跡―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ―』仙台市文化財調査報告書第 384 集

仙台市教育委員会 2011c『川内 B 遺跡―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅴ―』仙台市文化財調査報告書第 385 集

仙台市教育委員会 2011d『仙台城跡―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ―』仙台市文化財調査報告書第 386 集

仙台市史編さん委員会 1994『仙台市史 特別編 1 自然』

仙台市史編さん委員会 1995『仙台市史 特別編 2 考古資料』

仙台市史編さん委員会 2004『仙台市史 通史編 5 近世 3』

仙台市博物館 1989『堤人形の美』

高倉淳ほか編 1994『絵図・地図で見る仙台第一輯』今野印刷株式会社

高倉淳ほか編 2005『絵図・地図で見る仙台第二輯』今野印刷株式会社

地理学会共催秋季学術大会発表要旨『季刊地理学 Vol.63』

津山市企画部行政広報室 2005「津山城百聞録 _58」『広報つやま』2005 年 1 月号

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1985『東北大学埋蔵文化財調査年報 1』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998『東北大学埋蔵文化財調査年報 9』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000『東北大学埋蔵文化財調査年報 13』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2009『東北大学埋蔵文化財調査年報 19』

浜松市教委 2010『浜松市文化財情報』27

兵庫埋蔵銭調査会 1996『日本出土銭総覧』

松本秀明・熊谷真樹 2010 「広瀬川中流部における完新世の河床高度変化に関する知見」東北地理学会・北海道地理学会共催秋季学術大会発表要旨『季刊地理学 Vol.63』

宮城県文化財保護協会 1990『切込窯跡』宮崎町文化財調査報告書第 3 集

写真図版

1. Ⅶ層上面全景（東から）

2. Ⅱ層上面全景（西から）

図版１　西公園高架橋等Ⅰ区　全景

1. 調査区西壁（東から）

2. 調査区南壁（北から）

4.SA1 全景（北から）

3.SA1 検出（北から）

5.SA1 断面（南から）

図版２　西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅶ層上面（１）

1.SA1 断面（南から）

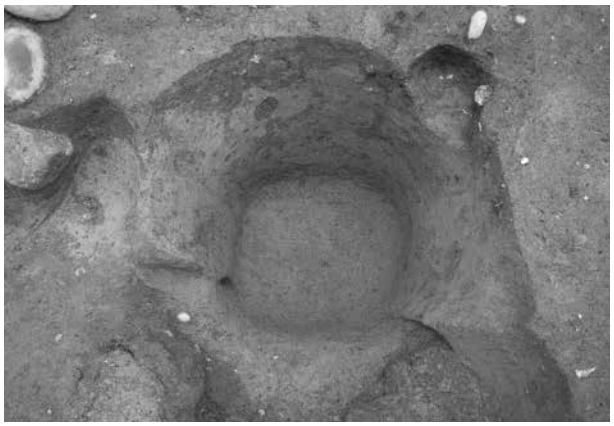
2.SA2 全景（北から）

3.SK5 完掘（東から）

4.SK5 断面（北から）

5.SK11 断面（南から）

6.SK12 断面（南から）


7.SX8 完掘（東から）

8.SX8 断面（東から）

図版３　西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅶ層上面（２）

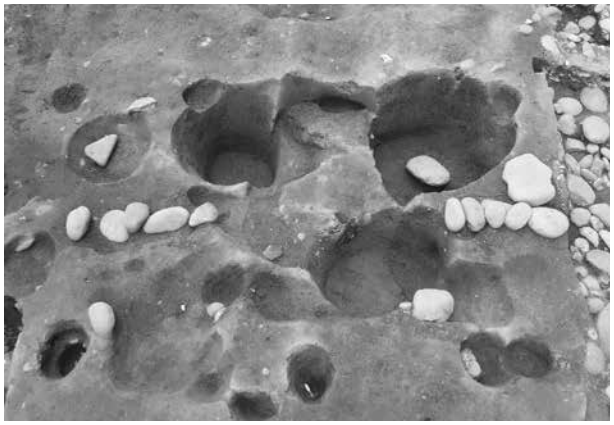
1.SX19 完掘（北から）

2.SX21 完掘（東から）

3.SD1・SA3・1 号道路跡（北から）

4.SD1・SA3・1 号道路跡断面（北から）

図版４　西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅶ層上面（３）・Ⅱ層上面（１）


1.SA4（南から）

2.1 号竹樋断面（北から）

3.1 号建物跡上面検出（南から）

4.1 号建物跡根固検出（北から）

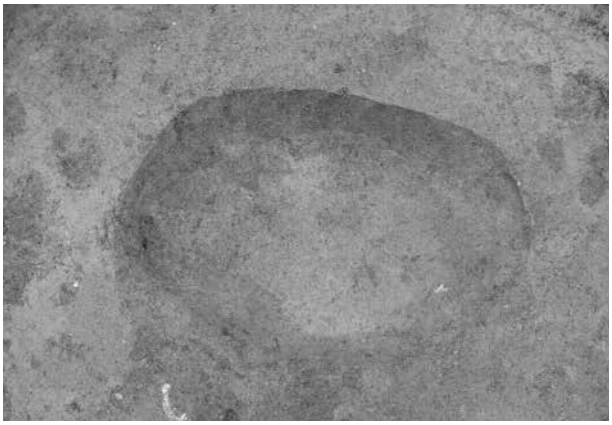
5.SX3・SK2・SX5（東から）

6.SX3・SK2・SX5 断面（西から）

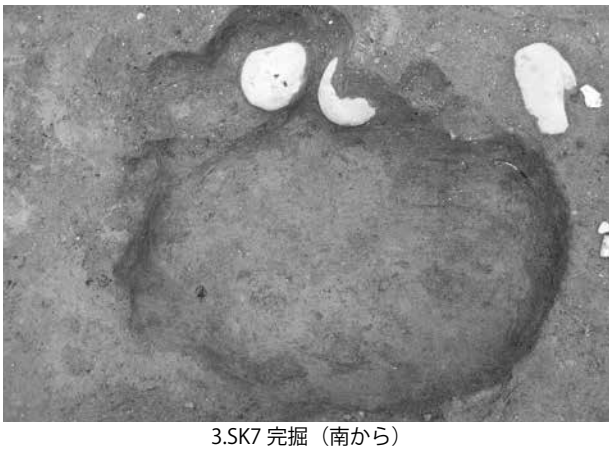
7.SK2 完掘（西から）

8.SX5 完掘（西から）

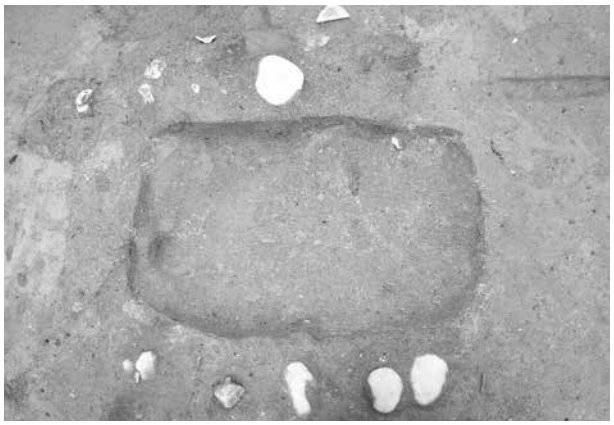
図版５　西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅱ層上面（２）

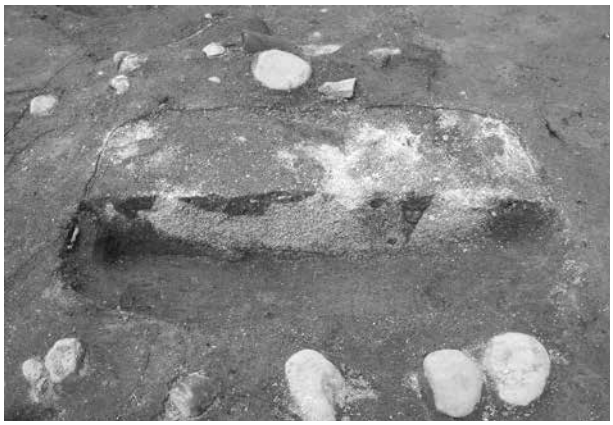

1.SK9 完掘（東から）

2.SK9 断面（東から）


3.SK7 完掘（南から）

4.SK7 断面（南から）


5.SK6 完掘（南から）


6.SK6 断面（南から）

7.SX6 完掘（西から）

8.SX6 断面（西から）

図版６　西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅱ層上面（３）

1. Ⅲ a 層上面　北部全景（北西から）

2. Ⅲ a 層上面　南西部全景（南東から）

3. Ⅲ b 層上面　北部全景（西から）

図版７　西公園高架橋等Ⅱ区　全景（１）

4. Ⅵ・Ⅶ層上面　南部全景（北西から）

5. Ⅳ a 層上面　北部全景（北西から）

図版８　西公園高架橋等Ⅱ区　全景（２）

1. 北壁 A 断面（南から）

2. 北壁 B 断面（南から）

3. 北壁 B 断面（南から）

4. 北壁 B 断面（南から）

5. 南壁 C 断面（北から）

6. 南壁 C 断面（北から）

7. 南壁 C 断面（北から）

8. 南壁 D 断面（北から）

図版９　西公園高架橋等Ⅱ区　壁面（１）

1. 南壁 D・E 断面（北から）

2. 南壁 E 断面（北から）

3. 北西壁 F 断面（南東から）

4. 東西ベルト G 断面（南から）

5. 東西ベルト H 断面（北から）

6. 南北ベルト I 断面（西から）

7. 南北ベルト J 断面（東から）

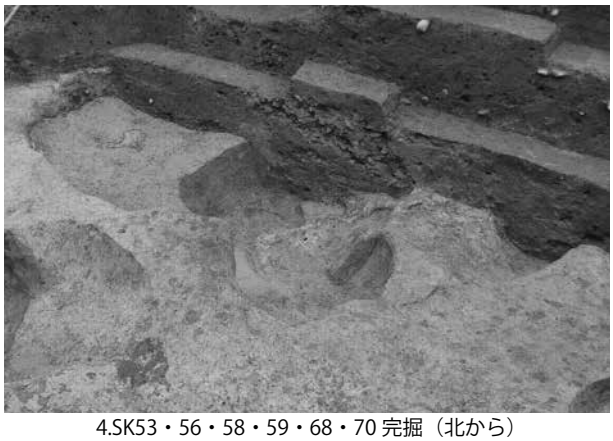
8. 南北ベルト J 断面（東から）

図版 10　西公園高架橋等 II 区　壁面（2）

1.SD23 完掘（北から）

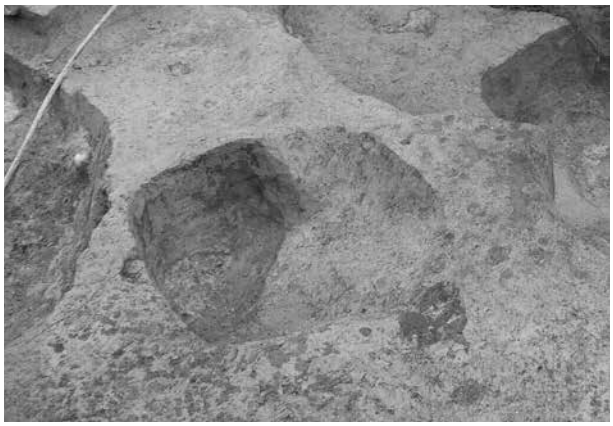
2.SE2 完掘（北から）

3.SE2 断面（西から）


4.SK53・56・58・59・68・70 完掘（北から）

5.SK53・56・58・59 断面（東から）

6.SK66・67・72 完掘（北から）


7.SK69 完掘（北から）

図版 11　西公園高架橋等 II 区　VI・VII層上面（1）

1.SK69 断面（南から）

2.SK71・73 完掘（南西から）

3.SK71 断面（北から）

4.SK73 上面礫分布（南から）

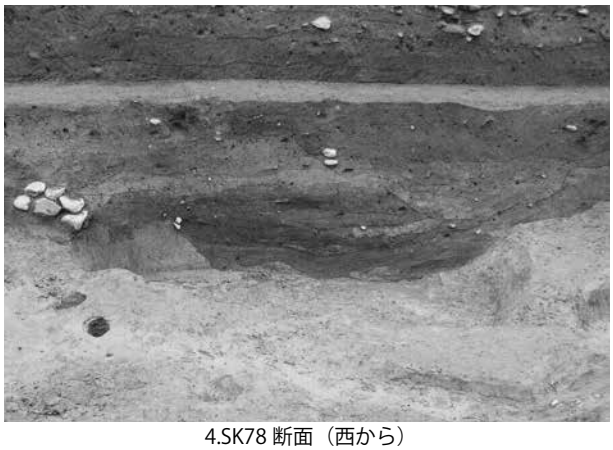
5.SK74 ～ 78・SD23 完掘（東から）

図版 12　西公園高架橋等 II 区　VI・VII層上面（2）

1.SK74 完掘（北から）

2.SK74 ～ 78 完掘（北から）

3.SK76 断面（東から）


4.SK78 断面（西から）

5.SX47・SX50 全景（西から）

6.SX47 断面（南から）

7.SX50 断面（南から）

図版 13　西公園高架橋等 II 区　VI・VII層上面（3）

1.SA1 全景（北から）

2.SA1-P1 断面（東から）

3.SA1-P2 断面（東から）

4.SA1-P3 断面（東から）

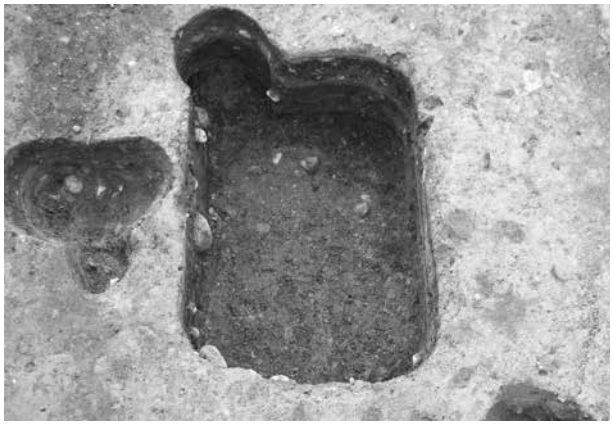
5.SA1-P4 断面（東から）

6.SK47 断面（南から）

7.SK47・50 完掘（南西から）

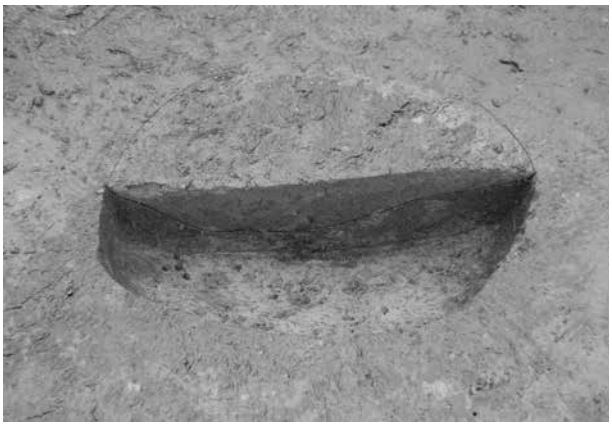
図版 14　西公園高架橋等 II 区　V 層上面（1）

1.SK52 断面（西から）


2.SK52 完掘（東から）

3.SX38 断面（南から）

4.SX38 完掘（東から）


5.SK63 断面（北から）

6.SK65・83 断面（南東から）

7.SK81 断面（東から）

図版 15　西公園高架橋等 II 区　V 層上面（2）

1.SK82 断面（東から）

2.SK80 断面（北から）

3.SK79 断面（北から）

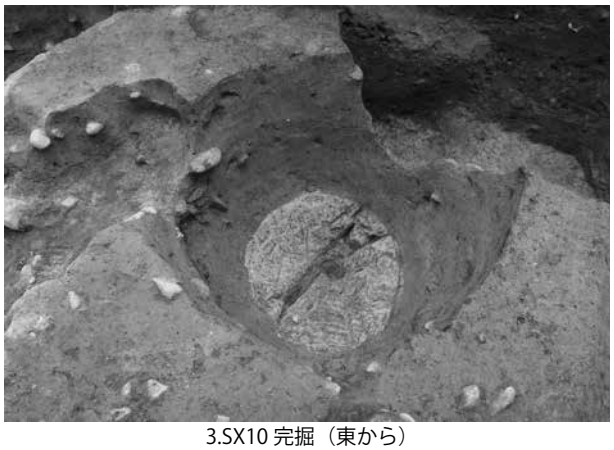
4.SK64 断面（東から）

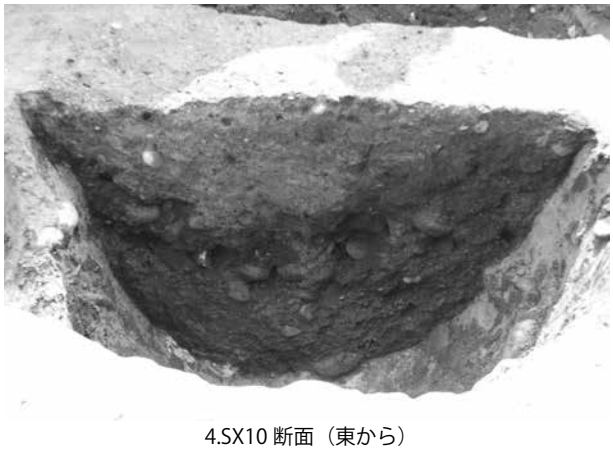
5.SK64・65・79～83 全景（北から）

図版 16　西公園高架橋等 II 区　V 層上面（3）

1.SK85 断面（南西から）

2.SK85 完掘（北から）


3.SX10 完掘（東から）


4.SX10 断面（東から）

5.SX11 完掘（北から）

6.SX11 断面（東から）

7.SK51 完掘（東から）

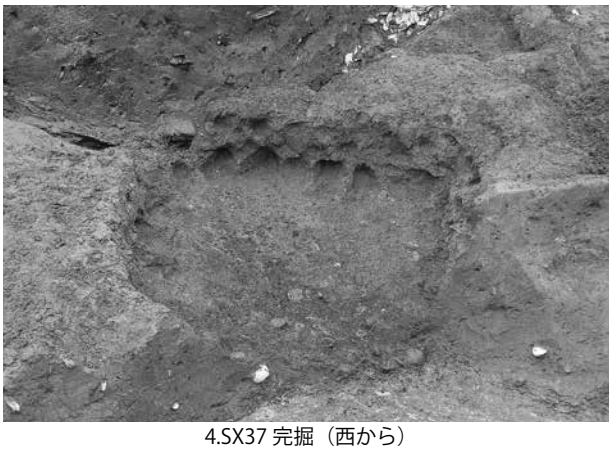
8.SX36 石組検出（西から）

図版 17　西公園高架橋等 II 区　V 層上面（4）

1.SX36 石組（西から）

2.SX48 石組検出（東から）

3.SX37 検出（北から）


4.SX37 完掘（西から）

5.SX37 石組（北から）

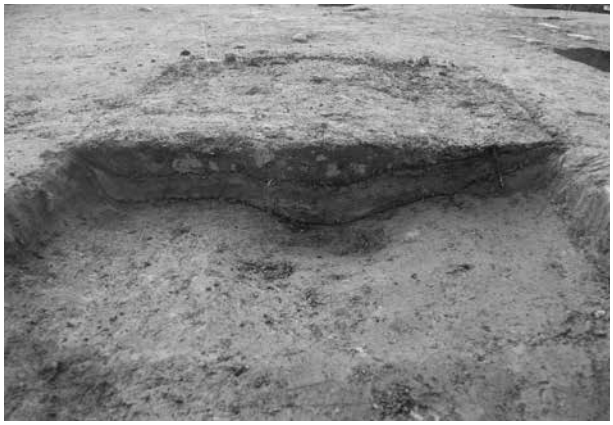
6.SX68 完掘（北西から）

7.SX49 全景（西から）

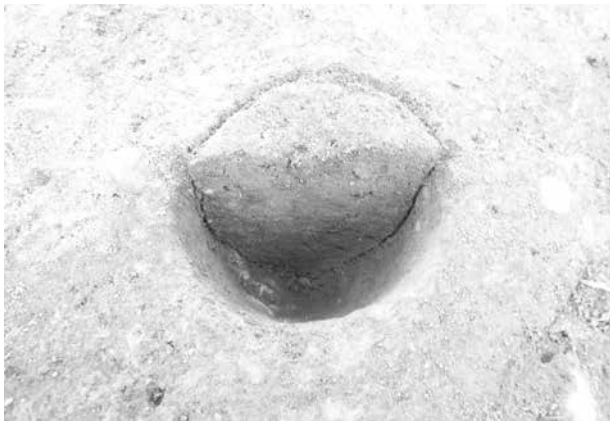
8.SX49 断面（南から）

図版 18　西公園高架橋等 II 区　V 層上面（5）

1.SX51 完掘（西から）


2.SX51 断面（東から）

3.SA3　P1 断面（南から）


4.SA3　P2 断面（南から）

5.SA3 全景（東から）

6.SD3 完掘（東から）

図版 19　西公園高架橋等 II 区　V 層上面（6）・IV b 層上面（1）

1.SD3 断面（西から）

2.SD4 断面（西から）

3.SD3・4・5 全景（北から）

4.SD22 瓦検出（南から）

図版 20　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面（2）

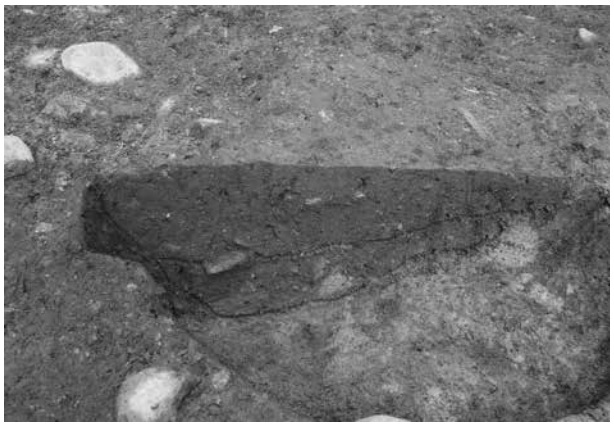
1.SD22 瓦検出（東から）

2.SD22 断面（西から）

3.SD22 瓦検出（東から）

4.SD24 断面（西から）

5.SD24 完掘（西から）


6.SK6 断面（北から）

7.SK8 断面（南から）

図版 21　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面（3）

1.SK9 断面（西から）

2.SK8・9 全景（北東から）

3.SK13 完掘（北から）

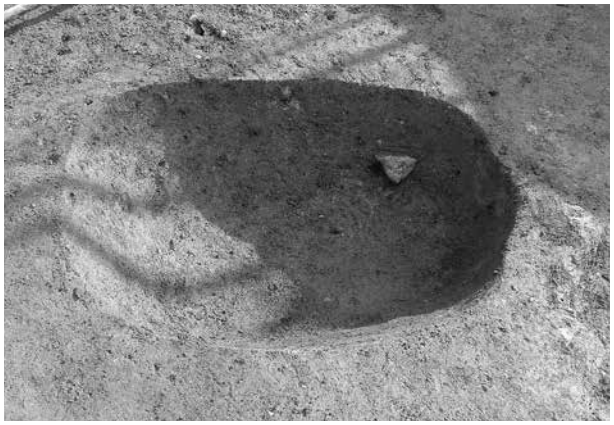
4.SK14 完掘（東から）

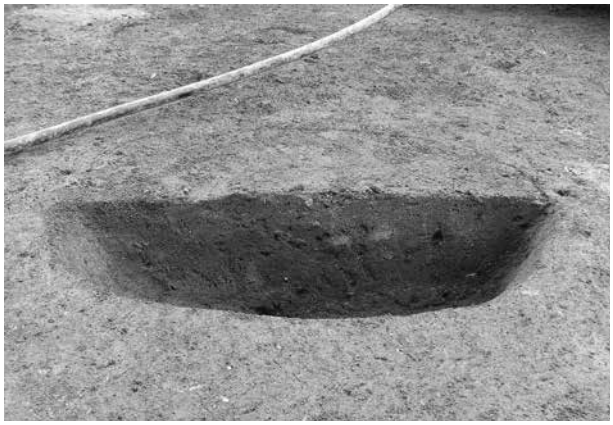
5.SK29 完掘（東から）

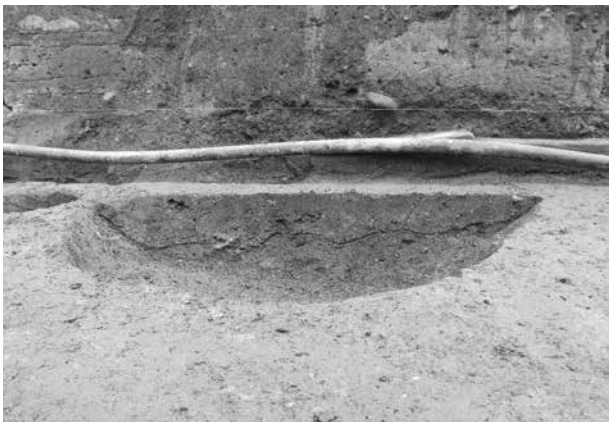
6.SK41 断面（北から）

7.SK41 完掘（北から）

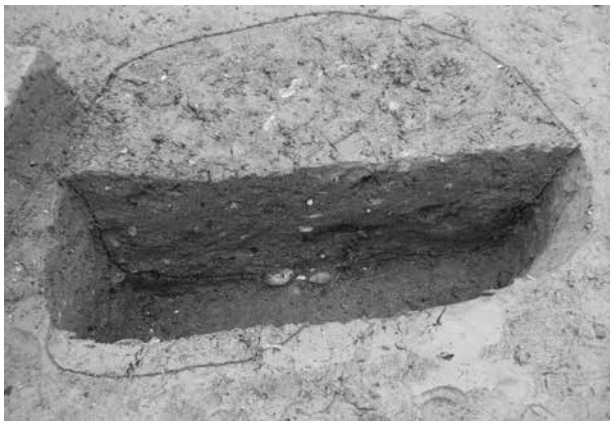
図版 22　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面（4）


1.SK43 完掘（東から）


2.SK43 断面（東から）


3.SK44 断面（西から）

4.SK60 断面（北から）


5.SK61 断面（北から）

6.SX66 断面（西から）

7.SX43 断面（西から）

8.SX43 断面（東から）

図版 23　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面（5）

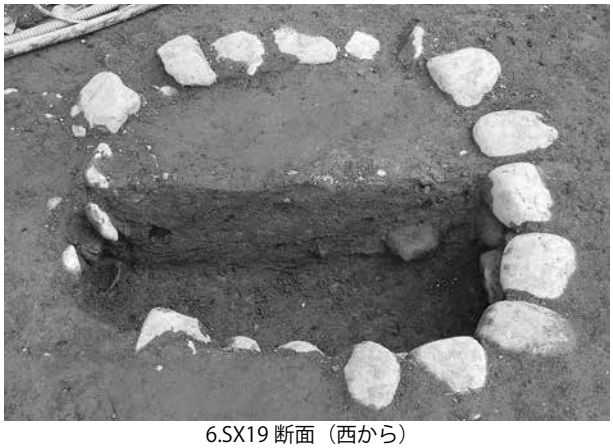
1.SK55 断面（北から）

2.SX43・SK55 全景（北から）

3.SX3 完掘（北東から）

4.SX3 断面（東から）

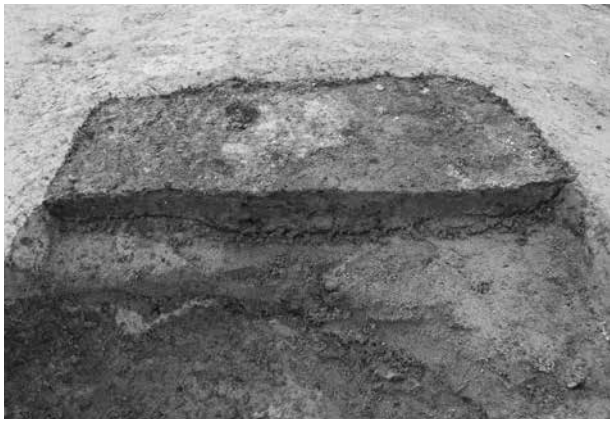
5.SX19 石組（北から）


6.SX19 断面（西から）

7.SX26 断面（東から）

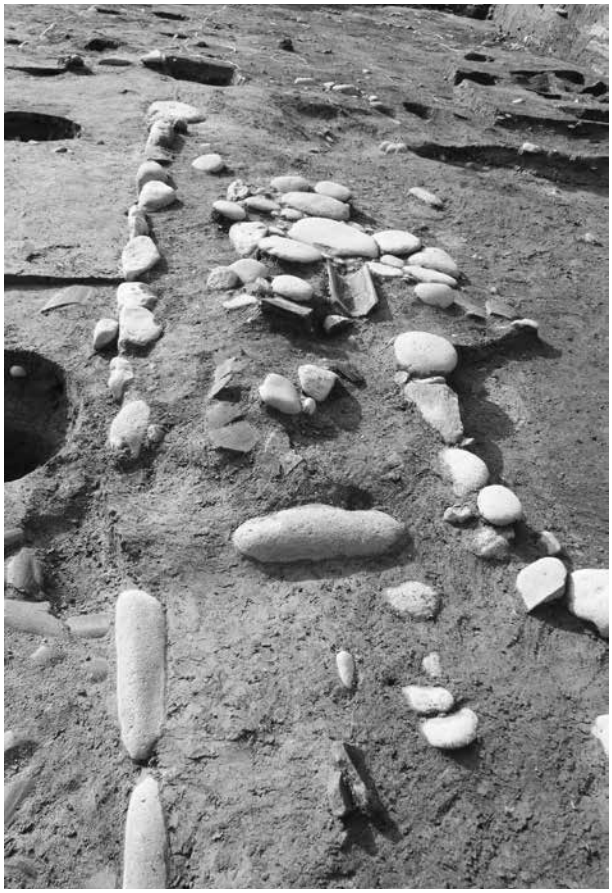
8.SX28 完掘（東から）

図版 24　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面（6）



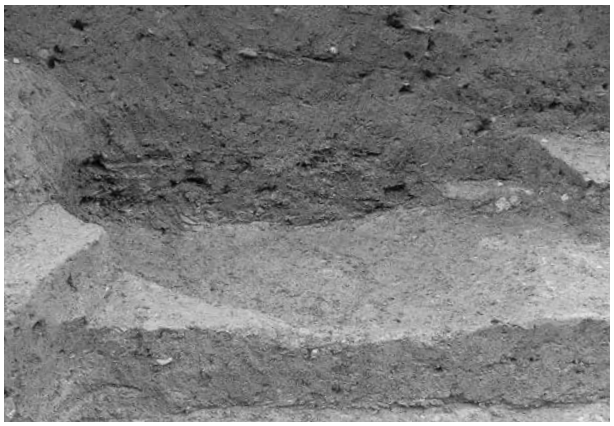
1.SX28 断面（東から）

2.SX40 断面（東から）



3.SX40 検出（北東から）

4.SX40 検出（北東から）

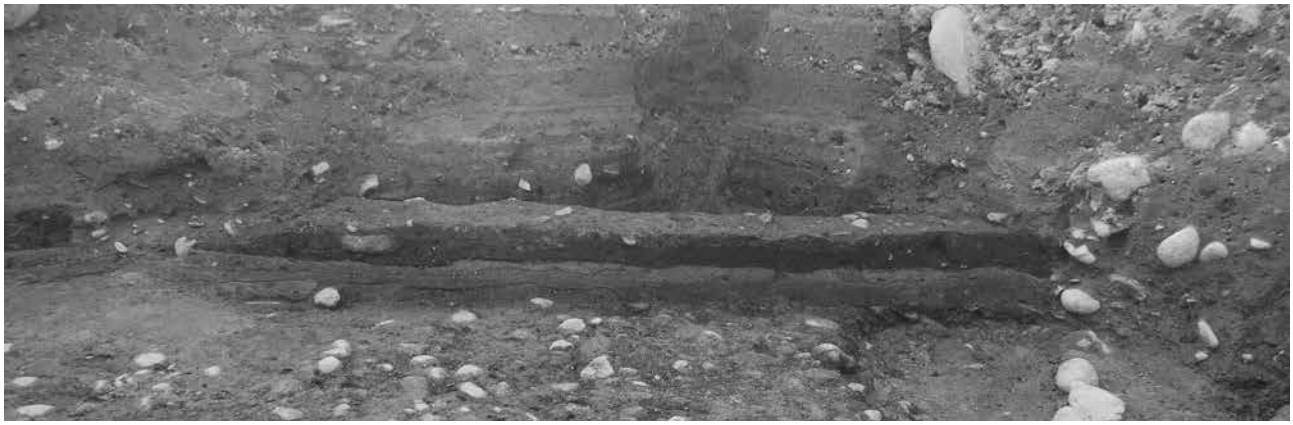


5.SX44 完掘（東から）

6.SX44 完靴（北東から）

図版 25　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面（7）

1.SX77・SD21 検出（北から）

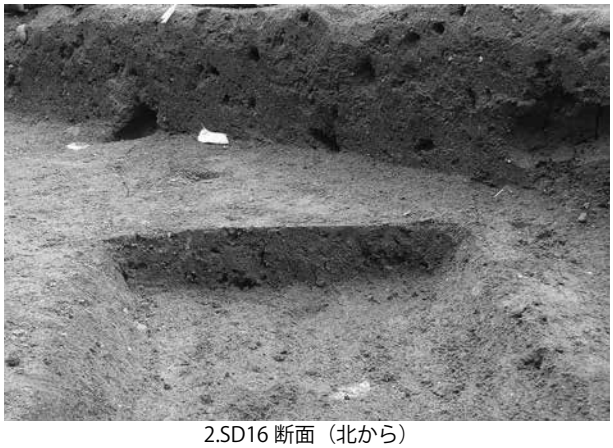


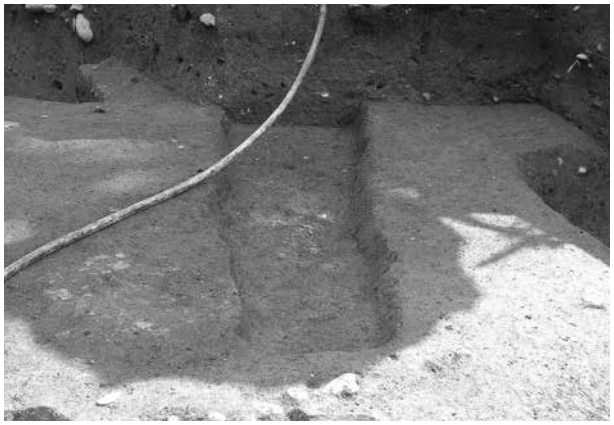
2.SX77 断面（東から）

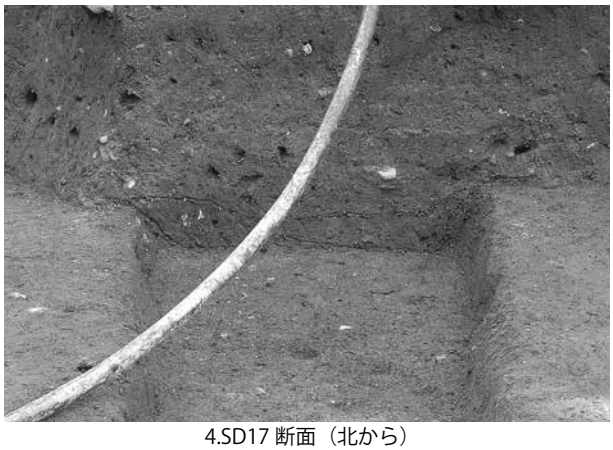
3.SX77・SD21 断面（南から）

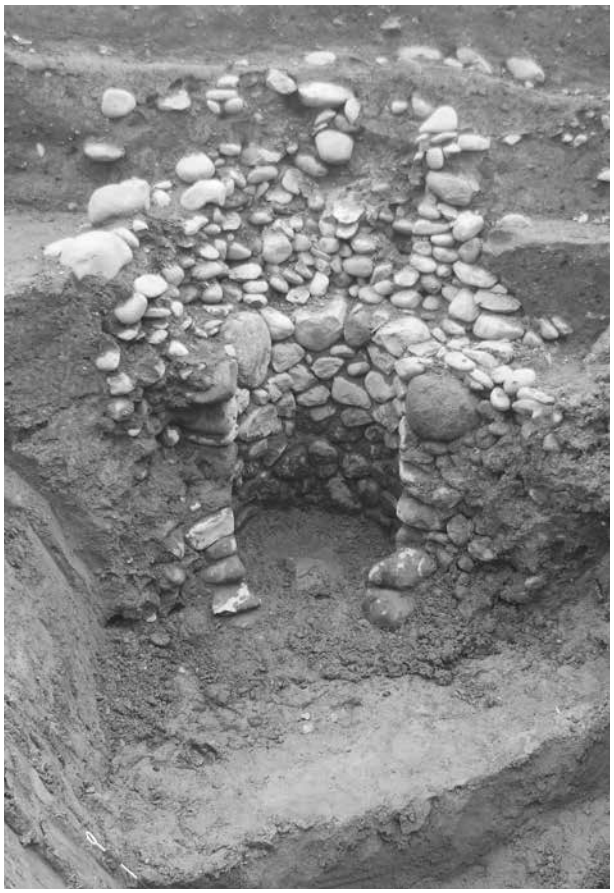
図版 26　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面（8）

1.SD16 完掘（北から）


2.SD16 断面（北から）


3.SD17 完掘（北から）


4.SD17 断面（北から）


5.SE1 石組（東から）

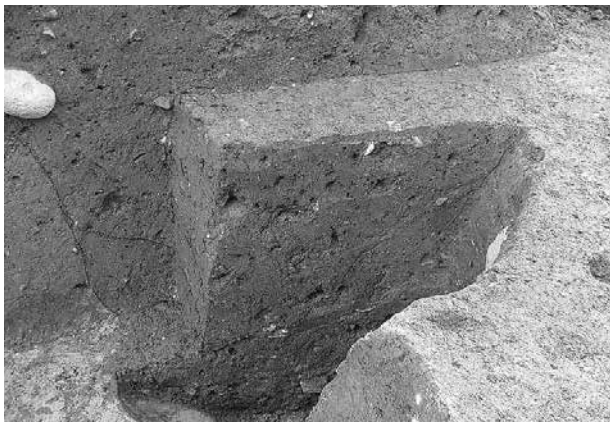
6.SE1 断ち割（東から）

図版 27　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面（1）

1.SE1 断面（東から）

2.SE1 石組（東から）

3.SK28 完掘（北から）


4.SK28 断面（東から）

5.SK31 完掘（北東から）

6.SK31 断面（北から）

7.SK35 完掘（東から）

8.SK35 断面（西から）

図版 28　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面（2）

1.SK42・46 全景（北西から）

2.SK46 断面（東から）

3.SK46 ガラス製品出土（南から）

4.SK46 ガラス製品出土（南から）

5.SK49 断面（東から）

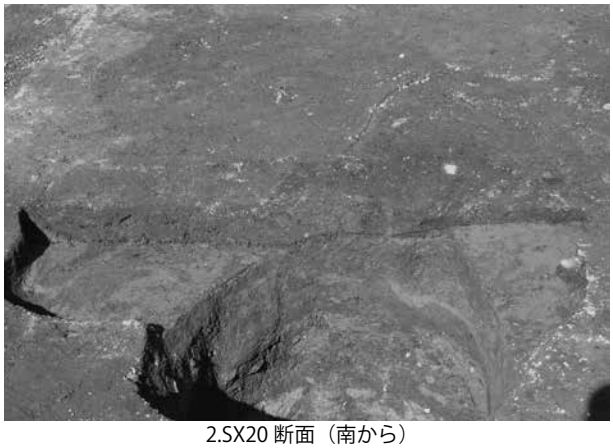
6.SK49 全景（北から）

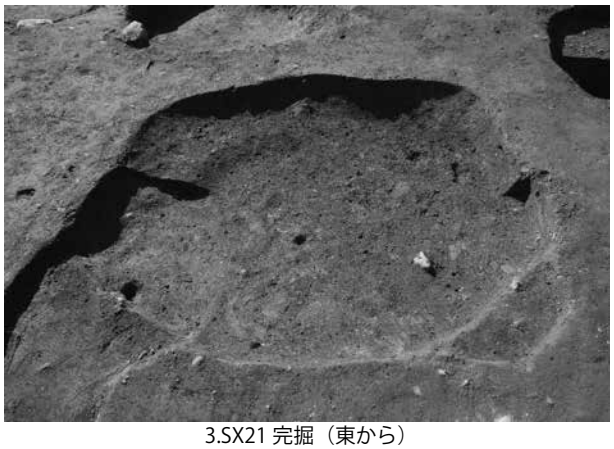
7.SK49 傘下轆轤出土（北から）

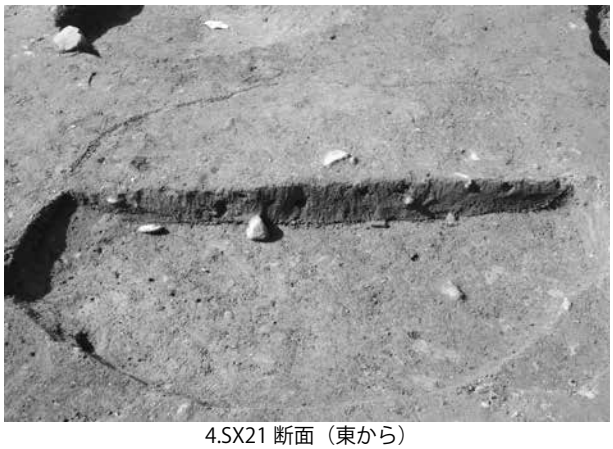
8.SX7 完掘（東から）

図版 29　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面（3）

1.SX20 完掘（南から）


2.SX20 断面（南から）


3.SX21 完掘（東から）


4.SX21 断面（東から）

5.SX33 断面（西から）

6.SX33 犬骨（東から）

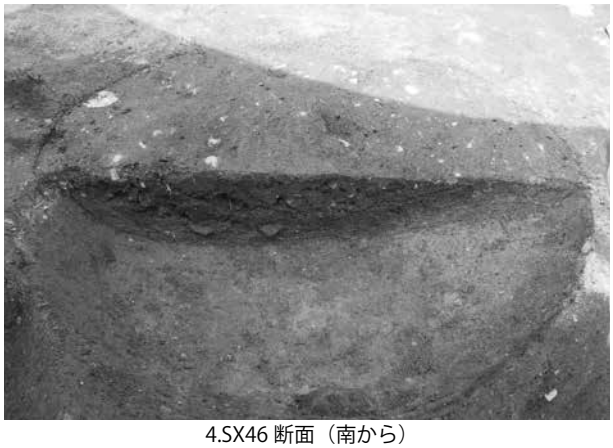
7.SX33 犬骨（北から）

図版 30　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面（4）

1.SX42 完掘（東から）

2.SX42 断面（東から）

3.SX46 完掘（北から）


4.SX46 断面（南から）

5.SX52 一分判金出土（西から）

6. Ⅳ a 層遺物出土（北から）

7.SD19・SK25 完掘（北から）

図版 31　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ a 層上面（5）

1.SD7・SX18 全景（東から）

2.SD7・SX18 断面（北から）

3.SX18 遺物出土（北東から）

4.SD19 断面（北から）

5.SK25 断面（北から）

図版 32　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面（6）・III b 層上面（1）

1.SD20・SK36・39・40 全景（北から）

2.SK36 断面（西から）

3.SK2 断面（北から）

4.SK24 検出（北から）

5.SK24 断面（西から）

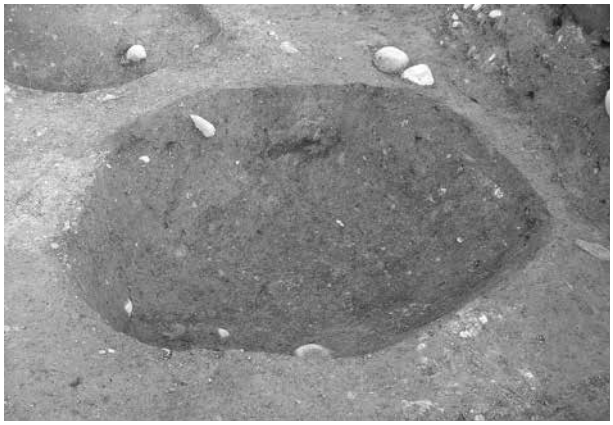
6.SK24 出土遺物（北から）

7.SK26 完掘（東から）

8.SK26 断面（東から）

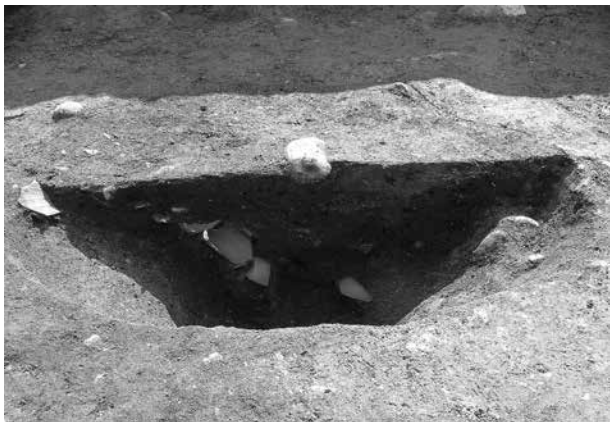
図版 33　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面（2）

1.SK32 完掘（北から）

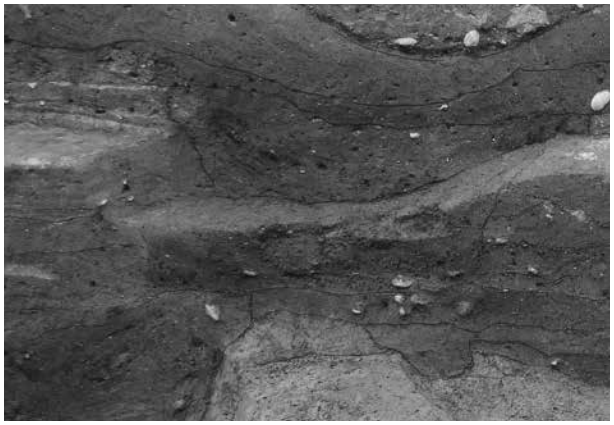

2.SK37 完掘（西から）

3.SK37 断面（西から）

4.SK38 完掘（北から）


5.SK38 断面（北から）

6.SK84 完掘（北から）


7.SK84 断面（南西から）

8.SX1 完掘（北から）

図版 34　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面（3）

1.SX1 断面（東から）

2.SX2 完掘（北から）

3.SX2 断面（北から）

4.SX25 石組（北から）

5.SX25 断面（西から）

6.SX29 完掘（北から）

7.SX32 断面（西から）

8.SX35 断面（西から）

図版 35　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面（4）

1.SX39 断面（西から）

2.SD1 断面（北から）

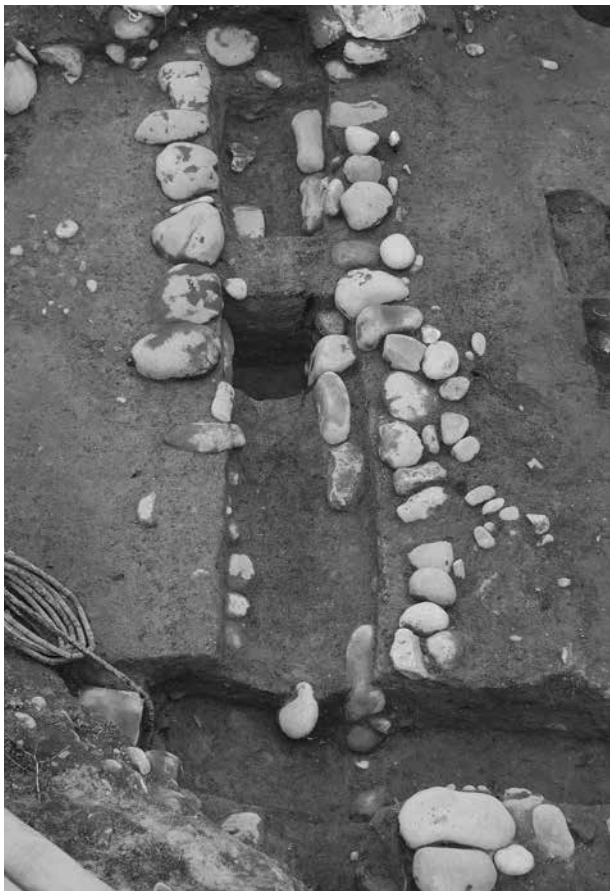
3.SD1 完掘（北東から）

4.SB1 全景（北から）

図版 36　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面（5）・III a 層上面（1）

1.SA2 検出（北から）

2.SA2 石組（南から）


3.SD10 全景（南から）

4.SD11 完掘（東から）

5.SD10 断面（南から）

6.SK3 断面（北から）

図版 37　西公園高架橋等 II 区　III a 層上面（2）

1.SK3・4 全景（北から）

2.SK17 完掘（西から）

3.SK17 断面（西から）

4.SK18 完掘（南から）

5.SK18 断面（東から）

6.SX4 断面（東から）

7.SX4 遺物出土（北東から）

8.SX12 石組（南から）

図版 38　西公園高架橋等 II 区　III a 層上面（3）

1.SX12 断面（南から）

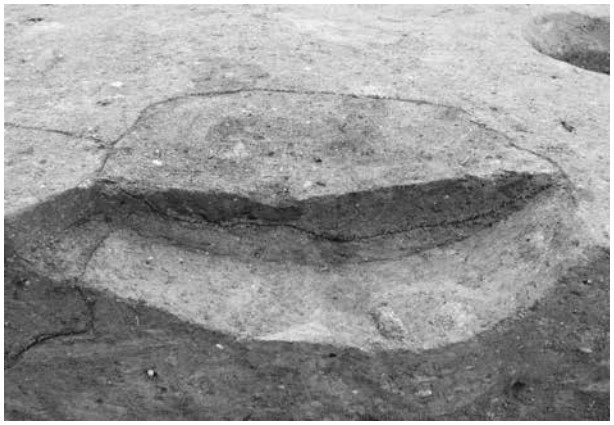
2.SX15 完掘（南から）

3.SX15 断面（西から）

4.SX17 検出（東から）

5.SX17 断面（東から）

6.SX22 断面（東から）


7.SX31 断面（北から）

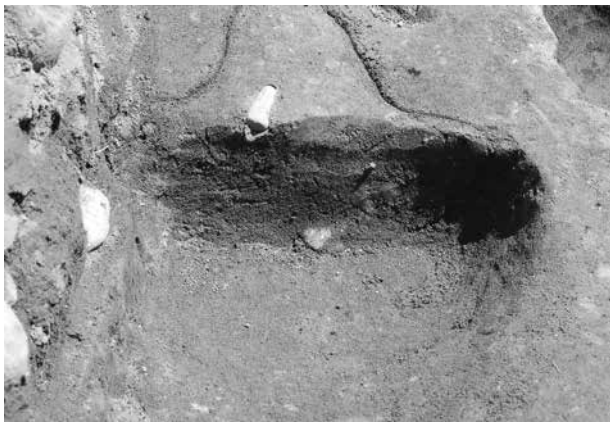
8. 鯱瓦出土状況（北から）

図版 39　西公園高架橋等 II 区　III a 層上面（4）

1. トレンチ１　Ⅶ層上面（南から）

2. トレンチ１　SD1 断面（西から）

3. トレンチ１　Ⅲ a2 層上面（南から）


4. トレンチ１　SK5 断面（北から）

5. トレンチ１　SK6 断面（南から）

6. トレンチ１　SK8 断面（東から）

7. トレンチ１　SK1 断面（東から）

8. トレンチ１　SK3 断面（南から）

図版 40　西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）（１）

1. トレンチ１　SK4 断面（東から）

2. トレンチ１　SK7 断面（東から）

3. トレンチ２全景（北から）

4. トレンチ２　SK9 断面（東から）

5. トレンチ２　SK10 断面（北から）

6. トレンチ２　Ⅲ a2 層遺物出土（北から）

7. トレンチ３（東から）

8. トレンチ３全景（南から）

図版 41　西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）（２）

1（第 14 図 -1）

2（第 14 図 -2）

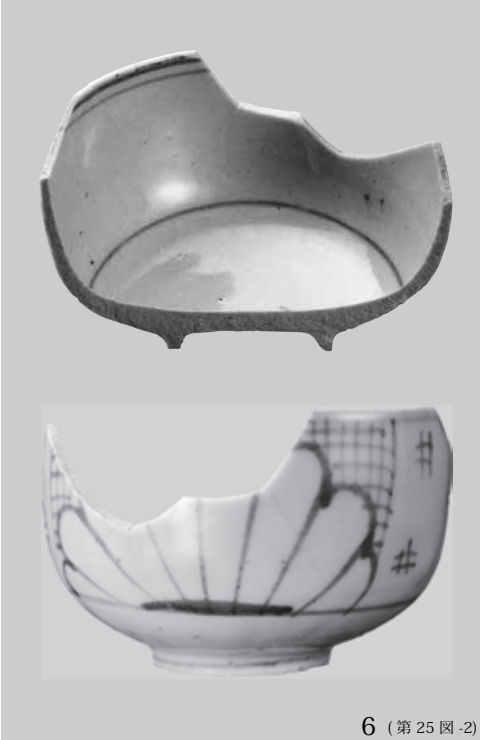
4（第 20 図 -1）

3（第 14 図 -3）

SA1

5（第 20 図 -2）

SX19



6（第 25 図 -2）

7（第 25 図 -3）

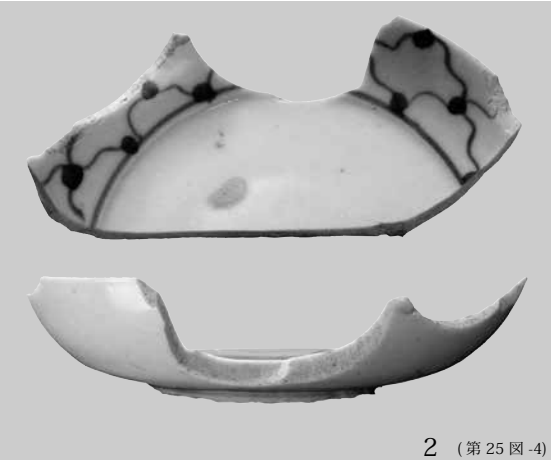
8（第 25 図 -1）

1 号建物跡

図版 42　西公園高架橋等 I 区　VII層上面遺構出土遺物 (1)

1 （第 25 図 -2）

1 号竹樋



2 （第 25 図 -4）

1 号道路跡

3 （第 25 図 -6）

SD1

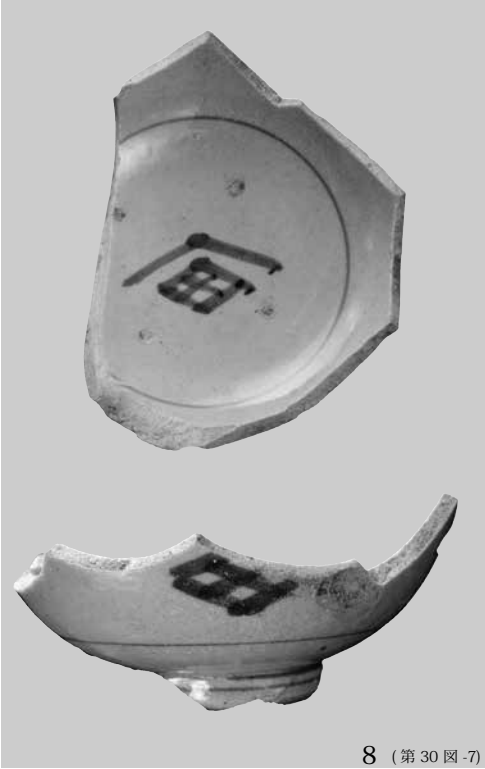
4 （第 30 図 -2）

5 （第 30 図 -1）

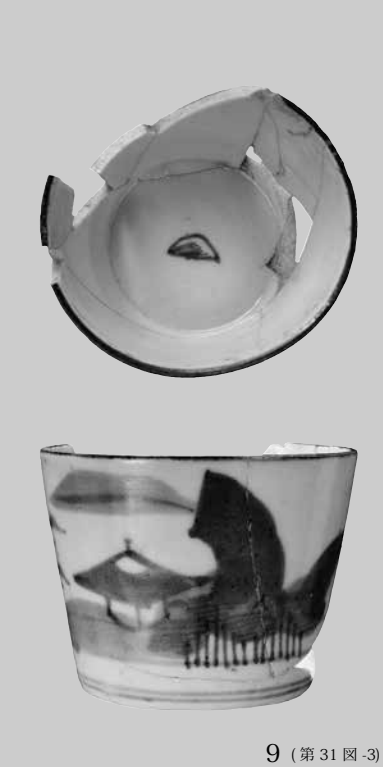
6 （第 30 図 -3）

7 （第 30 図 -4）

10 （第 30 図 -5）



8 （第 30 図 -7）

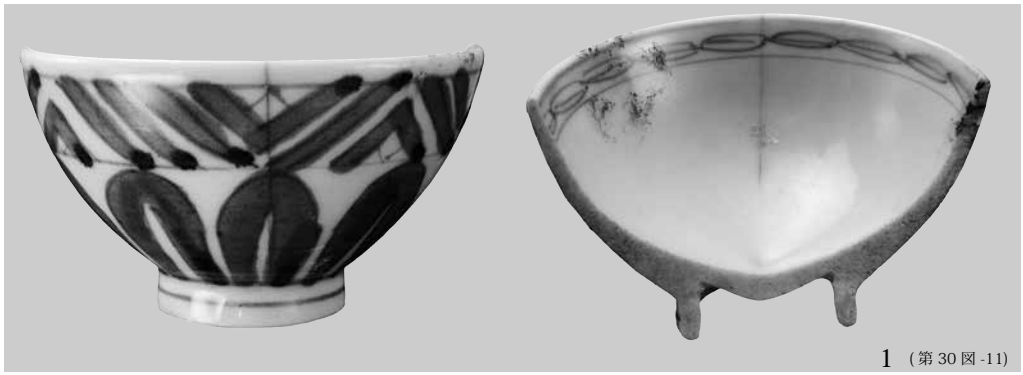


9 （第 31 図 -3）

11 （第 30 図 -6）

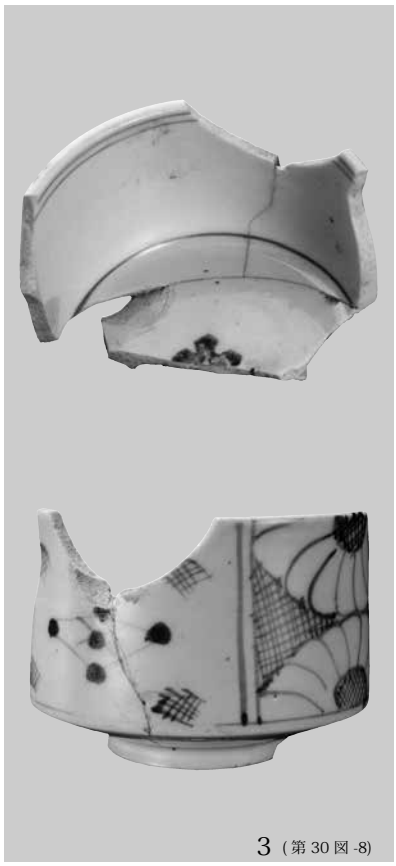
遺構外出土遺物

図版 43　西公園高架橋等Ⅰ区　Ⅶ層・Ⅱ層上面遺構出土遺物・遺構外出土遺物 (1)

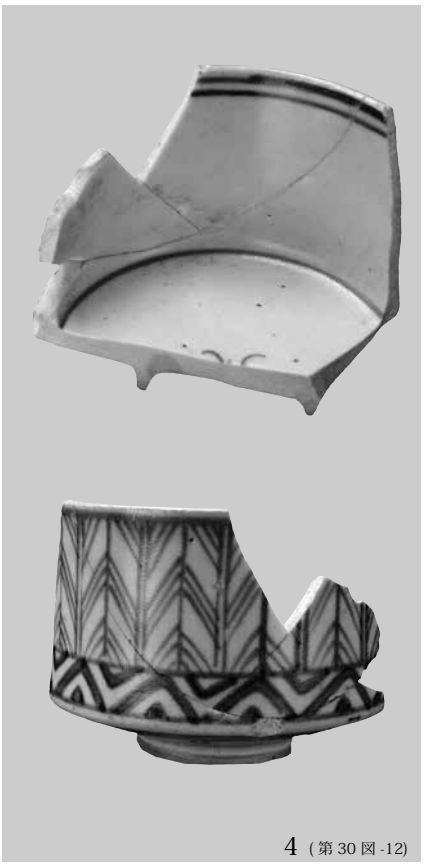


1 (第 30 図 -11)

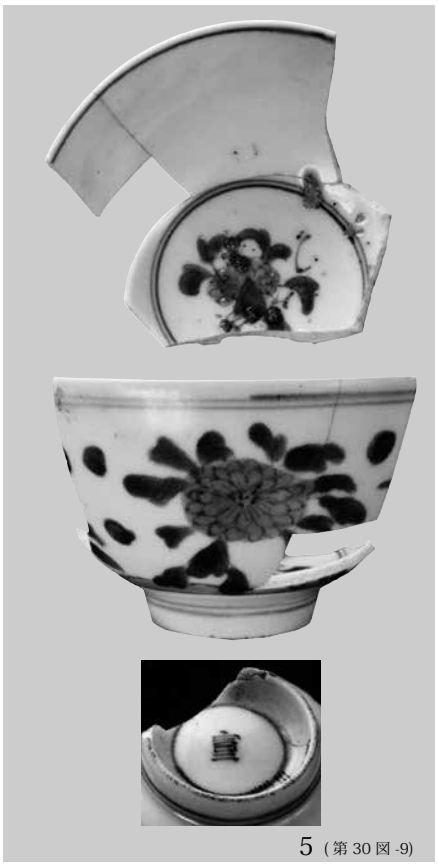
2 (第 30 図 -10)



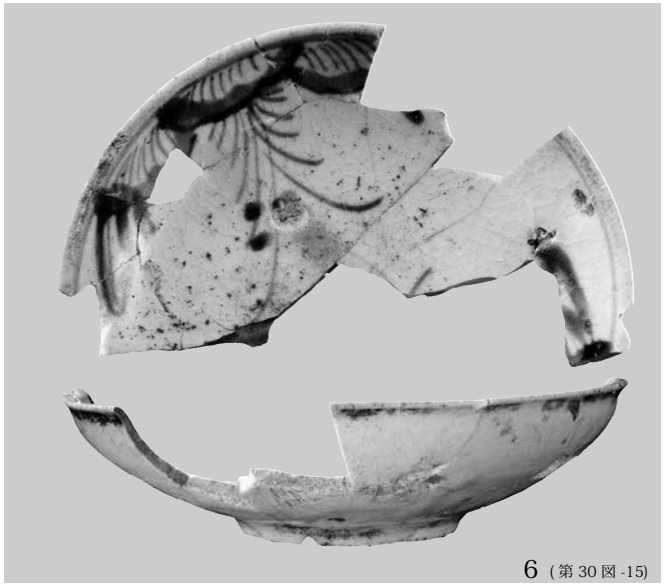
3 (第 30 図 -8)



4 (第 30 図 -12)



5 (第 30 図 -9)

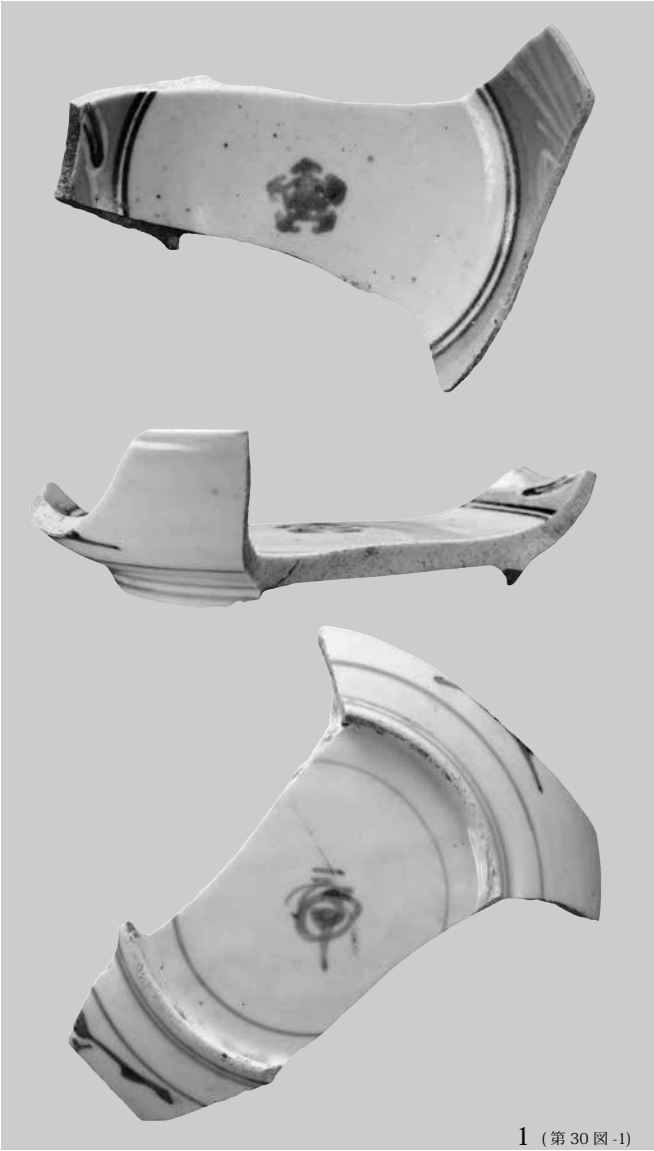


6 (第 30 図 -15)

7 (第 30 図 -14)

遺構外出土遺物

図版 44　西公園高架橋等Ⅰ区　遺構外出土遺物 (2)



1（第 30 図 -1）

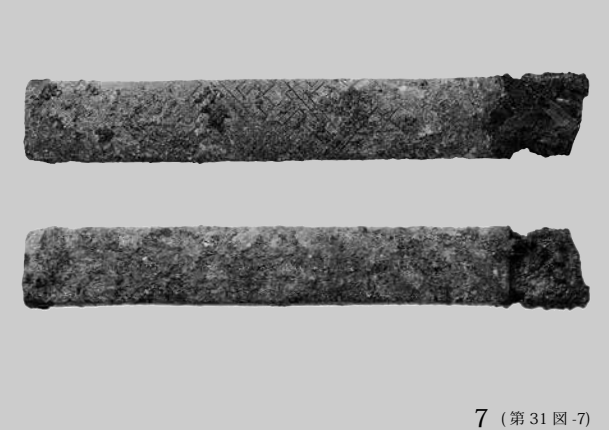
2（第 30 図 -13）

3（第 31 図 -2）

4（第 31 図 -5）

6（第 31 図 -4）

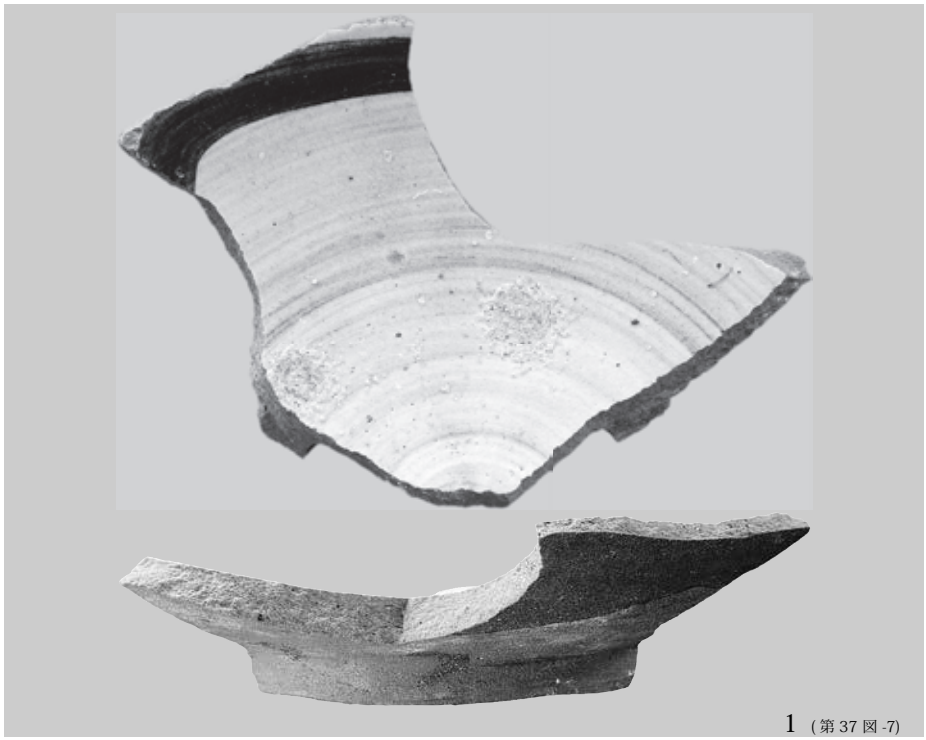
5（第 31 図 -6）



7（第 31 図 -7）

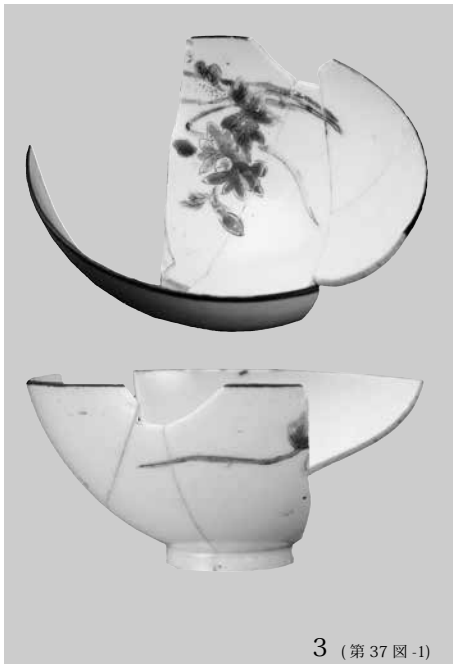
遺構外出土遺物

図版 45　西公園高架橋等Ⅰ区　遺構外出土遺物 (3)



1 (第 37 図 -7)

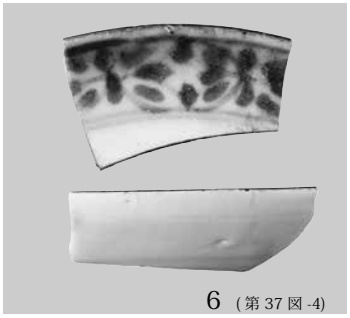
2 (第 37 図 -6)



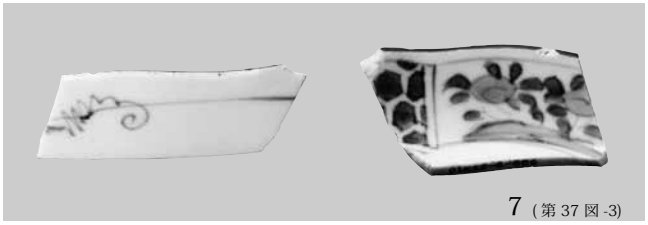
3 (第 37 図 -1)

4 (第 37 図 -2)

5 (第 37 図 -5)



6 (第 37 図 -4)



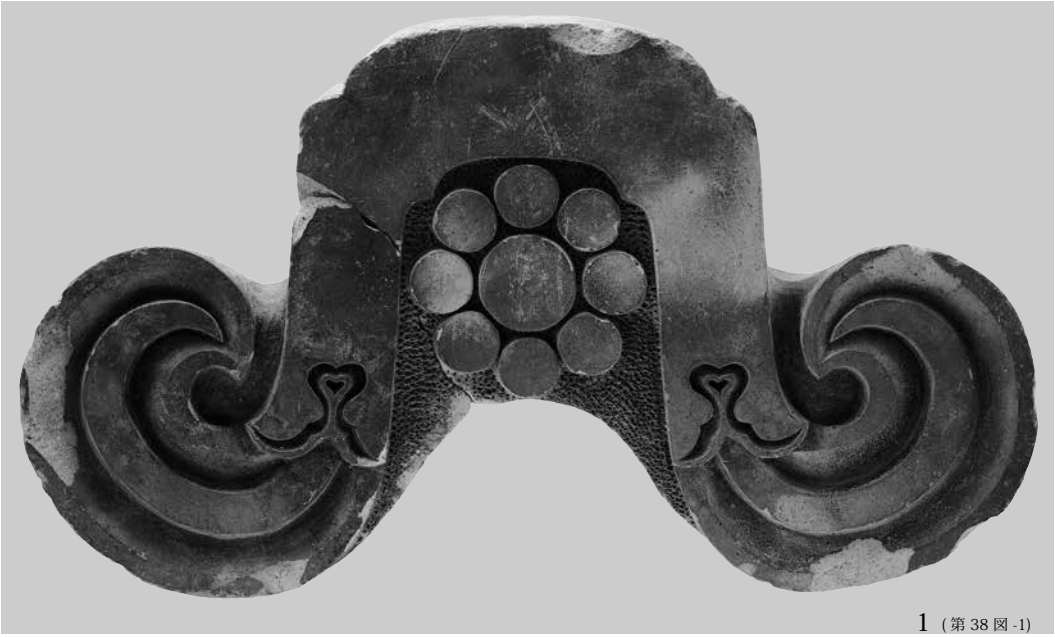
7 (第 37 図 -3)

8 (第 37 図 -9)

9 (第 37 図 -8)

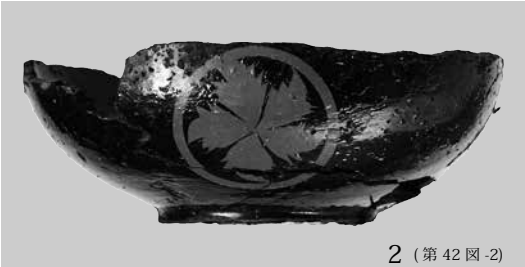
SK56

図版 46　西公園高架橋等 II 区　VI・VII層上面遺構出土遺物 (1)



1（第 38 図 -1）

SK56



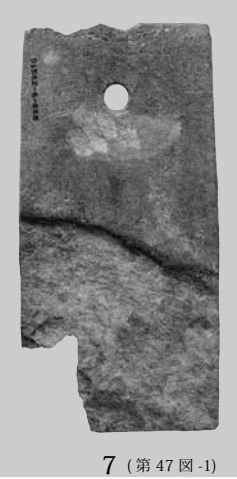
2（第 42 図 -2）

3（第 42 図 -1）

4（第 42 図 -3）

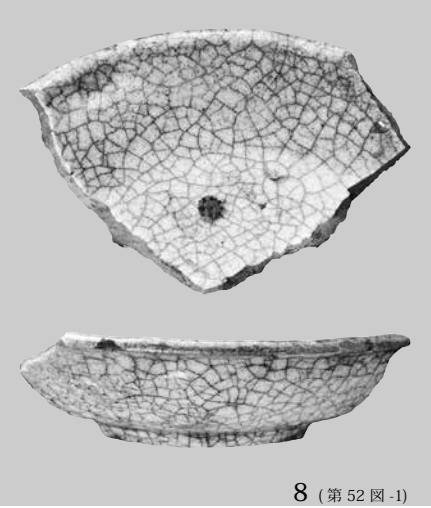
SK74

5（第 44 図 -2）



7（第 47 図 -1）

SK47



8（第 52 図 -1）

6（第 44 図 -1）

SX50

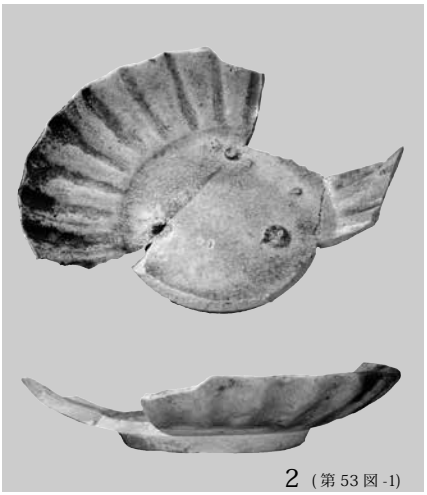
9（第 52 図 -2）

SK64

図版 47　西公園高架橋等 II 区　VI・VII層上面遺構出土遺物 (2)・V 層上面遺構出土遺物 (1)

1（第 52 図 -3）

SK64



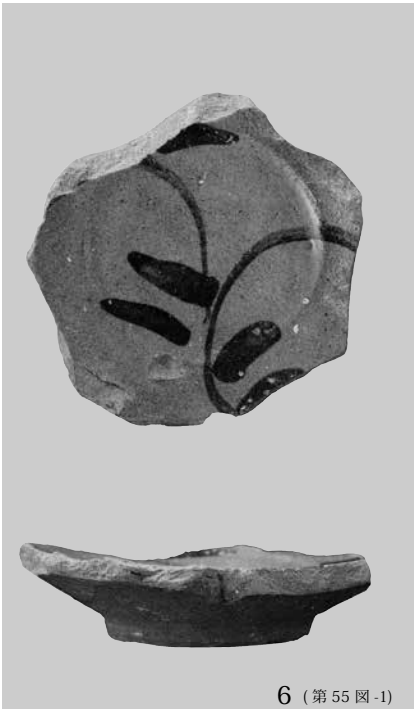
2（第 53 図 -1）

3（第 53 図 -3）

4（第 53 図 -2）

5（第 54 図 -1）

SK79



6（第 55 図 -1）

7（第 55 図 -2）

8（第 55 図 -3）

SK80

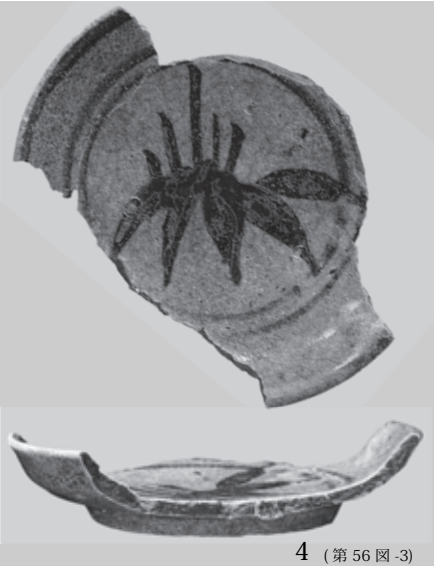
図版 48　西公園高架橋等 II 区　V 層上面遺構出土遺物 (2)

1 (第 55 図 -5)

2 (第 55 図 -4)

SK80

3 (第 56 図 -1)

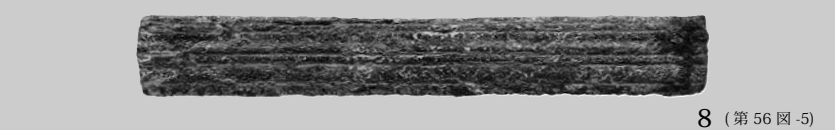


4 (第 56 図 -3)

5 (第 56 図 -4)

6 (第 56 図 -2)

7 (第 56 図 -6)



8 (第 56 図 -5)

SK81

9 (第 57 図 -1)

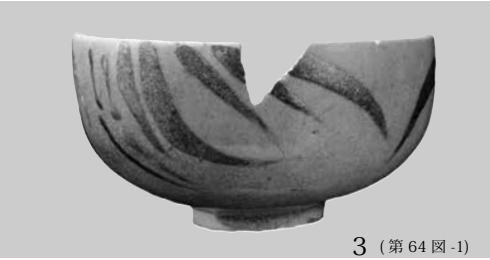
SK82

図版 49　西公園高架橋等 II 区　V 層上面遺構出土遺物 (3)

1（第 57 図 -2）

2（第 57 図 -3）

SK82

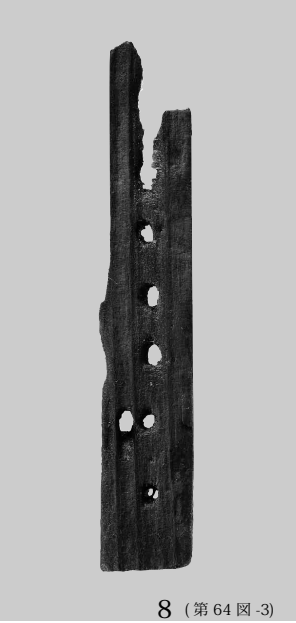

3（第 64 図 -1）

4（第 64 図 -2）

5（第 65 図 -4）

6（第 64 図 -5）

7（第 64 図 -4）


8（第 64 図 -3）

SX49

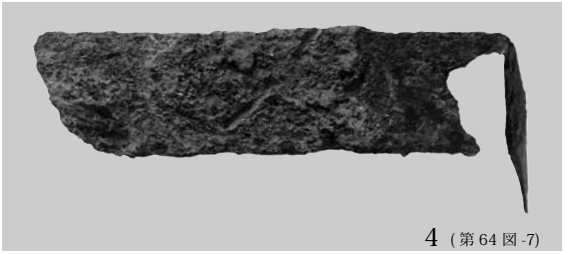
図版 50　西公園高架橋等 II 区　V 層上面遺構出土遺物 (4)

1（第 65 図 -2）

2（第 65 図 -3）

3（第 65 図 -1）

SX49



4（第 64 図 -7）

5（第 64 図 -6）

SX49

6（第 68 図 -6）

7（第 68 図 -1）

V 層出土遺物

図版 51　西公園高架橋等 II 区　V 層上面遺構出土遺物 (5)・遺構外出土遺物 (1)

1（第 68 図 -1）

2（第 68 図 -10）

3（第 68 図 -5）

4（第 68 図 -8）

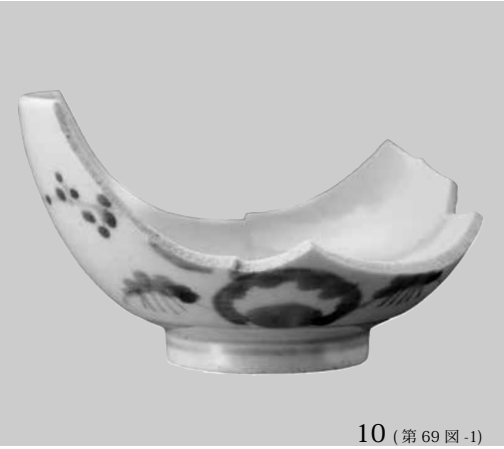
5（第 68 図 -9）

6（第 68 図 -4）

7（第 68 図 -2）

8（第 68 図 -3）

9（第 69 図 -3）


10（第 69 図 -1）

Ⅴ層出土遺物

図版 52　西公園高架橋等 II 区　Ⅴ層遺構外出土遺物 (2)

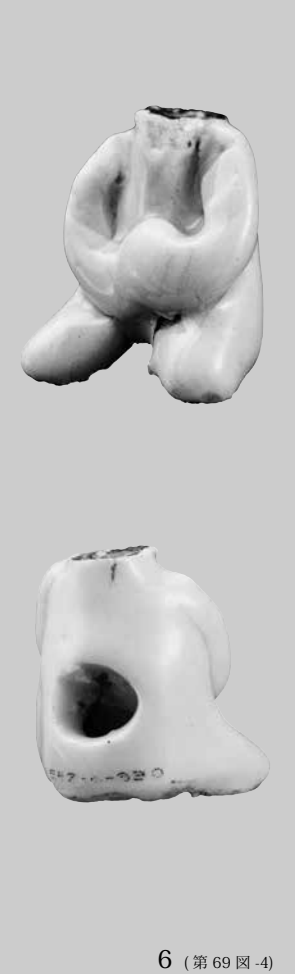
1（第 69 図 -2）

2（第 69 図 -7）

3（第 69 図 -5）

4（第 69 図 -8）

5（第 69 図 -6）


6（第 69 図 -4）

7（第 70 図 -2）

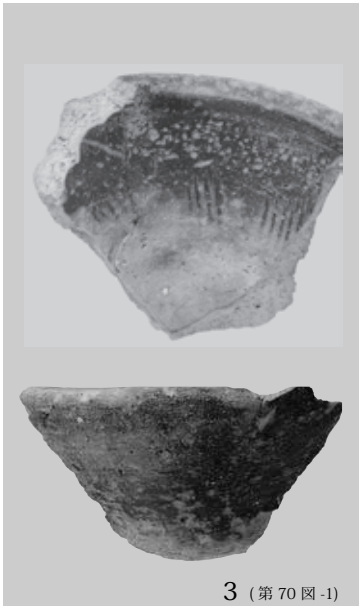
8（第 70 図 -5）

Ⅴ層出土遺物

図版 53　西公園高架橋等 II 区　Ⅴ層遺構外出土遺物 (3)

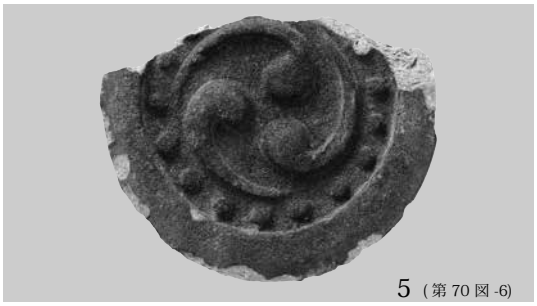
1（第 70 図 -4）

2（第 70 図 -3）



3（第 70 図 -1）

4（第 70 図 -8）



5（第 70 図 -6）

6（第 70 図 -7）

7（第 71 図 -1）

Ⅴ層出土遺物

図版 54　西公園高架橋等 II 区　Ⅴ層遺構外出土遺物 (4)

1（第 71 図 -2）

2（第 71 図 -3）

V 層出土遺物

3（第 78 図 -1）

4（第 78 図 -2）

5（第 78 図 -3）

6（第 78 図 -4）

SD22

7（第 81 図 -1）

8（第 81 図 -4）

9（第 81 図 -2・3）

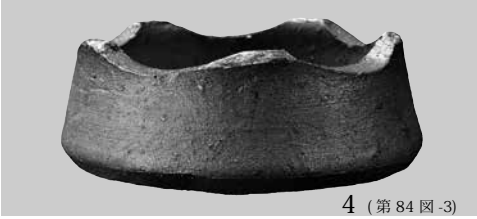
SK29

図版 55　西公園高架橋等 II 区　V 層遺構外出土遺物 (5)・IV b 層上面遺構出土遺物 (1)

1（第 84 図 -1）

2（第 84 図 -2）

3（第 84 図 -5）


4（第 84 図 -3）

5（第 84 図 -7）

8（第 84 図 -2）

6（第 84 図 -9）

7（第 84 図 -10）

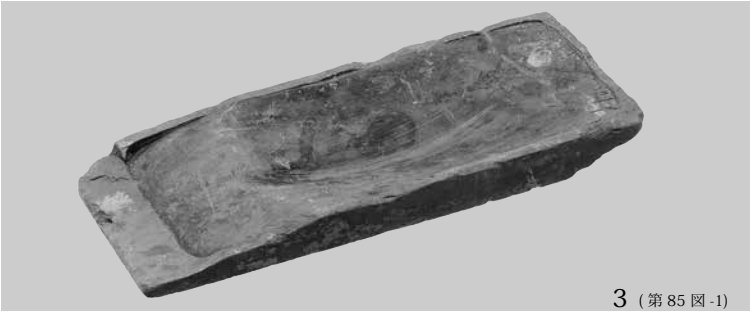
9（第 84 図 -6）

SK41

図版 56　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面遺構出土遺物 (2)

1（第 85 図 -3）

2（第 84 図 -4）



3（第 85 図 -1）

4（参考掲載）

5（第 85 図 -2）

SK41

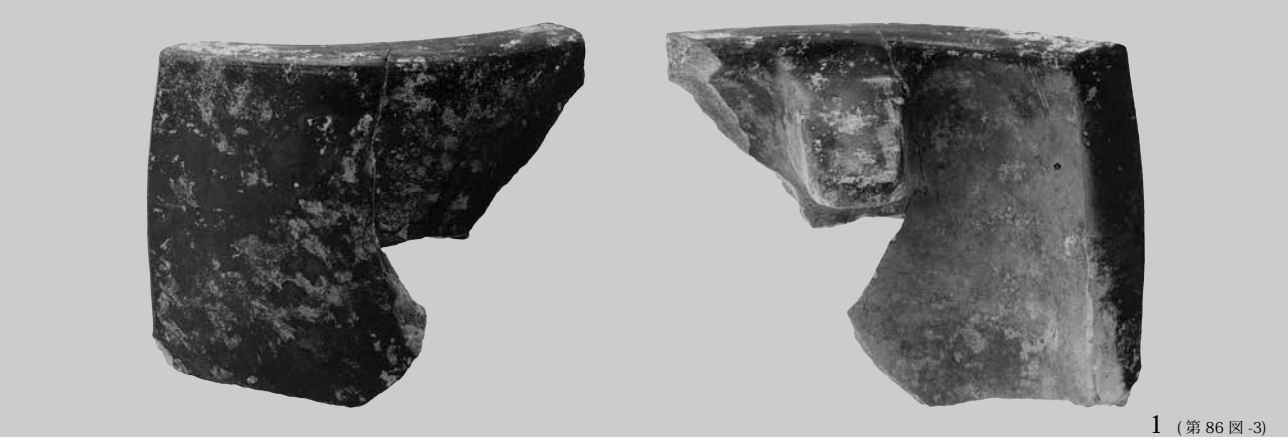
6（第 86 図 -1）

7（第 86 図 -2）

8（第 86 図 -4）

SK43

図版 57　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面遺構出土遺物 (3)



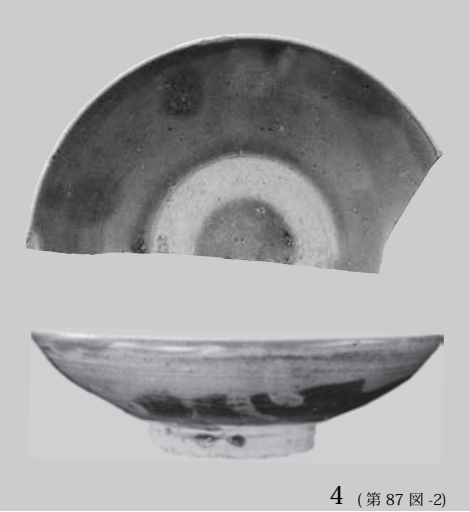
1 (第 86 図 -3)

SK43

2 (第 86 図 -6)

3 (第 86 図 -5)

SK43



4 (第 87 図 -2)

5 (第 87 図 -1)

SK61

6 (第 89 図 -1)

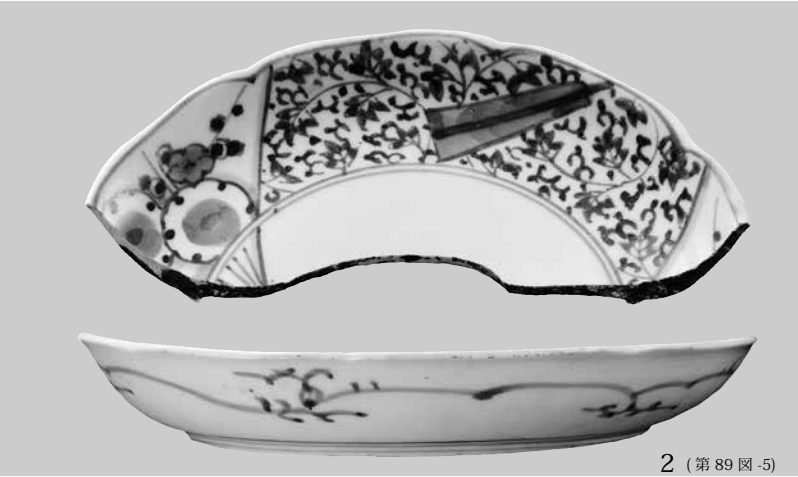
7 (第 89 図 -2)

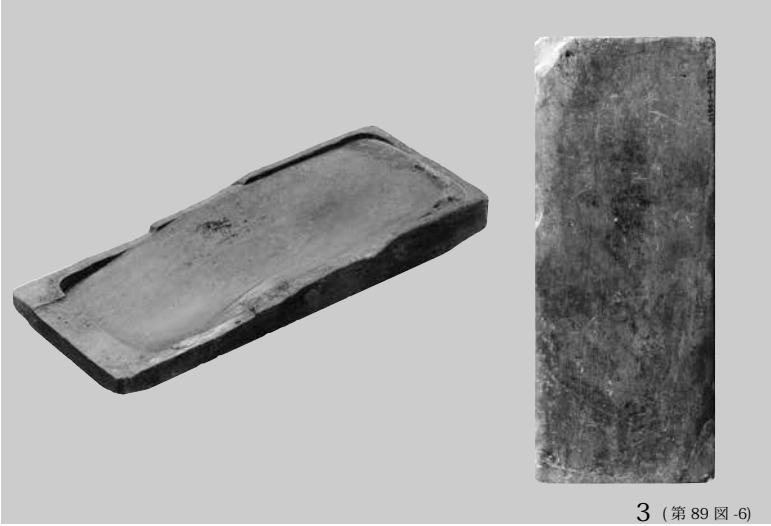
8 (第 89 図 -3)

SX43

図版 58　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面遺構出土遺物 (4)

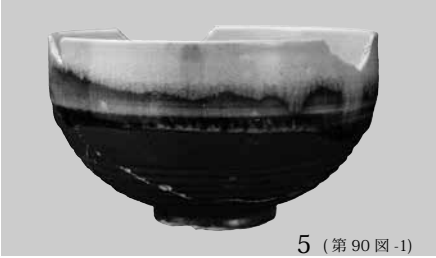
1（第 89 図 -4）


2（第 89 図 -5）


3（第 89 図 -6）

4（第 89 図 -7）

SX43


5（第 90 図 -1）

7（第 91 図 -5）

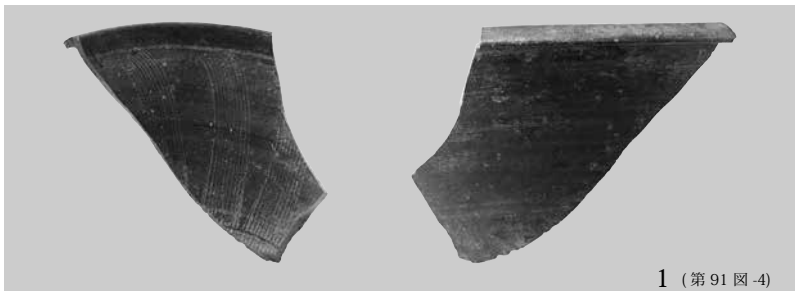
6（第 91 図 -1）

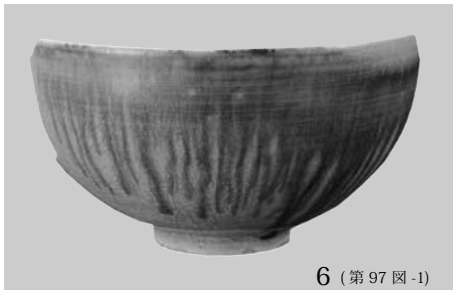
8（第 91 図 -3）

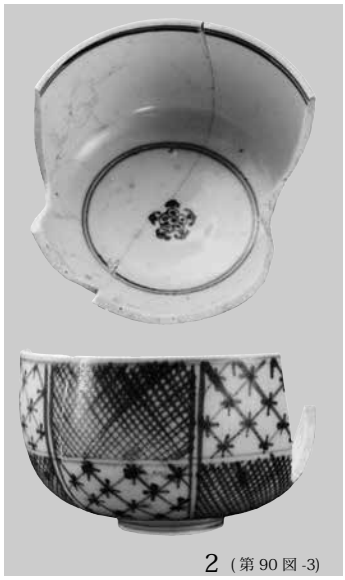
9（第 91 図 -2）

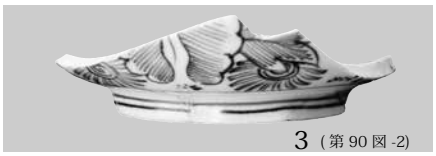
SX3

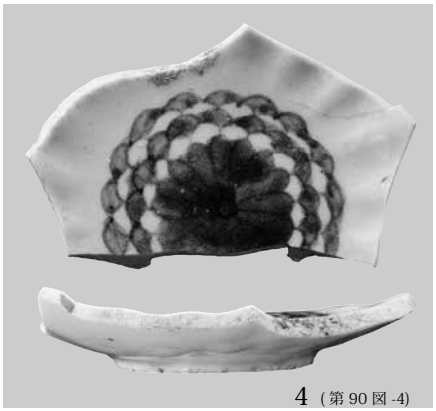
図版 59　西公園高架橋等 II 区　IV b 層上面遺構出土遺物 (5)


1（第 91 図 -4）


6（第 97 図 -1）


2（第 90 図 -3）


3（第 90 図 -2）


4（第 90 図 -4）

SX3

8（第 97 図 -2）

5（第 97 図 -4）

7（第 99 図 -3）

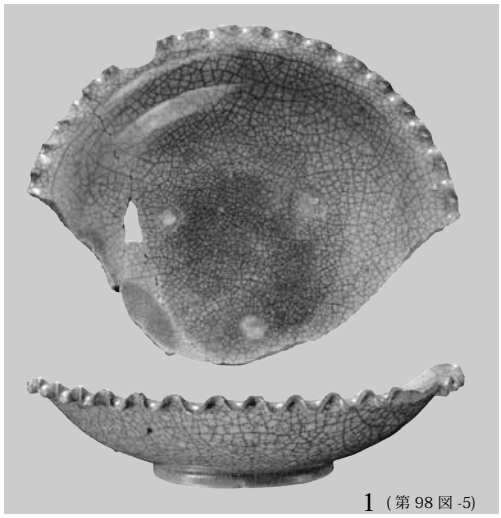
9（第 99 図 -7）

10（第 97 図 -3）

11（第 98 図 -2）

Ⅳ b 層出土遺物

図版 60　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ b 層上面遺構出土遺物 (6)・遺構外出土遺物 (1)


1（第 98 図 -5）

2（第 97 図 -7）

3（第 97 図 -9）

4（第 98 図 -4）

5（第 97 図 -5）

6（第 97 図 -6）

7（第 97 図 -8）

8（第 99 図 -1）

9（第 98 図 -3）

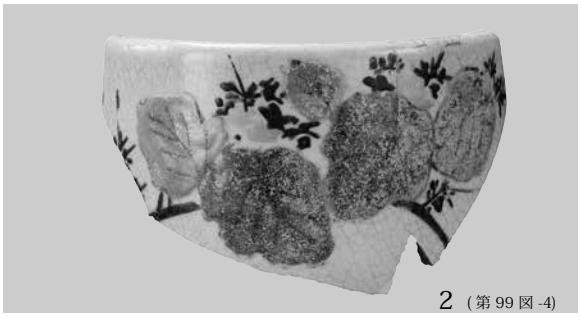
10（第 99 図 -2）

11（第 99 図 -6）

Ⅳ b 層出土遺物

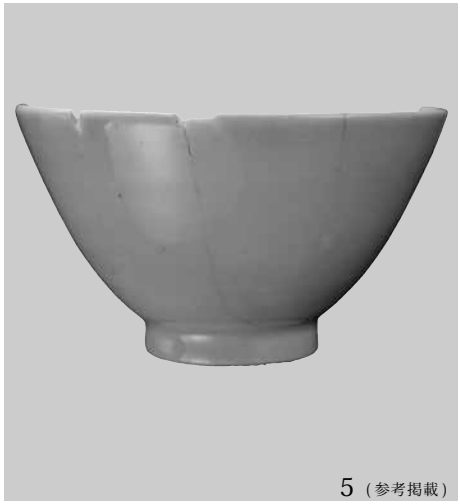
図版 61　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ b 層遺構外出土遺物 (2)

1（第 98 図 -1）


2（第 99 図 -4）

3（第 99 図 -5）

4（第 99 図 -8）


5（参考掲載）

6（第 99 図 -13）

7（第 99 図 -10）

8（第 99 図 -9）

9（第 100 図 -5）

Ⅳ b 層出土遺物

図版 62　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ b 層遺構外出土遺物 (3)

1 (第 100 図 -4)

2 (第 99 図 -12)

3 (第 100 図 -6)

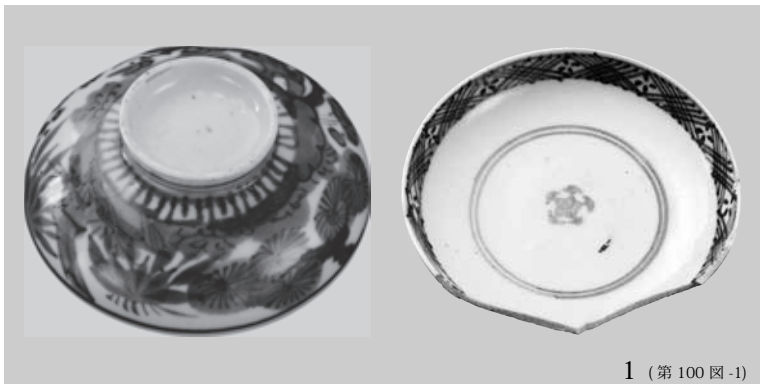
4 (第 99 図 -11)

5 (第 100 図 -3)

6 (第 100 図 -7)

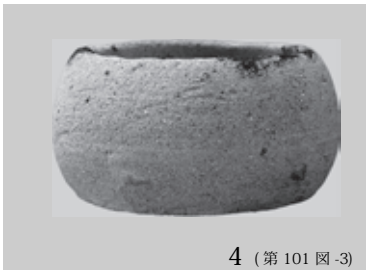
Ⅳ b 層出土遺物

図版 63　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ b 層遺構外出土遺物 (4)


1（第 100 図 -1）

2（第 100 図 -2）

3（第 101 図 -1）


4（第 101 図 -3）

5（第 101 図 -5）

6（第 101 図 -2）

7（参考掲載）

8（第 101 図 -4）

9（第 101 図 -6）

10（第 101 図 -9）

Ⅳ b 層出土遺物

図版 64　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ b 層遺構外出土遺物 (5)

1（第 101 図 -8）

2（第 101 図 -7）

3（第 103 図 -3）

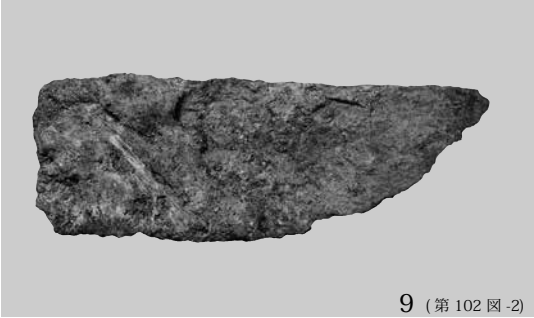
4（第 103 図 -1）

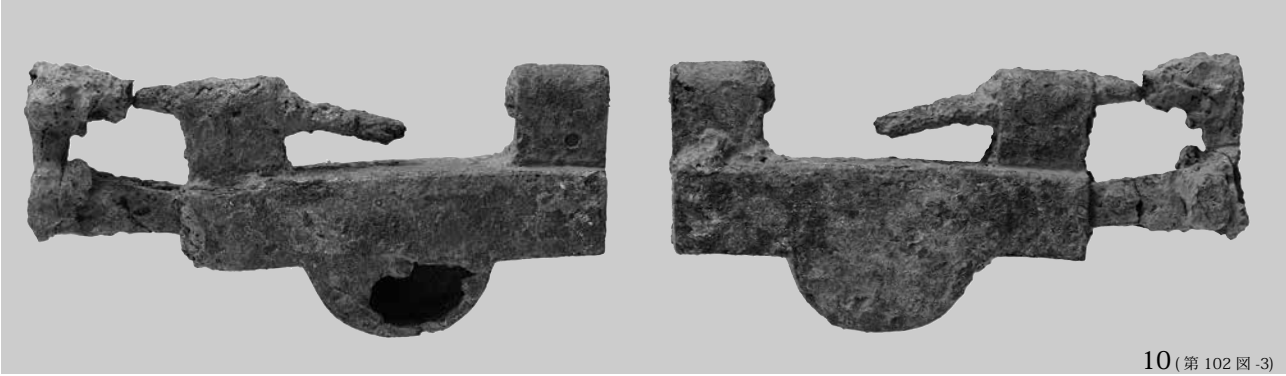
5（第 103 図 -2）

6（第 103 図 -4）

7（第 102 図 -1）

8（第 102 図 -4）


9（第 102 図 -2）


10（第 102 図 -3）

Ⅳ b 層出土遺物

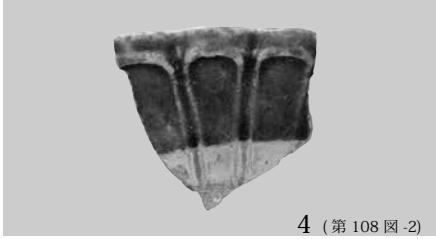
図版 65　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ b 層遺構外出土遺物 (6)

1（第 102 図 -4）

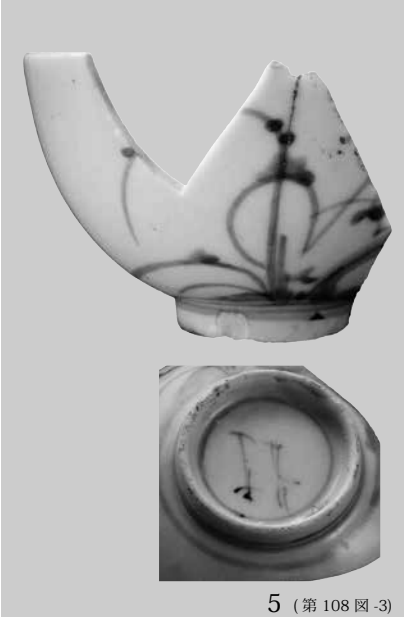
2（第 103 図 -5）

Ⅳ b 層出土遺物

3（第 108 図 -1）



4（第 108 図 -2）



5（第 108 図 -3）

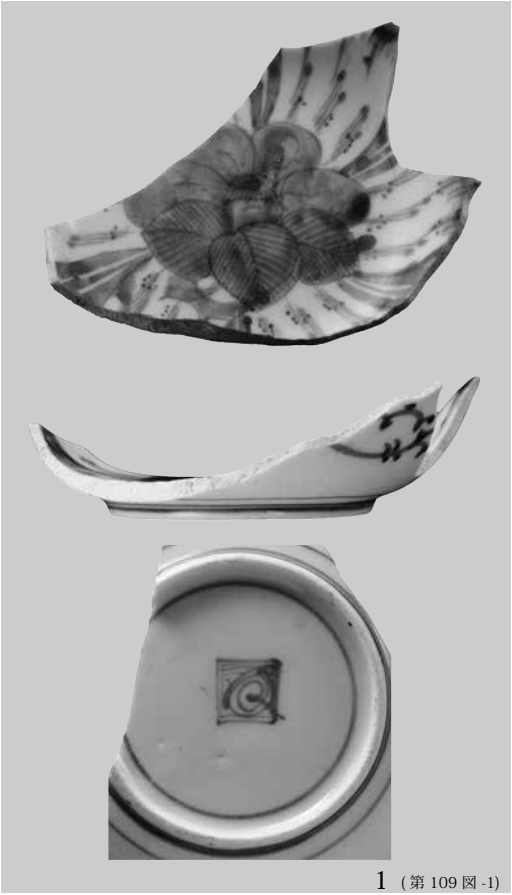
6（第 108 図 -4）

7（第 108 図 -6）

8（第 108 図 -5）

SE1

図版 66　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ b 層遺構外出土遺物 (7)・Ⅳ a 層上面遺構出土遺物 (1)


1（第 109 図 -1）

2（第 109 図 -3）

3（第 109 図 -2）

4（第 109 図 -4）

SK28

5（第 112 図 -2）

6（第 112 図 -1）

7（第 112 図 -5）

8（第 112 図 -10）

9（第 112 図 -11）

SK46

図版 67　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面遺構出土遺物 (2)

1（第 112 図 -3）

2（第 112 図 -9）

3（第 112 図 -8）

4（第 112 図 -4）

5（第 112 図 -7）

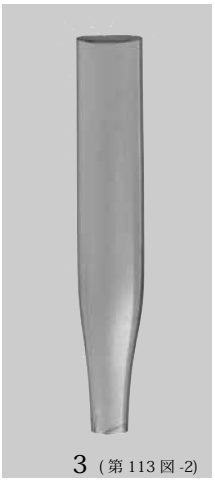
6（第 112 図 -6）

SK46

図版 68　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面遺構出土遺物 (3)

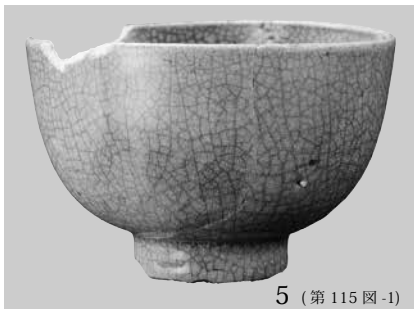
1（第 112 図 -12）

2（第 113 図 -1）

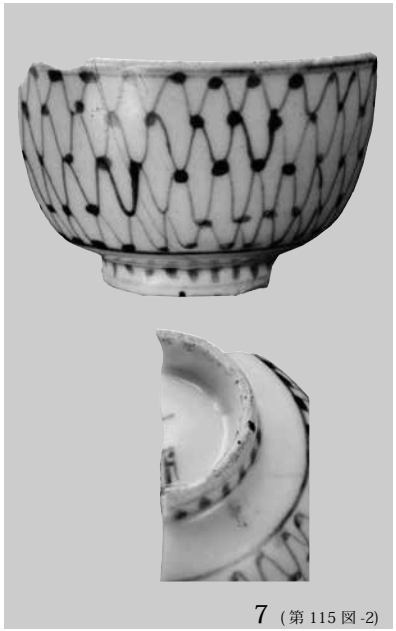

3（第 113 図 -2）

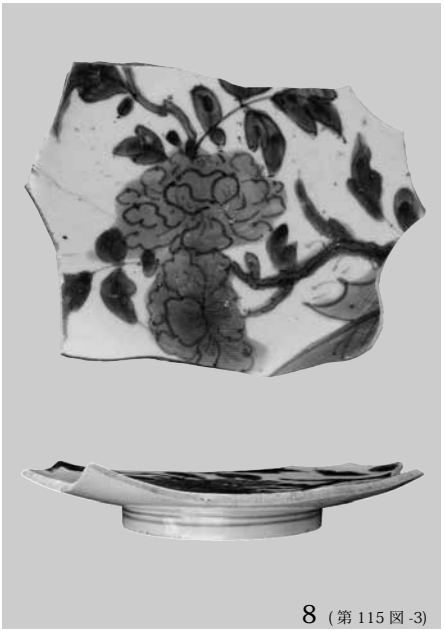
4（第 113 図 -3）

SK46

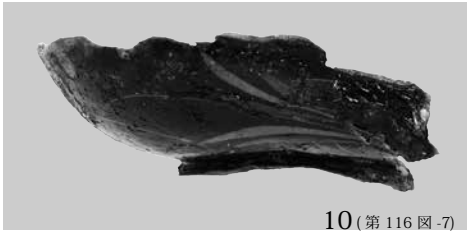

5（第 115 図 -1）

6（第 115 図 -4）


7（第 115 図 -2）


8（第 115 図 -3）

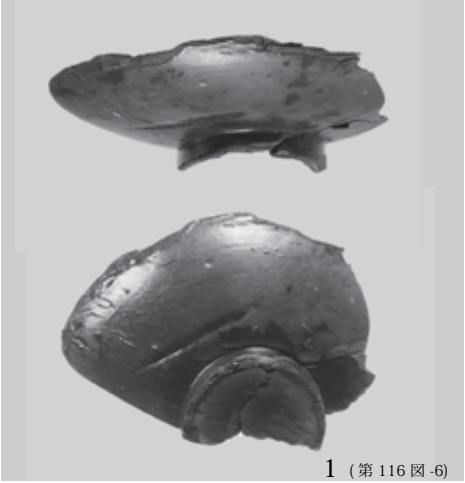
9（第 116 図 -1）


10（第 116 図 -7）

11（第 116 図 -5）

SK49

図版 69　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面遺構出土遺物 (4)


1（第 116 図 -6）

2（第 116 図 -2）

3（第 116 図 -3）

4（第 117 図 -2）

5（第 116 図 -14）

6（第 117 図 -1）

7（第 117 図 -7）

8（第 119 図 -3）

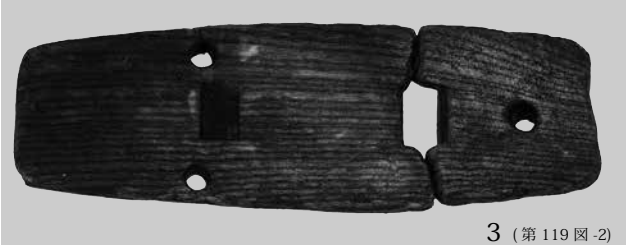
9（第 119 図 -1）

SK49

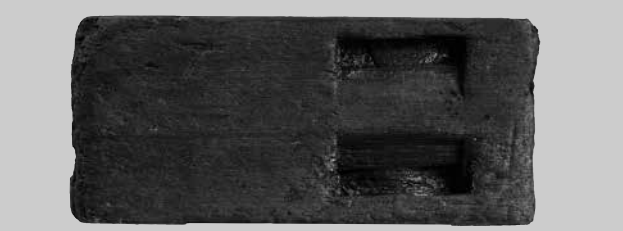
図版 70　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面遺構出土遺物 (5)

1（第 119 図 -4）

2（第 119 図 -5）


3（第 119 図 -2）

4（第 117 図 -6）


5（第 117 図 -8）

6（第 118 図 -1）

7（第 118 図 -2）

8（第 118 図 -3）

9（第 118 図 -4）

10（第 118 図 -9）

11（第 118 図 -5）

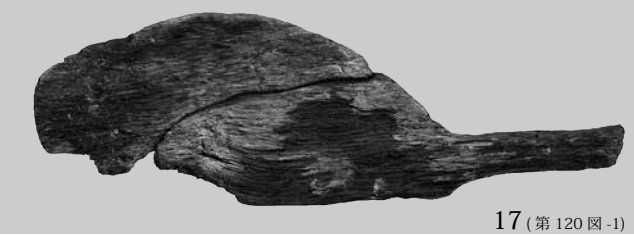
12（第 118 図 -7）

13（第 118 図 -8）

14（第 118 図 -6）

15（第 117 図 -4）

16（第 117 図 -3）


17（第 120 図 -1）

SK49

図版 71　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面遺構出土遺物 (6)

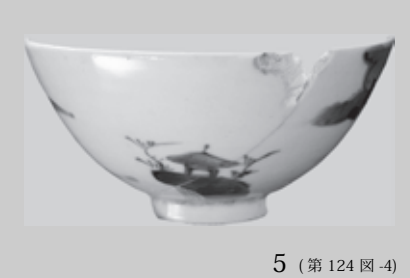
1（第 117 図 -5）

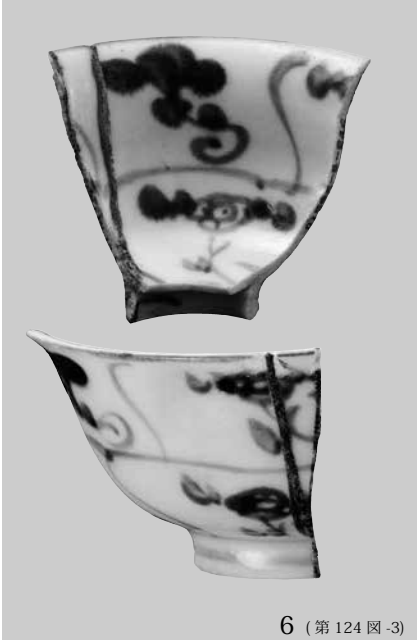
2（第 120 図 -2）

SK49

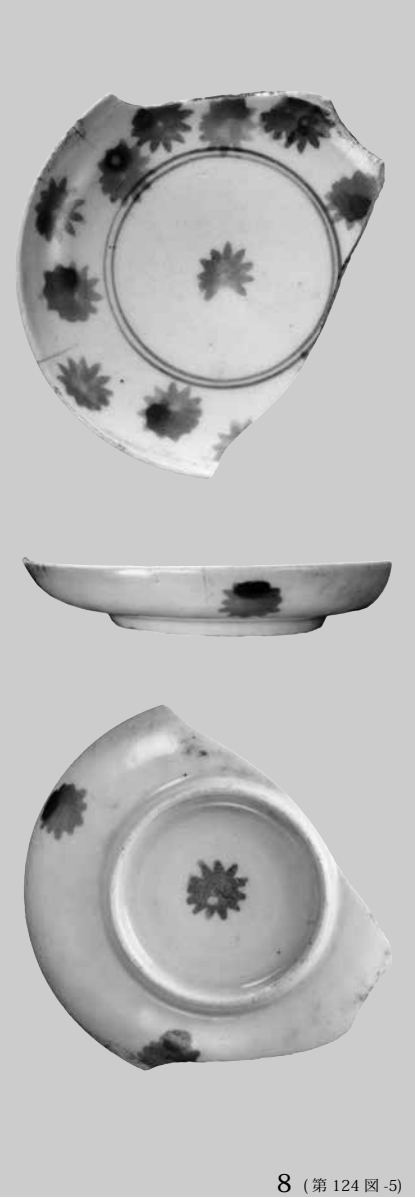
3（第 124 図 -1）

4（第 124 図 -2）


5（第 124 図 -4）

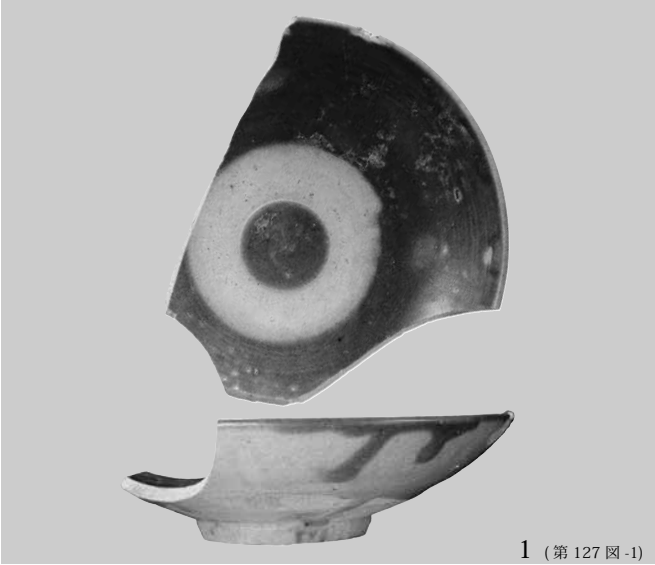

6（第 124 図 -3）

7（第 124 図 -6）


8（第 124 図 -5）

SX21

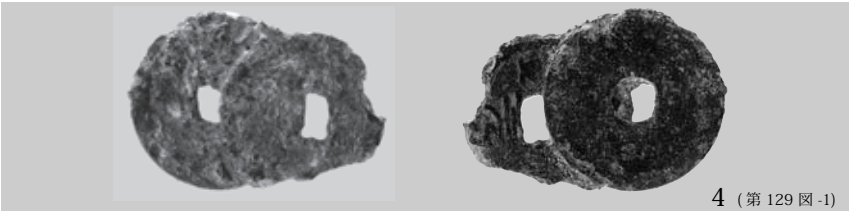
図版 72　西公園高架橋等 II 区　IV a 層上面遺構出土遺物 (7)

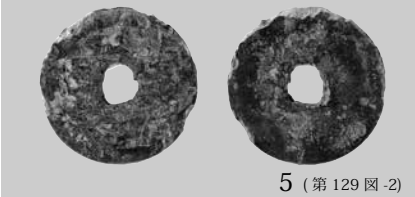

1（第 127 図 -1）

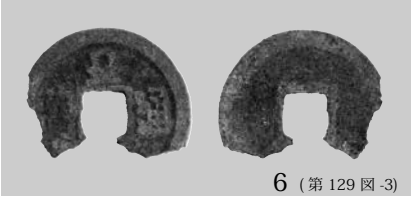
2（第 127 図 -2）

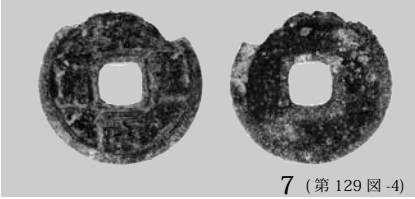
SX46

3（第 129 図 -9）

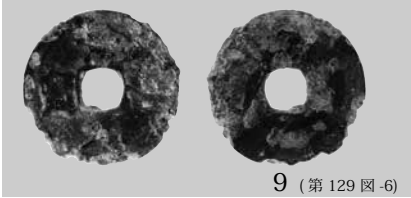

4（第 129 図 -1）


5（第 129 図 -2）


6（第 129 図 -3）


7（第 129 図 -4）

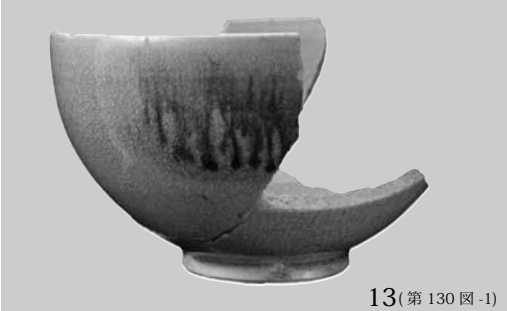
8（第 129 図 -5）


9（第 129 図 -6）

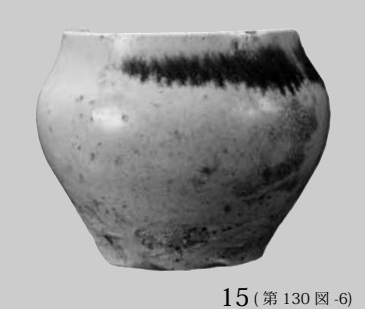
10（第 129 図 -7）

12（第 129 図 -8）

SX52


13（第 130 図 -1）

14（第 130 図 -7）


15（第 130 図 -6）

Ⅳ a 層出土遺物

図版 73　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ a 層上面遺構出土遺物 (8)・遺構外出土遺物 (1)

1（第 130 図 -4）

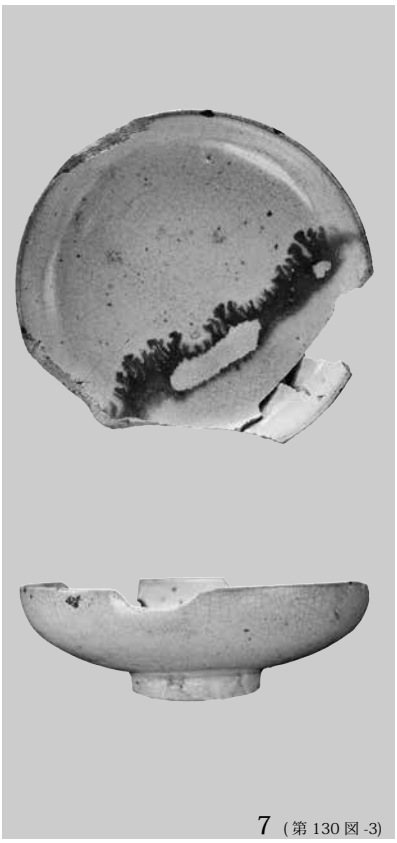
2（第 130 図 -8）

3（第 130 図 -9）

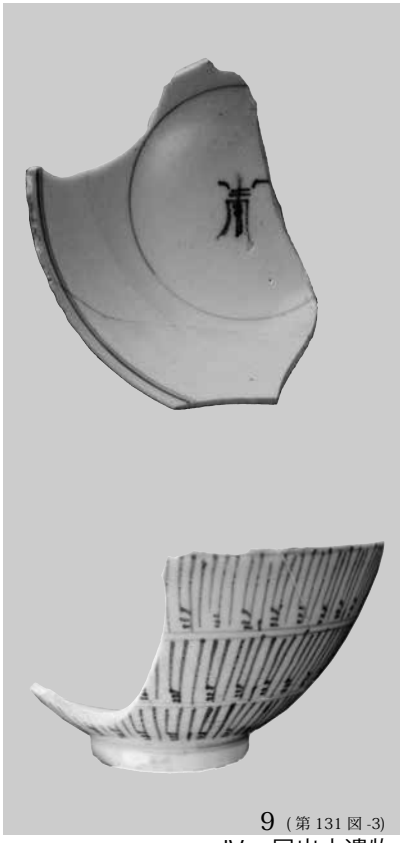
4（第 130 図 -2）

5（第 130 図 -5）

6（第 130 図 -10）


7（第 130 図 -3）

8（第 131 図 -2）

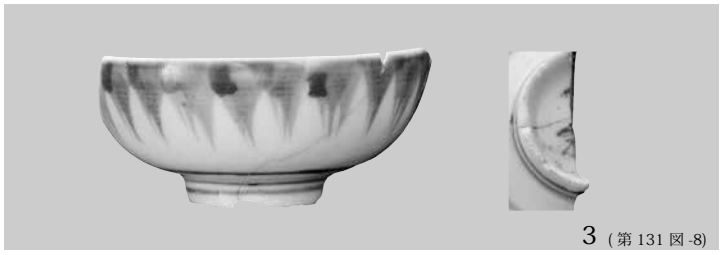

9（第 131 図 -3）

Ⅳ a 層出土遺物

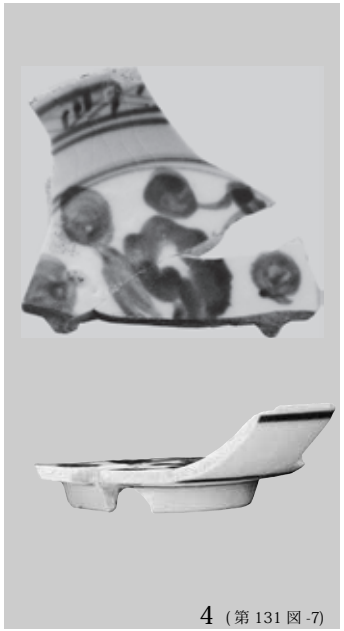
図版 74　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ a 層遺構外出土遺物 (2)

1（第 131 図 -5）

2（第 131 図 -1）



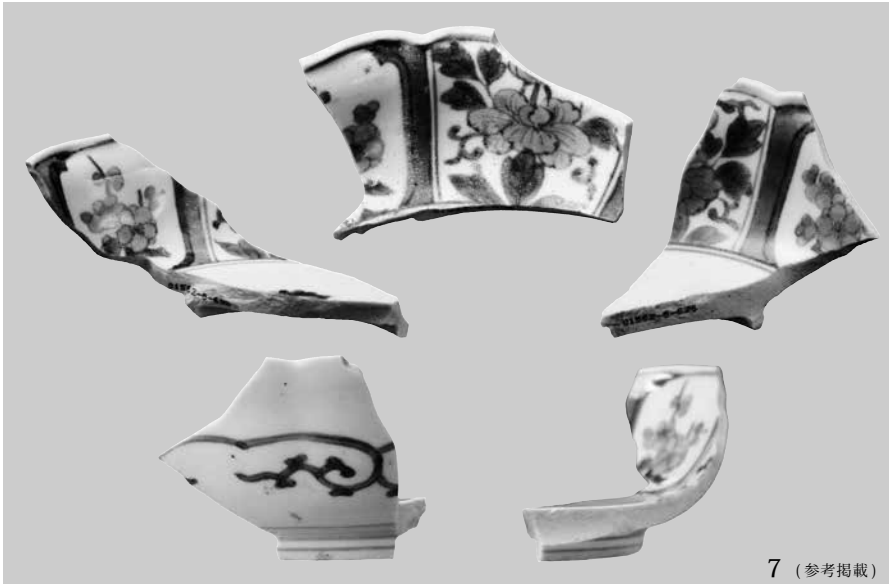
3（第 131 図 -8）



4（第 131 図 -7）

5（第 131 図 -6）

6（第 131 図 -9）



7（参考掲載）

IV a 層出土遺物

図版 75　西公園高架橋等 II 区　IV a 層遺構外出土遺物 (3)

1 (第 131 図 -4)

2 (参考掲載)

5 (第 132 図 -1)

3 (第 132 図 -7)

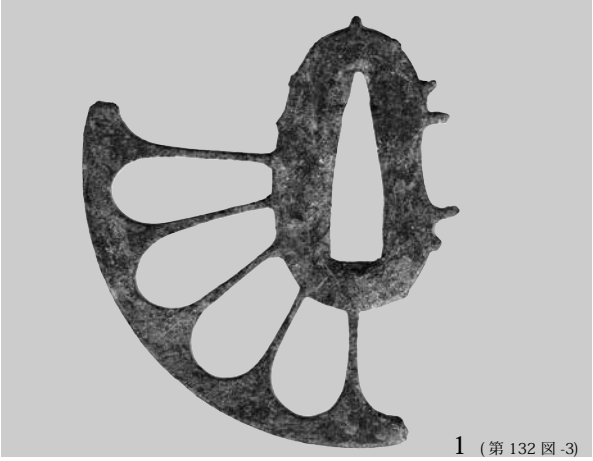
4 (第 132 図 -6)

6 (第 132 図 -2)

7 (第 132 図 -4)

Ⅳ a 層出土遺物

図版 76　西公園高架橋等 II 区　Ⅳ a 層遺構外出土遺物 (4)



1 (第 132 図 -3)

2 (第 131 図 -10)

3 (第 132 図 -5)

IV a 層出土遺物

4 (第 136 図 -1)

5 (第 136 図 -3)

6 (第 136 図 -2)

SX18

図版 77　西公園高架橋等 II 区　IV a 層遺構外出土遺物 (5)・III b 層上面遺構出土遺物 (1)

1（第 135 図 -1）

2（第 135 図 -6）

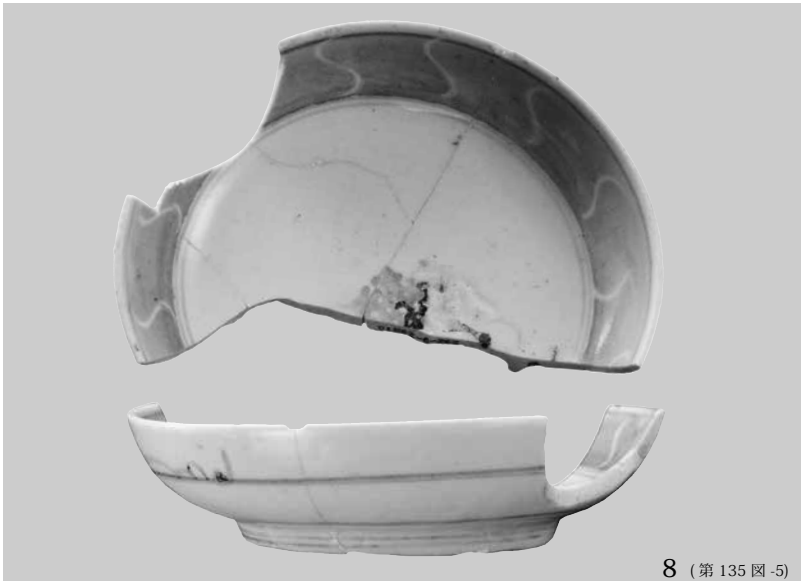
3（第 135 図 -3）

4（第 135 図 -2）

5（第 135 図 -7）

6（参考掲載）

7（第 135 図 -4）


8（第 135 図 -5）

SD7

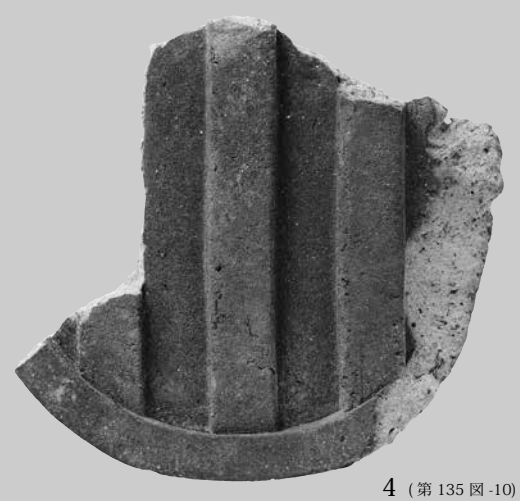
図版 78　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面遺構出土遺物 (2)

1（第 135 図 -8）

2（参考掲載）

SD7

3（第 135 図 -9）

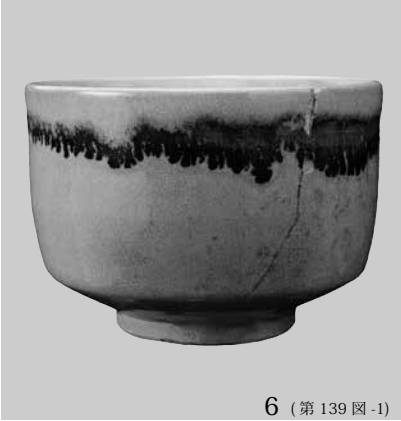


4（第 135 図 -10）

SD7

5（第 137 図 -1）

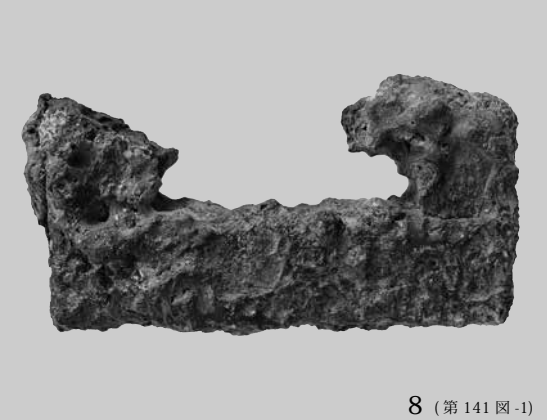
SD19



6（第 139 図 -1）

7（第 139 図 -2）

SD20



8（第 141 図 -1）

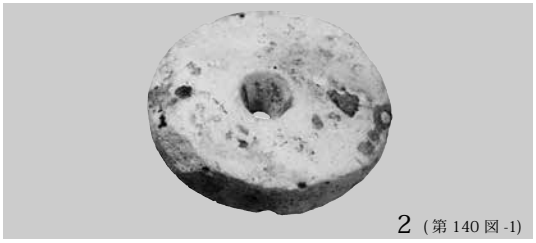
SK2

図版 79　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面遺構出土遺物 (3)

1（第 142 図 -1）

2（第 142 図 -2）

SK24



2（第 140 図 -1）

SK36

3（第 145 図 -1）

SK38

4（第 146 図 -3）

5（第 146 図 -2）

6（第 146 図 -6）

7（第 146 図 -1）

8（第 146 図 -7）

9（第 146 図 -5）

10（第 146 図 -4）

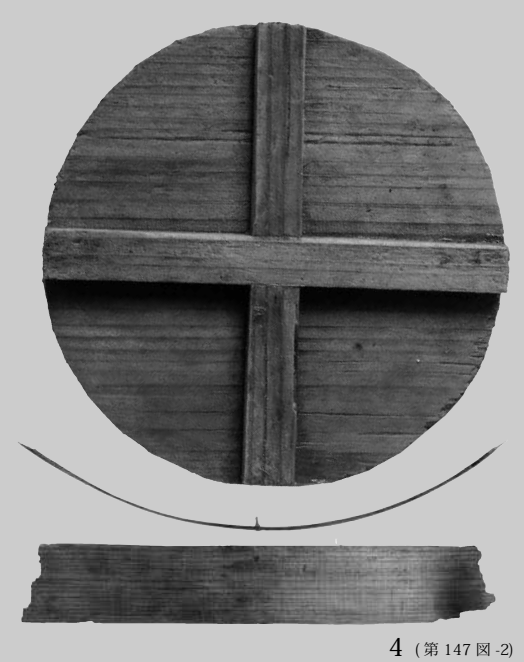
SK84

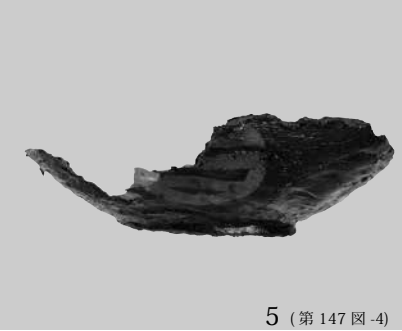
図版 80　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面遺構出土遺物 (4)

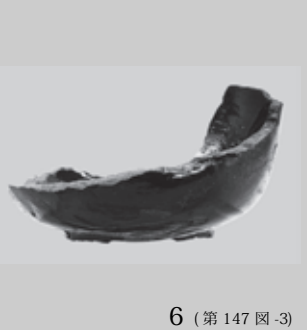
1（第 146 図 -9）

2（第 146 図 -8）

3（第 147 図 -5）


4（第 147 図 -2）


5（第 147 図 -4）

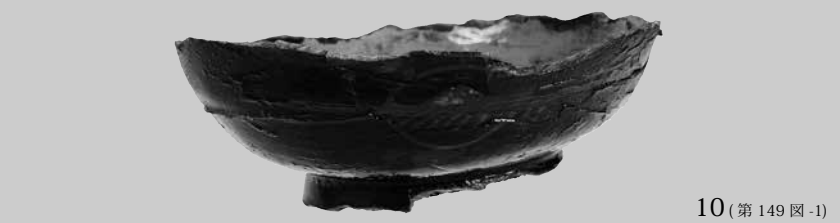

6（第 147 図 -3）

7（第 147 図 -1）

SK84

8（第 148 図 -2）

9（第 149 図 -3）


10（第 149 図 -1）

SX1

図版 81　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面遺構出土遺物 (5)

1（第 148 図 -1）

2（第 149 図 -4）

3（第 149 図 -2）

4（第 150 図 -2）

5（第 149 図 -8）

6（第 149 図 -9）

7（第 149 図 -7）

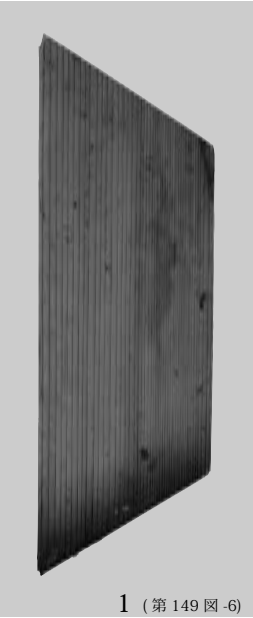
8（第 150 図 -4）

9（第 149 図 -5）

10（第 150 図 -1）

SX1

図版 82　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面遺構出土遺物 (6)


1（第 149 図 -6）

2（第 150 図 -3）

SX1

5（第 153 図 -1）

7（第 155 図 -1）

3（第 153 図 -2）

4（第 153 図 -3）

6（第 153 図 -4）

8（第 153 図 -6）

9（第 153 図 -5）

SX25

図版 83　西公園高架橋等 II 区　III b 層上面遺構出土遺物 (7)

1（第 154 図 -1）

2（第 154 図 -2）

3（第 154 図 -3）

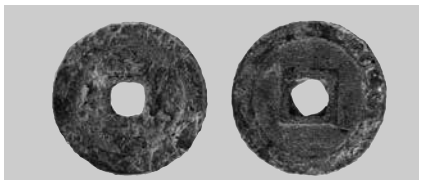
4（第 154 図 -4）

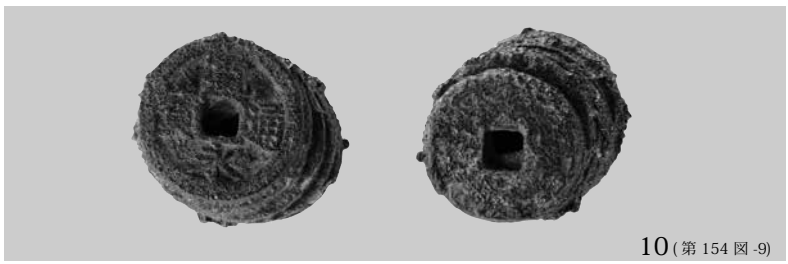
5（第 154 図 -5）

6（第 154 図 -6）

7（第 154 図 -7）

8（第 154 図 -8）


9（第 154 図 -10）


10（第 154 図 -9）

11（第 154 図 -11）

SX25

12（第 156 図 -1）

SX29

13（第 158 図 -1）

14（第 158 図 -3）

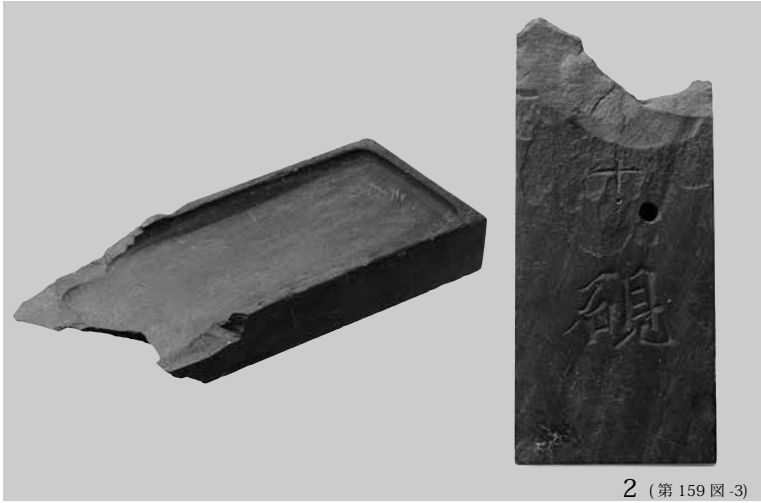
15（第 158 図 -2）

16（第 158 図 -4）

Ⅲ b 層出土遺物

図版 84　西公園高架橋等 II 区　Ⅲ b 層上面遺構出土遺物 (8)・遺構外出土遺物 (1)

1（第 158 図 -5）


2（第 159 図 -3）

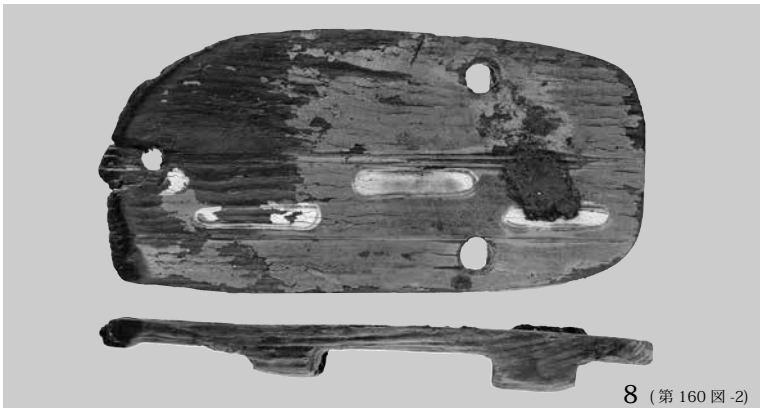
3（第 159 図 -1）

4（第 160 図 -4）

5（第 159 図 -2）

6（第 160 図 -1）

7（第 160 図 -3）


8（第 160 図 -2）

Ⅲ b 層出土遺物

図版 85　西公園高架橋等 II 区　Ⅲ b 層遺構外出土遺物 (2)

1（第 163 図 -1）

SB1

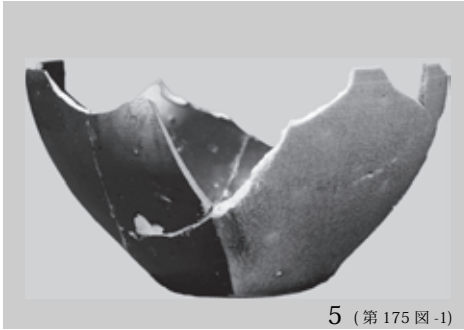
2（第 170 図 -1）

3（第 170 図 -2）

SX12

4（第 169 図 -1）

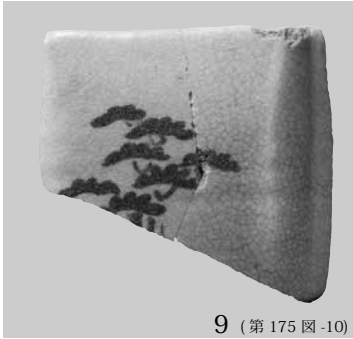
SX4



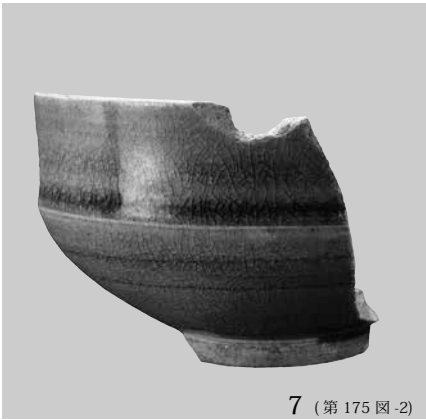
5（第 175 図 -1）

8（第 175 図 -11）

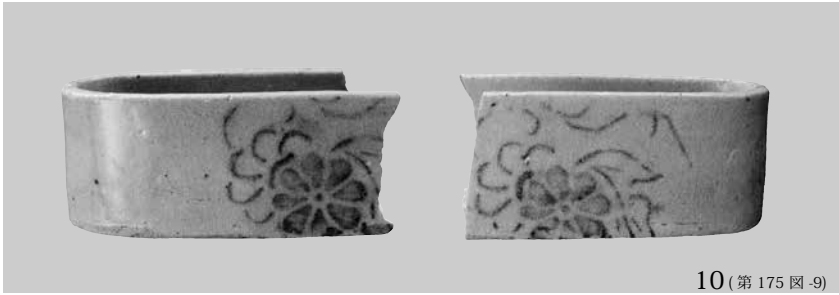
6（第 175 図 -3）



9（第 175 図 -10）



7（第 175 図 -2）



10（第 175 図 -9）

Ⅲ a 層出土遺物

図版 86　西公園高架橋等 II 区　Ⅲ a 層上面遺構出土遺物・遺構外出土遺物 (1)

1（第 175 図 -8）

2（第 175 図 -5）

3（第 175 図 -4）

4（第 175 図 -7）

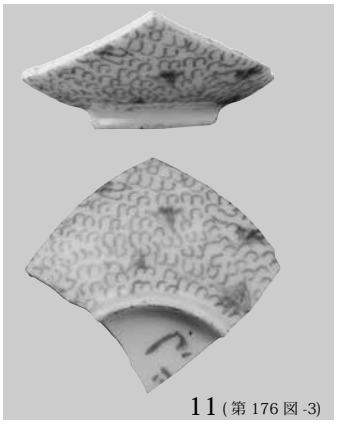
5（第 175 図 -6）

9（第 176 図 -6）

6（第 177 図 -7）

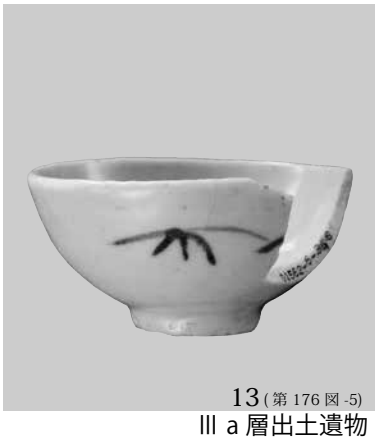
7（第 177 図 -9）

10（第 176 図 -4）


11（第 176 図 -3）

8（第 177 図 -8）

12（第 176 図 -2）

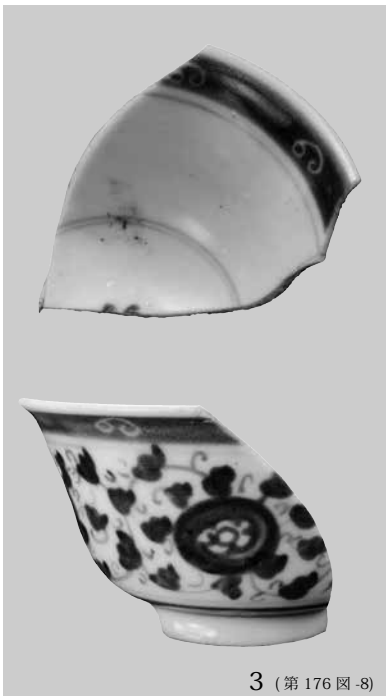

13（第 176 図 -5）

Ⅲ a 層出土遺物

図版 87　西公園高架橋等 II 区　Ⅲ a 層遺構外出土遺物 (2)

1（第 176 図 -1）

2（第 176 図 -9）

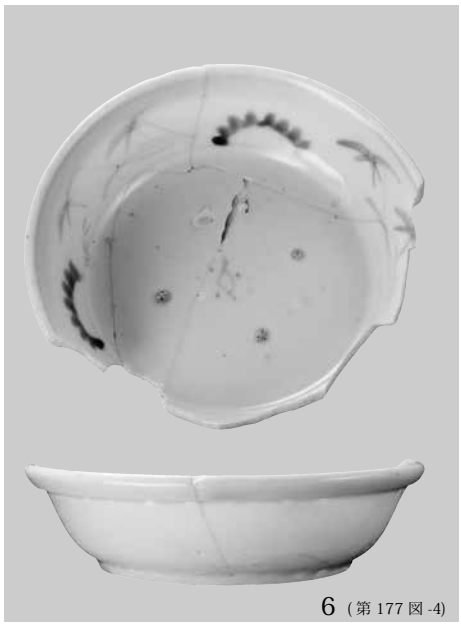


3（第 176 図 -8）

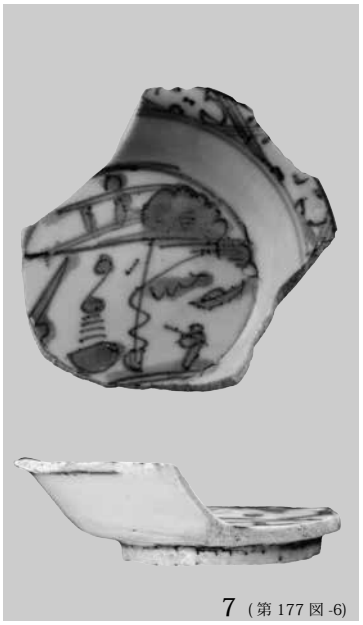
4（第 176 図 -7）

5（第 177 図 -5）

8（第 177 図 -3）



6（第 177 図 -4）



7（第 177 図 -6）

Ⅲ a 層出土遺物

図版 88　西公園高架橋等 II 区　Ⅲ a 層遺構外出土遺物 (3)

1（第 176 図 -10）

2（第 177 図 -2）

3（第 177 図 -1）

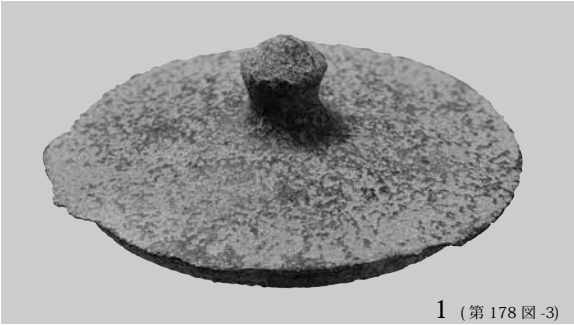
7（第 178 図 -2）

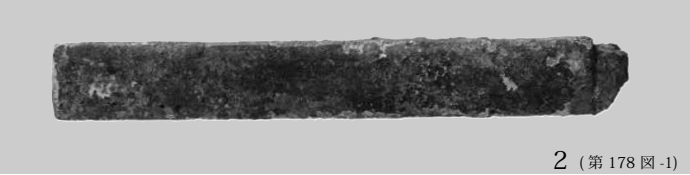
4（第 178 図 -5）

5（第 178 図 -4）

Ⅲ a 層出土遺物

図版 89　西公園高架橋等 II 区　Ⅲ a 層遺構外出土遺物 (4)


1（第 178 図 -3）


2（第 178 図 -1）

3（第 178 図 -6）

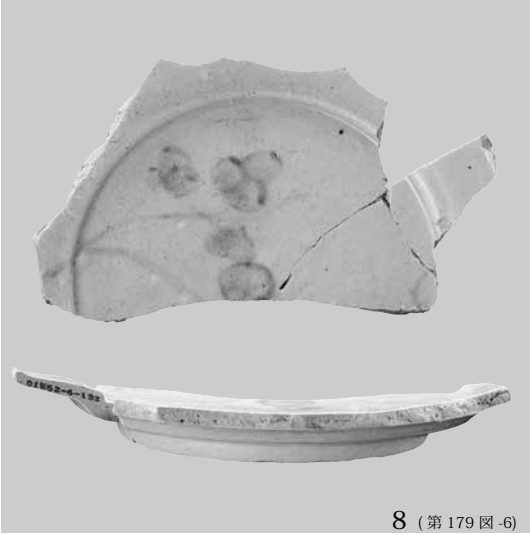
4（第 178 図 -7）

Ⅲ a 層出土遺物

5（第 179 図 -1）

6（第 179 図 -2）

7（第 179 図 -3）


8（第 179 図 -6）

9（第 179 図 -9）

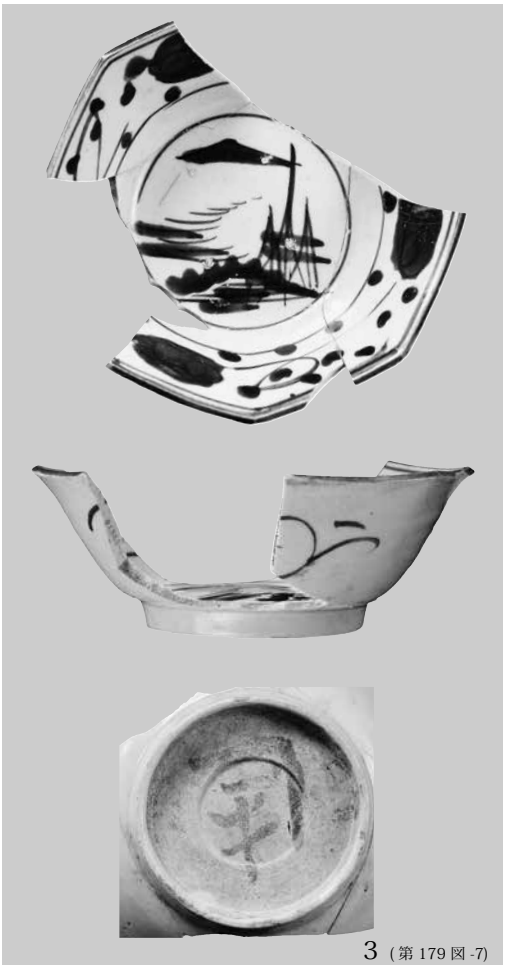
10（第 179 図 -4）

Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物

図版 90　西公園高架橋等Ⅱ区　Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物 (1)

1（第 179 図 -5）

2（第 179 図 -8）

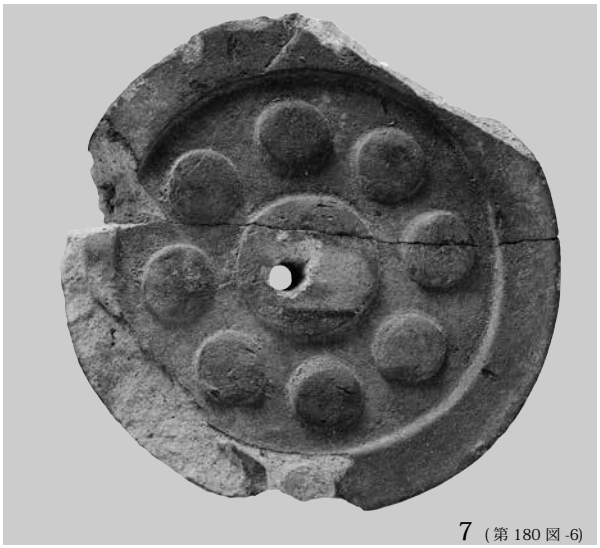


3（第 179 図 -7）

4（第 180 図 -1）

5（第 180 図 -2）

6（第 180 図 -3）



7（第 180 図 -6）

8（第 180 図 -5）

Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物

図版 91　西公園高架橋等Ⅱ区　Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物 (2)

1（第 180 図 -7）

2（第 180 図 -4）

側面

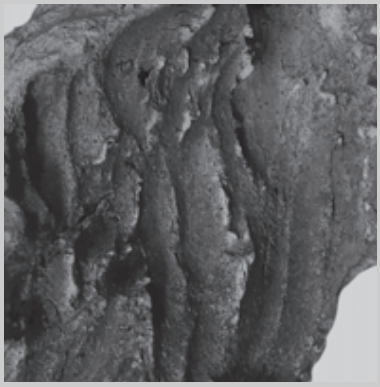
正面

背面

3（第 181 ～ 182 図 -1）

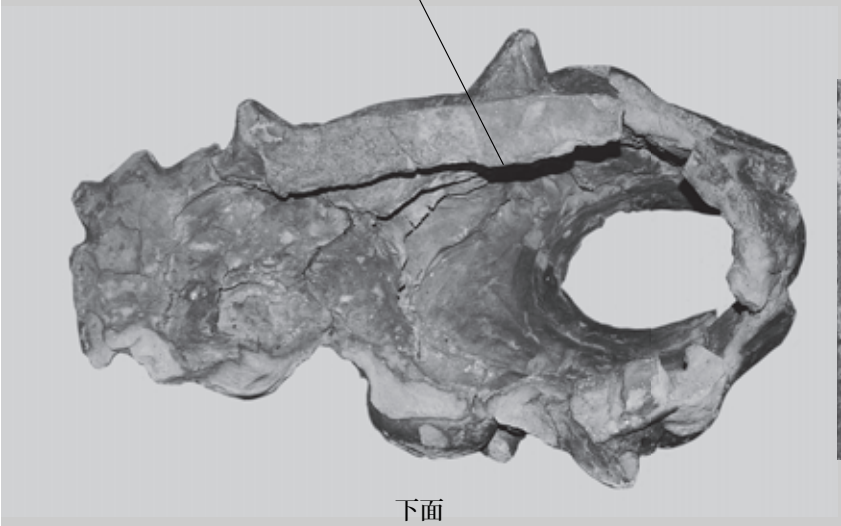
Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物

図版 92　西公園高架橋等Ⅱ区　Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物 (3)



裏面

銘



下面

銘部分の裏側

1（第 181 ～ 182 図 -1）

Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物

2（第 190 図 -1）

3（第 190 図 -2）

SK10

4（第 191 図 -1）

5（第 191 図 -2）

トレンチ 2 出土遺物

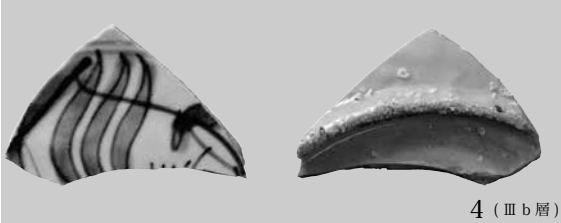
図版 93　西公園高架橋等Ⅱ区　Ⅰ層・Ⅱ層・撹乱出土遺物 (4)・西公園高架橋等Ⅰ区　（排水管部）トレンチ 2 出土遺物

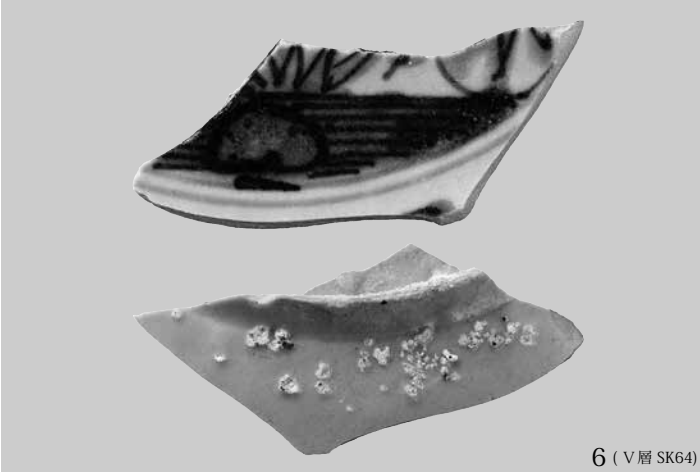
1（Ⅰ・Ⅱ層）

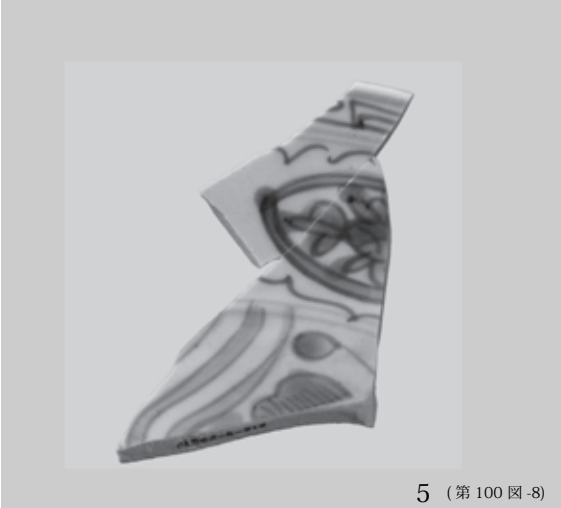
2（Ⅲａ層）

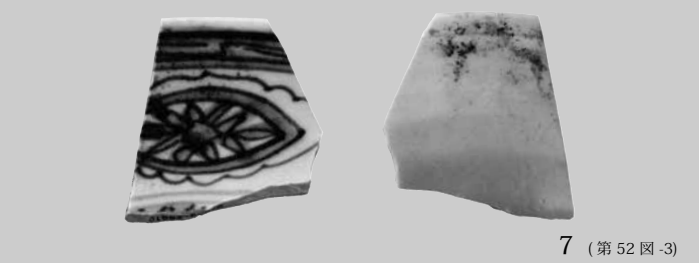
3（Ⅳａ層）

焼接ぎ参考資料


4（Ⅲｂ層）


6（Ⅴ層 SK64）


5（第 100 図 -8）


7（第 52 図 -3）

8（第 197 図 -1）

9（第 197 図 -2）

輸入磁器（漳州窯）

図版 94　焼継資料・漳州窯

報告書抄録

ふりがな	さくらがおかこうえんいせきⅡ―せんだいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいいせきはっくつちょうさほうこくしょきゅう―
書名	桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ　―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ―
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番	第 403 集
編著者名	渡部紀　工藤信一郎　水野一夫　山本信夫　土橋尚起　武田芳雅
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒 980-8671　宮城県仙台市青葉区二日町 1 番 1 号　TEL 022（214）8839
発行年月日	2012 年 3 月 9 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
さくらがおかこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばく 青葉区 さくらがおかこうえんちない 桜ヶ岡公園地内	4100	01562	38° 26' 00"	140° 86' 00"	平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日 （平成 19 年度現地調査） 平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日 （平成 21 年度現地調査） 平成 22 年 5 月 26 日～平成 22 年 6 月 10 日 （平成 22 年度現地調査）	248㎡ (平成19年度) 789㎡ (平成21年度) 25㎡ (平成22年度)	仙台市高速鉄道東西線建設事業に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
さくらがおかこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡	武家屋敷	江戸時代	柱列跡 建物跡 溝跡 井戸跡 土坑 道路状遺構 祭祀遺構 性格不明遺構	陶器 磁器 瓦 金属製品 土製品 木製品 石製品	金箔瓦、金箔土師質土器、「寛政三」銘鯱瓦、一分判金、小柄、荷札木簡等多量の遺物が出土。

要約

桜ケ岡公園遺跡は、広瀬川左岸、仙台中町段丘に立地する遺跡で、標高は 32m ～ 32.5m である。報告対象の調査区は、桜ケ岡公園天文台跡地の西側にある崖下、旧市民プール周辺となる。

平成 19 年度･21 年度･22 年度に 3 地点、計 1062㎡の調査を行なった結果、江戸時代の整地面（Ⅴ層、Ⅳｂ層、Ⅳａ層、Ⅲｂ層、Ⅲａ層）を 5 面、整地前の遺構面（Ⅵ・Ⅶ層）を 1 面検出した。また、出土遺物の年代から、Ⅵ・Ⅶ層→ 18 世紀前半以前、Ⅴ層→ 18 世紀前半～後半、Ⅳｂ層→ 19 世紀初頭以前、Ⅳａ層→ 19 世紀初頭、Ⅲｂ層→ 19 世紀前半～中頃、Ⅲａ層→ 19 世紀中頃に相当すると考えられる。

平成 21 年度調査（西公園高架橋等Ⅱ区）においては、Ⅳｂ層、Ⅲａ層上面で建物跡等居住域として利用されていた痕跡が確認された。Ⅵ・Ⅶ層およびⅤ層・Ⅳａ層は土坑群が多く検出され、Ⅲｂ層は蛇行する溝跡などがあり、各遺構面において利用状態に差異が認められた。整地層からの出土遺物のうち特筆すべきものとして、金箔瓦、金箔土師質土器がある。また、一分判金と銅銭が面的に散布する地点があり、地鎮の可能性が考えられた。小柄が比較的多く出土し、製作技法の一端が判明した。また、撹乱からではあるが、「寛政三」銘鯱瓦が出土している。

平成 19 年度調査（西公園高架橋等Ⅰ区）では大部分が近代に削平され、近世のものと思われる遺構は検出されているものの、正確な帰属年代は不明である。平成 22 年度調査（西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部））では 3 箇所のトレンチ調査で、近世と考えられる土坑や、整地層が確認されている。

仙台市文化財調査報告書　第403集

桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ　仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ

2012年3月

発行　仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区二日町１番１号
文化財課022（214）8839

印刷　今野印刷株式会社
宮城県仙台市若林区六丁の目西町2-10
022（288）6123